

厚真町
イクバンドユクチセ3遺跡

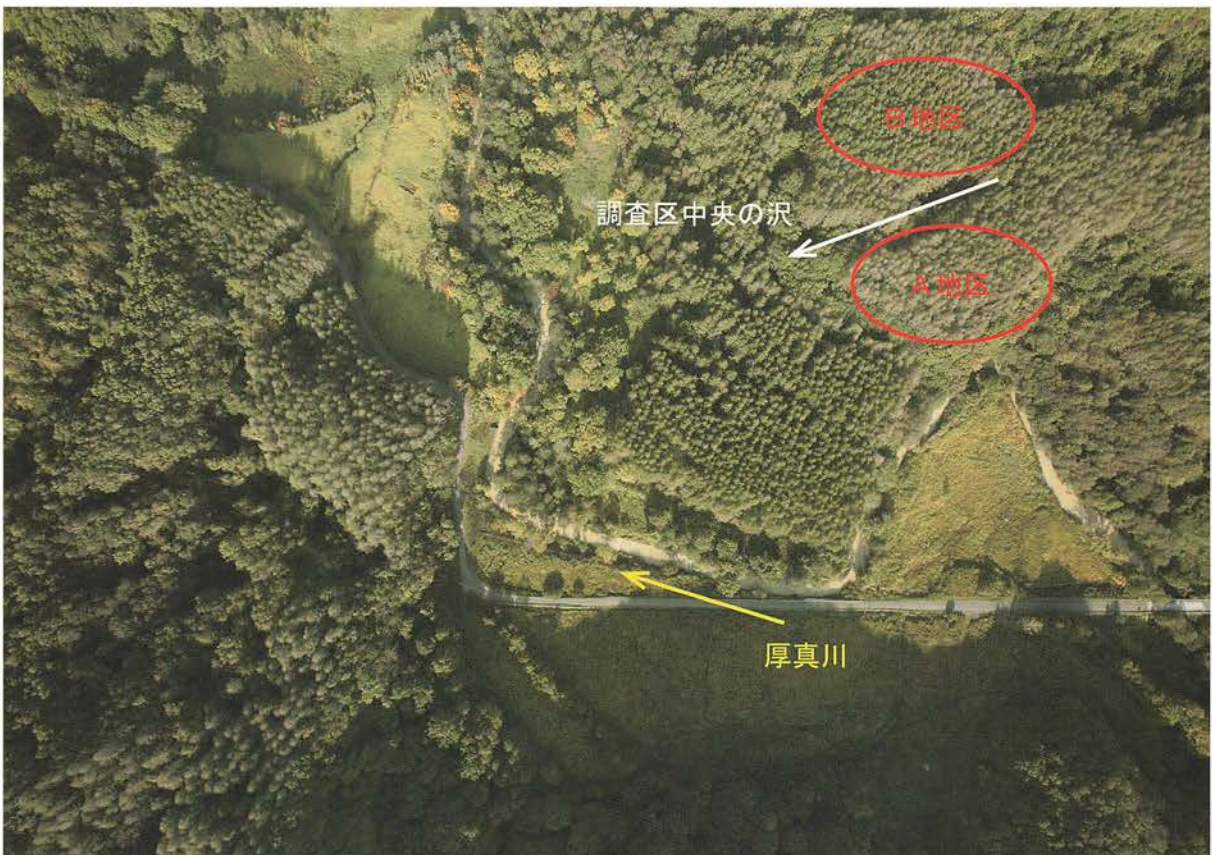
— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



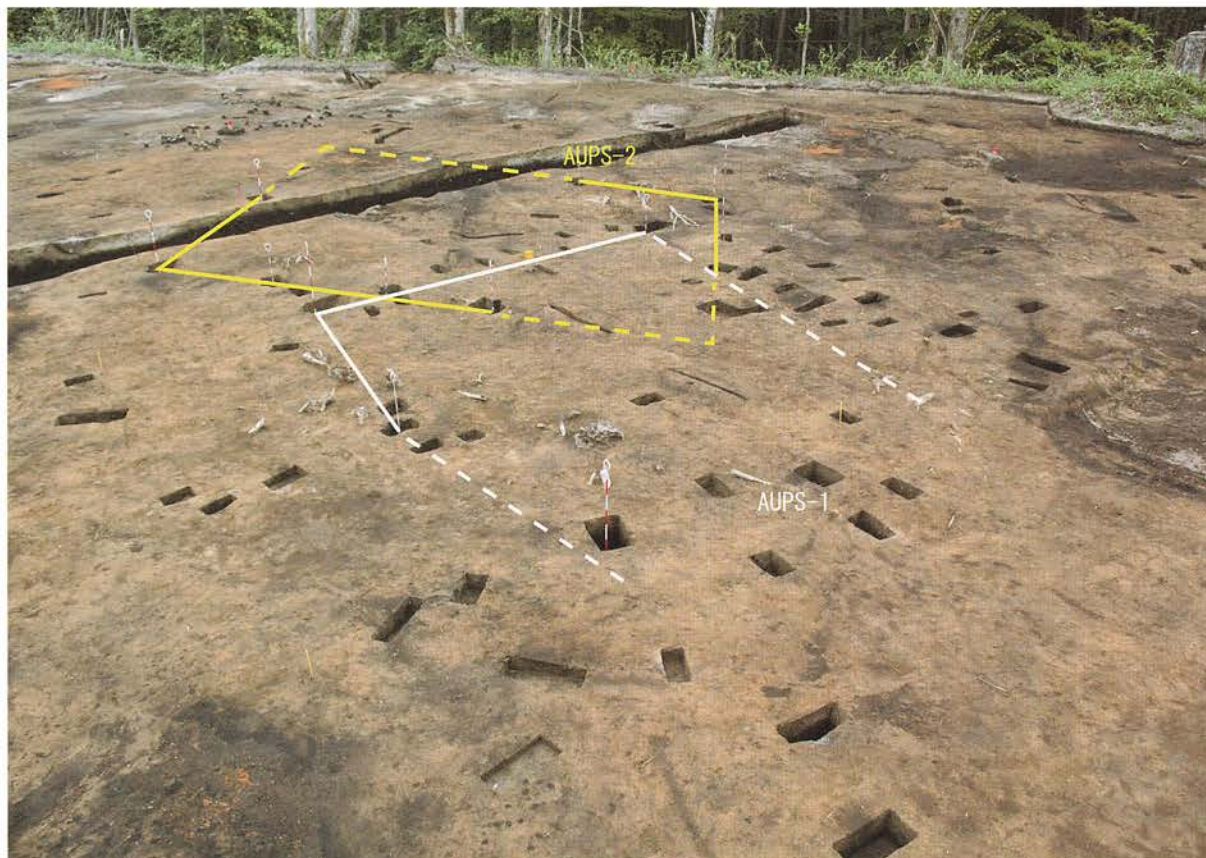
遺跡遠景 1 (空中写真 1) (南西から)



遺跡遠景 2 (空中写真 2) (南東から)



大規模な礫集中確認状況（西から）



建物跡AUPS-1・2（南西から）



建物跡AUPS-5（北東から）

カラー図版 4



Q-8区 基本土層（南から）



BLH-4土器出土状況（南から）



AUF-11（西から）



ASP-19土層断面（南から）



ASP-20土層断面（西から）



鉄製品（処理後）

例 言

1. 本書は、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部が行う厚幌ダム建設事業に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成25（2013）年度に実施した、厚真町 イクバンドユクチセ3 遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書（『厚真町 イクバンドユクチセ3 遺跡』北埋調報 325）である。
2. 本書の執筆は、愛場和人・末光正卓・広田良成・奥山さとみが分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光・奥山が行った。
3. 写真撮影は、現場写真は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は第1調査部第1調査課 吉田裕吏洋が行った。
4. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた（順不同・敬称略）。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 厚真町教育委員会
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 恵庭市郷土資料館 苫小牧市美術博物館
株式会社シン技術コンサル

厚真町教育委員会

乾 哲也・奈良智法・宮塚義人・宮崎美奈子・服部一雄・松井 昭・山戸大知・岩橋由久
株式会社シン技術コンサル

清水昌樹・長谷川徹・工藤 肇・惣田 稔
東海大学
内山幸子

記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。

地区名

A：A地区の遺構　　B：B地区の遺構

層位（柱穴・杭穴、Tピットを除く）

U：Ⅲ層（上位の黒色土層）の遺構（A地区のみ）

L：V・Ⅵ層（下位の黒色土層）の遺構

種別

PS：建物跡　　H：竪穴住居跡　　P：土坑　　SP：柱穴・杭穴　　TP：Tピット

F：焼土　　FRS：石組炉　　FC：フレイク集中　　S：礫集中

なお、付属遺構は小文字で表記した。

2. 遺構図面等の縮尺

建物跡：40分の1（大型のものは50分の1）　　竪穴住居跡：40分の1

土坑　柱穴・杭穴：40分の1　　Tピット：40分の1　　焼土：40分の1

石組炉：20分の1　　フレイク集中：40分の1　　礫集中：40分の1

遺物出土状況：20分の1　　地形測量図・遺構位置図：任意

各図に、スケールと方位記号（座標北）を付した。遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・（ドット）と数値」は、その地点の標高（m）を表す。

3. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。

復原土器：4分の1　　拓本土器：3分の1

剥片石器：2分の1　　礫石器：3分の1（大型のものは4分の1）

石製品：2分の1（大型のものは3分の1）　　鉄製品：2分の1

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。また、一部破壊されているもの等は現存する計測値を（丸括弧）で示した。

掘り込みのある遺構　：

確認面の長径×短径 / 床面・坑底面の長径×短径 / 確認面からの最大深（m）

平面的な遺構　： 範囲の長径×短径 / 確認面からの最大深（m）

柱穴・杭穴　： 確認面の長径×底面の長径 / 確認面からの最大深（m）

目 次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

I 章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	1
(1) 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査	
(2) イクバンドユクチセ3遺跡の調査	
4. 調査成果の概要	4

II 章 遺跡の立地と周辺の環境

1. 立地と環境	9
2. 地名「幌内」・「上幌内」	10
3. 道道上幌内早来停車場線	13
4. 幌内神社とオニキシベ地区の龍神信仰	13
5. 調査区周辺の現況	15
6. 調査区中央の沢	17
7. 周辺の遺跡	17

III 章 調査の概要

1. 発掘区の設定	27
(1) 調査区の形状	
(2) グリッド設定と調査杭の打設	
2. 基本土層	29
3. 調査の方法	32
4. 整理の方法	34
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類基準	35

IV章 A地区 III層の遺構と出土遺物

1. 概要	41
2. 建物跡	41
AUPS-1 (AUF-1・2 AUS-2 ASP-31・36・39)	
AUPS-2 (AUF-6 ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40)	
AUPS-3 (AUF-3 AUS-3 ASP-22・23・24・25)	
AUPS-4 (AUF-4 ASP-7・8)	
AUPS-5 (AUF-10 AUS-9 ASP-13・14・15・16・17)	
AUPS-6 (ASP-2・3・4・5)	
AUPS-7 (AUS-17 ASP-19・20・21)	
3. 近接する焼土と礫集中	53
AUF-7とAUS-8・AUF-12とAUS-14	
AUF-9・11とAUS-6・AUF-13とAUS-15	
4. 焼土	55
AUF-5・AUF-8	
5. 礫集中	59
AUS-1・AUS-4・AUS-5・AUS-7・AUS-10・AUS-11	
AUS-12・AUS-13・AUS-16・AUS-18	
6. 柱穴・杭穴	64
ASP-1・6・9・10・11・12・18・26・27・28・41・42	
7. 土坑	64
AUP-1	
8. 出土遺物	64
(1) 土器	
(2) 石器等	
(3) 鉄製品	

V章 A地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要	81
2. 土坑	81
ALP-1	
3. Tピット	81
ATP-1・ATP-2・ATP-3・ATP-4・ATP-5・ATP-6・ATP-7・ATP-8	
ATP-9・ATP-10・ATP-11・15・ATP-12・ATP-13・ATP-14・ATP-16	
ATP-17・ATP-18・ATP-19・ATP-20・ATP-21・ATP-22・ATP-23・ATP-24	
ATP-25・ATP-26・ATP-27・ATP-28・ATP-29・ATP-30・ATP-31	
4. 石組炉	109
ALFRS-1	
5. 焼土	110
ALF-1・ALF-2・ALF-3・ALF-4・ALF-5	

6. 出土遺物	110
(1) 土器	
(2) 石器等	

Ⅵ章 B地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要	133
2. 掘り上げ土	133
BLM-1	
3. 竪穴住居跡	140
BLH-1・BLH-2・BLH-3・BLP-3・BLH-4	
4. 土坑	145
BLP-1・BLP-2	
5. Tピット	147
BTP-1・BTP-2・BTP-3・BTP-4・BTP-5・BTP-6・BTP-7・BTP-8	
BTP-9・BTP-10・BTP-11・BTP-12・BTP-13	
6. 石組炉	158
BLFRS-1	
7. 焼土	158
BLF-1・BLF-2・BLF-3・BLF-4	
8. フレイク集中	160
BLFC-1・BLFC-2・BLFC-3・BLFC-4	
9. 大規模な礫集中	160
W-27~35区・X-26~35区・Y-27~35区・Z-28~34区・a-28~34区・b-28~33区	
c-28~35区・d-30区	
10. 出土遺物	163
(1) 土器	
(2) 石器等	

Ⅶ章 まとめ

1. 出土遺物の集計・分布	215
(1) 出土点数表	
(2) 出土分布図	
2. 自然遺物	237
(1) 動物遺存体	
(2) 植物遺存体	
3. 自然科学的分析結果の評価	237
(1) 放射性炭素年代測定結果の評価について	
(2) 鉄製品の保存処理と材質分析	
4. Ⅲ層の調査について	239
5. 縄文時代の遺構について	240

6. 縄文時代の遺物について	242
----------------------	-----

付篇 自然科学的手法による分析

1. 平成25年度 イクバンドユクチセ3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	251
2. 平成26年度 イクバンドユクチセ3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	254
3. イクバンドユクチセ3遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果	259

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図1	遺跡位置図(1)	3	図49	A T P - 2 8 ・ A T P - 2 9	105
図2	遺跡位置図(2)	5	図50	A T P - 3 0 ・ A T P - 3 1	106
図3	遺構位置図・T a - d 2 層上面地形測量図	7	図51	A L F R S ・ A L F	108
図4	遺跡周辺の地形(1)	11	図52	A 地区 V 層 包含層出土の復原土器	111
図5	遺跡周辺の地形(2)	12	図53	A 地区 V 層 遺構・包含層 出土の破片土器	112
図6	遺跡周辺の地形(3)	14	図54	A 地区 V 層 包含層 出土の破片土器(1)	113
図7	調査区周辺の現況	16	図55	A 地区 V 層 包含層 出土の破片土器(2)	114
図8	調査区中央の沢測量図	18	図56	A 地区 V 層 包含層 出土の剥片石器(1)	116
図9	周辺の遺跡	20	図57	A 地区 V 層 包含層 出土の剥片石器(2)・石製品	117
図10	グリッド設定図	28	図58	A 地区 V 層 包含層 出土の剥片石器(3)・礫石器(1)	118
図11	基本土層図	30	図59	A 地区 V 層 包含層 出土の礫石器(2)	119
図12	調査区概況図	33	図60	A 地区 V 層 包含層 出土の礫石器(3)	120
図13	A 地区遺構位置図・Ⅲ層上面地形測量図	42	図61	A 地区 V 層 包含層 出土の礫石器(4)	121
図14	A U P S - 1	43	図62	B 地区遺構位置図・V層上面地形測量図	134
図15	A U P S - 2	44	図63	B L M - 1	135
図16	A U P S - 3	46	図64	B L H - 1 (1)	136
図17	A U P S - 4	47	図65	B L H - 1 (2)	137
図18	A U P S - 5	48	図66	B L H - 2 (1)	138
図19	A U P S - 6	50	図67	B L H - 2 (2)	139
図20	A U P S - 7	51	図68	B L H - 3	142
図21	A U F と A U S (1)	52	図69	B L H - 4	143
図22	A U F と A U S (2)	54	図70	B L P - 1 ・ B L P - 2	144
図23	A U F と A U S (3) ・ A U F	56	図71	B T P - 1 ・ B T P - 2	146
図24	A U S (1)	57	図72	B T P - 3 ・ B T P - 4	148
図25	A U S (2)	58	図73	B T P - 5 ・ B T P - 6	149
図26	A U S (3)	60	図74	B T P - 7 ・ B T P - 8	151
図27	A S P (1)	62	図75	B T P - 9 ・ B T P - 1 0	153
図28	A S P (2)	63	図76	B T P - 1 1 ・ B T P - 1 2	154
図29	A U P ・ 鉄製品出土状況	65	図77	B T P - 1 3	156
図30	A 地区 Ⅲ層 遺構・包含層出土の土器	66	図78	B L F R S - 1 ・ B L F - 1 ・ 2 ・ 3	157
図31	A 地区 Ⅲ層 遺構出土の石器	67	図79	B L F C - 1 ~ 4	159
図32	A 地区 Ⅲ層 包含層出土の石器	68	図80	B 地区 V 層 遺構 出土の復原土器	161
図33	A 地区 Ⅲ層出土の鉄製品	69	図81	B 地区 V 層 遺構・包含層 出土の復原土器	162
図34	A 地区遺構位置図・V層上面地形測量図	82	図82	B 地区 V 層 遺構 出土の破片土器	164
図35	A L P - 1 ・ A T P - 1	83	図83	B 地区 V 層 包含層 出土の破片土器(1)	165
図36	A T P - 2 ・ A T P - 3	84			
図37	A T P - 4 ・ A T P - 5	86			
図38	A T P - 6 ・ A T P - 7	88			
図39	A T P - 8 ・ A T P - 9	89			
図40	A T P - 1 1 ・ A T P - 1 5	90			
図41	A T P - 1 0 ・ A T P - 1 2	92			
図42	A T P - 1 3 ・ A T P - 1 4	94			
図43	A T P - 1 6 ・ A T P - 1 7	96			
図44	A T P - 1 8 ・ A T P - 1 9	97			
図45	A T P - 2 0 ・ A T P - 2 1	98			
図46	A T P - 2 2 ・ A T P - 2 3	100			
図47	A T P - 2 4 ・ A T P - 2 5	102			
図48	A T P - 2 6 ・ A T P - 2 7	104			

図84	B地区 V層 包含層 出土の破片石器(2)	166	図102	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(9)	187
図85	B地区 V層 包含層 出土の破片石器(3)	167	図103	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(10)	188
図86	B地区 V層 包含層 出土の破片石器(4)	168	図104	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(11)	189
図87	B地区 V層 包含層 出土の破片石器(5)	169	図105	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(12)	190
図88	B地区 V層 遺構 出土の剥片石器	171	図106	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(13)	191
図89	B地区 V層 遺構 出土の礫石器	172	図107	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(14)	192
図90	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(1)	174	図108	B地区 V層 包含層 出土の石製品	193
図91	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(2)	175	図109	包含層Ⅰ群土器出土分布図	216
図92	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(3)	176	図110	包含層Ⅲ群土器出土分布図	217
図93	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(4)	177	図111	包含層Ⅳ群土器出土分布図	218
図94	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(1)	178	図112	包含層Ⅴ群土器出土分布図	219
図95	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(2)	180	図113	包含層Ⅶ群土器出土分布図	220
図96	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(3)	181	図114	包含層石鏃出土分布図	221
図97	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(4)	182	図115	包含層石槍・ナイフ出土分布図	222
図98	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(5)	183	図116	包含層つまみ付きナイフ出土分布図	223
図99	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(6)	184	図117	包含層スクレイパー出土分布図	224
図100	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(7)	185	図118	包含層U・Rフレイク出土分布図	225
図101	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(8)	186	図119	包含層フレイク出土分布図	226
			図120	包含層Ⅲ層礫石器出土分布図	227
			図121	包含層磨製石斧出土分布図	228
			図122	包含層たたき石出土分布図	229
			図123	包含層すり石出土分布図	230
			図124	包含層北海道式石冠出土分布図	231
			図125	包含層石錘出土分布図	232
			図126	包含層砥石出土分布図	233
			図127	包含層台石・石皿出土分布図	234
			図128	包含層U・Rレキ出土分布図	235
			図129	包含層レキ出土分布図	236
			図130	アイヌ民族手測り	240

表 目 次

表1	遺構数一覧表	8	表10	土器部位分類基準	36
表2	遺物点数一覧表	8	表11	土器残存状態分類基準	36
表3	調査区中央の沢 測量表	19	表12	石器等器種分類基準	37
表4	周辺の遺跡一覧表	24・25	表13	石器等残存状態分類基準	37
表5	測量基準点一覧表	29	表14	岩石分類体系	38・39
表6	基本土層観察表	30	表15	岩石(石材)の略号	39
表7	遺構土色階調モデル	32	表16	建物跡一覧表	70
表8	大規模な礫集中 土層観察記録	34	表17	建物跡・付属遺構一覧	70
表9	土器時期分類基準	36	表18	A地区 Ⅲ層 焼土一覧表	71

表19	A地区	Ⅲ層	礫集中一覽表	71	表60	B地区	大規模な礫集中 出土土器点数表	198
表20	A地区	Ⅲ層	柱穴・杭穴一覽表	72	表61	B地区	B L H出土剥片石器点数表	199
表21	A地区	Ⅲ層	土坑一覽表	72	表62	B地区	遺構出土剥片石器点数表	199
表22	A地区	Ⅲ層	遺構出土土器点数表	72	表63	B地区	フレイク集中出土 剥片石器点数表	200
表23	A地区	Ⅲ層	遺構出土剥片石器点数表	72	表64	B地区	大規模な礫集中出土 剥片石器点数表	200
表24	A地区	Ⅲ層	遺構出土 礫石器・石製品・レキ点数表	73	表65	B地区	B L H出土 礫石器・石製品・レキ点数表	201
表25	A U S	出土礫石器・石製品・レキ点数表	73	表66	B地区	遺構出土 礫石器・石製品・レキ点数表	202	
表26	A地区	Ⅲ層	Ⅶ群復原土器 観察表 (G-20区・Q-9区)	74	表67	B地区	B T P・B L F C出土 礫石器・石製品・レキ点数表	202
表27	A地区	Ⅲ層	遺構・包含層出土 破片土器観察表	74	表68	B地区	大規模な礫集中出土 礫石器・石製品・レキ点数表	203
表28	A地区	Ⅲ層	遺構・包含層出土 石器等観察表	75	表69	B L M-1	O-29区出土 復原土器観察表	204
表29	A U S	出土レキ三軸計測表	76~80	表70	B L H-4	出土復原土器観察表 (1)	204	
表30	A地区	出土鉄製品一覽表	75	表71	B L H-4	出土復原土器観察表 (2)	204	
表31	A地区	V層	土坑一覽表	123	表72	大規模な礫集中	X-34区出土 復原土器観察表	205
表32	A地区	V層	Tピット一覽表	123	表73	大規模な礫集中	b-29区出土 復原土器観察表	205
表33	A地区	V層	Tピット付属遺構一覽表	124	表74	大規模な礫集中	b-32区出土 復原土器観察表	205
表34	A地区	V層	石組炉一覽表	124	表75	大規模な礫集中	W-29区出土 復原土器観察表	205
表35	A地区	V層	焼土一覽表	124	表76	T-24区	出土復原土器観察表	206
表36	A地区	V層	遺構出土土器点数表	125	表77	T-39区	出土復原土器観察表	206
表37	A地区	V層	遺構出土剥片石器点数表	125	表78	R-38区	出土復原土器観察表	206
表38	A地区	V層	遺構出土 礫石器・石製品・レキ点数表	125	表79	J-25区	出土復原土器観察表	206
表39	N-17区	出土復原土器観察表	126	表80	R-27区	出土復原土器観察表	207	
表40	Y-16区	出土復原土器観察表	126	表81	B地区	V層 遺構・包含層出土 破片土器観察表	207~211	
表41	F-19区	出土復原土器観察表	126	表82	B地区	V層 遺構・包含層出土 石器等観察表	212~214	
表42	Z-17区	出土復原土器観察表	127	表83	A地区	包含層出土土器点数表	243	
表43	Y-21区	出土復原土器観察表	127	表84	B地区	包含層出土土器点数表	243	
表44	R-17区	出土復原土器観察表	127	表85	A地区	包含層出土剥片石器点数表	244	
表45	Y-16区	出土復原土器観察表	127	表86	B地区	包含層出土剥片石器点数表	244	
表46	U-14区	出土復原土器観察表	128	表87	A地区	包含層出土 礫石器・石製品・レキ点数表	245	
表47	A地区	V層	遺構・包含層出土 破片土器観察表	128・129	表88	B地区	包含層出土 礫石器・石製品・レキ点数表	246
表48	A地区	V層	包含層出土 石器等観察表	130・131	表89	大規模な礫集中	出土動物遺存体一覽表	247
表49	B地区	V層	掘り上げ土一覽表	194	表90	フローテーション法	回収遺物一覽表	248
表50	B地区	V層	竪穴住居跡一覽表	194	表91	放射性炭素年代測定結果一覽表	247	
表51	B地区	V層	竪穴住居跡 付属遺構一覽表	194				
表52	B地区	V層	土坑一覽表	195				
表53	B地区	V層	Tピット一覽表	195				
表54	B地区	V層	Tピット付属遺構一覽表	195				
表55	B地区	V層	石組炉一覽表	195				
表56	B地区	V層	焼土一覽表	196				
表57	B地区	V層	フレイク集中一覽表	196				
表58	B地区	B L H	出土土器点数表	197				
表59	B地区	V層	遺構出土土器点数表	196				

写真図版目次

カラー図版

カラー図版 1

- 遺跡遠景 1 (空中写真 1) (南西から)
- 遺跡遠景 2 (空中写真 2) (南東から)

カラー図版 2

- 大規模な礫集中確認状況 (西から)

カラー図版 3

- 建物跡 A U P S - 1 ・ 2 (南西から)
- 建物跡 A U P S - 5 (北東から)

カラー図版 4

- Q - 8 区 基本土層 (南から)
- B L H - 4 土器出土状況 (南から)
- A U F - 11 (西から)
- A S P - 19 土層断面 (南から)
- A S P - 20 土層断面 (西から)
- 鉄製品 (処理後)

写真図版

- 図版 1 A 地区 III 層上面の状況 (北から)
- B 地区 V 層上面の状況 (北から)
- L - 17 区 基本土層 (S d 2 層) (東から)
- B L M - 1 土層断面 (南東から)
- 大規模な礫集中調査状況 (北から)

- 図版 2 大規模な礫集中礫出土状況 (南から)
- 大規模な礫集中確認状況 (北東から)

- 図版 3 A U P S - 1 (東から)
- A U F - 1 土層断面 (南から)
- A S P - 36 土層断面 (南から)
- A U S - 2 A 確認状況 (南東から)
- A U S - 2 確認状況 (東から)

- 図版 4 A U S - 2 C 確認状況 (南東から)
- A U F - 1 針出土状況 (南から)
- A U F - 6 土層断面 (南東から)
- A S P - 32 土層断面 (北東から)
- A S P - 33 土層断面 (西から)
- A S P - 34 土層断面 (北から)
- A S P - 38 土層断面 (北から)
- A S P - 35 完掘状況 (南から)

- 図版 5 A U P S - 3 (北西から)
- A U F - 3 土層断面 (南西から)
- A U S - 3 確認状況 (東から)
- A S P - 22 土層断面 (北西から)
- A S P - 25 土層断面 (北西から)

- 図版 6 A U P S - 4 (南東から)
- A U F - 4 確認状況 (南西から)
- A U F - 4 遺物出土状況 (東から)
- A S P - 7 完掘状況 (南西から)
- A S P - 8 土層断面 (南西から)

- 図版 7 A U S - 9 確認状況 (北から)

- A U F - 10 土層断面 (南東から)

- A S P - 17 土層断面 (南西から)

- A S P - 13 土層断面 (南西から)

- A S P - 13 完掘状況 (南西から)

- 図版 8 A U P S - 6 (北東から)

- A S P - 2 土層断面 (東から)

- A S P - 3 土層断面 (南から)

- A S P - 4 土層断面 (西から)

- A S P - 5 土層断面 (西から)

- 図版 9 A U P S - 7 (北西から)

- A U S - 17 確認状況 (南東から)

- A S P - 21 土層断面 (南西から)

- A S P - 20 完掘状況 (西から)

- A S P - 21 完掘状況 (南西から)

- 図版 10 A U S - 8 確認状況 (南東から)

- A U F - 7 土層断面 (南西から)

- A U F - 9 ・ 11 A U S - 6 (北西から)

- A U S - 6 A 確認状況 (北から)

- A U S - 6 B 確認状況 (北東から)

- 図版 11 A U F - 12 A U S - 14 (東から)

- A U S - 14 確認状況 (南東から)

- A U F - 13 A U S - 15 (北から)

- A U F - 5 確認状況 (北西から)

- A U F - 8 土層断面 (東から)

- A U S - 1 確認状況 (西から)

- A U S - 4 確認状況 (北から)

- A U S - 5 確認状況 (東から)

- 図版 12 A U S - 7 確認状況 (南東から)

- A U S - 10 確認状況 (西から)

- A U S - 11 確認状況 (北から)

- A U S - 12 確認状況 (北東から)

- A U S - 13 確認状況 (西から)

- A U S - 16 A 確認状況 (北西から)

- A U S - 18 確認状況 (北西から)

- A S P - 27 土層断面 (西から)

- 図版 13 A S P - 12 土層断面 (南から)

- A S P - 12 完掘状況 (南から)

- A U P - 1 土層断面 (南から)

- A U P - 1 炭化物確認状況 (北西から)

- G - 20 区 VII 群土器出土状況 (東から)

- Z - 20 区 鉄鍋出土状況 (南東から)

- X - 15 区 棒状品出土状況 (北西から)

- X - 21 区 鍬先出土状況 (南から)

- 図版 14 A L P - 1 土層断面 (南東から)

- A L P - 1 完掘状況 (南西から)

- A T P - 1 土層断面 (南東から)

- A T P - 2 土層断面 (北から)

- A T P - 3 土層断面 (南から)

	A T P - 4 土層断面 (南東から)		A T P - 24完掘状況 (南東から)
	A T P - 5 土層断面 (北から)		A T P - 25完掘状況 (南東から)
	A T P - 6 土層断面 (南東から)		A T P - 28完掘状況 (西から)
図版15	A T P - 7 土層断面 (南東から)		A T P - 19完掘状況 (南東から)
	A T P - 8 土層断面 (南東から)		A T P - 26完掘状況 (南東から)
	A T P - 11土層断面 (南東から)	図版22	A T P - 27完掘状況 (北東から)
	A T P - 16土層断面 (南から)		A T P - 29完掘状況 (南東から)
	A T P - 18土層断面 (南から)		A T P - 30完掘状況 (南東から)
	A T P - 19土層断面 (南東から)		A T P - 31完掘状況 (北西から)
	A T P - 22土層断面 (南東から)		A L F R S - 1 確認状況 (北から)
	A T P - 25土層断面 (南東から)		A L F R S - 1 土層断面 (南から)
図版16	A T P - 26土層断面 (南東から)	図版23	B L H - 1 南北方向土層断面 (東から)
	A T P - 27土層断面 (南から)		B L H - 1 東西方向土層断面 (南から)
	A T P - 29土層断面 (西から)		B L H - 1 遺物出土状況 (南東から)
	A T P - 30土層断面 (北西から)	図版24	B L H - 1 p h 確認状況 (南から)
	A T P - 31土層断面 (東から)		B L H - 1 h p - 1 土層断面 (東から)
	A T P - 7 s p - 1・2 (北西から)		B L H - 1 p h - 7 土層断面 (南西から)
	A T P - 29 s p (南西から)		B L H - 1 h p - 2 土層断面 (東から)
図版17	A T P - 9 土層断面 (南西から)		B L H - 1 p h - 12・13・14土層断面 (南東から)
	A T P - 10土層断面 (南西から)	図版25	B L H - 2 北東～南西方向土層断面 (西から)
	A T P - 12土層断面 (西から)		B L H - 2 北西～南東方向土層断面 (南から)
	A T P - 13土層断面 (南西から)		B L H - 2 完掘状況 (北西から)
	A T P - 14土層断面 (西から)	図版26	B L H - 2・B L P - 3 土層断面 (南西から)
	A T P - 15土層断面 (南西から)		B L H - 2 p h - 2 土層断面 (南から)
	A T P - 17土層断面 (西から)		B L H - 2・B L P - 3 遺物出土状況 (東から)
	A T P - 20土層断面 (東から)		B L H - 3 南北方向土層断面 (東から)
	A T P - 21土層断面 (南から)		B L H - 3 東西方向土層断面 (南東から)
図版18	A T P - 23土層断面 (南から)	図版27	B L H - 3 遺物出土状況 (南から)
	A T P - 24土層断面 (南東から)		B L H - 3 確認状況 (南から)
	A T P - 28土層断面 (西から)		B L H - 3 h f - 1 土層断面 (北から)
	A T P - 1 完掘状況 (北東から)		B L H - 3 h p - 1 土層断面 (東から)
	A T P - 2 完掘状況 (北東から)		B L H - 4 土器出土状況 (北東から)
	A T P - 3 完掘状況 (東から)	図版28	B L H - 4 南北方向土層断面 (南東から)
	A T P - 4 完掘状況 (北西から)		B L H - 4 東西方向土層断面 (南西から)
図版19	A T P - 5 完掘状況 (北から)		B L H - 4 遺物出土状況 (東から)
	A T P - 6 完掘状況 (南東から)	図版29	B L P - 1 土層断面 (南から)
	A T P - 7 完掘状況 (南東から)		B L P - 1 完掘状況 (南西から)
	A T P - 8 完掘状況 (北西から)		B L P - 2 土層断面 (南から)
	A T P - 16完掘状況 (南西から)		B L P - 2 完掘状況 (南東から)
	A T P - 18完掘状況 (南から)		B T P - 1 土層断面 (南から)
図版20	A T P - 9 完掘状況 (北東から)		B T P - 3 土層断面 (南から)
	A T P - 10完掘状況 (北東から)		B T P - 5 土層断面 (南から)
	A T P - 11完掘状況 (南東から)	図版30	B T P - 8 土層断面 (南西から)
	A T P - 12完掘状況 (西から)		B T P - 3 完掘状況 (北から)
	A T P - 13完掘状況 (北東から)		B T P - 13土層断面 (南から)
	A T P - 14完掘状況 (東から)		B T P - 5 完掘状況 (南から)
	A T P - 15完掘状況 (南西から)		B T P - 2 完掘状況 (南西から)
	A T P - 17完掘状況 (東から)		B T P - 6 完掘状況 (南西から)
	A T P - 20完掘状況 (東から)		B T P - 7 完掘状況 (南から)
図版21	A T P - 21完掘状況 (南から)	図版31	B T P - 2 土層断面 (南から)
	A T P - 22完掘状況 (北西から)		B T P - 4 土層断面 (南東から)
	A T P - 23完掘状況 (北から)		B T P - 6 土層断面 (南東から)

- B T P - 7 土層断面 (南西から)
 B T P - 9 土層断面 (南から)
 B T P - 10 土層断面 (南東から)
 B T P - 11 土層断面 (南東から)
 B T P - 12 土層断面 (南東から)
 B T P - 1 完掘状況 (南西から)
 図版32 B T P - 4 完掘状況 (北西から)
 B T P - 9 完掘状況 (南から)
 B T P - 10 完掘状況 (南東から)
 B T P - 11 完掘状況 (南東から)
 B T P - 12 完掘状況 (南東から)
 B T P - 5 s p - 1 ・ 2 (南西から)
 B T P - 8 完掘状況 (南西から)
 B T P - 13 完掘状況 (南から)
 図版33 B L F R S - 1 確認状況 (北から)
 B L F R S - 1 土層断面 (東から)
 針・棒状品 X線透過写真
 鉄鍋 X線透過写真
 鍬先 X線透過写真
 図版34 復原土器 (1)
- 図版35 復原土器 (2)
 図版36 復原土器 (3)
 図版37 破片土器 (1)
 図版38 破片土器 (2)
 図版39 破片土器 (3)
 図版40 破片土器 (4)
 図版41 破片土器 (5) ・ 鉄製品
 図版42 剥片石器 (1) ・ 石製品 (1)
 図版43 剥片石器 (2) ・ 石製品 (2)
 図版44 剥片石器 (3)
 図版45 剥片石器 (4) ・ 石製品 (3) ・ 礫石器 (1)
 図版46 礫石器 (2)
 図版47 礫石器 (3)
 図版48 礫石器 (4)
 図版49 礫石器 (5)
 図版50 礫石器 (6)
 図版51 礫石器 (7)
 図版52 礫石器 (8)
 図版53 礫石器 (9)
 図版54 礫石器 (10) ・ 石製品 (4)

I 章 緒 言

1. 調査要項

遺 跡 名：イクバンドユクチセ 3 遺跡（J-13-120）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内81-3ほか

調査面積：9,321m²

調査期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日（現地調査 平成25年5月13日～10月31日）

2. 調査体制

平成25年度

第1調査部長 千葉英一（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第3調査課長 村田 大（発掘担当者）

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓（発掘担当者）

主 査 広田良成（発掘担当者）

嘱 託 渡井 瞳

第1調査部第1調査課

主 査 吉田裕吏洋

平成26年度（整理作業）

第1調査部長 千葉英一（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第3調査課長 村田 大

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓

主 査 広田良成

主 任 佐川俊一

嘱 託 奥山さとみ

平成27年度（整理作業）

第1調査部長 長沼 孝（平成27年6月より常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第2調査課長 笠原 興

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓

主 査 広田良成

嘱 託 奥山さとみ

3. 調査の経緯

（1）厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査（図1・2）

厚真川総合開発事業の一つである「厚幌ダム建設事業」は、治水（洪水調節）、流水の正常な機能の維持（河川環境の保全）、水道及び灌漑用水の確保といった複数の機能を持つ多目的ダムを、勇払郡厚真町を流れる二級河川厚真川の上流部に建設するもので、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所により行われている。昭和52（1977）年に予備調査、昭和61（1986）年には調査が着手され、平成7（1995）年に「厚真川総合開発事業 厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が北海道

と厚真町の間で結ばれた。

建設工事の具体化に伴い、平成12（2000）年7月6日、北海道室蘭土木現業所（当時）厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）から、北海道教育委員会（以下、道教委）に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議区域はダムの湛水地域（洪水時最高水位 標高88.1m以下）と現道の切り替え部分等を合わせた範囲である。

平成13（2001）年6月に、道教委によりダム堤体の下流部で道道切り替え工事に伴う試掘調査が行われ、厚幌1遺跡が発見された。同年10月には所在調査の結果、協議区域すべてについて試掘調査が必要と回答された。以後、道教委による所在確認調査、試掘調査が継続的に行われ、平成26（2014）12月現在、発掘調査が必要な遺跡は24か所を数え、面積（遺構確認調査範囲を含む）は約20万㎡である。平成13（2001）年、道教委と厚真町教育委員会（以下、町教委）の協議では、当初、発掘調査は町教委で行うことが決められ、平成14（2002）年、町教委により厚幌1遺跡の発掘調査が開始された。以後、平成27（2015）年度まで町教委により発掘調査された遺跡（登載番号）は、厚幌1遺跡（25）・ヲチャラセナイチャシ跡（100）・ヲチャラセナイ遺跡（101）・上幌内モイ遺跡（79）・上幌内2遺跡（91）・ショロマ1遺跡（81）・ショロマ2遺跡（92）・ショロマ3遺跡（121）・一里沢遺跡（80）・オニキシベ2遺跡（77）・オニキシベ4遺跡（89）・オニキシベ5遺跡（90）・オニキシベ6遺跡（118）である。平成27（2015）年度12月現在、これらのうち9遺跡、13冊の調査報告書が刊行されている（厚真町教育委員会 2015他）。

ダム建設事業が進捗するに伴い、平成24（2012）年度から当センターも発掘調査を担当しており、上幌内3遺跡（123）・上幌内4遺跡（124）・上幌内5遺跡（125）・ショロマ4遺跡（122）・オニキシベ1遺跡（14）・オニキシベ3遺跡（78）・イクバンドユクチセ2遺跡（119）・イクバンドユクチセ3遺跡（120）を調査し、平成26年度に、オニキシベ1遺跡（北埋調報 318）・イクバンドユクチセ2遺跡（北埋調報 319）の報告書を刊行した。本書は厚幌ダム事業での当センター3冊目の調査報告書（北埋調報 325）である。

（2）イクバンドユクチセ3遺跡の調査

本遺跡は、平成21（2009）年5月の道教委による所在調査、同年7月の試掘調査の結果、発掘調査が必要と判断され、翌平成22（2010）年1月29日に埋蔵文化財包蔵地として登載された、縄文時代・続縄文時代の遺跡である（「埋蔵文化財包蔵地カード」道教委 平成22年1月15日作成）。

平成21（2009）年の試掘調査は、7月23・24日、28～31日、8月4～7日に本遺跡を含む同事業用地内の六つの地点で行われ、イクバンドユクチセ3遺跡は中央を流れる沢の左岸（A地区）3,800㎡の上下の黒色土層（Ⅲ・Ⅴ層）と、同右岸（B地区）の3,200㎡の下位の黒色土層（Ⅴ層）の合計7,000㎡について、発掘調査が必要と判断された。平成24（2012）年度に、ダム事務所は用地内の航空レーザー測量を実施し詳細な等高線図（「厚幌ダム建設工事」1：5,000 日本測地系）を作成し、ダムの湛水範囲がより詳細に示された。これを基に道教委は、完成ダムの常時満水位の標高85.4mよりも低い部分について発掘調査が必要と判断し、イクバンドユクチセ3遺跡の発掘調査面積は、A地区5,500㎡、B地区3,700㎡の合計9,200㎡が定まった。平成25（2013）年度、当センターの発掘調査で北側に遺構・遺物が広がったことや、図上の調査区と現地形との相違を調整・整合し、A地区は5,486㎡、B地区は3,835㎡、合計9,321㎡と調査面積を変更した。

本遺跡の発掘調査は、当初、ダム事務所の計画では平成25（2013）年度であった。しかし、工事工程の都合から、平成27（2015）年度からの二か年の発掘調査の計画となり、さらに変更され、厚真川



図1 遺跡位置図(1)

国土地理院 電子地形図25000「厚真川上流」を縮小し加筆作成

上流部の河川切り替え工事のため、近くのイクバンドユクチセ2遺跡（北埋調報 319）とともに、平成25（2013）年度中に調査を完了させることとなった。この工事完了後、道道は厚真川の左岸、イクバンドユクチセ2・3遺跡はとも右岸に位置するため、遺跡へ到達できなくなるためである。

この河川切り替え工事の詳細を述べる。現在の厚真川沿いを走る道道235号上幌内早来停車場線は、厚幌ダム完成前に、南東側の山間部を通る新しい路線に切り替えられる。この新道路の「1号橋」は厚真川左岸の支流である無名の沢に架かるが、この橋梁の上流側の道路の建設予定位置付近は、厚真川が屈曲する水衝部である。これを解消すべく山間部に新路線を建設する前に、厚真川の流れを切り替える必要があった。「祭橋」から「田舎橋」の下流部へ約250mの地点付近までの区間の流れを直線化し、この新流路の一部、すなわち祭橋からイクバンドユクチセ2遺跡をとおり田舎橋付近までは、現道道と同じ位置に設計され、この部分の新道路はさらに南東側に付け替える計画であった。また、イクバンドユクチセ沢との合流点付近も河川改修工事が予定され、工事は平成25（2013）年9月着手の予定であった。

イクバンドユクチセ3遺跡はイクバンドユクチセ沢をはさんだ対岸に位置し、当時は現地に至る道路や橋もなかった。平成24（2012）年度5月～11月、当センターはオニキシベ1遺跡（北埋調報 318）の発掘調査と併行して、次年度以降予定であったオニキシベ3遺跡、イクバンドユクチセ2・3遺跡の発掘調査の計画と準備も進めていた。イクバンドユクチセ3遺跡は、発掘調査を行うために必要な工事、すなわち、遺跡へ至る仮設道路の建設、イクバンドユクチセ沢を渡る仮設橋の設置等について現地で検討していた。ダム事務所からは、同年8月に、イクバンド3遺跡へ至るための仮設道路計画が、11月には、厚真川の切り替え工事設計図が、ダム事務所から当センターに示され、これを受け、現道道から厚真川の対岸に立地するイクバンドユクチセ2・3遺跡の発掘調査を、平成25（2013）年度に着手することとなった（北埋調報 319）。しかし、調査に必要な仮設道路と仮設橋の建設工事は、冬期間であるため等の理由で実施を先送りにした。平成25（2013）年度5月当初、当センターはオニキシベ1遺跡の調査を行いながら、イクバンドユクチセ3遺跡の準備工を進めた。現道道から遺跡に到達するための仮設道路・橋（図7）の完成後、調査範囲を現地に設定し、伐採・抜根と表土除去を行い、調査杭を打設し、6月中旬から人力による発掘調査を開始した。8月からはイクバンドユクチセ2遺跡の調査も着手し、両遺跡ともに10月31日で調査を完了し、イクバンドユクチセ沢の仮橋も撤去した。

厚真川の切り替え工事は9月24日に着工された。工事は上下流部の両側から行われ、遺跡に到達する道路部分の工事は調査完了後の10月末に行われ、発掘調査に影響はなかった。現在、イクバンドユクチセ2・3遺跡は、新流路の厚真川をはさみ現道道と対岸に位置するため、現地へ行くことはできない。

報告書作成のための整理作業は、平成25（2013）年11月から開始し、平成27（2015）年度に本報告書（北埋調報 325）を刊行する。

4. 調査成果の概要（図3 表1・2）

Ⅲ層（A地区）

アイヌ文化期～擦文文化期が主で、遺構は土坑1基、柱穴・杭穴42か所、焼土13か所、礫集中18か所を調査した。現場では、これらの柱穴・杭穴、焼土、礫集中をそれぞれ単独の記号を付して調査し、これらの位置関係から建物跡7軒を想定した。焼土と礫集中をもつ建物跡は3軒、焼土のみが2軒、礫集中のみが1軒、これらがないもの1軒である。土坑は炭化物が多数みられた。柱穴・杭穴は円形



図2 遺跡位置図(2)

北海道胆振総合振興局ホームページ「厚幌ダム位置図」に加筆作成

で先端部が尖るものが多い。焼土の多くは褐色を呈し、灰集中を伴うものが2か所、鉄器が出土したものの1か所である。礫集中は、長軸長が5～8cm程度の楕円形の礫が多く、散在する分布範囲の中でさらに小さな範囲に集中する例が多い。

遺物は、土器68点、石器等4,470点、鉄器4個体が出土した。土器は貼付囲繞帯をもつ擦文文化期後期のもので、石器等はU・Rレキやレキが多い。鉄器は鉄鍋、鋏先、針、棒状品である。

V層（A・B地区）

縄文時代中期・後期が主で、遺構は、A地区で土坑1基、Tピット31基、石組炉1か所、焼土5か所を、B地区では竪穴住居跡4軒、土坑3基、Tピット13か所、石組炉1か所、焼土3か所、フレイク集中4か所、大規模な礫集中1か所を調査した。竪穴住居跡は四つが重複し掘り上げ土がみられたものや、口縁部が横環する土器一個体を伴うものがあり、土坑は浅いものが多い。Tピットは多数みつき、楕円形と溝状のものがあり、重複する例もみられた。石組炉は、厚真川の山間部で採取できる礫が使用されていた。焼土はすべて褐色を呈し、フレイク集中はB地区でのみみられた。注目すべきは、B地区の南側の先端部分で広範囲に礫石器やレキが大量に出土した「大規模な礫集中」がある。

両地区合わせた出土遺物は、土器18,857点、石器等248,771点が出土した。土器は多くがIV群a類、ついでⅢ群b類である。石器等は、石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、石錘、砥石、台石・石皿がある。B地区では黒曜石のフレイクが多く、遺跡全体ではU・Rレキ（加工・使用痕のある礫）やレキ（自然礫）が最も多い。これらの岩石は、遺跡周辺に多くみられる脆弱な堆積岩が多く、被熱しているものも多くみられた。

（末光正卓）

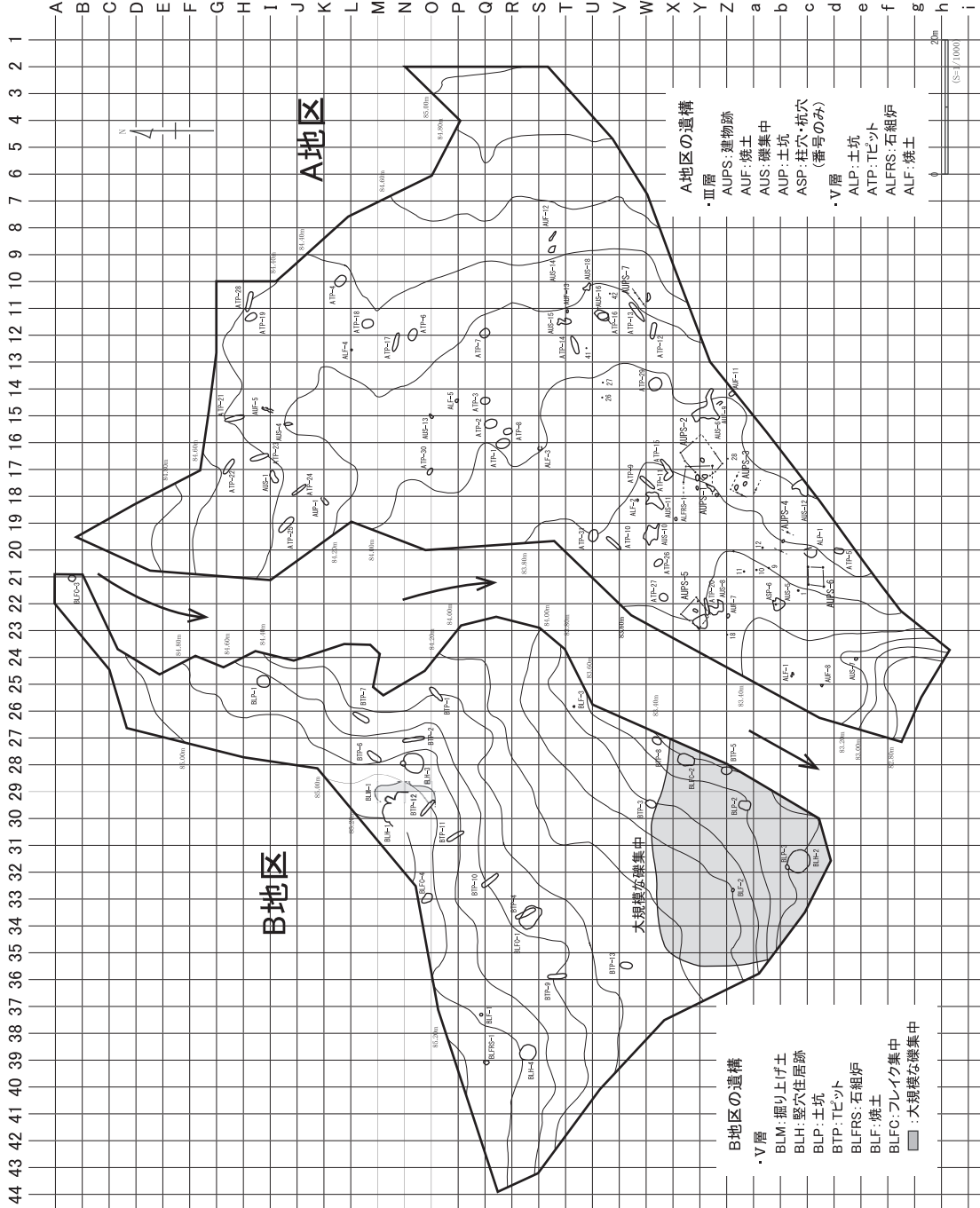


図3 遺構位置図・T a - d 2層上面地形形測量図

表1 遺構数一覧表

地区	層位	種別	記号	数	名称	
A地区	Ⅲ層	建物跡	AUPS	7	AUPS-1~7	
		焼土	AUF	6		
		礫集中	AUS	4		
		柱穴・杭穴	ASP	30		
		単独：(丸括弧)は、総数				
		焼土	AUF	7(13)	AUF-1~13	
		礫集中	AUS	14(18)	AUS-1~18	
		柱穴・杭穴	ASP	12(42)	ASP-1~42	
A地区	Ⅴ層	土坑	ALP	1	ALP-1	
		Tピット	ATP	31	ATP-1~31	
		焼土	ALF	5	ALF-1~5	
		石組炉	ALFRS	1	ALFRS-1	
B地区	Ⅴ層	竪穴住居跡	BLH	4	BLH-1~4	
		土坑	BLP	3	BLP-1~3	
		Tピット	BTP	13	BTP-1~13	
		焼土	BLF	3	BLF-1~3	
		石組炉	BLFRS	1	BLFRS-1	
		フレイク集中	BLFC	4	BLFC-1	
		掘り上げ土	BLM	1	BLM-1	
		大規模な礫集中		1	(W~c-27~35区)	

擦文文化期 アイヌ文化期 遺構 A地区のみ		
建物跡	AUPS	7
土坑	AUP	1
柱穴・杭穴	AUSP	12 (42)
焼土	AUF	7 (13)
礫集中	AUS	14 (18)
縄文時代遺構 A・B地区		
竪穴住居跡	LH	4
土坑	LP	4
Tピット	TP	44
焼土	LF	8
石組炉	LFRS	2
フレイク集中	LFC	4
掘り上げ土	LM	1
大規模な礫集中	—	1

表2 遺物点数一覧表

地区	層位	出土地点 /遺物種別	土器	石器等	石器等のうち レキ現場観察	合計	鉄器	備考
A地区	Ⅲ層	遺構	4	1,807	450	1,811	1	
		包含層	64	2,663	694	2,727	5	
		小計	68	4,470	1,144	4,538	6	
	Ⅴ層他	遺構	11	93	84	104	—	
		包含層	5,037	9,537	6,818	14,574	—	
		小計	5,048	9,630	6,902	14,678	—	
B地区	Ⅴ層他	遺構	307	47,723	753	48,030	—	大規模な礫集中出土 遺物は包含層の 遺物として取り上げて、 別途、集計
		大規模な礫集中	1,865	36,494	30,247	38,359	—	
		包含層	13,434	186,948	39,684	200,382	—	
		小計	13,741	234,671	40,437	248,412	—	
小計	地区	A地区	5,116	14,100	8,046	19,216	6	
		B地区	13,741	234,671	40,437	248,412	—	
	層位	Ⅲ層	68	4,470	1,144	4,538	6	
		Ⅴ層他	18,789	244,301	47,339	263,090	—	
合計			18,857	248,771	48,483	267,628	6	

右岸は、西側からペンケユクチセ沢等の複数の沢、北側からはショウシウシ川が佐富ノ沢と合流して注ぎ、北東側からは本流の厚真川、左岸の南東側では無名の複数の沢が流れ込んでいる。現在、下流に建設中の多目的ダム「厚幌ダム」の完成後も、厚真ダムはその機能が維持される。

厚真ダムから厚真市街地方面へは、厚真川沿いを走る「道道235号上幌内早来停車場線」がつなぎ、ダム貯水池の北東方向へは「炭鉱厚真川林道」が、厚真川に沿って山間部に続いている。南東側の「メルクンナイ（カルクンナイ）林道」は、むかわ町穂別方面への道で、現在「道道933号北進平取線」の新路線が建設中で、数年のうちに開通の予定である。

ダム貯水池の上流部には、北海道指定の自然景観保護区「厚真町いこいの森地区 未来の森」と鳥獣保護区があり、堤体の南西側には「ダム広場」・「厚真ダムキャンプ場」があった。ここは昭和48（1973）年から開催されている「田舎まつり」の会場で、かつてはバンガローや乗馬コース等も整備されていた。近年、祭りは厚真市街の表町公園で開かれており、現在キャンプ場は閉鎖、木造建物や炊事場、ステージ等が残る。また、田舎まつりを記念して「盛時の里」（揮毫：北島三郎、平成8（1996）年9月27日建立）と刻まれた石碑もある。道路向かいには斜面中腹への小道があり、そこに「水天宮」を奉った祠がある（厚真町 1986・現地調べ）。

ダム広場とキャンプ場は、大正6（1917）年間に開校した「(旧) 上幌内小学校」と、昭和26（1951）年に併設された「上幌内中学校」の跡地である。厚真ダム建設のため、昭和35（1960）年頃、厚真町教育委員会が発掘調査を担当している「ショロマ1遺跡」の場所に移転し、旧校舎は厚真ダムキャンプ場の施設として利用された。

2. 地名「幌内」・「上幌内」

イクバンドユクチセ3遺跡がある場所の現地名は、字「幌内」である。字幌内は厚真町内の北東部分に広く、東はむかわ町、北は夕張市との行政境まで、西は、高丘地区、南西は富里地区、南は宇隆地区と接する。幌内はアイヌ語の「ポロナイ」に由来し、江戸時代に松浦武四郎が記した『戊午 東部安都麻志 全』（松浦・秋葉 1985）に「ホロナイ 右の方の小川。此辺に来るや川岸崩平多し」とある。この小川は現在の日高幌内川で、これが厚真川に注ぐ付近から下流部の地点は、シュルク沢川、オッココ沢川等の大きな河川も合流し、周囲には低位の平坦地が広がり、現在も幌内神社・幌内小学校跡地・集落がある。アイヌ語地名「ポロナイ」の直訳は「大きい沢（川）」で、厚真川に複数の大きな川が流れ込む平坦で広い地点も意味している可能性も考えられる。

本遺跡がある厚真川上流地域のかつての字名は「上幌内（上ホロナイ）」で、昭和32（1957）年、前段で述べた広範囲の地域を統合し「幌内」となった。字上幌内は、大正10（1921）年発行の五万分一地形図（図5）にみられる。厚真川沿いに小道「小徑（道幅半間未満）」（破線表記）が続き、下流部では川の左岸で、標高217.4mの山（四等三角点「上幌内」）の東側付近で右岸に渡る。そこから厚真川の広い河川敷地である低地を通り、本遺跡が位置する中位の段丘には道はない。イクバンドユクチセ沢を渡り、現在の「祭橋」付近で再び左岸に出る。少し行くと道と厚真川の間に学校（旧 上幌内小学校）があり、さらに上るとまた厚真川の右岸に渡る。この付近は、現在の厚真ダムの堤体ある部分で、貯水池部分がかつて広い平坦地で、数軒の家がまばらに存在し、厚真川沿いに小道も続く。川を渡る場所は5か所あり、さらに上流では兩岸の平坦部がなくなり、集落はこの付近までである。この平地には北から流れるショウシウシ川（ショウシウシ澤）と、北東側からの厚真川が合流する地点があり、厚真ダム建設では五戸が水没したとある（厚真町幌内自治会 1997）。また、下流のオニキシベ（鬼岸辺）川流域には、「幌内」の地名（右表記）があり、「上幌内」と「幌内」の地名の境は、厚真川と

鬼岸辺川の合流点付近で、これより上流部が上幌内で、下流部と鬼岸辺川流域が幌内であったと推測される。

地名「上幌内」は、道道上幌内早来停車場線や上幌内モイ遺跡、上幌内1～5遺跡、上幌内橋、四等三角点等の名称にその名をとどめている。

3. 道道上幌内早来停車場線

本道路は厚真ダムから幌内地区、厚真市街地を経て安平町のJR早来駅前までを結び、昭和32（1957）年に「道道」に認定された。その歴史は、明治34（1901）年に地域住民たちにより道路開削が開始され、同44（1911）年には幌内とオニキシベ地区の間に馬車道が開通した。大正10（1921）年発行の五万分一地形図（図5）に道幅一間以上の「里道」が現在のキウキチ沢付近までみられる。そこから鬼岸辺川との合流点までは道幅半間以上の里道、さらに先は半間未満の小径が、厚真ダム堤体の上流部まで表記されている（前項参照）。大正11（1922）年、工事業者による「幌内メルクンナイ開墾道路新設工事」が着手され、幌内地区からメルクンナイ沢までの二里十六町（約9,546m）の区間が道幅2mに拡幅された。昭和5（1930）年から砂利敷き工事が開始され、昭和30年代頃まで農業救済事業等として行われた。昭和13（1938）年には、（上）幌内炭鉱が開山し「オニキシベ入口」に飯場が設置された。石炭の運び出しのため、この道路の難所である「大坂」（四等三角点「天神山」の北西側に張り出す裾の部分を沿う部分）と呼ばれた部分の高さを約2m下げ、改良工事したとある。昭和29年と昭和47年に「幌内橋」は改良され、昭和44年は一里沢に架かる「上幌内橋」が鉄筋コンクリート製に改良された。「道道」の認定後、改良工事が昭和42年から進められ、昭和47（1972）年には幌内地区が舗装され、現在は「オニキシベ橋」まで舗装されている。厚真ダムの完成直後の昭和48（1973）年に「田舎橋」、翌年に「祭橋」が鋼性の永久橋となった。昭和49（1974）年測定の地形図「上幌内」（図6 右側部分）では、イクバンドククチセ2・3遺跡の近くに「田舎橋」があり、「祭橋」は未完成で道路も途切れている。この付近の左岸にある崖際の道路は、厚真ダム建設のため一時的に付け替えられたものである。昭和49年にはオニキシベ橋、昭和54年にはキウキチ沢に架かる橋が永久橋となった（厚真町幌内自治会 1997）。

この道道は、平成27年10月現在、下流部の厚幌トンネル（2号トンネル）・オニキシベ橋（7号橋）、龍神の森トンネル（1号トンネル）、一里沢橋（6号橋）までの区間が付け替わっている。平成26年度から厚幌ダム堤体本体の建設工事が着手され、現在、工用道路となった区間の旧道は通行できない。

4. 幌内神社とオニキシベ地区の龍神信仰

厚真市街から厚真ダム方面へ向かい、道道上幌内早来停車場線が幌内地区の中心部付近で、東から北へ大きく曲がった右側に「幌内神社」がある。四等三角点「幌内山」（標高161.5m）の南西側の裾部分に立地する。この神社は神社本庁に属さず、地域住民の手で守られ信仰されてきた「単立神社」で、「地神宮」等とも呼ばれる。氏神は天照大神・大己喜神・猿田彦命である。

明治33（1900）年、入植者たちが「五神」（青竜・白虎・朱雀・玄武・麒麟）を削った木を奉りこの地域の信仰の端緒となった。大正2（1913）年に、集落の要請を受けた地域の木工により「鎮守の森」山頂に社殿が建立され、昭和30（1955）年に階段が整備されたとある。また、昭和34（1959）年地元の木材業者から現在の敷地が寄進され、昭和37（1962）年には社殿が老朽化し改築が検討された。同年、同木材業者から鳥居3基が寄進された。昭和39（1964）年秋には、現在の場所、幌内山の裾部に幌内神社が改築・移築されたと推測される。昭和48（1973）年3月境内の「エゾイタヤ」（イタヤカエ



図6 遺跡周辺の地形(3)

(昭和34年 地理調査所 1:25000地形図「幌内」と昭和51年 国土地理院 1:25000地形図「上幌内」を縮小して合成・加筆)

デ)が北海道記念樹木に指定され、これを受け同年10月厚真町も「記念物第一号」として指定した。しかし、平成20(2008)年、この樹木が著しく腐朽し危険なことから指定解除となり、伐採され現在は残っていない。昭和50(1975)年神社境内を小公園とすることが提案され、昭和56(1981)年地元の木材業者により鳥居が建立され、昭和61(1986)年には境内に電気施設が整備された。開拓期当初、幌内地区には様々な神仏の信仰が個人により持ち込まれ守られてきたが、これらは昭和30年代に、現在の幌内神社に合祀された(現地調べ・厚真町幌内自治会 1997)。

過去の地形図でこの幌内神社の立地を読む。大正年間(図5)は、等高線が20m間隔の五万分一地形図「早来」では等高線60~80m付近にあり、昭和34年発行の1:25,000地形図「幌内」(図6)では標高100~110m付近に参道と神社、その西側に「幌内共同墓地」がみられる。現在の1:25,000地形図「厚真川上流」(図4)では、標高50m付近に神社とそこから北西方向に墓地が等高線90mの手前にみられる。幌内共同墓地は大正6(1917)年に設置され、その場所(標高90~110m付近)は移動していない可能性が高い。幌内神社は大正8年頃には山の裾部にあり、その後、標高の高い場所に建てられ、昭和34年頃まではそこに立地し、昭和39年に山の麓の現在の場所に移築されたと推測される。

また、オニキシベ地区に龍神が祀られていたとの伝えもある。大正5(1916)年前後、オニキシベ地区で、幌内神社の社殿を建築した大工が地元住民から龍神の建立を依頼され、その場所は現在の四等三角点「天神山」の山頂であった。また、昭和九(1934)年九月木版に竜を彫り彩色して奉納したとある(厚真町幌内自治会 1997)。記述では、龍神の建立を依頼した時期と、木版を奉納した時期には18年の差がある。この天神山の南側の麓は、当センターが平成24・25年度に調査したオニキシベ1遺跡である。平成27年10月に天神山を踏査した。急な傾斜で登るのは困難で、三角点のある東西方向の尾根は幅5mほどであった。山頂へ至る道の痕跡は見当たらなかったことや、建物の跡等はみつけれなかった。オニキシベ1遺跡の調査報告書(北埋調報 318)に掲載した「図3 遺跡周辺の地形(9頁)」で、世界測地系の平面直角座標の値を表記した点の少し北西側に「祠」の記号がある。発掘調査時に建物は残っていなかったが、木彫りの龍神を奉った場所は山頂ではなくこの祠でないかと推測される。整理すると、龍神の祠の建立の時期は、幌内神社の社殿建立と同じ大正2~5年頃で、大工は同一人物である。これら「幌内山」と「天神山」にほぼ同じ時期に建立したとはやや考えがたい。

5. 調査区周辺の現況

本遺跡の東側の台地の先端部には、イクバンドユクチセ2遺跡(北埋調報 319)、厚真川を挟んだ南の対岸には上幌内5遺跡(年報 26・28)がある。

イクバンドユクチセ3遺跡の周辺(図7)は、厚真川の右岸である北側の山は、比較的緩やかな斜面があるのに対し、左岸の南側は急峻な傾斜や崖が多い。西方向へ流れる厚真川は、イクバンドユクチセ3遺跡が立地する台地の崖にぶつかり流れを南に変え、そこから広く平坦な低地を屈曲する。さらにいうと、この低地部は北側に広く、流路は南側の崖下に沿って流れている。イクバンドユクチセ沢は、本遺跡から西方向へ約300m離れた地点で南流し、田舎橋の下流で厚真川と合流する。本遺跡はイクバンドユクチセ沢の右岸、この流れを見下ろす平坦地に立地する。イクバンドユクチセ3遺跡の周囲は山林(二次林)で、北側は緩斜面が続き、標高100m付近から山体の急斜面になる。北東から東側は、イクバンドユクチセ沢周囲の低湿地、厚真川を眼下にみる急な崖である。南側は厚真川の低位の平坦面が広がり、多くの小さな流れがある。本遺跡の中央にある無名の沢(詳細後述 以下「調査区中央の沢」)が流れ、この平坦面に注いでいる。北西側にもイクバンドユクチセ沢と同じくらいの水量がある、無名の沢がみられる。遺跡の北側部分以外は、崖または急な斜面で、中位の河岸段丘面と考

II 章 遺跡の立地と周辺の環境

1. 立地と環境

イクバンドユクチセ3遺跡は厚真町市街地から北東約14km、夕張山地の南西部分（勇払山地とも呼ばれる）の山間部を流れる厚真川の右岸、標高80～85mの段丘に位置する。遺跡の北東側にはイクバンドユクチセ沢が流れ、この沢名が遺跡名の由来である。「イクバンドユクチセ」はアイヌ語の「エタパウンユクチセ」が変化したもので、「こちら側にある鹿待小屋」の意味と解される（厚真町 1956・北埋調報 319）。厚真川流域のアイヌ文化期の遺跡のうち、最も上流に立地する（図4）。

勇払山地は標高200～300mの急峻な山が多く、頂や山稜、急斜面や崖がみられ、これらを開析するV字谷や急な沢が多い。本遺跡近くには、北方向に約3kmに標高435.8mの山（三等三角点「行千世奥」）、南東方向へ約2kmに標高393.9mの山（三等三角点「一里沢奥」）、南方向へ約0.7kmに標高267.5m（四等三角点「一里沢」）、西南方向へ約1.1kmに標高217.4m（四等三角点「上幌内」）がある。イクバンドユクチセ沢は「行千世奥」から南南東方向へ緩やかに続く尾根の西側の中腹、標高180mと160m付近の2か所に源流部があり、標高150m付近で合流し、曲線的に南西から南方向へと流れを変え、標高100m付近で山間部を出て山裾の緩斜面から平坦地を流れ、厚真川へ田舎橋の下流部で合流する。イクバンドユクチセ沢を挟む両岸の山の頂部の標高は、右岸の北東側で「365m」、左岸の南西側で「258m」の地点で、ともに「行千世奥」から続く尾根である。この「258m」の無名の頂は、イクバンドユクチセ沢と毘沙門沢の流れに挟まれており、この頂部からさらに南東方向への尾根上に、標高「189m」の頂部がある。この頂の南側は比較的なだらかな斜面で、その裾部の中位の段丘にあたる緩斜面～平坦部に、イクバンドユクチセ3遺跡は立地する。遺跡の周囲を説明すると、北東側に南流するイクバンドユクチセ沢、東側はこの沢と厚真川との合流点、南東から南西側にかけては、厚真川の河川敷地である広範囲な低地がみられる。西側は先に述べた「258mの頂部」、南南東方向へ開く谷地形とそこを流れる無名の沢がみられる。本遺跡の対岸は、「一里沢奥」から続く北及び西方向に尾根とこれらの間の谷や沢がみられ、田舎橋の上流付近で、厚真川に注いでいる。対岸の山裾部は低地が比して狭い。

本流の厚真川は、夕張山地南部に源流部を有し厚真ダムを経て、厚真町内を通り太平洋に注ぐ流路延長52.3kmの2級河川である。厚真川の両岸には、河川近くで低位の平坦地、山の裾部（標高100m以下）には緩斜面が多くみられ、特に左岸では山裾の部から河川水部まで距離があり、平坦な中位の段丘が続いている。これら厚真川の河岸段丘面の上位に山体からの崩落物が堆積し、さらに、河川による運搬物や樽前山の火山噴出物等が堆積し現地形を形成している。また、水量が豊富な沢や大きな支流と厚真川との合流点には、これらが運搬した水成堆積物により小規模な扇状地がみられる。勇払山地の山体を構成する岩石は、砂岩・凝灰岩等の軟質な堆積岩が主で、この地域の遺跡からこれらを用いた礫石器や礫が多数出土する。

本遺跡から約1km上流には「厚真ダム」がある。昭和28（1953）年に事業化した国営総合かんがい排水事業の一つとして計画され、当初、オニキシベ地区（オニキシベ4遺跡付近）に造られる予定であったが、現在の場所（当時の名称：上幌内上流林道 大橋（第一号橋）付近）が選定され、「上幌内ダム」と仮称された。昭和40（1965）年に定礎式が行われ、5年後に竣工した。厚真町内の水田への灌漑用水の供給を目的とし、厚真川とメルクンナイ沢をせき止めて造られた「ロックフィルダム（中心遮水ゾーン型フィルダム）」型式である（厚真村 1956・厚真町 1986・現地看板等調べ）。貯水池の

えられる。また、田舎橋の少し上流にある「吊橋」は、昭和40年代に厚真町補助事業で整備された人道用の橋である。

本遺跡周辺の開拓は、明治30（1897）年に遺跡の南東側、イクバンドユクチセ沢の左岸の厚真川との合流点付近に入植者があり、農業や林業が営まれた。かつてイクバンドユクチセ沢は入植者の「氏名の沢」とも呼ばれていた。この入植者の親戚の方の聞き取り調査では、当時から土器・石器が拾えたと伝えられている。少し下流では、明治39（1906）年に黒田牧場が開墾に着手したあり、この事務所は厚真川の右岸「上幌内」山の東南東の裾部に置かれたと考えられ、大正年間の地形図（図5）で、厚真川左岸の下流部からの小道が右岸に渡る付近と推測される。また、本遺跡B地区の東側、無名の沢を挟んだ南向きの斜面に「祠」がある。この場所は平坦に整地され道もみられる。位置から『幌内のあゆみ』に記載の「山の神」すなわち、山や木に対する信仰である「マサカリ立て」あるいはそれに関する信仰のものと考えられる。入植者が山林の開拓時に、老木や大木にしめ縄をし、酒・食べ物、道具をお供えして、作業の安全を祈願したと伝えられる。これらに関する道具等をこの祠に奉納し山の神に供えたと考えられる。奉納品には「明治四三年一二月一日 澤田組第三号山」と記されたものがあり、昭和7（1932）年には地元の住民も手製の鎌を納めたとある。奉納品の時期や近くの入植者から、祠を建てたのは黒田牧場の可能性が考えられる。さすれば、この牧場地はこの祠が位置する斜面の下、イクバンドユクチセ3遺跡の南東側の崖の下に広がる、厚真川周囲の河川敷地と推測されよう。

調査区の南側に道道235号上幌内早来停車場線が走り、上流部の「祭橋」、下流部の「田舎橋」で厚真川を越える。橋の名称は、昭和期に厚真ダム広場で開催されてきた「田舎まつり」から命名されたと思われる。平成25（2013）年10月の発掘調査完了後、厚真川を切り替える工事が行われ、田舎橋と祭橋の下には本流の流れはない。

6. 調査区中央の沢

本遺跡には、北から南方向へ流れる無名の沢がみられ、これを「調査区中央の沢」と呼ぶ。兩岸の調査区はこの沢で地区分けをし、左岸がA地区、右岸をB地区とした。沢は南または南南西方向へと流れ、水部の長さ124.4m、水深は平均0.1～0.3m、最大0.7mで、流域面積は1,649.8m²である。平面図と横断面図（図8）を作成し、縦断面は数値で示した（表3）。

沢頭付近では3か所の湧水地点がみられ、これらが集まり一つの流れになる。上流では左岸のK-19杭付近に攻撃面があり、この部分は岸の下位がえぐれたオーバーハング状である。右岸のM・N-24・25杭付近にもかつては湧水地点であったと考えられる地形が認められる。川幅や兩岸の間隔は広く、流路には粒径がまとまった砂礫の堆積がみられる。中流のQライン付近から川幅と岸の幅が狭くなり、Sライン付近で西側に屈曲しそこから直線的な流れで下流部を経て台地の縁へと向かう。流速は下流に行くにつれ速い。沢付近では一次林の樹木が生育し、流路の地表面の観察では遺物はみられなかった。河川堆積物である砂礫は、亜円礫～円礫状の泥岩・凝灰岩・砂岩で、粒径は、最大で25cm、平均3～5cmである。（末光）

7. 周辺の遺跡（図9・表4）

厚真川の上流部地域は、厚幌ダム建設事業と勇払東部（二期）地区厚幌導水路建設（以下、導水路建設）に伴う発掘調査で、多くの遺跡が確認・調査されている。ここでは、上流の厚真ダム付近から下流は厚幌ダム堤体建設予定地付近までの範囲にしぼり、そこに位置する遺跡の概要を、厚真川の本流と支流を含め、下流から上流部の順に記述する。

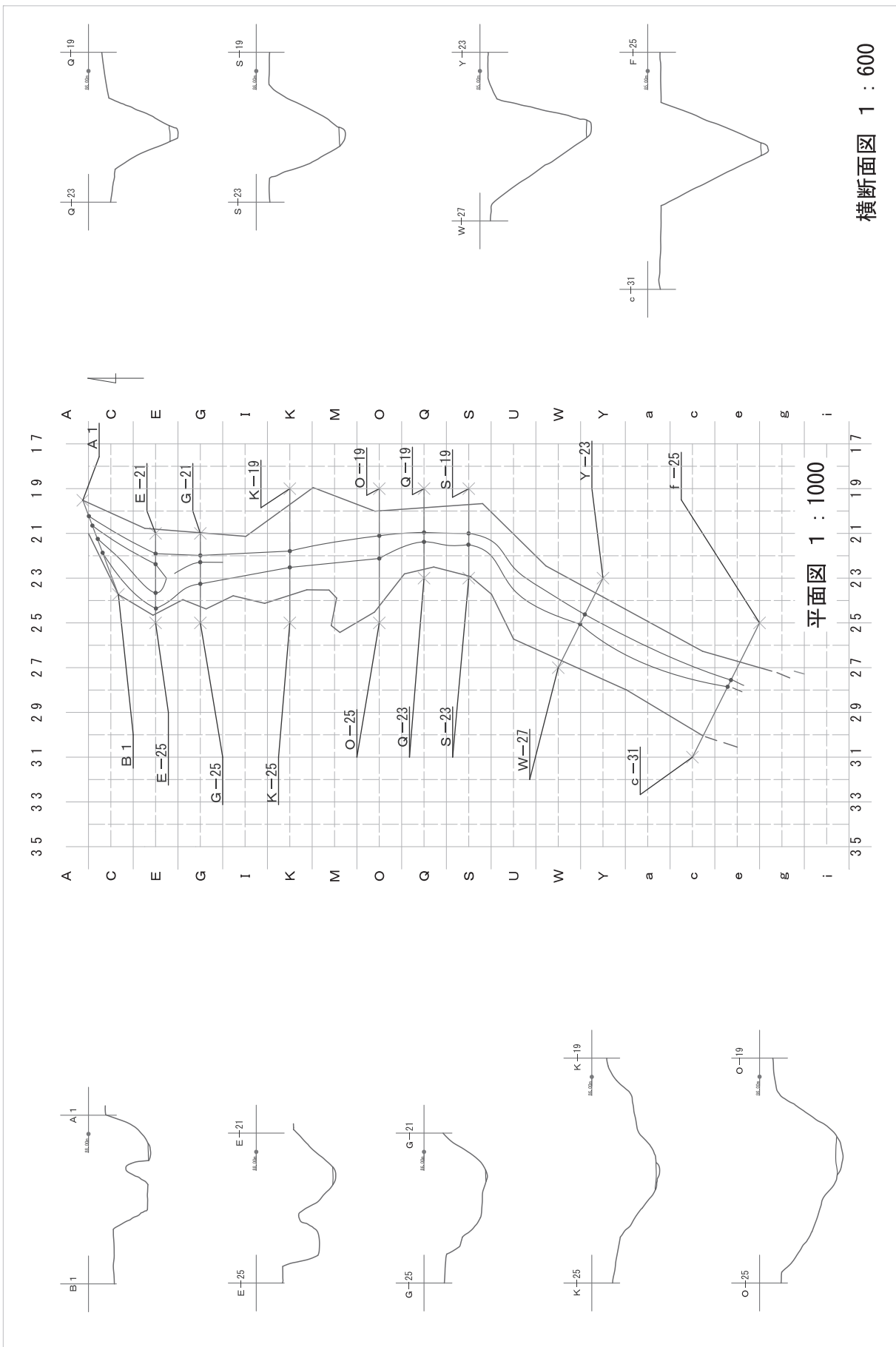


図8 調査区中央の沢 測量図

表3 調査区中央の沢 測量表

地点	測点杭		沢の形状	横断距離 (m)	岸～流れまでの距離 (m)		河川の幅 (m)	最低標高 (m)	縦断距離 (m)	備考	
	西側右岸 (B地区)	東側左岸 (A地区)			西側右岸 (B地区)	東側左岸 (A地区)					
上流部複数沢	B 1	A 1	U字状	18.0	8.0	3.0	2.6/2.0	83.768	4.4	複数の流れ	
上流部複数沢	E-25	E-21	U字状	16.0	1.0	4.4	3.0/2.0	82.796	8.0	複数の流れ	
上流部	G-25	G-21	U字状	16.0	4.1	4.1	3.9/(1.2)	82.471	16.0	広い大きな流れ 細い流水部	
上流部	K-25	K-19	開くU字状	24.0	5.0	8.3	2.9	81.852	16.2	合流部	
中流部	O-25	O-19	開くV字状	24.0	8.5	4.4	4.1	81.454	8.2	合流部	
中流部	Q-23	Q-19	V字状	16.0	4.9	4.4	1.7	81.452	8.0	一つの流れ	
下流部	S-23	S-19	V字状	16.0	5.6	5.1	2.0	81.131	7.2	一つの流れ	
下流部	W-27	Y-23	深いV字状	18.0	7.3	4.3	1.9	79.613	3.7	一つの流れ	
下流部	c-31	f-25	深いV字状	25.3	9.8	3.6	1.3	78.497		一つの流れ	
					流域面積 (m ²)		最大/最小 (m)	比高差 (m)	直線距離合計 (m)		
					1,649.8		4.1/1.2	5.271	71.7		

・厚真川左岸 キウキチ沢左岸

厚幌1遺跡 (25)

本遺跡は、平成14・15・24 (2002・2003・2012) 年度に、厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査が、平成20・25・27 (2008・2013・2015) 年度には、導水路建設に伴う発掘調査が行われた。これらのうち平成25・27 (2013・2015) 年度は当センターが担当し、それ以外を厚真町教育委員会が実施した。過去数年間の調査では、アイヌ文化期の送り場と考えられるシカの頭蓋骨の集中がみつき、爪形文が施された縄文時代晩期の土器や、胎土に滑石を多く含む縄文時代前期の土器も多数出土した。平成27 (2015) 年度のセンターの調査では、掘り上げ土を伴うTピットや近代の住居跡がみつかった。

・厚真川左岸 キウキチ沢右岸

厚幌2遺跡 (88)

遺跡は導水路建設に伴う発掘調査が行われ、アイヌ文化期の平地住居跡や遺物集中が確認された。縄文時代前期の遺物集中もみつかった。遺物集中では土器は少なく、黒曜石製の石鏃や頁岩製のつまみ付ナイフ、砂岩製の被熱礫などが多く出土し、焼骨も含まれている。また、調査区東側の広い範囲に縄文時代前期以前の樽前dテフラの再堆積層がみられる。

・厚真川左岸 鬼岸辺川との合流点の下流部

オニキシベ4遺跡 (89)

擦文文化期の複数の炉跡をもつ平地住居跡が調査され、アイヌ文化期の「チセ」への移行を考える上で重要な調査例である。また、縄文時代中期の「厚真1式土器」(苫小牧市埋蔵文化財調査センター1998) の復元土器が報告されている。

オニキシベ6遺跡 (118)

この地域では発見例の少ない、縄文時代後期の堂林式土器が多数出土した。

・厚真川右岸 ワチャラセナイ川との合流点付近

ワチャラセナイチャシ跡 (100)

ワチャラセナイ遺跡の範囲内にあり、段丘の先端部に造られた「丘先式」のチャシ跡である。一条の溝で区画され、形状の違いから二つの時期が認められる。チャシ跡の溝の内部 (内郭) で、建物跡が確認された。

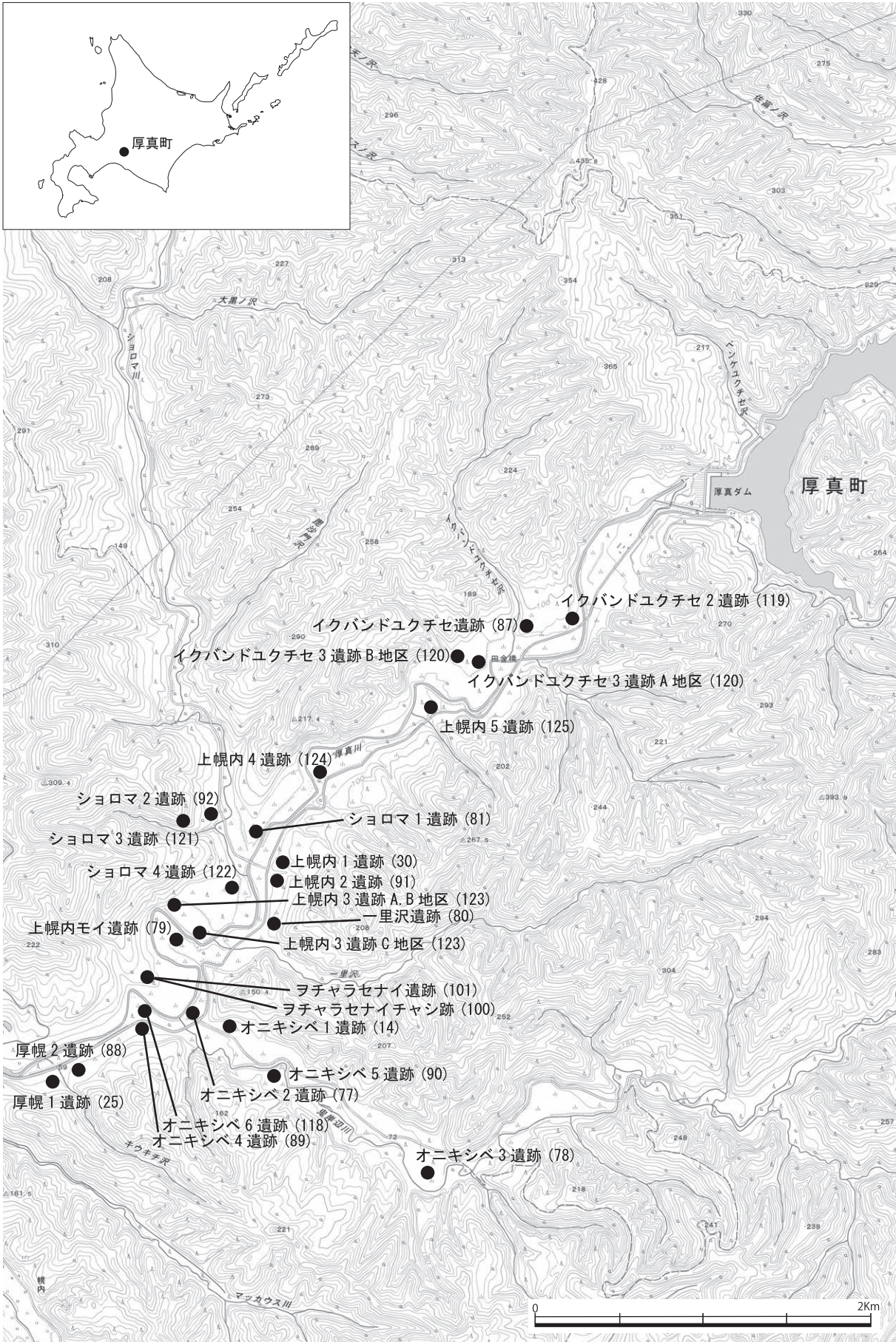


図 9 周辺の遺跡

国土地理院電子地形図 25000「厚真川上流」を縮小し加筆作成

ヲチャラセナイ遺跡 (101)

本遺跡は、立地から交通路上重要な遺跡であり、各時代の遺構・遺物が確認された。アイヌ文化期の平地住居跡や土坑墓が調査され、シカやヒグマの骨が確認された。擦文文化期では土坑・焼土が調査され、土器は、刻文や貼付圍繞帯をもつ後半期のものである。縄文時代は前期が主で、土坑墓が複数みつき、大型の竪穴住居跡も調査された。また、多量の両面調整石器が出土した剥片石器集中もある。

- **厚真川左岸 鬼岸辺川との合流点付近**

- **オニキシベ2遺跡 (77)**

- 各時代の遺物が出土している。アイヌ文化期の土坑墓、擦文文化期のカマドを伴う竪穴住居跡が調査された。また、続縄文時代の遺構・遺物が多く、続縄文時代の後北B・C₁式の復元個体が多数報告されている。

- **鬼岸辺川 右岸**

- **オニキシベ1遺跡 (14) (北埋調報 318)**

- 平成24・25 (2012・2013) 年度に当センターが調査した。縄文時代中期・後期が主たる時期で、竪穴住居跡の炉跡は、中期が地床炉、後期は石組炉である。

- **鬼岸辺川左岸**

- **オニキシベ5遺跡 (90)**

- 縄文時代後期の北筒Ⅲ式土器が出土し、道東地方との関係性が想定される。また、大型の石棒も出土した。

- **鬼岸辺川右岸**

- **オニキシベ3遺跡 (78)**

- 平成26 (2014) 年度から、当センターが調査を担当している。縄文時代後期の竪穴住居跡は平面が楕円形を呈し、地床炉か石組炉のいずれかを伴う。これらは黒色土層の上面で、明瞭なくほみでみられた。さらに、掘り上げ土を伴う大型のものも確認した。この大型の竪穴住居跡内の出土遺物は、他の竪穴住居跡に比べると少ない。また土器集中では、縄文時代後期初頭の余市式、タプコブ式や縄文時代晩期の爪形文が施された土器も出土した。次年度は町道の下と北側部分を調査予定である。

- **厚真川左岸 平坦な低地**

- **上幌内モイ遺跡 (79)**

- 各時代の遺構・遺物がみついている。アイヌ文化期は平地住居跡や土坑墓が調査され、骨の集中からはヒグマの骨がみつかった。擦文文化期では、類例の少ない土坑墓も発見され、副葬品の擦文土器の施文に用いられた櫛歯状工具から、オホーツク式土器の影響が推測されている。羽口や鉄滓などが多く出土した遺物集中は、鉄器生産に関するものと考えられる。続縄文時代では、アヨロ2b類の土器を伴う遺構が調査された。縄文時代は、早期・中期・後期の竪穴住居跡と160基を超えるTピットが確認された。また、後期旧石器時代の札滑型細石刃核を伴う石器群が出土し、これに関連する焼土や炭化物集中も確認された。

- **厚真川右岸**

- 上幌内3遺跡 (123)** は三つの地区があり、当センターが調査を担当した。C地区は離れており、A・B地区の間には小さな沢地形がある。平成25・26 (2013・2014) 年度にC地区、平成26 (2014) 年度にA・B地区を調査した。

上幌内3遺跡C地区

擦文文化期～アイヌ文化期の平地住居跡・建物跡を調査し、縄文時代後期の大型竪穴住居跡もみつかった。

・無名の沢右岸

上幌内3遺跡A地区

アイヌ文化期の土坑墓が2基みつかった。副葬品は、鉄鍋・漆製品・ガラス玉・古銭などが出土した。また、杭そのものが残る縄文時代のTピットも確認した。

・無名の沢左岸

上幌内3遺跡B地区

アイヌ文化期の平地住居跡を調査し、擦文文化期の遺物集中から須恵器が出土した。また、縄文時代では早期の竪穴住居跡がみつかった。

・厚真川左岸 一里沢右岸

一里沢遺跡 (80)

Tピットが重複することなく、狭い範囲に集中してみられ、新旧関係が掘り上げ土と覆土から判明できる可能性があるとの報告がある。

・シヨロマ川右岸 厚真川との合流点付近

シヨロマ4遺跡 (122) (北埋調報 322)

平成26 (2014) 年度に当センターが調査を行った。擦文文化期～アイヌ文化期、続縄文時代の遺構・遺物がシヨロマ川に面する崖際に多く確認された。擦文文化期の土坑墓がみつき、縄文時代後期の石組炉を伴う大型の竪穴住居跡も調査した。

・シヨロマ川右岸 無名の沢右岸

シヨロマ3遺跡 (121)

擦文文化期の鉄器集中と、続縄文時代の三体が合葬された土坑墓が発見され、縄文時代後期の大型竪穴住居跡もみつかった。

・シヨロマ川右岸 無名の沢左岸

シヨロマ2遺跡 (92)

縄文時代中期の掘り上げ土を伴う竪穴住居跡が調査され、多数のTピットが列状でみつかった。また、縄文時代後期初頭の緑色泥岩製の磨製石斧片の集中がみつき接合できる資料となった。

・シヨロマ川左岸 厚真川右岸

シヨロマ1遺跡 (81)

厚真川とシヨロマ川に挟まれた合流点付近に立地する。アイヌ文化期の平地住居跡が確認され、遺物集中からは鉄鍋が1個体出土した。縄文時代後期では石組炉をもつ竪穴住居跡と、縄文時代前期の円筒土器下層d式を伴う大型竪穴住居跡が調査された。また、縄文時代後期初頭の礫集中から棍棒型石器が出土し、胆振地方では初めてである。

・厚真川左岸 無名の沢左岸

上幌内2遺跡 (91)

アイヌ文化期の土坑墓がみつき、副葬品の和鏡・漆製品・刀などが注目される。縄文時代は、早期～後期の竪穴住居跡と土坑が調査された。

・厚真川左岸 無名の沢右岸

上幌内1遺跡 (30)

擦文文化期～アイヌ文化期の複数の炉跡をもつ平地住居跡がみつきり、縄文時代早期・中期・後期の竪穴住居跡や土坑なども調査された。

- 厚真川左岸

- 上幌内 4 遺跡 (124)

平成26 (2014) 年度から当センターが調査を行い、縄文時代中期・後期の竪穴住居跡や土坑、Tピットがみつかった。Tピットは平面が溝状と楕円形のものがあり、楕円形のものには杭跡が確認されるものが多くみられた。土器集中では、縄文時代中期の円筒土器上層 a 式や縄文時代後期の手稲式の注口土器が出土した。また、近代の馬の骨が確認された。次年度以降も調査予定である。

- 厚真川左岸 無名の沢の両岸

上幌内 5 遺跡 (125) は、平成25・27 (2013・2015) 年度に当センターが調査をし、平成25 (2013) 年度の調査では300m²の範囲からTピットが13基みつきり、このことからTピットが多数確認されることが予想できた。遺跡は調査区内を流れる無名の沢で地区分けを行った。無名の沢の右岸をR地区、左岸をL地区とした。R地区では、V層下位のT a - dテフラがみられず、灰色を呈する水成堆積の粘土層が地山であり、この面でTピットが確認された。L地区では、調査区内の西側平坦部の狭い範囲から複数のTピットが集中してみつきり、列状のものも確認できた。次年度以降も調査予定である。

- 厚真川右岸 イクバンドユクチセ沢右岸

イクバンドユクチセ 3 遺跡 (120) (本報告書 北埋調報 325) は、平成25 (2013) 年度に当センターで調査し、遺跡の中央を流れる「調査区中央の沢」で地区分けをした。

- 無名の沢左岸

- イクバンドユクチセ 3 遺跡 A 地区

アイヌ文化期の柱穴～杭穴、焼土、礫集中を確認し、これらから建物跡と判断したものは7軒である。アイヌ文化期の遺跡では最上流部に立地する。また、縄文時代ではTピットが31基みつきり、切り合うものもみられる。

- 無名の沢右岸

- イクバンドユクチセ 3 遺跡 B 地区

縄文時代中期～後期の竪穴住居跡やTピットを調査した。また、調査区の南側部分の黒色土層中で、約30×25mの広い範囲から礫石器や礫が多数みられ「大規模な礫集中」と呼称した。この中には土器、石器は少なく礫は被熱したものがあり、焼骨も点在してみられた。

- イクバンドユクチセ沢 左岸

- イクバンドユクチセ遺跡 (87)

主な時代は縄文時代後期で、試掘調査では土器・石器・礫が出土した。標高92～96m付近に立地し、ダム完成後も湛水地域でないため、現在のところ発掘調査の予定はない。

- 厚真川右岸

- イクバンドユクチセ 2 遺跡 (119) (北埋調報 319)

平成25 (2013) 年度に、当センターが縄文時代中期～後期の土坑とTピットを調査した。現在、最も上流に位置する遺跡である。

- 厚真川とメンクルナイ沢との合流点付近 (厚真ダム堤体付近)

地域住民への聞き込み調査で、厚真ダム付近にも遺跡があったとの記述がある (厚真教育委員会 2014他) (奥山さとみ)

表4 周辺の遺跡一覧表(1)

24

登録番号 J-13	遺跡名	推定 旧地名	河川・沢・立地		地区	調査土層 (Ta-c)	調査 面積 ㎡	内容			特記事項	調査年度	調査機関	発掘調査報告書 文獻・参考情報	備考
								主な時代	主な遺構	主な遺物					
25	厚幌1遺跡	メナ ホロナイ	キウキチ沢 左岸	厚真川 左岸	—	上位・下位 黒色土層	9,360	縄文時代中期・後期 アイヌ文化期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 遺物集中	土器・石器 鉄製品 自然遺物	シカの骨の送り場 近現代の馬車道跡 地すべり地形	平成14(2002) 平成15(2003) 年度	厚真町教育委員会	厚真町教育委員会 『厚幌1遺跡』2004	平成14・15・24年度は、 厚幌ダム建設事業 に伴う発掘調査 平成20・25・27年度は、 厚幌東部(二期)地区 厚幌導水路工事 に伴う発掘調査 次年度以降調査予定
							1,098	縄文時代 前期・後期	竪穴住居跡 土坑墓・Tピット	土器・石器 自然遺物	—	平成20(2008) 年度		厚真町教育委員会 『厚幌1遺跡(2) 幌内7遺跡(1)』2010	
							2,070	縄文時代後期 統縄文時代 縄文文化期	土坑・Tピット 遺物集中・道跡	土器・石器	縄文時代前期の 胎土に滑石を含む土器	平成24(2012) 年度		厚真町教育委員会 『厚幌1遺跡(3)』2014	
							1,400	縄文時代後期 縄文文化期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 土器集中	土器・石器	縄文時代晩期 爪形文が施された土器	平成25(2013) 年度		(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報26 平成25年度』2014	
							1,018	縄文時代中期・後期 縄文文化期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 遺物集中	土器・石器	掘り上げ土を伴うTピット 近代の住居跡	平成27(2015) 年度		(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報28 平成27年度』2016	
88	厚幌2遺跡	メナ ホロナイ	キウキチ沢 右岸	厚真川 左岸	—	上位・下位 黒色土層	899	縄文時代前期 アイヌ文化期	平地住居跡 土坑・Tピット 遺物集中	土器・石器 自然遺物	縄文時代前期の 遺物集中 縄文時代前期以前の Ta-dテララの再堆積層	平成27(2015) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報28 平成27年度』2016	厚幌東部(二期)地区 厚幌導水路工事に伴う 発掘調査 全体調査面積1,982㎡ 次年度以降調査予定	
89	オニキシベ4遺跡	メナホロナイ オニキシベ入口	厚真川 左岸	鬼岸辺川との 合流点から下流部	—	上位・下位 黒色土層	4,103	縄文時代 中期・後期・晩期 縄文文化期 近・現代	竪穴住居跡 平地住居跡・建物跡 土坑・杭列跡 Tピット・遺物集中	土器・石器 金属製品 自然遺物	「厚真1式」 複数の形跡をもつ 平地住居跡 近現代：炭燼跡・塚番の墓	平成24(2012) 年度	厚真町教育委員会 厚真町教育委員 厚真村郷土研究会 『厚真村古代史』1956	『厚真村古代史』記載の 「オニキシベ発見の土器」 土地所有名から、土器が出土 した場所は、本遺跡と推定	
118	オニキシベ6遺跡	メナホロナイ オニキシベ入口	厚真川 左岸	鬼岸辺川との 合流点から下流部	A地区 下流部 B地区 上流部	下位 黒色土層 一部・上位層	1,201 200	縄文時代後期 統縄文時代 縄文文化期	土坑・Tピット 遺物集中	土器・石器 自然遺物	堂林式土器	平成24(2012) 年度	厚真町教育委員会 厚真町教育委員会 『オニキシベ6遺跡』2014	—	
100	ヲチャラセナイチャン跡	メナホロナイ オニキシベ入口	厚真川 右岸	ヲチャラセナイ川 (滝) 左岸 両河川 合流点付近	A地区(高位段丘) 先端部 (標高68~70m) B地区(低位段丘)	上位 黒色土層	4,239 1,003 3,470	アイヌ文化期	平地住居跡 壕・土塁 溝跡・柱穴列	礫・鉄製品 自然遺物	丘先式 平面形：「U」→「C」字状 アイヌ文化期のイネ	平成20(2008) 平成21(2009) 平成22(2010) 平成23(2011) 平成24(2012) 年度	厚真町教育委員会 『ヲチャラセナイチャン跡 ・ヲチャラセナイ遺跡』2013	ヲチャラセナイ遺跡内 旧名称「フレチャン」	
101	ヲチャラセナイ遺跡					上位・下位 黒色土層	4,636 2,350	縄文時代各期(前期) 統縄文時代 縄文文化期 アイヌ文化期	竪穴住居跡 平地住居跡・建物跡 土坑・土坑墓 Tピット・遺物集中	土器・石器 鉄製品 金属製品 自然遺物	アイヌ文化期の墓 ヒグマの骨 大型の住居跡 縄文時代前期土坑墓 石器集中 (両面調整石器・磨製石斧)	厚真町教育委員会 『ヲチャラセナイチャン跡 ・ヲチャラセナイ遺跡』2013 『ヲチャラセナイ遺跡』2014	—		
77	オニキシベ2遺跡	メナホロナイ オニキシベ入口	厚真川 左岸	鬼岸辺川 右岸 両河川 合流点付近	A・B地区	上位・下位 黒色土層	3,689 1,899	縄文時代 早期・中期・後期・晩期 統縄文時代 縄文文化期 アイヌ文化期	竪穴住居跡 平地住居跡・建物跡 土坑・土坑墓 Tピット・遺物集中	土器・石器 金属製品 自然遺物 ガラス玉	アイヌ文化期の墓 鉄器に伴う繊維製品 木製品・漆製品 カマドをもつ竪穴住居跡 五所川原産 須恵器	平成19(2007) 平成20(2008) 年度	厚真町教育委員会 『オニキシベ2遺跡』2011	平成14(2002)年度 工事立会	
14	オニキシベ1遺跡	オニキシベ	鬼岸辺川 右岸	無名の沢 右岸	—	下位 黒色土層	10,566 3,314	縄文時代 中期・後期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 石組炉	土器・石器	—	平成24(2012) 平成25(2013) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報25 平成24年度』2013 『調査年報26 平成25年度』2014 北埋調報318	旧名称「幌内2遺跡」	
90	オニキシベ5遺跡	オニキシベ	鬼岸辺川 左岸	—	—	下位 黒色土層	2,283 3,144	縄文時代 中期・後期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 遺物集中	土器・石器	北筒Ⅲ式土器 大型の石棒	平成22(2010) 平成23(2011) 年度	厚真町教育委員会 『オニキシベ5遺跡』2013	—	
78	オニキシベ3遺跡	オニキシベ	鬼岸辺川 右岸	無名の沢 二本に挟まれた立地	—	下位 黒色土層	15,020 4,630	縄文時代後期	竪穴住居跡 土坑・Tピット 石組炉・遺物集中	土器・石器 礫石器	掘り上げ土を伴う大型の 竪穴住居跡 縄文時代晩期 爪形文が施された土器	平成26(2014) 平成27(2015) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報27 平成26年度』2015 『調査年報28 平成27年度』2016	次年度以降調査予定 整理作業中	
79	上幌内モイ遺跡	上幌内	厚真川 に面する低地	厚真川 左岸	—	上位・下位 黒色土層	3,942 4,518 8,000 5,565	後期旧石器時代 縄文時代 早期・中期～晩期 統縄文時代 縄文文化期 アイヌ文化期	竪穴住居跡 平地住居跡・建物跡 土坑・土坑墓・Tピット 焼土・遺物集中	土器・石器 金属製品・漆製品 骨角器・自然遺物 ガラス玉 細石刃核・細石刃 掘器・彫器・削器 須恵器・土師器	縄文文化期・アイヌ文化期の墓 縄文文化期の 鉄生産関連遺物集中 「円形周溝遺構」・「竪穴塚遺構」 ヒグマの骨・キビの炭化塊 石斧集中・動物型石製品 旧石器時代の焼土・炭化物集中 細石刃石器群(丸滑型)	平成16(2004) 平成17(2005) 平成18(2006) 平成19(2007) 年度	厚真町教育委員会 『上幌内モイ遺跡(1)』2006 『上幌内モイ遺跡(2)』2007 『上幌内モイ遺跡(3)』2009	遺跡名の「モイ」は アイヌ語で 「川の流れる緩やかな場所」	
123	上幌内3遺跡	上幌内	厚真川 右岸	沢の地形 右岸：A地区 左岸：B地区 —	A地区 B地区 C地区	上位・下位 黒色土層	2,600 2,900 8,545 480	縄文時代 早期・中期・後期 縄文文化期 アイヌ文化期	竪穴住居跡 平地住居跡 建物跡 土坑・土坑墓 柱穴・Tピット 焼土・灰集中 遺物集中	土器・石器 金属製品 漆製品 ガラス玉 自然遺物 須恵器	アイヌ文化期の墓 杭が残存するTピット	平成26(2014) 年度 平成25(2013) 平成26(2014) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター 『調査年報27 平成26年度』2015 『調査年報26 平成25年度』2014	整理作業中 整理作業中 整理作業中	
						上位・下位 黒色土層	1,497	縄文時代早期 中期～晩期 縄文文化期	Tピット 焼土・遺物集中	土器・石器 金属製品	多数のTピット	平成26(2014) 年度	厚真町教育委員会 北海道考古学会 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』2014	整理作業中	

表4 周辺の遺跡一覧表(2)

登録番号 J-13	遺跡名	推定旧地名	河川・沢・立地	地区	調査土層 (1a-c)	調査面積 ㎡	内容			特記事項	調査年度	調査機関	発掘調査報告書 文獻・参考情報	備考
							主な時代	主な遺構	主な遺物					
122	ショロマ4遺跡	上幌内	ショロマ川 右岸 厚真川との 合流点付近	—	上位・下位 黒色土層	4,470	縄文時代後期 縄文時代 弥生文化期 アイヌ文化期	平地住居跡 土坑・土坑墓・柱穴 土坑・土坑墓 遺物集中	麻文化期の壁 土坑(遺構)の集中 銅鏡	平成26(2014) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター	『調査年報27 平成26年度』2015 北道調報322	—	
121	ショロマ3遺跡	上幌内	ショロマ川 右岸 ショロマ川支流 無名の沢 左岸	—	上位・下位 黒色土層	1,350	縄文時代後期 縄文時代 弥生文化期	堅穴住居跡 土坑・Tピット 石皿跡・遺跡	縄文時代(複合葬) (石籠等の副葬品) 鉄器・磁器	平成25(2013) 年度	厚真町教育委員会 (株)シンエックコンサル	『厚真町教育委員会 『ショロマ3遺跡』2014	—	
92	ショロマ2遺跡	上幌内	ショロマ川 右岸 ショロマ川支流 無名の沢 左岸	—	下位 黒色土層	2,005 3,641	縄文時代 中期・後期	堅穴住居跡 土坑・Tピット 遺物集中	縄文時代後期初頭 緑色土質製陶製石碎片の 複合資料	平成25(2013) 平成26(2014) 年度	厚真町教育委員会 (株)シンエックコンサル	『北海道考古学会 『2013年度 北海道考古学会 遺跡調査報告書資料集』2013 厚真町教育委員会 『ショロマ2遺跡』2015	平成29(2016)年度以降 調査改修予定	
81	ショロマ1遺跡	上幌内	ショロマ川 左岸 厚真川 右岸 阿賀川 合流点付近	—	上位・下位 黒色土層	8,833 853	縄文時代前期・中期 縄文文化期 アイヌ文化期	堅穴住居跡 平地住居跡 土坑・土坑墓 Tピット・遺物集中	銅鏡 組輪形石器 円筒土器下層式土伴う 大型の麻穴住居跡	平成25(2013) 平成27(2015) 年度	厚真町教育委員会	『北海道考古学会 『2013年度 北海道考古学会 遺跡調査報告書資料集』2013 厚真町教育委員会 『ショロマ1(D)遺跡』2015	新上幌内小学校跡地 次年度以降調査予定	
91	上幌内2遺跡	上幌内	厚真川 左岸 無名の沢 左岸	—	上位・下位 黒色土層	7,443	縄文時代中期 アイヌ文化期	堅穴住居跡 土坑墓・土坑・Tピット 遺物集中	アイヌ文化期の墓 漆製品・和服	平成26(2014) 年度	厚真町教育委員会	『北海道考古学会 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告書資料集』2014	整理作業中	
30	上幌内1遺跡	上幌内	厚真川 左岸 無名の沢 二本に挟まれた立地	—	上位・下位 黒色土層	9,022	縄文時代中期・中期 縄文文化期 アイヌ文化期	堅穴住居跡 平地住居跡 建物跡・土坑 遺物集中	縄文時代の跡をもつ 平地住居跡	平成26(2014) 平成27(2015) 年度	厚真町教育委員会	『北海道考古学会 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告書資料集』2014	整理作業中	
124	上幌内4遺跡	上幌内	厚真川 左岸 —	—	下位 黒色土層	907	縄文時代 中期・後期	堅穴住居跡 土坑・Tピット 礎土・土器集中	円筒土器上層式 手筒式の注口土器 近代の煎の骨	平成26(2014) 平成27(2015) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター	『調査年報28 平成27年度』2016	次年度以降調査予定 上位遺土層を含む 290㎡追加 整理作業中	
125	上幌内5遺跡	上幌内	厚真川 左岸 遺跡内 無名の沢 向岸	R地区 調査区内の沢 右岸 L地区 調査区内の沢 左岸	Ta-d層 上面 遺構確認 改修	1,048 300 3,983	縄文時代 中期・後期	Tピット 堅穴住居跡 土坑・Tピット	灰色を呈する水成珪質粘土層 かみみがついたTピット 複数の多層多線状Tピット	平成27(2015) 平成25(2013) 年度 平成27(2015) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター	『調査年報28 平成27年度』2016 『調査年報26 平成25年度』2014 『調査年報28 平成27年度』2016	次年度以降調査予定 整理作業中	
120	イクハントエグチセ8遺跡	上幌内	遺跡内の 無名の沢 向岸 イクハントエグチセ沢 右岸	A地区 調査区内の沢 左岸 B地区 調査区内の沢 右岸	上位・下位 黒色土層 下位 黒色土層	9,321	縄文時代中期・後期 縄文文化期 アイヌ文化期	Tピット 柱穴・柱穴 礎土・礎集中 堅穴住居跡 土坑・Tピット 石皿跡 大規模な礎集中	アイヌ文化期 最上層部の遺跡 鉄器・銅鏡 大規模な 礎集中	平成25(2013) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター	『調査年報26 平成25年度』2014 『本報告書 北道調報325	—	
87	イクハントエグチセ7遺跡	上幌内	イクハントエグチセ沢 左岸 —	—	—	—	縄文時代 後期	—	—	—	—	北道遺教委員会 インターネット「北の遺跡案内」	調査予定なし	
119	イクハントエグチセ2遺跡	上幌内	厚真川 右岸 イクハントエグチセ沢 左岸	—	上位土層 黒色土層	1,174	縄文時代 中期・後期	土坑・Tピット	最上層部の遺跡	平成25(2013) 年度	(公財)北海道 埋蔵文化財センター	『調査年報28 平成25年度』2014 北道調報319	—	

Ⅲ章 調査の概要

1. 発掘区の設定

(1) 調査区の形状 (図10・表5)

調査範囲については「発掘区域は、推定される常時満水位の推定ライン。水準測量・現地実測必要」と道教委からの指示があった。厚幌ダムの常時満水位は標高85.4mで、現地表面でこの値以下の範囲が調査区として示され、中央に沢をはさみ、東側の左岸部分5,500m²を「A地区」、西側の右岸3,700m²を「B地区」とし、当初の調査面積は合計9,200m²であった。調査区が示された図面は、日本測地系(平成8または12年度 作成)で示された「求積図」を基図としたものであったので、これを『平成24年度 厚幌ダム建設工事 資料整理 現況平面図』に再現し、発掘調査に関わる測量記録は世界測地系で行った。室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所から提供を受けた工事図面・測量資料は次のものである。

- ・『平成8年度 厚幌ダム建設基準点測量 3級基準点 幌内地区 成果表』北海道室蘭土木現業所
- ・『平成12年度 厚幌ダム建設用地測量(資料整理) 現況平面図 1:1,000』北海道室蘭土木現業所
- ・『平成24年度 厚幌ダム建設工事 資料整理 現況平面図 1:1,000』北海道室蘭土木現業所
(平成15年十勝沖地震に伴う基準点成果を改定・補正 PatchJGD・tokachui 2003. par Ver. 1.0.0)
- ・『厚幌ダム平面図 1:2,500 平成24年度 計測航空レーザ・空中写真 日本測地系』室蘭建設管理部
- ・『厚幌ダム建設工事 1:5,000(日本測地系)』室蘭建設管理部 厚幌ダム事務所

現地で、図面と現況を点検したところ、A地区の東及び南側とB地区の西端部分、中央を流れる沢の形状等、図面の線形と現地地形と一致しない部分があり、さらに、遺構や遺物が広がっていたため拡張した北側の範囲もあり、これらを調整・整合し、最終的にはA地区5,486m²、B地区3,835m²と調査面積を変更した。

(2) グリッド設定と調査杭の打設

調査グリッドは、沢を挟むA・B地区両者を網羅し、世界測地系の平面直角座標(XⅡ系)に基づき4m単位で設定した。座標北が位置する北東側をグリッドの原点「A-1」(X=-134,768.000m Y=-18,740.000m)とし、南北をアルファベット、東西を算用数字とし、南と西側へ昇順する。南方向は、Zの次に小文字aとしiまで、西側は47までのラインを割り付けた。グリッドの呼び名は、北東側の杭名とし、アルファベットと算用数字をハイフンでつなぎ表記した。記号のうち「C」と「c」(大文字と小文字)、「I」と「I」(大文字アイと小文字エル)は、表記上、混同しないよう注意書きを記す等して気をつけた。

現場では、既設及び新設の4級基準点から8m間隔でグリッド杭(方眼杭)を、調査区北側部分には図面の形状で範囲杭を打設した。水準測量は、調査区内の沢頭に設けられた仮ベンチマークを与点とした。なお、これらの基準点等は表5にまとめた。

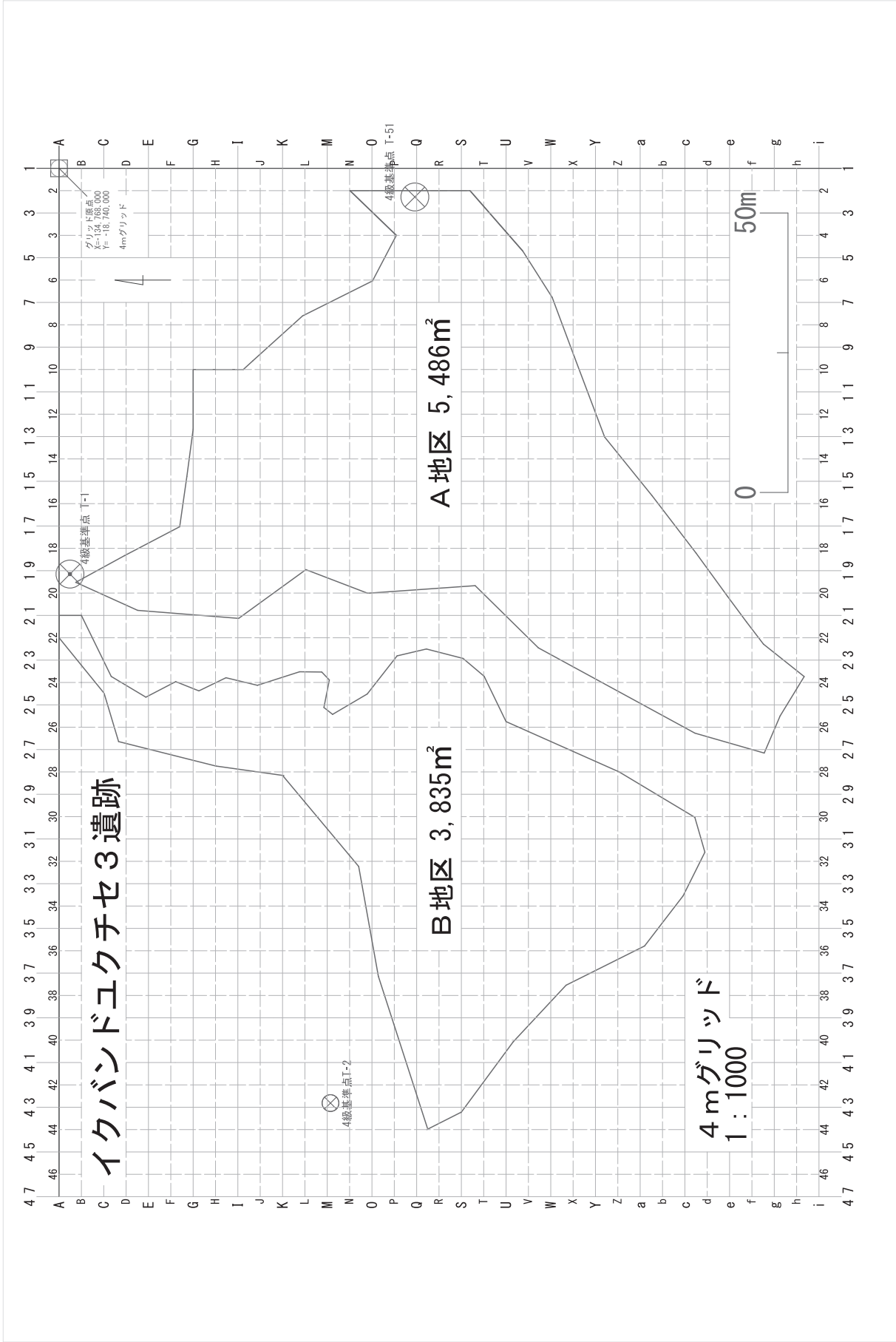


図10 グリッド設定図

表5 測量基準点一覧表

杭名	種類		世界測地系				真北 方向角 (° ' ")	標高 (改測値) (m)	調査区 グリッド	備考
			平面直角座標 (m) X II系 (平成15年十勝沖地震 に伴う基準点改正)		地理座標 (° ' ")					
			X	Y	北緯	東経				
T-51	4級基準点	既知点	-134,831.698	-18,745.122				85.770	Q-2杭 付近	平成24年度設置
T-55	4級基準点	既知点	-134,701.357	-18,879.093				89.208	調査区外	平成24年度設置
KBM NO.記入なし	仮 ベンチマーク	既知点						86.943	調査区中央の沢 沢頭近く	平成24年12月設置
T-1	4級基準点	新点	-134,770.001	-18,812.605	42 47 11.8	142 01 12.2	00922.3	86.425	A-19杭 付近	平成24年6月設置
T-2	4級基準点	新点	-134,816.613	-18,907.247	42 47 10.2	142 01 08.0	00925.1	86.391	M-43杭 付近	平成24年6月設置
グリッド交点										
A-1	調査区グリッド原点		-134,768.000	-18,740.000					(A-1)	調査区外
I-16	調査区内グリッド交点		-134,800.000	-18,800.000					I-16	A地区 調査区内
I-41	グリッド交点		-134,800.000	-18,900.000					(I-41)	調査区外
h-16	グリッド交点		-134,900.000	-18,800.000					(h-16)	調査区外
h-41	グリッド交点		-134,900.000	-18,900.000					(h-41)	調査区外

2. 基本土層 (図11・12 表6 カラー図版4 図版1)

基本土層は、厚真川上流部地域に所在する遺跡の発掘調査の成果を踏まえ、次のように区分した。色調及び土層の観察項目は『標準土色帖』(小山・竹原 1967)と『土壌調査ハンドブック』(ペドジスト懇談会 1984)による。

I層：現地表土等

I a層は黒褐色の森林表土、I b層は部分的にみられ、II層を主体とする砂土で黒色を呈する。I c層は攪乱等で、I d層は崩落し崖際に二次堆積した層である。

II層：樽前b降下軽石層

1667年に降下した樽前b降下軽石層(T a-b)で、三つに分けられる。上・中位の層は細粒で礫を含まず、下位層は比して粗粒である。

III層：黒色土層

約2千年前～近世アイヌ文化期(1667年)の黒色土層で、A地区のみを調査した。くぼみには薄く火山灰層がみられた部分もあり、これは白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)と考えられるものもあったが、遺構と関連する状況はみられなかった。

IV層：樽前c降下火山灰層

約2千年前に降下した樽前山の火山灰層で、粒径の大きな軽石は含まない。V層上面で遺構や風倒木痕のくぼみに堆積がみられるものもあった。

V層：黒色土層

縄文時代晩期後半～同早期までの遺物包含層で、A・B両地区とも発掘調査した。T a-dのスコリアが混じる部分がみられ、便宜的にa～cを語尾に付し分層したが、層位的な序列はみられなかった。また、A地区の北側部分では、樽前d2スコリア主体の水成二次堆積層(S d2層)がみられ(図12)、これの上位の黒褐色土層をs V層として区分した。出土遺物はないが、下位のV層出土の土器と上位の樽前c降下火山灰層から考えて、S d2層の堆積年代は縄文時代晩期後半以前である。

VI層：漸移層

黒色土層が下位の層へと漸移的に変化する部分である。

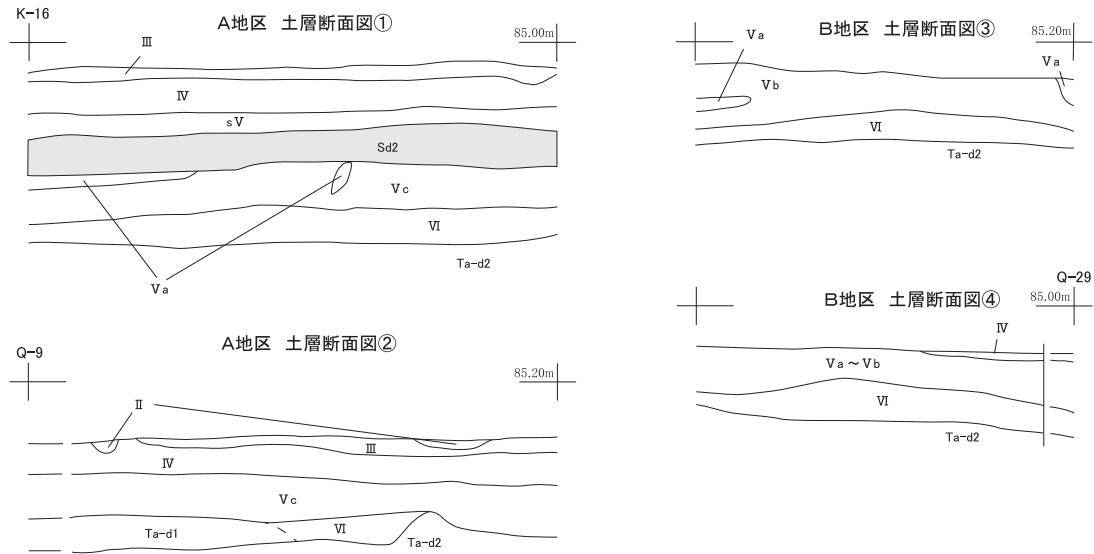


図11 基本土層図

表6 基本土層観察表

層名		平均層厚 (cm)	層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)						備考		
層名	細分層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)	粒径 (mm)		形状		風化の程度	
					色名	マンセル表色系					平均	最大				
現地表土	I a層	35	画然	壤土～砂壤土	黒褐色	10YR3/1	なし	堅	II層軽石	上位: 5 下位: 25	2	6	亜円礫～亜角礫	未風化	森林表土	
灰色砂土	I b層	2~3 最大: 10	画然	砂土	黒褐色	10YR3/2	なし	軟～堅	II層軽石	90以上	2~3	10	亜円礫～亜角礫	未風化	下位のI層と現地表土が混じる砂層	
攪乱・試掘伐根痕等	I c層	—	画然	各層が無作為に混じる層												
産際の二次堆積層	I d層	—	画然	IV層主体												
樽前b 降下軽石層	II 1層	6	画然	砂土	にぶい黄褐色	10YR5/3	なし	軟	無						Ta-b層 細粒 遊離した鉱物: 石英・角閃石等 II 1層・II 2層はくぼみに堆積 II 2層は黒色帯びる	
	II 2層	7	画然	砂土～砂壤土	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	10YR5/3 ～3/3	なし	軟	無							
	II 3層	7~10	画然	砂土	にぶい黄褐色	10YR5/3	なし	軟	Ta-b 軽石	90以上	2~3	12	亜角礫	半風化～風化		
黒色土層	III層	5 最大: 10	画然	埴壤土	黒色	10YR1.7/1 他	中～強	堅	II層軽石	1	2~3		亜角礫	腐朽	II層軽石は部分的にみられる	
樽前c 降下火山灰層	IV層	—	20	画然	砂壤土～壤土	にぶい黄褐色	10YR5/4	なし	堅	無						Ta-c層
黒褐色土層	sV層	—	6~10	漸変 ～判然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	強	すこぶる堅	Ta-d2 スコリア	10	10	12	亜円礫	腐朽	Sd2層の 上位で生成した腐植の弱い層 下位部分はTa-Sd2層と漸移的
樽前d 火山噴出物 二次堆積層	Sd2層	—	6~10	画然	埴壤土	褐色	10YR3/3 ～7.5YR4/4	強	堅	Ta-d2 スコリア	90以上	15		亜円礫 ～円礫	腐朽	Ta-d2層の水成二次堆積層
黒色土層	V a層	15~35	判然 ～漸変	埴壤土	黒色	10YR1.7/1 ～ 7.5YR1.7/1	強	堅	無						層位的にa, b, c層は 無作為で、序列を示さない	
	埴壤土～壤土			Ta-d2 スコリア					5	2	4	亜円礫 ～ 亜角礫	腐朽			
				Ta-d1 スコリア					10	2~3						
漸移層	VI層	—	6~10	明瞭	埴壤土～壤土	暗褐色	10YR3/3	強	堅	Ta-d2 スコリア	15~20	2		亜円礫 ～ 亜角礫	腐朽	
樽前d 火山噴出物層	Ta-dB層	—	6	画然 ～明瞭	埴壤土	褐色	10YR3/3 ～ 7.5YR4/4	強	堅	Ta-d2 スコリア	90	15		亜円礫 ～円礫	腐朽	Ta-d2層とTa-dS層 上位に薄くみられる
	Ta-d1層	—	—	—	砂壤土	黄褐色	10YR5/6	中	すこぶる堅	Ta-d1 スコリア	5	2~3	5	亜円礫	腐朽	全体的な色調: 淡い黄色 遊離鉱物・岩片から構成させる
	Ta-d2層 上位	—	40	画然	砂壤土～壤土	赤褐～ 明赤褐色	2.5YR5/8 ～ 5YR4/8	弱～ なし	堅	Ta-d2 スコリア	50～ 90以上	3~5	10	亜円礫	腐朽	
	Ta-d2層 下位	—	—	—	砂土	赤褐 ～褐色	5YR4/8 ～ 7.5YR5/6	なし	堅	Ta-d2 スコリア	90以上	10	25	亜角礫	腐朽	
樽前d 火山噴出物 二次堆積層	Ta-d2S層	—	80 以上	画然	砂壤土	褐色	7.5YR5/6	強	堅	Ta-d2 スコリア	90以上	3~5	30	亜円礫 ～円礫	腐朽	Ta-d層の水成二次堆積層
水成粘土層	—	—	—	重埴土	浅黄色	5Y7/3	強	軟～堅	無						地下水の底	

・遺物の取り上げ層位: III層・V層・VI層

・sV層の出土遺物から、Sd2層の堆積時期が判断できるが、遺物は出土しなかった。

・軽石の共通する特徴: 発泡により多孔質、風化すると色調は黄色化、肉眼観察で、石英、高温石英、長石?・角閃石等有色鉱物を確認。

・スコリアの共通する特徴: 発泡不良、一部孔質、風化すると色調は黄～橙色化、肉眼観察で、石英、高温石英、長石?・角閃石等有色鉱物を確認。

・くぼみに「B-Tm」と考えられる火山灰あり

・風倒木痕の層: 「F層」としてとりあげた

T a - d 層：樽前 d 火山噴出物層

T a - d 層は四つに分けた。上位の褐色を呈する「T a - d B 層」は、漸移層の一部の可能性もあるが、T a - d スコリアを多量に含んでおり地山と判断し、VI 層と区分した。他は含有する T a - d スコリアの種類から、T a - d 1・2 に分け、試掘調査で深く掘り下げたトレンチでこれら下位の土層を観察し、これらは一次堆積層と判断した。

T a - d 2 S 層：樽前 d 火山噴出物二次堆積層

この T a - d 2 スコリア主体の水成二次堆積層である。判断の主な手がかりは、スコリアの円磨度や、堆積岩等の火山噴出と関連のない岩片を含むこと、粒径がまとまった砂礫等の薄層がみられることである。一次堆積と判断した T a - d 2 層と明確に区分できない地点も多かったが、層位的な序列は T a - d 2 S 層が新しい。

水成粘土層

T ピットの調査等で深く掘り下げた部分で、T a - d 2 層の下位にみられた。浅黄色を呈する粘土層で、豊富な地下水がこの層を底として流れていた。

・土層断面図①：A 地区 K-16 区

s V 層と S d 2 層がみられ、下位の黒色土層は T a - d 1 スコリアを含む V c 層、地山は T a - d 2 層である。T a - d 2 スコリアの二次堆積層の堆積範囲を図12に示した。

・土層断面図②：A 地区 Q-8 区

くぼみに II 層が堆積し、西側へと III 層は薄くなる。V 層の下位では VI 層が部分的にみられ、地山は T a - d 1・2 層である。

・土層断面図③：B 地区 H-25 区

V 層は礫を含まない V a 層が部分的にみられ、T a - d 2 スコリアを含む V b 層が多い。

・土層断面図④：B 地区 Q-29 区

IV 層の T a - c 火山灰層が薄く堆積し、V 層は T a - d スコリアが無作為に混じるため、分層できない。また、VI 層が厚くみられる。

遺構の層位（表7）

遺構の層位の解釈のため、表7に示す土色階調モデルを作成した。黒色土に、VI 層の漸移層と土壤化した橙色のスコリア（T a - d 2（S））を混ぜ合わせ、混ぜ合わせた量ごとに野外土性や色調を観察した。黒色土層が10~20%以上であると色調はすべて黒色を呈し、野外土性は礫主体の層が50%以上あると砂壤土になる。

遺構の覆土を観察する場合、色調では解釈の幅が広がるが、野外土性も考慮するとこれを絞り込むことができ、その傍証として礫の混入量がある。現場では調査担当者間で、この階調モデルを基準とし、遺構の層位の記録を可能な限り統一するようにした。

表7 遺構土色階調モデル

Ⅴ層		100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%
混在割合	B DB	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
色調 (マンセル表色系)	黒色 10YR1.7/1	—	黒色 10YR1.7/1	—	—	黒色 10YR1.7/1	黒色 10YR1.7/1	—	黒色 10YR1.7/1 10YR2/1	黒褐色 10YR2/2	にぶい 黄褐色 10YR4/3	
野外土性	埴壤土	—	壤土	—	—	砂壤土	砂壤土	—	砂壤土	砂壤土	砂壤土	
礫の混入	なし	—	微量	—	—	少量	少量	—	中量	多量 ～ 中量	多量	

B：Ⅴ層：黒色土層（T a - c 下位）
DB：にぶい褐色ローム土

T a - d 2 T a - d 2 S		100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%
混在割合	B R	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
色調 (マンセル表色系)	黒色 10YR1.7/1 7.5YR1.7/1	—	—	—	—	—	黒色 10YR1.7/1 7.5YR1.7/1	—	—	黒褐色 7.5YR2/2	暗褐色 7.5YR3/3 ～3/4	明褐色 7.5YR5/8
野外土性	埴壤土	—	—	—	—	—	砂壤土	—	—	砂壤土	砂壤土	砂壤土
礫の混入	なし	—	—	—	—	—	少量	—	—	中量	多量 ～ 中量	多量

B：Ⅴ層：黒色土層（T a - c 下位）
R：T a - d 2：橙色のスコリアとこれが土壌化したもの

3. 調査の方法

両地区の伐採及び抜根作業後、建設機械による表土除去作業を行った。作業の順序はA地区Ⅲ層、B地区Ⅴ層、A地区Ⅴ層の順である。Ⅱ層あるいはⅣ層下位までを機械で除去し、残りを人力で除去しⅢ・Ⅴ層上面を検出した。B地区の表土除去ではⅢ層の遺構・遺物に特に注意を払った。人力による調査は、表土除去作業の工程に合わせてA地区Ⅲ層を先に完了させ、Ⅴ層の調査はA・B両地区で展開した。A地区Ⅲ層人力調査中にB地区の表土除去作業を、A地区のⅣ層除去作業中にB地区Ⅴ層人力調査を行い、機械作業が完了した後は、A・B両地区のⅤ層を調査した。

調査の早い段階で、土量や遺構・遺物のあり方について把握する目的で、A地区はⅢ層、B地区はⅤ層上面から、地山（T a - d層）まで先行トレンチ調査を行った。南北方向は、A地区16ラインとB地区26ライン、東西方向は両地区Qラインに先行トレンチを設けた（図12）。この調査では、Tピットが多くみつき、概ね調査区全体にみられること、遺物が多く出土する地点等の概要を把握できた。しかし、B地区の南側部分のトレンチ調査は、A地区Ⅲ層の調査を優先したため行えず「大規模な礫集中」を早い段階で見えなかった（図12・表8）。

包含層調査は、遺構や遺物のあり方を確認しながらグリッドごとに進めた。包含層を掘り下げる度に検出面を清掃し、遺構の発見に努めた。また、遺物が集中している場所は、特に遺構確認を慎重に行った。遺構と予想された部分は、トレンチ調査、半截等を行い、土層断面や壁の立ち上がり、床面・底面の形状や遺物出土状況等の確認し、遺構である場合これらを記録化した。自然遺物は微細で脆弱な骨片（焼骨）が出土し、これらを現場で観察し、形状を留める大きなものを取り上げた。地形測量図は調査の進行状況に合わせて、Ⅲ層（A地区のみ）（図13）・Ⅴ層（図34・62）・T a - d層上面（図3）を作成した。

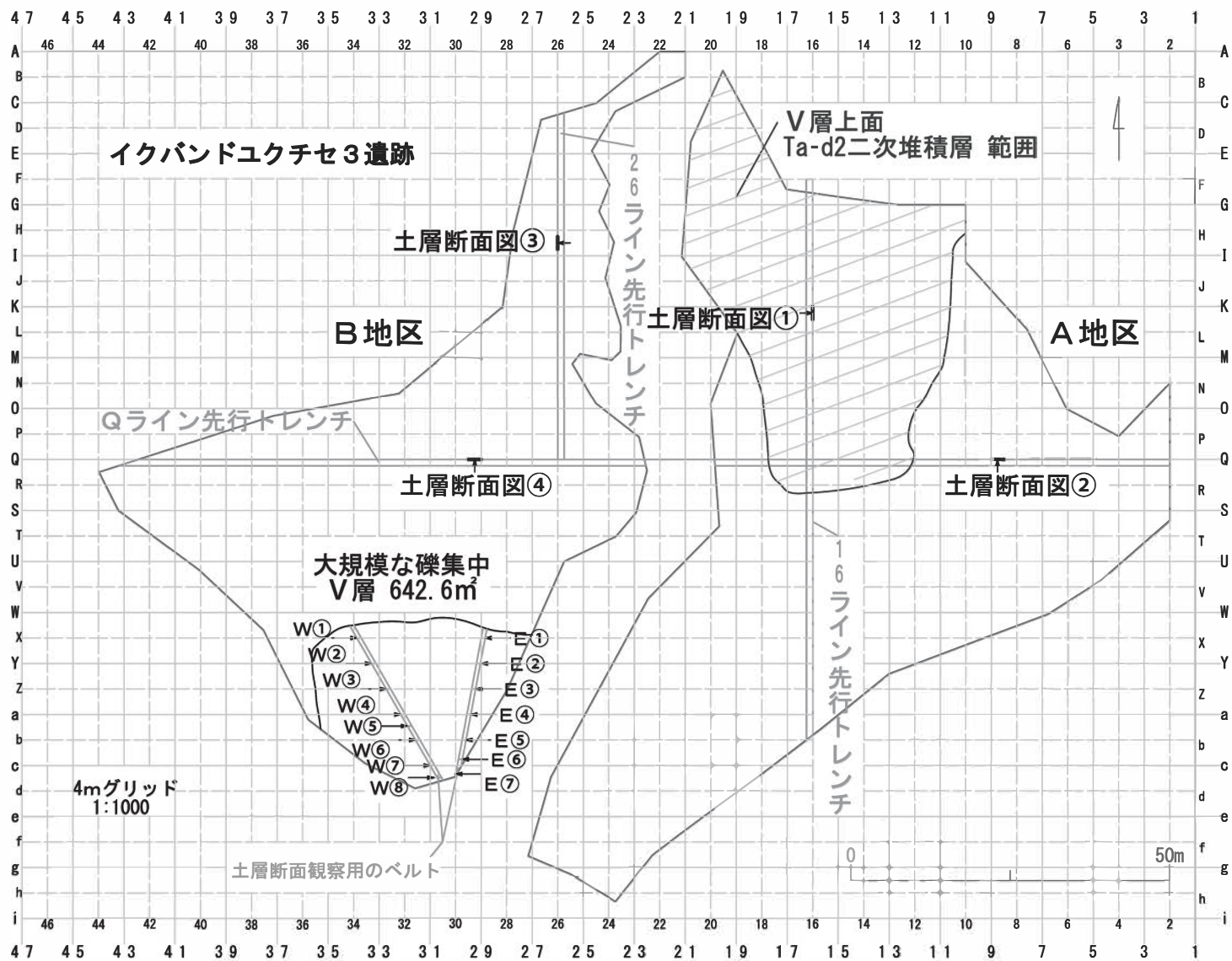


図12 調査区概況図

大規模な礫集中の概要（図12・表8）

大規模な礫集中の範囲は、B地区の調査区南側、V層から大量の礫石器・レキが出土した。調査方法や遺物の整理作業は包含層調査に準じ、整理作業で本遺構に位置するグリッドの出土遺物を、包含層出土のものと分けた。また、二本のベルトを設け、土層断面を観察し、表8にまとめた（調査の詳細はVI章9節参照）。

表8 大規模な礫集中 土層観察記録

観察事項/地点		W：西側ベルト（X-34杭付近～d-30杭付近）							
		W①	W②	W③	W④	W⑤	W⑥	W⑦	W⑧
V層 層厚 (cm)		10	12	12	12	20	20	20	9
礫石器 レキの量	上位	無	少量	少量	中量	中量	中量	少量	多量
	下位			中量	少量	中量	少量	少量	多量
骨片 (焼骨)	混在割合 (%)	無	1	1以下	1以下	1	1	1未満	1未満
	最大長 (mm)		2～3	1～2	1～4	1～4	1～3	1～2	1～3
備考						この地点の周辺に 骨片多い 写真記録 図版1・2	この地点の周辺に 骨片多い		
観察事項/地点		E：東側ベルト（X-29杭付近～d-30杭付近）							
		E①	E②	E③	E④	E⑤	E⑥	E⑦	
V層 層厚 (cm)		15	18	18	15	20	12	10	
礫石器 レキの量	上位	無	多量	中量	少量	多量	多量	多量	
	下位	少量	中量			少量	中量	中量	
骨片 (焼骨)	混在割合 (%)	無	1以下	1以下	1	1以下	1以下	1以下	
	最大長 (mm)		1～2	1～2	1～4	1～2	2～3	1～2	
備考					この地点の周辺に 骨片多い				

4. 整理の方法

(1) 一次整理の方法

土器・石器等の遺物は、現場で「遺跡名（略号：イ3）出土地点（遺構名・グリッド）出土層位 遺物種別（土器・剥片石器・礫石器とレキ・その他の四つに大別）・取り上げ番号（出土位置記録のもの）・取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に取り上げた。現場事務所では袋ごとに「取り上げ台帳（水洗台帳）」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」・「乾燥」した後、「分類」し、出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。手取りの自然遺物も同様に進めた。鉄製品は、取り上げて乾燥させた後、密閉できるタッパーにシリカゲルとともに収納し、湿度の少ない環境で保管した。微細遺物は、現場で土ごとに取り上げ、炉跡の焼土等は水洗浮遊選別法により動植物遺存体を目的に行い、人工遺物の集中は水洗選別法により遺物を回収した。

また、接合作業を行う土器は遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名（イ3）出土地点 出土層位 遺物番号」である。礫石器やレキは多数出土し、使用・加工痕が不明瞭

なもの、破片化したもの、脆弱な岩石で土と化したもの等がある。これらの中には、特定できない礫石器の一部もあると思われる。出土した礫石器・レキの総体を勘案し、これらの一部は現場でカード作成・遺物台帳登録までの記録を作成し、現地で廃棄した。その際にデジタルカメラで撮影したものもある。これらの扱いについて、遺物登録台帳の備考欄に「現場（で）観察」と記載した。

（2）二次整理の方法

・土器

土器の接合作業は、残存状態が「良好」・「剥離」のものを中心に行い、必要に応じ「磨耗」・「小破片」も検討に加えた。遺構出土土器の接合は遺構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。接合した破片は復原可能なものを接着・補強して復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

・石器等

石器等は、残存状態が「完形」・「準完形」のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮して、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

・その他

現場で手取りした自然遺物は炭化物や焼骨があり、これらは年代測定や鑑定を、水洗浮遊選別で得られた微細な動植物遺存体は、実体顕微鏡で観察し同定作業を行った。

鉄製品は保存処理を行った。含浸処理にはパラロイドNAD-10（30%ソルベントナフサ溶液）を用いた。

5. 遺物の分類基準

土器は、表9「土器時期分類基準」・表10「土器部位分類基準」・表11「土器残存状態分類基準」で、石器等は表12「石器等器種分類基準」・表13「石器等残存状態分類基準」・表14「岩石分類体系」・表15「岩石（石材）の略号」で分類した。出土点数の少ない鉄製品や自然遺物は分類基準を設けていない。

（末光）

表9 土器時期分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名
土器	縄文時代	早期	I群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群
				b類	東釧路式系土器群
		前期	II群	a類	縄文尖底土器群
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群
		中期	III群	a類	円筒土器上層式・サイベ沢Ⅶ式 萩ヶ岡1式・萩ヶ岡2式に相当する土器群
				b類	萩ヶ岡3（天神山式）・柏木川式 北筒式に相当する土器群
		後期	IV群	a類	余市式・タブコブ式・入江式に相当する土器群
				b類	ウサクマイC式・手稲式・ホッケマ式に相当する土器群
				c類	堂林式・三ッ谷式・御殿山式に相当する土器群
		晩期	V群	a類	大洞B式・大洞BC式 それに伴う土器群
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群
	続縄文時代		VI群		続縄文式土器
擦文時代		VII群		擦文土器	
時期不明・ 判断不可能なもの		不明		剥離や磨耗、小破片が多い	

表10 土器部位分類基準

部位・名称	内容
口縁部	・口唇部が残存するもの ・口唇部は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
底部	・底面が残存するもの ・底面は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
胴部	・口縁部、底部、不明以外のもの
不明	・部位を特定できないもので、小破片に多い

表11 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	・器の形状を留める個体土器 ・破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り、時期判断等に有効な情報が多い
剥離	・破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離 ・剥落しているもの	・接合可能な破片 ・文様が残る場合、時期判断等に有効な情報を有する ・剥離面は胎土の観察に適する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある（再生土製品）
磨耗	・破片が磨耗しているもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考える上で有意な情報を有する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある（再生土製品）
小破片	・大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に適さず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表12 石器等器種分類基準

分類	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器	石鏃		黒曜石 頁岩 等
	石槍・ナイフ		
	石錐		
	つまみ付きナイフ	「石匙」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	定型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U=utilized R=retouched	
	石核		
	フレイク・チップ		
礫石器	磨製石斧		泥岩 片岩 等
	磨製石斧原石		
	たたき石		安山岩 砂岩 凝灰岩 等
	すり石		
	北海道式石冠		
	石錘		
	砥石		
	台石・石皿		
石製品	名称・通称	玉	タルク岩 等
礫	U・Rレキ	人為的な使用痕・加工痕が認められる礫 U=utilized R=retouched	各種
	レキ	自然礫で、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	

表13 石器等残存状態分類基準

分類	分類	内容
剥片石器・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50～25%程度のもの
	片	残存する部分が25%程度未満のもの
礫石器	完形	大きな割れ口が無いもの 割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のもの
	半形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が50～25%程度のもの
	片	割れ口があり、完形の状態を想定し難く、残存する部分が25%程度未満のもの
礫	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

表14 岩石分類体系

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 (多孔質)	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
		浮岩 (軽石)	岩滓 (スコリア)		—
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	黒曜岩 (石)	—		—
	斑状組織 微晶 石基	流紋岩	安山岩	玄武岩	—
半深成岩	斑状組織 細晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	—
深成岩	等粒状組織 完結晶	花崗岩	閃緑岩	斑禰岩	橄欖岩 蛇紋岩
	二酸化ケイ素 (ケイ酸 SiO ₂)	66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
	有色造岩鉱物 (色指数)	10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
	主体的な有色造岩鉱物	黒雲母	輝石 角閃石 橄欖石		橄欖石 蛇紋石
	主体的な無色造岩鉱物	石英 斜長石	斜長石		—
堆積岩					
火山砕屑岩		: 火山噴出物から構成される			
	火山角礫岩	; 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む			
	凝灰角礫岩	; 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む			
	火山礫凝灰岩	; 2~32mmの火山噴出物 (火山礫) から主体的に構成される			
	凝灰岩 (溶結凝灰岩)	; 2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される			
砕屑岩		: 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され「層理」がみられる			
	礫岩	; 粒度区分上の礫を50%以上含む			
	角礫岩	; 含有する礫が角ばっている (亜角~角礫状) もの			
	砂岩	; 粒度区分上の砂を50%以上含む ・砂の粒度により「粗粒」・「細粒」に、硬さにより「硬質」・「軟質」等に分けられる			
	泥岩	; 粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される ・粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる			
	頁岩	; 泥岩で固結が強く、貝殻状の割れ口を呈するもの			
	珪質頁岩	; 頁岩で透明な石英質 (ケイ酸 SiO ₂) 部分を含むもの			
	粘板岩・千枚岩	; 堆積岩と変成岩の中間的なもの			
有機岩					
	チャート	; 潜晶質石英 (SiO ₂)		・有機質 (生物遺体) ・無機質	
変成岩		: 変成鉱物から構成される 結晶質			
接触 (熱) 変成岩		: 熱による変成作用を受けたもの			
	ホルンフェルス	; 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの			
広域変成岩		: 熱・圧力による変成作用を受けたもの			
	片岩	; 再結晶化により「片理」がみられるもの			
	片麻岩	; 再結晶化が進行し、「班状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの			
石製品・玉類の石材					
超塩基性岩					
	蛇紋岩	; 蛇紋石・橄欖石を主成分とするもの 橄欖岩等が変成したものの			
蛇紋岩からの変成岩					
	ロジン岩	; 蛇紋岩化作用により、生じる変成岩			
	緑泥石岩 (緑泥片岩 緑色片岩)	; 輝石・角閃石・黒雲母等の二次変質により生じる鉱物 (緑泥石) を主成分とする岩石			
	タルク岩 (滑石片岩)	; 橄欖岩・輝石・角閃石等の二次変質により生じる鉱物 (滑石) を主成分とする岩石			
鉱物等					

* 石英質（ケイ酸 SiO₂）の岩石・鉱物の便宜的な分類体系

堆積岩	チャート	
	フリント	; チャートのうち、明瞭な貝殻状断口を呈するもの 火打ち石
	珩質頁岩	
	珩藻岩	; 珩質の岩石が熱・圧力による変成作用を受け、極微粒の石英集合体となったもの
変成岩	珩岩（珩石）	; 珩藻類のケイ酸質遺骸が堆積し生じたもの
鉱物	水晶	; 無色透明の石英 結晶質
	碧玉	; 隠微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑～緑暗色
	玉随	; 隠微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐～灰色
	めのう	; 隠微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉随の一種

表15 岩石（石材）の略号

大項目	小項目	岩石名	英語名	略号	
火成岩	火山噴出物	軽石（浮岩）	Pumice	Pum	
		岩滓（スコリア）	Scoria	Sco	
	火山岩	溶岩	溶岩	Lava	Lav
		黒曜石（黒曜岩）	Obsidian	Obs	
		流紋岩	Rhyolite	Rhy	
		安山岩	Andesite	And	
		玄武岩	Basalt	Bas	
		深成岩	花崗岩	Granite	Gra
	堆積岩	火山砕屑岩	火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	Ltu
			凝灰岩	Tuff	Tuf
砕屑岩		礫岩	Conglomerate	Con	
		砂岩	Sandstone	San	
		泥岩（緑色泥岩）	Mudstone (Green Mudstone)	Mud (Gr.Mud)	
		頁岩	Shale	Sha	
		チャート	Chert	Che	
粘板岩	Slate	Sla			
変成岩		片岩	Schist	Sch	
		片麻岩	Gneiss	Gns	
		ホルンフェルス	Hornfels	Hor	
超塩基性岩		蛇紋岩	Serpentine	Ser	
		橄欖岩	Peridotite	Per	
上記以外		和名（漢字）で表記			

IV章 A地区 III層の遺構と出土遺物

1. 概要 (図13)

調査した遺構は、焼土13か所、礫集中18か所、柱穴・杭穴42か所、土坑1か所である。これらを現場で個別に調査しながら、他の遺構との位置関係から建物跡を想定し、7軒が認められた。時期は擦文文化期後期～中世アイヌ文化期である。多くの遺構はIII層の中位～下位で確認した。

これらは、いくつかのまとまりでみられる。北側にはAUS-1・4、AUF-5とAUP-1がややまとまってみられ、AUS-13は調査区の中央付近で単独で位置し、調査区の南東側では、AUPS-7とAUF-12・13、AUS-14～18、柱穴・杭穴が数か所ある。最も集中しているのは、X～dライン・13～23ラインの間である。この範囲の東側にAUPS-1・2・3があり、前二軒は切り合う。調査区中央の沢に面する西側部分にはAUPS-5があり、鍬先が出土した。南側部分ではAUPS-4・6が認められ、鉄鍋が出土した。

特に焼土や礫集中がみられた場所では建物跡を想定し、周囲での柱穴・杭穴の調査を徹底した。確認できた遺構の位置から予測した地点で精査や半截を行った。III層中で柱穴・杭穴の平面は確認できず、すべてIV層で確認した。また下位のV層の調査でも発見に努めた。

(末光)

2. 建物跡 (図14～20 表16・17 カラー図版3・4 図版3～9)

AUPS-1 (図14 図版3・4)

位置 X・Y-16～18区 規模 (4.97) × 4.44m

柱数 3か所 (ASP-31・36・39)

付属遺構

焼土2か所 (AUF-1・2) 礫集中3か所 (AUS-2A・2B・2C)

AUF-1

位置 X-17区 規模 0.95×0.54 / 0.11m 平面形態 楕円形

AUF-2

位置 X-17区 規模 0.59×0.32 / 0.07m 平面形態 楕円形

AUS-2A

位置 Y-17区 規模 0.82×0.62m

AUS-2B

位置 Y-17区 規模 1.70×0.81m

AUS-2C

位置 Y-17・18区 規模 0.66×0.41m

確認・調査 包含層調査中、III層下位で礫が多く出土し、さらに焼土2か所も確認した。これらについて個別の遺構名 (AUS-2 AUF-1・2) を付して調査し、その後、周囲で柱穴・杭穴を調査したところ、IV層上面で3か所 (ASP-31・36・39) 確認したので、平地住居跡と判断した。

AUF-1・2の長軸は東西方向である。ASP-36は住居跡の角の柱穴と考えられ、断面は斜めである。ASP-31・39ともに浅い。

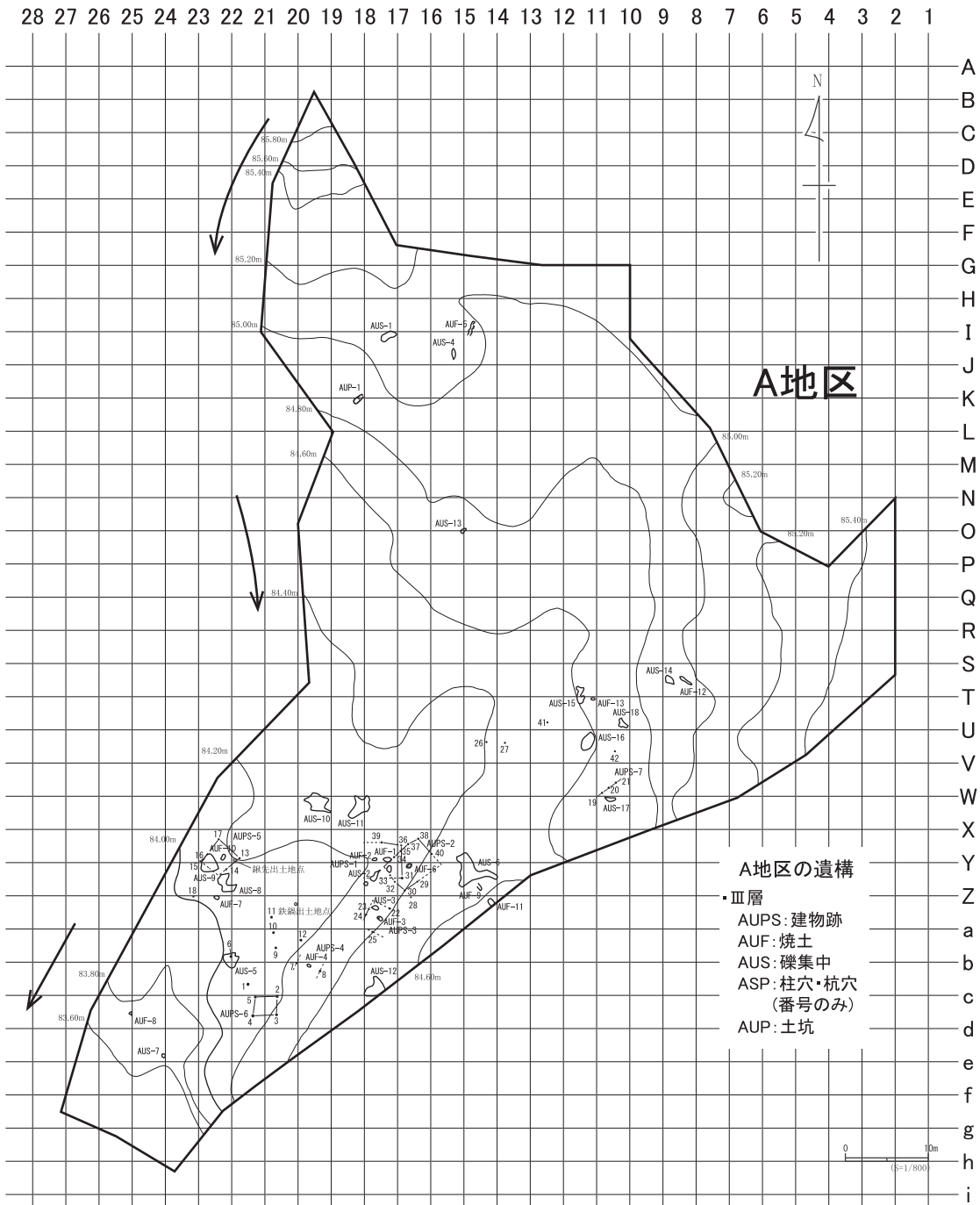
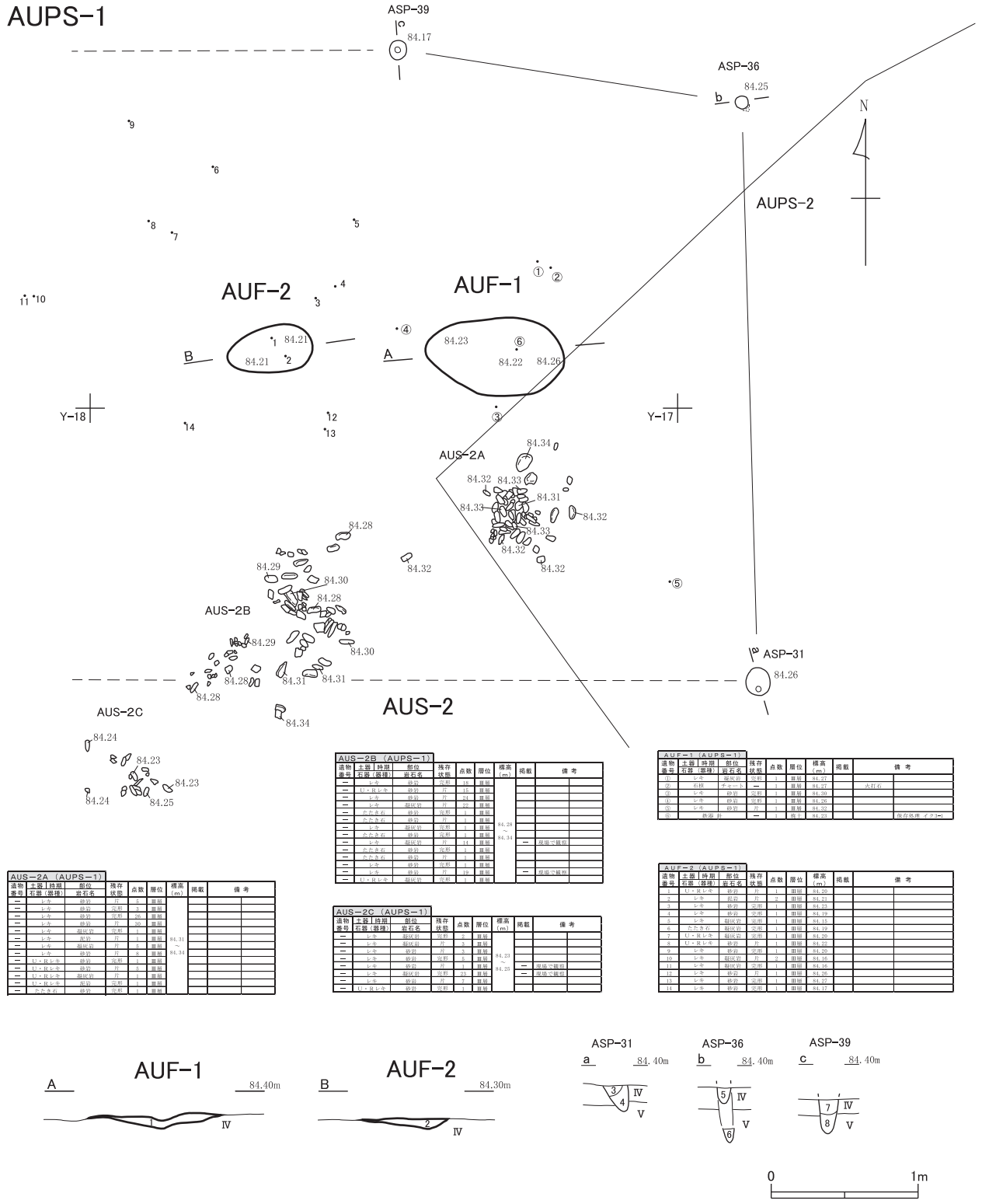


図13 A地区遺構位置図・Ⅲ層上面地形測量図



遺物番号	土器(器種)	器位	器名	保存状態	点数	層位	標高(m)	楕長	備考
1	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
2	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
3	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
4	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
5	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
6	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
7	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
8	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
9	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
10	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
11	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
12	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
13	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		
14	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.29		

遺物番号	土器(器種)	器位	器名	保存状態	点数	層位	標高(m)	楕長	備考
1	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
2	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
3	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
4	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
5	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
6	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
7	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
8	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
9	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
10	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
11	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
12	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
13	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		
14	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.28		

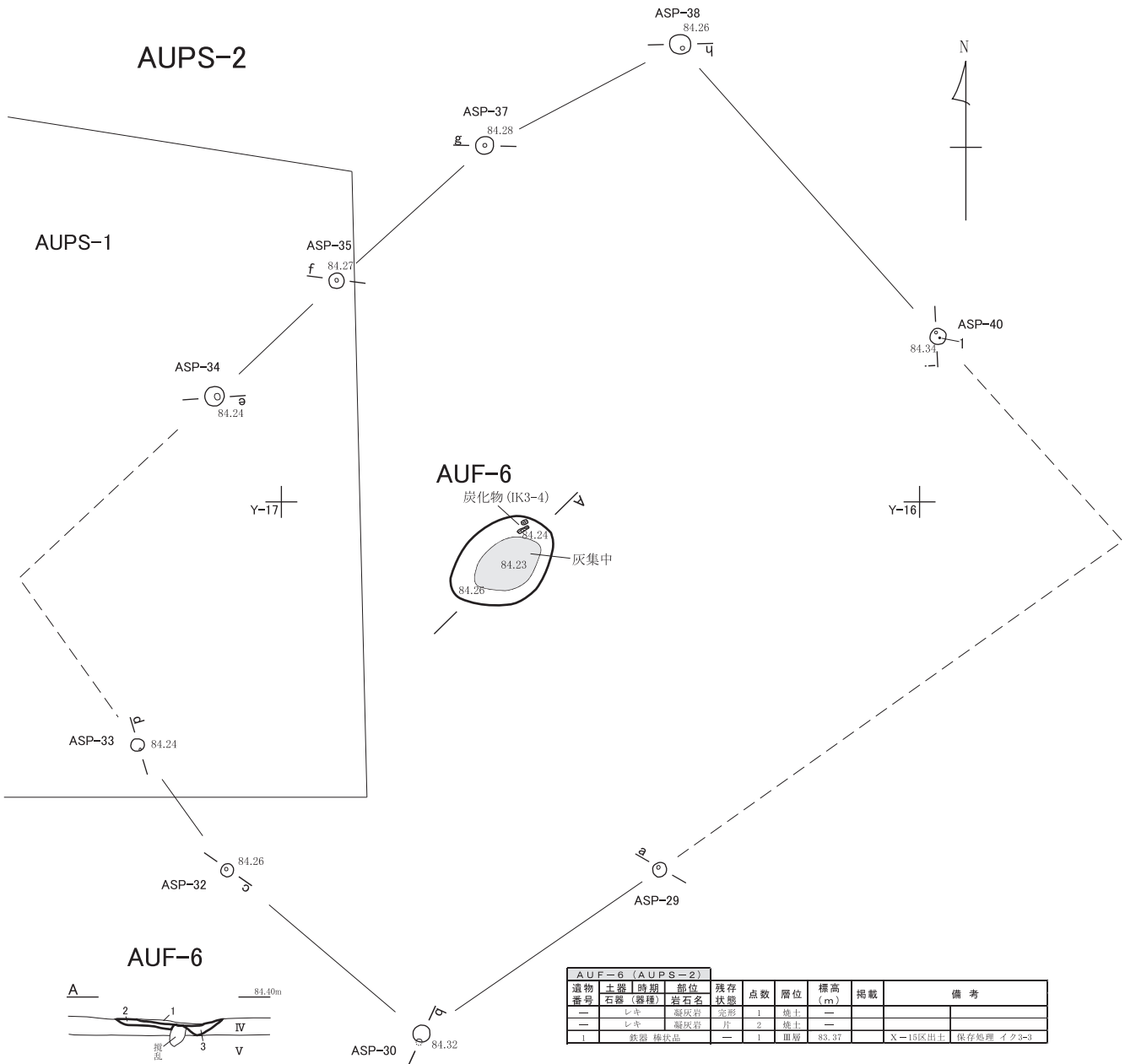
遺物番号	土器(器種)	器位	器名	保存状態	点数	層位	標高(m)	楕長	備考
1	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
2	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
3	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
4	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
5	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
6	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
7	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
8	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
9	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
10	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
11	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
12	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
13	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		
14	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.24		

遺物番号	土器(器種)	器位	器名	保存状態	点数	層位	標高(m)	楕長	備考
1	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
2	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
3	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
4	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
5	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
6	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
7	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
8	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
9	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
10	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
11	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
12	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
13	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		
14	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.26		

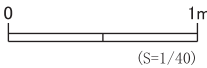
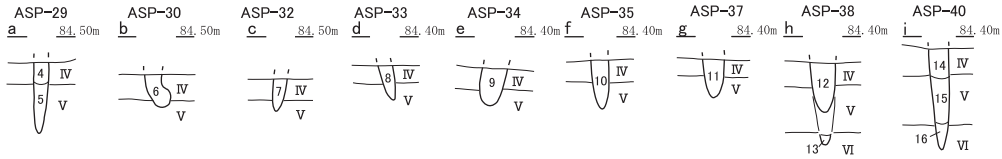
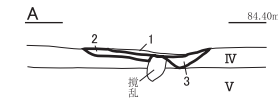
遺物番号	土器(器種)	器位	器名	保存状態	点数	層位	標高(m)	楕長	備考
1	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
2	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
3	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
4	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
5	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
6	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
7	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
8	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
9	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
10	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
11	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
12	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
13	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		
14	土器	破片	土器	破片	1	IV層	84.25		

遺構名	建物跡	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考		
			主体層・混存層	細分層		野外土性	色調		粘性	堅密度	種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
							色名	マンセル色系統				平均	最大				
AUF-1		1	R層	雑土	明瞭	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱~中	堅					炭化物:微量		
AUF-2		2	R層	雑土	明瞭	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱~中	堅					炭化物:微量		
ASP-31	AUPS-1	3	黒色土	IV層	明瞭	壤土	黒色	10YR1.7/1	弱~中	堅	Ta→軽石	3	2	垂角礫	半風化~風化		
		4	黒色土	IV層	明瞭	雑土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
		5	黒色土	IV層	明瞭	雑土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
		6	黒色土	IV層	明瞭	雑土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-36		7	黒色土	IV層	明瞭	雑土	黒色	10YR2/1	中	堅							
ASP-39		8	黒色土	IV層	明瞭	雑土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							

図14 AUPS-1



AUF-6 (AUPS-2)									
遺物 番号	土器 右銘 (器種)	時期	部位	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ	凝灰岩	空筒	1	焼土	—			
—	レキ	凝灰岩	片	2	焼土	—			
1	鉄器	棒状品	—	1	卑層	83.37		X-15区出土	保存処理 イク3-3



遺構名	建物跡	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考		
			主体層・深在層			色調		種類	面積 割合 (%)	粒径(mm) 平均 最大	形状	風化の 程度					
			層名	細分層		野土性	マンセル 表色系						粘着性			堅密度	
AUF-6	AUPS-2	1	灰層	シルト質 壤土	画然	黒褐色	10YR2/3	中	堅						炭化物・骨片 : 微量 混じる		
		2	R層 焼土	壤土~ 砂壤土	明瞭	明褐色	7.5YR5/6	なし~弱	堅						炭化物・骨片 : 微量 混じる		
		3	覆土	壤土~ 砂壤土	画然	暗褐色	10YR3/4	なし~弱	堅						骨片: 微量 混じる		
ASP-29	AUPS-2	4	黒色土	IV層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-30		5	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-32		6	黒色土	IV層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-33		7	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-34		8	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-35		9	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-37		10	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
ASP-38		11	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
ASP-40		12	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
		13	黒色土	IV層	画然	堆積土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
		14	黒色土	IV層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
		15	黒色土	IV層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-d1スコリア	1	2~3	亜円礫	磁石		
			16	黒色土	—	画然	堆積土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d1スコリア	1	2	亜円礫	磁石	

図15 AUPS-2

遺物出土状況 東側のAUF-1からは「針」が、西側のAUF-2の周囲ではレキが散在的に出土した。礫集中は大きく三つのまとまりがみられ（A～C）、AUF-1近くのAUS-2Aには、特に密集する部分が長方形でみられる。

重複 AUPS-2と平面が重なるが、新旧関係は不明である。

時期 III層下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。

AUPS-2（図15 図版4）

位置 X・Y-15～17区 **規模** 5.70×4.26m

柱数 9か所（ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40）

付属遺構 焼土1か所（AUF-6）

AUF-6

位置 Y-16区 **規模** 0.71×0.50 / 0.11m **平面形態** 楕円形

確認・調査 包含層調査中、III層下位で灰と焼土（AUF-6）がみつかった。これを調査した後、周囲で柱穴・杭穴をさがしたところ、9か所（ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40）確認でき、平地住居跡と判断した。ASP-34・35・37は直線上に位置し、ASP-30・38は住居跡の角と考えられる。AUF-6が住居跡の中心との前提で推定される住居跡の平面形状と、ASP-29・32・33・40の位置は合致する。

遺物出土状況 住居跡の北東部分のASP-40付近から棒状の鉄製品が出土した。

重複 AUPS-1と平面が重なるが、新旧関係は不明である。

時期 III層下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。また、AUF-6出土の炭化物（IK3-4）の放射性炭素年代測定結果は最古で14世紀末葉で、最新では15世紀半ばである（VII章2節・付篇参照）。

AUPS-3（図16 図版5）

位置 Z-17・18、a-17区 **規模** (3.23) × 3.45m

柱数 4か所（ASP-22・23・24・25）

付属遺構 焼土1か所（AUF-3） 礫集中1か所（AUS-3）

AUF-3

位置 Z-17区 **規模** 0.70×0.44 / 0.10m **平面形態** 楕円形

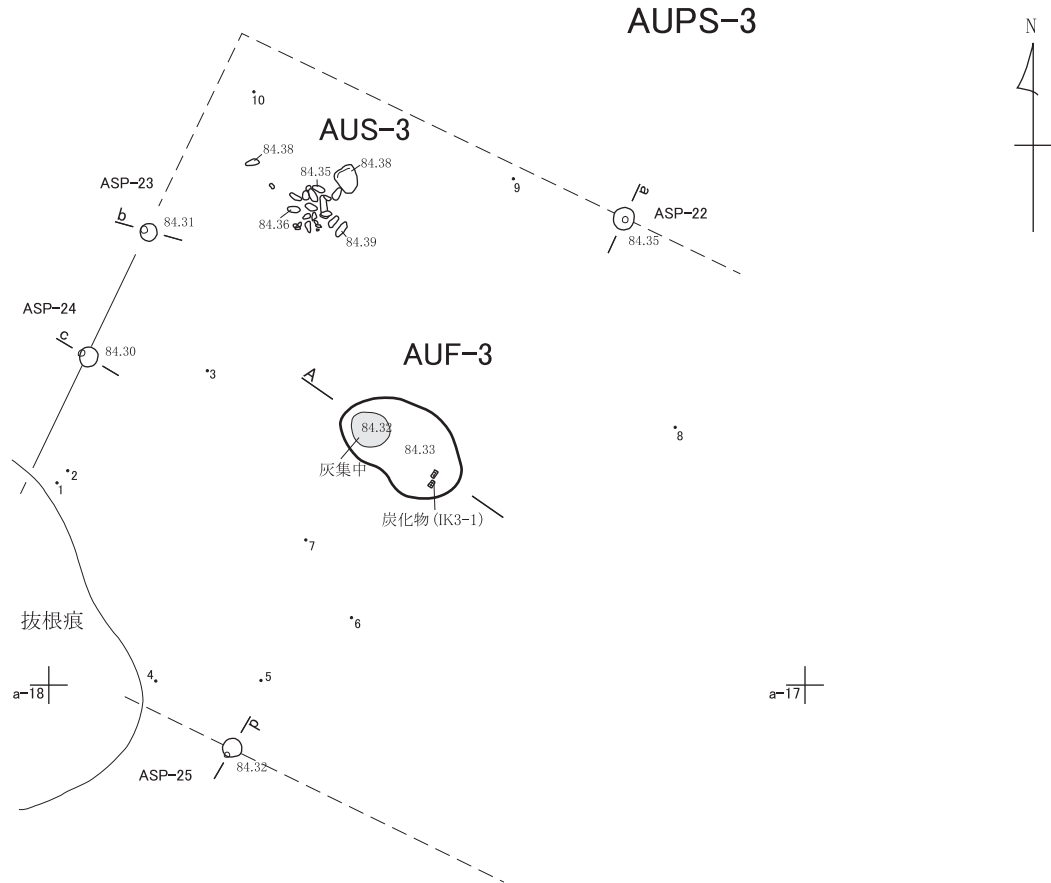
AUS-3

位置 Z-17区 **規模** 0.60×0.39m

確認・調査 包含層調査中、III層下位で焼土（AUF-3）と礫集中（AUS-3）がみられた。これらの調査後、周囲で柱穴・杭穴を調査したところ、4か所（ASP-22・23・24・25）を確認でき、平地住居跡と判断した。AUF-3は灰集中を伴い、AUS-3の位置は住居跡の北西側の角と推測される。ASP-23・24を結ぶ線は炉跡AUF-3の短軸方向と平行で、この焼土からASP-22と25までの距離はほぼ同じである。

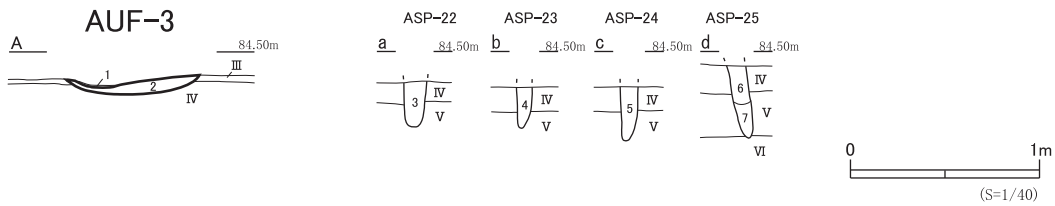
遺物出土状況 焼土と礫集中の遺物は、すべて堆積岩のレキでやや散在的である。

時期 III層の下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。また、AUF-3出土の炭化物（IK3-1）の放射性炭素年代測定結果は14世紀末葉～15世紀半ばである（VII章2節・付篇参照）。



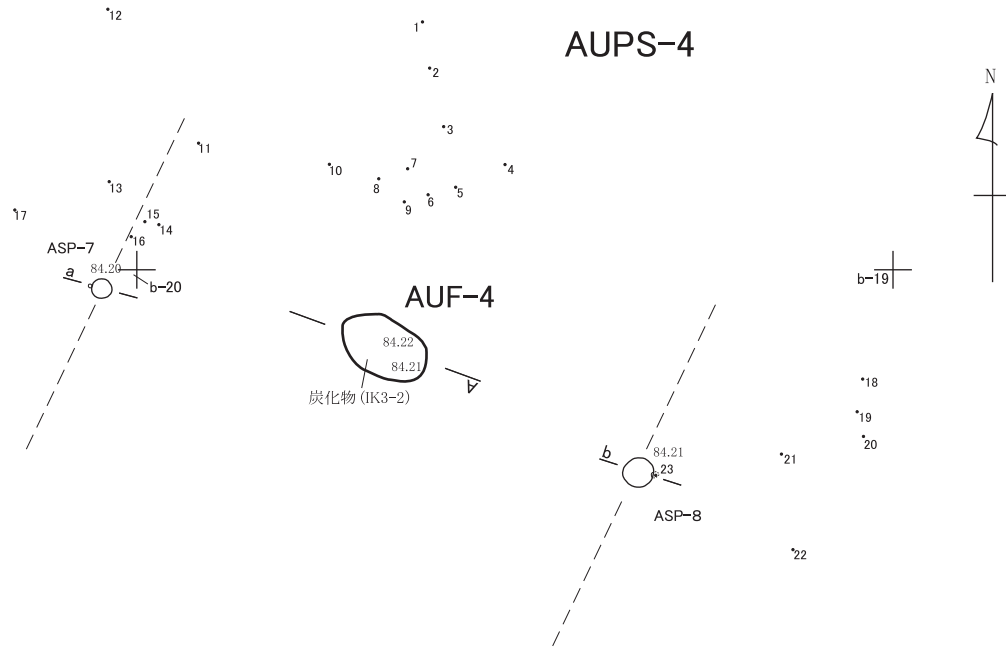
AUS-3 (AUPS-3)									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	完形	8	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	11	Ⅲ層			
—	U・Rレキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層	84.35		
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	U・R砂岩		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層	84.39		
—	レキ		片岩	完形	1	Ⅲ層			
—	レキ		火山礫凝灰岩	完形	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	6	Ⅲ層		—	現場で観察
—	レキ		砂岩	片	10	Ⅲ層		—	現場で観察
—	すり石		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層			

AUF-3 (AUPS-3)									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	レキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層	84.34		
2	レキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層	84.35		
3	レキ		凝灰岩	片	1	Ⅲ層	84.34		
4	レキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層	84.37		
5	U・Rレキ		砂岩	片	1	Ⅲ層	84.35		
6	レキ		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層	84.36		
7	レキ		砂岩	片	1	Ⅲ層	84.32		
8	レキ		チャート	完形	1	Ⅲ層	84.32		被熱
9	レキ		凝灰岩	片	2	Ⅲ層	84.29		
10	U・Rレキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層	84.30		
—	U・Rレキ		凝灰岩	片	1	焼土	—		

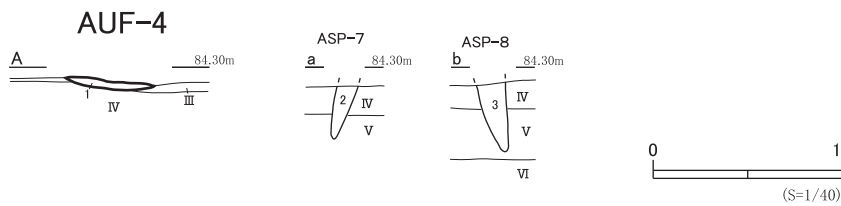


遺構名	建物跡	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考
			主体層・存在層			野外 土性	色調			種類	面積 割合 (%)				
			層名	細分層			色名	マンセル 表色系	粘着性		堅密度	平均	最大		
AUF-3	AUPS-3	1	灰層	Ⅲ層	明瞭	堆積土 (焼土)	灰褐色	7.5YR4/2	中~強	堅					骨片?; 微量
		2	R層 焼土	Ⅳ層	明瞭	シルト質 堆積土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅					炭化物; 微量
ASP-22	AUPS-3	3	黒色土	Ⅳ層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅					—
ASP-23		4	黒色土	Ⅳ層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅					—
ASP-24		5	黒色土	Ⅳ層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅					—
ASP-25		6	黒色土	Ⅳ層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	中	堅					—
		7	黒色土	Ⅳ層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-41スコリア	1	2	非同様	脆弱

図16 AUPS-3

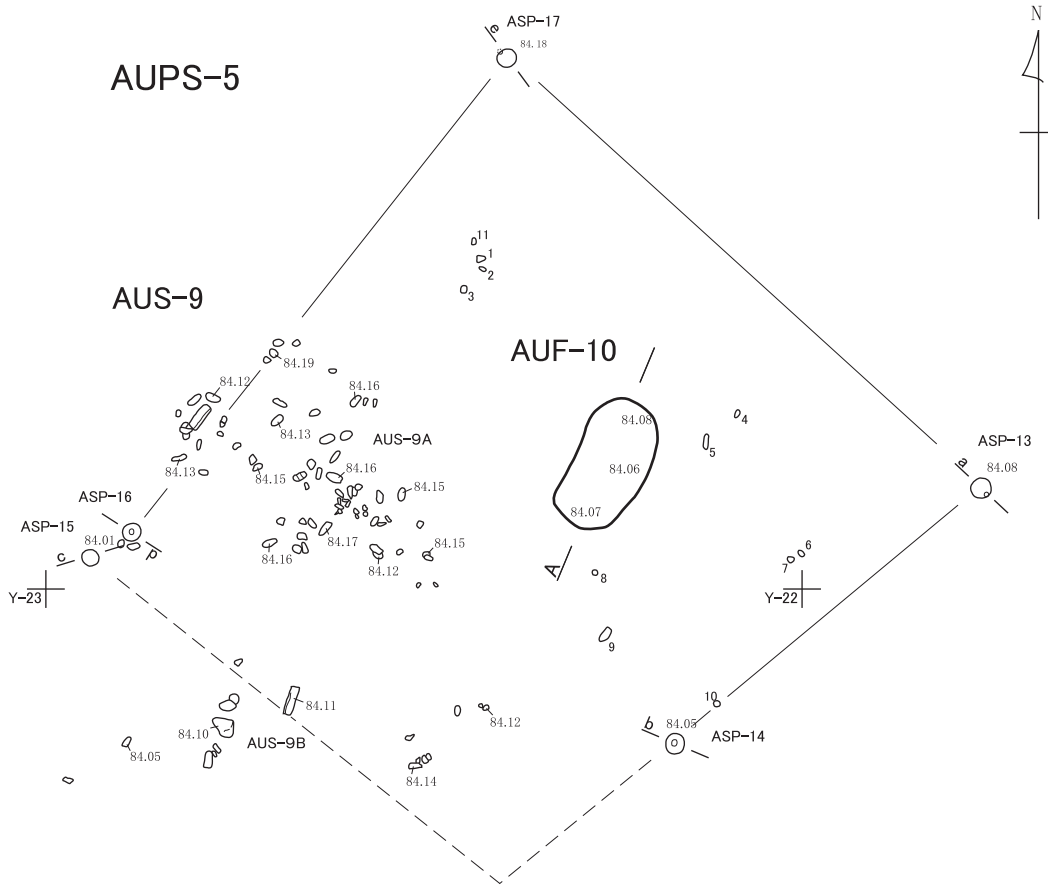


AUF-4 (AUPS-4)									
遺物番号	土器・石器 (種類)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	たたき石	凝灰岩	完形	2	III層	84.15			
2	レキ	砂岩	完形	1	III層	84.19			
3	レキ	砂岩	片	1	III層	84.25	—	現場で観察	
4	U・Rレキ	砂岩	完形	1	III層	84.27			
5	U・Rレキ	砂岩	完形	1	III層	84.27			
6	U・Rレキ	砂岩	完形	1	III層	84.26			
7	レキ	砂岩	片	11	III層	84.26	—	現場で観察	
8	レキ	凝灰岩	片	3	III層	84.26			
9				5	III層	欠番			
10	レキ	砂岩	片	3	III層	84.18			
11	レキ	砂岩	完形	1	III層	84.18			
12	レキ	砂岩	完形	1	III層	84.17			被熱
13	たたき石	砂岩	完形	1	III層	84.20			
14	U・Rレキ	砂岩	片	1	III層	84.22			
15	レキ	砂岩	片	2	III層	85.25			
16	レキ	砂岩	完形	1	III層	84.23			被熱
17	U・Rレキ	砂岩	完形	3	III層	84.19			被熱
18	レキ	緑色泥岩	完形	1	III層	84.33			
19	U・Rレキ	砂岩	完形	2	III層	85.31			
20	レキ	凝灰岩	完形	1	III層	84.33			
21	レキ	泥岩	片	2	III層	84.31			
22	U・Rレキ	砂岩	完形	1	III層	84.27			
23	レキ	凝灰岩	片	1	III層	84.21			



遺構名	建物跡	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)			混入物	備考		
			主体層・存在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)			風化の程度	
			層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均				最大
AUF-4	AUPS-4	1	R層	焼土	明瞭	壤土～シルト質壤土	褐色	7.5YR4/6	弱～中	堅	無	無	炭化物：微量			
ASP-7		2	黒色土	IV層	自然	壤土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無	無	—			
ASP-8		3	黒色土	IV層	自然	壤土～埴土	黒色	10YR2/1	中	堅	無	無	—			

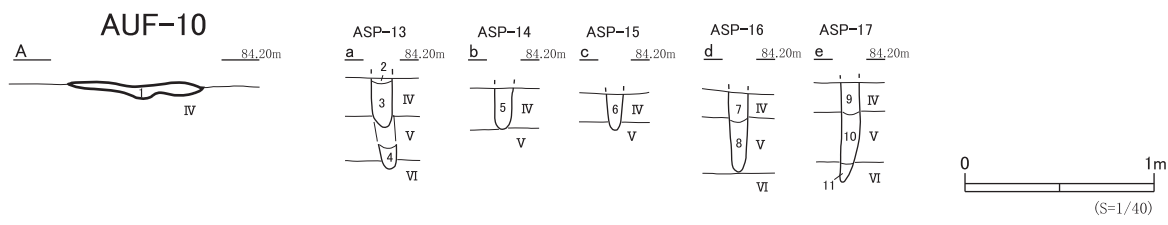
図17 AUPS-4



遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ	砂岩	片	37	Ⅲ層	84.12 ~ 84.19			
—	レキ	砂岩	片	37	Ⅲ層				
—	レキ	砂岩	片	18	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	2	Ⅲ層				
—	レキ	砂岩	片	4	Ⅲ層				
—	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	3	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	1	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	2	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	13	Ⅲ層				
—	レキ	凝灰岩	片	13	Ⅲ層				

遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
1	レキ	凝灰岩	片	1	Ⅲ層	84.10			
2	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.09			
3	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.10			
4	U・Rレキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.11			
5	レキ	凝灰岩	片	1	Ⅲ層	84.13			
6	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.10			
7	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.13			
8	レキ	凝灰岩	片	3	Ⅲ層	84.06			
9	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.11			
10	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.06			
11	レキ	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.05			

遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	右石	砂岩	片	1	Ⅲ層	84.05 ~ 84.14			
—	たたき石	砂岩	片	9	Ⅲ層				
—	たたき石	砂岩	片	1	Ⅲ層				
—	レキ	砂岩	片	2	Ⅲ層				
—	U・Rレキ	砂岩	片	3	Ⅲ層				
—	レキ	砂岩	片	3	Ⅲ層				
—	レキ	チャート	片	1	Ⅲ層				



遺構名	建物跡	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
			去土層・泥存層	層名		野外土性	色調		粘着性	堅密度	面積割合(%)		形状			風化の程度
							層名	細分層			色名	マンセル表色				
AUF-10	AUPS-5	1	R層	黄土	明瞭	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	無			炭化物 少量		
ASP-13		2	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無			—		
		3	黒色土	IV層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	無			—		
		4	黒色土	IV・VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	1	3	垂円礫	腐朽	—
ASP-14		5	黒色土	IV層	画然	埴土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	無			—		
ASP-15		6	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	無			—		
		7	黒色土	IV層	明瞭	埴土~埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	無			—		
ASP-16		8	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	無			—		
		9	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	無			—		
ASP-17		10	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-d1スコリア	1	2	垂円礫	腐朽	—
		11	黒色土	IV・VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	垂円礫	腐朽	—

図18 AUPS-5

A U P S—4 (図17 図版6)

位置 a・b-19・20区 **規模** 2.96×(2.06) m

柱数 2か所 (A S P—7・8)

付属遺構 焼土1か所 (A U F—4)

A U F—4

位置 b-19区 **規模** 0.49×0.31 / 0.04m **平面形態** 楕円形

確認・調査 包含層調査中、III層下位で焼土 (A U F—4) がみつかった。周囲にはレキが散在して出土した。これを調査した後、周辺を掘り進めながら、柱穴・杭穴をさがしたところ、2か所を確認し、平地住居跡と判断した。A U F—4は楕円形でIV層が被熱し、これの長軸方向の延長上にA S P—7・8を確認した。ともに先端部が住居跡の外側に傾く断面形態を呈する。

遺物出土状況 焼土のものとした出土遺物は堆積岩のレキが多く、被熱するものは少ない。

時期 III層の下位にあり、層位的には中世アイヌ文化期と判断される。また、A U F—4出土の炭化物 (I K 3—2) の放射性炭素年代測定結果は15世紀半ば～15世紀後半または16世紀前半である (VII章2節・付篇参照)。

A U P S—5 (図18 図版7)

位置 X・Y-21・22、Y-23区 **規模** 3.44×3.44m

柱数 5か所 (A S P—13・14・15・16・17)

付属遺構 焼土1か所 (A U F—10) 礫集中2か所 (A U S—9 A・9 B)

A U F—10

位置 X-22区 **規模** 0.72×0.40 / 0.07m **平面形態** 楕円形

A U S—9 A

位置 X-22区 **規模** 1.66×0.99m

A U S—9 B

位置 Y-22区 **規模** 2.28×0.63m

確認・調査 包含層調査中、III層下位で礫集中 (A U S—9) がみられ、その周囲を少し掘り下げたら、焼土 (A U F—10) もみつかった。これを調査後、柱穴・杭穴を調査し5か所 (A S P—13・14・15・16・17) を確認したので、平地住居跡と認定した。A U F—10はIV層が被熱し、A S P—13・16・17は比較的深く、住居跡の角の柱穴と推定される。

遺物出土状況 焼土A U F—10とA U S—9の出土遺物はすべてレキで、散在的で集中部分はみられない。また、鉄製の鋏先の出土位置 (図29) も本遺構と重なり、伴う可能性が考えられる。

時期 III層の下位で確認したので、中世アイヌ文化期と判断される。

A U P S—6 (図19 図版8)

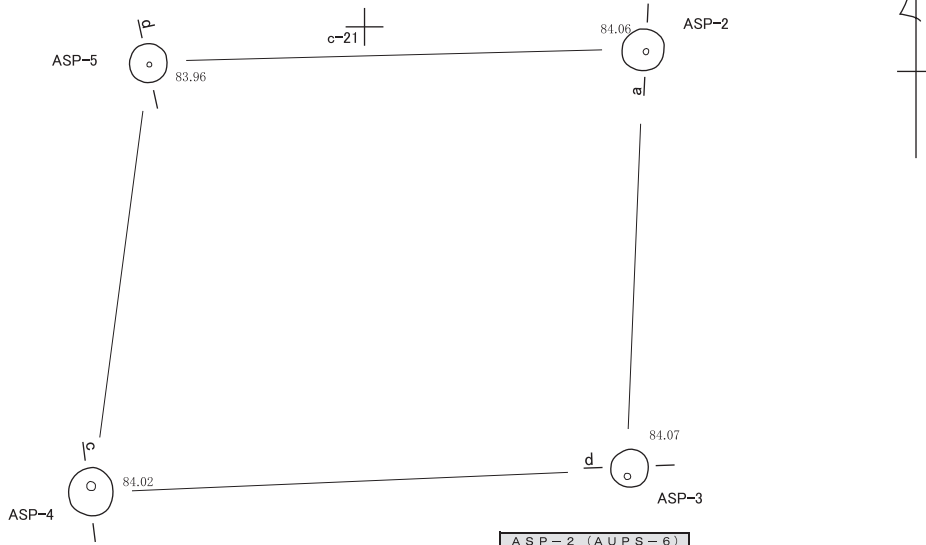
位置 c-20・21区 **規模** 2.96×2.11m

柱数 4か所 (A S P—2・3・4・5)

付属遺構 なし

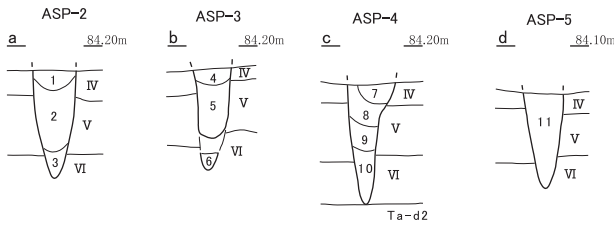
確認・調査 包含層調査完了後、IV層上面で円形を呈する黒色土が4か所みられた。半截したところ、土層断面から、すべて柱穴であると判断した。他の建物跡A U P Sと比べて規模が大きく、倉庫等の建物跡と推定される。

AUPS-6



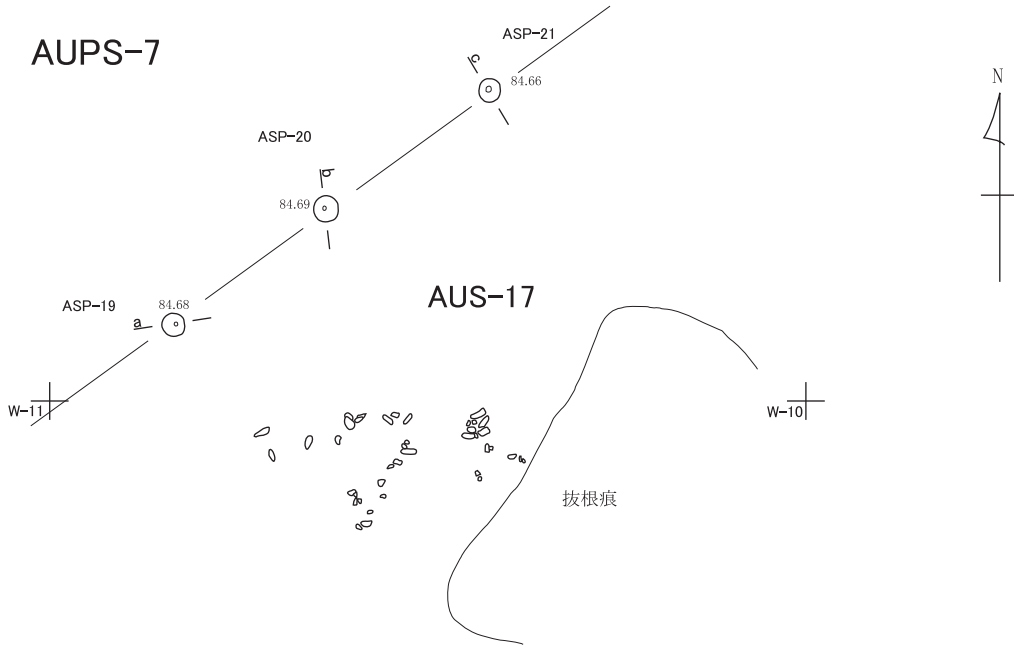
ASP-2 (AUPS-6)							
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	備考
—	石器		黒曜石	片	1	覆土	

ASP-4 (AUPS-6)							
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	備考
—	レテ		凝灰岩	完形	1	覆土	現場で観察

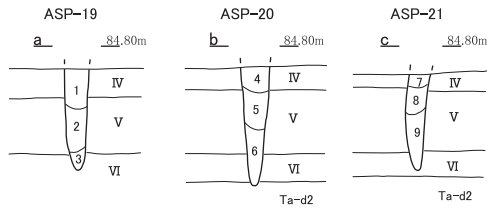


遺構名	建物跡	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考		
			主体層	存在層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の程度
							マンセル	表色系				面積割合(%)	平均				
ASP-2	AUPS-6	1	黒色土	IV層	明瞭	埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	無	—	—		
		2	黒色土	IV層	明瞭	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	無	無	—	—			
		3	黒色土	IV・VI層	自然	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	3	亜円礫	腐朽	—	
		4	黒色土	IV層	明瞭	埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	—	—			
ASP-3	AUPS-6	5	黒色土	IV層	明瞭	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	無	無	—	—			
		6	黒色土	IV・VI層	自然	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	3	亜円礫	腐朽	—	
		7	黒色土	IV層	明瞭	埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	—	—			
ASP-4	AUPS-6	8	黒色土	IV層	明瞭	シルト質埴土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	無	無	—	—			
		9	黒色土	IV層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟	無	無	—	—			
ASP-5	AUPS-6	10	黒色土	IV・VI層	自然	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	—	
		11	黒色土	IV層	自然	埴土	黒色	1YR2/1	弱~中	堅	無	無	—	—			

図19 AUPS-6



AUS-17(AUPS-7)									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ	砂岩	完形	1	1	III層	—		
—	レキ	凝灰岩	完形	3	1	III層			
—	レキ	凝灰岩	片	1	1	III層			
—	レキ	凝灰岩	完形	2	2	III層			
—	レキ	砂岩	片	2	2	III層			被熱
—	レキ	凝灰岩	片	4	4	III層			被熱
—	レキ	砂岩	片	3	3	III層			被熱
—	レキ	砂岩	完形	4	4	III層			被熱



遺構名	建物跡	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考		
			去体層・埋存層	層名		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)				形状	風化の 程度
							層名	細分層				色名	マンセル 表色系				
ASP-19	AUPS-7	1	黒色土	IV層	明瞭	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅		無			—		
		2	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	垂直線	腐朽	—	
		3	黒色土	IV・V層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅					—		
ASP-20	AUPS-7	4	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅		無			—		
		5	黒色土	IV層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟		無			—		
		6	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-d1スコリア	1	2	垂直線	腐朽	—	
ASP-21	AUPS-7	7	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅		無			—		
		8	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅		無			—		
		9	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-d1スコリア	1	2	垂直線	腐朽	—	

図20 AUPS-7

遺物出土状況 柱穴を結んだ範囲内では、遺物は出土していない。また、ASP-2・4の覆土から石鏃・レキが出土した。下位の縄文時代の包含層から混入したと考えられる。

時期 III層下位の遺構であり、中世アイヌ文化期と推測される。

(広田良成)

AUPS-7 (図20 図版9)

位置 V・W-10区 **規模** (2.18) × (1.66) m

柱数 3か所 (ASP-19・20・21)

付属遺構 礫集中1か所 (AUS-17)

AUS-17

位置 W-10区 **規模** 1.43×0.62m

確認・調査 包含層調査中、III層下位で礫集中 (AUS-17) がみられ、単独の遺構として調査した。その後、周囲の包含層調査を進めたところ、IV層上面で、円形の黒色土が直線状に並んでみられた。半截し土層断面を観察したところ、すべて柱穴であった。他の建物跡AUPSと比べて規模が大きいため、倉庫等の建物跡と推定される。

遺物出土状況 AUS-17は、堆積岩のレキが出土し北東側部分に小さな集中部分がある。また、これらの礫は、調査手順を誤認したため、高さを計測する前に取り上げた。

時期 III層下位の位置で、層位的に中世アイヌ文化期と判断される。

(広田・末光)

3. 近接する焼土と礫集中 (図21~23 表18・19 図版10・11)

AUF-7とAUS-8 (図21 図版10)

AUF-7

位置 Y・Z-22区 **規模** 0.62×0.44 / 0.04m **平面形態** 楕円形

AUS-8

位置 Y-21・22区 **規模** 2.38×1.80m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。周囲を掘り広げ範囲を確認し、礫集中 (AUS-8) と判断した。調査後、III層を掘り下げたところ、近くで焼土 (AUF-7) も確認した。周辺をIV層上面で精査したが、柱穴・杭穴等はみつからなかった。北側部分はAUPS-5と近接する。

遺物出土状況 AUS-8は砂岩・凝灰岩が多く、散在的であるが、集中部分もみられる。

時期 III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUF-9・11とAUS-6 (図22 図版10)

AUF-9

位置 Y-14区 **規模** 0.90×0.37 / 0.06m **平面形態** 長楕円形

AUF-11

位置 Z-14区 **規模** 0.95×0.62 / 0.06m **平面形態** 楕円形

AUS-6A

位置 Y-14区 **規模** 1.84×1.02m

AUS-6B

位置 X-14・15区 規模 0.56×0.54m

AUS-6C

位置 X・Y-14・15区 規模 3.60×2.03m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキが出土した。まとまりと散在する部分がみられた。これらを礫集中(AUS-6)と判断した。また、周囲を掘り広げている時、焼土を2か所確認した(AUF-9・11)。両者は長軸が同一直線上に位置する。なお、AUF-11のすぐ南側は調査区境界の崖である。建物跡の可能性を考え、周辺のIV層上面を精査したが、柱穴・杭穴等はみつからなかった。本遺構の北西側にはAUPS-2がある。

遺物出土状況 AUS-6は堆積岩が多く、長方形を呈し最も密集し規模が大ききものを「A」、これよりも北西側の小規模なまとまりを「B」、それ以外の散在するものを「C」と細分した。「C」にも十点程度のまとまりが認められる。

時期 III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。AUS-6出土の炭化物(IK3-8)の放射性炭素年代測定結果は、12世紀末葉または13世紀前半～13世紀半ばである(Ⅶ章2節・付篇参照)。

AUF-13とAUS-15 (図23 図版11)

AUF-13

位置 T-11区 規模 0.48×0.29 / 0.07m 平面形態 楕円形

AUS-15

位置 S・T-11区 規模 2.06×1.16m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキの小規模なまとまりを確認した。これを礫集中(AUS-15)と判断し、周囲を掘り広げたところ、焼土(AUF-13)もみつかった。周辺をIV層上面まで掘り下げ精査したが、柱穴・杭穴等は見られなかった。

遺物出土状況 AUS-15は、数点の小さなまとまりが複数みられる。

時期 III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUF-12とAUS-14 (図21 図版11)

AUF-12

位置 S-8区 規模 1.70×0.38 / 0.04m 平面形態 長楕円形

AUS-14

位置 S-8区 規模 0.89×0.90m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。周囲を掘り広げ範囲を確認し、礫集中(AUS-14)と判断した。調査後、III層を掘り下げたところ、近くで細長い焼土(AUF-12)も確認した。周辺のIV層上面を精査したが、柱穴・杭穴はみつからなかった。なお、礫集中の遺物は調査手順を誤認したため、出土位置の高さを計測する前に取り上げた。

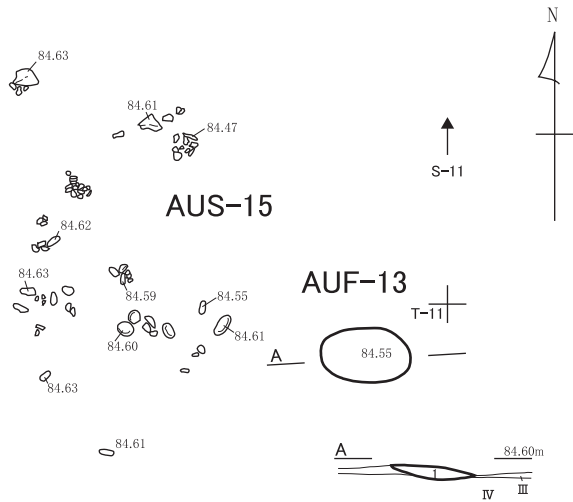
遺物出土状況 AUS-14は中心に集中部分があり、周辺にむかい散在的である。

時期 III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

(広田・末光)

4. 焼土 (図23 表18 図版11)

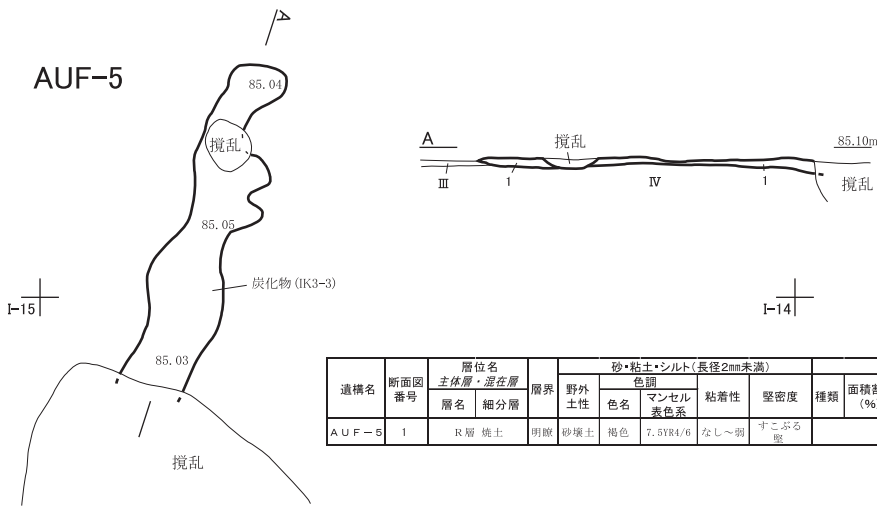
AUF-5 (図23)



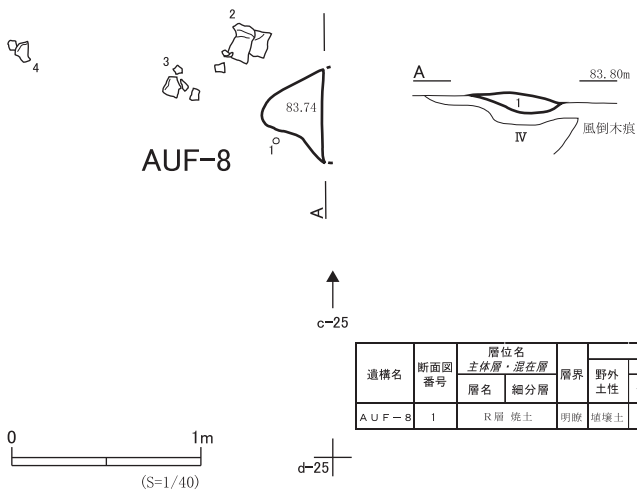
AUF-13									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	U・Rレキ		凝灰岩	片	1	焼土	—		

AUS-15									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ		凝灰岩	片	2	皿層	84.47 ~ 84.63		
—	レキ		砂岩	完形	2	皿層			
—	レキ		砂岩	完形	5	皿層			
—	レキ		片麻岩	完形	3	皿層			
—	レキ		凝灰岩	片	2	皿層			
—	レキ		砂岩	片	5	皿層			板敷
—	レキ		片麻岩	完形	1	皿層			
—	レキ		凝灰岩	完形	5	皿層			
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	皿層			
—	U・Rレキ		凝灰岩	片	1	皿層			
—	U・Rレキ		凝灰岩	片	4	皿層		現場で観察	
—	U・Rレキ		砂岩	片	13	皿層		現場で観察	

遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			野外 土性	色調			種類	面積割合 (%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系	粘着性		堅密度	平均				
AUF-13	I	R層	焼土	明瞭	壤土~ 砂壤土	黄褐色	10YR5/6	弱	堅					炭化物:微量	



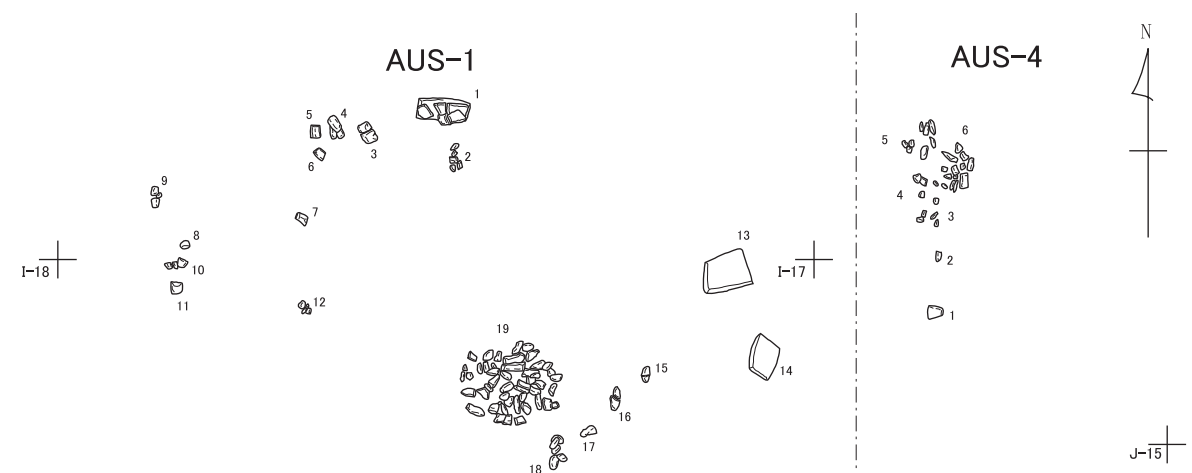
遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			野外 土性	色調			種類	面積割合 (%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系	粘着性		堅密度	平均				
AUF-5	I	R層	焼土	明瞭	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	なし~弱	すこぶる 堅					炭化物:微量	



AUF-8									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	レキ		チャート	完形	1	皿層	83.77		
2	レキ		砂岩	片	5	皿層	83.78		
3	石皿		砂岩	片	2	皿層	83.75		
4	石皿		砂岩	片	2	皿層	83.75		
4	レキ		砂岩	片	3	皿層	83.75		

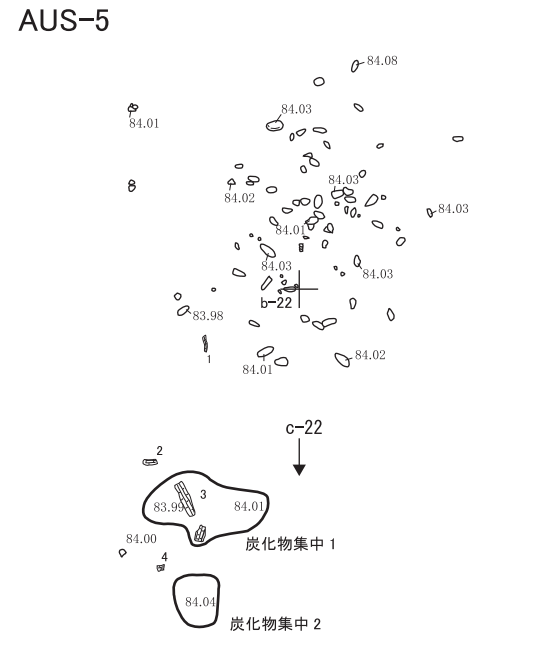
遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			野外 土性	色調			種類	面積割合 (%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系	粘着性		堅密度	平均				
AUF-8	I	R層	焼土	明瞭	埴壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅					炭化物:少量	

図23 AUFとAUS(3)・AUF

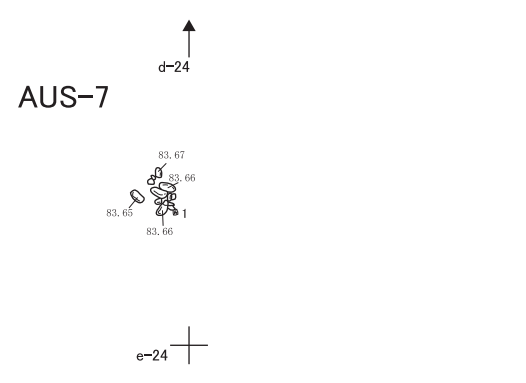


AUS-1									
遺物番号	土器 時期 石器 (器種)	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
1	レキ	砂岩	片	21	III層	85.10	—	—	現場で観察
2	レキ	砂岩	片	3	III層	85.06	—	—	現場で観察
3	フリタ	黒曜石	—	2	III層	85.08	—	—	現場で観察
4	レキ	凝灰岩	片	4	III層	85.09	—	—	現場で観察
5	土器 瓦群	口縁部	良好	1	III層	85.07	—	—	—
6	土器 瓦群	胴部	小破片	2	III層	85.06	—	—	—
7	レキ	凝灰岩	片	4	III層	85.00	—	—	—
8	レキ	砂岩	片	1	III層	85.04	—	—	—
9	レキ	砂岩	片	3	III層	85.04	—	—	—
10	レキ	砂岩	片	3	III層	85.05	—	—	—
11	レキ	砂岩	片	1	III層	85.07	—	—	—
12	レキ	凝灰岩	片	1	III層	—	—	—	—
13	骨石	砂岩	完形	1	III層	85.10	—	—	—
14	骨石	砂岩	完形	1	III層	85.10	—	—	—
15	レキ	砂岩	完形	2	III層	85.09	—	—	—
16	レキ	凝灰岩	片	4	III層	85.08	—	—	現場で観察
17	レキ	凝灰岩	片	1	III層	85.08	—	—	—
18	レキ	凝灰岩	片	11	III層	85.08	—	—	現場で観察
レキ		砂岩	完形	1					
レキ		砂岩	完形	1					
19	レキ	砂岩	完形	22	III層	85.04 ~ 85.10	—	—	現場で観察
レキ	砂岩	片	23						
U・Rレキ	砂岩	片	13						
レキ	凝灰岩	片	10						
レキ	砂岩	片	55						
砥石	砂岩	片	1						
レキ	凝灰岩	完形	1						
U・Rレキ	凝灰岩	完形	1						
—	たつき石	砂岩	完形	1	III層	—	—	—	—
—	砥石	砂岩	片	3	III層	—	—	—	—
—	レキ	凝灰岩	片	2	III層	—	—	—	—
—	レキ	砂岩	完形	4	III層	—	—	—	—
—	レキ	凝灰岩	完形	1	III層	—	—	—	—
—	U・Rレキ	砂岩	完形	3	III層	—	—	—	—

AUS-4												
遺物番号	土器 時期 石器 (器種)	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考				
1	U・Rレキ	砂岩	片	1	III層	85.01	—	—	—			
2	U・Rレキ	砂岩	片	1	III層	85.04	—	—	—			
3	レキ	砂岩	片	5	III層	85.03	—	—	—			
4	レキ	砂岩	片	5	III層	85.03	—	—	—			
5	レキ	砂岩	片	2	III層	85.05	—	—	—			
レキ										砂岩	片	2
6	レキ	凝灰岩	片	11	III層	85.02 ~ 85.06	—	—	現場で観察			
										砂岩	完形	2
										砂岩	片	12
										砂岩	片	1
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	III層	—	—	—	—			
—	たつき石	砂岩	完形	1	III層	—	—	—	—			
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	III層	—	—	—	現場で観察			
—	レキ	凝灰岩	片	2	III層	—	—	—	—			

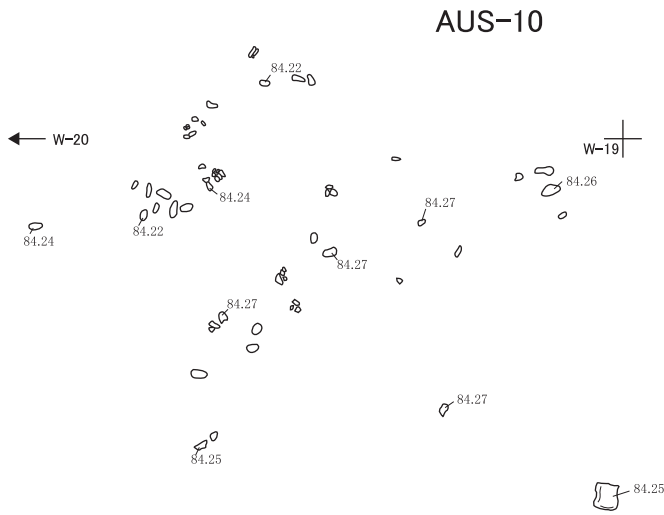


AUS-5									
遺物番号	土器 時期 石器 (器種)	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
—	レキ	凝灰岩	片	37	III層	83.98 ~ 84.08	—	—	現場で観察
—	レキ	凝灰岩	片	55	III層				
—	レキ	砂岩	片	13	III層				
—	レキ	凝灰岩	片	9	III層				
—	レキ	凝灰岩	完形	3	III層	84.08	—	—	—
—	レキ	砂岩	片	43	III層				
—	レキ	砂岩	完形	20	III層				
—	レキ	砂岩	片	5	III層				
—	レキ	凝灰岩	片	5	III層	84.02 ~ 84.03	—	—	—
1	炭化物	—	—	III層					
2	炭化物	—	—	III層					
3	炭化物	—	—	III層					
4	炭化物	—	—	III層	84.03	—	—	—	—

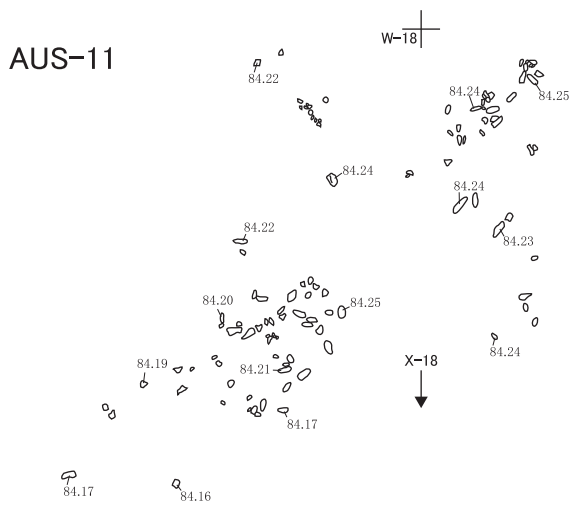


AUS-7									
遺物番号	土器 時期 石器 (器種)	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考	
—	レキ	凝灰岩	片	1	III層	83.65 ~ 83.67	—	—	—
—	レキ	砂岩	片	3	III層				
—	レキ	砂岩	片	2	III層				
—	U・Rレキ	砂岩	半形	1	III層				
—	レキ	凝灰岩	片	5	III層	83.67	—	—	—
—	レキ	砂岩	完形	1	III層				
—	レキ	凝灰岩	片	1	III層				
—	レキ	砂岩	片	2	III層				
1	レキ	炭化物	片	—	III層	—	—	—	1K3-9

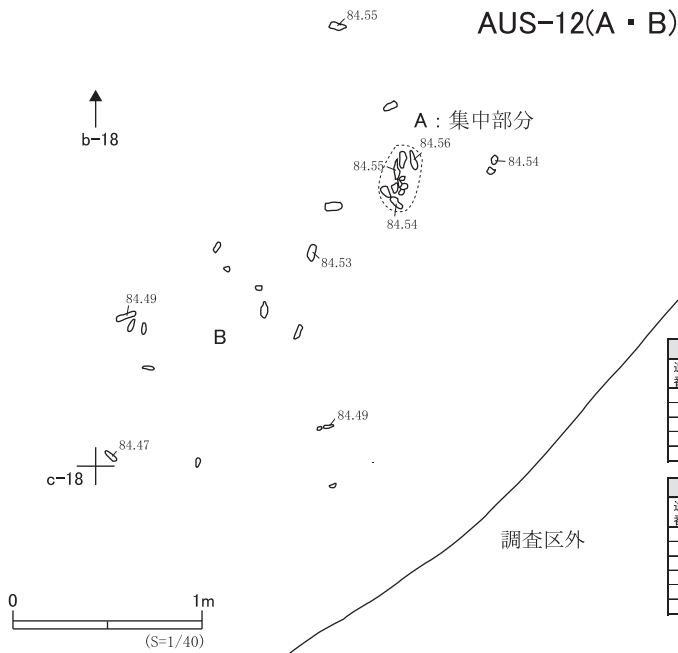
図24 AUS (1)



AUS-10									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	片	15	Ⅲ層	84.22 ~ 84.27		
—	U・Rレキ		砂岩	片	11	Ⅲ層			
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	7	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	1	Ⅲ層			被熱
—	レキ		泥岩	片	3	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	15	Ⅲ層			
—	たたま石		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	28	Ⅲ層			現場で撮影
—	レキ		砂岩	片	3	Ⅲ層		現場で撮影	



AUS-11									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ		凝灰岩	片	11	Ⅲ層	84.16 ~ 84.25		
—	レキ		礫岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		礫岩	片	5	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	2	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	43	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	22	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	8	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	10	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	7	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	8	Ⅲ層			
—	レキ		泥岩	片	2	Ⅲ層			
—	レキ		泥岩	片	3	Ⅲ層			
—	礫石		砂岩	片	1	Ⅲ層			被熱
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	U・Rレキ		砂岩	片	12	Ⅲ層			



AUS-12A									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	片	3	Ⅲ層	84.54 ~ 84.56	—	現場で撮影
—	レキ		砂岩	片	2	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	2	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	6	Ⅲ層			被熱
—	U・Rレキ		砂岩	片	3	Ⅲ層			

AUS-12B									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	片	6	Ⅲ層	84.47 ~ 84.55		
—	レキ		凝灰岩	片	7	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	11	Ⅲ層			
—	レキ		礫岩	片	1	Ⅲ層			
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	1	Ⅲ層			

図25 AUS (2)

位置 H・I-14区 **規模** 1.80×0.47 / 0.06m **平面形態** 不整な溝状

確認・調査 包含層調査中、III層下位で細長い褐色土がみられた。半截して断面を観察し、炭化物もみられたことから、焼土と認定した。周囲を精査したが、柱穴・杭穴等の遺構はみられなかった。細長い形状は、円～楕円形のもので平面で連続していると推測され、炉跡を近接させて移動させて、使用していたと推測される。

遺物出土状況 本遺構の遺物と判断したものはない。

時期 III層下位にあり、層位的には中世アイヌ文化期である。出土した炭化物（IK3-3）の放射性炭素年代測定結果は、12世紀中頃～13世紀初頭である（VII章2節・付篇参照）。

（広田）

AUF-8（図23）

位置 c-25区 **規模** (0.32)×0.50 / 0.11m **平面形態** 不整な楕円形？

確認・調査 包含層調査中、風倒木痕内に褐色土がみられた。半截して断面を観察し、焼土と判断した。周囲を精査したが、柱穴・杭穴等の遺構はみられなかった。くぼみはなく、風倒木痕を利用したとは考えがたく、偶然にこの場所に造られたと考えられる。

遺物出土状況 焼土のそばでチャートの礫が出土し、火打石の可能性はある。

時期 III層下位にあることから、中世アイヌ文化期と判断される。

5. 礫集中（図24～26 表19 図版11・12）

AUS-1（図24）

位置 H・I-17区 **規模** 3.31×2.04m

確認・調査 包含層調査中、III層下位で、レキが円形を呈しまとまる状況（遺物番号：19）がみられた。周囲を掘り進めたところ、レキやVII群土器が散在して確認され、遺構と判断した。

時期 層位と出土土器から擦文文化期後期と判断される。

AUS-4（図24）

位置 I-15区 **規模** 1.04×0.38m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と推測される。

（末光）

AUS-5（図24）

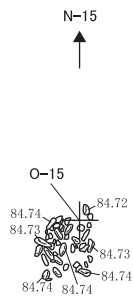
位置 a・b-21・22区 **規模** 1.77×1.64m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。南側では炭化物集中を2か所確認し、炭化物も出土した。

時期 III層下位にあることから、中世アイヌ文化期であろう。また、本遺構出土の炭化物の放射性炭素年代測定結果は、礫集中内のもの（IK3-5）は、最古で15世紀半ば、最新で17世紀初頭、炭化物集中1のもの（IK3-7）は12世紀後半～13世紀前半、この集中の近く出土の試料（IK3-6）はともに12世紀中頃～13世紀初頭で、大きく三つの時期が想定される（VII章2節・付篇参照）。

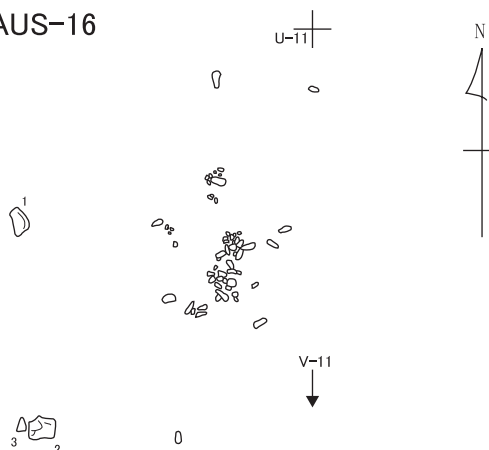
（広田）

AUS-13



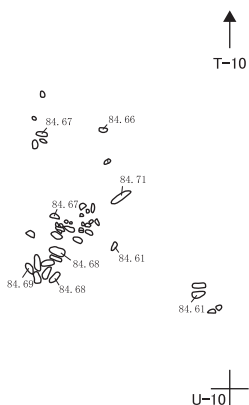
AUS-13									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	完形	7	Ⅲ層	84.72 ~ 84.74		
—	U・Rレキ		砂岩	完形	9	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	18	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	片	6	Ⅲ層			
—	穴太石		砂岩	片	1	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	片	15	Ⅲ層			現場で観察
—	レキ		凝灰岩	片	9	Ⅲ層			現場で観察
—	レキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層			被熱
—	U・Rレキ		泥岩	完形	1	Ⅲ層			

AUS-16



AUS-16									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	レキ		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層	—		被熱
2	石核		チャート	—	1	Ⅲ層	—		
3	レキ		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層	—		
—	レキ		凝灰岩	片	7	Ⅲ層	—		
—	レキ		砂岩	完形	4	Ⅲ層	—		
—	レキ		凝灰岩	完形	7	Ⅲ層	—		
—	レキ		砂岩	片	8	Ⅲ層	—		
—	レキ		砂岩	片	2	Ⅲ層	—		

AUS-18



AUS-18									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ		凝灰岩	片	1	Ⅲ層	84.61 ~ 84.71		
—	レキ		砂岩	完形	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	完形	4	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	完形	1	Ⅲ層			
—	レキ		凝灰岩	完形	12	Ⅲ層			
—	レキ		砂岩	完形	4	Ⅲ層			被熱
—	レキ		砂岩	完形	3	Ⅲ層			被熱



AUS-7 (図24)

位置 d-24区 規模 0.25×0.25m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキのまとまりがあり、礫集中と判断した。

時期 III層下位にあることから、中世アイヌ文化期と考えられる。出土した炭化物（IK3-9）の放射性炭素年代測定結果は12世紀中頃～13世紀前半である（VII章2節・付篇参照）。

AUS-10 (図25)

位置 V・W-19区 規模 3.29×2.16m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキが散在的であるが、周囲と比べてやや多くみられたので、礫集中と判断した。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUS-11 (図25)

位置 W-17・18区 規模 3.24×1.93m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキが散在的であるが、周囲と比べてやや多くみられたので、礫集中と判断した。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUS-12 (図25)

AUS-12B (全体)

位置 b・c-17区 規模 2.55×1.61m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。礫集中と判断し、この集中部分「A」とし、周囲に広がりを確認するため掘り広げたが、ここ以外は散在的な出土であった。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUS-13 (図26)

位置 N・O-14・15区 規模 0.40×0.32m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土し、礫集中と判断した。長方形の範囲に集中し、北西側部分は重なるものも多い。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUS-16 (図26)

位置 U-10・11区 規模 1.80×1.58m

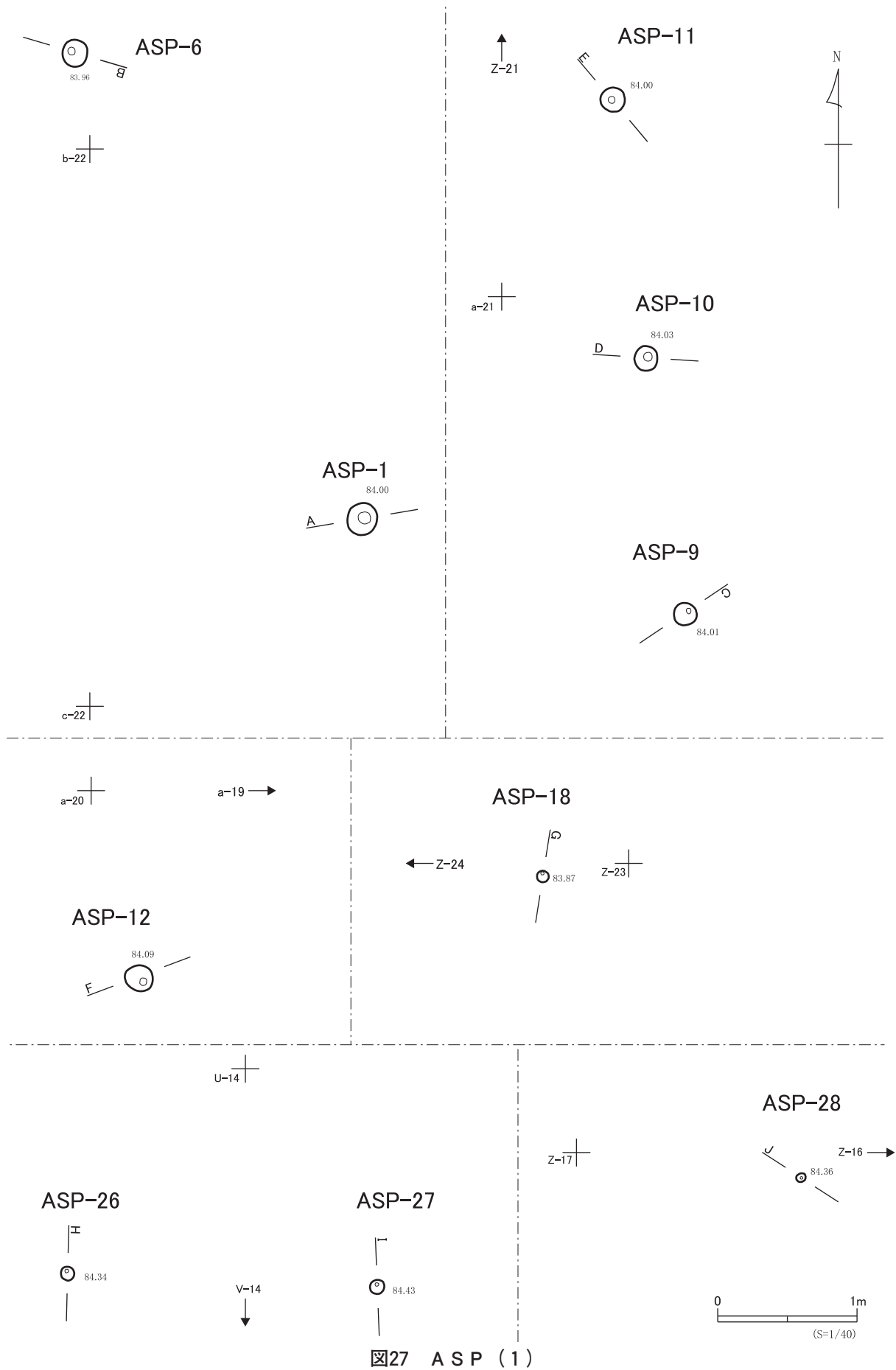
確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土し、礫集中と判断した。集中部分は長方形を呈し、この周囲では散在的な出土である。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

AUS-18 (図26)

位置 T-10区 規模 1.17×1.03m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。集中部分



ASP-41



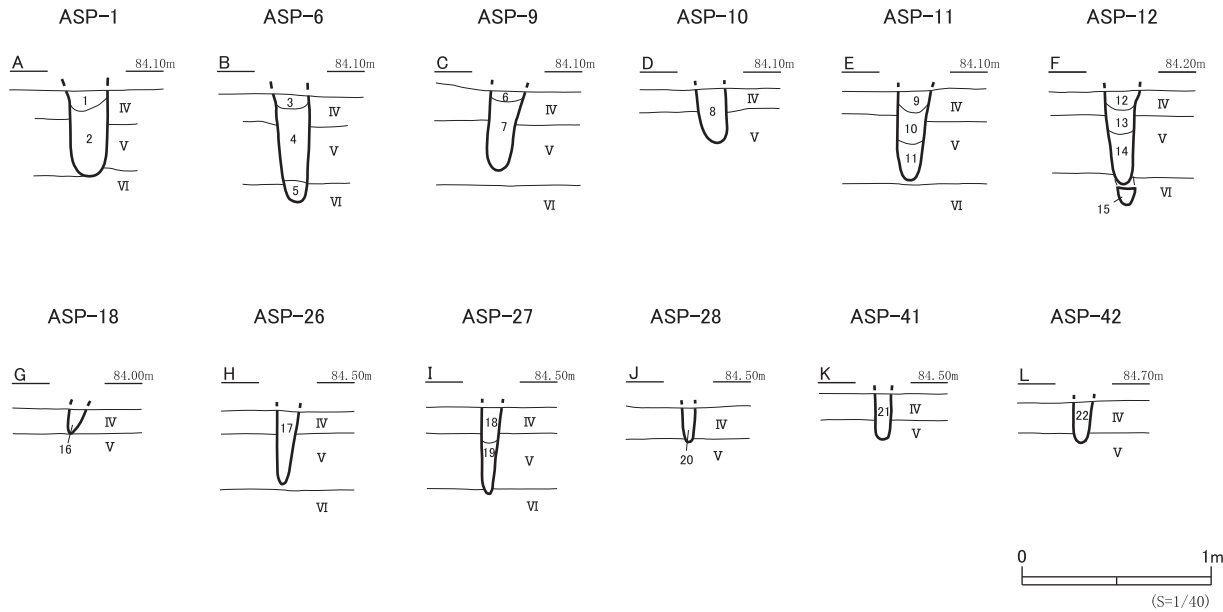
← U-13



ASP-42



← V-11



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)			風化の程度	
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均				最大
ASP-1	1	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
	2	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-6	3	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
	4	黒色土	一	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟							
	5	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-9	6	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
	7	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-10	8	黒色土	IV層	画然	壤土~埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅							
	9	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-11	10	黒色土	IV層	明瞭	シルト質埴壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
	11	黒色土	IV層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟							
ASP-12	12	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
	13	黒色土	IV層	明瞭	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
	14	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟~堅							
	15	黒色土	IV・VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta=d1スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽		
ASP-18	16	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-26	17	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅							
ASP-27	18	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅							
	19	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅							
ASP-28	20	黒色土	IV層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
ASP-41	21	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅							
ASP-42	22	黒色土	IV層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							

図28 ASP (2)

は南側で、大きさが同じレキがまとまっていた。

時 期 Ⅲ層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

6. 柱穴・杭穴 (図27・28 表20 図版12・13)

A S P - 1・6・9・10・11・12・18・26・27・28・41・42

確認・調査 Ⅲ層の包含層調査で確認に努めたが、発見は難渋し、すべてⅣ層で確認した。焼土や礫集中、遺物が多くみられたところは、特に丹念に精査をした。柱穴・杭穴は42か所確認できた。ここで報告するものは、建物跡や他の遺構との関連性を積極的に見いだせなかった12か所である。

A S P - 6・1は近くでみつきり、前者はA U S - 5と重複し、これよりも古いと推測される。A S P - 9・10・11は同一直線状でほぼ等間隔で確認した。近くから鉄鍋(図29)が出土した。A S P - 12はこれらの東側に位置する。A S P - 18はA U P S - 5・A U F - 7・A U S - 8の南西側でみつかった。A S P - 26・27は周囲に焼土・礫集中がみられない。A S P - 28はA U P S - 2に近く関連する可能性がある。A S P - 41の周囲には他の遺構がみられない。A S P - 42は、A U P S - 7とA U S - 16のほぼ中間に位置する。

断 面 大きく分けて、複数に分層できる比較的大型のもの(A S P - 1・6・9・11・12・27)と、分層できない小型のもの(A S P - 10・18・26・28・41・42)があり、覆土はすべて黒色土が主体である。また、A S P - 18のように斜めのものもあるが、数は少ない。

遺物出土状況 これら12か所で遺物が出土したものはない。

時 期 Ⅳ層で確認したが、この地域に位置する他の遺跡の調査成果から、Ⅲ層の遺構と判断され、擦文文化期後期～中世アイヌ文化期と考えられる。

7. 土坑

A U P - 1 (図29 表21 図版13)

位 置 J・K-18区 **規 模** 1.40×0.60 / (1.31)×0.48 / 0.10m

平面形態 長楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、不整形な黒色土がみられた。半截したところ、壁の立ち上がり平坦な面を確認したので遺構と判断した。浅いことや覆土、長軸方向の断面形態から、調査区中央の沢への斜面に切り込んで構築された、道跡の可能性も考えられる。

覆 土 Ⅲ層の黒色土が主体で、一部Ⅳ層が混じる。

壁・坑底面 壁はいずれもゆるやかに立ち上がり、坑底面は南西側部分へとゆるやかに傾斜する。

遺物出土状況 遺構全体から炭化物が多く出土した。

時 期 Ⅲ層が主たる覆土であり、擦文文化期後期または中世アイヌ文化期と推測している。

(末光)

8. 出土遺物

A地区のⅢ層の調査で出土した遺構・包含層出土の遺物を報告する。

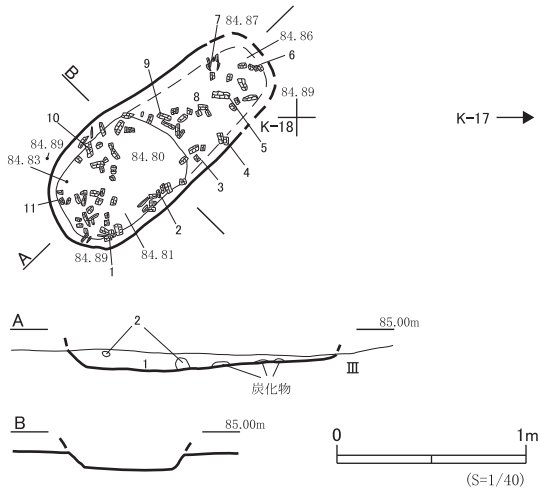
(1) 土器 (図30 表22・26～28 図版34・37)

土器は3が礫集中A U S - 1の出土で、これ以外は包含層出土である。

復原土器 (Ⅶ群)

1は外反する口縁部から直立気味の胴部に至る器形を呈する。外面には半円状の押捺文と平行沈線

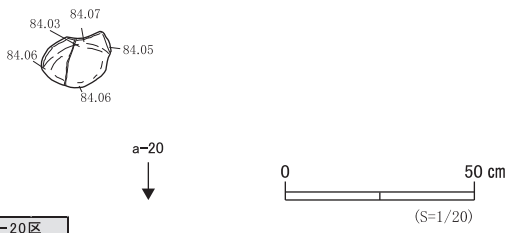
AUP-1



遺物番号		土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1		炭化物				—	III層	84.85		
2		炭化物				—	III層	84.83		
3		炭化物				—	III層	84.81		
4		炭化物				—	III層	84.83		
5		炭化物				—	III層	84.87		
6		炭化物				—	III層	84.88		
7		炭化物				—	III層	84.87		
8		炭化物				—	III層	84.85		
9		炭化物				—	III層	84.84 ~84.86		
10		炭化物				—	III層	84.83 ~84.84		
11		炭化物				—	III層	84.83		

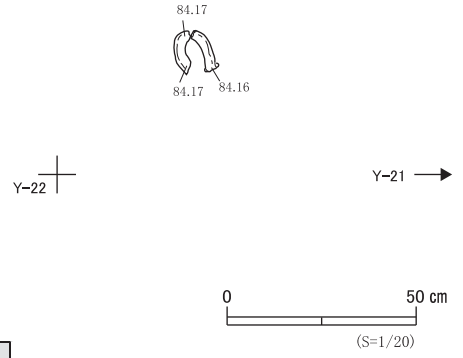
遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)				混入物	備考				
		主体層・遺存層	層名			細分層	色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)			粒径(mm)		形状	風化の 程度
															平均	最大		
AUP-1	1	B層	画然	埴塚土	黒色	10YR1.7/1	強	軟				無		炭化材 炭化物	III層主体			
	2	IVa層	画然	砂土	黒褐色	7.5YR2/2	なし	軟~しろう				無		—	IV層 細粒軽石主体			

Z-20 区鉄鍋出土状況



Z-20区		遺物 番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1		鉄器	鉄鍋			—	2	III層	84.03 ~ 84.07		保存処理 イク3-2

X-21 区鉄先出土状況



X-21区		遺物 番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1		鉄器	鉄先			—	2	III層	84.16 ~ 84.17		保存処理 イク3-1

図29 AUP・鉄製品出土状況

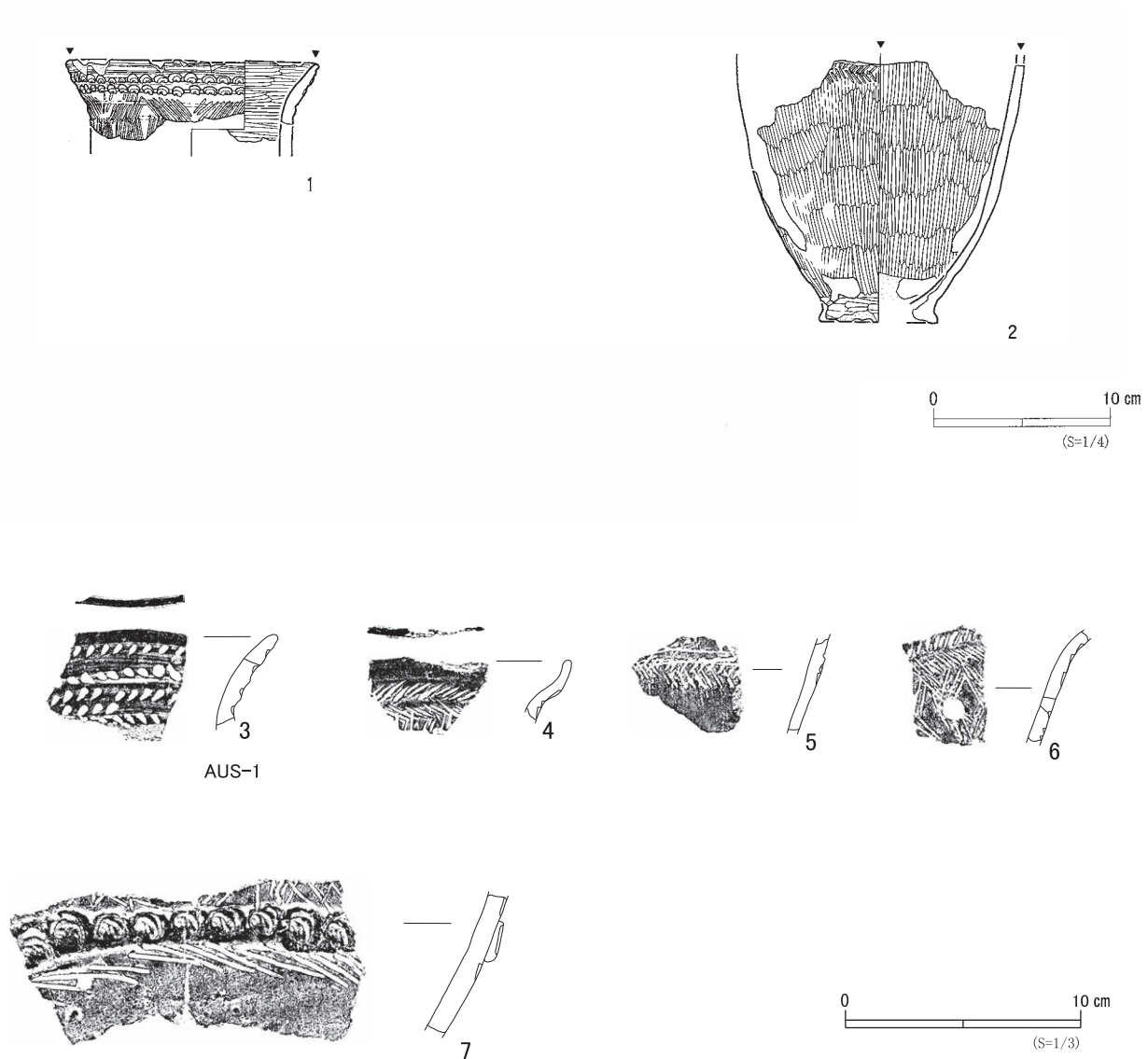


図30 A地区 III層 遺構・包含層出土の土器

文が施され、器面調整はミガキである。2は曲線的に胴部へとすぼまる器形で、胴部中位に矢羽根状の刻みがみられ、器面調整はヘラミガキである。ともに遺構が位置する場所から離れて出土した。

破片土器 (Ⅶ群)

口縁部

3はナデ調整の後に刺突文が施される。4は口唇部直下の器面が無文で、半截竹管状工具による施文がみられる。

胴部

5・6・7には平行沈線文と刻みがみられ、6には補修孔、7には貼付圍繞帯が施される。

(2) 石器等 (図31・32 表23~25・28・29 図版42・45)

遺構出土の石器

1はAUF-1 (AUPS-1) 出土で、石材はチャート、表面と周縁が打ち欠かれており、火打石と考えられる。2・3はAUF-4 (AUPS-4) 出土のたたき石で、2は左右両側面、3は上下両面にたたき痕がみられる。4はAUS-1 出土の直方体を呈する台石で、使用痕は部分的である。5はAUS-3 (AUPS-3) 出土のすり石で、表裏両面が凹状を呈する使用痕が観察される。6

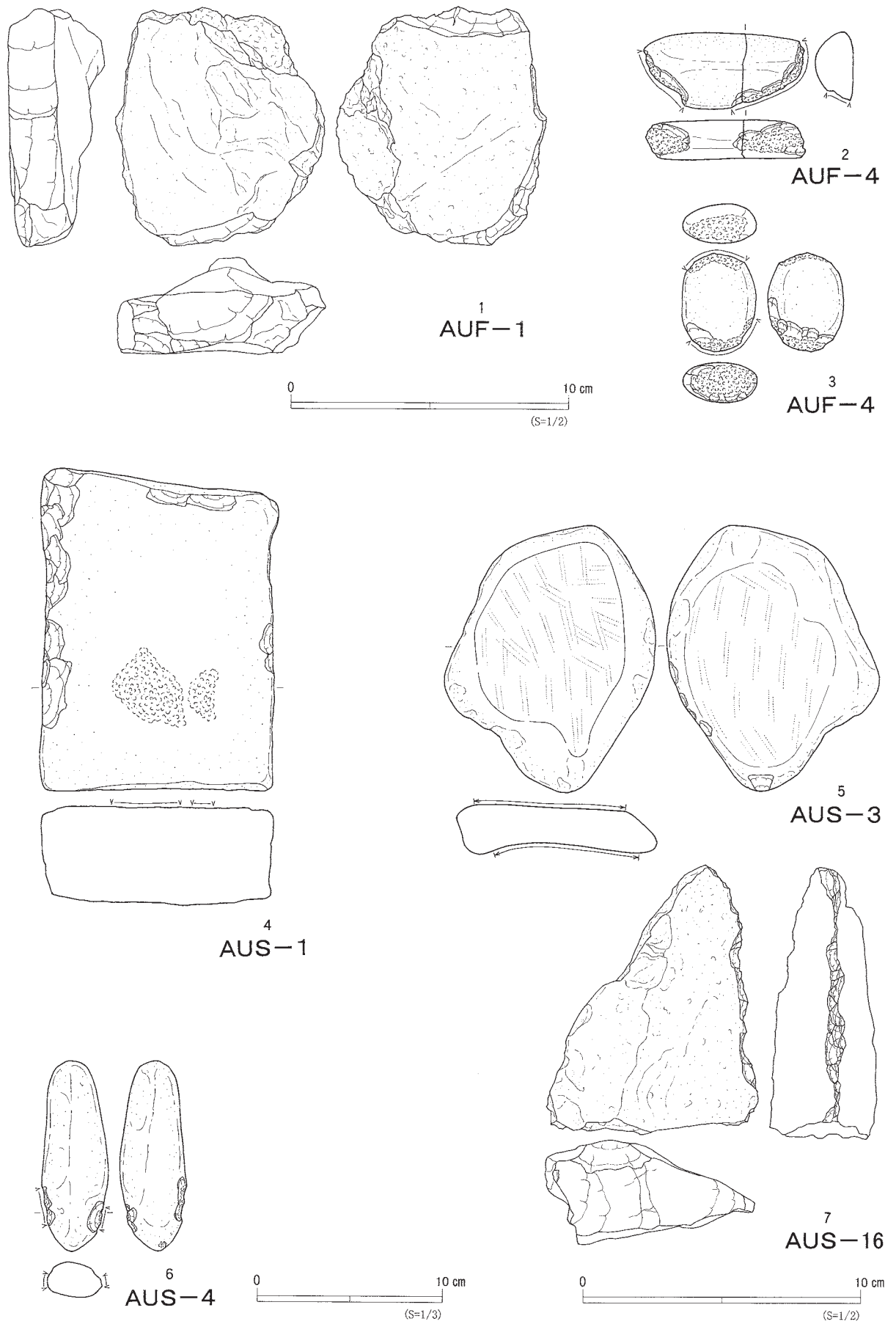


図31 A地区 III層 遺構出土の石器

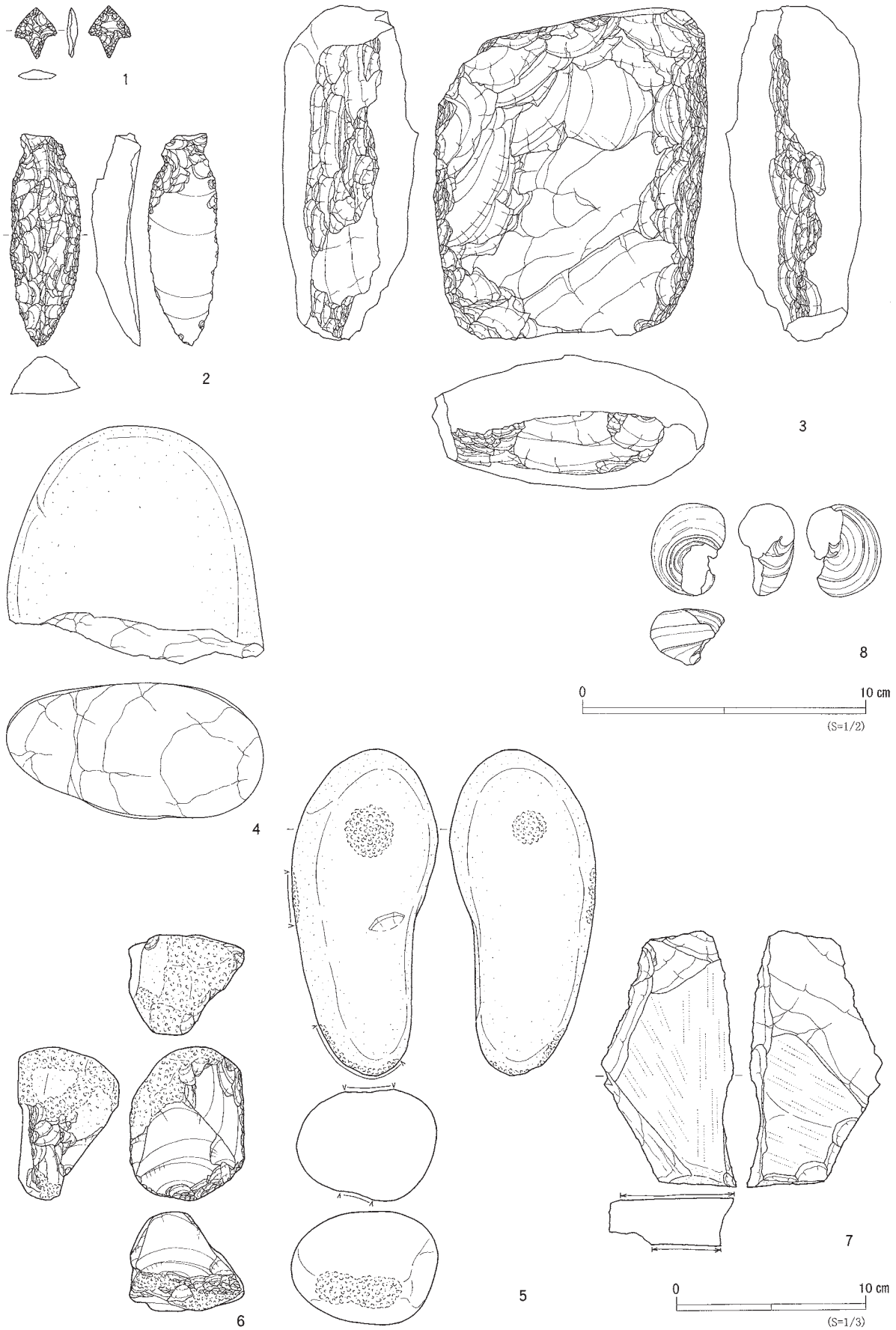


図32 A地区 III層 包含層出土の石器

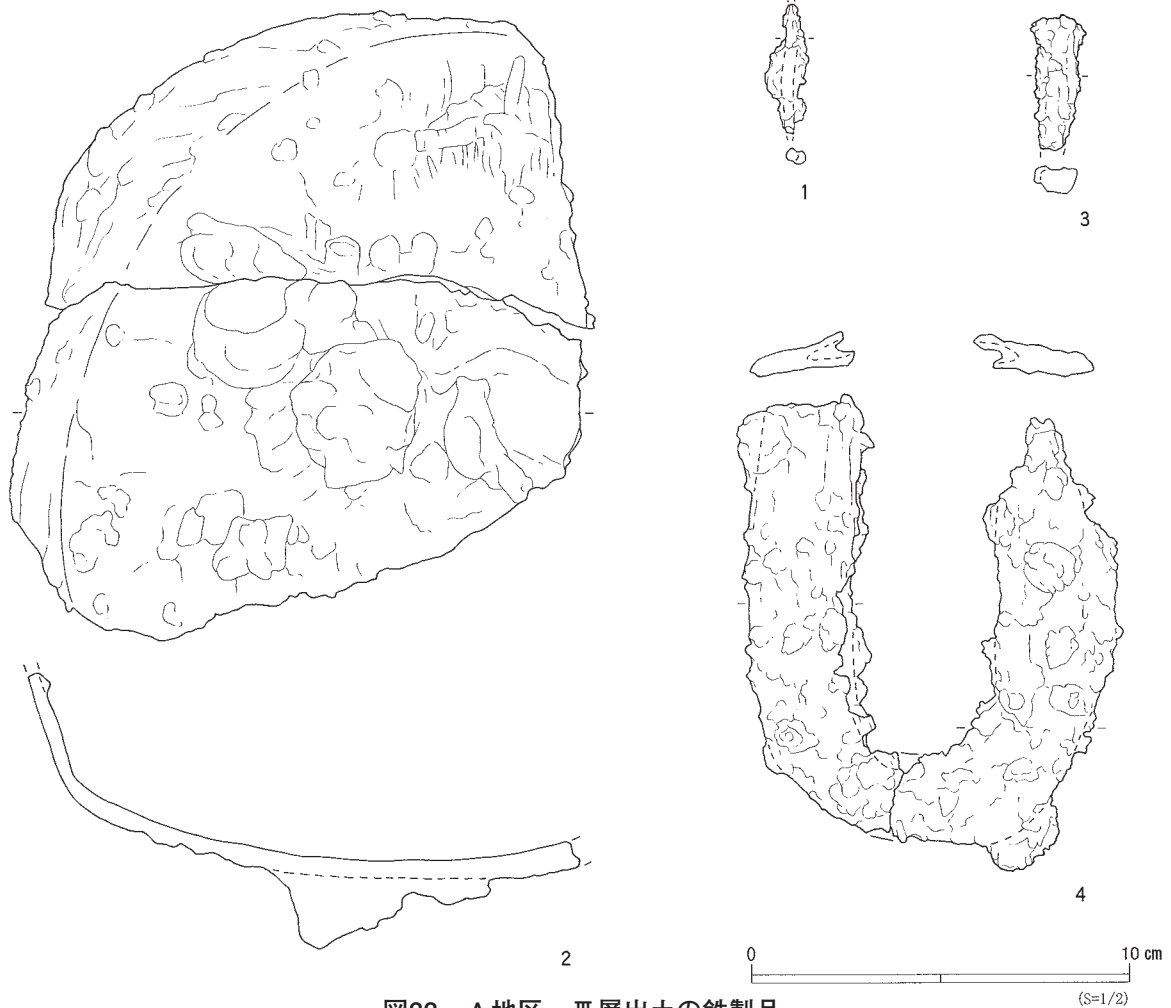


図33 A地区 III層出土の鉄製品

はAUS-4出土のたたき石で、両側縁に部分的な使用痕がある。7はAUS-16出土のチャートで、打ち欠きがみられる。なお、III層遺構出土の礫石器と礫はすべて計測し表29にまとめた。

包含層出土の石器

1は黒曜石製の石鏃で、2は縦長のつまみ付きナイフである。3・4はチャートで、3は表面と周縁に打ち欠きが顕著で、4は割れ口があり、火打石と判断する。5はたたき石で、部分的な使用痕は表裏両面で、位置が同じである。6は緑色泥岩製で、形状や使用痕からたたき石であろう。7は砂岩性の砥石で、8は巻貝化石である。

(3) 鉄製品 (図14・15・29・33 表30 カラー図版4・図版33・41)

1は建物跡AUPS-1の炉跡の焼土AUF-1から出土した針である。保存処理前のX線透過写真では上端に孔が観察される。2はZ-20区で出土した鉄鍋で、底部の約1/4が残存する。

3は、建物跡AUPS-2の柱穴ASP-40の上面でみつかった棒状品である。4はX-21区で出土した鋤先である。

以上の鉄製品は調査区の南側、建物跡やその周辺から出土し、これらの遺構に関連するもので、中世アイヌ文化期と考えられる。

(末光)

表16 建物跡一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	形態	規模 (m)		柱間数		柱穴	付属遺構	重複・近接	主な出土遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸					
AUPS-1	14	カラー3 3・4	X・Y- 16~18区	方形	(4.97)	4.44	(2)・1	1	3か所 ASP- 31・36・39	焼土:2か所 礫集中:3か所 AUF-1・2 AUS-2A・B・C	AUPS-2 と重複	鉄器(針) 石核(火打石) たたき石 U・Rレキ	
AUPS-2	15	カラー3 4	X・Y- 15~17区	長方形	5.70	4.26	(3)・2	(3)・2	9か所 ASP- 29・30・32・33・34 ・35・37・38・40	焼土:1か所 AUF-6	AUPS-1 と重複	鉄器(棒状品) たたき石 U・Rレキ レキ	
AUPS-3	16	5	Z-17・18、 a-17区	長方形	(3.23)	3.45	(2)	(3)	4か所 ASP- 22・23・24・25	焼土:1か所 礫集中:1か所 AUF-3 AUS-3	AUPS-1 と近接	すり石 U・Rレキ レキ	
AUPS-4	17	6	a・b- 19・20区	方形	2.96	(2.06)	—	(2)	2か所 ASP-7・8	焼土:1か所 AUF-4	—	たたき石 U・Rレキ レキ	住居跡の軸方向は、 焼土の軸から推測
AUPS-5	18	カラー3 7	X・Y -21・22、 Y-23区	正方形	3.44	3.44	1	(2)・1	5か所 ASP- 13・14・15・16・17	焼土:1か所 礫集中:2か所 AUF-10 AUS-9A・B	AUS-8 と近接	たたき石 台石 U・Rレキ レキ	
AUPS-6	19	8	c-20・21区	長方形	2.96	2.11	1	1	4か所 ASP- 2・3・4・5	—	—	レキ	柱穴の規模 が大きく類似 長方形の配置
AUPS-7	20	9	V・W -10区	方形	(2.18)	(1.66)	(2)	?	3か所 ASP- 19・20・21	礫集中:1か所 AUS-17	—	レキ	柱穴の規模が 大きく類似 柱穴間 概ね等間隔

表17 建物跡・付属遺構一覧

遺構名	付属 遺構名	種別	図	図版	特徴	規模 (m)			主な 出土遺物	備考	
						確認面	底面	最大深 最大厚			
AUPS-1	AUF-1	炉跡 焼土	14		楕円形 褐色 7.5YR4/6	0.95	0.54	0.11	鉄器(針) 石核(火打石) レキ		
	AUF-2					0.59	0.32	0.07	たたき石 U・Rレキ レキ		
	AUS-2A	礫集中				0.82	0.62	—	たたき石 U・Rレキ レキ		
	AUS-2B					1.70	0.81	—			
	AUS-2C					0.66	0.41	—			
	ASP-31	柱穴・杭穴				0.19	0.04	0.18	—		
	ASP-36					0.09	0.02	0.38	—		
	ASP-39					0.13	0.04	0.23	—		
	0.19		0.04	0.18	—						
	0.09		0.02	0.38	—						
AUPS-2	AUF-6	炉跡 焼土	15		灰集中を伴う 楕円形 明褐色 7.5YR5/6	0.71	0.50	0.11	レキ		
	ASP-29					0.07	0.02	0.38	—		
	ASP-30	0.10				0.04	0.18	—			
	ASP-32	0.08				0.02	0.17	—			
	ASP-33	0.08				0.01	0.18	—			
	ASP-34	0.12				0.04	0.20	—			
	ASP-35	0.10				0.02	0.26	—			
	ASP-37	0.11				0.02	0.21	—			
	ASP-38	0.13				0.02	0.44	—			
	ASP-40	0.10				0.02	0.54	—			
AUPS-3	AUF-3	炉跡 焼土	16		灰集中を伴う 楕円形 褐色 7.5YR4/4	0.70	0.44	0.10	U・Rレキ レキ		
	AUS-3	礫集中				0.60	0.39	—	すり石 U・Rレキ レキ		
	ASP-22	柱穴・杭穴				0.12	0.03	0.24	—		
	ASP-23					0.09	0.04	0.22	—		
	ASP-24					0.11	0.03	0.29	—		
ASP-25	0.10	0.02	0.39	—							
AUPS-4	AUF-4	炉跡 焼土	17		楕円形 褐色 7.5YR4/6	0.49	0.31	0.04	たたき石 U・Rレキ レキ		
	ASP-7	柱穴・杭穴				0.10	0.02	0.29	—		
	ASP-8	0.16				0.03	0.37	—			
AUPS-5	AUF-10	炉跡 焼土	18		楕円形 褐色 7.5YR4/6	0.72	0.40	0.07	U・Rレキ レキ		
	AUS-9A	礫集中				1.66	0.99	—	たたき石 台石 U・Rレキ レキ		
	AUS-9B					2.28	0.63	—			
	ASP-13	柱穴・杭穴				0.11	0.02	0.48	—		
	ASP-14					0.11	0.03	0.22	—		
	ASP-15					0.09	0.02	0.19	—		
	ASP-16					0.09	0.03	0.42	—		
ASP-17	0.09	0.02	0.53	—							
AUPS-6	ASP-2	柱穴・杭穴	19		円形・尖	0.22	0.03	0.57	石鏃		
	ASP-3					0.20	0.03	0.54	—		
	ASP-4					0.25	0.04	0.63	レキ		
	ASP-5					0.21	0.02	0.50	—		
AUPS-7	AUS-17	礫集中	20		—	1.43	0.62	—	レキ		
	ASP-19	柱穴・杭穴				カラー4 9	0.12	0.03	0.54	—	
	ASP-20					カラー4 9	0.14	0.02	0.64	—	
	ASP-21					カラー4 9	0.12	0.02	0.41	—	

表18 A地区 III層 焼土一覧表

建物跡	遺構名	焼土種別	図	図版	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面 形態	焼土色調			規模 (m)			主な 出土遺物	関連する 遺構	備考		
								色名	マンセル 表色系		長径	短径	最大 厚					
									色相	明度							彩度	
AUPS-1	AUF-1	炉跡 焼土	14	3・4	X-17区	Ⅲ・Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.95	0.54	0.11	鉄器(針) 石核(火打石) レキ		
	AUF-2	炉跡 焼土	14	—	X-17区	Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.59	0.32	0.07	たたき石 U・Rレキ レキ		
AUPS-3	AUF-3	炉跡 焼土 灰集中	16	5	Z-17区	Ⅳ層	楕円形 円形	褐色	7.5YR	4	/	4	0.70	0.44	0.10	U・Rレキ レキ		
AUPS-4	AUF-4	炉跡 焼土	17	6	b-19区	Ⅲ・Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.49	0.31	0.04	たたき石 U・Rレキ レキ		
—	AUF-5	炉跡 焼土	23	11	H・I -14区	Ⅲ・Ⅳ層	不整な 溝状	褐色	7.5YR	4	/	6	1.80	0.47	0.06	—		
AUPS-2	AUF-6	炉跡 焼土 灰集中	15	4	Y-16区	Ⅳ層	楕円形	明褐色	7.5YR	5	/	6	0.71	0.50	0.11	レキ		
—	AUF-7	炉跡 焼土	21	10	Y・Z -22区	Ⅲ・Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.62	0.44	0.04	U・Rレキ レキ	AUS-8	
—	AUF-8	炉跡 焼土	23	11	c-25区	FⅢ・FⅣ層	不整な 楕円形?	褐色	7.5YR	4	/	6	(0.32)	0.50	0.11	石皿 レキ		風倒木痕内 西側部分1/2が残存
—	AUF-9	炉跡 焼土	22	10	Y-14区	Ⅳ層	長楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.90	0.37	0.06	—	AUF-11 AUS-6	
AUPS-5	AUF-10	炉跡 焼土	18	7	X-22区	Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.72	0.40	0.07	U・Rレキ レキ		
—	AUF-11	炉跡 焼土	22	カラー4 10	Z-14区	Ⅳ層	楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	0.95	0.62	0.06	—	AUF-9 AUS-6	
—	AUF-12	炉跡 焼土	21	11	S-8区	Ⅳ層	長楕円形	褐色	7.5YR	4	/	6	1.70	0.38	0.04	—	AUS-14	
—	AUF-13	炉跡 焼土	23	11	T-11区	Ⅲ・Ⅳ層	楕円形	黄褐色	10YR	5	/	6	0.48	0.29	0.07	U・Rレキ	AUS-15	

表19 A地区 III層 礫集中一覧表

関連する 遺構	遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	平面 形態	規模 (m)		出土遺物			関連する 遺構	備考	
							長径	短径	土器	石器等	その他			
—	AUS-1	全体 集中部分	24	11	H・I -17区	Ⅲ層	— 楕円形	3.31 0.54	2.04 0.44	Ⅶ群	フリイク たたき石 砥石 台石 U・Rレキ レキ	—		遺物番号:19
AUPS-1	AUS-2	A 全体 集中部分	14	3	Y-17区	Ⅲ層	— 長方形	0.82 0.40	0.62 0.33	—	たたき石 U・Rレキ レキ	—		
		B 全体 集中部分					— 長方形	1.70 0.29	0.81 0.20					
		C 全体					—	0.66	0.41					
AUPS-3	AUS-3	全体	16	5	Z-17区	Ⅲ層	—	0.60	0.39	—	すり石 U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-4	全体 集中部分	24	11	I-15区	Ⅲ層	— 楕円形	1.04 0.26	0.38 0.18	—	たたき石 U・Rレキ レキ	—		遺物番号:6 の一部
—	AUS-5	全体	24	11	a・b- 21・22区	Ⅲ層	—	1.77	1.64	—	レキ	炭化材	(付属遺構)	
		炭化物集中1					— 不整な 楕円形	0.66	0.40					
		炭化物集中2					— 隅丸方形	0.28	0.24					
—	AUS-6	A 全体 集中部分	22	10	Y-14区	Ⅲ層	— 長方形	1.84 0.65	1.02 0.34	—	たたき石 U・Rレキ レキ	—	AUF-9 AUF-11	
		B 全体 集中部分					— 長方形	0.56 0.36	0.54 0.20					
		C 全体 集中部分					— 長方形	3.60 0.20	2.03 0.15					
—	AUS-7	全体 集中部分	24	12	d-24区	Ⅲ層	— 長方形	0.25 0.16	0.25 0.14	—	U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-8	全体 集中部分	21	10	Y- 21・22区	Ⅲ層	— 楕円形	2.38 0.14	1.80 0.09	—	U・Rレキ レキ	—	AUF-7	
AUPS-5	AUS-9	A 全体	18	7	X-22区	Ⅲ層	—	1.66	0.99	—	たたき石 台石 U・Rレキ レキ	—		
		B 全体					—	2.28	0.63					
—	AUS-10	全体	25	12	V・W -19区	Ⅲ層	—	3.29	2.16	—	たたき石 U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-11	全体	25	12	W- 17・18区	Ⅲ層	—	3.24	1.93	—	砥石 U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-12	B 全体 集中部分	25	12	b・c -17区	Ⅲ層	— 長方形	2.55 0.28	1.61 0.20	—	U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-13	全体	26	12	N・O -14・15区	Ⅲ層	—	0.40	0.32	—	たたき石 U・Rレキ レキ	—		
—	AUS-14	全体 集中部分	21	11	S-8区	Ⅲ層	— 長方形	0.89 0.46	0.90 0.20	—	レキ	—	AUF-12	
—	AUS-15	全体 集中部分	23	11	S・T -11区	Ⅲ層	— 長方形	2.06 0.14	1.16 0.12	—	U・Rレキ レキ	—	AUF-13	
—	AUS-16	全体 集中部分	26	12	U- 10・11区	Ⅲ層	— 長方形	1.80 0.38	1.58 0.22	—	石核 レキ	—		
AUPS-7	AUS-17	全体 集中部分	20	9	W-10区	Ⅲ層	— 正方形	1.43 0.16	0.62 0.15	—	レキ	—		
—	AUS-18	全体 集中部分	26	12	T-10区	Ⅲ層	— 正方形	1.17 0.22	1.03 0.20	—	レキ	—		

表20 A地区 III層 柱穴・杭穴一覧表

関連する遺構名	遺構名	図	図版	グリッド	坑底面形態		規模 (m)			特徴	層位		出土遺物	備考
					平面	断面	確認面長径	坑底面長径	深さ		確認面	坑底面		
—	ASP-1	27	—	b-21区	円形	丸	0.23	0.08	0.57	—	IV層	VI層	—	
AUPS-6	ASP-2	19	8	c-20区	円形	尖	0.22	0.03	0.57	—	IV層	VI層	石鏃	
	ASP-3	19	8	c-20区	円形	尖	0.20	0.03	0.54	—	IV層	VI層	—	
	ASP-4	19	8	c-21区	円形	尖	0.25	0.04	0.63	—	IV層	VI層	レキ	
	ASP-5	19	8	c-21区	円形	尖	0.21	0.02	0.50	—	IV層	VI層	—	
	ASP-6	27	—	a-22区	円形	丸	0.20	0.05	0.45	—	IV層	VI層	—	AUS-5と重複
AUPS-4	ASP-7	17	6	b-20区	円形	丸	0.10	0.02	0.29	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-8	17	6	b-19区	円形	丸	0.16	0.03	0.37	斜め	IV層	V層	—	
—	ASP-9	27	—	a-20区	円形	丸	0.16	0.04	0.42	—	IV層	V層	—	
—	ASP-10	27	—	a-20区	円形	丸	0.18	0.06	0.29	—	IV層	V層	—	
—	ASP-11	27	—	Z-20区	円形	丸	0.18	0.05	0.47	—	IV層	V層	—	
—	ASP-12	27	13	a-19区	円形	丸	0.11	0.05	0.61	—	IV層	VI層	—	
AUPS-5	ASP-13	18	7	X-21区	円形	丸	0.11	0.02	0.48	—	IV層	VI層	—	
	ASP-14	18	—	Y-22区	円形	丸	0.11	0.03	0.22	—	IV層	V層	—	
	ASP-15	18	—	X-22区	円形	丸	0.09	0.02	0.19	—	IV層	V層	—	
	ASP-16	18	—	X-22区	円形	丸	0.09	0.03	0.42	—	IV層	VI層	—	
	ASP-17	18	7	X-22区	円形	丸	0.09	0.02	0.53	—	IV層	VI層	—	
—	ASP-18	27	—	Z-23区	円形	丸	0.08	0.02	0.14	斜め	IV層	IV層	—	
AUPS-7	ASP-19	20	カラー4	V-10区	円形	尖	0.12	0.03	0.54	—	IV層	VI層	—	
	ASP-20	20	カラー4 9	V-10区	円形	尖	0.14	0.02	0.64	—	IV層	VI層	—	
AUPS-3	ASP-21	20	9	V-10区	円形	尖	0.12	0.02	0.41	—	IV層	VI層	—	
	ASP-22	16	5	Z-17区	円形	丸	0.12	0.03	0.24	—	IV層	V層	—	
	ASP-23	16	—	Z-17区	円形	丸	0.09	0.04	0.22	—	IV層	V層	—	
	ASP-24	16	—	Z-17区	円形	丸	0.11	0.03	0.29	—	IV層	V層	—	
	ASP-25	16	5	a-17区	円形	丸	0.10	0.02	0.39	斜め	IV層	VI層	—	
—	ASP-26	27	—	U-14区	円形	尖	0.10	0.02	0.39	—	IV層	V層	—	
—	ASP-27	27	12	U-13区	円形	尖	0.10	0.02	0.46	—	IV層	VI層	—	
—	ASP-28	27	—	Z-16区	円形	丸	0.07	0.02	0.18	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-29	15	—	Y-16区	円形	尖	0.07	0.02	0.38	—	IV層	V層	—	
	ASP-30	15	—	Y-16区	円形	丸	0.10	0.04	0.18	断面 一部不整形	IV層	V層	—	
AUPS-1	ASP-31	14	—	Y-16区	円形	丸	0.19	0.04	0.18	斜め	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-32	15	4	Y-17区	円形	尖	0.08	0.02	0.17	—	IV層	V層	—	
	ASP-33	15	4	Y-17区	円形	尖	0.08	0.01	0.18	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-34	15	4	X-17区	円形	丸	0.12	0.04	0.20	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-35	15	4	X-16区	円形	尖	0.10	0.02	0.26	—	IV層	V層	—	
AUPS-1	ASP-36	14	3	X-16区	円形	丸	0.09	0.02	0.38	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-37	15	—	X-16区	円形	丸	0.11	0.02	0.21	—	IV層	V層	—	
	ASP-38	15	4	X-16区	楕円形	尖	0.13	0.02	0.44	—	IV層	VI層	—	
AUPS-1	ASP-39	14	—	X-17区	円形	丸	0.13	0.04	0.23	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-40	15	—	X-15区	円形	尖	0.10	0.02	0.54	—	IV層	VI層	—	
—	ASP-41	28	—	T-12区	円形	丸	0.10	0.03	0.24	—	IV層	V層	—	
—	ASP-42	28	—	U-10区	円形	丸	0.10	0.03	0.22	—	IV層	V層	—	

表21 A地区 III層 土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)			付属遺構	出土遺物			備考	
					確認面		最大深		土器	石器等	その他		
					長径	短径							
AUP-1	29	13	J・K-18区	長楕円形 楕円形	1.40	0.60	(1.31) 0.70	0.48 0.48	0.10	—	—	炭化材 炭化物	北東側部分 南西側部分

表22 A地区 III層 遺構出土土器点数表

遺構名	AUS-1		合計
	III層	合計	
遺物種別/層位			
土器			
時期			
部位			
残存状態			
複数部位	0	0	0
口縁部	良好	1	1
	剥離	0	0
	磨耗	0	0
	小破片	0	0
底部	良好	0	0
	剥離	0	0
	磨耗	0	0
	小破片	0	0
胴部	良好	1	1
	剥離	1	2
	磨耗	1	2
	小破片	2	2
不明	良好	0	0
	剥離	0	0
	磨耗	0	0
	小破片	0	0
小計	4	4	4
合計	4	4	4

表23 A地区 III層 遺構出土剥片石器点数表

遺構名	ASP-2		AUF-1		AUS-1		AUS-16		合計
	覆土	合計	III層	合計	III層	合計	III層	合計	
器種名・分類/層位									
器種									
残存状態									
岩石									
石鏃	完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	準完形	1	1	0	0	0	0	0	1
	半形	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	1	1	0	0	0	0	0	1
石槍・ナイフ	完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	準完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	半形	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0
石錐	完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	準完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	半形	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0
つまみ付きナイフ	完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	準完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	半形	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0
スクレイパー	完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	準完形	0	0	0	0	0	0	0	0
	半形	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0
U・Rフレイク	0	0	0	0	0	0	0	0	
石核	チャート	0	1	1	0	1	1	1	2
フレイク	黒曜石	0	0	2	2	0	2	0	2
原石		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	1	2	2	1	5		

表26 A地区 III層 VII群復原土器観察表 (G-20区・Q-9区)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
30	1	34	G-20区	III層	—	5	(4.5)	14.4	—	160	口縁~頸部	深鉢	VII群	
接合破片総点数		5	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	微~細粒	種類	鈹物主体	量	少量	備考	—			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
	ミガキ		(褐灰色)	黒色化炭化物付着	割れ口にも炭化物付着	口唇部 (40%)								
	太沈線文「半円状」の押捺文 平行沈線文 ミガキ		灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化炭化物付着	半截竹管状工具による施文	口縁部 (50%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—				
面	平行沈線文 ミガキ		(褐灰色)	黒色化炭化物付着	半截竹管状工具による施文	頸部 (20%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—	面			

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
30	2	34	Q-9区	III層	—	7	(14.7)	—	(6.7)	440	胴部中位~底部	深鉢	VII群
接合破片総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鈹物主体	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	矢羽根状の刻み		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化炭化物付着 赤色化 (橙色 5YR7/6)	半截竹管状工具による施文	胴部中位 (5%)	ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化炭化物付着	—			
	ヘラミガキ ナデ		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化炭化物付着		胴部下位~底部 (20%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	—			
面	ヘラミガキ ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化炭化物付着	(剥離)	底面 (5%)	—	—	—	(剥離)	面		

表27 A地区 III層 遺構・包含層出土破片土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)			
						小計	合計								
胎土 (混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
30	3	37	AUS-1	III層	—	1	口縁部	19.5	深鉢	VII群	補修孔				
無		細粒		岩石・鈹物ともにあり		棒状沈線文・刺突文 ナデ		ミガキ	(口唇部) ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	炭化物付着		
30	4	37	N-15区	III層	—	1	口縁部	9.1	深鉢	VII群					
無		細粒		鈹物主体		半截竹管状平行沈線文・刻み ナデ		ミガキ	(口唇部) ミガキ	(褐灰色)	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	黒色化炭化物付着		
30	5	37	R-11区	III層	—	1	胴部	12.1	深鉢	VII群					
無		細粒		鈹物主体		半截竹管状平行沈線文・刻み ミガキ		ナデ	—	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	黒色化炭化物付着		
30	6	37	T-12区	III層	—	1	胴部	14.2	深鉢	VII群	補修孔				
無		中~細粒		鈹物主体		半截竹管状平行沈線文・刻み ナデ		ミガキ	—	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	黒色化炭化物付着		
30	7	37	E-17区	III層	—	2	胴部	122.8	深鉢	VII群	補修孔				
無		中粒		鈹物主体 (石英)		貼付円襷帯半截竹管状平行沈線文・刻み ナデ・ミガキ		ミガキ	(貼付円襷帯) 同心円状の圧痕文	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	(黒褐色)	黒色化炭化物付着	黒色化炭化物付着		

表28 A地区 III層 遺構・包含層出土石器等観察表

図	掲載		出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
	番号	図版					長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
31	1	42	AUF-1	III層	2	石核	8.6	7.5	3.5	236.8	チャート	灰白色 2.5Y8/2	—	表面・周縁 打ち欠き	火打石
31	2	45	AUF-4	III層	1	たたき石	4.1	8.6	2.0	80.6	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/3 軟質	完形	たたき痕 平滑面 被熱	
31	3	45	AUF-4	III層	13	たたき石	5.3	4.0	2.1	49.7	砂岩	暗灰色 2.5Y5/2 細粒 軟質	完形	たたき痕 平滑面	
31	4	45	AUS-1	III層	14	台石・石皿	17.5	12.9	5.5	2380	砂岩	(褐灰色) 細粒 軟質	完形	たたき痕 すり痕 平滑面 被熱	
31	5	45	AUS-3	III層	—	すり石	14.4	12.0	2.7	400	凝灰岩	(灰白色) 軟質	完形	すり痕 凹状の使用面	
31	6	45	AUS-4	III層	6	たたき石	10.2	3.6	2.4	92.6	砂岩	(褐灰色) 中粒 軟質	完形	たたき痕 平滑面	
31	7	42	AUS-16	III層	2	石核	9.8	7.6	3.9	224.4	チャート	(灰白色) 原礫面	—	割れ 打ち欠き	火打石
32	1	42	X-10区	III層	—	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.5	黒曜石	—	完形	—	
32	2	42	Z-14区	III層	—	つまみ付き ナイフ	7.5	2.4	1.7	24.2	チャート	褐灰色 7.5YR5/1 縞頁岩? 岩脈	完形	背面加工	
32	3	42	I-18区	III層	—	石核	11.8	9.7	4.7	720	チャート	(明緑灰色) 原礫面	—	表面・周縁 打ち欠き	火打石
32	4	45	R-9区	III層	—	石核	8.4	9.0	4.8	480	チャート	灰白色 2.5Y8/1 原礫面	—	割れ	火打石
32	5	45	W-9区	III層	—	たたき石	17.3	7.7	6.0	780	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/3 軟質	完形	たたき痕 平滑面	
32	6	45	X-14区	I層	—	たたき石	8.1	6.0	5.2	299.9	緑色泥岩	(緑灰色) やや硬質	完形	たたき痕 割れ	
32	7	45	Z-21区	I層	—	砥石	(13.5)	(7.2)	(2.5)	264.8	砂岩	(褐灰色) 細～中粒 軟質	片	砥面 割れ	
32	8	42	U-13区	III層	—	レキ	3.3	2.6	2.0	13.1	泥岩	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	完形	—	巻貝化石

表30 A地区出土 鉄製品一覧表

図	番号	図版	出土地点			層位	遺物 番号	点数	分類	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	分析番号
			建物跡	遺構	グリッド					長さ	幅	厚さ			
33	1	カラー4 4・33・41	AUPS-1	AUF-1	—	焼土	6	1	針	(3.4)	1.0	0.4	(1.9)	X線透過写真 で孔確認	分析イク3-1
33	2	カラー4 13・33・41	—	—	Z-20区	III層	1	2	接合 鉄鍋	(16.6)	(15.5)	2.5	(650)	—	分析イク3-2
33	3	カラー4 13・33・41	AUPS-2	(ASP-40)	X-15区	III層	1	1	— 棒状品	(3.5)	1.4	0.7	(9.4)	—	分析イク3-3
33	4	カラー4 13・33・41	—	—	X-21区	III層	1	2	接合 鉞先	12.6	10.2	1.0	112.7	—	分析イク3-4

表29 AUS出土レキ三軸計測表(1)

遺構		出土遺物				計測値				備考	遺構		出土遺物				計測値				備考
層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状		層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状	
AUS-1	Ⅲ層	レキ	片	砂岩	(19.5) (8.4) (11.1) 116.6	角縁	21点中7点接合	AUS-2A	Ⅲ層	レキ	片	砂岩	(8.1) (3.5) (1.9) 67.1	円縁	AUS-2A	Ⅲ層	レキ	片	砂岩	(8.1) (3.5) (1.9) 67.1	円縁
					(21.4) (9.9) (11.5) 108.2	角縁	21点中4点接合						(8.4) (3.3) (2.2) 82.5	角縁						(8.4) (3.3) (2.2) 82.5	角縁
					(5.2) (4.2) (10.5) 11.8	角縁	21点中2点接合						(8.1) (3.0) (2.1) 77.5	円縁						(8.1) (3.0) (2.1) 77.5	円縁
					(3.9) (3.5) (10.6) 10.1	角縁	21点中2点接合						(8.2) (3.5) (2.6) 88.2	円縁						(8.2) (3.5) (2.6) 88.2	円縁
					(3.4) (2.7) (10.7) 7.8	角縁	21点中2点接合						(7.9) (3.2) (1.7) 51.5	角縁						(7.9) (3.2) (1.7) 51.5	角縁
					(3.6) (3.4) (10.9) 12.5	角縁							(7.3) (3.3) (2.4) 60.3	円縁						(7.3) (3.3) (2.4) 60.3	円縁
					(3.9) (2.3) (1.0) 15.2	角縁	5点中3点接合						(7.5) (3.6) (2.8) 94.1	円縁						(7.5) (3.6) (2.8) 94.1	円縁
					(2.0) (1.2) (10.6) 3.3	角縁							(7.3) (2.7) (2.7) 73.2	角縁						(7.3) (2.7) (2.7) 73.2	角縁
					(2.0) (1.1) (10.4) 2.5	角縁							(7.3) (3.3) (2.4) 73.2	円縁						(7.3) (3.3) (2.4) 73.2	円縁
					(7.3) (2.2) (1.1) 17.3	円縁	4点中2点接合						(7.3) (3.4) (2.2) 61.8	円縁						(7.3) (3.4) (2.2) 61.8	円縁
					(4.7) (2.7) (2.1) 29.9	円縁	4点中2点接合						(6.8) (4.3) (1.8) 72.4	角縁						(6.8) (4.3) (1.8) 72.4	角縁
					(7.8) (3.3) (3.0) 95.0	円縁	3点中3点接合						(6.9) (3.5) (1.9) 54.6	角縁						(6.9) (3.5) (1.9) 54.6	角縁
					(3.5) (1.4) (11.0) 4.1	角縁	4点中2点接合						(6.8) (4.2) (2.9) 69.0	円縁						(6.8) (4.2) (2.9) 69.0	円縁
					(2.1) (1.4) (10.7) 1.8	角縁							(7.0) (4.0) (1.7) 55.0	角縁						(7.0) (4.0) (1.7) 55.0	角縁
					(1.7) (1.0) (10.4) 4.5	角縁							(6.8) (3.1) (2.1) 77.3	円縁						(6.8) (3.1) (2.1) 77.3	円縁
					(3.5) (3.3) (12.0) 31.5	円縁							(6.5) (3.5) (2.8) 73.5	円縁						(6.5) (3.5) (2.8) 73.5	円縁
					(3.9) (3.8) (11.8) 34.9	円縁							(6.7) (3.1) (1.6) 37.6	円縁						(6.7) (3.1) (1.6) 37.6	円縁
					(3.7) (2.4) (12.5) 28.4	円縁							(6.5) (3.1) (2.0) 49.8	円縁						(6.5) (3.1) (2.0) 49.8	円縁
					(3.0) (1.4) (11.8) 7.0	円縁							(6.4) (3.1) (2.2) 50.6	円縁						(6.4) (3.1) (2.2) 50.6	円縁
(2.5) (2.3) (12.0) 11.7	円縁	3点中2点接合	(6.1) (3.9) (2.6) 71.4	円縁	(6.1) (3.9) (2.6) 71.4	円縁															
(3.0) (4.7) (2.7) 26.8	円縁		(6.1) (3.8) (2.0) 59.0	角縁	(6.1) (3.8) (2.0) 59.0	角縁															
(5.7) (4.2) (3.3) 87.1	円縁		(6.4) (3.2) (2.2) 54.1	円縁	(6.4) (3.2) (2.2) 54.1	円縁															
(2.5) (3.3) (12.2) 9.5	円縁		(6.4) (3.4) (2.1) 57.3	円縁	(6.4) (3.4) (2.1) 57.3	円縁															
(25.9) (20.3) (5.3) 487.5	角縁		(6.0) (3.3) (2.2) 54.7	円縁	(6.0) (3.3) (2.2) 54.7	円縁															
(7.0) (3.0) (2.5) 88.4	円縁	2点中2点接合	(5.4) (2.8) (2.0) 47.6	角縁	(5.4) (2.8) (2.0) 47.6	角縁															
(5.5) (4.6) (11.0) 29.5	角縁	4点中5点接合	(6.2) (3.1) (3.9) 71.9	円縁	(6.2) (3.1) (3.9) 71.9	円縁															
(5.0) (3.0) (10.9) 12.9	角縁	4点中2点接合	(6.8) (3.6) (1.7) 53.3	円縁	(6.8) (3.6) (1.7) 53.3	円縁															
(2.5) (2.4) (12.1) 17.1	円縁		(5.8) (2.4) (2.3) 55.1	円縁	(5.8) (2.4) (2.3) 55.1	円縁															
(7.0) (3.2) (12.0) 46.9	円縁	3点中2点接合	(5.8) (3.2) (2.0) 43.1	円縁	(5.8) (3.2) (2.0) 43.1	円縁															
(6.7) (3.9) (12.5) 59.8	円縁		(6.3) (2.3) (2.3) 40.8	円縁	(6.3) (2.3) (2.3) 40.8	円縁															
(7.9) (4.0) (2.5) 96.8	角縁		(3.2) (2.6) (1.1) 21.9	角縁	(3.2) (2.6) (1.1) 21.9	角縁															
(3.7) (2.9) (12.7) 48.3	角縁	被熱	(4.0) (2.7) (1.1) 10.5	円縁	(4.0) (2.7) (1.1) 10.5	円縁															
(7.6) (4.6) (2.6) 81.4	円縁		(5.7) (3.8) (2.6) 58.4	角縁	(5.7) (3.8) (2.6) 58.4	角縁															
(8.7) (5.0) (2.8) 188.4	円縁		(4.4) (4.0) (1.9) 37.2	円縁	(4.4) (4.0) (1.9) 37.2	円縁															
(8.3) (4.3) (3.2) 115.3	円縁		(4.2) (1.4) (1.0) 5.7	円縁	(4.2) (1.4) (1.0) 5.7	円縁															
(8.5) (3.5) (3.1) 121.0	円縁		(4.1) (1.8) (1.7) 14.9	角縁	(4.1) (1.8) (1.7) 14.9	角縁															
(9.1) (4.6) (2.1) 89.5	円縁		(3.1) (2.5) (1.7) 16.1	円縁	(3.1) (2.5) (1.7) 16.1	円縁															
(9.0) (3.2) (2.5) 84.3	円縁		(3.5) (2.4) (1.2) 11.0	角縁	(3.5) (2.4) (1.2) 11.0	角縁															
(9.1) (3.3) (1.7) 62.6	角縁		(3.3) (2.0) (1.4) 12.0	円縁	(3.3) (2.0) (1.4) 12.0	円縁															
(8.5) (3.8) (2.1) 76.2	円縁		(2.8) (2.1) (1.2) 9.1	角縁	(2.8) (2.1) (1.2) 9.1	角縁															
(7.8) (3.9) (3.2) 111.2	角縁		(1.9) (1.8) (1.1) 4.9	角縁	(1.9) (1.8) (1.1) 4.9	角縁															
(8.2) (4.2) (2.6) 99.7	角縁		(2.3) (1.4) (1.0) 7.1	角縁	(2.3) (1.4) (1.0) 7.1	角縁															
(7.5) (3.9) (2.3) 79.1	円縁		(6.9) (3.1) (2.1) 58.1	角縁	(6.9) (3.1) (2.1) 58.1	角縁															
(7.7) (4.7) (1.9) 73.3	円縁		(6.7) (3.1) (2.5) 73.2	角縁	(6.7) (3.1) (2.5) 73.2	角縁															
(7.5) (4.0) (2.1) 76.6	円縁		(3.8) (2.6) (1.2) 9.4	円縁	(3.8) (2.6) (1.2) 9.4	円縁															
(6.7) (4.0) (3.1) 98.2	円縁		(4.6) (4.3) (2.2) 56.2	円縁	(4.6) (4.3) (2.2) 56.2	円縁															
(6.9) (4.3) (2.2) 69.1	角縁		(2.8) (1.7) (1.0) 4.9	円縁	(2.8) (1.7) (1.0) 4.9	円縁															
(6.5) (4.0) (1.5) 55.4	角縁		(2.6) (2.2) (1.3) 6.4	円縁	(2.6) (2.2) (1.3) 6.4	円縁															
(6.5) (4.2) (2.5) 82.4	円縁		(3.7) (3.6) (1.6) 59.5	角縁	(3.7) (3.6) (1.6) 59.5	角縁															
(6.7) (3.3) (2.1) 70.3	円縁		(3.2) (3.5) (3.4) 56.0	角縁	(3.2) (3.5) (3.4) 56.0	角縁															
(6.7) (4.1) (1.5) 49.6	角縁		(1.5) (2.8) (2.4) 39.1	円縁	(1.5) (2.8) (2.4) 39.1	円縁															
(6.7) (3.6) (1.5) 44.1	角縁		(6.1) (3.3) (2.1) 56.1	円縁	(6.1) (3.3) (2.1) 56.1	円縁															
(6.0) (4.2) (2.2) 74.8	円縁		(5.5) (3.6) (1.6) 44.6	角縁	(5.5) (3.6) (1.6) 44.6	角縁															
(5.8) (3.2) (3.1) 70.9	円縁		(4.4) (3.5) (1.5) 24.8	円縁	(4.4) (3.5) (1.5) 24.8	円縁															
(6.2) (4.1) (1.5) 43.5	円縁		(7.1) (3.4) (1.8) 44.7	角縁	(7.1) (3.4) (1.8) 44.7	角縁															
(5.5) (4.5) (10.9) 22.1	円縁	23点中3点接合	(9.7) (6.8) (3.8) 266.0	角縁	(9.7) (6.8) (3.8) 266.0	角縁															
(4.3) (2.6) (1.5) 25.8	円縁	23点中2点接合	(7.6) (3.7) (2.3) 79.3	角縁	(7.6) (3.7) (2.3) 79.3	角縁															
(5.3) (2.6) (1.2) 25.3	角縁		(7.6) (4.0) (2.6) 74.1	円縁	(7.6) (4.0) (2.6) 74.1	円縁															
(4.9) (2.6) (1.3) 24.9	角縁		(10.0) (4.0) (3.2) 131.0	角縁	(10.0) (4.0) (3.2) 131.0	角縁															
(4.3) (4.1) (1.4) 26.1	円縁		(9.6) (3.6) (3.6) 139.8	円縁	(9.6) (3.6) (3.6) 139.8	円縁															
(3.3) (2.3) (10.8) 7.4	円縁		(9.4) (4.1) (2.6) 133.3	角縁	(9.4) (4.1) (2.6) 133.3	角縁															
(3.3) (2.7) (12.0) 31.4	円縁		(8.9) (4.7) (2.2) 113.0	円縁	(8.9) (4.7) (2.2) 113.0	円縁															
(5.6) (2.7) (11.5) 29.2	円縁		(8.2) (3.3) (3.4) 128.2	角縁	(8.2) (3.3) (3.4) 128.2	角縁															
(5.5) (2.0) (11.8) 18.1	円縁		(9.4) (5.0) (2.4) 129.1	角縁	(9.4) (5.0) (2.4) 129.1	角縁															
(3.1) (2.0) (12.5) 23.9	円縁		(8.8) (3.0) (2.8) 81.1	円縁	(8.8) (3.0) (2.8) 81.1	円縁															
(3.6) (2.1) (11.4) 10.8	円縁		(7.3) (4.5) (2.2) 94.0	円縁	(7.3) (4.5) (2.2) 94.0	円縁															
(3.3) (2.9) (12.0) 18.7	円縁		(7.0) (3.0) (2.1) 58.2	円縁	(7.0) (3.0) (2.1) 58.2	円縁															
(3.1) (1.7) (11.0) 7.0	円縁		(6.5) (4.0) (2.6) 102.1	角縁	(6.5) (4.0) (2.6) 102.1	角縁															
(3.0) (2.5) (11.6) 10.9	円縁		(6.4) (4.2) (2.4) 81.2	円縁	(6.4) (4.2) (2.4) 81.2	円縁															
(2.6) (2.1) (12.0) 10.6	円縁		(6.0) (3.1) (1.8) 44.8	円縁	(6.0) (3.1) (1.8) 44.8	円縁															
(2.9) (2.7) (12.3) 15.4	円縁		(4.8) (2.9) (1.4) 24.1	円縁	(4.8) (2.9) (1.4) 24.1	円縁															
(2.7) (2.0) (11.6) 8.8	円縁		(4.0) (2.7) (1.5) 21.7	円縁	(4.0) (2.7) (1.5) 21.7	円縁															
(2.2) (2.1) (11.0) 9.1	円縁		(4.2) (2.4) (1.4) 15.7	角縁	(4.2) (2.4) (1.4) 15.7	角縁															
(2.9) (1.6) (11.5) 5.3	円縁		(4.0) (1.7) (1.5) 11.5	円縁	(4.0) (1.7) (1.5) 11.5	円縁															
(2.2) (2.2) (11.1) 3.9	円縁		(3.2) (2.3) (2.0) 17.7	角縁	(3.2) (2.3) (2.0) 17.7	角縁															
(6.0) (3.0) (13.1) 175.2	角縁		(3.5) (2.5) (1.5) 13.1	円縁	(3.5) (2.5) (1.5) 13.1	円縁															
(8.8) (4.0) (13.5) 176.8	角縁		(10.5) (4.0) (4.9) 207.4	円縁	(10.5) (4.0) (4.9) 207.4	円縁															
(6.1) (2.8) (12.4) 63.0	角縁		(9.5) (5.0) (1.9) 117.8	円縁	(9.5) (5.0) (1.9) 117.8	円縁															
(6.2) (2.4) (11.9) 44.8	角縁		(10.0) (4.6) (1.9) 112.2	角縁	(10.0) (4.6) (1.9) 112.2	角縁															
(3.6) (3.6) (11.6) 23.2	角縁		(8.1) (4.0) (3.7) 137.0	円縁	(8.1) (4.0) (3.7) 137.0	円縁															
(7.9) (3.6) (2.2) 83.7	角縁		(7.1) (3.8) (3.6) 103.4	円縁	(7.1) (3.8) (3.6) 103.4	円縁															
(7.0) (3.9) (1.8) 64.7	角縁		(6.6) (4.5) (3.2) 139.2	角縁	(6.6) (4.5) (3.2) 139.2	角縁															
(9.0) (5.2) (3.0) 167.4	円縁		(3.7) (4.8) (2.4) 94.3	角縁	(3.7) (4.8) (2.4) 94.3	角縁															
(8.2) (3.5) (3.1) 107.7	円縁		(3.7) (3.8) (2.7) 76.1	円縁	(3.7) (3.8) (2.7) 76.1	円縁															
(7.8) (3.4) (3.1) 87.9	円縁		(4.9) (2.7) (1.6) 32.0	円縁	(4.9) (2.7) (1.6) 32.0	円縁															
(8.7) (4.5) (12.0) 123.0	円縁		(4.2) (4.3) (2.2) 40.3	角縁	(4.2) (4.3) (2.2) 40.3	角縁															
(6.7) (3.9) (11.6) 46.7	円縁		(3.1) (2.3) (1.9) 24.1	角縁	(3.1) (2.3) (1.9) 24.1	角縁															
(5.1) (2.9) (12.7) 39.5	円縁		(4.9) (2.6) (1.8) 27.4	円縁	(4.9) (2.6) (1.8) 27.4	円縁															
(8.2) (4.0) (3.5) 119.8	角縁	10点中4点接合	(3.1) (3.0) (1.5) 20.7	角縁	(3.1) (3.0) (1.5) 20.7	角縁															
(6.8) (3.1) (12.2) 36.2	角縁	10点中2点接合	(3.7) (3.6) (1.6) 20.9	円縁	(3.7) (3.6) (1.6) 20.9	円縁															
(3.4) (2.2) (12.1) 18.2	角縁		(8.7) (4.4) (2.9) 108.5	角縁	(8.7) (4.4) (2.9) 108.5	角縁															
(4.5) (2.0) (10.8) 5.7	円縁		(9.4) (4.5) (3.1) 119.6	角縁	(9.4) (4.5) (3.1) 119.6	角縁															
(3.3) (1.6) (11.6) 8.8	円縁		(9.5) (3.5) (1.6) 45.7	角縁	(9.5) (3.5) (1.6) 45.7	角縁															
(3.0) (1.6) (11.6) 7.0	円縁		(4.0) (3.0) (2.5) 27.3	円縁	(4.0) (3.0) (2.5) 27.3	円縁															
(1.3) (3.3) (10.8) 4.2	角縁		(6.7) (4.6) (2.5) 126.6	角縁	(6.7) (4.6) (2.5) 126.6	角縁															
(8.0) (3.8) (1.6) 60.2	角縁		(5.4) (5.5) (2.0) 83.7	角縁	(5.4) (5.5) (2.0) 83.7	角縁															
(7.7) (4.1) (1.4) 38.6	円縁		(7.4) (4.7) (2.3) 73.1	角縁	(7.4) (4.7) (2.3) 73.1	角縁															
(8.1) (4.2) (2.2) 80.0	円縁		(4.9) (4.3) (1.9) 49.3	円縁	(4.9) (4.3) (1.9) 49.3	円縁															
(5.2) (4.0) (11.0) 31.9	円縁		(3.5) (2.3) (1.4) 26.1	円縁	(3.5) (2.3) (1.4) 26.1	円縁															
(2.0) (2.0) (10.6) 3.8	円縁		(3.4) (3.4) (1.7) 21.5	円縁	(3.4) (3.4) (1.7) 21.5	円縁															
(3.2) (2.6) (11.5) 13.4	円縁		(3.2) (2.9) (1.6) 15.5	円縁	(3.2) (2.9) (1.6) 15.5	円縁															
(3.2) (1.8) (11.3) 7.6	円縁		(2.6) (2.3) (1.3) 9.9	円縁	(2.6) (2.3) (1.3) 9.9	円縁															
(7.0) (3.6) (3.4) 108.0	円縁		(3.7) (1.5) (1.5) 11.1	角縁	(3.7) (1.5) (1.5) 11.1	角縁															
(8.6) (4.9) (1.8) 82.2	円縁		(3.7) (2.5) (1.6) 8.3	円縁	(3.7) (2.5) (1.6) 8.3	円縁															
(7.3) (3.4) (1.8) 62.2	円縁																				

表29 AUS出土レキ三軸計測表(3)

出土遺物				計測値					備考	出土遺物				計測値					備考		
遺構	層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm		重量 g	形状	遺構	層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm		中軸 cm	短軸 cm
AUS-6B	Ⅲ層	-	レキ	片	凝灰岩	(12.0)	(1.2)	(1.0)	1.3	円盤	-	-	-	レキ	片	砂岩	(13.2)	(2.1)	(1.4)	14.7	円盤
						(12.5)	(1.2)	(0.8)	1.7	円盤							(14.0)	(2.8)	(1.5)	17.6	円盤
						(11.9)	(1.3)	(0.8)	1.9	円盤							(14.0)	(3.0)	(2.1)	22.9	円盤
						(11.0)	(1.3)	(0.4)	0.8	円盤							(13.9)	(3.5)	(2.0)	39.0	角盤
						(11.0)	(1.1)	(0.4)	0.7	円盤							(13.7)	(3.2)	(2.2)	32.8	円盤
						(12.1)	(0.6)	(0.5)	0.8	角盤							(13.8)	(2.9)	(2.2)	36.1	角盤
						(2.7)	(1.8)	(0.8)	3.9	角盤							(3.2)	(2.7)	(2.2)	27.4	角盤
						6.9	2.8	1.5	37.9	角盤							(3.2)	(3.0)	(2.1)	27.1	角盤
						6.5	3.0	1.8	41.0	角盤							(3.5)	(3.3)	(0.8)	9.6	円盤
						6.8	3.6	2.6	76.4	角盤							(3.2)	(2.7)	(1.0)	9.7	角盤
6.3	3.3	2.1	46.5	円盤	(3.0)	(2.1)	(2.0)	10.1	角盤												
6.9	4.1	1.9	58.7	円盤	(3.3)	(2.0)	(1.6)	12.0	円盤												
6.6	3.8	3.0	107.9	円盤	(2.8)	(1.8)	(1.7)	7.1	円盤												
AUS-6C	Ⅲ層	-	レキ	完形	凝灰岩	6.1	3.8	2.5	65.6	角盤	-	-	-	レキ	完形	凝灰岩	(12.2)	(2.1)	(2.0)	11.1	円盤
						6.7	3.5	2.7	57.2	角盤							(14.2)	(3.8)	(1.8)	28.7	円盤
						(8.9)	(2.7)	1.7	46.9	角盤							(1.7)	(3.6)	(1.4)	29.8	円盤
						8.9	3.4	1.5	43.4	角盤							(6.1)	(2.2)	(2.1)	34.9	角盤
						6.8	3.3	2.2	61.4	角盤							(4.2)	(2.3)	(2.1)	26.1	円盤
						6.6	4.2	2.2	66.5	角盤							(4.3)	(3.7)	(2.3)	43.7	角盤
						6.6	3.0	2.0	44.0	角盤							(4.5)	(3.9)	(1.6)	31.5	円盤
						5.4	4.1	1.4	31.8	円盤							(4.1)	(3.2)	(2.1)	21.6	円盤
						(7.7)	(3.4)	(1.5)	40.1	角盤							(3.4)	(2.6)	(0.9)	9.4	角盤
						7.1	3.5	1.4	34.0	角盤							(3.1)	(3.0)	(1.0)	11.4	円盤
(5.8)	3.3	1.6	46.8	角盤	(2.9)	(1.8)	(1.5)	9.1	円盤												
(7.7)	3.5	1.5	48.3	円盤	(3.1)	(1.7)	(1.5)	4.7	円盤												
8.6	4.4	1.5	38.6	角盤	(2.7)	(1.3)	(1.2)	4.7	円盤												
5.8	3.1	2.6	57.1	角盤	(2.6)	(2.4)	(1.5)	7.8	角盤												
2.1	2.2	(0.6)	1.6	角盤	(2.2)	(2.1)	(0.7)	7.0	角盤												
(3.9)	(2.6)	(1.1)	11.4	角盤	(3.4)	(1.6)	(1.1)	4.9	円盤												
(3.7)	(2.7)	(1.0)	9.4	角盤	(2.9)	(0.6)	(2.0)	4.0	角盤												
(7.9)	(5.0)	(2.0)	152.2	角盤	(3.0)	(1.0)	(1.0)	4.3	円盤												
(4.9)	(3.7)	(2.5)	41.0	角盤	(2.8)	(1.6)	(0.9)	2.7	円盤												
(5.2)	(3.2)	(2.5)	38.5	角盤	(2.9)	(1.5)	(0.4)	1.2	円盤												
(3.6)	(3.5)	2.7	40.7	角盤	(2.7)	(1.4)	(0.7)	2.5	円盤												
9.1	5.3	1.9	122.6	円盤	(2.5)	(1.2)	(0.8)	2.3	円盤												
(8.9)	4.3	2.4	128.0	円盤	(2.6)	(1.8)	(0.6)	2.7	円盤												
(4.9)	(3.7)	(2.0)	48.6	円盤	(2.2)	(1.1)	(1.0)	3.7	円盤												
(3.0)	(2.1)	(1.0)	7.7	角盤	(3.2)	(1.5)	(0.9)	3.2	角盤												
9.0	3.2	2.0	65.2	角盤	(2.2)	(1.5)	(1.0)	3.6	角盤												
8.8	3.3	2.0	70.6	角盤	(2.1)	(1.7)	(0.7)	2.1	角盤												
7.8	2.9	1.7	51.6	角盤	(2.2)	(1.6)	(1.1)	2.7	円盤												
(4.3)	(6.7)	(3.1)	127.8	角盤	(2.3)	(1.2)	(0.6)	1.9	円盤												
(6.9)	(3.9)	(2.3)	65.5	角盤	(2.0)	(1.4)	(0.8)	2.2	円盤												
7.0	2.9	1.6	41.8	角盤	(4.8)	(1.0)	(0.7)	1.3	角盤												
(6.7)	4.1	2.5	85.0	角盤	(1.5)	(1.5)	(0.4)	0.7	角盤												
(6.4)	3.0	1.7	51.2	角盤	(4.6)	(1.0)	(0.6)	1.3	円盤												
6.5	2.5	2.1	43.1	角盤	(1.5)	(1.4)	(0.5)	1.2	円盤												
6.2	3.1	2.4	47.8	角盤	(1.8)	(1.1)	(0.4)	0.4	円盤												
5.7	2.9	2.0	44.1	円盤	8.5	3.9	2.1	63.5	角盤												
5.5	3.7	2.5	51.0	角盤	8.0	3.8	2.2	63.0	角盤												
6.0	2.9	1.2	28.5	円盤	6.8	3.0	2.0	34.4	角盤												
5.9	3.7	1.6	40.4	円盤	7.2	2.4	2.0	32.0	円盤												
5.7	2.6	2.4	45.6	円盤	6.7	2.3	1.9	38.1	角盤												
5.5	2.9	2.0	46.0	円盤	6.5	4.2	1.5	48.3	円盤												
5.3	3.9	2.5	65.2	角盤	6.8	4.0	2.2	65.1	円盤												
5.2	3.0	1.2	25.5	円盤	6.7	3.7	2.0	44.3	角盤												
(3.0)	(3.5)	(1.5)	14.9	角盤	6.3	4.0	2.0	60.1	円盤												
8.1	3.4	1.1	46.6	円盤	6.1	4.0	2.0	55.3	円盤												
(7.1)	(2.1)	(1.8)	22.0	円盤	6.0	2.9	1.2	29.7	円盤												
6.0	2.6	1.3	26.3	円盤	5.8	3.9	2.3	80.7	角盤												
(4.0)	(2.9)	(2.0)	15.5	角盤	5.5	3.5	2.5	56.6	円盤												
(7.7)	(3.6)	(2.2)	71.9	角盤	5.7	3.0	1.4	29.9	円盤												
(7.6)	(2.8)	(1.5)	42.3	角盤	5.7	3.0	2.5	49.2	円盤												
(6.1)	(3.2)	(1.7)	32.1	角盤	5.5	3.1	2.0	39.5	角盤												
(5.9)	(3.1)	(1.2)	20.7	円盤	4.5	3.9	1.9	35.1	円盤												
(5.6)	(2.6)	(1.8)	21.0	角盤	3.8	3.7	1.7	19.0	円盤												
(5.2)	(4.0)	(2.6)	65.0	角盤	6.1	3.5	1.5	25.6	円盤												
5.2	3.0	2.7	48.8	円盤	6.1	3.0	1.5	34.7	円盤												
(5.0)	(3.9)	(1.9)	51.9	円盤	2.2	1.6	1.0	4.0	円盤												
(5.1)	(3.0)	(2.3)	57.4	角盤	4.3	1.3	1.3	12.9	円盤												
(4.5)	(2.1)	(1.4)	10.5	角盤	3.6	2.4	0.8	5.3	円盤												
(4.1)	(2.5)	(1.9)	23.1	角盤	3.0	1.7	0.8	2.8	円盤												
(3.5)	(2.7)	(2.2)	37.2	角盤	6.2	(3.3)	2.3	46.8	角盤												
(3.1)	(2.2)	(2.1)	14.8	角盤	(5.7)	2.2	1.5	21.9	円盤												
(3.2)	(2.0)	(1.3)	8.1	角盤	(4.4)	(3.2)	(2.4)	33.2	円盤												
(2.8)	(1.9)	(1.6)	6.0	角盤	(5.0)	(3.1)	(1.9)	36.6	角盤												
(2.6)	(1.5)	(1.1)	4.1	円盤	(3.2)	(1.5)	(0.5)	2.1	円盤												
(1.9)	(1.5)	(1.1)	3.1	円盤	(4.9)	(1.9)	(1.5)	5.9	円盤												
(1.5)	(1.5)	(1.5)	3.8	円盤	(3.5)	(2.3)	(0.7)	3.1	円盤												
(1.7)	(1.5)	(1.2)	3.8	円盤	(4.7)	(1.7)	(1.6)	5.1	角盤												
(2.4)	(1.4)	(1.2)	4.5	円盤	(2.7)	(1.7)	(1.1)	4.1	円盤												
(1.4)	(1.3)	(0.9)	1.4	角盤	(2.6)	(1.9)	(0.6)	2.6	円盤												
(8.2)	2.6	(1.7)	37.2	角盤	(2.5)	(1.6)	(1.2)	4.0	円盤												
(5.2)	(1.9)	(1.2)	12.3	円盤	(2.1)	(2.0)	(0.8)	1.9	円盤												
(4.3)	(2.2)	(1.2)	9.0	角盤	(1.3)	(1.3)	(0.8)	1.4	円盤												
(2.2)	(2.0)	(1.5)	7.0	円盤	(1.9)	(1.4)	(0.6)	1.0	円盤												
(2.0)	(1.5)	(1.3)	4.2	円盤	(2.0)	(1.4)	(0.8)	1.4	円盤												
(2.3)	(1.2)	(0.8)	2.3	角盤	(2.2)	(1.1)	(0.8)	1.0	円盤												
(2.1)	(1.0)	(1.2)	3.7	円盤	(10.4)	(9.3)	(6.2)	386.0	角盤												
(5.9)	(3.8)	(2.2)	48.4	円盤	6.7	3.4	1.5	48.6	円盤												
(3.0)	(2.6)	(2.2)	48.1	円盤	(8.9)	(2.4)	(2.0)	45.4	角盤												
(3.0)	(1.7)	(0.7)	3.3	円盤	(6.8)	(5.1)	(1.4)	33.1	角盤												
(2.3)	(1.5)	(1.1)	4.6	円盤	(5.0)	(3.8)	(1.0)	23.4	円盤												
(5.2)	(3.1)	(1.9)	32.4	円盤	(4.2)	(4.2)	(2.1)	41.9	円盤												
(3.5)	(2.5)	(0.9)	6.9	円盤	(4.1)	(3.5)	(2.2)	34.4	円盤												
(3.2)	(2.6)	(1.4)	9.6	円盤	(4.1)	(1.5)	(1.5)	15.1	円盤												
(2.1)	(2.0)	(1.4)	8.5	円盤	(3.0)	(3.7)	(1.6)	18.9	円盤												
(2.3)	(2.0)	(1.2)	5.9	円盤	(7.9)	(4.2)	(4.0)	156.4	角盤												
(2.2)	(1.5)	(1.0)	3.3	円盤	(13.1)	(4.5)	(3.6)	386.0	角盤												
(15.8)	(4.8)	(4.0)	580.0	角盤	(5.8)	(3.1)	(2.9)	68.0	角盤												
(7.1)	(4.1)	(2.1)	61.4	角盤	(7.8)	(5.0)	(2.1)	90.2	角盤												
(8.5)	(3.2)	(2.1)	52.6	角盤	(5.2)	(3.5)	(2.4)	40.8	角盤												
(6.7)	(4.4)	(2.1)	63.1	円盤	(2.4)	(1.9)	(1.5)	37.2	円盤												
(5.0)	(2.2)	(2.0)	24.6	円盤	(2.4)	(2.9)	(0.5)	3.4	角盤												
(7.8)	(2.5)	(1.9)	45.9	角盤	(2.0)	(1.8)	(0.7)	3.5	円盤												
(7.6)	(4.0)	(2.0)	72.9	角盤	(2.0)	(1.7)	(0.4)	1.5	角盤												
(7.6)	(3.7)	(2.4)	78.2	円盤	1.6	1.2	1.0	2.3	円盤												
(6.6)	(3.0)	(1.8)	47.9	角盤	7.3	3.4	1.7	52.8	円盤												
(5.6)	(3.4)	(3.4)	74.5	角盤	7.3	4.3	1.8	70.0	円盤												
(5.9)	(4.2)	1.1	33.9	円盤	6.9	3.5	2.3	68.4	円盤												
(5.5)	(4.2)	(2.3)	64.1	円盤	6.6	3.5	2.2	59.0	円盤												
(5.1)	(2.4)	(2.0)	35.7	角盤	6.4	3.5	1.6	42.1	円盤												
(4.8)	(4.1)	(2.1)	34.8	角盤	6.8	2.6	1.4	28.5	角盤												
(5.1)	(3.6)	(2.2)	46.0	角盤	6.5	3.2	2.8	48.0	角盤												
(4.9)	(4.1)	(1.3)	32.9	円盤	6.4	3.5	1.3	41.4	円盤												
(4.6)	(3.6)	(2.1)	43.1	角盤	6.3	3.6	1.9	48.6	円盤												
(3.7)	(2.5)	(1.8)	22.5	角盤	6.4	5.3	1.9	82.1	円盤												

表29 AUS出土レキ三軸計測表(4)

遺構	層位	出土遺物				計測値					備考	遺構	層位	出土遺物				計測値					備考
		遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状				遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名	長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状	
AUS-10	III層	-	レキ	完形	砂岩	6.3	2.6	1.5	32.6	角縁	-	レキ	片	砂岩	15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						5.9	3.7	2.0	55.5	円縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						5.7	2.6	2.2	43.4	角縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						4.7	3.2	1.7	35.4	円縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						2.6	2.4	1.4	9.7	角縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						18.6	13.7	11.0	33.8	円縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						18.0	5.1	12.4	88.7	角縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						17.1	14.8	12.8	122.4	角縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						6.4	12.9	11.6	30.7	角縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
						16.6	13.9	12.5	51.5	円縁					15.3	12.1	11.2	83.1	角縁				
	IV層	-	U・Rレキ	片	砂岩	16.3	14.4	13.0	65.6	角縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						15.8	12.2	12.0	33.8	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						16.0	4.7	2.2	66.2	円縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						14.8	13.9	13.0	61.2	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						14.7	11.8	11.8	22.7	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						14.5	12.6	11.8	19.3	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						15.4	12.9	11.9	798.0	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						8.0	3.9	1.9	55.3	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						12.8	11.5	11.3	8.9	角縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
						14.2	11.8	11.2	8.0	円縁					15.8	11.2	10.6	1.2	円縁				
AUS-11	III層	-	レキ	片	凝灰岩	13.0	12.0	11.5	8.0	円縁	-	レキ	片	砂岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.9	12.1	11.0	5.3	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.7	11.8	10.9	3.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.4	11.3	2.5	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.2	12.0	11.9	11.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						7.5	4.0	2.1	71.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						7.9	4.1	1.7	69.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						8.9	2.8	1.6	41.0	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						18.5	13.4	12.6	18.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.6	13.3	11.7	40.8	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-12A	III層	-	レキ	片	砂岩	15.1	13.8	12.8	46.8	角縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.9	11.8	11.6	15.7	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.9	13.4	12.9	52.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.0	12.4	11.9	31.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.0	11.7	11.5	13.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.5	13.0	11.0	12.9	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.7	12.4	11.3	13.9	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.8	12.9	11.3	12.0	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.4	12.8	11.5	11.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.6	12.3	11.0	8.9	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-12B	III層	-	レキ	片	凝灰岩	13.3	12.2	11.5	4.1	円縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.2	11.5	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-12C	III層	-	レキ	片	凝灰岩	11.8	11.8	11.8	11.8	角縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						11.8	11.8	11.8	11.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-13	III層	-	レキ	片	砂岩	11.8	8.5	11.5	12.5	円縁	-	レキ	片	砂岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						5.3	11.4	11.4	1.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.6	12.8	12.0	47.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						5.3	2.7	1.3	23.3	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						110.0	13.7	13.6	123.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						17.7	13.9	12.5	61.0	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						18.0	13.5	12.4	67.0	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.3	12.5	12.5	59.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.0	14.3	11.7	42.6	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.3	13.7	13.1	13.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-14	III層	-	レキ	片	砂岩	16.4	11.8	11.1	15.1	角縁	-	レキ	片	砂岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						15.4	13.3	11.3	26.7	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						15.2	12.1	11.5	19.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.1	13.5	12.0	20.0	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						15.2	12.1	11.5	19.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.1	13.5	12.0	20.0	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.8	13.5	11.8	34.7	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.7	12.8	12.2	42.0	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.2	13.0	12.1	34.3	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.1	12.8	11.5	21.9	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-15	III層	-	レキ	片	砂岩	14.4	13.1	12.1	23.9	角縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.9	11.9	11.4	14.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.8	12.6	11.5	15.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.4	13.8	12.4	34.7	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.2	12.1	11.6	14.8	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.5	12.7	11.4	19.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.5	13.5	11.9	17.5	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.1	13.1	11.1	9.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.6	12.8	11.0	10.5	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.7	12.6	11.4	9.3	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-16	III層	-	レキ	片	砂岩	13.5	12.7	11.6	13.0	角縁	-	レキ	片	砂岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.2	11.7	11.7	12.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.8	12.2	11.3	6.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.1	11.9	11.0	5.6	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.3	12.1	11.3	9.2	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.2	11.9	11.2	8.9	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.4	11.8	11.3	8.3	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.9	12.2	11.9	5.3	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.9	12.1	11.0	6.3	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.6	12.0	11.4	6.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-17	III層	-	レキ	片	砂岩	12.5	12.3	11.4	7.5	角縁	-	レキ	片	凝灰岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.2	12.1	11.0	4.1	円縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.2	11.7	10.9	4.6	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						13.0	12.0	11.3	5.0	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.0	11.4	11.1	3.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.3	11.3	11.1	3.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.3	12.0	11.6	2.8	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.4	11.9	11.0	2.1	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						12.0	11.2	11.1	2.2	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						16.2	11.5	11.4	13.4	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
AUS-18	III層	-	レキ	片	砂岩	15.4	12.5	12.0	27.5	角縁	-	レキ	片	砂岩	15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.8	11.8	10.9	5.5	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円縁				
						14.5	11.9	10.9	12.0	角縁					15.4	11.0	10.9	3.3	円				

表29 AUS出土レキ三軸計測表(5)

出土遺物							計測値							出土遺物							計測値													
遺構	層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名		長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状	備考	遺構	層位	遺物番号	遺物名	残存状態	岩石名		長軸 cm	中軸 cm	短軸 cm	重量 g	形状	備考									
AUS-13	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(2.7) (2.3) (1.8) 12.5	円盤						AUS-15	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(3.4) (2.7) (1.6) 11.3	円盤														
						(2.7) (1.3) (1.2) 5.6	角縁					(3.4) (2.7) (1.6) 11.3							円盤															
						(2.8) (1.8) (1.6) 8.3	角縁					(3.4) (2.7) (1.6) 11.3							円盤															
						(2.7) (2.0) (0.9) 4.7	円盤					(3.4) (2.7) (1.6) 11.3							円盤															
						(2.7) (2.7) (2.1) 17.5	角縁					(3.4) (2.7) (1.6) 11.3							円盤															
	Ⅲ層	—	レキ	片	凝灰岩	(5.9) (1.9) (1.3) 17.2	角縁							AUS-16	Ⅲ層	—	レキ	片	凝灰岩	(7.5) (3.0) (1.6) 45.8	角縁													
						(4.1) (3.8) (1.6) 34.8	角縁					(7.5) (3.0) (1.6) 45.8	角縁																					
						(3.7) (2.3) (1.7) 17.0	円盤					(7.5) (3.0) (1.6) 45.8	角縁																					
						(3.4) (3.4) (1.0) 14.6	角縁					(7.5) (3.0) (1.6) 45.8	角縁																					
						(7.3) (2.9) (2.5) 84.7	角縁					(7.5) (3.0) (1.6) 45.8	角縁																					
AUS-14	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(6.4) 2.9 2.6 45.8	角縁						AUS-17	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(7.1) (3.9) 2.1 62.5	角縁														
						(7.1) (3.9) 2.1 62.5	角縁					(7.1) (3.9) 2.1 62.5							角縁															
						(7.2) (2.4) (2.0) 33.9	角縁					(7.1) (3.9) 2.1 62.5							角縁															
						(6.6) (3.1) (1.8) 35.2	角縁					(7.1) (3.9) 2.1 62.5							角縁															
						(4.8) (3.5) (2.2) 32.4	角縁					(7.1) (3.9) 2.1 62.5							角縁															
	Ⅲ層	—	レキ	片	凝灰岩	(7.0) (3.5) (1.2) 45.2	角縁						AUS-18	Ⅲ層	—	レキ	片	凝灰岩	(11.8) (5.1) (4.1) 275.0	円盤														
						(7.1) (4.1) (1.6) 46.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(6.2) (4.4) (2.4) 49.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(6.5) (2.7) (1.6) 29.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(6.0) (3.2) (1.6) 33.8	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
AUS-15	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(6.1) (2.2) (1.6) 29.5	角縁						AUS-19	Ⅲ層	—	レキ	片	凝灰岩	(11.8) (5.1) (4.1) 275.0	円盤														
						(5.7) (3.4) (2.4) 37.0	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(5.3) (3.2) (2.1) 45.3	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(5.9) (3.6) (1.3) 14.2	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(5.1) (3.9) (1.5) 27.1	円盤					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(4.5) (3.6) (2.2) 27.9	円盤						AUS-20	Ⅲ層	—	レキ	片	砂岩	(11.8) (5.1) (4.1) 275.0	円盤														
						(4.9) (3.2) (2.1) 24.6	円盤					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(4.5) (3.2) (1.4) 27.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(5.2) (2.2) (1.7) 18.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															
						(4.8) (2.3) (2.1) 35.5	角縁					(11.8) (5.1) (4.1) 275.0							円盤															

V章 A地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要 (図34)

A地区のV層では、土坑(ALP) 1基、Tピット(ATP) 31基、石組炉(ALFRS) 1か所、焼土(ALF) 5か所を調査した。

ALP-1は調査区の南東側に位置し浅い。Tピットは坑底面の形状から、溝状、長楕円形、楕円形に分けられ、およそ3か所のまとまりが認められる。北側部分ではG~Jライン付近の東西方向にATP-28・19・21・23・22・24・25が、グリッド交点K-10付近から南西方向の同R-16までにATP-4・18・17・6・7・3・2・8・1が、T~W間の11ラインから西方向の22ライン付近まで、ATP-16・13・12・14・29・11・15・9・10・31・26・27がある。切り合う例はATP-11・15がある。また、ATP-5・20・30はまとまりからやや離れて位置する。石組炉ALFRS-1は、調査区中央付近よりもやや南側で確認した。ALFは5か所みられ、すべて炉跡の焼土である。これらは、調査区の北東~南西方向に列状に位置しているともみられる。時期は出土遺物等から縄文時代中期後半~後期初頭と判断される。

(末光)

2. 土坑

ALP-1 (図35 表31 図版14)

位置 b・c-19・20区 規 模 1.90×1.43 / 1.82×1.57 / 0.20m

平面形態 不整な楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられた。半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。南東側部分は楕円形の張り出しがある。

覆 土 黒色土が主体で、T a - d 2スコリアが微量混じる。

壁・坑底面 壁は曲線的な立ち上がりで、坑底面は概ね平坦である。

遺物出土状況 覆土から砥石、U・Rレキ、レキが出土した。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期初頭と考えられる。

(愛場)

3. Tピット (図35~50 表32・33 図版14~22)

ATP-1 (図35 図版14・18)

位置 Q-15・16区 規 模 2.08×1.40 / 1.50×0.44 / 0.93m

平面形態 楕円形/長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截して土層断面を観察し、平坦な面、壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。完掘後、坑底面を精査し杭穴を調査した。

覆 土 最上位に再堆積層のS d 2層が薄くみられ、断面図番号8・10はT a - d 2層主体で、これら以外はすべて黒色土が主体である。

壁・坑底面 壁は短軸方向で広く立ち上がり、長軸方向の坑底面では北側部分が若干低い。

付属遺構 杭穴(s p - 1~6)を確認した。いずれも細く先端部が尖る。

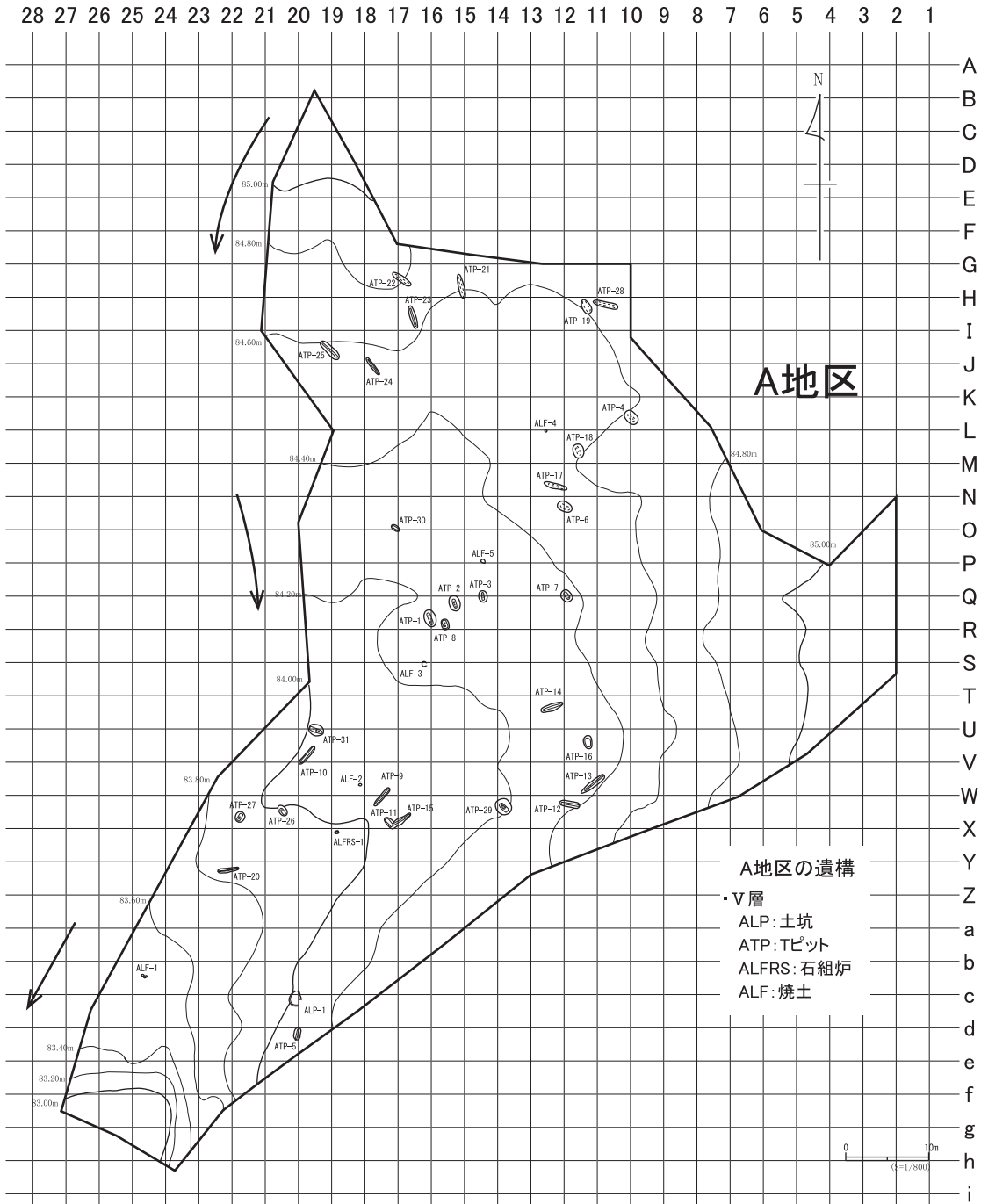
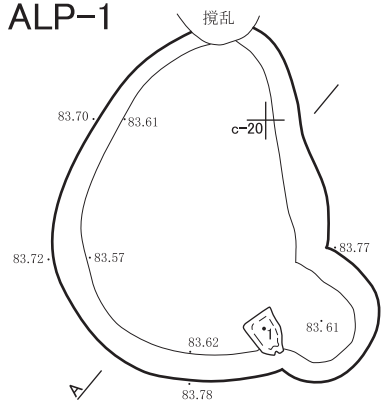
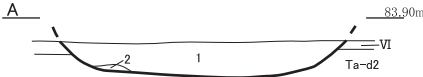


図34 A地区遺構位置図・V層上面地形測量図

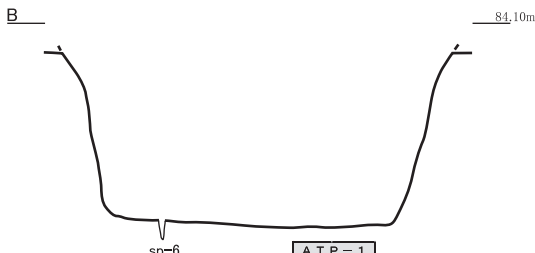
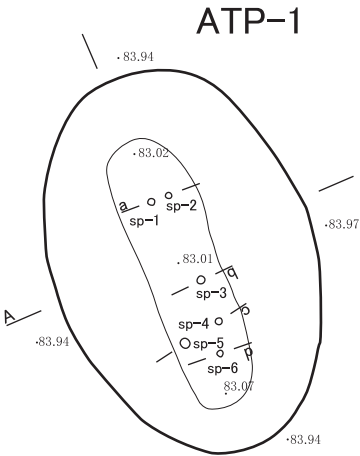


c-19 →



ALP-1										
遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考	
1	U・Rレキ	砂岩	片	2	覆土B1	83.78			現場で観察	
2	U・Rレキ	砂岩	片	1	覆土B1					
3	レキ	砂岩	片	4	覆土B1					
4	砥石	凝灰岩	片	2	覆土B1					

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大			
ALP-1	1	B層	自然	シルト質壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~3	亜円礫	腐朽	—	V b層主体
	2	BR層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中~弱	堅	Ta-d2スコリア	10	2~3	亜円礫	腐朽	—	V b層主体



ATP-1										
遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考	
1	U・Rレキ	砂岩	片	1	覆土B1				現場で観察	
2	レキ	砂岩	片	2	覆土B3				現場で観察	
3	U・Rレキ	砂岩	片	1	覆土B3				現場で観察	
4	U・Rレキ	凝灰岩	片	1	覆土B3				現場で観察	
5	U・Rレキ	砂岩	片	2	覆土B1				現場で観察	
6	土器	皿群	胴部	2	覆土B1					
7	土器	皿群	胴部	1	覆土B1					

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大			
ATP-1	1	Sd2層	明瞭	塚塚土	暗褐色	10YR3/3	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	90	3~10	亜円礫	腐朽	—	
	2	B層	B1層	明瞭	塚塚土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—
	3		B2層	明瞭	塚塚土	黒色	10YR1.7/1	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	7	2~8	亜円礫	腐朽	—
	4	B層	B3層	明瞭	塚塚土	黒色	10YR1.7/1	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	7	2~10	亜円礫	腐朽	—
	5		B4層	明瞭	塚塚土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—
	6	BY層	BY1層	明瞭	塚塚土~壤土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d2スコリア	3	2~10	亜円礫	腐朽	—
	7		BY2層	明瞭	塚塚土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—
	8	R層	R1層	明瞭	塚塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	3	2~10	亜円礫	腐朽	—
	9		R2層	明瞭	塚塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—
	10	R層	BR1層	明瞭	塚塚土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d2スコリア	3	2~10	亜円礫	腐朽	—
	11		BR2層	明瞭	塚塚土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	2	2	亜円礫	腐朽	—
ATP-1 坑穴	12	Bc層	明瞭	塚塚土	黒褐色	10YR3/2	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	1	2~1	亜円礫	腐朽	—	
	13	Bg層	明瞭	塚塚土	黒褐色	10YR3/2	強	軟~堅	層					—	
	14	B層	明瞭	塚塚土	赤色	10YR2/1	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	2	3~1	亜円礫	腐朽	—	

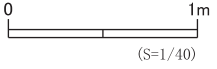
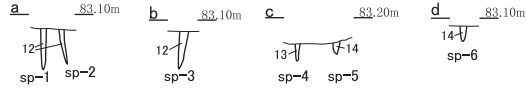
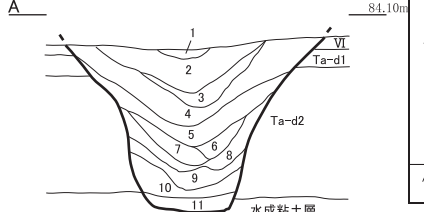
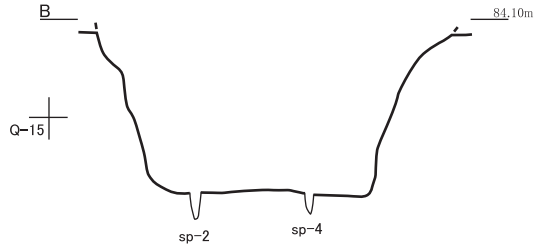
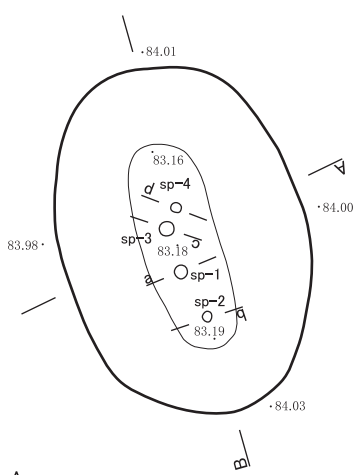
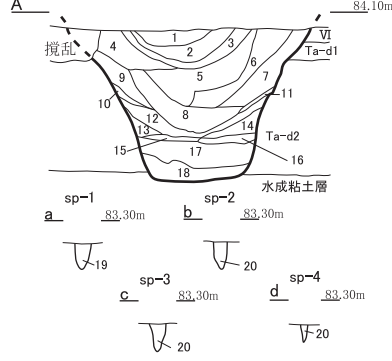


図35 ALP-1・ATP-1

ATP-2

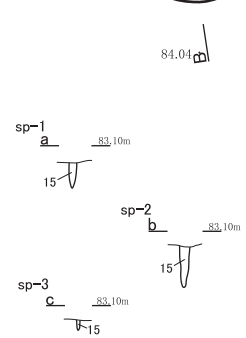
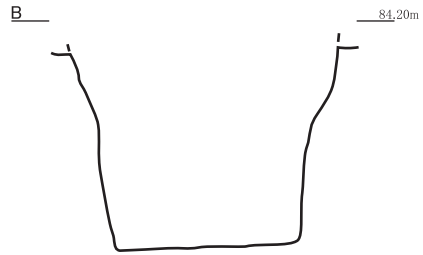
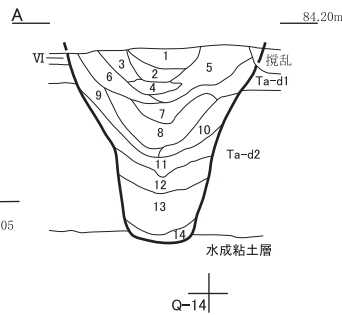
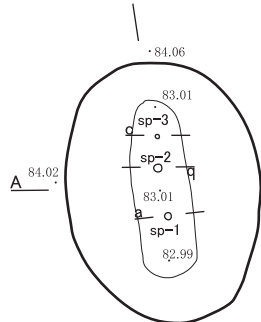


遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	縄文土	片	1	1	層土B3	—	—	現場で撮影
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	2	2	層土B3	—	—	現場で撮影
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	1	層土B3	—	—	現場で撮影
—	レキ	凝灰岩	変形	1	1	層土B3	—	—	—
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	1	層土B5	—	—	現場で撮影
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	1	1	層土B1	—	—	現場で撮影
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	1	層土B1	—	—	現場で撮影



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調			粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考	
		層名	細分層			色名	マンセル表色系	種類				平均	最大							
														マンセル表色系	種類					平均
ATP-2	板穴	1	B層 B1層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1/1	1	強	堅	Ta-2スコリア	10	2~20	2~20	非円礫	腐朽	—	—	—	
		2	RB層	B2層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	70	2~20	2~20	非円礫	腐朽	—	—	Ta-d-1層
		3		B3層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-2スコリア	7	2~10	2~10	非円礫	腐朽	—	—	—
		4	B層	B4層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-1スコリア	5	2~5	2~5	非円礫	腐朽	—	—	—
		5		B5層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-1スコリア	2	2~5	2~5	非円礫	腐朽	—	—	—
		6	BY層	BY1層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	7	2~10	2~10	非円礫	腐朽	—	—	—
		7		BY2層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	25	2~4	2~4	非円礫	腐朽	—	—	—
		8	B層	B6層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-1スコリア	5	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—
		9		BY層	BY2層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/3	2	中	ややふるる堅	Ta-2スコリア	10	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—
		10	R層	R1層	明瞭	砂土	赤褐色	5YR1/8	1	弱	堅	Ta-1スコリア	3	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—
		11		R2層	明瞭	砂土	暗赤褐色	5YR3/4	1	弱	堅	Ta-2スコリア	70	2~4	2~4	非円礫	腐朽	—	—	—
		12	BR層	BR1層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/3	2	強	堅	Ta-2スコリア	2	2~5	2~5	非円礫	腐朽	—	—	—
		13		R3層	明瞭	砂土	赤褐色	5YR1/8	1	弱	堅	Ta-1スコリア	1	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—
		14	R層	R4層	明瞭	砂土	赤褐色	5YR1/8	1	弱	堅	Ta-1スコリア	1	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—
		15		B層	B7層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-1スコリア	80	2~7	2~7	非円礫	腐朽	—	—
		16	BR層	BR2層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/3	2	強	堅	Ta-2スコリア	2	2~5	2~5	非円礫	腐朽	—	—	—
		17		R層	R5層	明瞭	凝灰土	暗褐色	7.5YR3/4	1	中	堅	Ta-1スコリア	60	2~5	2~5	非円礫	腐朽	—	—
		18	B層	B8層	明瞭	凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-1スコリア	1	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—
19	B層	明瞭		凝灰土	黒色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-2スコリア	5	3~5	3~5	非円礫	腐朽	—	—	—		
20	ATP-2	板穴	B9層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	5	3~5	3~5	非円礫	腐朽	—	—	—	
20			B9層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	1	2~3	2~3	非円礫	腐朽	—	—	—	

ATP-3



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調			粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考	
		層名	細分層			色名	マンセル表色系	種類				平均	最大							
														マンセル表色系	種類					平均
ATP-3	板穴	1	B層 B1層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	5	2~3	2~3	4	非円礫	腐朽	—	—	
		2	BY層	BY1層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-1スコリア	3	2~3	2~3	4	非円礫	腐朽	—	—
		3		B2層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/1	2	強	堅	Ta-2スコリア	2	3~4	3~4	4	非円礫	腐朽	—	—
		4	B層	B3層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	3	2~3	2~3	4	非円礫	腐朽	—	—
		5		B4層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	5	2~3	2~3	4	非円礫	腐朽	—	—
		6	BY層	BY1層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	2	2~3	2~3	5	非円礫	腐朽	—	—
		7		BY2層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	2	3~5	3~5	5	非円礫	腐朽	—	—
		8	B層	B6層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	3	2~4	2~4	5	非円礫	腐朽	—	—
		9		BY層	BY4層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/2	2	強	堅	Ta-2スコリア	1	4~5	4~5	6	非円礫	腐朽	—
		10	R層	R1層	明瞭	凝灰土	黒褐色	10YR2/3	2	中	ややふるる堅	Ta-1スコリア	3	2~4	2~4	7	非円礫	腐朽	—	—
		11		R2層	明瞭	砂土	暗赤褐色	5YR3/6	1	弱	堅	Ta-2スコリア	60	3~5	3~5	7	非円礫	腐朽	—	—
		12	B層	B7層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	3	2~3	2~3	7	非円礫	腐朽	—	—
		13		RB層	明瞭	砂土	暗褐色	10YR3/4	1	弱	堅	Ta-2スコリア	2	3~5	3~5	7	非円礫	腐朽	—	—
		14	B層	B8層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-1スコリア	5	2~4	2~4	5	非円礫	腐朽	—	—
		15		B層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	1	強	堅	Ta-2スコリア	1	3~5	3~5	5	非円礫	腐朽	—	—

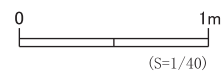


図36 ATP-2・ATP-3

遺物出土状況 上位の覆土からⅢ群土器、U・Rレキ、レキが出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられ、出土土器からは中期と判断される。

A T P - 2 (図36 図版14・18)

位置 P・Q-15区 **規模** 1.89×1.30 / 1.13×0.44 / 0.82m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられ、短軸方向で半截したところ、平坦な面や壁の立ち上がりを確認したので遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴を調査した。

覆土 断面図番号10・11・13・14はT a - d 2層主体で、壁際で遺構の中央へと傾斜する薄い層で見られる。これら以外はすべて黒色土が主体である。

壁・坑底面 壁は緩やかに立ち上がり、北側部分ではやや広い。長軸方向の坑底面は中央付近が若干高い。

付属遺構 杭穴 (s p - 1 ~ 4) を確認した。覆土は黒色土または灰色の水成粘土層である。

遺物出土状況 上位の覆土からU・Rレキ、レキが出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 3 (図36 図版14・18)

位置 P・Q-14区 **規模** 1.39×1.03 / 1.14×0.32 / 1.06m

平面形態 楕円形／長楕円形

包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面や壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴を調査した。

覆土 T a - d 2層主体は断面図番号11で、覆土中位付近にみられ、これら以外はすべて黒色土が主体である。

壁・坑底面 壁は遺構の中位付近まで直立気味で、そこから開くように立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側がやや低い。

付属遺構 杭穴 (s p - 1 ~ 3) を調査した。覆土にはT a - d スコアが含まれない。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(広田)

A T P - 4 (図37 図版14・18)

位置 K-9・10区 **規模** 1.90×1.28 / 1.13×0.44 / 1.06m

平面形態 楕円形／長楕円形

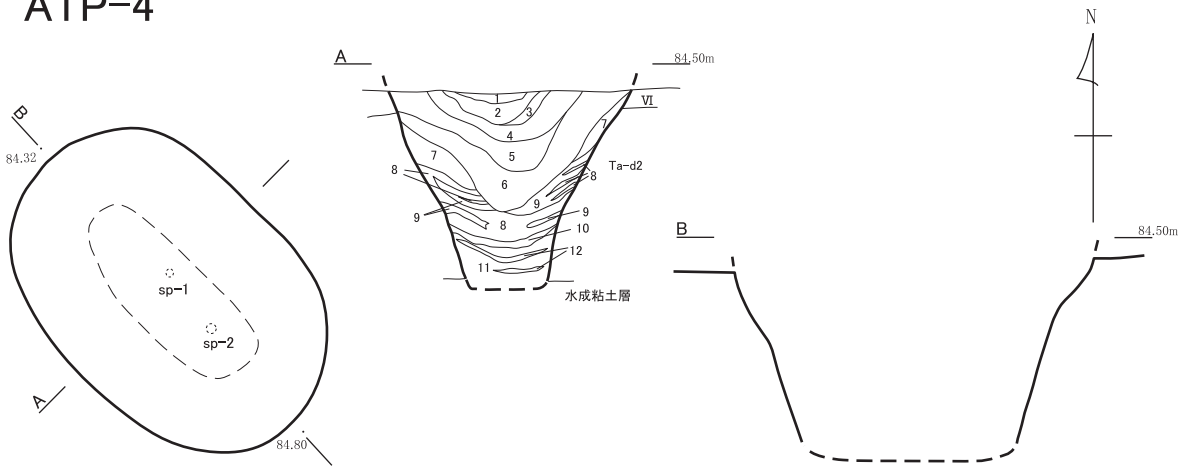
確認・調査 包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられた。短軸方向で半截して土層断面を観察し、遺構と判断した。坑底近くでは地下水が流れており、水中ポンプで排水しながら調査を進めたが、遺構内の水を完全に出し切ることはできなかった。その状況の中、坑底面と判断できる平坦な面を検出した。

覆土 最上位にⅣ層が堆積し、上半分は中央が落ち込む堆積で、下半分は概ね水平に堆積がみられる。断面図番号3・8・11がT a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁は中位付近まで広く立ち上がり、そこから上位はさらに開口気味に立ち上がる。

付属遺構 杭穴 (s p - 1・2) の平面位置を確認した。地下水のため掘り下げることはできなかった。

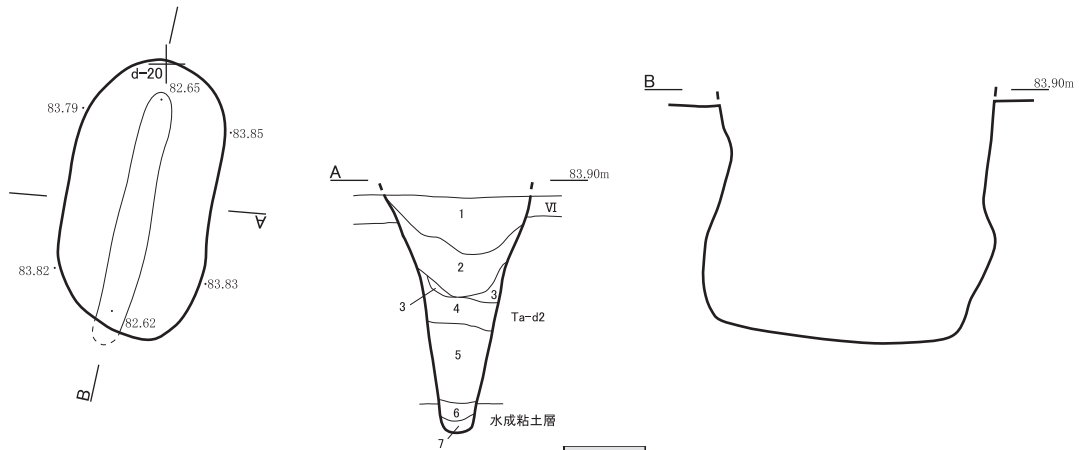
ATP-4



L-10

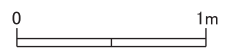
遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		層名	細分層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)			形状	風化の程度	
						色名	マンセル表色系					平均					最大
ATP-4	1	IV層	面然	シルト質 壤土	にふい 黄褐色	10YR4/3	弱	堅	無						くぼみに 堆積		
	2	B1層	面然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2~10	垂直線	腐朽	—			
	3	R1層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	5~10	垂直線	腐朽	—			
	4	BR層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	30	2~20	垂直線	腐朽	—			
	5	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~20	垂直線	腐朽	—			
	6	B3層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~10	垂直線	腐朽	—			
	7	B4層	面然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—			
	8	R2層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	軟	Ta-d2スコリア	90以上	5~20	垂直線	腐朽	—			
	9	B5層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無					—			
	10	BY1層	面然	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	軟	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—			
	11	R3層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	軟	Ta-d2スコリア	90以上	5~20	垂直線	腐朽	—			
	12	BY2層	面然	壤土	暗褐色	10YR3/2	中	軟	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—			

ATP-5



ATP-5									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	土器	旧群	腹部	磨耗	1	層上B1	—		
—	土器	旧群	腹部	良好	3	層上B1	—		
—	土器	新群	腹部	良好	1	層上B1	—		

遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		層名	細分層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)			形状	風化の程度	
						色名	マンセル表色系					平均					最大
ATP-5	1	B層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~30	垂直線	腐朽	—			
	2	YB層	面然	壤土	黒褐色	7.5YR3/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—			
	3	R1層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	5	10~20	垂直線	腐朽	—			
	4	BR層	面然	砂壤土	暗褐色	7.5YR3/4	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	5~10	垂直線	腐朽	—			
	5	R2層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	弱~中	軟	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—			
	6	BY層	面然	壤土	暗褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d2スコリア	50	2~20	垂直線	腐朽	—			
	7	R3層	面然	壤土	暗褐色	7.5YR4/4	弱~中	軟	Ta-d1スコリア	90以上	2	垂直線	腐朽	—			



(S=1/40)

図37 ATP-4・ATP-5

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

A T P - 5 (図37 図版14・19)

位置 c・d-19・20区 **規模** 1.48×0.79 / 1.37×0.19 / 1.26m

平面形態 長楕円形／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、細長い平坦面と壁の立ち上がりが見られ、遺構と認定した。土層断面を記録し完掘した。確認面は長楕円形で坑底面は溝状を呈する。

覆土 覆土上位と最下層は黒色土が、下位部分はT a - d 2 主体である。

壁・坑底面 壁はやや広く直線的に立ち上がり、坑底面は曲線的で北側部分が低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 黒色土主体の覆土からⅢ群土器とレキが出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられ、出土土器からは中期と判断される。

A T P - 6 (図38 図版14・19)

位置 N-11・12区 **規模** 1.85×1.17 / 1.20×0.48 / 1.07m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、V～VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半截した。坑底近くでは地下水が流れており、水中ポンプで排水しながら調査を進め、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。

覆土 覆土の最上位にはS d 2 層が堆積する。断面図番号6は黒色土主体の厚い覆土で、この上下両部分では、それぞれ黒色土層とT a - d 2 層が概ね交互にみられる。

壁・坑底面 壁は概ね直立気味に立ち上がり、上位付近でさらに曲線的に開口する。

付属遺構 本遺構は絶えず地下水が流れ込んでいたが、排水しながら杭穴S p - 1 を調査した。掘り下げたが流入する水で調査は困難であり、水が澄んだ状態の時、エレベーション図を作成できるように、高さを計測し図化した。

遺物出土状況 黒色土主体の覆土からたたき石とレキが出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 7 (図38 図版15・16・19)

位置 P・Q-11・12区 **規模** 1.51×1.21 / 0.98×0.47 / 0.97m

平面形態 楕円形／長楕円形

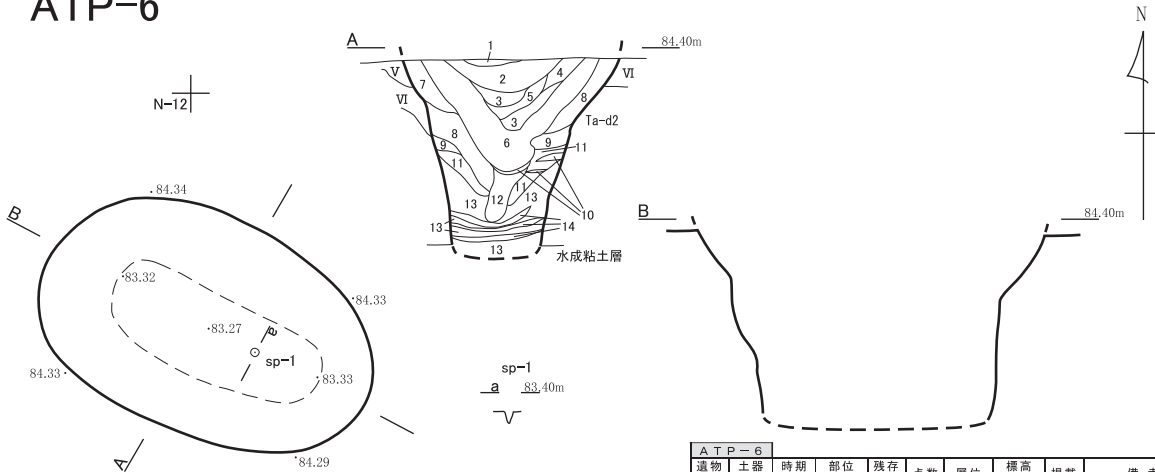
確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴の調査を行った。

覆土 覆土上位の各層は遺構の中心へと傾斜し、坑底面から1/3の高さ付近から水平に堆積する。

壁・坑底面 壁は曲線で直立気味に立ち上がり、長軸の坑底面は中央がゆるやかに低くなる。

付属遺構 杭穴を3か所(s p - 1 ~ 3) 確認した。いずれも覆土は地山の水成粘土層またはT a - d 2 が主体である。

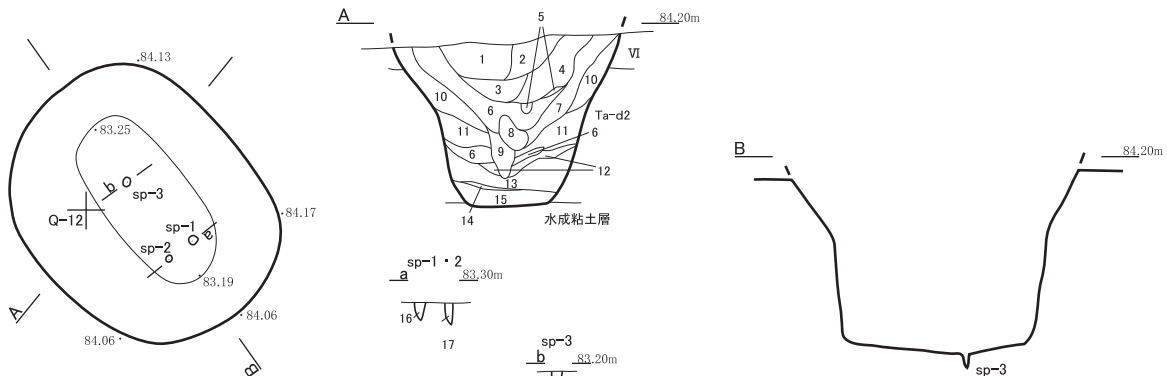
ATP-6



ATP-6									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ	礫岩	片	2	層上B1	—	—	—	現場で観察
—	レキ	砂岩	片	1	層上B1	—	—	—	現場で観察
—	レキ	砂岩	完形	1	層上B1	—	—	—	現場で観察
—	たたき石	砂岩	完形	1	層上B1	—	—	—	—

遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		主体層・混在層				マンセル表色系	種類				平均	最大						
		層名	細分層															
ATP-6	1	Sd2層	面然 砂塚土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~8	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	2	B1層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	3	R2層	面然 塚土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	5~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	4	RB層	面然 塚土	暗褐色	10YR2/4	中	堅	Ta-d2スコリア	50以上	5~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	5	B2層	面然 塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~3	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	6	B3層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	7	BY1層	面然 塚土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ta-d1スコリア	30	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	8	BY2層	面然 塚土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ta-d1スコリア	50	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	9	R3層	面然 塚土	褐色	7.5YR4/3	なし	軟	Ta-d2スコリア	50以上	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	10	R4層	面然 砂塚土	褐色	7.5YR4/6	なし	軟	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	11	YB層	面然 砂塚土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	30	2~3	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	12	B4層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	2	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	13	R4層	面然 砂塚土	褐色	7.5YR4/6	なし	軟	Ta-d2スコリア	90以上	2~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	14	B5層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	無	無	無	腐朽	—	—	—	—	—	—

ATP-7



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考	
		主体層・混在層				マンセル表色系	種類				平均	最大							
		層名	細分層																
ATP-7	1	B1層	面然 塚塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	3	2~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	S d 2層	
	2	B2層	面然 塚塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	無	無	無	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	3	R1層	面然 塚土	褐色	7.5YR4/6	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	50以上	5~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	4	B3層	面然 塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	5	R2層	面然 砂塚土	褐色	7.5YR4/6	なし	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	6	B4層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	2	2	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	—
	7	BY1層	面然 塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	8	BY2層	面然 塚土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d2スコリア	1	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	9	B5層	面然 塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	2	2	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	10	YB1層	面然 塚土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	11	R3層	面然 塚土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	80	2~10	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	12	YB2層	面然 塚土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	13	R4層	面然 砂塚土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	14	BR1層	面然 塚塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	無	無	無	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	15	BR2層	面然 塚塚土	暗褐色	10YR3/3	中	軟	Ta-d2スコリア	50以上	2~3	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	ATP-7	16	RB層	面然 塚土	暗褐色	10YR3/3	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	20	3~6	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—
	sp-1~3	17	YB層	面然 塚土	暗褐色	10YR3/3	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—	—	—	—	—	—

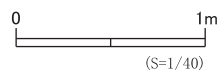
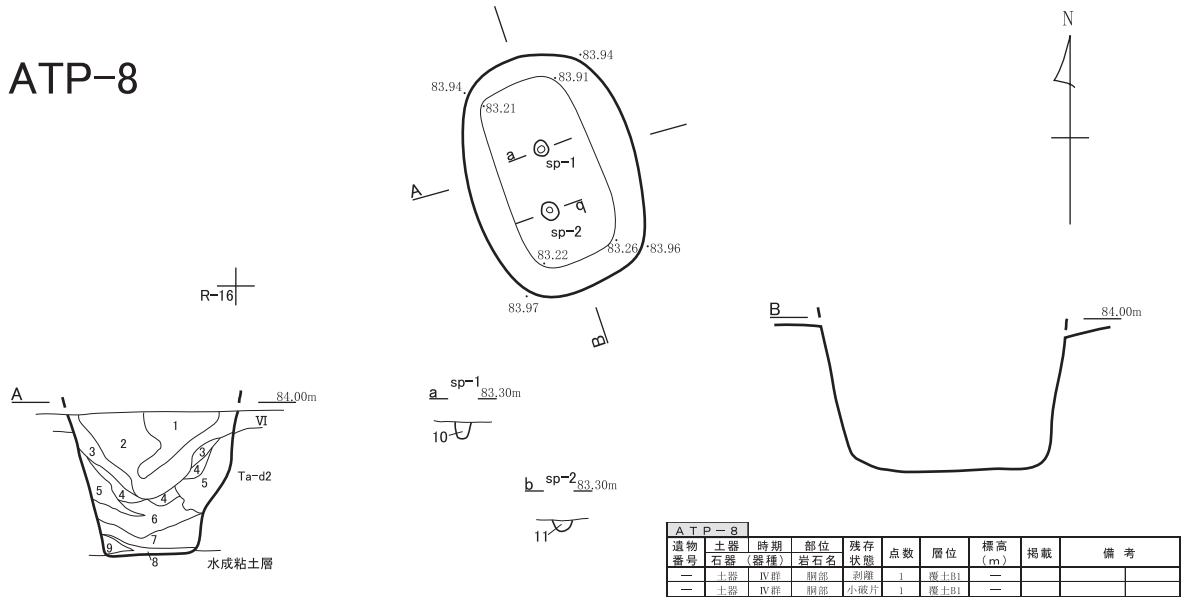


図38 ATP-6・ATP-7

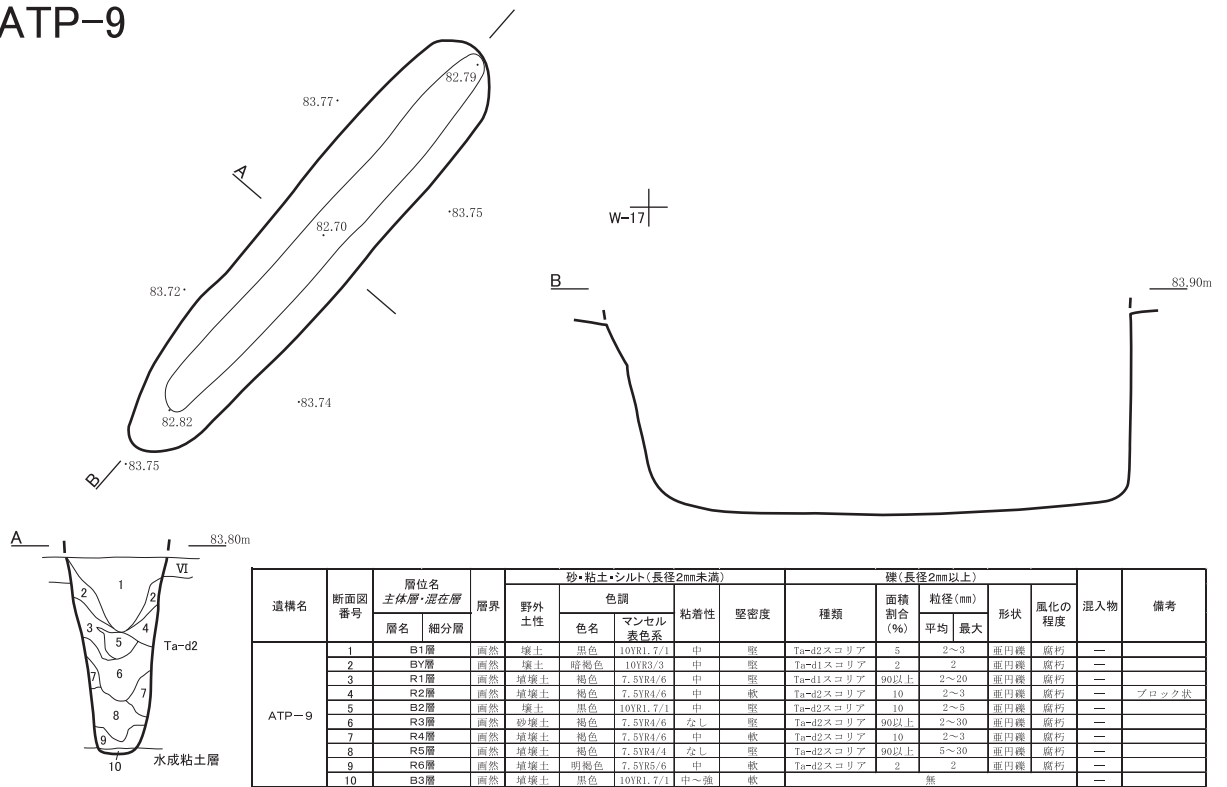
ATP-8



ATP-8									
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	土器	IV群	胴部	剥離	1	層上B1	—		
—	土器	IV群	胴部	小破片	1	層上B1	—		

遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大				
ATP-8	1	B1層	面然 埴埴土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~10	亜円錐	磨朽	—				
	2	B2層	面然 埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	3	BY層	面然 埴土	黒褐色	10YR3/2	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	4	RB1層	面然 埴土	暗褐色	10YR3/4	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	5	R1層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	磨朽	—				
	6	B3層	面然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	5	5~10	亜円錐	磨朽	—				
	7	R2層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	磨朽	—				
	8	B4層	面然 埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	2~20	亜円錐	磨朽	—				
	9	RB2層	面然 埴土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d2スコリア	50以上	2~20	亜円錐	磨朽	—	Ⅷ・V段状			
ATP-8 sp-1・2	10	B層	面然 埴土	黒色	10YR2/1	中	軟	Ta-d2スコリア	5	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	11	B層	面然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	20	3~6	亜円錐	磨朽	—				

ATP-9



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大				
ATP-9	1	B1層	面然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	2	BY層	面然 埴土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2	亜円錐	磨朽	—				
	3	R1層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	90以上	2~20	亜円錐	磨朽	—				
	4	R2層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	10	2~3	亜円錐	磨朽	—	ブロック状			
	5	B2層	面然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~5	亜円錐	磨朽	—				
	6	R3層	面然 砂埴土	褐色	7.5YR4/6	なし	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~30	亜円錐	磨朽	—				
	7	R4層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	10	2~3	亜円錐	磨朽	—				
	8	R5層	面然 埴埴土	褐色	7.5YR4/4	左L	堅	Ta-d2スコリア	90以上	5~30	亜円錐	磨朽	—				
	9	R6層	面然 埴埴土	明褐色	7.5YR5/6	中	軟	Ta-d2スコリア	2	2	亜円錐	磨朽	—				
	10	B3層	面然 埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中~強	軟	無	無	無	無	磨朽	—				

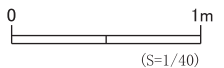
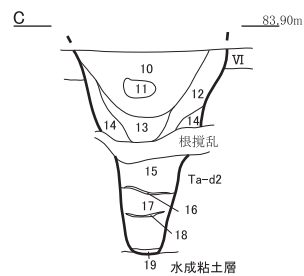
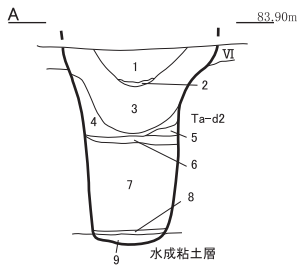
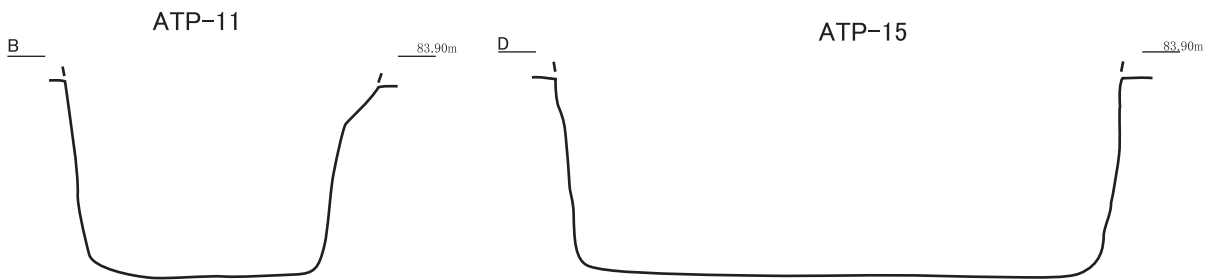
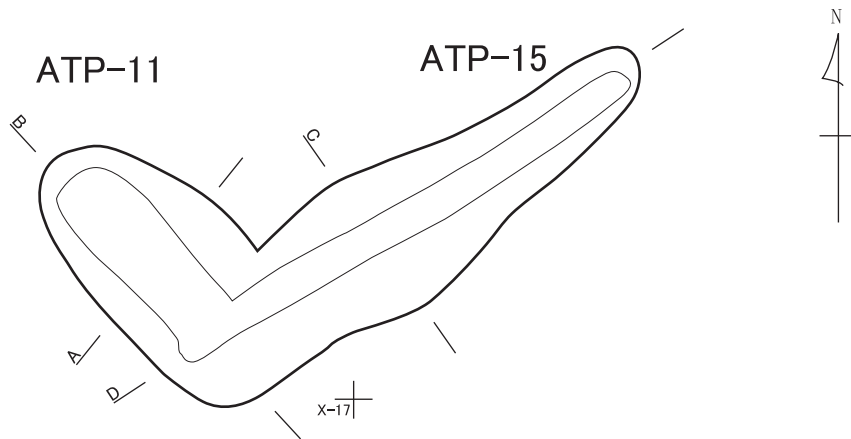


図39 ATP-8・ATP-9



ATP-11									
遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
一	たたま石		砂岩	片	1	層上B1	—		

ATP-15									
遺物番号	土器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
二	U・Rレキ		凝灰岩	片	1	層上B1	—		現場で観察
二	土器	IV群	胴部	剥離	1	層上B1	—		
一	土器	IV群	胴部	小破片	1	層上B1	—		

遺構名	断面図番号	層位名		野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				風化の程度
		層名	細分層		色名	マンセル表色系					平均	最大			
ATP-11	1	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	中こぶる堅	Ta-d2スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—	
	2	R1層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~3	垂直線	腐朽	—	
	3	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	中こぶる堅	Ta-d2スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—	
	4	R2層	面然	埴壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	20	2~10	垂直線	腐朽	—	
	5	BR1層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	20	3~10	垂直線	腐朽	—	
	6	B3層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	3~10	垂直線	腐朽	—	
	7	BR2層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	20	3~10	垂直線	腐朽	—	
	8	B4層	面然	埴壤土	紫色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	無	無	—		
	9	GB層	面然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中~強	堅	無	無	無	無	—		
ATP-15	10	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	中こぶる堅	Ta-d2スコリア	10	2~4	垂直線	腐朽	—	
	11	R1層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	中こぶる堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~10	垂直線	腐朽	—	
	12	BY1層	面然	砂壤土	暗褐色	10YR3/4	なし	中こぶる堅	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—	
	13	BY2層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—	
	14	R2層	面然	埴壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	3~20	垂直線	腐朽	—	
	15	BR層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d2スコリア	30	3~10	垂直線	腐朽	—	
	16	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	無	無	無	無	—		
	17	R3層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	3~20	垂直線	腐朽	—	
	18	B3層	面然	壤土	紫色	10YR1.7/1	中	軟	無	無	無	無	—		
19	B4層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	無	無	無	無	—			

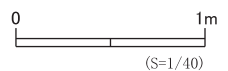


図40 ATP-11・ATP-15

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 8 (図39 図版15・19)

位置 Q・R-15区 **規模** 1.28×0.91 / 1.00×0.55 / 0.78m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半截し、土層断面等から、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘し杭穴を確認した。坑底面の平面は方形に近い。

覆土 覆土最下層以外の各覆土は中央がくぼむ、または傾斜する堆積である。

壁・坑底面 短軸では西側の壁は直立気味に立ち上がり、東側は崩落のためか段状にみられる。坑底面は概ね平坦である。

付属遺構 杭穴を2か所 (s p - 1・2) を調査した。他のTピットに比して幅が広い。

遺物出土状況 黒色土主体の上位の覆土からIV群土器が出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期で、出土土器からは縄文時代後期初頭と考えられる。

A T P - 9 (図39 図版17・20)

位置 V・W-17区 **規模** 2.76×0.56 / 2.48×0.22 / 1.07m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で溝状の黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。その後、土層断面を記録し完掘した。

覆土 覆土最上層に黒色土が厚く堆積し、覆土の下半部はT a - dスコリア主体である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは直立気味で、長軸の坑底面は中央付近が若干低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 11・A T P - 15 (図40 図版15・17・20)

A T P - 11 (図版15・20)

位置 W-17区 **規模** 1.66×0.83 / 1.19×0.41 / 1.03m

平面形態 楕円形／長楕円形

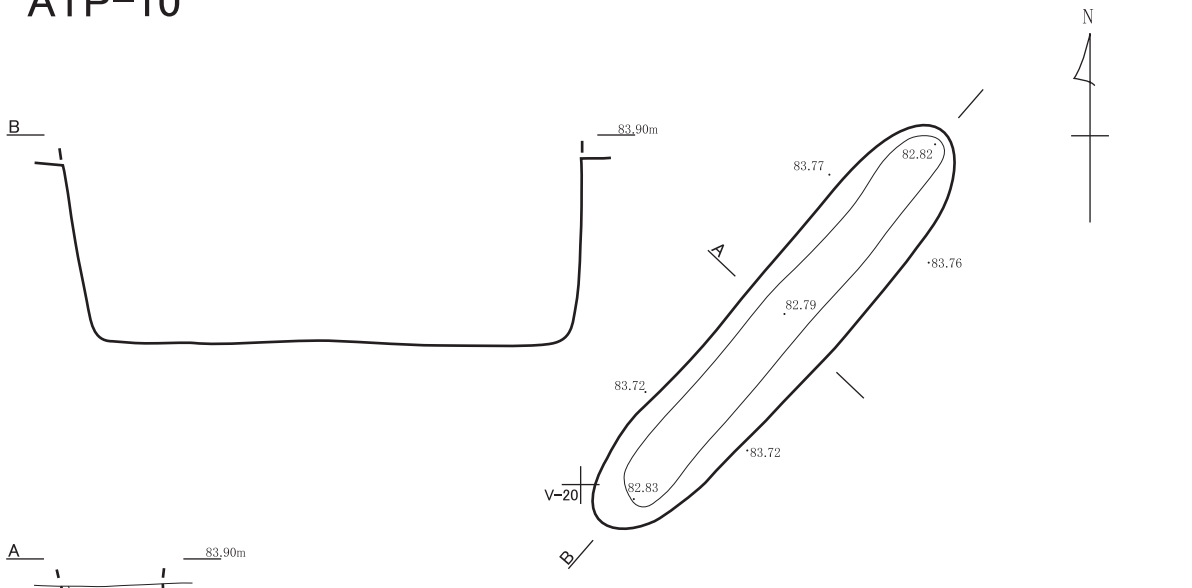
A T P - 15 (図版17・20)

位置 W-16・17、X-17区 **規模** 3.00×0.80 / 2.76×0.26 / 1.06m

平面形態 溝状／溝状

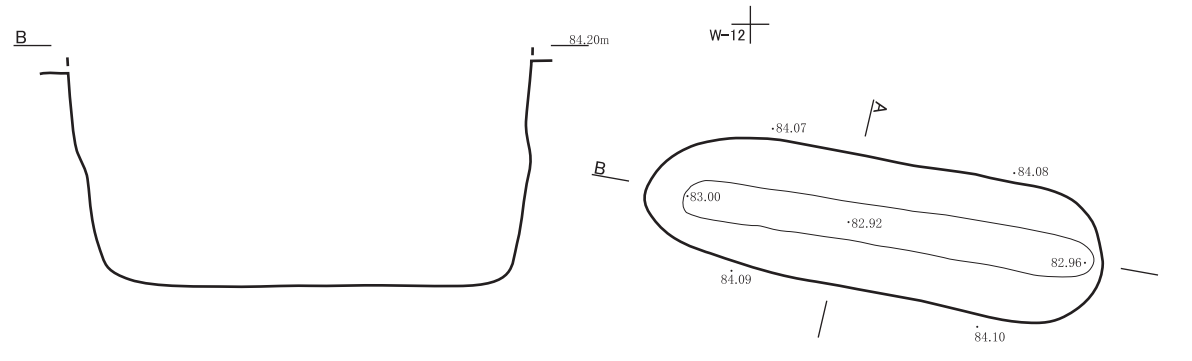
確認・調査 包含層調査中、VI層で楕円形を呈する黒色土がみられた。南東部分を掘り下げ、土層断面を確認し遺構 (A T P - 11) と認定した。また、遺構の北東側の壁に遺構の断面が観察され、この部分の包含層調査を進めたところ、VI層上面で細長い黒色土が確認された。Tピットが切り合うものと予想したが、A T P - 11は半截しており、新旧関係を判断するため連続する土層断面を設けることができなかつたため、遺構であるかの確認と坑底面での切り合いを調査するために、細長い黒色土の南西部分を掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構 (A T P - 15) と判断した。

ATP-10



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大			
ATP-10	1	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta~d2スコリア	10	2~5	垂直礫	腐朽	—		
	2	BV層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta~d1スコリア	10	2~5	垂直礫	腐朽	—		
	3	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta~d1スコリア	20	2~10	垂直礫	腐朽	—		
	4	R1層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta~d2スコリア	90以上	5~30	垂直礫	腐朽	—		
	5	R2層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟~堅	Ta~d2スコリア	90以上	5~30	垂直礫	腐朽	—		
	6	R3層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta~d2スコリア	90以上	20~30	垂直礫	腐朽	—		
	7	B3層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	2	垂直礫	腐朽	—			
	8	R4層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta~d2スコリア	20	無	垂直礫	腐朽	—		
	9	B4層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	無	無	垂直礫	腐朽	—			

ATP-12



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大			
ATP-12	1	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta~d2スコリア	10	2	垂直礫	腐朽	—		
	2	R1層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	なし	堅	Ta~d2スコリア	90以上	2	垂直礫	腐朽	—		
	3	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	2	垂直礫	腐朽	—			
	4	BV層	面然	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta~d1スコリア	10	2	垂直礫	腐朽	—		
	5	B2層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	強	堅	Ta~d2スコリア	10	2	垂直礫	腐朽	—		
	6	R3層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta~d2スコリア	30	2	垂直礫	腐朽	—		
	7	B3層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	2	垂直礫	腐朽	—		
	8	R4層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta~d2スコリア	40以上	2~20	垂直礫	腐朽	—		
	9	B4層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta~d2スコリア	10	2~10	垂直礫	腐朽	—		
	10	B5層	面然	壤土	褐色	10YR1.7/1	中	軟	Ta~d2スコリア	10	2~10	垂直礫	腐朽	—		
	11	R5層	面然	砂壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta~d2スコリア	90以上	2~20	垂直礫	腐朽	—		
	12	B6層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta~d2スコリア	10	2~10	垂直礫	腐朽	—		



図41 ATP-10・ATP-12

また、坑底面では切り合いがみられず、新旧関係は判断できなかった。

覆土 ATP-11の断面図番号2とATP-15の断面図番号11・14・17はT a - d主体で、ATP-11の下位部分の覆土は、他のTピットに比べて黒色土が多い。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは、ATP-11は直立気味で、ATP-15は直線的に若干開き、中央付近でさらに開口する。長軸方向の坑底面はともに平坦である。

付属遺構 ともになし。

遺物出土状況 ATP-11からたたき石が、ATP-15からIV群土器とU・Rレキが、上位の黒色土主体の覆土から出土した。

重複 ATP-11の南東部分とATP-15の南西部分が重複する。連続する土層断面を観察できず、坑底面で切り合う状況も確認できなかったため、新旧関係は不明である。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期で、出土土器から縄文時代後期と判断される。

ATP-10 (図41 図版17・20)

位置 U・V-19区 **規模** 2.75×0.57 / 2.52×0.31 / 1.00m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。その後、土層断面を記録し完掘した。

覆土 断面図番号7・9はT a - dが混じらない黒色土である。

壁・坑底面 壁は直立気味に立ち上がり、長軸の坑底面は中央がやや高い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

ATP-12 (図41 図版17・20)

位置 W-11・12区 **規模** 2.46×0.74 / 2.21×0.26 / 1.19m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半截し土層断面等から、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

覆土 断面図番号1は覆土最上位の黒色土層で、8はT a - d主体の層で遺構の下位部分で厚くみられる。

壁・坑底面 壁は直立気味に立ち上り、確認面近くでさらに開口する。長軸の坑底面は概して平坦である。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

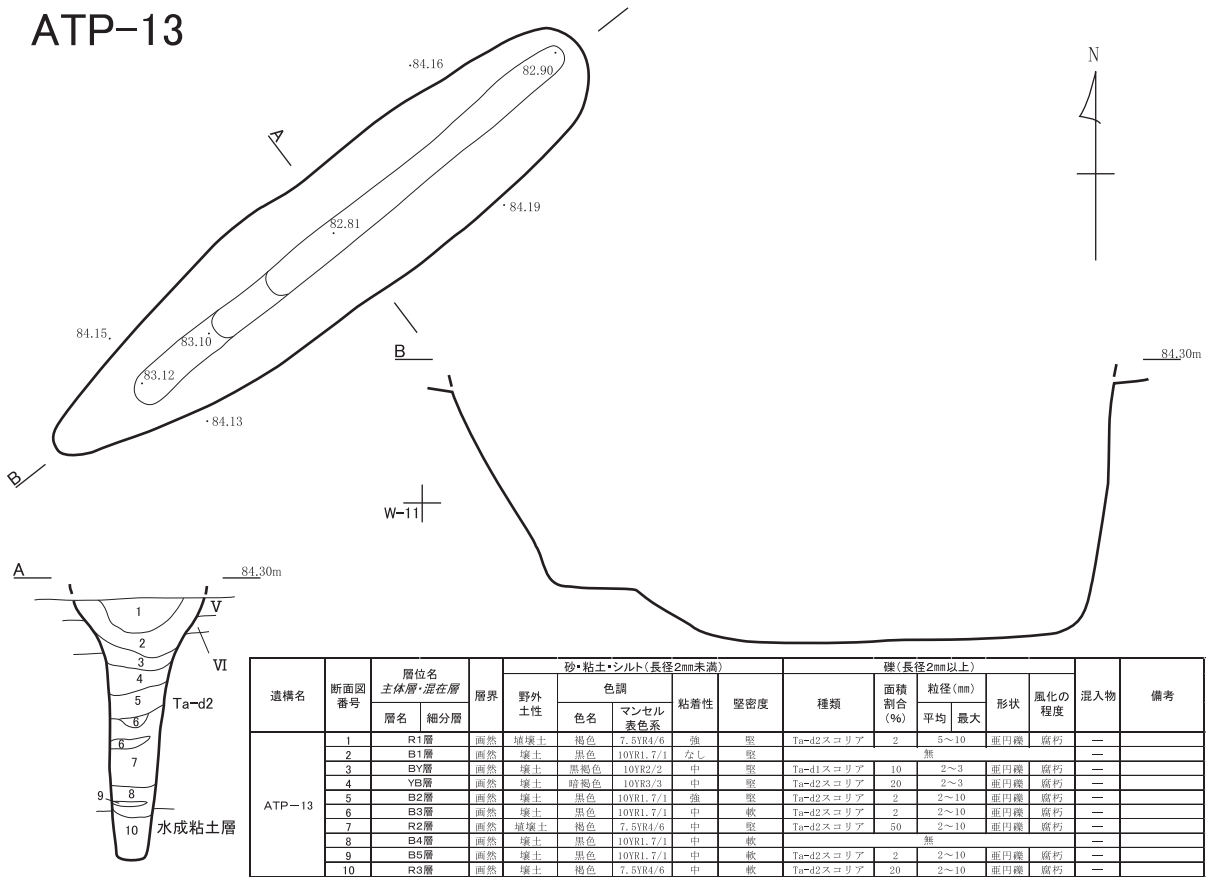
ATP-13 (図42 図版17・20)

位置 V-10・11区 **規模** 3.49×0.79 / 2.89×0.21 / 1.38m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、V層で黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、平坦な面と段が

ATP-13



ATP-14

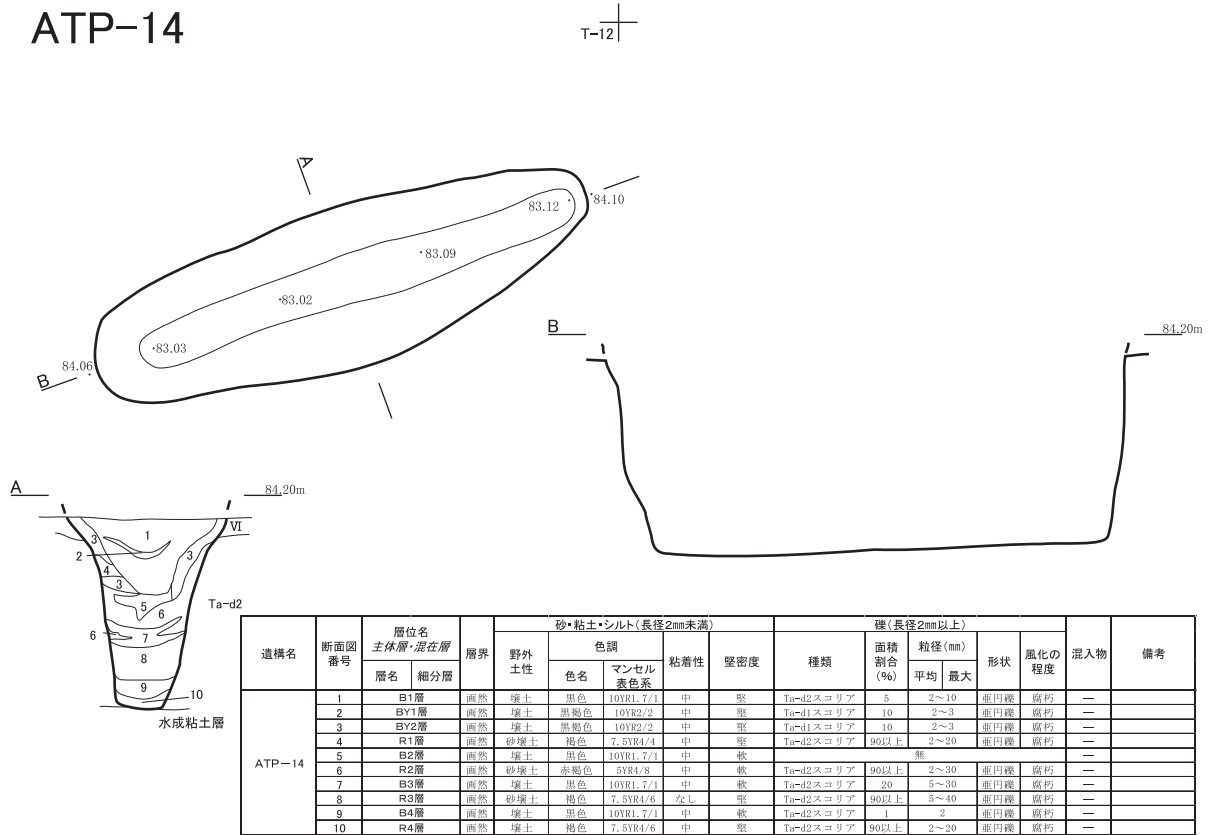


図42 ATP-13・ATP-14

(S=1/40)

みられ、壁の立ち上がりも確認できたので、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

覆 土 断面図番号1の最上位以外の覆土の層界は、他のTピットに比して平坦である。

壁・坑底面 壁は概ね垂直に立ち上り、確認面近くで広く開口する。長軸の坑底面は曲線的で、南西側に段を有する。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時 期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 14 (図42 図版17・20)

位 置 T-12区 **規 模** 2.75×0.85 / 2.43×0.29 / 1.04m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、西側部分を掘り下げたところ、壁の立ち上がりや平坦な面がみられたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆 土 断面図番号1は覆土最上位の黒色土層で厚くみられる。下位部分は黒色土層とT a - d主体層が交互にみられる。

壁・坑底面 壁は若干広がり気味に立ち上り、長軸の坑底面は概して平坦で、西側が若干低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時 期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 16 (図43 図版15・19)

位 置 U-11区 **規 模** 1.61×1.02 / 1.11×0.68 / 0.66m

平面形態 楕円形／楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられ、半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。当初、Tピットと判断したので遺構番号を付したが、土坑の可能性が高い。

覆 土 覆土の多くは黒色土主体で、断面図番号5のT a - d主体の層は遺構の東側の壁際にみられる。

壁・坑底面 曲線的で緩やかにくぼむ坑底面で、壁の立ち上がりも曲線的である。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

A T P - 17 (図43 図版17・20)

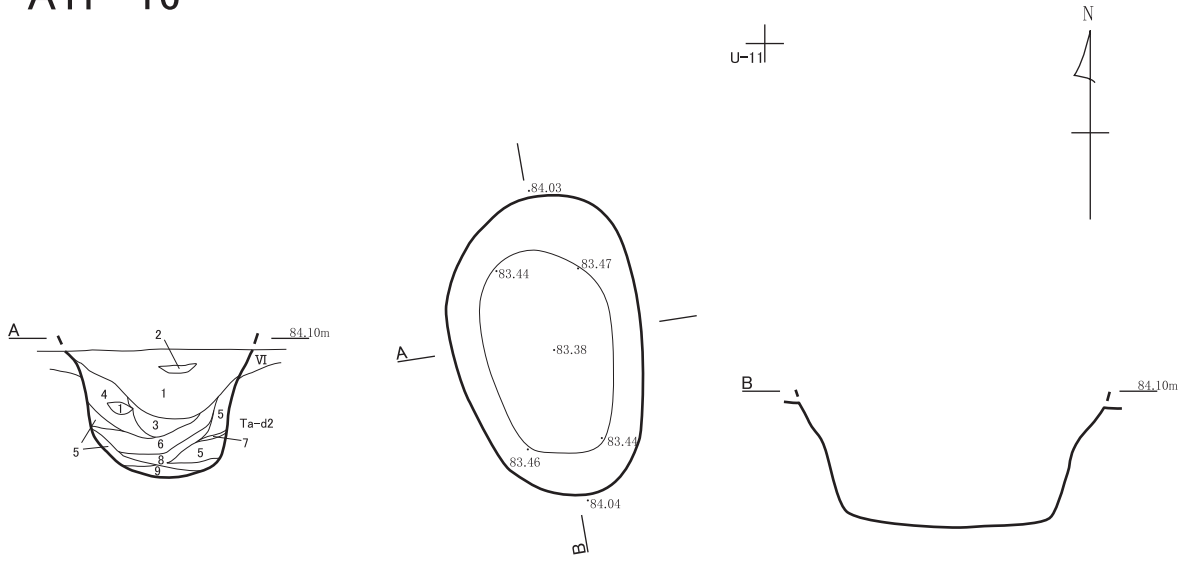
位 置 M-11・12区 **規 模** 2.85×0.69 / 2.24×0.24 / 1.03m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向の西側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや平坦な面を確認し遺構と判断した。遺構の坑底面近くに地下水が流れている。土層断面を記録した後、完掘した。

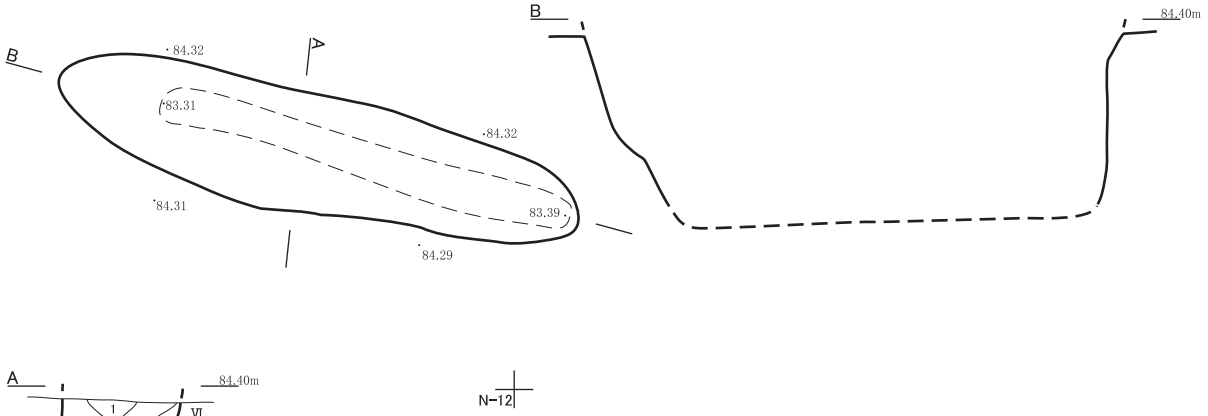
覆 土 断面図番号9の覆土最下層は唯一T a - d層が混ざらない覆土で、遺構の下半部分は覆土

ATP-16



遺構名	断面図 番号	層位名 主体層・混在層		層界	野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)		形状	風化の 程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系					平均	最大				
ATP-16	1	B1層	自然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~20	垂直線	腐朽	—			
	2	BY1層	自然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d1スコリア	*	*	垂直線	腐朽	—			
	3	BY2層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	なし	堅	Ta-d1スコリア	5	2~5	垂直線	腐朽	—			
	4	BY3層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~10	垂直線	腐朽	—			
	5	R層	自然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~5	垂直線	腐朽	—			
	6	B2層	自然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	30	2~20	垂直線	腐朽	—			
	7	B3層	自然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~20	垂直線	腐朽	—			
	8	BR層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	3	3	垂直線	腐朽	—			
	9	B4層	自然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	20	30~50	垂直線	腐朽	—			

ATP-17



遺構名	断面図 番号	層位名 主体層・混在層		層界	野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)		形状	風化の 程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系					平均	最大				
ATP-17	1	YB1層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	垂直線	腐朽	—			
	2	B1層	自然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2~30	垂直線	腐朽	—			
	3	YB2層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/2	なし	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	垂直線	腐朽	—			
	4	YR1層	自然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~10	垂直線	腐朽	—			
	5	R1層	自然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	垂直線	腐朽	—			
	6	YR2層	自然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~10	垂直線	腐朽	—			
	7	R2層	自然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~10	垂直線	腐朽	—			
	8	R3層	自然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~3	垂直線	腐朽	—			
	9	B2層	自然	硬壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	3	3	垂直線	腐朽	—			

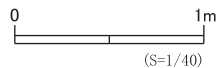
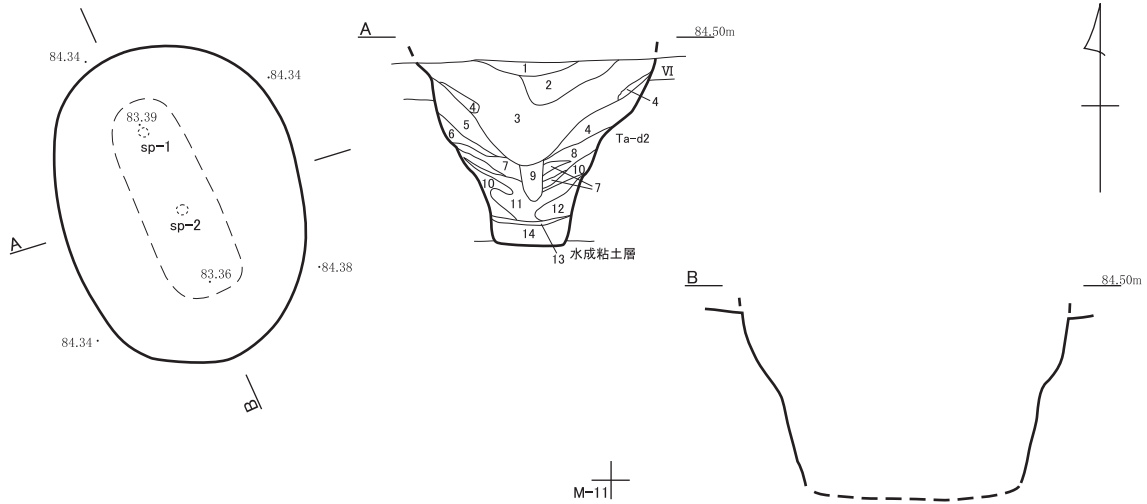


図43 ATP-16・ATP-17

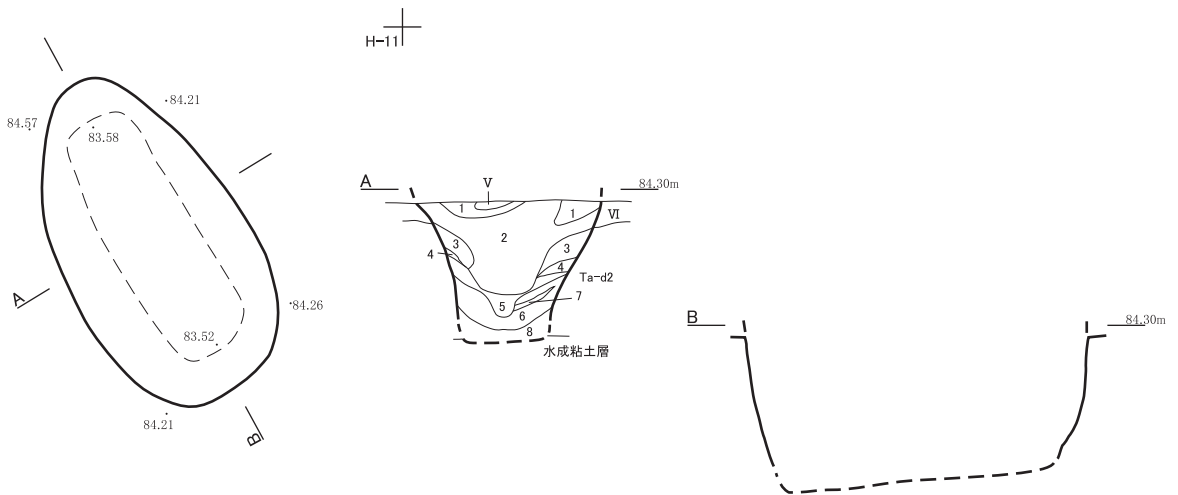
(S=1/40)

ATP-18



遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考	
		層名	細分層			色名	マンセル表色系	粘着性	堅密度		平均	最大							
													色調	種類					
ATP-18	1	Sd2層	画然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	
	2	B1層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	20	5~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	3	B2層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	5	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	4	R1層	画然 砂埴土	暗褐色	7.5YR3/3	なし	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	5	BY層	画然 埴土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	6	YR層	画然 砂埴土	暗褐色	7.5YR4/4	なし	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	—
	7	B3層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	8	RB1層	画然 埴土	暗褐色	7.5YR3/3	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~10	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	9	B4層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	10	R2層	画然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	11	RB層	画然 埴土	暗褐色	7.5YR3/3	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~10	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	12	R3層	画然 埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	
	13	B5層	画然 埴埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
	14	RB2層	画然 埴土	暗褐色	7.5YR3/3	中	すこぶる堅	Ta-d2スコリア	5	2~10	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—	

ATP-19



遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				種類	面積割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル表色系	粘着性	堅密度		平均	最大						
													色調	種類				
ATP-19	1	Sd2層	画然 埴埴土	暗褐色	10YR3/4	強	軟	Ta-d2スコリア	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—
	2	B1層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	3	BY1層	画然 埴土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	4	R1層	画然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	なし	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	5	BY2層	画然 埴土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	6	R2層	画然 埴埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	7	Y層	画然 砂埴土	灰黄褐色	10YR4/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—
	8	B2層	画然 埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	5	5~10	亜円錐	腐朽	—	—	—	—	—	—

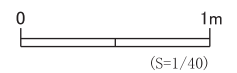
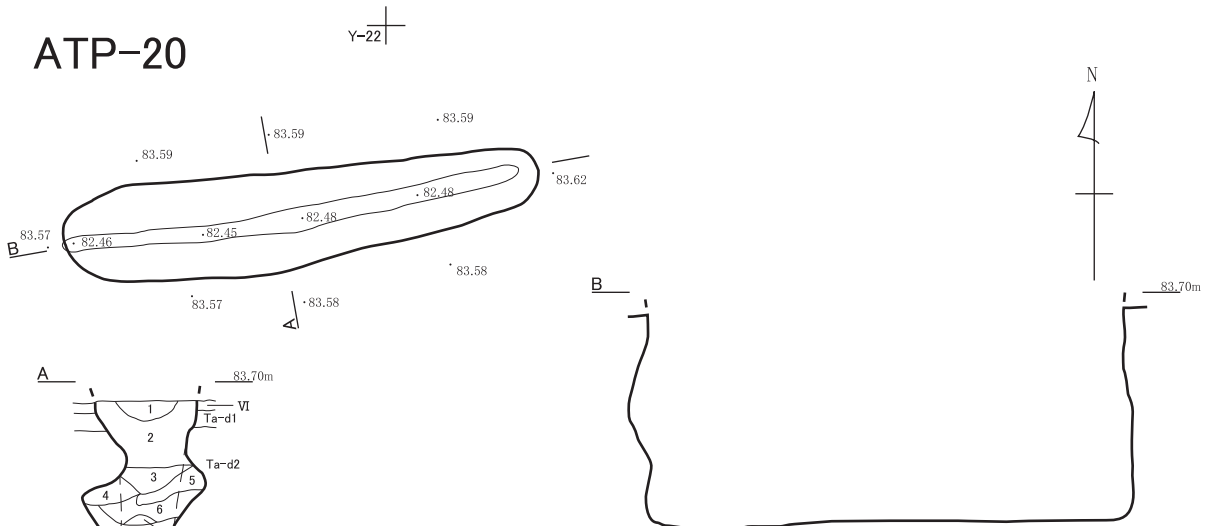


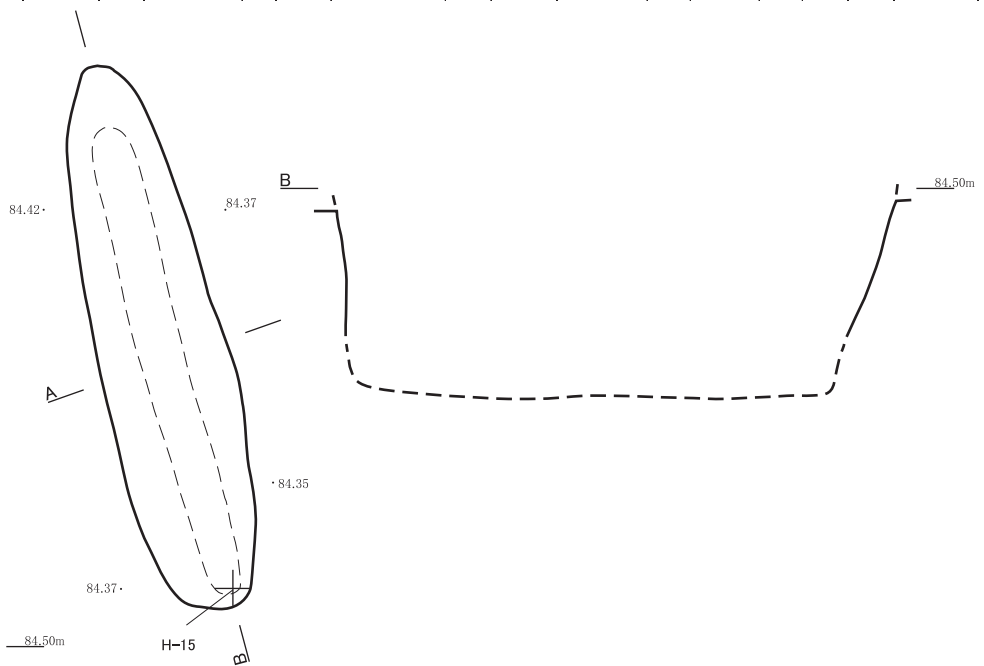
図44 ATP-18・ATP-19

ATP-20



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	礫(長径2mm以上)		形状	風化の程度	混入物	備考
		主体層・遊存層				マンセル表色系	面積割合(%)				粒径(mm)					
		層名	細分層								平均	最大				
ATP-20	1	BY層		明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	2	B層	B1層	明瞭	城塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	3	BR1層		明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~4	5	亜円礫	腐朽	—
	4	BR2層		明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	5	亜円礫	腐朽	—
	5	BR3層		明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	5	亜円礫	腐朽	—
	6	RB層	RB1層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	80	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	7	B層		明瞭	城塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~3	5	亜円礫	腐朽	—
	8	R層		明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	90	3~7	9	亜円礫	腐朽	—
	9	RB層	RB3層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	80	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	10	BG層		明瞭	城塚土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ta-d2スコリア	3	2~3	5	亜円礫	腐朽	—

ATP-21



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	礫(長径2mm以上)		形状	風化の程度	混入物	備考
		主体層・遊存層				マンセル表色系	面積割合(%)				粒径(mm)					
		層名	細分層								平均	最大				
ATP-21	1	B1層		画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	5~10	亜円礫	腐朽	—	
	2	BY1層		画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—	
	3	YB層		画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	5	亜円礫	腐朽	—
	4	B2層		画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	1	2	5	亜円礫	腐朽	—
	5	R1層		画然	塚土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	5	亜円礫	腐朽	—
	6	YR層		画然	塚土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	5	亜円礫	腐朽	—
	7	BY2層		画然	塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	5	亜円礫	腐朽	—
	8	B3層		画然	塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	2~10	5	亜円礫	腐朽	—
	9	R2層		画然	塚土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	5	亜円礫	腐朽	—

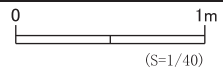


図45 ATP-20・ATP-21

が水平に堆積する。

壁・坑底面 壁は広がって立ち上る。長軸の坑底面は概ね平坦である。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 18 (図44 図版15・19)

位置 L-11区 **規模** 1.71×1.30 / 1.11×0.41 / 1.00m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半截し平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。坑底面近くで地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 覆土最上位はS d 2層で、断面図の両壁際には薄層が多数みられる。断面図番号9は杭穴等の存在を示唆するものかもしれない。

壁・坑底面 壁は坑底面近くでは垂直で、そこからは広く開口気味に立ち上がる。長軸の坑底面は概して平坦である。

付属遺構 杭穴を2か所 (s p - 1・2)、平面位置と確認面の径を確認できた。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 19 (図44 図版15・21)

位置 H-11区 **規模** 1.82×1.01 / 1.40×0.49 / 0.83m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた、短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりや土層断面から、遺構と判断した。坑底面近くでは地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。他のTピットに比べて浅い。

覆土 覆土最上位にはV層、その直下にはS d 2層がみられ、下位まで各覆土は遺構の中央へと低い堆積がみられる。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは曲線的に広がり、長軸の坑底面は南側へと傾斜する。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

A T P - 20 (図45 図版17・20)

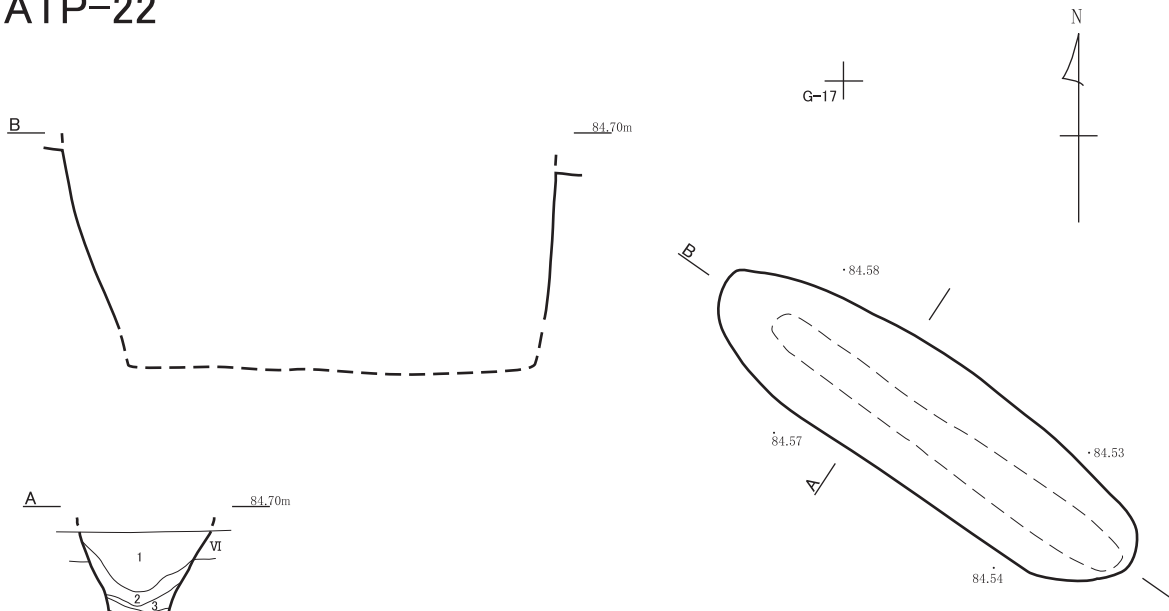
位置 Y-21・22区 **規模** 2.54×0.81 / 2.44×0.13 / 1.14m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層上面で黒色土がみられた。半截したところ、みられた平坦な面と土層断面から、遺構と認定した。土層断面図の両壁は大きく崩落した部分があり、不整な形状を呈する。

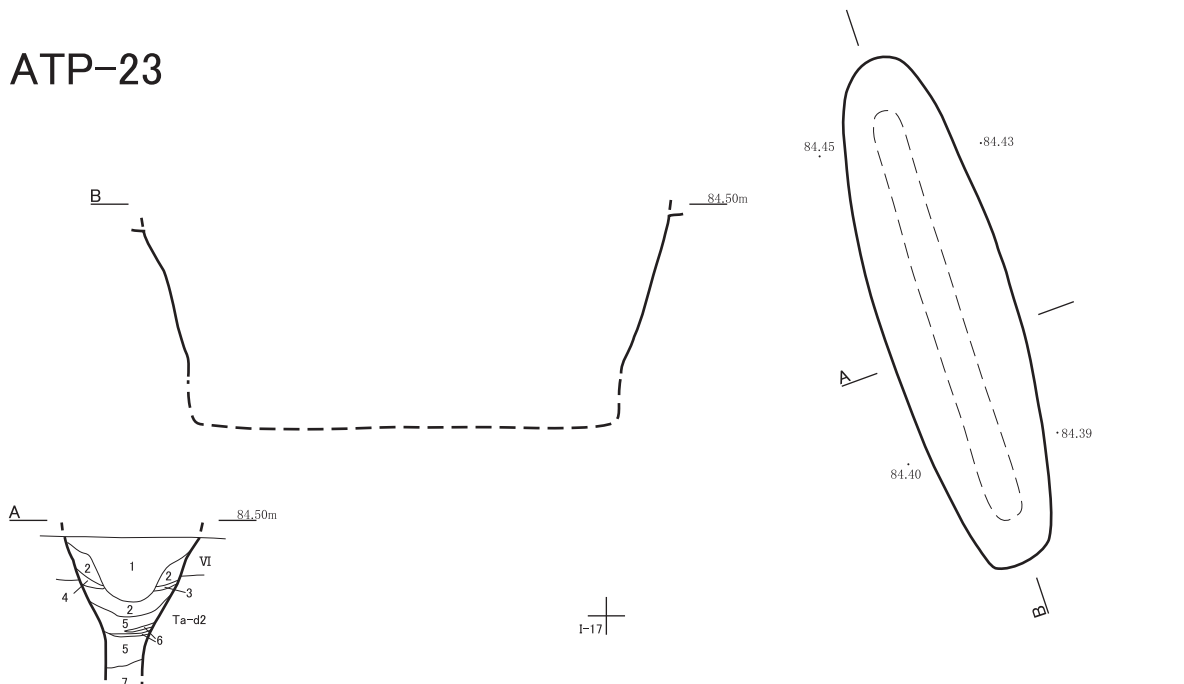
覆土 覆土上位は黒色土主体の層で、覆土下位の断面図番号6・8・9は、T a - d 2が主体または多く、これらは両壁の崩落土と考えられる。中位は崩落した部分と遺構内に堆積した層である。

ATP-22



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調			粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		主体層・存在層				マンセル表色系	種類	平均					最大					
		層名	細分層											色名				
ATP-22	1	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	2	BY1層	面然	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	3	R1層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~10	亜円礫	腐朽	—				
	4	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	5	BY2層	面然	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜角礫	腐朽	—				
	6	R3層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~3	亜円礫	腐朽	—				
	7	R4層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	軟	Ta-d2スコリア	90以上	2~30	亜角礫	腐朽	—				

ATP-23



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調			粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		主体層・存在層				マンセル表色系	種類	平均					最大					
		層名	細分層											色名				
ATP-23	1	B1層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	2	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	2	BY1層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d1スコリア	5	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	3	B2層	面然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d1スコリア	5	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	4	YB層	面然	砂壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	5	R1層	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜角礫	腐朽	—				
	6	B層	面然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	1	2~5	亜円礫	腐朽	—				
	7	R2層	面然	壤土	暗褐色	10YR3/4	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜角礫	腐朽	—				

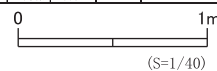


図46 ATP-22・ATP-23

壁・坑底面 壁は坑底面近くでは垂直気味で中位に崩落部分があり、上位もやや開口する。長軸方向の坑底面は西側がゆるやかにくぼみ、壁は一部オーバーハングがみられる。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(広田)

A T P - 21 (図45 図版17・21)

位置 G・H-14・15区 **規模** 2.96×0.71 / 2.55×0.29 / 1.06m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し壁の立ち上がりや土層断面から、遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録し完掘した。

覆土 覆土最上位は黒色土が厚く、下位はT a - d 2主体の層である。後者は壁の自然層位もT a - d 2で、かつ地下水もあり明確に土層を確認できなかった。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは坑底面の近くは垂直で、確認面近くで曲線的に開く。長軸方向の坑底面はやや曲線的な凹凸がある。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 22 (図46 図版15・21)

位置 G-16・17区 **規模** 2.61×0.73 / 2.23×0.25 / 1.18m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、壁の立ち上がりや土層断面から遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 覆土上位は黒色土、T a - d 2主体の層(断面図番号3・7)は中下位にみられる。

壁・坑底面 壁は垂直に立ち上がり中位付近でゆるやかに開口する。長軸方向の坑底面は若干凹凸がある。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 23 (図46 図版18・21)

位置 H-16区 **規模** 2.79×0.73 / 2.26×0.21 / 1.13m

平面形態 溝状／溝状

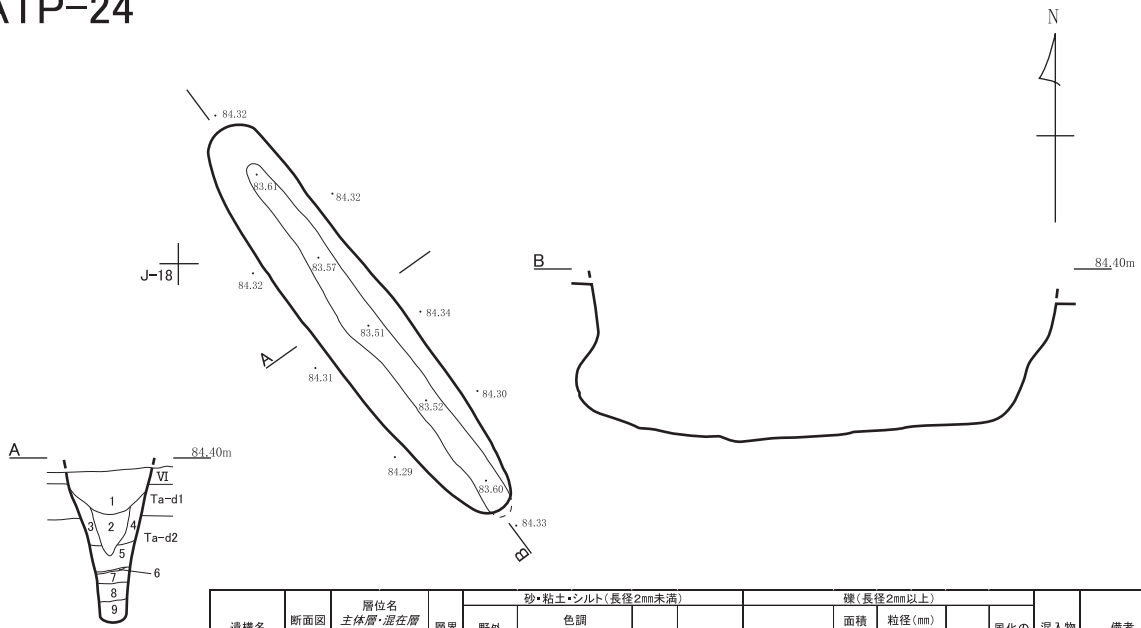
確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや土層断面を確認し、遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録し完掘した。

覆土 覆土上位は黒色土、下位はT a - d 2主体である。

壁・坑底面 壁は垂直に立ち上がり中位でやや広がり、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

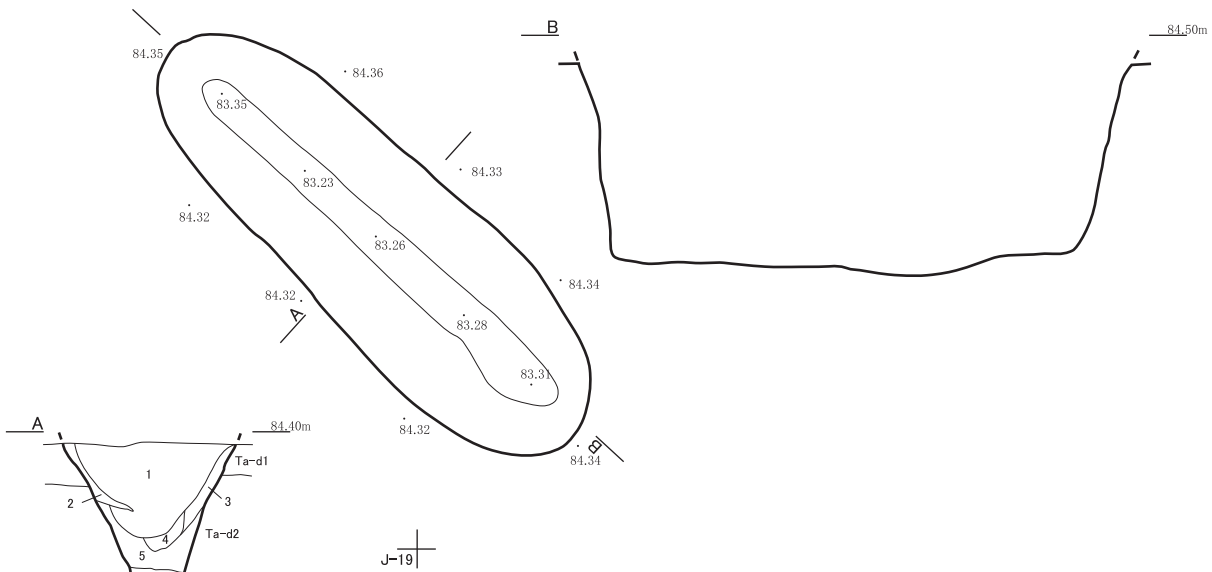
付属遺構 なし。

ATP-24

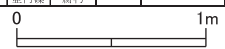


遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大				
ATP-24	1	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	2		B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	3	BR層	BR1層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	4		BR2層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	5	RB層	RB1層	明瞭	埴土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	3	3~5	亜円礫	腐朽	—		
	6	B層	B3層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	7		RB2層	明瞭	砂埴土	暗褐色	7.5YR3/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	50	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	
	8	B層	B4層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	1	3~5	亜円礫	腐朽	—		
	9		B5層	明瞭	埴土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	5	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	

ATP-25



遺構名	断面図番号	層位名		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大				
ATP-25	1	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	2		BY1層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱	すこぶる堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	3	BY層	BY2層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱	すこぶる堅	Ta-d1スコリア	2	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	4		BR1層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d2スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	5	RB層	RB1層	明瞭	砂埴土	明褐色	10YR5/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	
	6	B層	RB2層	明瞭	砂埴土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	50	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	
	7		B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	2	2~3	7	亜円礫	腐朽	—	
	8	BR層	BR2層	明瞭	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	10	3~7	7	亜円礫	腐朽	—	
	9	RB層	RB3層	明瞭	砂埴土	褐色	10YR4/4	弱	すこぶる堅	Ta-d2スコリア	80	2~5	7	亜円礫	腐朽	—	



(S=1/40)

図47 ATP-24・ATP-25

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

A T P-24 (図47 図版18・21)

位置 I・J-17区 **規模** 2.49×0.46 / 2.30×0.21 / 0.82m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられ、南側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。その後、土層断面を記録し、完掘した。

覆土 T a - d 2主体の層は中位の断面図番号5・7である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは直線的に広がり、長軸方向の坑底面は凹凸が顕著で、南側はオーバーハングする。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P-25 (図47 図版15・21)

位置 I-18・19区 **規模** 2.93×0.98 / 2.49×0.30 / 1.07m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認した。それから土層断面を記録し完掘した。

覆土 覆土上位は広く厚く黒色土が堆積し、各覆土は遺構の中央へと傾斜する。下位は水平な堆積が認められる。

壁・坑底面 壁は直立し、中位から大きく広がる。長軸方向の坑底面は凹凸がみられ、北側部分が高い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P-26 (図48 図版16・21)

位置 W-20区 **規模** 1.44×0.88 / 0.90×0.36 / 0.96m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。その後、土層断面を記録し完掘した。

覆土 覆土上位と最下層は黒色土主体の覆土で、中下位にT a - d主体の覆土がみられる。

壁・坑底面 壁はゆるやかに広がり立ち上がる。長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

付属遺構 杭穴 (s p - 1) を、遺構の長軸上で1か所確認した。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

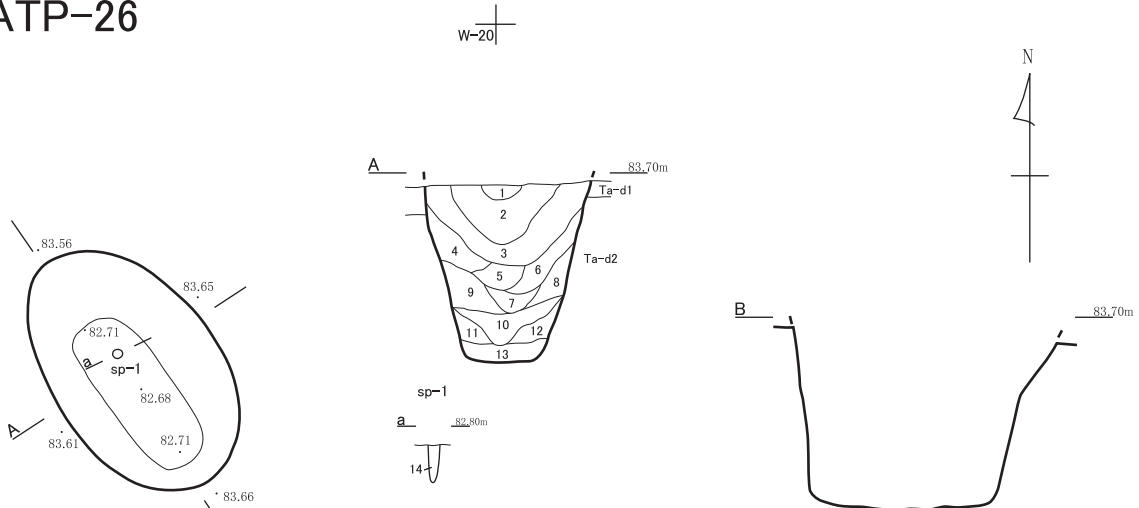
時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(広田)

A T P-27 (図48 図版16・22)

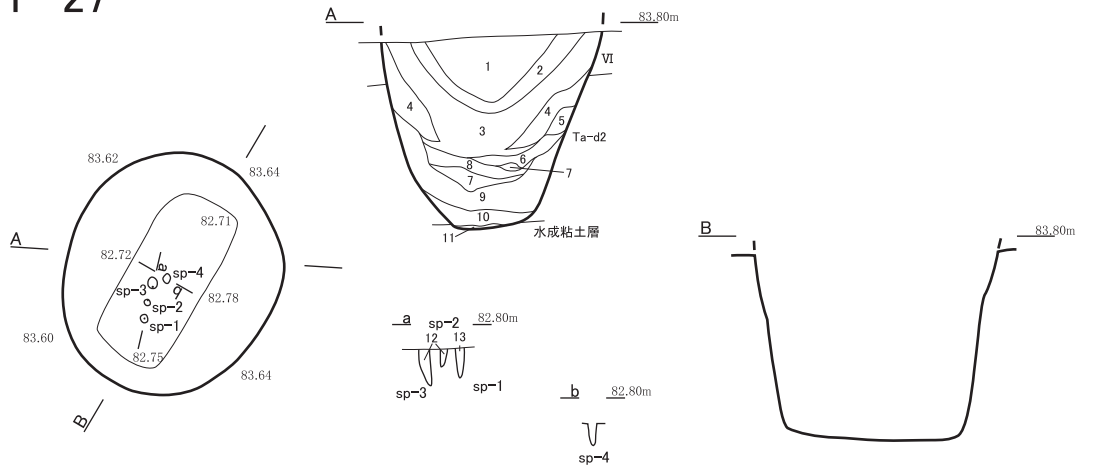
位置 W-21区 **規模** 1.28×1.12 / 0.95×0.43 / 1.01m

ATP-26



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大				
ATP-26	1	B層	明瞭	培塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	—		
	2	B層	B1層	明瞭	塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	2	3~5	亜円礫	腐朽	—	
	3		B2層	明瞭	塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	4	BR層	BR2層	明瞭	塚土	黒褐色	7.5YR3/2	弱	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	5		BR3層	明瞭	塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	20	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	6	BR層	BR3層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	7		BR4層	明瞭	塚土	暗褐色	7.5YR3/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	30	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	8	R層	R1層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	40	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	9		RB層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	90	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	10	BR層	BR5層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/2	弱	軟~堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	11		BR2層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	20	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
	12	R層	明瞭	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	
	13	B層	B4層	明瞭	培塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	90	3~5	7	亜円礫	腐朽	—
ATP-26 sp-1	14	BG層	明瞭	培塚土	暗褐色	10YR3/4	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	1	2~4	4	亜円礫	腐朽	—	

ATP-27

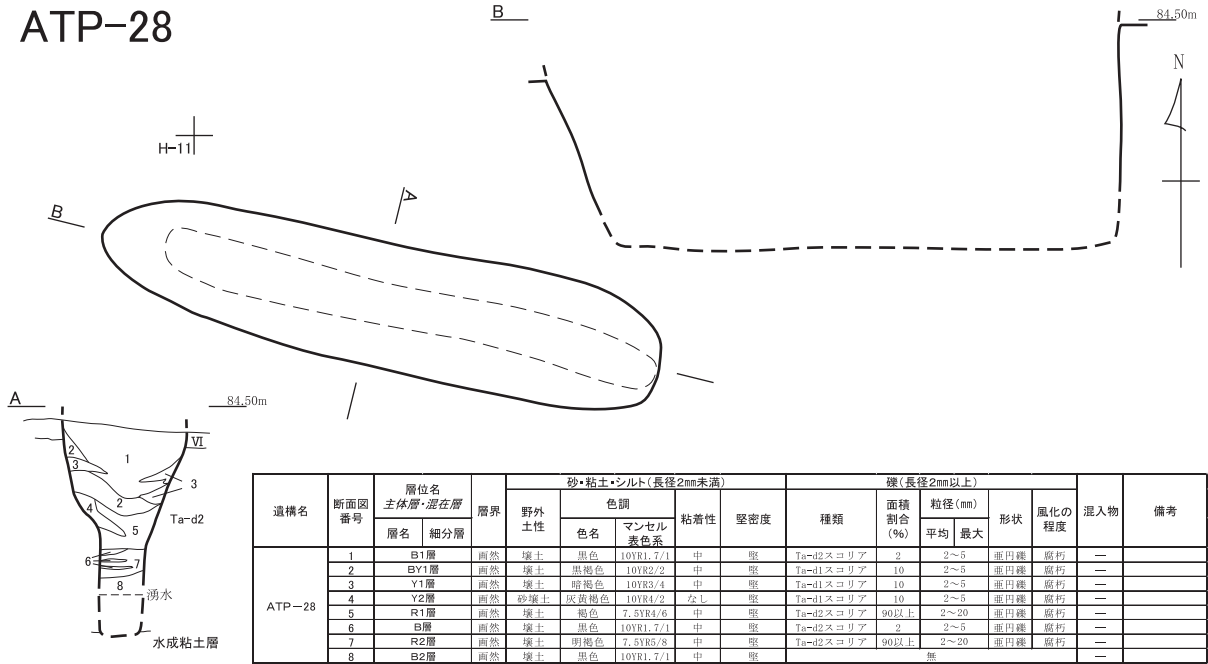


遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大				
ATP-27	1	B層	明瞭	塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	10	2~10	亜円礫	腐朽	—		
	2	BR層	BR層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ta-d2スコリア	20	2~20	亜円礫	腐朽	—	
	3		B層	明瞭	塚土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	Ta-d2スコリア	5	2~20	亜円礫	腐朽	—	
	4	YR層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	50	2~10	亜円礫	腐朽	—		
	5	R層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~10	亜円礫	腐朽	—		
	6	YB層	YB層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—	
	7		B層	明瞭	塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	30	2~10	亜円礫	腐朽	—	
	8	Y層	明瞭	塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—		
	9	R層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~10	亜円礫	腐朽	—		
	10	B層	B層	明瞭	塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	30	2~10	亜円礫	腐朽	—	
	11		B層	明瞭	塚土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-d2スコリア	2	2~5	亜円礫	腐朽	—	
ATP-27 sp-1~4	13	RG層	明瞭	塚土	にぶい黄褐色	10YR5/4	中	軟	Ta-d2スコリア	70	2~5	亜円礫	腐朽	—		

図48 ATP-26・ATP-27

(S=1/40)

ATP-28



ATP-29

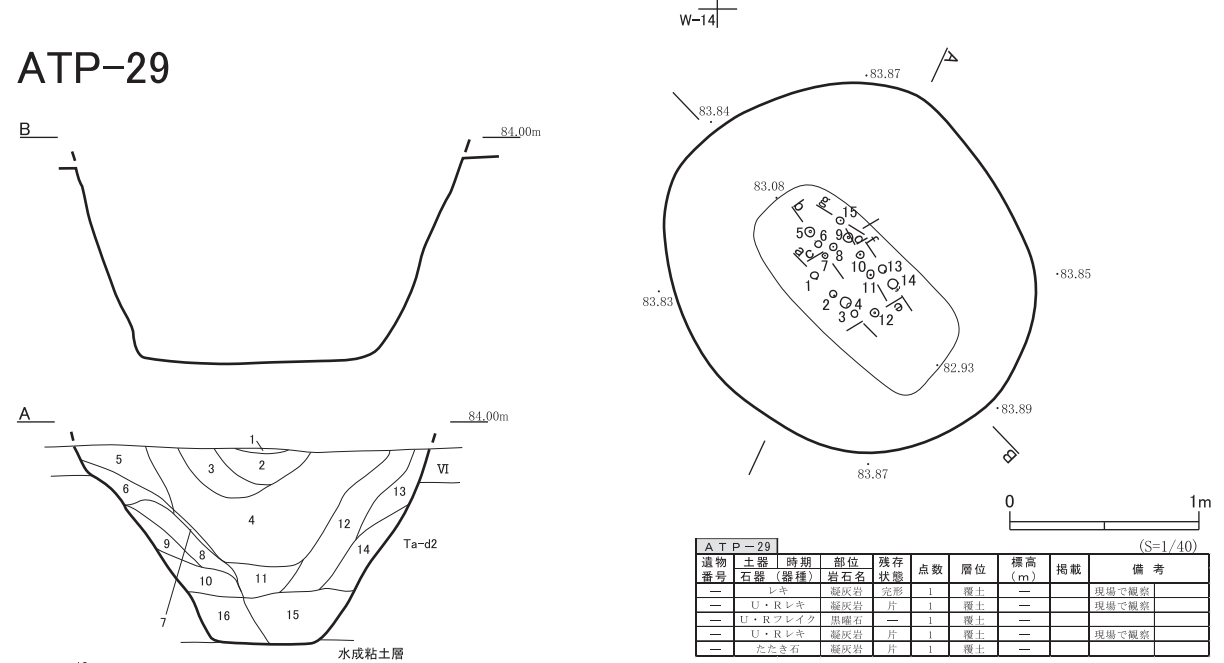
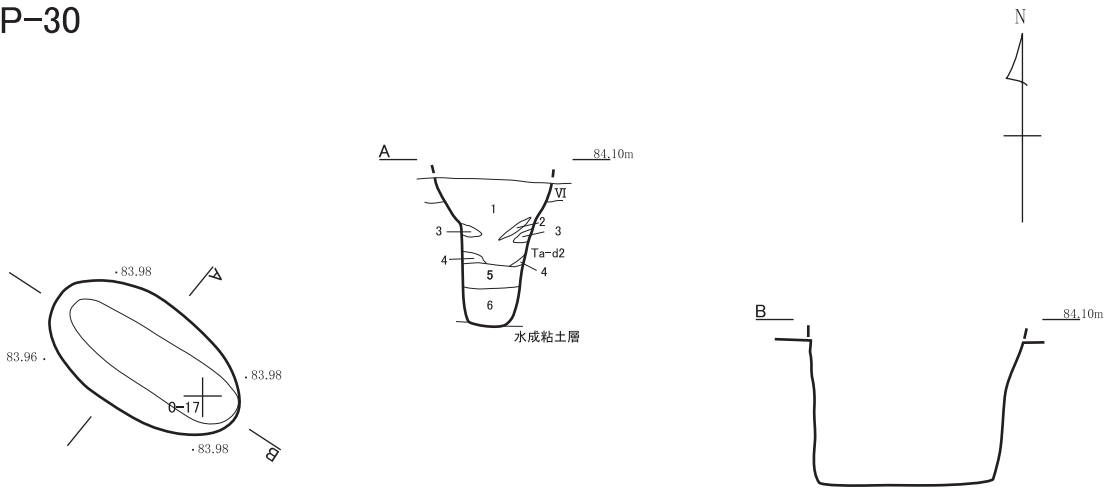


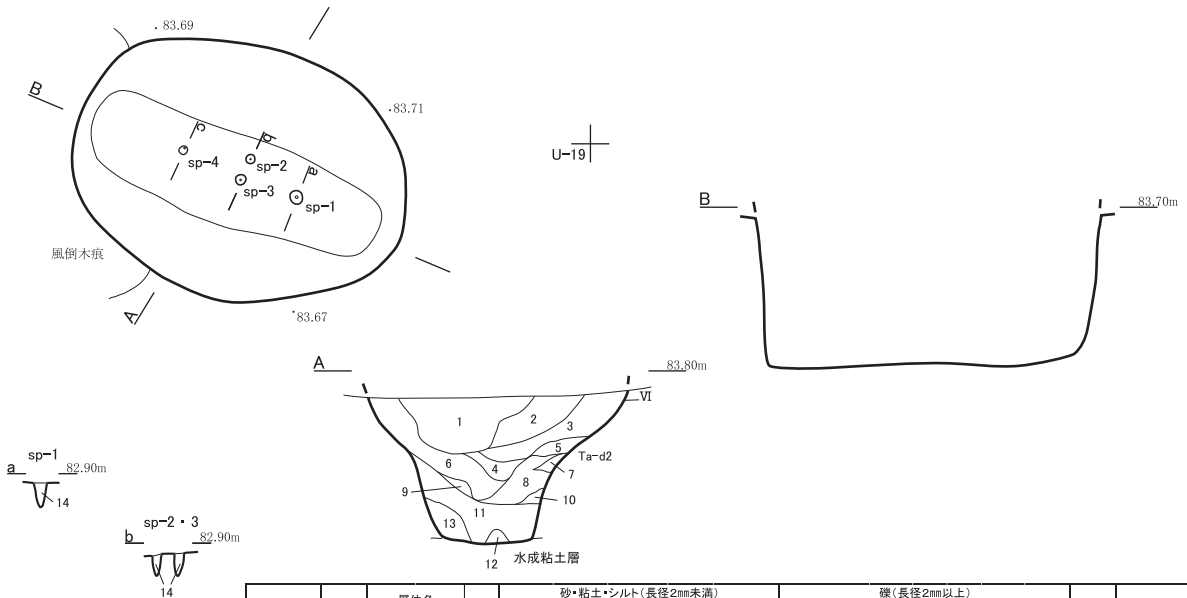
図49 ATP-28・ATP-29

ATP-30



遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		層名	細分層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
						色名	マンセル表色系					平均	最大				
ATP-30	1	B1層	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~4	亜円礫	腐朽	—			
	2	BY1層	画然	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	なし	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—			
	3	BY2層	画然	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—			
	4	R1層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円礫	腐朽	—			
	5	B2層	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	10	3~4	亜円礫	腐朽	—			
	6	R2層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円礫	腐朽	—			

ATP-31



遺構名	断面図番号	層位名 主体層・混在層		層界	野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)		形状	風化の程度	混入物	備考
		層名	細分層			色名	マンセル表色系					平均	最大				
2	BR2層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d2スコリア	40	2~15	亜円礫	腐朽	—				
3	B1層	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~8	亜円礫	腐朽	—				
4	BR3層	画然	砂壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d2スコリア	40	2~15	亜円礫	腐朽	—				
5	R1層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円礫	腐朽	—				
6	B2層	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~8	亜円礫	腐朽	—				
7	R2層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
8	Y層	画然	砂壤土	暗褐色	10YR3/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
9	BR4層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d2スコリア	20	2~3	亜円礫	腐朽	—				
10	R2層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d2スコリア	90以上	2~20	亜円礫	腐朽	—				
11	B3層	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	30	2~15	亜円礫	腐朽	—				
12	R3層	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~5	亜円礫	腐朽	—				
13	BR5層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ta-d2スコリア	20	2~3	亜円礫	腐朽	—				
ATP-31 sp-1~4	14	GR2層	画然	壤土	灰黄褐色	10YR4/2	中	軟	Ta-d2スコリア	20	2~3	亜円礫	腐朽	—			

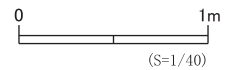


図50 ATP-30・ATP-31

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 上位には黒色土主体の層が厚く広く堆積し、T a - dが多く混じる層（断面図番号4）が両壁際にみられる。

壁・坑底面 壁は坑底面の近くで広がり気味に立ち上がる。長軸方向の坑底面は中央から北東側がやや低い。

付属遺構 遺構の中央から南側部分で、杭穴を4か所（s p - 1～4）確認した。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 28（図49 図版18・21）

位置 H - 10・11区 **規模** 3.03×0.73 / 2.68×0.33 / 1.21m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。西側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや土層断面を確認したので、遺構と認定した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録後完掘した。

覆土 覆土上位は黒色土主体、中下位はT a - d 2主体の覆土で、断面図番号6・7はT a - d層中に薄い黒色土層がみられる。

壁・坑底面 壁は垂直に立ち上がり中位で若干広がり、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 29（図49 図版16・22）

位置 W - 13・14区 **規模** 2.04×1.81 / 1.26×0.58 / 1.09m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。北西側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。

覆土 T a - d層を多く含む層は、断面図番号9・13・14が両壁際で、同15・16の覆土最下層は色調で分けられる。遺構の中央、上位から中位付近は黒色土主体の覆土が堆積する。

壁・坑底面 壁はいずれもゆるやかに広く立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央がやや低い。

付属遺構 杭穴（s p - 1～15）が多数確認できた。遺構の南東側部分にはみられない。

遺物出土状況 覆土から、U・Rフレイク、たたき石、U・Rレキ、レキが出土した。

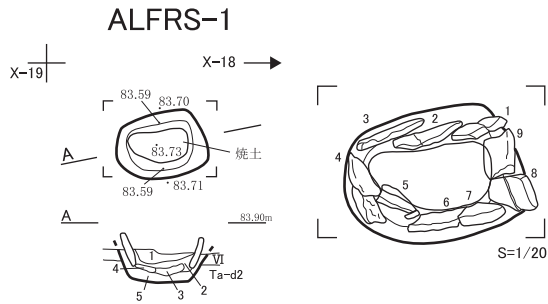
時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 30（図50 図版16・22）

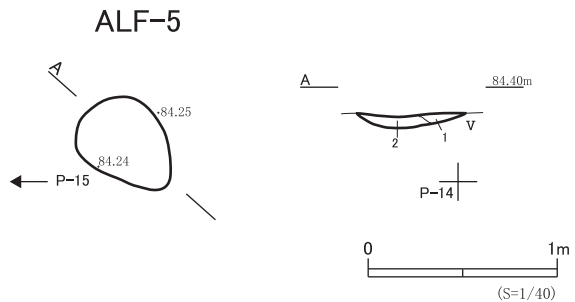
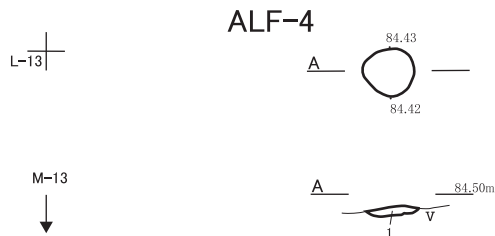
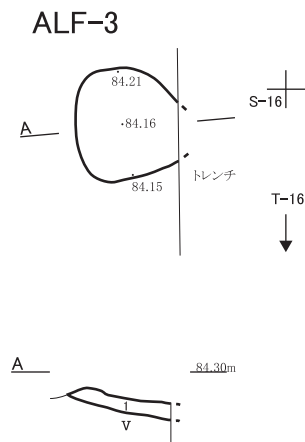
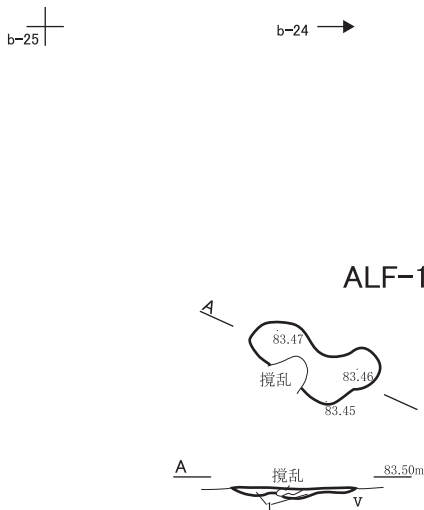
位置 N・O - 16・17区 **規模** 1.15×0.61 / 1.03×0.28 / 0.77m

平面形態 楕円形／長楕円形～溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、



ALFRS-1									
遺物番号	土器(器種)	岩石名	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
1	レキ	砂岩	片	3		覆土B1	83.78		現場で記録
	U・Rレキ	砂岩	片	1					現場で記録
	砥石	砂岩	片	1					被熱
2	U・Rレキ	砂岩	片	1		覆土B1	83.80		現場で記録
	レキ	砂岩	片	4					現場で記録
	U・Rレキ	砂岩	片	6					現場で記録
3	U・Rレキ	砂岩	片	1		覆土B1	83.77		現場で記録
	レキ	砂岩	片	2					現場で記録
4	台石	砂岩	片	2		覆土B1	83.90		現場で記録 被熱
5	U・Rレキ	砂岩	片	1		覆土B1	—		現場で記録
6	レキ	砂岩	片	2		覆土B1	83.81		現場で記録 被熱
7	U・Rレキ	砂岩	片	1		覆土B1	83.79		現場で記録 被熱
8	U・Rレキ	砂岩	片	2		覆土B1	83.83		現場で記録 被熱
9	砥石	砂岩	完形	1		覆土B1	83.83		現場で記録 被熱
—	U・Rレキ	砂岩	片	4		V層	—		現場で記録 被熱
—	U・Rレキ	砂岩	片	26		V層	—		現場で記録 被熱
—	すり石	凝灰岩	片	1		V層	—		被熱



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
		層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大				
ALFRS-1	1	R層	R1層	画然	埴壤土	明褐色	7.5YR5/6	中	堅					—	焼土	
	2	B層	B1層	画然	埴土	黒色	10YR2/1	中	堅					—	V b層主体	
	3	BR層	BR1層	明瞭	埴土	暗褐色	10YR2/3	中	堅					—	焼土混在	
	4	R層	R2層	画然	埴壤土	明褐色	7.5YR5/6	中	堅					—	焼土	
	5	B層	BR2層	画然	埴土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d2スコリア	1	2	亜円礫	腐朽	—	V b層主体
ALF-1	1		R層	画然	埴土	明褐色	5YR5/6	中	堅					—	焼土	
ALF-2	1		R1層	明瞭	埴壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅					—	焼土	
	2		R2層	画然	埴土	黒褐 ~褐色	7.5YR4/4 ~10YR2/2	中	堅					—	V b層混在	
ALF-3	1		R層	画然	埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅					—	焼土	
ALF-4	1		R層	画然	埴壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅					—	焼土	
ALF-5	1		R1層	明瞭	埴土	褐色	7.5YR4/4	中	堅					—	焼土	
	2		R2層	画然	埴土	暗褐色	7.5YR3/4	中	堅					—	V b層混在	

図51 ALFRS・ALF

平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。小型である。
覆土 上位には黒色土主体の層、覆土最下層にT a - d主体の層がみられ、一般的なTピットの堆積が認められる。

壁・坑底面 壁は坑底面の近くで直立気味で上位でやや広がる。長軸方向の坑底面は南東側が若干低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

A T P - 31 (図50 図版16・22)

位置 T・U-19区 **規模** 1.83×1.38 / 1.62×0.50 / 0.81m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南東部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。西側部分は風倒木痕を切っている。

覆土 T a - d層を多く含む層(断面図番号：2・5・10)や、褐色を呈する覆土(同：7・10・12)は局所的で多くみられず、多くは黒色土主体である。

壁・坑底面 壁はゆるやかに広く立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がやや高い。

付属遺構 杭穴(s p - 1～4)を確認した。遺構の長軸を想定すると、規則的に位置していると解される。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

4. 石組炉

A L F R S - 1 (図51 表34 図版22)

位置 X-18区

規模 掘り方 0.49×0.35 / 0.35×0.25 / 0.17m **石組** 0.49×0.30 / 0.19m

平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で複数の石が長方形～楕円形にまとまっているのがみられた。トレンチを設けて掘り進めたところ、焼土、坑底面、壁の立ち上がりも確認したので、石組炉と判断した。浅い土坑(掘り方)を構築し、この内部に石を配して炉として使用されたと考えられる。用いられている石は砂岩の扁平な礫で、北側部分(1～3)は互い違いに礫を配置しており、被熱しているものもある。

土層 石組内では、最上位に明褐色の焼土が厚くみられ、薄い黒色土を挟み、さらに下位にも焼土が一部みられる。両壁から最下層はT a - d 2混じりの黒褐色土で、石組はこれの内側または上位に配置されている。石組炉の調査完了後、周囲の包含層調査では、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

壁・坑底面 坑底面は中央付近が低く、壁は直線的に開き気味で立ち上がる。

遺物出土状況 石組に用いられている礫は、すり石、砥石、台石、U・Rレキがあり、石器として使

用された後、石組に転用されたと考えられる。

時期 石組炉は縄文時代中期後半～後期初頭に特徴な遺構である。また、放射性炭素年代測定の結果（IK3-10）では、縄文時代後期初頭と考えられる（付篇参照）。

（愛場）

5. 焼土（図51 表35）

ALF-1

位置 b-24区 **規模** 0.71×0.36 / 0.06m **平面形態** 不整形

ALF-2

位置 V-18区 **規模** 0.36×0.21 / 0.05m **平面形態** 楕円形

ALF-3

位置 R・S-16区 **規模** 0.62×0.60 / 0.09m **平面形態** 円形

ALF-4

位置 K・L-12区 **規模** 0.28×0.25 / 0.06m **平面形態** 円形

ALF-5

位置 O・P-14区 **規模** 0.57×0.43 / 0.08m **平面形態** 楕円形

確認・調査 ALF-1～5は、すべて包含層調査中にV層で確認した。ALF-1は不整形で、これ以外は円形か楕円形である。焼土の色調は褐色で、層厚は5～9cmである。焼土の調査完了後、周囲の包含層調査で、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

遺物出土状況 焼土から遺物は出土していない。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

（末光）

6. 出土遺物

（1）土器

復原土器（図52 表39～46 図版34・35）

1・2はⅢ群b類で、3～8はⅣ群a類である。

1は四つの小突起をもつ波状口縁で、胴部へとゆるやかな曲線の器形である。胴部下半から底部にかけてLR縄文が横走している。2は胴部から底部へとすぼまる器形で、器面にLR縄文が施され、ナデ調整が行われている。3は口縁部から胴部下半まであり、LR・RL羽状縄文を施文後、貼付帯と円形刺突文を施している。4は口縁部から胴部上半まで内湾する器形で、地文はRL縄文が縦走している。5は地文がRLR縄文であり、一部縦位回転が施され、一对の補修孔がある。6は胴部下半から底部へややすぼまる器形であり、LR縄文が施される。7は胴部下半の地文がRLR縄文であり、底部の内面に指頭圧痕がみられる。8は地文にLR・RL羽状縄文が施された後、貼付帯が付される。

破片土器（図53～55 表47 図版37・38）

遺構出土の土器（図53 表47 図版37）

1～3はATP-5から出土したもので、すべてⅢ群b類と判断する。1・2は地文がLR縄文である。2は沈線文が施されている。3は地文がRL縄文である。

包含層出土のⅢ群土器（4～18）

4～11は口縁部である。

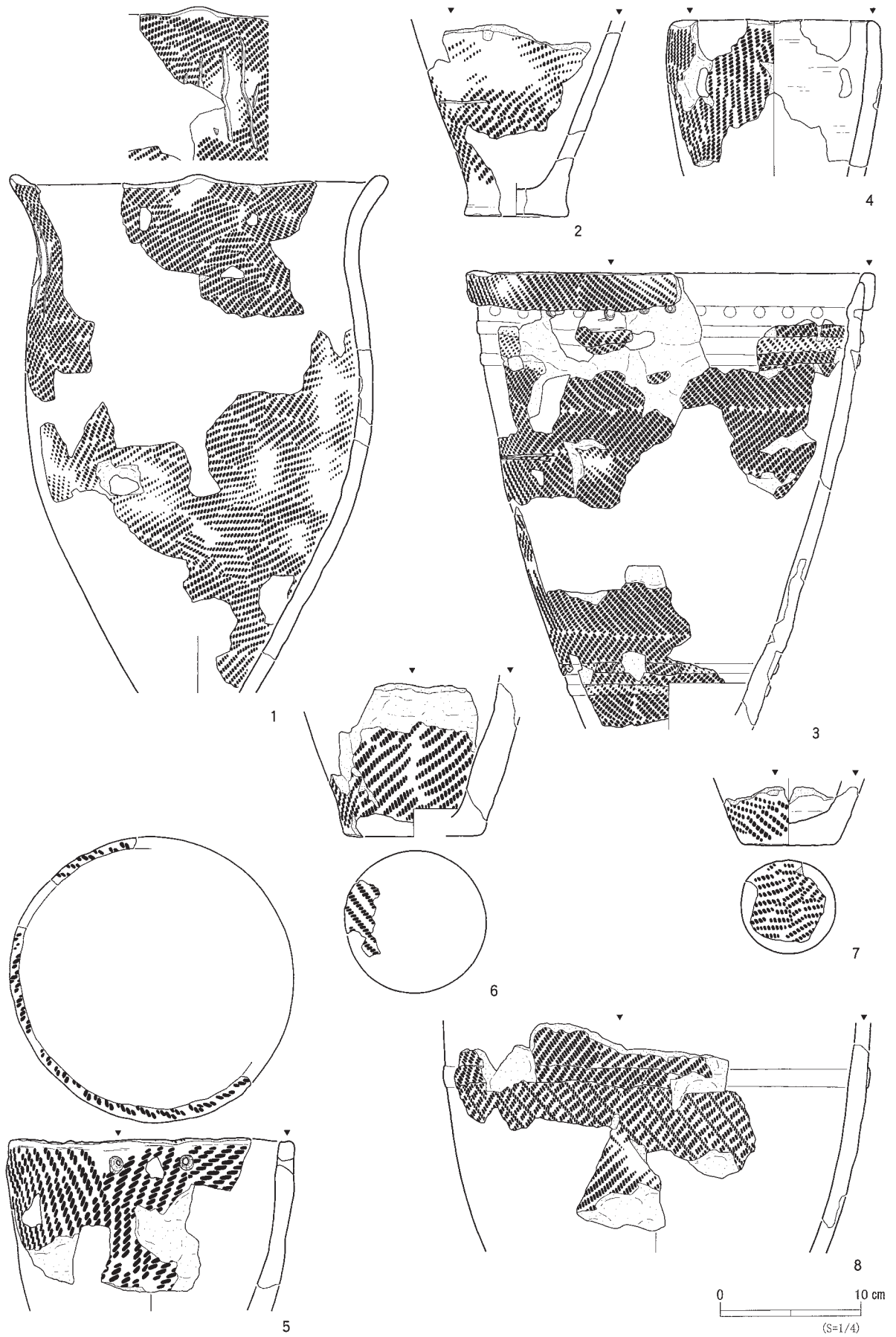


図52 A地区 V層 包含層出土の復原土器

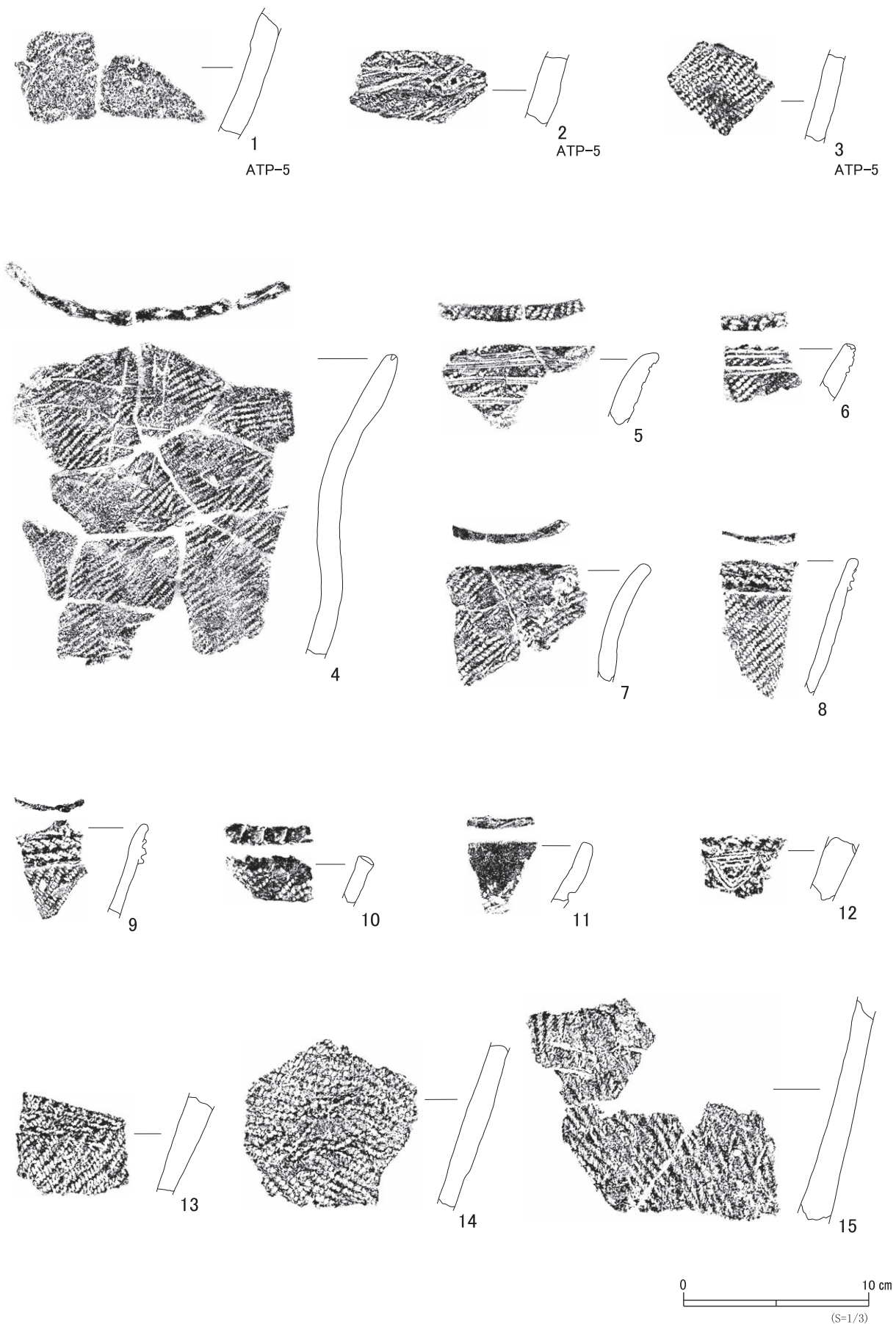


図53 A地区 V層 遺構・包含層出土の破片土器

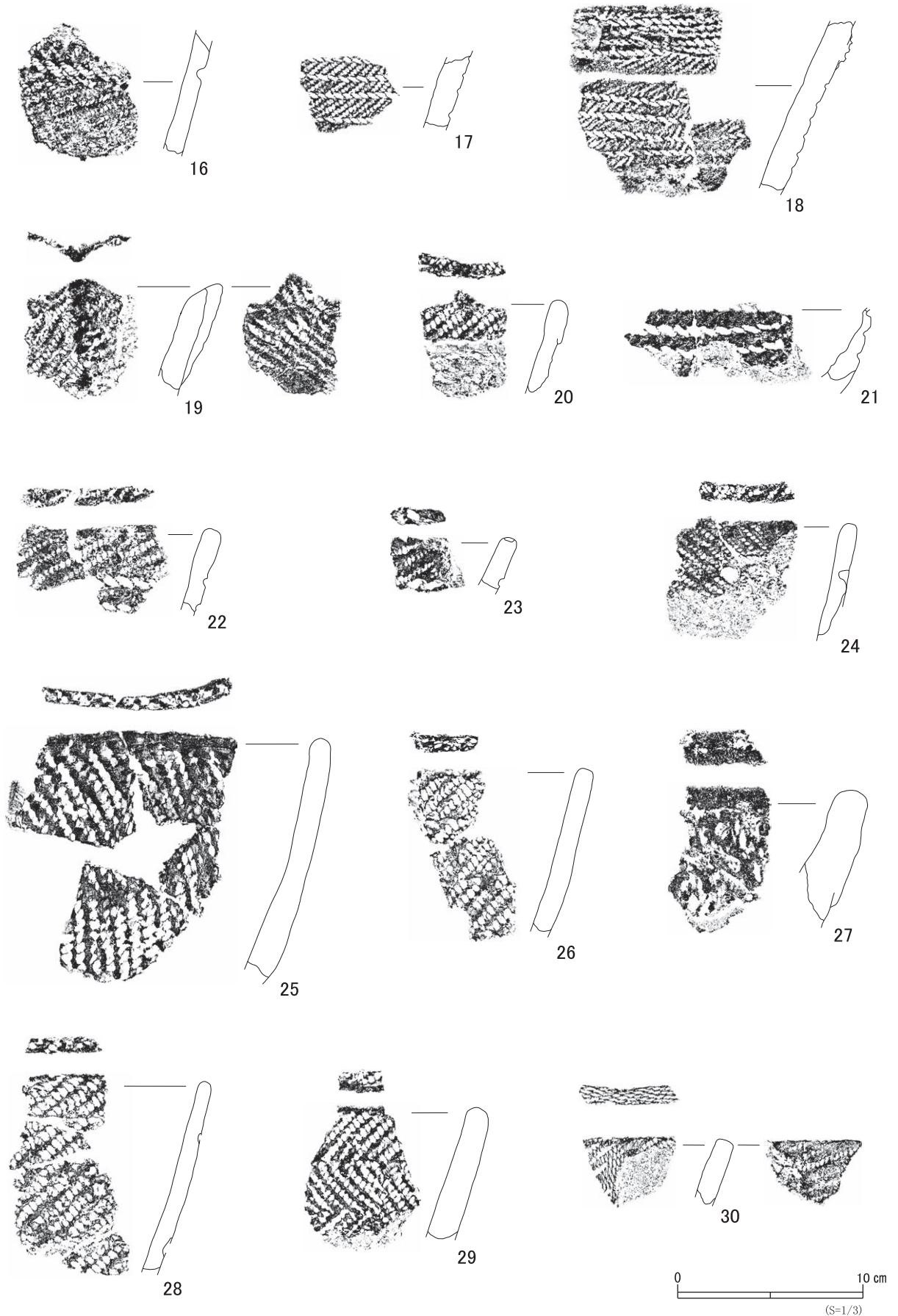


図54 A地区 V層 包含層出土の破片土器 (1)

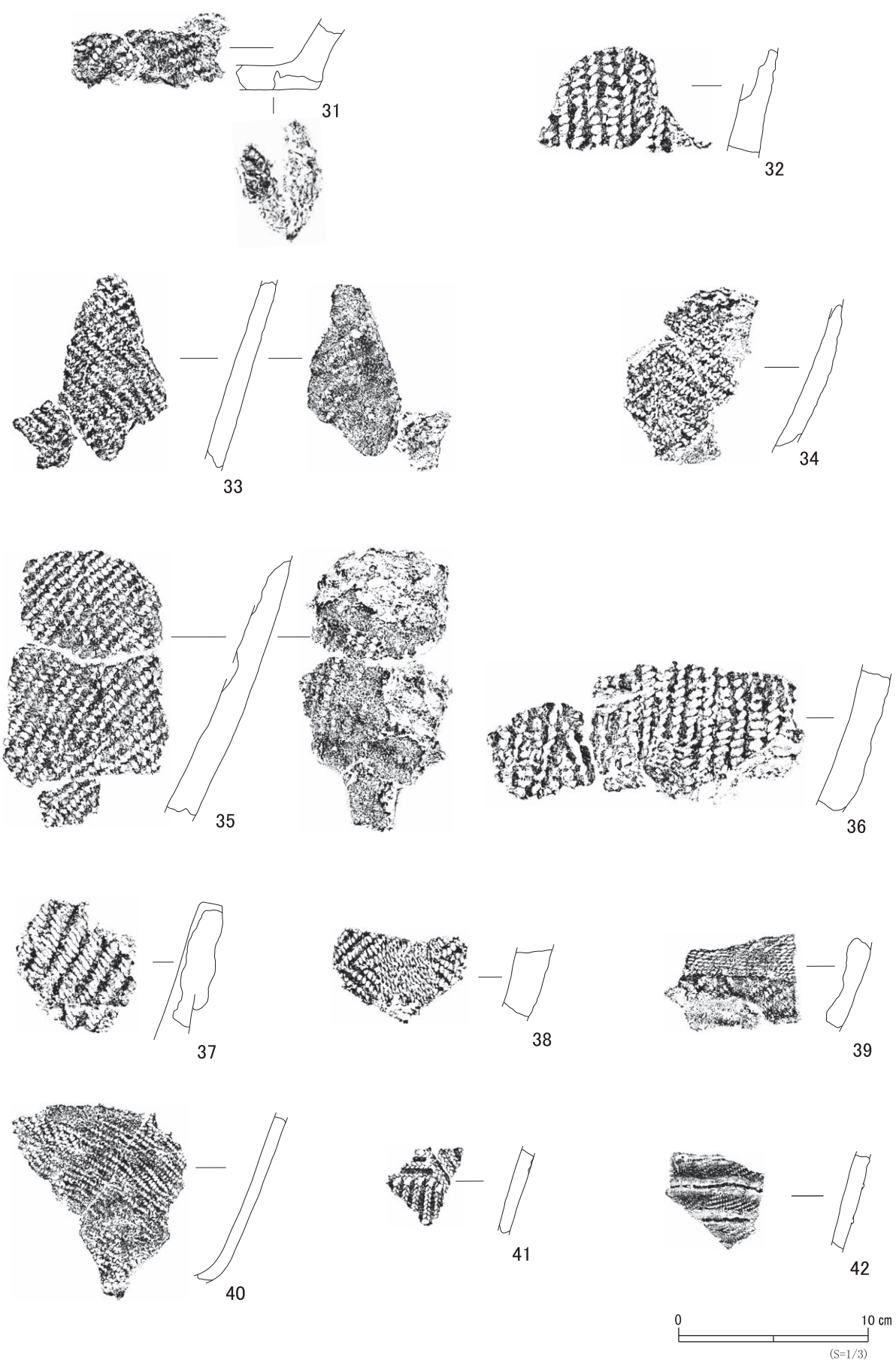


図55 A地区 V層 包含層出土の破片土器 (2)

4は器面がLR縄文で口唇部に刺突文が施される。5は沈線文が複数みられる。6は平行沈線文がみられ、口唇部に刺突文が施される。7はRL原体の縦位回転施文である。8・9は貼付帯にLR縄線文が施される。10は口唇部に爪形文が確認できる。11は口唇部と内面にナデ調整が行われている。

12～18は胴部である。

12は半截竹管状工具による刺突文と沈線文が施される。13は地文がLR縄文で綾絡文がみられる。14はLR縄文と綾絡文が確認される。15は1段Lの縦位回転施文である。また胎土に石英を多量に含む。16はLR原体の縦位回転施文部分がみられる。17は地文がLR縄文で、LR縄線文が施されている。18は貼付帯と器面にLR縄線文が複数施文される。

包含層出土のIV群土器 (19～39)

19～30は口縁部である。

19は口唇部がRL縄文で貼付部分はLR縄文が施される。20は外面が剥離し、口唇部はLR縄文が施されている。21は内面が剥離し外面に縄線文がみられる。22・23はLR縄文地に縄線文が施されている。24はLR原体が縦位回転施文され、円形刺突文が施されている。25はRL原体により外面と口唇部に施文される。26は地文がLR縄文で、口唇部には不整な縄文がみられる。27の口唇部は肥厚し、不整な刺突文がみられる。28は地文がLR縄文で、口唇部にも施文されている。29は撚りの異なる原体による羽状縄文が確認できる。30はLR縄文地に多軸絡条体の回転と考えられる施文がみられ、口唇部も同様である。

31は底部で、胴部と底部にLR縄文が施される。

32～39は胴部である。

32は胴部下位でRL縦走縄文が確認できる。33・34はRL縦位回転の羽状縄文がみられる。35は外面がLR縄文で内面は縦走縄文が施される。36は器壁が厚く、RL原体により縦走する縄文がみられる。37はLR縄文が施文された貼付帯をもち、内面は剥離している。38はLR・RLの羽状縄文の間に多軸絡条体の回転による施文が確認できる。39は多軸絡条体の回転と考えられる地文に、LR縄文がみられる薄い貼付帯が施される。

包含層出土のI・V群土器 (40～42)

40はV群で胴部下位から底部であり、RL縄文が確認される。41・42はI群b類である。41は横位や斜位の組紐圧痕文が施される。42は微隆起線文が巡り、その間にLR縄文が確認される。

(2) 石器等

剥片石器 (図56～58 表48 図版42・43・46)

1～11は石鏃である。1は小型で基部が長い。2は背面に広い剥離面を残す。3は球果がみられ背面に広く剥離面がある。4は長身である。5は腹面に広い剥離面があり、背面は高まりを残す。6は腹面に広い剥離面がある。7・8は両面に広い剥離面が残る。9は薄く、背面右側縁が一部破損している。10は基部が若干内湾している。11は基部が内湾し、背面左側の基部が一部破損している。12～14は石槍・ナイフである。12は左右非対称である。13は薄く、先端部が少し破損している。14は大型で球果がみられる。15は石錐で、上端部が破損し先端は使用により磨滅している。16～20はつまみ付きナイフである。16は背面右側縁に原礫面が残る。17は背面右側のつまみ部分が破損する。18は背面に一部原礫面を残す。19・20は背面に広く剥離が残り、腹面のつまみ部分に加工がみられる。21～28はスクレイパーである。21は背面右側に刃部が確認できる。22は背面右側縁に刃部があり、下部が破損している。23は小球果がみられ、背面右側縁に刃部がある。24は背面に原礫面を残す。25は三角形

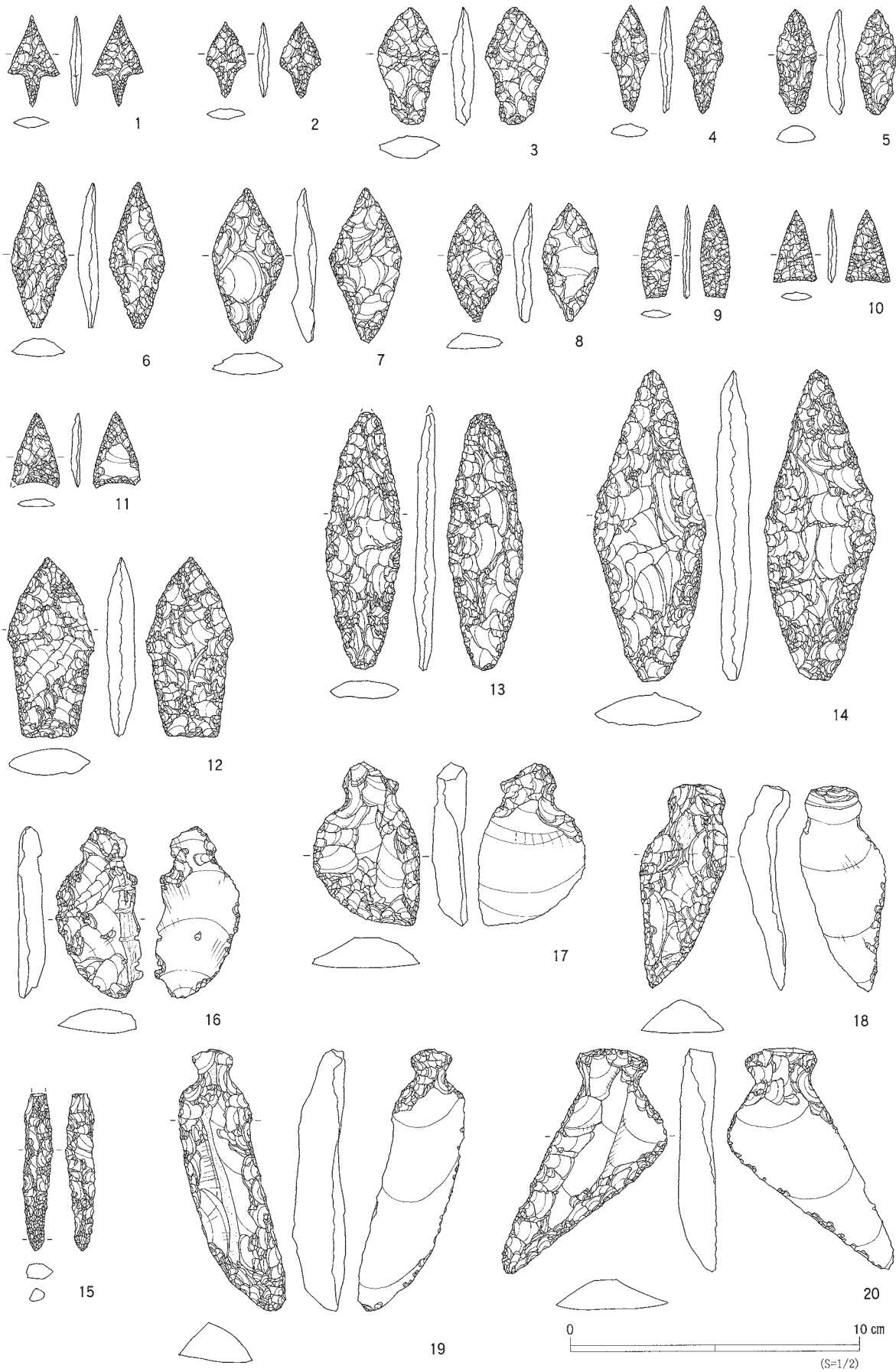


図56 A地区 V層 包含層出土の剥片石器 (1)

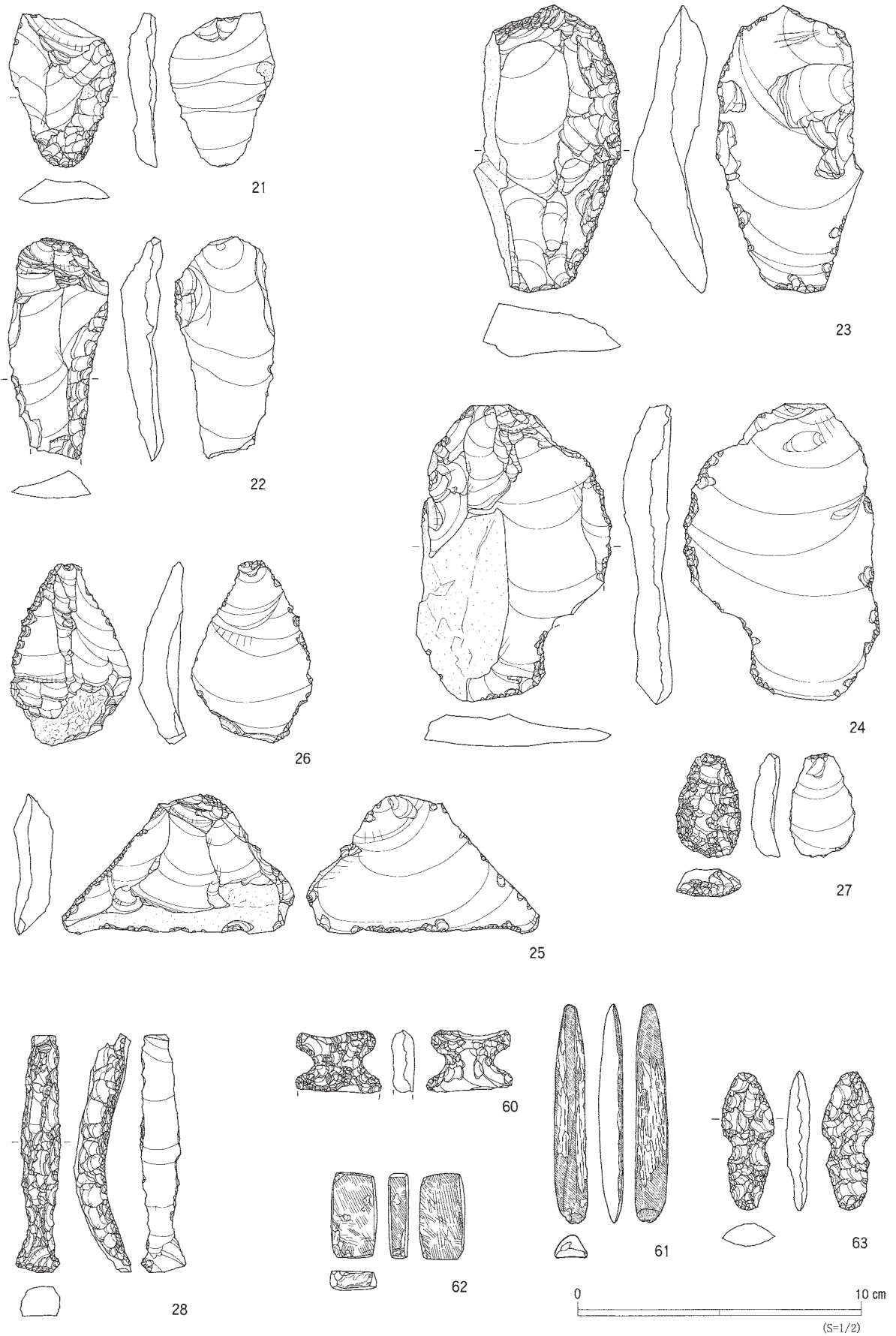


図57 A地区 V層 包含層出土の剥片石器(2)・石製品

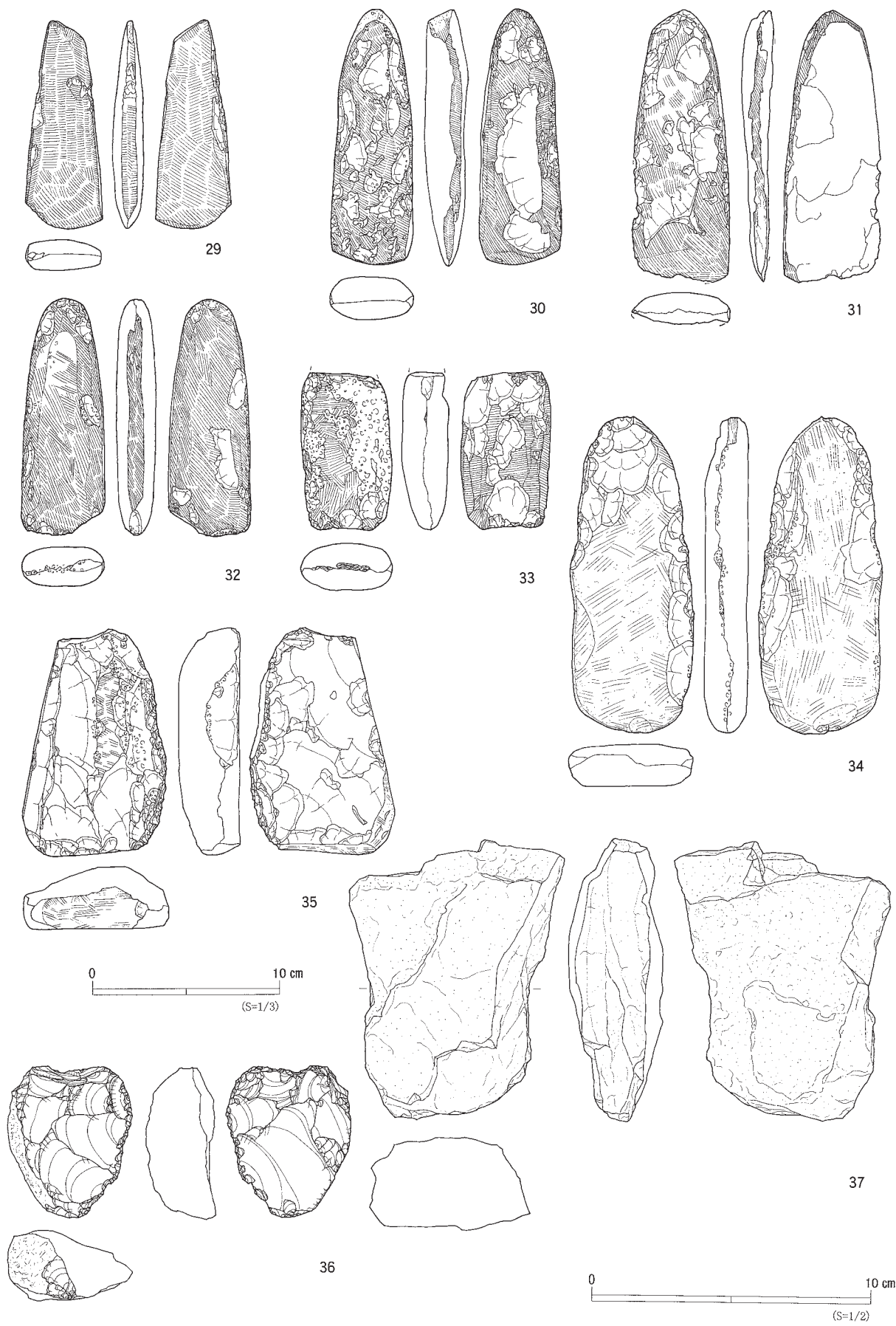


図58 A地区 V層 包含層出土の剥片石器(3)・礫石器(1)

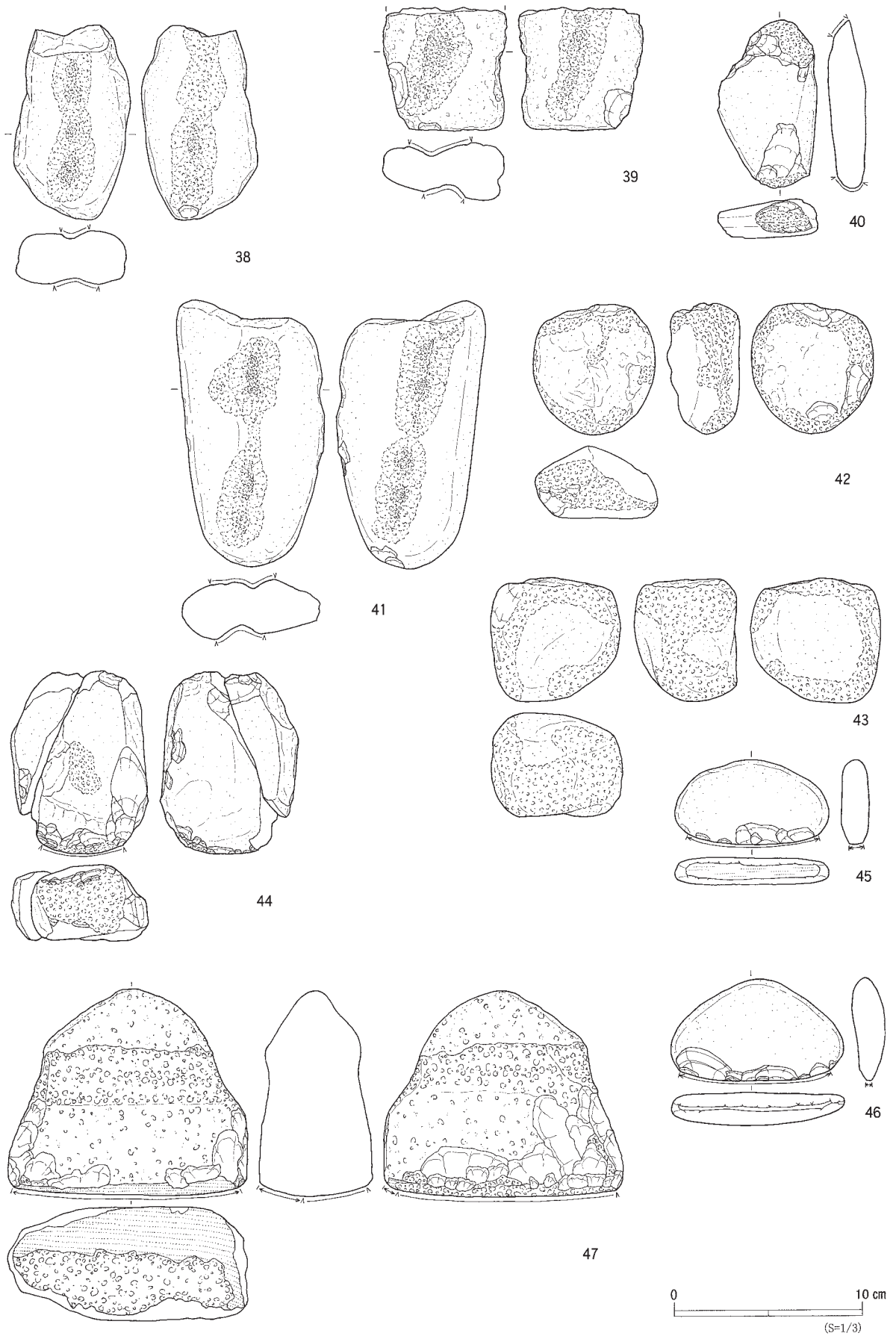


図59 A地区 V層 包含層出土の礫石器(2)

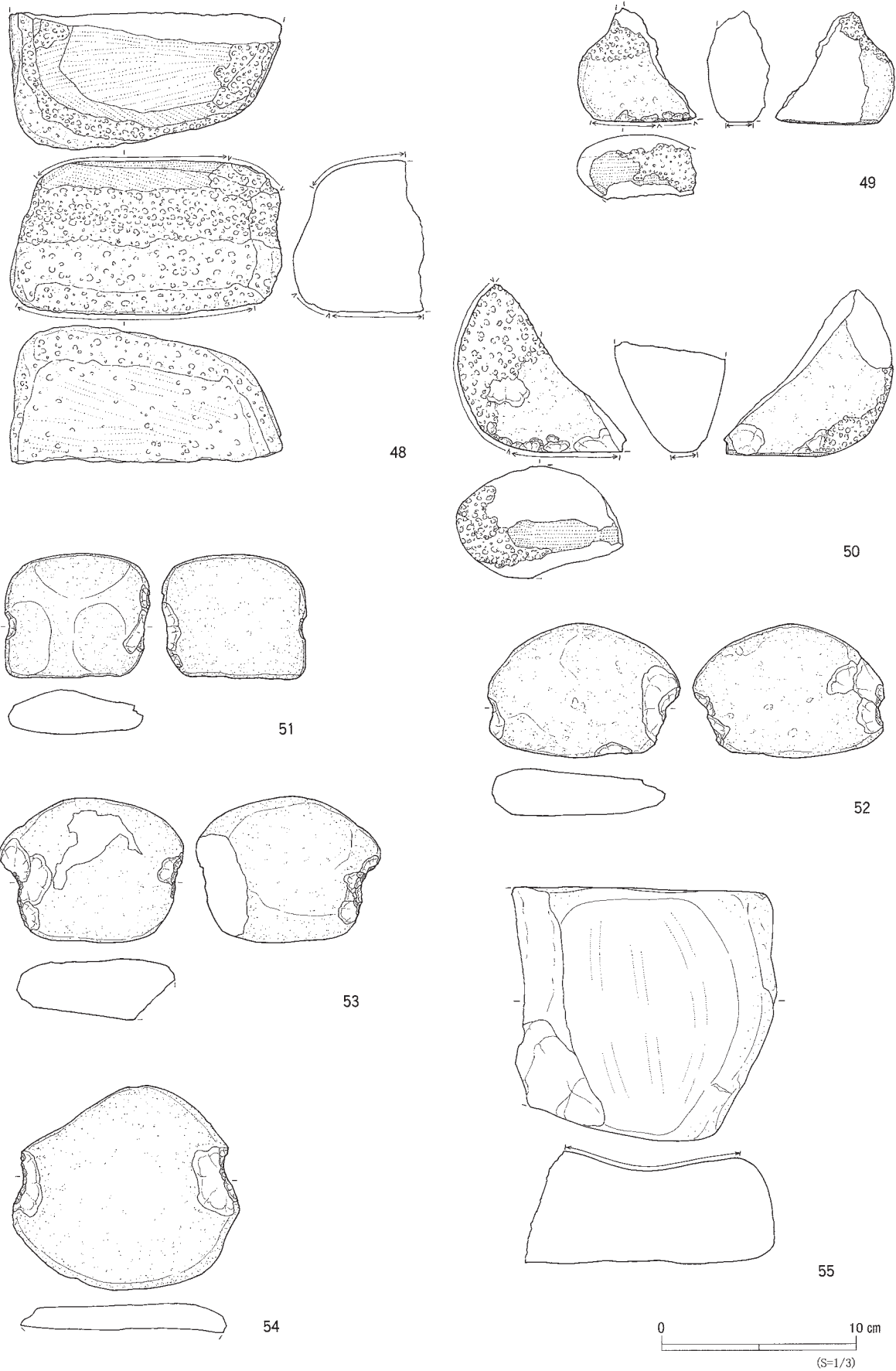


図60 A地区 V層 包含層出土の礫石器(3)



図61 A地区 V層 包含層出土の礫石器(4)

を呈し、各辺に刃部がみられる。26は背面両側縁に刃部がある。27は背面が全面加工され、背面周縁に刃部が確認できる。28は側縁下部が内湾し、背面周縁に加工がみられる。36・37は黒曜石製、チャート製の石核で、原礫面と剥離面が残る。

礫石器 (図58～61 表48 図版46・47)

29～35は磨製石斧である。29は上端部から刃部まで研磨痕がみられ、両側面に剥落痕がある。30は全体的に敲打痕があり、裏面中央に剥落痕がみられる。31は裏面全体が剥落する。32は上部が被熱により赤色化し、刃部が破損する。33は上部が破損し、敲打痕、剥落痕が顕著である。34は研磨痕、敲打痕があり刃部が加工されていない。35は厚みがあり、左側面に原礫面を残す。38～44はたたき石である。38・39は両面に凹状のたたき痕がみられる。40は上下端部にたたき痕があり、剥離している部分が確認できる。41は両面に凹状のたたき痕がある。42・43は全側面にたたき痕がみられる。44は下端部にたたき痕があり、全体的に摩耗している。45・46は凝灰岩製のすり石で、45は下端部にすり面があり、46は使用による剥離がみられる。47～50は北海道式石冠である。47は全面に敲打による加工が行われ、下端部にすり痕とたたき痕がみられる。48は上下面にすり面が確認できる。49・50は下部にすり面があり、側面に敲打による加工がされている。51～54は石錘である。51・52は左右両側に敲打によって加工がされている。53は裏面左側が破損している。54は裏面全体が破損している。56・57は砥石で表面全体的にすり痕がみられる。55・58・59は台石・石皿で、55は中央に凹状にくぼむすり面がみられる。58は凹状のすり面が確認できる。59は中央付近にたたき痕がみられる。

石製品 (図57 表48 図版43)

60～63は石製品である。60は小球果がある黒曜石製で、両面・両側縁が加工され、つまみ付ナイフの基部だと考えられる。61は全体的に研磨された小型の磨製石斧である。62は橄欖岩製の玉で、長方形を呈し各面に研磨痕がみられる。63は黒曜石製で、中央両側縁にくびれがあり、両面加工がされている。

(奥山さとみ)

表31 A地区 V層 土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
					確認面		底面・坑底面			最大深	土器	石器等		その他
					長径	短径	長径	短径						
ALP-1	35	14	b・c-19・20区	不整な楕円形	1.90	1.43	1.82	1.57	0.20	—	—	砥石 U・Rレキ レキ	—	一部張り出す

表32 A地区 V層 Tピット一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態		規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
				確認面	坑底面	確認面		底面			最大深	土器	石器等		その他
						長径	短径	長径	短径						
ATP-1	35	14・18	Q-15・16区	楕円形	長楕円形	2.08	1.40	1.50	0.44	0.93	柱穴・杭穴 sp-1~6	III群	U・Rレキ レキ	—	
ATP-2	36	14・18	P・Q-15区	楕円形	長楕円形	1.89	1.30	1.13	0.44	0.82	柱穴・杭穴 sp-1~4	—	U・Rレキ レキ	—	
ATP-3	36	14・18	P・Q-14区	楕円形	長楕円形	1.39	1.03	1.14	0.32	1.06	柱穴・杭穴 sp-1~3	—	—	—	
ATP-4	37	14・18	K-9・10区	楕円形	長楕円形	1.90	1.28	1.13	0.44	1.06	柱穴・杭穴 sp-1・2	—	—	—	地下水
ATP-5	37	14・19	c・d-19・20区	長楕円形	溝状	1.48	0.79	1.37	0.19	1.26	—	III群	レキ	—	
ATP-6	38	14・19	N-11・12区	楕円形	長楕円形	1.85	1.17	1.20	0.48	1.07	柱穴・杭穴 sp-1	—	たたき石 レキ	—	地下水
ATP-7	38	15・16・19	P・Q-11・12区	楕円形	長楕円形	1.51	1.21	0.98	0.47	0.97	柱穴・杭穴 sp-1~3	—	—	—	
ATP-8	39	15・19	Q・R-15区	楕円形	長楕円形	1.28	0.91	1.00	0.55	0.78	柱穴・杭穴 sp-1・2	IV群	—	—	
ATP-9	39	17・20	V・W-17区	溝状	溝状	2.76	0.56	2.48	0.22	1.07	—	—	—	—	
ATP-10	41	17・20	U・V-19区	溝状	溝状	2.75	0.57	2.52	0.31	1.00	—	—	—	—	
ATP-11	40	15・20	W-17区	楕円形	長楕円形	1.66	0.83	1.19	0.41	1.03	—	—	たたき石	—	ATP-15と重複
ATP-12	41	17・20	W-11・12区	溝状	溝状	2.46	0.74	2.21	0.26	1.19	—	—	—	—	
ATP-13	42	17・20	V-10・11区	溝状	溝状	3.49	0.79	2.89	0.21	1.38	—	—	—	—	坑底に段あり
ATP-14	42	17・20	T-12区	溝状	溝状	2.75	0.85	2.43	0.29	1.04	—	—	—	—	
ATP-15	40	17・20	W-16・17、 X-17区	溝状	溝状	3.00	0.80	2.76	0.26	1.06	—	IV群	U・Rレキ	—	ATP-11と重複
ATP-16	43	15・19	U-11区	楕円形	楕円形	1.61	1.02	1.11	0.68	0.66	—	—	—	—	土坑か?
ATP-17	43	17・20	M-11・12区	溝状	溝状	2.85	0.69	2.24	0.24	1.03	—	—	—	—	地下水
ATP-18	44	15・19	L-11区	楕円形	長楕円形	1.71	1.30	1.11	0.41	1.00	柱穴・杭穴 sp-1・2	—	—	—	地下水
ATP-19	44	15・21	H-11区	楕円形	長楕円形	1.82	1.01	1.40	0.49	0.83	—	—	—	—	地下水
ATP-20	45	17・20	Y-21・22区	溝状	溝状	2.54	0.81	2.44	0.13	1.14	—	—	—	—	
ATP-21	45	17・21	G・H-14・15区	溝状	溝状	2.96	0.71	2.55	0.29	1.06	—	—	—	—	地下水
ATP-22	46	15・21	G-16・17区	溝状	溝状	2.61	0.73	2.23	0.25	1.18	—	—	—	—	地下水
ATP-23	46	18・21	H-16区	溝状	溝状	2.79	0.73	2.26	0.21	1.13	—	—	—	—	地下水
ATP-24	47	18・21	I・J-17区	溝状	溝状	2.49	0.46	2.30	0.21	0.82	—	—	—	—	
ATP-25	47	15・21	I-18・19区	溝状	溝状	2.93	0.98	2.49	0.30	1.07	—	—	—	—	
ATP-26	48	16・21	W-20区	楕円形	長楕円形	1.44	0.88	0.90	0.36	0.96	柱穴・杭穴 sp-1	—	—	—	
ATP-27	48	16・22	W-21区	楕円形	長楕円形	1.28	1.12	0.95	0.43	1.01	柱穴・杭穴 sp-1~4	—	—	—	
ATP-28	49	18・21	H-10・11区	溝状	溝状	3.03	0.73	2.68	0.33	1.21	—	—	—	—	地下水
ATP-29	49	16・22	W-13・14区	楕円形	長楕円形	2.04	1.81	1.26	0.58	1.09	柱穴・杭穴 sp-1~15	—	U・Rフレイク たたき石 U・Rレキ レキ	—	柱穴・杭穴が多数
ATP-30	50	16・22	N・O-16・17区	楕円形	長楕円形 ~溝状	1.15	0.61	1.03	0.28	0.77	—	—	—	—	
ATP-31	50	16・22	T・U-19区	楕円形	長楕円形	1.83	1.38	1.62	0.50	0.81	柱穴・杭穴 sp-1~4	—	—	—	

表33 A地区 V層 Tピット付属遺構一覧表

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態		規模 (m)			特徴	出土遺物	備考
					平面	断面	確認面	坑底面	最大深			
A T P - 1	s p - 1	柱穴・杭穴	35	—	円形	尖	0.03	—	0.21	斜め	—	
	s p - 2				円形	尖	0.02	—	0.19			
	s p - 3				円形	尖	0.04	—	0.20			
	s p - 4				円形	尖	0.03	—	0.08			
	s p - 5				円形	尖	0.03	—	0.07			
	s p - 6				円形	丸	0.04	—	0.08			
A T P - 2	s p - 1	柱穴・杭穴	36	—	円形	尖	0.09	—	0.14		—	
	s p - 2				円形	尖	0.07	—	0.15			
	s p - 3				円形	尖	0.09	—	0.14			
	s p - 4				円形	尖	0.04	—	0.09			
A T P - 3	s p - 1	柱穴・杭穴	36	—	円形	尖	0.04	—	0.13		—	
	s p - 2				円形	尖	0.06	—	0.22			
	s p - 3				円形	尖	0.02	—	0.05			
A T P - 4	s p - 1	柱穴・杭穴	37	—	円形	*	0.05	*	*		—	湧水のため 平面のみを確認
	s p - 2				円形	*	0.06	*	*			
A T P - 6	s p - 1	柱穴・杭穴	38	—	円形	尖	0.05	—	0.07		—	
A T P - 7	s p - 1	柱穴・杭穴	38	16	円形	尖	0.05	—	0.10		—	
	s p - 2				円形	尖	0.04	—	0.12			
	s p - 3				円形	尖	0.05	—	0.10			
A T P - 8	s p - 1	柱穴・杭穴	39	—	円形	丸	0.08	—	0.09		—	
	s p - 2				円形	丸	0.10	—	0.06			
A T P - 18	s p - 1	柱穴・杭穴	44	—	円形	*	0.05	*	*		—	湧水のため 平面のみを確認
	s p - 2				円形	*	0.05	*	*			
A T P - 26	s p - 1	柱穴・杭穴	48	—	円形	尖	0.06	—	0.20		—	
A T P - 27	s p - 1	柱穴・杭穴	48	—	円形	尖	0.04	—	0.16		—	
	s p - 2				円形	尖	0.04	—	0.10			
	s p - 3				円形	尖	0.06	—	0.19			
	s p - 4				楕円形	尖	0.05	—	0.11			
A T P - 29	s p - 1	柱穴・杭穴	49	16	円形	丸	0.04	—	0.29		—	
	s p - 2				円形	尖	0.04	—	0.23			
	s p - 3				円形	丸	0.06	0.02	0.12			
	s p - 4				円形	尖	0.04	—	0.24			
	s p - 5				円形	尖	0.05	—	0.21			
	s p - 6				円形	尖	0.04	—	0.30			
	s p - 7				円形	尖	0.03	—	0.11			
	s p - 8				円形	尖	0.04	—	0.16			
	s p - 9				円形	尖	0.05	—	0.25			
	s p - 10				円形	尖	0.04	—	0.26			
	s p - 11				楕円形	丸	0.04	—	0.22			
	s p - 12				円形	尖	0.04	—	0.23			
	s p - 13				円形	尖	0.04	—	0.17			
	s p - 14				円形	尖	0.05	—	0.30			
	s p - 15				円形	尖	0.04	—	0.20			
A T P - 31	s p - 1	柱穴・杭穴	50	—	円形	尖	0.07	—	0.13		—	
	s p - 2				円形	尖	0.05	—	0.12			
	s p - 3				円形	尖	0.06	—	0.12			
	s p - 4				円形	尖	0.05	—	0.07			

表34 A地区 V層 石組炉一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	構造種別	平面形態	規模 (m)			焼土色調		主な出土遺物	付属遺構 関連する遺構	備考	
							確認面		最大深	色名	マンセル表色系				
							長径	短径							長径
A L F R S - 1	51	22	X-18区	VI層 ~ Ta-d2層	石組	楕円形	0.49	0.30		0.19	—	すり石 砥石 台石 U・Rレキ レキ 炭化物	—		
					掘り方	楕円形	0.49	0.35	0.35	0.25					0.17
					焼土	楕円形	0.32	0.30		0.08					明褐色 7.5YR 5 / 6

表35 A地区 V層 焼土一覧表

遺構名	焼土種別	図	図版	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面形態	焼土色調			規模 (m)			主な出土遺物	関連する遺構	備考
							色名	マンセル表色系		長径	短径	最大厚			
A L F - 1	炉跡	51	—	b-24区	V層	不整形	明褐色	5YR	5 / 6	0.71	0.36	0.06	—	—	
A L F - 2	炉跡	51	—	V-18区	V層	楕円形	褐色	7.5YR	4 / 4	0.36	0.21	0.05	—	—	周囲の包含層から 礫石器・レキ
A L F - 3	炉跡	51	—	R・S -16区	V層	円形	褐色	7.5YR	4 / 6	0.62	0.60	0.09	—	—	
A L F - 4	炉跡	51	—	K・L -12区	V層	円形	褐色	7.5YR	4 / 4	0.28	0.25	0.06	—	—	
A L F - 5	炉跡	51	—	O・P -14区	V層	楕円形	褐色	7.5YR	4 / 4	0.57	0.43	0.08	—	—	

表36 A地区 V層 遺構出土土器点数表

遺構名			ATP-1		ATP-5		ATP-8		ATP-15		合計		
遺物種別 / 層位			覆土 B1	覆土 BY	合計	覆土 B1	合計	覆土 B1	合計	覆土 B1	合計	合計	
時期	部位	残存状態											
III群	口縁部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好	剥離										
			磨耗										
			小破片										
			良好										
	底部	剥離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		磨耗											
		小破片											
		良好											
	胴部	剥離	2	1	3	3	4	0	0	0	3	7	
		磨耗				1				1			
		小破片											
		良好											
	不明	剥離											
		磨耗											
小破片													
良好													
小計			2	1	3	4	4	0	0	0	7		
IV群	口縁部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好	剥離										
			磨耗										
			小破片										
			良好										
	底部	剥離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		磨耗											
		小破片											
		良好											
	胴部	剥離	0	0	0	1	2	1	2	2	2	4	
		磨耗											
		小破片				1		1		2			
		良好											
	不明	剥離											
		磨耗											
小破片													
良好													
小計			0	0	0	2	2	2	2	2	4		
合計			3		4	2		2		11			

表37 A地区 V層 遺構出土剥片石器点数表

遺構名			ATP-29		合計	
器種名・分類 / 層位			覆土	合計		
器種	残存状態	岩石				
石鏃	完形					
	準完形		0			0
	半形					
	片					
石槍・ナイフ	完形					
	準完形		0			0
	半形					
	片					
石錐	完形					
	準完形		0			0
	半形					
	片					
つまみ付きナイフ	完形					
	準完形		0			0
	半形					
	片					
スクレイパー	完形					
	準完形		0			0
	半形					
	片					
U・Rフレイク		黒曜石	1	1	1	1
石核						
フレイク						
原石						
合計			1		1	

表38 A地区 V層 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名			ALP-1		ALFRS-1		ATP-1		ATP-2		ATP-5		ATP-6		ATP-11		ATP-15		ATP-26		ATP-29		合計	
器種名・分類 / 層位			覆土 B1	合計	V層	覆土	合計	覆土 B1	覆土 B3	合計	覆土 B3	覆土 B5	覆土 BY1	合計	覆土 B1	合計	覆土 B1	合計	覆土	合計	覆土	合計		
器種	残存状態	岩石																						
磨製石斧	完形																						0	0
	準完形		0		0					0													0	0
	半形																						0	0
	片																						0	0
たたき石	完形	砂岩																					1	1
	準完形		0		0					0													0	0
	半形																						0	0
	片	砂岩																					1	2
すり石	完形																						0	0
	準完形		0		1					0													0	0
	半形																						0	0
	片	凝灰岩			1																		1	1
北海道式石冠	完形																						0	0
	準完形		0		0					0													0	0
	半形																						0	0
	片																						0	0
扁平打製石器	完形																						0	0
	準完形		0		0					0													0	0
	半形																						0	0
	片																						0	0
石錘	完形																						0	0
	準完形		0		0					0													0	0
	半形																						0	0
	片																						0	0
砥石	完形	砂岩			1																		1	1
	準完形																						0	0
	半形		2		2					0													0	0
	片	砂岩			1																		1	3
台石皿	完形	砂岩																					0	0
	準完形		0		3					0													0	0
	半形																						0	0
	片	砂岩			3																		3	3
合計			2		6					0													7	
石製品	完形																						0	0
	準完形		0		0																		0	0
	半形																						0	0
	片																						0	0
合計			0		0					0													0	0
加工・使用痕のあるレキ	完形																						0	0
	片	砂岩	1		14			3	1	5	1	1	1										22	3
		凝灰岩			30					47													33	3
		凝灰岩									1												6	2
レキ	完形	砂岩						2															2	2
	片	砂岩	4		4					9													2	2
		凝灰岩																					15	2
		凝灰岩																					2	2
合計			5		56				7				8		1		4		0		1	1	2	85
合計			7		62				7				8		1		5		1		1	2	2	92

表39 N-17区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	1	34	N-17区	V層	—	87	(36.6)	27.0	—	2,970	口縁～胴部下位	深鉢	III群b類
接合破片総点数		87	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	中量	粒径	細粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ? ミガキ?		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	波状口縁 四つの突起	口唇部 (40%)							
	沈線文 LR縄文		(褐灰色)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (40%)	ミガキ	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化 炭化物付着	—	—		
	LR縄文		(褐灰色)	黒色化 炭化物付着	—	頸部 (50%)	?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	—		
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (90%)	?(タテ方向)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	—		
面	LR 横走縄文		明赤褐色 (5YR5/6)	赤色化 (2.5YR5/8 橙色)	—	胴部下半 ～底部 (80～60%)	?(タテ方向)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	面		

表40 Y-16区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	2	34	Y-16区	V層	—	7	(13.7)	—	(7.4)	420	胴部中位 ～底部	深鉢	III群b類
接合破片総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	多～中量	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	少～中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	LR縄文 ナデ		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化?	—	胴部中位 ～底部 (30～40%)	?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	炭化物付着	—	—		
面	?		浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	底面 (20%)	?	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	面		

表41 F-19区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	3	34	F-19区	V層	—	138	(32.5)	29.2	—	2,550	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		139	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			G-19区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石主体 (匣円礫状 黒色の泥岩)	量	中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	凹状の 調整痕	口唇部 (80%)							
	貼付帯 円形刺突文 RL縄文 無文帯		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (80%)	ナデ (突縮状)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	剥離 多い	—		
	LR・RL 羽状縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (80～60%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	剥離 多い	—		
面	LR・RL 羽状縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	胴部下半 ～底部 (30～20%)	—	(褐灰色)	黒色化	剥離 多い	面		

表42 Z-17区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	4	34	Z-17区	V層	—	6	(10.5)	(15.0)	—	510	口縁～胴部上位	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Y-17区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり (堆積岩)	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナデ		灰黄褐色 (10YR7/2)	—	—	口唇部 (20%)							
	RL 縦走縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	口縁部 (20%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—			
面	RL 縦走縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	胴部上位 (10%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	面		

表43 Y-21区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	5	34	Y-21区	V層	—	8	(11.0)	(22.0)	—	910	口縁～胴部上位	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		8	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり (堆積岩)	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	RLR縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	口唇部 (60%)							
	RLR縄文一部 縦位回転施文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着	補修孔 一對	口縁部 (60%)	ナデ 指頭圧痕	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—			
面	RLR縄文一部 縦位回転施文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	—	胴部上位 (30%)	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	—	面		

表44 R-17区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	6	35	R-17区	V層	—	5	(10.9)	—	(10.1)	660	胴部下位～底部	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		5	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	LR縄文		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	赤色化 (2.5YR6/6 褐色)	—	胴部下半～底部 (20%)	ナデ	淡黄色 (2.5YR8/3)	黒色化	—			
面											面		

表45 Y-16区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	7	35	Y-16区	V層	—	1	(4.2)	—	(6.7)	180	底部	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		2	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			X-19区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中～細粒	種類	鉱物主体	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	RLR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部下半～底部 (20%)	?		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—		
	RLR縄文?		(褐灰色)	黒色化	—	底面 (80%)	指頭圧痕	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—			
面											面		

表46 U-14区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)						
							器高	口径	底径										
52	8	35	U-14区	V層	—	7	(14.8)	—	—	1,600	胴部中位	深鉢	IV群a類						
接合破片総点数			8	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			U-15・V層・(1)												
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	粗粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり	量	中～多量		備考	—						
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内 面
	貼付帯 LR・RL 羽状縄文		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化		—		胴部下半 ～底部 (25%)		ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)		黒色化		—		

表47 A地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)					
						小計	合計					外面	内面				
胎土 (混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡							
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面			
53	1	37	ATP-5 d-20区	V層	—	1	1	2	胴部	58.2	深鉢	III群b類	摩耗				
少量		細粒		岩石主体 (白色岩片)		LR縄文		ナデ		—		(褐灰色)		にぶい橙色 (7.5YR6/4)		黒色化 炭化物付着	
53	2	37	ATP-5 B1層	V層	—	1	1	1	胴部	40.1	深鉢	III群b類	—				
少～中量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		沈線文? LR縄文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR7/2)		(赤色化) 橙色 (5YR6/6)		—	
53	3	37	ATP-5 B1層	V層	—	1	1	1	胴部	23.1	深鉢	III群b類	摩耗				
中量		細粒		岩石主体		RL縄文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化	
53	4	37	a-20区 b-20区 d-20区	V層	—	7	2	10	口縁～ 胴部上位	325.0	深鉢	III群b類	摩耗				
微～少量		細粒		岩石主体		沈線文 LR縄文		ナデ		(口唇部) 刺突文		浅黄褐色 (10YR8/3)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化 炭化物付着?	
53	5	37	d-24区	V層	—	2	2	2	口縁部	36.6	深鉢	III群b類	—				
少量		細～中粒		岩石・鉱物 ともにあり		沈線文 LR縄文		ナデ?		(口唇部) LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		黒色化	
53	6	37	Z-22区	V層	—	1	1	1	口縁部	12.5	深鉢	III群b類	—				
中量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		平行沈線文 LR縄文		ナデ?		(口唇部) 刺突文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 炭化物付着	
53	7	37	Y-22区	V層	—	3	3	3	口縁部	39.2	深鉢	III群b類	—				
中～多量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		RL縄文 縦位回転施文		ミガキ		(口唇部) ミガキ		橙色 (5YR6/6)		橙色 (7.5YR6/6)		黒色化	
53	8	37	S-13区	V層	—	1	1	1	口縁部	23.5	深鉢	III群b類	—				
微量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり (亜円礫状 チャート)		貼付帯 LR縄文		ミガキ		(口唇部) ミガキ (貼付帯) LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着	
53	9	37	T-14区	V層	—	1	1	1	口縁部	12.6	深鉢	III群b類	—				
微量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		貼付帯 LR縄文		ミガキ		(口唇部) ミガキ (貼付帯) LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		(黒褐色)		—	
53	10	37	Z-20区	V層	—	1	1	1	口縁部	10.4	深鉢	III群b類	摩耗				
中～多量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり (赤色物質)		LR縄文		ナデ		(口唇部) 爪形文		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着?	
53	11	37	X-22区	V層	—	1	1	1	口縁部	12.4	深鉢	III群b類	—				
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文		ナデ		(口唇部) ナデ		灰黄褐色 (10YR5/2)		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化	
53	12	37	X-14区	V層	—	1	1	1	胴部	25.7	深鉢	III群b類	—				
少量		中粒		岩石主体		半截竹管刺突文 刺突文・沈線文 LR縄文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—	
53	13	37	d-23区	V層	—	1	1	1	胴部	48.8	深鉢	III群b類	—				
中量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文 綾絡文		ナデ		—		褐色 (10YR4/4)		灰黄褐色 (10YR4/2)		—	
53	14	37	Z-14区	V層	—	1	1	1	胴部	102.2	深鉢	III群b類	—				
中量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		RL縄文 綾絡文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着?	
53	15	37	Z-22区	V層	—	3	3	3	胴部	200.0	深鉢	III群b類	石英多量				
中量		中粒		鉱物主体		1段L 縦位回転施文		ナデ		—		暗褐色 (10YR3/3)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		黒色化 炭化物付着	
54	16	37	X-22区	V層	—	1	1	1	胴部	47.0	深鉢	III群b類	—				
少量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		細線文 LR縦位回転 羽状縄文		ナデ		—		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 炭化物付着	

表47 A地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)			
						小計	合計					外面	内面	外面	内面
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
54	17	37	U-13区	V層	—	1		胸部	31.4	深鉢	Ⅲ群b類	—	—	—	
少量		細～中粒	岩石主体		L R縄文 L R縄線文		ナデ		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	黒色化 炭化物付着		—	
54	18	37	V-12区 V-13区 U-15区	V層	—	3		胸部	153.8	深鉢	Ⅲ群b類	—	—	—	
少量		細粒	岩石主体		L R縄文 貼付帯 L R縄線文		ナデ	(貼付帯) L R縄線文		灰黄褐色 (10YR4/2)	明黄褐色 (10YR7/6)	黒色化 炭化物付着		黒色化	
54	19	37	U-16区	V層	—	1		口縁部	50.5	深鉢	IV群a類	—	—	—	
少量		中粒	岩石主体		貼付 L R縄文		R L縄文 ナデ	(口唇部) R L縄文 (貼付) L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着		—	
54	20	37	W-18区	V層	—	1		口縁部	25.3	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ナデ	(口唇部) L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	—		黒色化	
54	21	37	W-16区	V層	—	2		口縁部	29.0	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		細～中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文 縄線文		—	(口唇部) L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	黒色化		—	
54	22	37	N-15区	V層	—	3		口縁部	39.4	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文 縄線文		ナデ	(口唇部) L R縄文		(黒褐色)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化		—	
54	23	37	Z-22区	V層	—	1		口縁部	13.7	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		細～中粒	岩石主体		L R縄文 縄線文		L R縄文 ナデ	(口唇部) 刺突文?		灰黄褐色 (10YR5/2)	(黒褐色)	黒色化		黒色化	
54	24	37	b-17区	V層	—	2		口縁部	48.6	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縦位回転施文 内形刺突文		ナデ	(口唇部) R L縄文		(黒褐色)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黒色化		黒色化	
54	25	37	b-24区	V層	—	4		口縁部 胸部上位	211.2	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石主体		R L縄文		ナデ	(口唇部) R L縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着		炭化物付着	
54	26	37	Q-15区 Q-16区	V層	—	2		口縁部	56.3	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中～粗粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ナデ	(口唇部) 不整な縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化		黒色化	
54	27	37	d-20区	V層	—	1		口縁部	78.9	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中～粗粒	岩石・鉱物 ともにあり		不整な刺突文 不整な条		ナデ	(口唇部) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着		—	
54	28	38	P-17区	V層	—	4		口縁部	72.6	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ナデ	(口唇部) L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/3)	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色化		—	
54	29	38	a-15区	V層	—	1		口縁部	70.4	深鉢	IV群a類	—	—	—	
少量		粗粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R・R L 羽状縄文		ナデ	(口唇部) R L縄文?		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化		黒色化	
54	30	38	v-16区	V層	—	1		口縁部	20.2	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		細粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文 多軸絡条体?		L R縄文 ナデ	(口唇部) 多軸絡条体?		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着		—	
55	31	38	Y-21区	V層	—	3		底部	61.5	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ナデ	(底外面) L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化		黒色化	
55	32	38	Y-21区	V層	—	2		胸部下位	67.2	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		R L縦走縄文		ナデ	—		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化		—	
55	33	38	X-22区	V層	—	2		胸部	73.9	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		R L縦位回転 羽状縄文		不整な縄文? ナデ	—		灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着		黒色化	
55	34	38	X-23区	V層	—	2		胸部	58.2	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縦位回転 羽状縄文		ナデ	—		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着		黒色化	
55	35	38	Y-21区	V層	—	3		胸部	215.4	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		L R縦走縄文	—		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着		黒色化 炭化物付着	
55	36	38	Y-21区	V層	—	3		胸部	217.4	深鉢	IV群a類	—	—	—	
少量		中～粗粒	岩石主体		R L縦走縄文		ナデ	—		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 炭化物付着		黒色化 炭化物付着	
55	37	38	U-19区	V層	—	1		胸部	50.4	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文 貼付帯		—	(貼付) L R縄文		(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着		—	
55	38	38	W-17区 X-17区	V層	—	2		胸部	59.3	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		中粒	岩石主体		L R・R L 羽状縄文 多軸絡条体?		ナデ	—		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—		—	
55	39	38	Y-17区	V層	—	1		胸部	38.1	深鉢	IV群a類	—	—	—	
なし		細粒	岩石主体		L R縄文 多軸絡条体? 貼付帯		—	(貼付帯) L R縄線文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		—	
55	40	38	a-20区	V層	—	3		胸部下位 ～底部	58.7	深鉢	V群	—	—	—	
少量		中粒	岩石・鉱物 ともにあり		R L縄文		ナデ	—		灰黄褐色 (10YR6/2)	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化		—	
55	41	38	e-25区	V層	—	2		胸部	12.6	深鉢	I群b類	—	—	—	
少量		細粒	岩石・鉱物 ともにあり		組紐圧痕文		ナデ	—		—	明黄褐色 (10YR7/6)	(赤色化) 黒色化 炭化物付着		—	
55	42	38	b-24区	V層	—	1		胸部	25.7	深鉢	I群b類	—	—	—	
少量		細粒	岩石・鉱物 ともにあり		微隆起線文 L R縄文 ナデ		ナデ	—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	(黒褐色)	黒色化		黒色化 炭化物付着	

表48 A地区 V層 包含層出土石器等観察表(1)

図	掲載 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
56	1	42	Q-6区	V層	—	石鏃	3.1	1.7	0.4	1.0	黒曜石	—	完形	小型	
56	2	42	Z-21区	V層	—	石鏃	2.6	1.4	0.4	0.8	黒曜石	—	完形	小型 背面剥離	
56	3	42	W-15区	V層	—	石鏃	4.0	2.1	0.8	5.0	黒曜石	球果	完形	背面剥離広い	
56	4	42	F-19区	V層	—	石鏃	3.6	1.2	0.5	1.4	黒曜石	赤色化	完形	—	
56	5	42	X-21区	V層	—	石鏃	3.6	1.4	0.6	2.6	黒曜石	—	完形	腹面剥離広い 背面膨らむ	
56	6	42	a-17区	V層	—	石鏃	5.0	1.9	0.7	4.1	黒曜石	—	完形	腹面剥離広い	
56	7	42	Y-20区	V層	—	石鏃	5.3	2.4	0.8	7.4	黒曜石	—	完形	両面に剥離痕	
56	8	42	X-22区	V層	—	石鏃	4.0	1.9	0.6	3.6	黒曜石	—	完形	腹面剥離広い	
56	9	42	G-14区	V層	—	石鏃	3.2	1.0	0.3	0.7	黒曜石	—	完形	背面右側上一部破損 薄い	
56	10	42	U-13区	V層	—	石鏃	2.5	1.5	0.3	0.7	黒曜石	—	完形	基部少し内湾	
56	11	42	P-19区	V層	—	石鏃	2.5	1.6	0.3	1.0	黒曜石	—	完形	基部内湾 背面左側一部破損 腹面剥離広い	
56	12	42	K-12区	V層	—	石槍・ナイフ	6.2	3.0	0.9	16.3	黒曜石	—	完形	両面に剥離痕	
56	13	42	V-10区	V層	—	石槍・ナイフ	8.9	2.6	0.7	13.7	黒曜石	—	完形	先端部少し破損 両面に剥離痕	
56	14	42	V-10区	V層	—	石槍・ナイフ	10.7	3.8	1.2	37.9	黒曜石	球果	完形	両面に広い剥離痕	
56	15	42	V-14区	V層	—	石鏃	(5.4)	1.0	0.5	(3.6)	黒曜石	—	準完形	上端部破損 先端磨滅	
56	16	42	T-18区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.9	3.0	0.9	14.0	黒曜石	小球果 原礫面	完形	背面右側に溝 腹面つまみ部分加工	
56	17	42	J-19区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.6	3.7	1.2	23.2	頁岩	黒褐色 10YR3/2	完形	背面右側つまみ部分破損 腹面つまみ部分加工	
56	18	42	e-25区	V層	—	つまみ付きナイフ	7.1	3.0	1.3	19.5	頁岩	にふい黄褐色 10YR6/4	完形	背面一部原礫面 腹面右側加工	
56	19	42	X-14区	V層	—	つまみ付きナイフ	9.1	3.6	1.8	34.6	頁岩	灰黄褐色 10YR6/2	完形	背面一部原礫面 背面広い剥離痕 腹面つまみ部分加工	
56	20	42	b-23区	V層	—	つまみ付きナイフ	7.7	5.7	1.3	33.5	頁岩	褐灰色 10YR5/1	完形	背面広い剥離痕 腹面つまみ部分加工	
57	21	42	c-24区	V層	—	スクレイパー	5.4	3.8	1.5	16.8	チャート	褐灰色 10YR6/1~5/1	完形	背面周縁に刃部	
57	22	42	Y-20区	V層	—	スクレイパー	7.9	3.5	1.5	25.3	頁岩	灰黄褐色 10YR4/2	完形	背面右側に刃部 下部破損	
57	23	42	Y-18区	V層	—	スクレイパー	10.1	5.1	2.6	95.4	黒曜石	小球果	完形	背面原礫面 背面右側に刃部 背面広い剥離痕	
57	24	43	Y-18区	V層	—	スクレイパー	10.5	6.9	1.7	89.3	黒曜石	小球果	完形	背面原礫面 背面右側に刃部	
57	25	43	Y-18区	V層	—	スクレイパー	4.9	8.2	1.4	38.9	黒曜石	—	完形	背面原礫面 背面左側に刃部 腹面下部に刃部	
57	26	43	Z-20区	V層	—	スクレイパー	6.4	4.2	1.4	28.2	黒曜石	—	完形	背面右側に刃部	
57	27	43	Z-17区	V層	—	スクレイパー	3.6	2.2	1.0	7.3	黒曜石	—	完形	背面周縁に刃部 背面全面加工	
57	28	46	Y-18区	V層	—	スクレイパー	8.4	1.6	1.2	15.1	黒曜石	—	完形	背面周縁に刃部 背面全面加工 背面内湾	
58	29	46	a-23区	V層	—	磨製石斧	11.1	4.0	1.6	105.7	片岩	青灰色 5BG5/1	完形	研磨痕 剥落痕	
58	30	46	O-14区	V層	—	磨製石斧	13.7	4.4	2.3	186.8	緑色泥岩	暗緑灰色 7.5GY4/1	完形	研磨痕 敲打痕 剥落痕 刃部右側被熱?	
58	31	46	c-24区	V層	—	磨製石斧	14.5	5.1	1.7	127.4	緑色泥岩	暗オリーブ灰色 5GY4/1	完形	研磨痕 剥落痕 裏面剥落	
58	32	46	Y-20区	V層	—	磨製石斧	12.6	4.4	2.1	199.9	緑色泥岩	暗オリーブ灰色 2.5YR4/1	完形	研磨痕 剥落痕 敲打痕 刃部破損 上部赤色化	
58	33	46	V-18区	V層	—	磨製石斧	8.4	4.8	2.5	164.8	緑色泥岩	緑灰色 10GY6/1	完形	研磨痕 剥落痕 敲打痕 上部破損 刃部なし?	
58	34	46	Z-23区	V層	—	磨製石斧	16.8	6.6	2.3	400	片岩	オリーブ灰色 2.5GY6/1	完形	研磨痕 剥落痕 敲打痕 刃部なし	
58	35	46	X-15区	V層	—	磨製石斧	12.1	7.7	3.3	450	緑色泥岩	緑灰色 7.5GY6/1	完形	剥落痕 敲打痕 原礫面 刃部なし	
58	36	46	V-11区	V層	—	石核	5.4	4.5	2.5	52.0	黒曜石	—	—	原礫面 剥離面	
58	37	46	c-25区	V層	—	石核	10.1	7.7	3.4	253.8	チャート	淡黄色 2.5YR8/3	—	原礫面 剥離面	
59	38	46	b-21区	V層	—	たたき石	(10.3)	6.2	(2.8)	220.2	凝灰岩	暗灰黄色 2.5YR5/2	片	両面凹状のたたき痕	
59	39	46	Z-18区	V層	—	たたき石	(6.5)	6.5	(3.0)	165.6	礫岩	黄灰色 2.5YR4/1	片	両面凹状のたたき痕	
59	40	46	Z-21区	V層	—	たたき石	8.9	5.2	2.0	111.0	片岩	青灰色 5BG6/1	完形	上下端部にたたき痕 剥落痕	

表48 A地区 V層 包含層出土石器等観察表(2)

図	掲載		出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存状態	特徴 観察事項	備考
	番号	図版					長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
59	41	46	Z-23区	V層	—	たたき石	14.2	7.9	3.2	390	礫岩	灰色 5Y4/1	完形	両面凹状のたたき痕	
59	42	46	P-3区	V層	—	たたき石	6.9	6.5	3.8	267.1	片岩	暗青灰色 10BG3/1	完形	全側面にたたき痕	
59	43	46	a-23区	V層	—	たたき石	6.5	6.9	5.5	450	片麻岩	暗青灰色 5BG3/1	完形	全側面にたたき痕	
59	44	46	R-14区	V層	—	たたき石	9.6	7.3	4.0	390	片岩	緑灰色 10GY6/1	完形	下端部にたたき痕 全体的に摩耗	
59	45	46	X-17区	V層	—	すり石	4.5	8.2	1.4	86.8	凝灰岩	暗灰黄色 2.5YR5/2	完形	下部部にすり面 すりによる剥離?	
59	46	46	a-23区	V層	—	すり石	5.4	9.1	1.7	74.0	凝灰岩	黄褐色 2.5Y5/4	完形	下部部すりによる剥離	
59	47	46	e-24区	V層	—	北海道式石冠	10.9	12.7	6.0	1150	砂岩	黄褐色 2.5Y5/3	完形	全面敲打による加工 下部すり面・たたき痕	
60	48	46	d-25区	V層	—	北海道式石冠	7.8	13.8	(6.8)	1000	砂岩	暗灰黄色 2.5YR4/2	半形	上下すり面 側面敲打による加工	
60	49	46	Z-32区	V層	—	北海道式石冠	(5.7)	(6.0)	(3.1)	138.3	片麻岩	暗オリーブ灰色 5GY4/1	片	下部すり面 側面敲打による加工	
60	50	46	W-22区	V層	—	北海道式石冠	(8.5)	(8.5)	(5.7)	340.0	片岩	オリーブ灰色 5GY5/1	片	下部すり面 側面敲打による加工	
60	51	46	J-19区	V層	—	石錘	6.3	7.8	2.2	142.6	礫岩	灰色 5Y4/1	完形	左右敲打による加工	
60	52	46	c-24区	V層	—	石錘	6.9	9.8	2.4	186.3	凝灰岩	黄褐色 2.5Y5/3	完形	左右敲打による加工	
60	53	46	b-24区	V層	—	石錘	7.4	9.4	3.1	236.1	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	裏面左側破損	
60	54	47	X-15区	V層	—	石錘	10.5	11.6	1.9	226.2	砂岩	灰オリーブ色 5Y5/2	完形	裏面破損 左右敲打による加工	
60	55	47	Y-23区	V層	—	台石・石皿	(13.0)	(13.7)	(6.3)	1480	砂岩	灰オリーブ色 5Y5/2	片	すり面	
61	56	47	T-17区	V層	—	砥石	(18.3)	(19.0)	(3.8)	1245	凝灰岩	灰オリーブ色 5Y4/2	片	すり面 裏面剥離	被熱
61	57	47	b-21区	V層	—	砥石	21.5	(14.2)	(4.2)	1710	砂岩	灰オリーブ色 5Y5/3	片	すり面 左右破損	
61	58	47	b-21区	V層	—	台石・石皿	(15.7)	19.8	(4.3)	2120	砂岩	灰色 5Y4/1	片	凹状のすり面 一部黒色化 上下破損	
61	59	47	O-17区	V層	—	台石・石皿	54.1	31.0	7.7	19000	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	中央付近にたたき痕	
57	60	43	U-20区	V層	—	つまみ付きナイフ	(2.2)	3.0	(0.8)	4.7	黒曜石	小球果	片	つまみの部分 両面加工	石製品
57	61	43	Z-22区	V層	—	磨製石斧	11.5	1.7	1.2	32.3	片岩	青黒色 10BG2/1	完形	研磨痕 剥落痕	石製品
57	62	43	Y-21区	V層	—	玉	3.0	1.6	0.7	6.4	橄欖岩	青黒色 10BG2/1	完形	各面研磨痕 長方形	石製品
57	63	43	S-8区	V層	—	石製品	4.9	1.8	0.8	5.8	黒曜石	—	完形	両面加工 中央両側縁にくびれ	石製品

VI章 B地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要 (図62)

B地区のV層では、掘り上げ土(BLM) 1か所、竪穴住居跡(BLH) 4か所、土坑(BLP) 3基、Tピット(BTP) 13基、石組炉(BLFRS) 1か所、焼土(BLF) 3か所、フレイク集中(BLFC) 4か所を調査した。さらに、調査区のW~Xライン付近より南側部分では、礫石器が多数出土し「大規模な礫集中」と呼称した。

BLM-1は竪穴住居跡BLH-1に伴うと考えられる掘り上げ土である。BLH-1は北側部分のみが確認でき、平面や付属遺構のあり方から4軒が切り合っていると判断される。BLH-2は調査区南側に位置し、近接するBLP-3はこの住居跡の付属遺構である。BLH-3も先端部ピットをもち、BLH-4はⅢ群b類土器がまとまって出土した。BLP-1は浅く、BLP-2は坑底の一部が深い。Tピットは坑底面の形状から、溝状、長楕円形、楕円形に分けられ、数か所のまとまりが認められる。北側部分ではLライン付近にBTP-1・2・6・7が調査区中央の沢の形状に沿うように位置し、BTP-9・4・10・11・12は北東から南西方向に列をなす。BTP-13は単独で、BTP-3・8は大規模な礫集中との境界付近に位置する。石組炉BLFRS-1と焼土BLF-1は調査区の北西側に、BLF-3は調査区中央の沢近くに位置する。フレイク集中はBLFC-1が広範囲で、BLFC-3・4は北側の調査区際で確認された。大規模な礫集中は調査区の南側部分、その範囲は53個のグリッドにまたがり、面積は642.6m²である。BLH-2(BLP-3)・BLP-2・BTP-5・BLF-2・BLFC-2がこの範囲内に位置する。これらはすべて、縄文時代中期後半から後期初頭と考えられる。

2. 掘り上げ土

BLM-1 (図63 表49 図版1)

位置 L・O-28・29区 規模 9.15×(3.15) / 0.16m 面積 9.04m²

平面形態 不整形

確認・調査 竪穴住居跡BLH-1・3の調査とその周辺の包含層調査中、V層上位で、T a - dスコリアと炭化物を含み、V層とは色調が異なる土層がみられた。T a - dスコリアが混入し、近くに住居跡があることから、掘り上げ土層と考えた。平面の広がり把握し、土層断面を記録した。

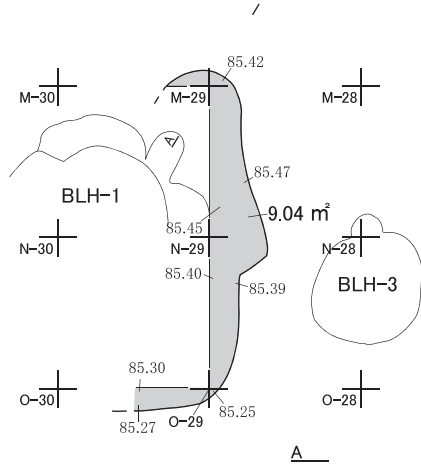
土層 九つに分層した。これらは比較することで区別できうる程度の差である。含まれるT a - d 1または2スコリアは、遺構構築時に下位の層から混入したもので、マンセル表色系での違いはないが、概して明るく黒色が弱い。また、一部含まれるT a - cと判断した微細な軽石は、上位層の形成時に混じったと判断する。

関連する遺構 付近にはBLH-1・3とBTP-12があり、斜面を考慮するとBLH-1の掘り上げ土であると判断される。

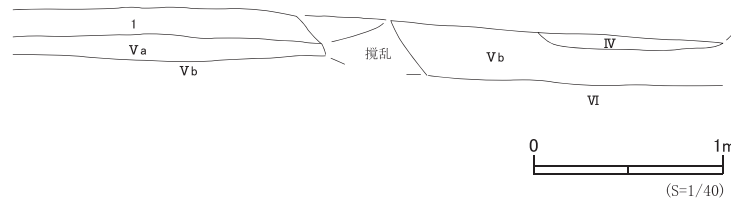
遺物出土状況 包含層調査のようにグリッドで掘り下げ、V層と区別して遺物を取り上げた。V層より遺物は少なく、Ⅳ群土器、U・Rフレイク、磨製石斧、たたき石、砥石、U・Rレキ等が出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代後期初頭である。

BLM-1



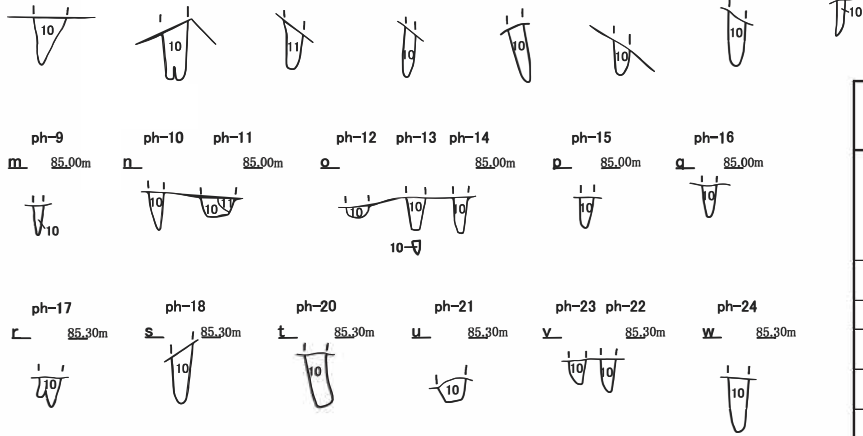
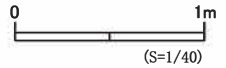
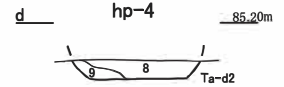
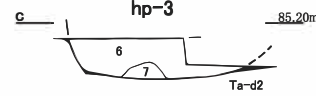
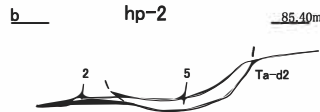
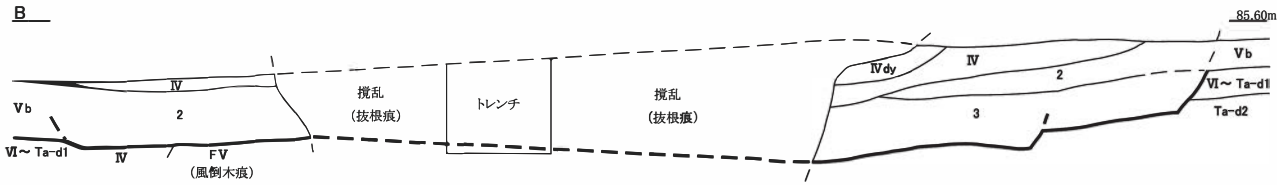
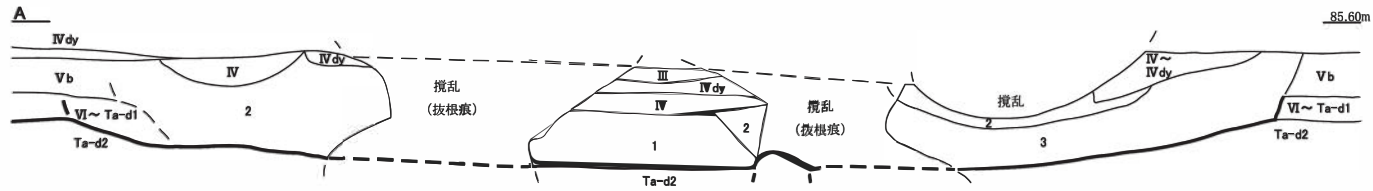
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	レキ		砂岩	片	10	II層	—		
—	磨製石斧		緑色泥岩	片	8	II層	—		
—	U・Rフレイク		黒曜石	—	1	II層	—		
—	フレイク		黒曜石	—	162	II層	—		
—	たたき石		砂岩	片	1	II層	—		
—	土器	IV群	胴部	剥離	1	II層	—		
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	II層	—		被熱
—	レキ		砂岩	片	3	II層	—		
—	砥石		砂岩	片	1	II層	—		
—	磨製石斧		緑色泥岩	片	4	II層	—		
—	フレイク		黒曜石	—	13	II層	—		
—	土器	IV群	胴部	剥離	1	II層	—		



遺構名	グリッド	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考								
			主体層・混在層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				形状	風化の程度						
			層名	細分層			色名	マンセル表色系				平均	最大										
BLM-1	L-28、L-29区	1	HBR1層	自然	堆壊土～壊土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-c軽石	10	2~3	重円礫	風化	炭化物微量								
										Ta-d2スコリア	3~5	5	15	重円礫	腐朽								
	N-28、O-29区	—	HBB層	自然	壊壊土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-c軽石	10~15	2~3	重円礫	半風化	炭化物微量								
										Ta-d2スコリア	5	6	15	重円礫	腐朽								
	N-29、N-30区	—	—	HBB層	自然	壊壊土	黒色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	5~20	2~3	重円礫	腐朽	炭化物微量							
											—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	M-29区他	—	—	H層	自然	壊壊土	黒褐色	10YR3/1	強	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3	重円礫	腐朽	炭化物微量							
											Ta-d2スコリア	1~5	2~3	13	重円礫	腐朽							
											—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ta-d1スコリア											1~5	2~3	重円礫	腐朽	炭化物微量								
Ta-d1スコリア											10~15	2~3	重円礫	半風化	炭化物微量								
HBR2層	自然	壊壊土	黒色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	10~15	2~3	重円礫	腐朽	炭化物微量											
							Ta-d2スコリア	5	2~3	10	重円礫	腐朽											
HBR3層	自然	壊壊土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d2スコリア	1	12	重円礫	腐朽	—											

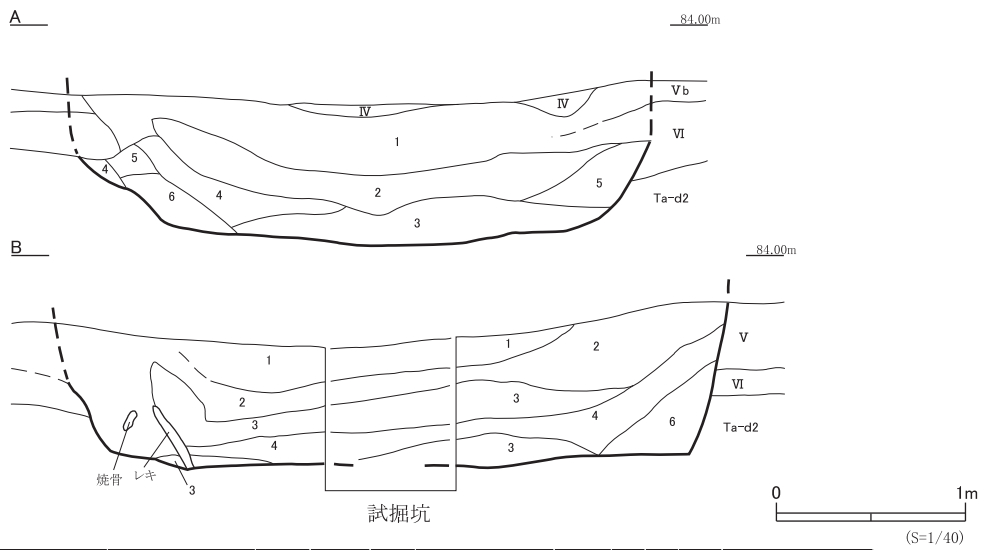
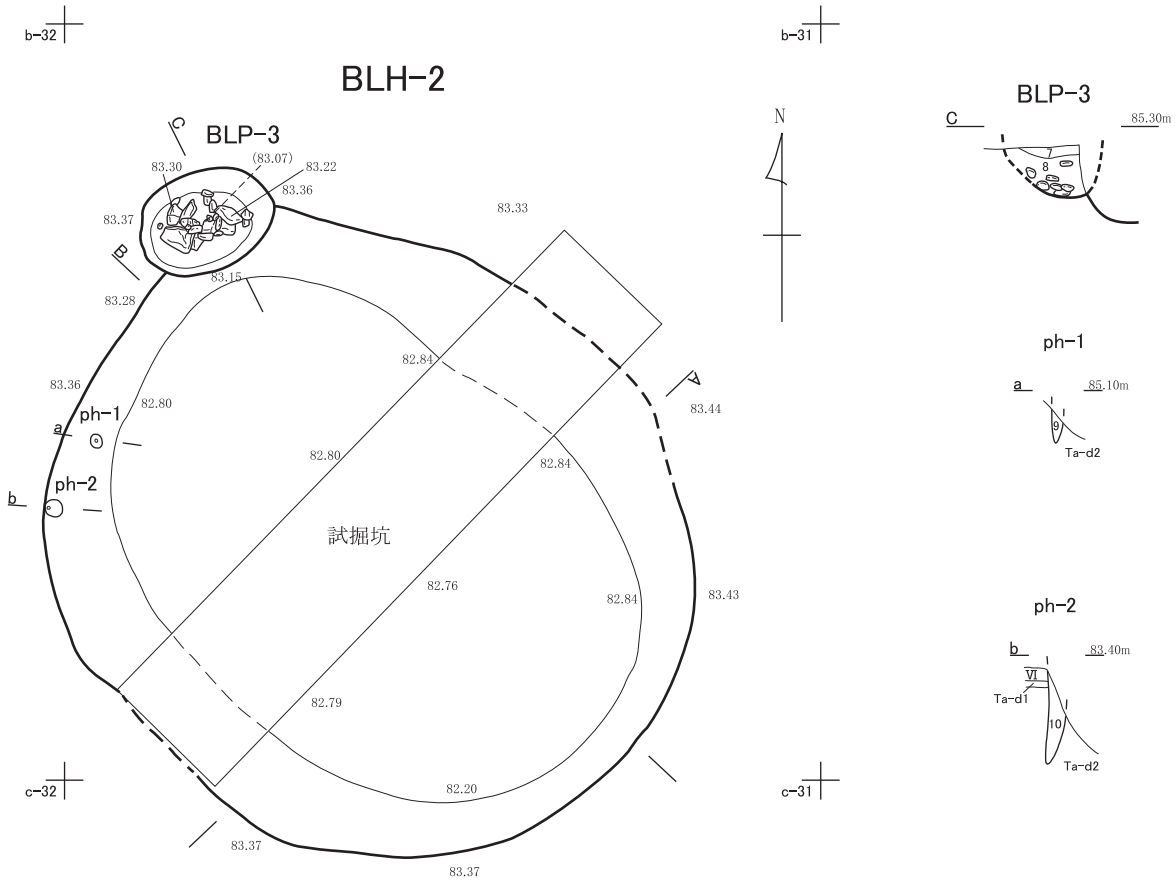
すべての層は下位部分は暗色が強く、Ta-c軽石の混入少ない。層厚:13~20cm。出土遺物は、「グリッドH層」と表記し、包含層で取り上げた。

図63 BLM-1



遺構名・付属遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・遊走層	層名		細分層	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				風化の程度	
						野外土性	マンセル色名				平均	最大				
BLH-1	—	IV層			くぼみに堆積											
	—	IVdy層			一次堆積のIV層のうち、攪乱との境界に位置し、他の層位が混じる部分											
	1	B1層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	無	無	無	無	無	—	
	2		B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1~5	2~3	垂直線	腐朽~風化	—	
	3	BR層	B1層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	10~15	2~3	垂直線	腐朽~風化	—	
	—		B2層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d2スコリア	1~5	2~3	12	垂直線	腐朽~風化	
	BLH-1 hp-1	4	BR層	B1層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	10~15	2~3	垂直線	腐朽~風化	—
	BLH-1 hp-2	5		B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1~5	2~3	垂直線	腐朽~風化	
	BLH-1 hp-3	6	B層	B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1~5	2~3	垂直線	腐朽~風化	—
	BLH-1 hp-3	7		B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	無	無	無	無	—	
	BLH-1 hp-4	8	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	無	無	無	無	—	
BLH-1 hp-4	9	B2層		明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1~5	2~3	垂直線	腐朽~風化		
BLH-1 柱穴・杭穴	10	B層	B層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1~5	2~3	垂直線	腐朽~風化	—	
	11		BR層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	Ta-d1スコリア	10~15	2~3	垂直線	腐朽~風化		
										Ta-d2スコリア	1~5	2~3	12	垂直線	腐朽	—

図65 BLH-1 (2)



遺構名 ・付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考	
		主体層・混在層			野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系				平均	最大				
BLH-2	1	B層	B1層	明瞭	堆積土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	垂直線	腐朽	—	
	2	B層	B2層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	垂直線	腐朽	—	
	3	BR層	画然	堆積土	黒褐色	10YR3/2	強	堅	Ta-d2スコリア	7	2~3	垂直線	腐朽	焼骨		
	5	PB層	画然	堆積土	黒褐色	10YR2/3	強	堅	Ta-d2スコリア	50以上	2	12	垂直線	腐朽	—	
	4	R層	画然	堆積土	明褐色	7.5YR5/6	強	堅	Ta-d2スコリア	10	2~3	垂直線	腐朽	—		
	6	G層	画然	砂堆土	黒褐色	10YR3/1	中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	垂直線	腐朽	—		
BLH-2 BLP-3	7	B層	B1層	明瞭	堆土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	10	2~3	10	垂直線	腐朽	—
	8	B層	BR層	明瞭	堆土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	3	垂直線	腐朽	—
										Ta-d2スコリア	2	3~3	7	垂直線	腐朽	—
										Ta-d1スコリア	3	2~3	3	垂直線	腐朽	—
										Ta-d2スコリア	5	3~5	5	垂直線	腐朽	—
BLH-2 ph-1・2	9	BR層	BR1層	画然	堆積土	黒褐色	10YR2/2	中	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	3	垂直線	腐朽	—
	10	BR層	BR1層	画然	堆積土	黒褐色	10YR2/2	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	3	2~4	4	垂直線	腐朽	—

図66 BLH-2 (1)

3. 竪穴住居跡 (図64~69 表50・51 図版23~28)

BLH-1 (図64・65 図版23・24)

位置 M・N-29・30区 **規模** (6.17)×(6.72) / - / - m

平面形態 複数の楕円形

BLH-1A 規模 2.06×(1.82) / (2.02)×(1.78) / (0.60) m **平面形態** 楕円形?

BLH-1B 規模 (2.46)×(2.42) / (1.34)×(1.24) / (0.47) m **平面形態** 楕円形?

BLH-1C

規模 (3.24)×(1.10) / (3.18)×(1.04) / (0.62) m **平面形態** 円形~楕円形?

BLH-1D 規模 (1.69)×(1.20) / (1.63)×(1.16) / (0.25) m **平面形態** 楕円形?

確認・調査 V層の包含層調査中、くぼみにⅢ・Ⅳ層が堆積するのがみられた。竪穴住居跡の可能性を考え、東西(A)と南北(B)の両方向に先行トレンチ調査を行った。北側と東側では明瞭な壁の立ち上がり確認できたが、南と西側では不明で若干の層界の段差を壁と推定した。その後、このトレンチから広げるように、床面と予想したT a - d 2層上面まで掘り進めたが、N-30杭付近には複数の抜根痕の攪乱により、ここから西及び南側では認識できなかった。一方、北側では平坦な面や壁の立ち上がり認められたので、遺構と認定した。北側部分では平坦面は段差があり複数面みられ、壁も連続しない複数の円弧が認められ、少なくとも4軒(末尾にA~D)が重複していると判断した。土層断面を記録してベルトを掘り下げ、遺物出土位置図を作成し完掘した。最後に付属遺構を調査した。

覆土 最上位のくぼみにはⅢ・Ⅳ層がみられ、遺構の覆土はすべて黒色土主体で、混在する礫で細分し、住居跡ごとの覆土の相違は確認できなかった。

壁・床面 壁は、残りの良い北側と東側で明瞭に立ち上がり、坑底面は東西方向では中央がゆるやかに低く、南北方向では曲線的な凹凸がある。

付属遺構 先端部ピットあるいは軸上の土坑4基(h p - 1 ~ 4)と柱穴・杭穴24か所(p h - 1 ~ 24)を調査した。平面からh p - 1は北東側にありBLH-1C、h p - 2は同Bに属すると考えられる。南側のh p - 3・4は帰属する住居跡を特定できない。h p - 1・2は坑底面が曲線的にくぼみ、同3・4は概ね平坦である。柱穴・杭穴の覆土は黒色土主体で、斜めのものや先端部が二又のものもみられる。重複を考慮するとどの住居跡に属するものか断定はできない。また、炉跡は抜根等で攪乱され確認できなかった。

重複 BLH-1A・Bの床面は同Cに切られるので古く、CとDは床面での切り合い関係が確認できず不明である。また、BはDに切られていると判断される。すなわち、古いのがAまたはBで、新しいのがCとDである。

関連する遺構 遺構の東側の緩斜面にBLM-1があり、本住居跡の掘り上げ土と判断される。また、h p - 4は平面がBTP-12と接する。

遺物出土状況 床面出土の遺物は、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、石皿、U・Rレキ、レキがあり、土器は覆土からⅣ群が出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半~後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代後期初頭である。

BLH-2・BLP-3 (図66・67 図版25・26)

位置 b・c-31、b-32区 **規模** 3.52×3.14 / 3.09×2.19 / (0.76) m

平面形態 楕円形**B L P-3 (B L H-2の先端部ピット)**

位置 b-31区 **規模** 0.72×0.53 / 0.54×0.38 / 0.27m

平面形態 楕円形

確認・調査 人力による表土除去作業完了後、V層のくぼみとそこにIV層が堆積する状況がみられた。竪穴住居跡である可能性が考えられた。範囲確認調査の試掘坑があったのでこれを利用し、北東～南西方向に先行トレンチ(A)を設け掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが認められたので、遺構と判断した。これに直交する土層観察用のベルト(B)を残し、掘り進めた。土層断面を記録した後、完掘し付属遺構を調査した。なお、単独の土坑として調査したB L P-3は本住居跡の先端部ピットと判断される。

覆土 遺構の上位には黒色土主体の覆土が厚く堆積し、断面図番号4はT a - d 2主体の層、最下層は黒色土にT a - d 2が多く混じる覆土である。

壁・床面 壁の立ち上がりは南東側では直立気味で、これ以外は曲線的である。また、北東と北西側の壁には段状の構造がみられる。床面は凹凸がやや顕著である。

付属遺構 先端部ピット1基(B L P-3)、柱穴・杭穴を2か所(p h - 1・2)確認した。B L P-3は本住居跡の北西側に接する。壁や坑底面は曲線的で、覆土から礫石器・レキが多く出土した。p h - 1・2は壁際で確認され、細く先端部が尖る形状である。また、炉跡は試掘坑のある位置にあったと推測され、確認できなかった。

関連する遺構 本遺構は大規模な礫集中が位置する範囲にあり、竪穴住居跡が新しいと判断した(Ⅶ章5節)

遺物出土状況 覆土から礫石器・レキが大量に出土し、これは周囲の大規模な礫集中から流れ込んだと考える。床面出土の遺物は少なく、土器は覆土からⅢ群、剥片石器は礫石器に比して出土量は少ない。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭で、出土土器から縄文時代中期後半と考えられる。

B L H-3 (図68 図版26・27)

位置 M・N-27・28区 **規模** 2.96×2.96 / 2.66×2.43 / 0.26m

平面形態 不整な円形

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 2上面で円形の広い黒色土がみられた。中央で直交する土層観察用のベルトを残し、これ沿いの先行トレンチを掘り進めたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 本遺構の主体的な覆土は、断面図番号2の黒色土層である。

壁・床面 壁は曲線的に開くように立ち上がり、床面は凹凸がみられる。

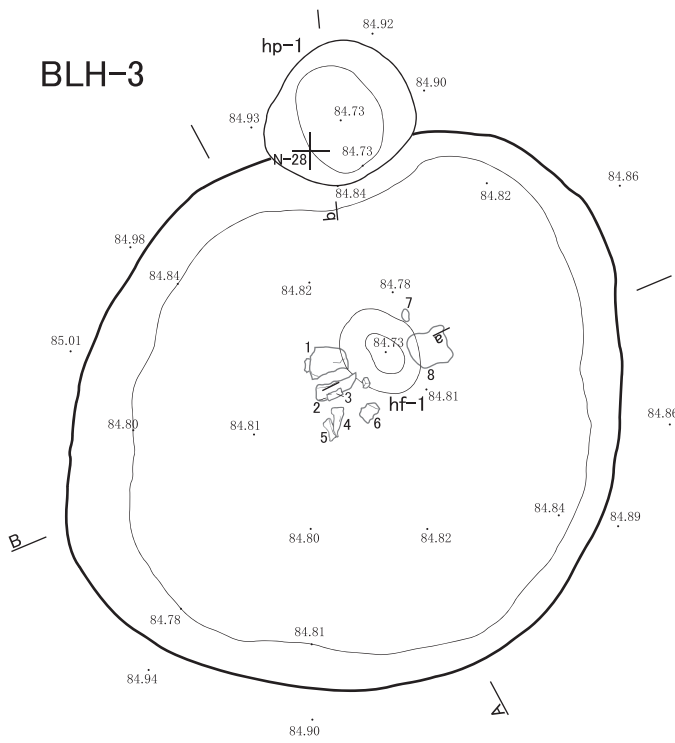
付属遺構 炉跡である焼土を1か所(h f - 1)、先端部ピットを1基(h p - 1)調査した。h f - 1は住居跡のほぼ中央に位置する地床炉で、h p - 1は坑底面が平坦である。

遺物出土状況 炉跡付近の覆土出土の遺物は位置を記録して取り上げ、床面出土の遺物はない。土器はⅢ・Ⅳ群があり、石器等ではフレイク、レキが多い。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

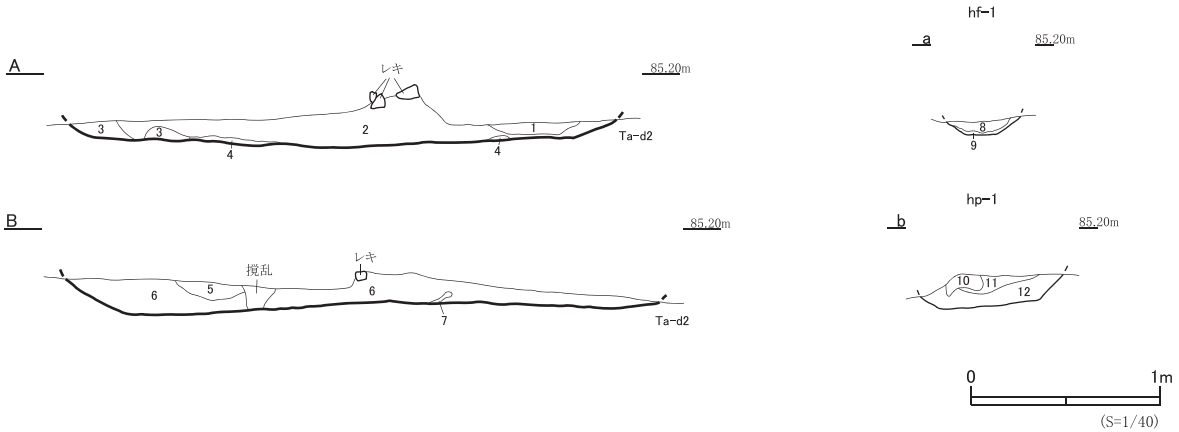
(末光)

BLH-3



BLH-3									
遺物番号	土器 石器	時期	部位	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	石皿	砂岩	片	1	*	覆土	85.10		
2	石皿	砂岩	片	2	*	覆土	85.10		
3	たつき石	砂岩	片	9	*	覆土	85.08		
4	レキ	凝灰岩	片	1	*	覆土	85.04		接熱
5	レキ	凝灰岩	片	1	*	覆土	85.01		接熱
6	レキ	凝灰岩	定形	1	*	覆土	85.04		接熱
7	レキ	花崗岩	定形	1	*	覆土	85.05		
8	U・Rレキ	砂岩	定形	1	*	覆土	85.09		現場で観察
—	レキ	凝灰岩	片	2	—	覆土	—		現場で観察
—	レキ	砂岩	片	5	—	覆土	—		現場で観察
—	レキ	砂岩	片	5	—	覆土	—		現場で観察
—	レキ	凝灰岩	片	3	—	覆土	—		現場で観察 接熱
—	レキ	凝灰岩	片	4	—	覆土	—		現場で観察
—	レキ	凝灰岩	片	6	—	覆土	—		現場で観察 接熱
—	レキ	砂岩	片	9	—	覆土	—		現場で観察
—	U・Rレキ	砂岩	片	3	—	覆土	—		
—	砥石	砂岩	片	2	—	覆土	—		
—	台石	砂岩	片	1	—	覆土	—		接熱
—	土器	IV群	胴部	剥離	2	覆土	—		
—	土器	IV群	胴部	小破片	1	覆土	—		
—	U・Rフレイク	黒曜石	—	1	—	覆土	—		
—	フレイク	黒曜石	—	13	—	覆土	—		
—	フレイク	黒曜石	—	41	—	覆土	—		接熱
—	フレイク	黒曜石	—	121	—	覆土	—		
—	U・Rフレイク	黒曜石	—	2	—	覆土	—		
—	スクレイパー	黒曜石	定形	1	—	覆土	—		
—	石鏝	黒曜石	準定形	1	—	覆土	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	半形	1	—	覆土	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	4	—	覆土	—		
—	フレイク	黒曜石	—	2	—	覆土	—		
—	フレイク	黒曜石	—	1	—	覆土	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	1	—	覆土	—		
—	レキ	砂岩	片	1	*	覆土	—		
—	レキ	砂岩	片	18	—	覆土B	—		現場で観察
—	石鏝	黒曜石	—	1	—	覆土	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	1	—	覆土	—		
—	フレイク	黒曜石	—	8	—	覆土	—		
—	U・Rフレイク	黒曜石	—	1	—	覆土	—		
—	土器	III群	胴部	良好	2	覆土B	—		

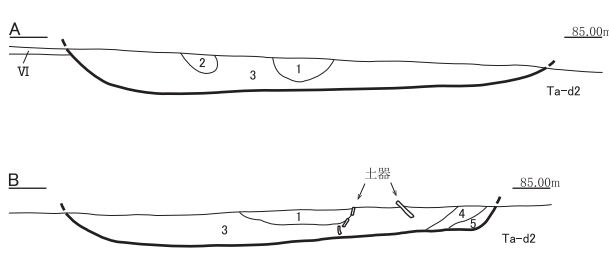
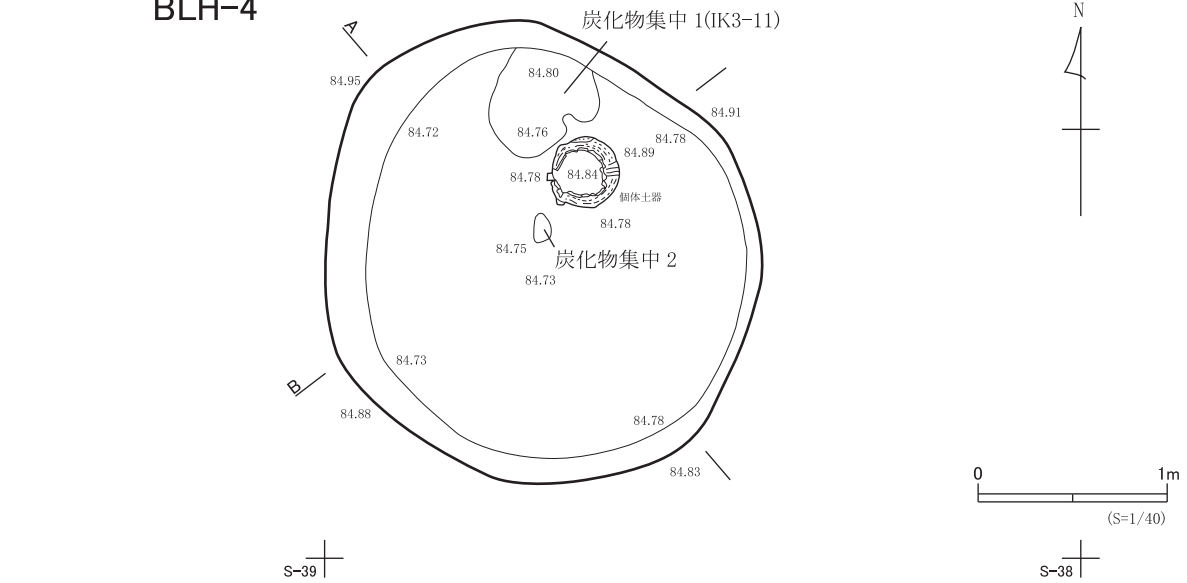
0-28



遺構名 ・付属遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層・混在層			野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系					平均					最大
BLH-3	1	Ta-d2	V層	明瞭	壤土	暗褐色	10YR3/4	弱	すこぶる 堅	Ta-d1スコリア	5	3	亜円礫	腐朽	*		
	2	V層	—	画然	シルト質 壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	堅	Ta-d2スコリア	1~3	5~10	亜円礫	腐朽	*		
	3	Ta-d2	VI層	画然	壤土	黄褐色	10YR5/8	弱	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	*		
	4	Ta-d2	—	画然	壤土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	*	*	*	*	*		
	5	V層	VI層	判然	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d2スコリア	1~3	2~6	亜円礫	腐朽	*		
	6	V層	—	画然	シルト質 壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	堅	Ta-d2スコリア	3~5	3~10	亜円礫	腐朽	*		
	7	Ta-d2	VI層	判然	壤土	暗褐色	10YR3/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	*	*	*	*	*		
BLH-3	8	V層	—	判然	壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	堅	—	無	—	—	—	*		
BLH-3	9	雑土	Ta-d2	判然	壤土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	すこぶる 堅	Ta-d2スコリア	*	*	*	*	*		
BLH-3	10	VI層	—	明瞭	壤土	暗褐色	10YR3/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	*		
	11	V層	VI層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	Ta-d2スコリア	1	2~3	亜円礫	腐朽	*		
	12	V層	—	画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	堅	Ta-d2スコリア	1~3	3~5	亜円礫	腐朽	*		

図68 BLH-3

BLH-4

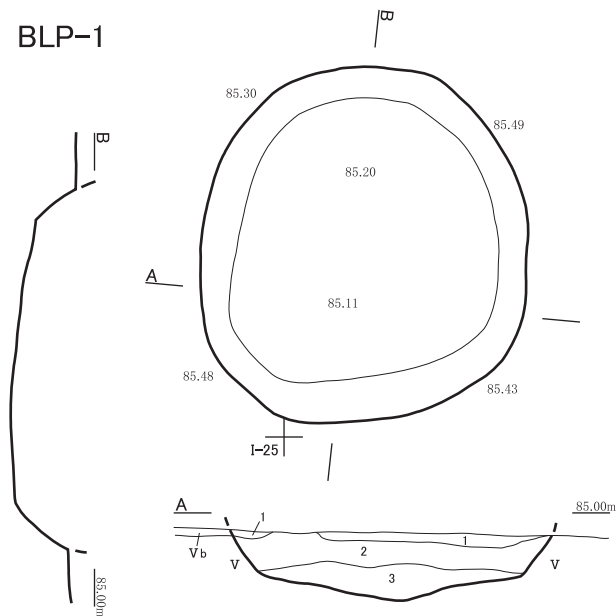


BLH-4										
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考	
石器(器種)	石名									
—	U・Rフレイク		黒曜石	—	1	覆土	—			
—	土器	IV群	胴部	良好	5	覆土	—			
—	土器	IV群	胴部	小破片	15	覆土	—			
—	土器	IV群	口縁部	良好	1	覆土	—			
—	レキ		凝灰岩	片	1	覆土	—			
—			炭化物		1	床面	—			
—	土器	III群	口縁部	良好	7	床面	—			
—	土器	III群	胴部	剥離	5	床面	—			
—	土器	III群	胴部	良好	3	床面	—			
—	土器	III群	胴部	良好	4	床面	—			
—	土器	III群	胴部	小破片	2	床面	—			
—	土器	III群	胴部	剥離	2	覆土	—			
—	土器	III群	胴部	剥離	20	覆土	—			
—	土器	III群	口縁部	良好	5	覆土	—			
—	土器	III群	胴部	良好	21	覆土	—			
—	土器	III群	胴部	剥離	29	覆土	—			
—	土器	III群	口縁部	剥離	7	覆土	—			
—	土器	III群	胴部	小破片	128	覆土	—			

遺構名 ・付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系					平均					最大
BLH-4	1	BR層		明瞭	埴壤土	黒褐色	7.5YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3		並円礫	腐朽	—	
		Ta-d2スコリア	15							3~5 7		並円礫	腐朽				
	2	BY層	BY1層	明瞭	埴壤土	黒褐色	7.5YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3		並円礫	腐朽	—	
										Ta-d2スコリア	1	3~5		並円礫	腐朽		
	3	B層	B1層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3		並円礫	腐朽	—	
										Ta-d2スコリア	1	3~5 7		並円礫	腐朽		
	4	BY層	BY2層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3		並円礫	腐朽	—	
										Ta-d2スコリア	1	3~5 7		並円礫	腐朽		
										Ta-d1スコリア	2	2~3		並円礫	腐朽		
										Ta-d2スコリア	1	3~4		並円礫	腐朽		
5	B層	B2層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2~3		並円礫	腐朽	—		
									Ta-d2スコリア	1	3~4		並円礫	腐朽			

図69 BLH-4

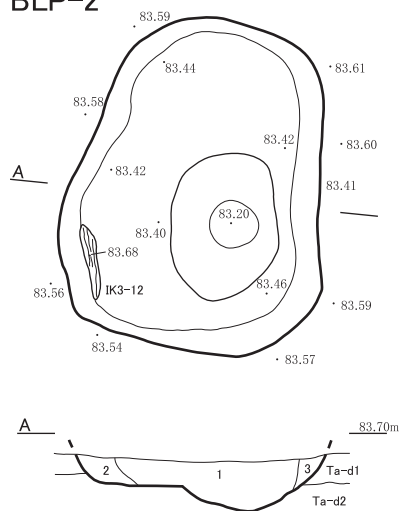
BLP-1



BLP-1									
遺物番号	土器 石器 (器種)	時期	部位	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	縄文	砂岩	片	1	覆土B2	—		
—	レキ	縄文	砂岩	片	2	覆土B2	—		
—	土器	IV群	胴部	小破片	1	覆土B1	—	現場で記録	

遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層 層名	細分層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)				形状	風化の 程度
						マンセル 表色系	色名				平均	最大				
BLP-1	1	B層	B1層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	強	軟	Ta-d2スコリア	7	2~3	亜円礫	腐朽	—	V b層主体
	2		B2層	画然	堆積土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	無					—	V b層主体
	3		BR層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/3	強	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—	

BLP-2



BLP-2									
遺物番号	土器 石器 (器種)	時期	部位	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	縄文	砂岩	片	2	覆土B1	—		現場で記録
—	U・Rレキ	縄文	砂岩	片	4	覆土B1	—		現場で記録 被熱
—	U・Rレキ	縄文	砂岩	片	10	覆土B1	—		現場で記録 被熱
—	U・Rレキ	縄文	砂岩	片	21	覆土B1	—		現場で記録 被熱
—	U・Rレキ	縄文	凝灰岩	片	12	覆土B1	—		現場で記録
—	U・Rレキ	縄文	凝灰岩	片	8	覆土B1	—		現場で記録 被熱
—	石皿	縄文	凝灰岩	片	2	覆土B1	—		被熱
—	たたき石	縄文	砂岩	片	1	覆土B1	—		
—	砥石	縄文	凝灰岩	片	1	覆土B1	—		
—	レキ	縄文	砂岩	完形	1	覆土B1	—		現場で記録
—		炭化物			—	覆土B1	—		2015 IK3-12
—	たたき石	縄文	凝灰岩	完形	1	覆土1	—		
—	U・Rレキ	縄文	凝灰岩	片	2	覆土1	—		現場で記録
—	磨製石斧	縄文	緑色泥岩	片	1	覆土	—		
—	U・Rレキ	縄文	凝灰岩	片	1	覆土	—		現場で記録
—	U・Rレキ	縄文	凝灰岩	片	1	覆土	—		現場で記録 被熱

遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・混在層 層名	細分層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)				形状	風化の 程度
						マンセル 表色系	色名				平均	最大				
BLP-2	1	B層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—		
									Ta-d2スコリア	1	3~5	6	亜円礫	腐朽	—	
	2	BY層	明瞭	堆積土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—		
									Ta-d2スコリア	3	2~4	亜円礫	腐朽	—		
3	BY層	明瞭	堆積土	黒色	10YR2/2	中	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3	亜円礫	腐朽	—			

図70 BLP-1・BLP-2

BLH-4 (図69 カラー図版4 図版27・28)**位置** R-38区 **規模** 2.56×2.34 / 2.18×2.05 / 0.24m**平面形態** 円形

確認・調査 包含層調査完了後、円形を呈する黒色土と土器がみられた。住居跡であると予想し、十字に先行トレンチを設け掘り進めたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し遺構と認定した。土層断面を記録して完掘し、付属遺構を調査した。確認面でみられた土器は口縁から胴部上位がまとまっており（個体土器）、土層断面では掘り方はみられなかった。この土器は、本住居跡に覆土が堆積することに伴い埋没したと考える。

覆土 主体的な覆土は、断面図番号3の黒色土層でT a - d 1が少量混じり、これ以外の覆土は部分的にみられる。

壁・床面 壁は曲線的に広がって立ち上がり、床面は概ね平坦で西側が低い。

付属遺構 炭化物集中2か所を調査した。これらと個体土器の下位部分は焼土等を確認するために精査したが、みられなかった。また、柱穴・杭穴と認定できたものもない。

遺物出土状況 床面からⅢ群土器、石器等は覆土からU・Rフレイク、レキが出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭で、出土土器からは縄文時代中期後半と考えられる。また、放射性炭素年代測定（IK3-11）の結果とも矛盾しない。

(広田)

4. 土坑 (図70 表52 図版29)**BLP-1** (図70 図版29)**位置** H-24・25区 **規模** 1.89×1.74 / 1.51×1.42 / 0.36m**平面形態** 円形

確認・調査 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられた。半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。北側と南東側部分に攪乱がある。

覆土 黒色土が主体で、T a - d 2スコリアが微量混じる。

壁・坑底面 壁は曲線的な立ち上がりで、坑底面は概ね平坦である。

遺物出土状況 覆土からⅣ群土器、U・Rレキ、レキが出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(末光)

BLP-2 (図70 図版29)**位置** Z-29区 **規模** 1.76×1.43 / 1.61×1.18 / 0.21m**平面形態** 円形

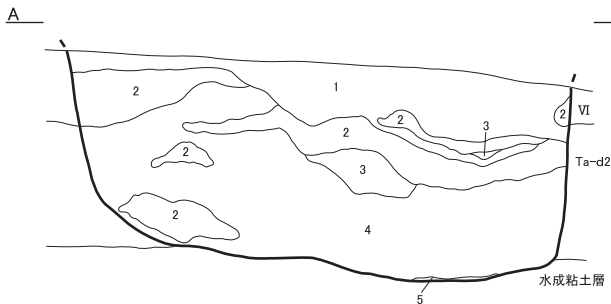
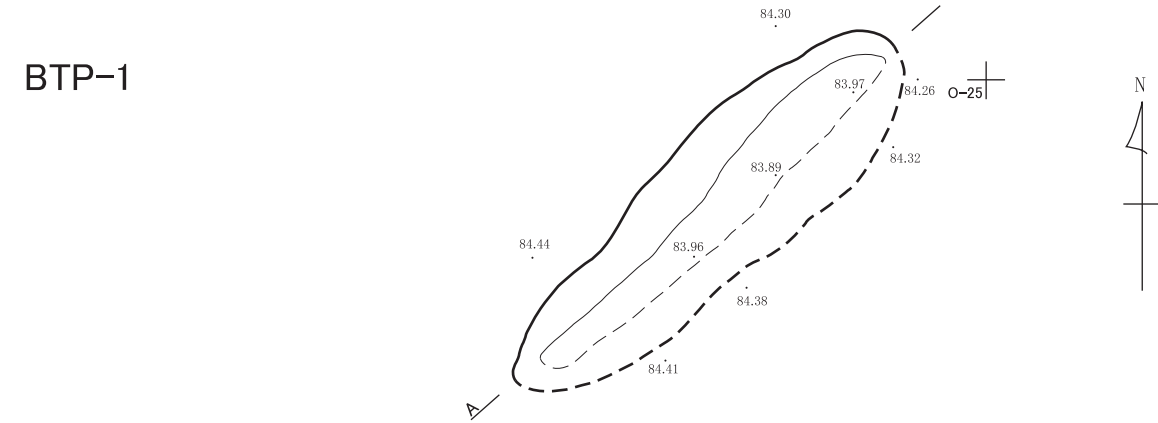
確認・調査 包含層調査中、VI層上面で黒色土がみられた。半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。中央から南東側部分が一段低い。

覆土 黒色土が主体の覆土である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは曲線的に広がり、坑底面は概ね平坦、低い部分は曲線的で中央が低い。

遺物出土状況 覆土から磨製石斧、たたき石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土し、南西側壁際には形状を留める炭化材が確認された。

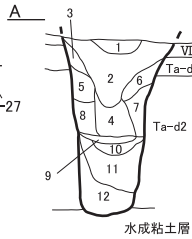
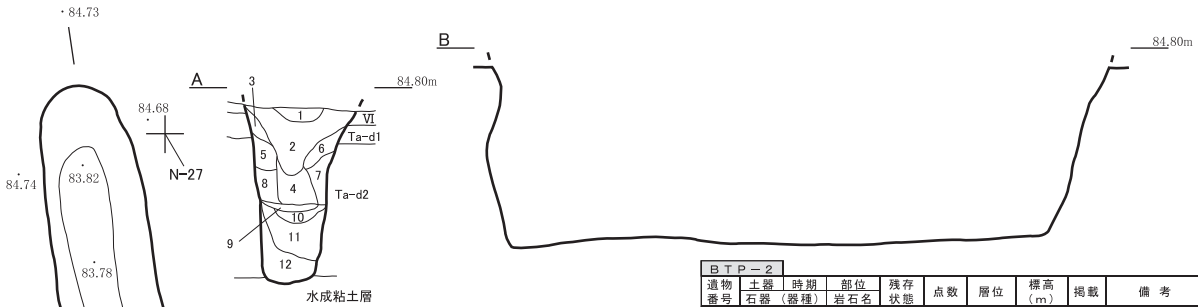
BTP-1



BTP-1									
遺物番号	土器 石器 (器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	フレイク	—	黒曜石	—	3	覆土	—		
—	フレイク	—	黒曜石	—	1	覆土	—		被熱
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	10	覆土	—		現場で観察
—	U・Rレキ	—	凝灰岩	片	1	覆土	—		現場で観察
—	U・Rレキ	—	凝灰岩	片	2	覆土	—		現場で観察
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	1	覆土	—		現場で観察
—	U・Rレキ	—	凝灰岩	片	1	覆土	—		現場で観察

遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系				平均	最大				
BTP-1	1	V層	—	判然	シルト質 壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	堅	Ta-d1スコリア	1~3	2~3	亜角~ 亜円礫	腐朽	*	
	2	V・VI層	Ta-d2	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	Ta-d2スコリア	1	3~20	亜角~ 亜円礫	腐朽	*	
	3	Ta-d2	—	判然	壤土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	5	10~30	亜角~ 亜円礫	腐朽	*	
	4	Ta-d2	V・VI層	画然	壤土	暗赤褐色	5YR3/4	弱	堅	Ta-d2スコリア	3~5	10~30	亜角~ 亜円礫	腐朽	*	
	5	V層	—	画然	シルト質 壤土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	—	—	—	—	—	*	

BTP-2



BTP-2									
遺物番号	土器 石器 (器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	2	覆土	—		

遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層・混在層				色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系				平均	最大				
BTP-2	1	BY層	BY1層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—	
	2	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	Ta-d2スコリア	1	5~7	亜円礫	腐朽	—	
	3		B2層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d2スコリア	7	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	4	BY層	BY3層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	2	2~5	4	亜円礫	腐朽	—
	5		BY4層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d1スコリア	5	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	6		BY5層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	7	BR層	BR1層	明瞭	埴壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	8		BR2層	明瞭	埴壤土	赤褐色	5YR4/6	中	堅	Ta-d1スコリア	2	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	9		BR3層	明瞭	埴壤土	暗褐色	7.5YR3/3	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	70	2~5	7	亜円礫	腐朽	—
	10	B層	B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	軟~堅	Ta-d2スコリア	7	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	11		BR4層	明瞭	砂壤土	暗褐色	7.5YR2/3	弱	軟~堅	Ta-d2スコリア	40	2~5	6	亜円礫	腐朽	—
	12	R層	R1層	明瞭	砂壤土	明褐色	7.5YR5/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	40	2~6	8	亜円礫	腐朽	—



図71 BTP-1・BTP-2

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。また、炭化材の放射性炭素年代測定（IK3-12）を行ったが、非常に古い値が出て再検討を要する（付篇 参照）。

（広田）

5. Tピット（図71～77 表53・54 図版30～32）

BTP-1（図71 図版29・31）

位置 N・O-25区 **規模** 2.67×0.81 / 2.41×0.30 / 1.12m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。長軸方向で半截して土層断面を観察し、平坦な面、壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

覆土 覆土は上位が黒色土主体、中・下位がT a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁は南西側が曲線的、北東側は直立気味に立ち上がり、坑底面は凹凸がみられる。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 覆土からフレイク、U・Rレキが出土した。

時期 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

（末光）

BTP-2（図71 図版30・31）

位置 M-27、N-26・27区 **規模** 3.26×0.60 / 2.83×0.34 / 0.94m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 覆土の多くは黒色土主体で、最下層はT a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸があり、南側が最も低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 覆土からU・Rレキが出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

（広田）

BTP-3（図72 図版29・30）

位置 V・W-29区 **規模** 1.59×1.10 / 1.02×0.37 / 1.15m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。半截し平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。

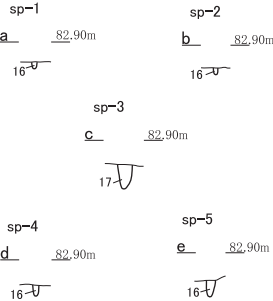
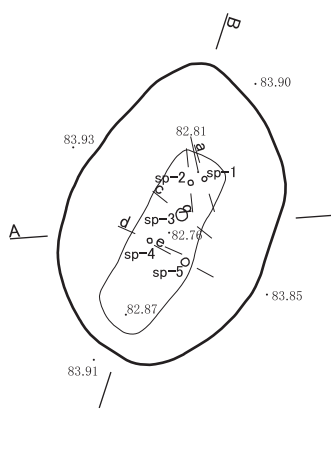
覆土 覆土の多くが遺構の中央へと傾斜する堆積で、水平な堆積のものは最下層の黒色土主体の層（断面図番号15）である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりはゆるやかに開き気味で、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

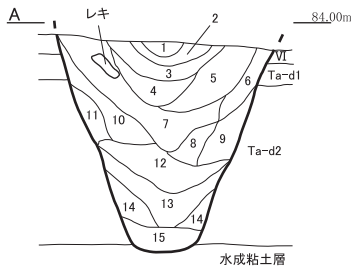
付属遺構 杭穴を5か所（s p - 1～5）確認した。s p - 1・2・4・5は細くて浅く、中央付近のs p - 3はこれらに比して大きい。

遺物出土状況 覆土からフレイク、砥石、U・Rレキが出土した。

BTP-3

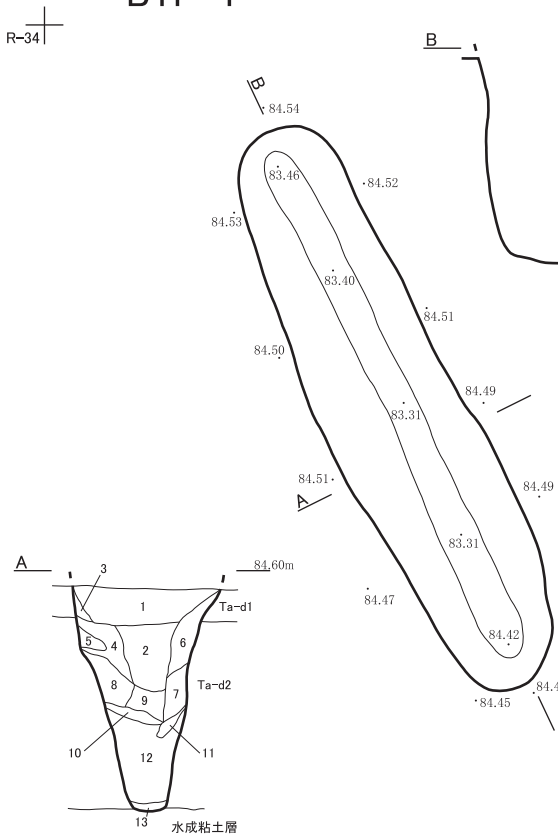


遺物 番号	土器 石器 (器種)	時期 岩石名	部位 状態	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	1	—	覆土	—	—	—
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	8	—	覆土	—	—	現場で観察
—	砥石	凝灰岩	片	1	—	覆土	—	—	—
—	フレイタ	黒曜石	—	4	—	覆土	—	—	—



遺構名 断面 番号	層位名 主体層・埋存層	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)			形状	風化の 程度	埋入物	備考		
			野外 土性	色名	マンデル 表示色	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)					平均	最大
BTP-3	B層	B1層	明砂	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		B2層	明砂	塊状土	黒色	10YR2/1	中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		B3層	明砂	塊状土	黒色	10YR2/1	中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		B4層	明砂	塊状土	黒色	10YR2/1	中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		B5層	明砂	塊状土	黒色	10YR2/1	中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY1層	明砂	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY2層	明砂	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY3層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY4層	明砂	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	R層	R1層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		R2層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		R3層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		R4層	明砂	砂壤土	明褐色	7.5YR5/6	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BTP-3 sp-1~4	B1層	明砂	壤土	黒色	10YR2/1	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		YG層	明砂	塊状土	にぶい 黄褐色	10YR6/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—

BTP-4



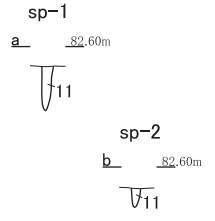
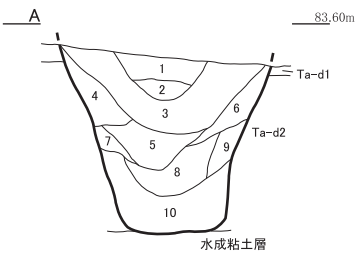
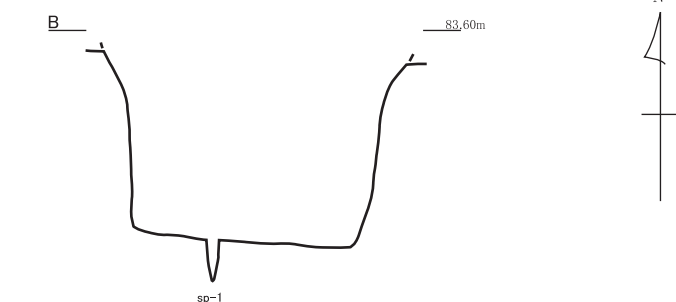
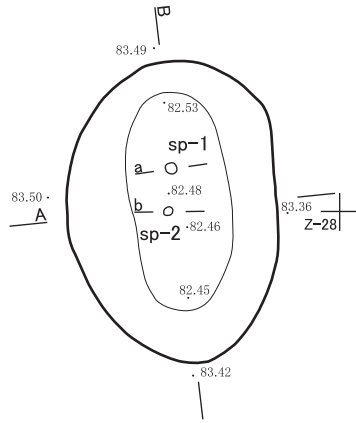
遺物 番号	土器 石器 (器種)	時期 岩石名	部位 状態	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	レキ	砂岩	片	1	—	覆土B1	—	—	現場で観察
—	土器	不明	胴部	小破片	2	覆土B1	—	—	—
—	土器	田群	胴部	断片	2	覆土B1	—	—	—
—	フレイタ	黒曜石	—	477	—	覆土B1	—	—	—
—	フレイタ	黒曜石	—	2,435	—	覆土B1	—	—	—
—	U・Rフレイタ	黒曜石	—	1	—	覆土B1	—	—	—
—	石鏝	黒曜石	片	1	—	覆土B1	—	—	—

遺構名 断面 番号	層位名 主体層・埋存層	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)			形状	風化の 程度	埋入物	備考		
			野外 土性	色名	マンデル 表示色	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)					平均	最大
BTP-4	BY層	BY1層	明砂	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY2層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	YB層	YB1層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/4	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		YB2層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY3層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY4層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY5層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY6層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY7層	明砂	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY8層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY9層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
		BY10層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
	BY層	BY11層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—
BY12層		明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—	
BY層	BY13層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/1	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—	
	BY14層	明砂	塊状土	黒褐色	10YR2/1	弱	堅	1~2	1	3~5	1	車目線	埋朽	—	



図72 BTP-3・BTP-4

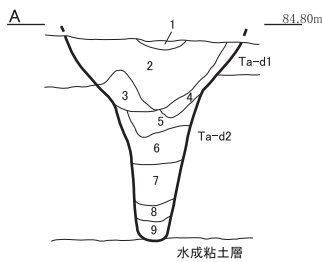
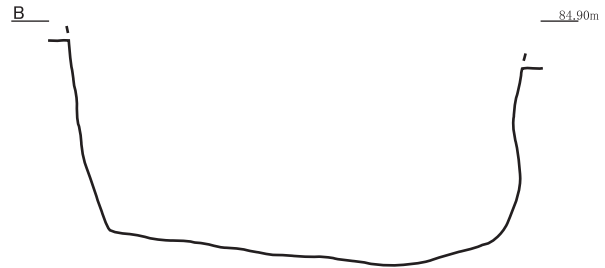
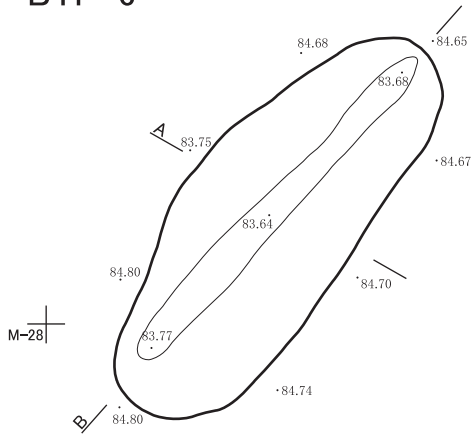
BTP-5



遺物番号	土器・石器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	礫岩	片	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	砂岩	片	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	たき石	砂岩	片	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	レキ	砂岩	実形	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	2	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	礫岩	片	1	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	凝灰岩	片	2	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	砂岩	片	2	覆土	—	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	砂岩	片	4	覆土	—	—	—	現場で観察
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	1	覆土	—	—	—	—
—	フレイク	頁岩	—	1	覆土	—	—	—	—
—	フレイク	黒曜石	—	1	覆土	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

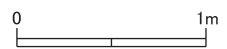
遺構名	断面図番号	層位名		境界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・存在層	層名			細分類	色			種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
							色名	マンセル表色系	粘着性		堅密度	平均				
BTP-5	1	B層	B1層	明瞭	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta~R2スコリア	2	2~3	車内産	腐朽	—	
	2	B層	BR1層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ta~R2スコリア	15	3~6	7	車内産	腐朽	—
	3	B層	B2層	明瞭	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta~R1スコリア	2	2~3	車内産	腐朽	—	
	4	R層	RB1層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅	Ta~R2スコリア	70	3~5	7	車内産	腐朽	—
	5	B層	BR2層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta~R2スコリア	5	2~3	車内産	腐朽	—	
	6	R層	RB2層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅	Ta~R2スコリア	60	3~5	7	車内産	腐朽	—
	7	B層	BR3層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅	Ta~R2スコリア	20	3~5	7	車内産	腐朽	—
	8	B層	BR3層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟~堅	Ta~R2スコリア	30	3~5	7	車内産	腐朽	—
	9	R層	R1層	明瞭	埴塚土	赤褐色	5YR4/8	なし~弱	堅	Ta~R2スコリア	90	3~5	7	車内産	腐朽	—
	10	R層	RB4層	明瞭	埴塚土~砂塚土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ta~R2スコリア	20	3~5	10	車内産	腐朽	—
BTP-5 sp-1-2	11	BY層	—	明瞭	埴塚土	暗褐色	10YR3/3	中~強	軟~堅	Ta~R2スコリア	7	3~5	7	車内産	腐朽	—

BTP-6



遺物番号	土器・石器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	1	覆土	—	—	—	—

遺構名	断面図番号	層位名		境界	野外土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・存在層	層名			細分類	色			種類	面積割合(%)				形状	風化の程度
							色名	マンセル表色系	粘着性		堅密度	平均				
BTP-6	1	R層	RB1層	明瞭	砂塚土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ta~R1スコリア	4	2~3	車内産	腐朽	—	
	2	B層	B1層	明瞭	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta~R1スコリア	1	3~5	車内産	腐朽	—	
	3	Y層	YB1層	明瞭	埴塚土	暗褐色	10YR2/3	中	堅	Ta~R1スコリア	1	2~3	車内産	腐朽	—	
	4	Y層	YB2層	明瞭	埴塚土	暗褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta~R2スコリア	1	2~3	車内産	腐朽	—	
	5	B層	B2層	明瞭	埴塚土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ta~R1スコリア	1	2~3	車内産	腐朽	—	
	6	R層	RB2層	明瞭	砂塚土	暗褐色	7.5YR4/3	弱	堅	Ta~R2スコリア	60	3~5	7	車内産	腐朽	—
	7	R層	RB3層	明瞭	砂塚土	暗褐色	10YR3/4	弱	堅	Ta~R2スコリア	70	3~5	7	車内産	腐朽	—
	8	B層	BR1層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	中	軟~堅	Ta~R2スコリア	20	3~5	7	車内産	腐朽	—
	9	R層	RB2層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	中~強	軟~堅	Ta~R2スコリア	5	3~5	車内産	腐朽	—	



(S=1/40)

図73 BTP-5・BTP-6

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

B T P - 4 (図72 図版31・32)

位 置 R-33区 **規 模** 3.22×0.78 / 2.96×0.12 / 1.19m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 B L F C - 1 と包含層の調査完了後、T a - d 1 層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、土層断面を確認し、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆 土 覆土の上位と最下層は黒色土主体で、下位にT a - d 2 層主体のものが厚く堆積する。

壁・坑底面 壁はゆるやかに立ち上がり、中～上位でさらに開く。長軸方向の坑底面は傾斜があり、南側付近が低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 覆土からⅢ群土器、石鏃、U・Rフレイク、フレイク、レキが出土した。

重 複 上位にフレイク集中B L F C - 1 があり、これよりもTピットが古いと判断される。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代中期の可能性がある。

B T P - 5 (図73 図版29・30・32)

位 置 Y・Z-28区 **規 模** 1.60×1.11 / 1.15×0.55 / 1.01m

平面形態 楕円形／楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1 層上面で楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

覆 土 いずれの覆土も遺構の中央に傾斜するように堆積し、壁際と下位にT a - d 2 層主体の層がある。

壁・坑底面 壁はゆるやかに開くように立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側へと傾斜する。

付属遺構 杭穴を2か所(s p - 1・2)確認した。覆土はT a - d 2 スコリアが混じる黒色土である。

遺物出土状況 覆土から石鏃、フレイク、磨製石斧、たたき石、U・Rレキ、レキが出土した。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

B T P - 6 (図73 図版30・31)

位 置 L・M-27区 **規 模** 2.41×1.00 / 2.15×0.20 / 1.08m

平面形態 長楕円形／溝状

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1 層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

覆 土 上位は遺構の中央へと傾斜し、下位部分は水平な堆積で、後者はT a - d 2 層主体である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは直立気味で、遺構の上位で大きく広がる。長軸方向の坑底面は若干凹凸があり、北東側へと傾斜する。

付属遺構 なし。

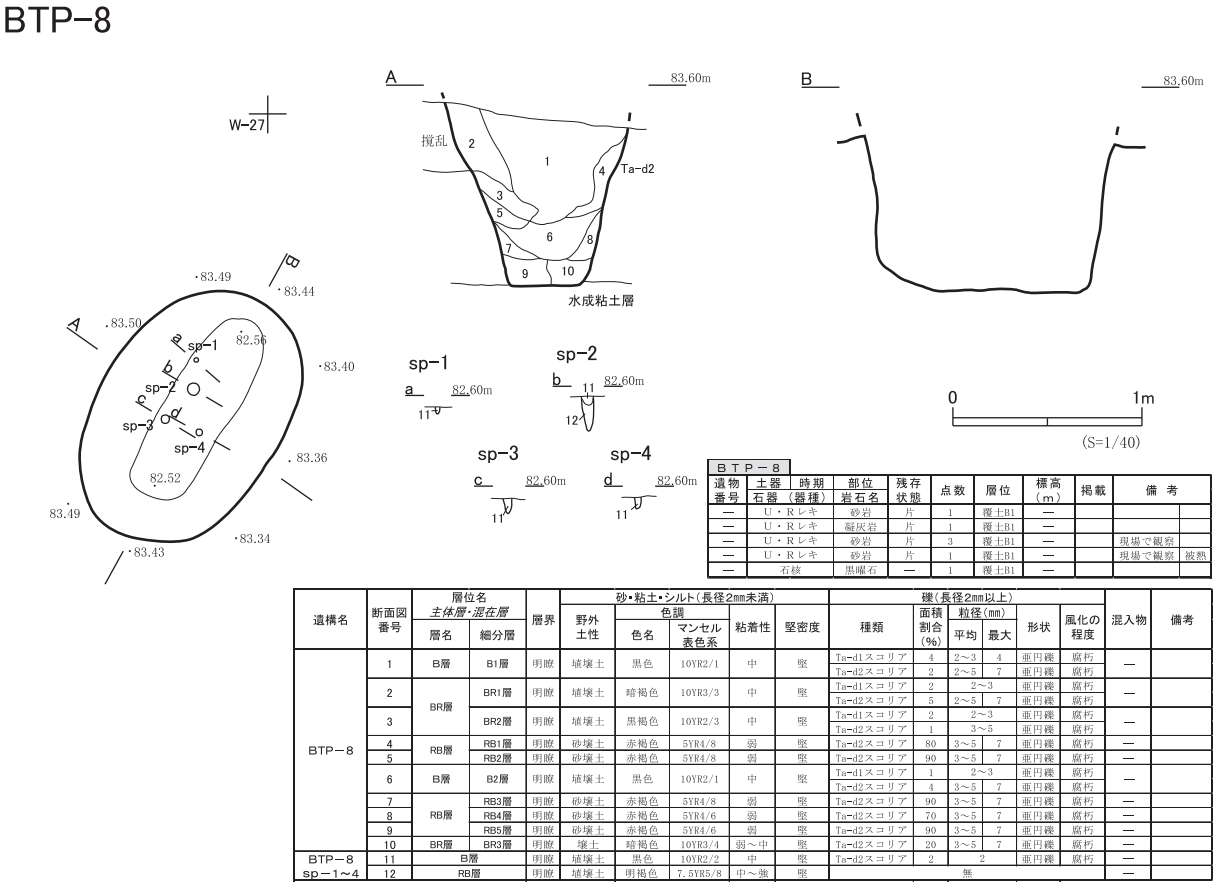
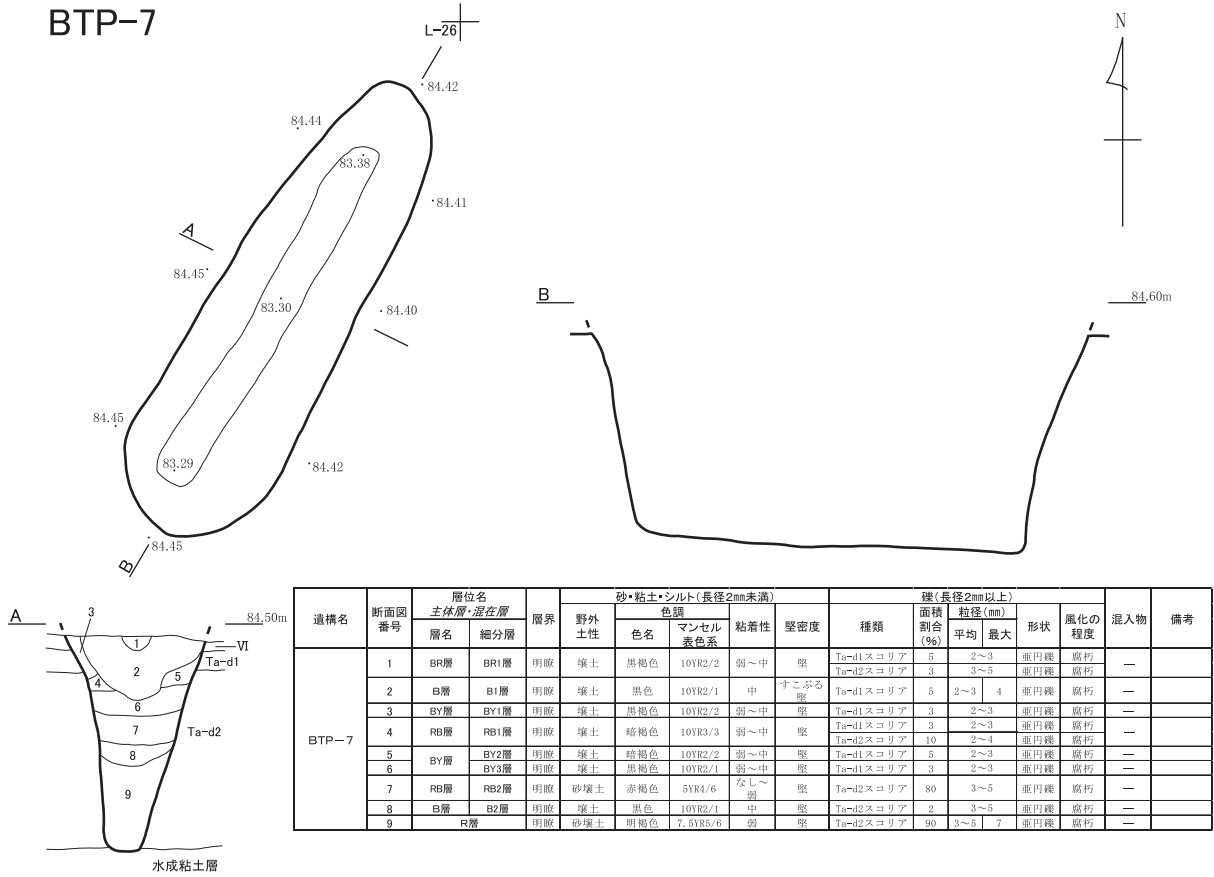


図74 BTP-7・BTP-8

遺物出土状況 覆土から磨製石斧が出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

BTP-7 (図74 図版30・31)

位置 L-26区 **規模** 2.68×0.81 / 2.06×0.25 / 1.15m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られ、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

覆土 覆土はやや高い位置から、水平堆積が認められる。坑底面近くはT a - d 2層主体の覆土が厚い。

壁・坑底面 壁はゆるやかに広がって立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

BTP-8 (図74 図版30・32)

位置 W-26・27区 **規模** 1.44×0.98 / 1.07×0.36 / 0.97m

平面形態 楕円形／長楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 2層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半截し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘し付属遺構を調査した。なお、北西側には浅い攪乱がある。

覆土 覆土最下層は二つに分層でき、これの上位の層界まで、遺構の中央が落ち込む堆積である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりはゆるやかに開く。長軸方向の坑底面は凹凸がみられ、中央が高い。

付属遺構 杭穴を4か所 (s p - 1～4) 確認した。覆土は黒色土主体で、s p - 2のみ規模が大きい。

遺物出土状況 覆土から石核、U・Rレキが出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

BTP-9 (図75 図版31・32)

位置 S・T-35区 **規模** 2.81×0.76 / 2.35×0.18 / 1.15m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられ、短軸方向で半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 上位の断面図番号1～4の覆土は中央が厚い、下位の同5～11は水平の堆積で、後者のうち5・8・10はT a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは直立気味で上位部分はさらに開口する。長軸方向の坑底面は中央が若干くぼみ、南側の壁はオーバーハングがみられる。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

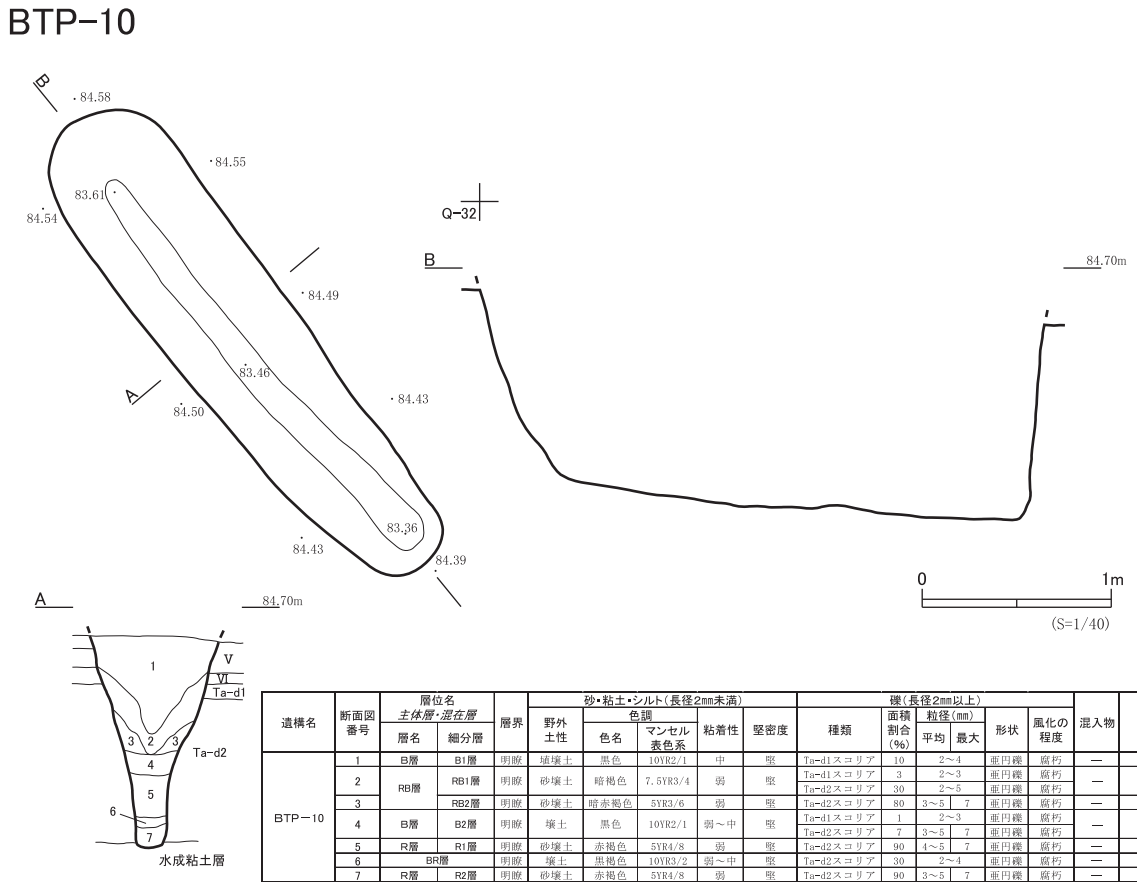
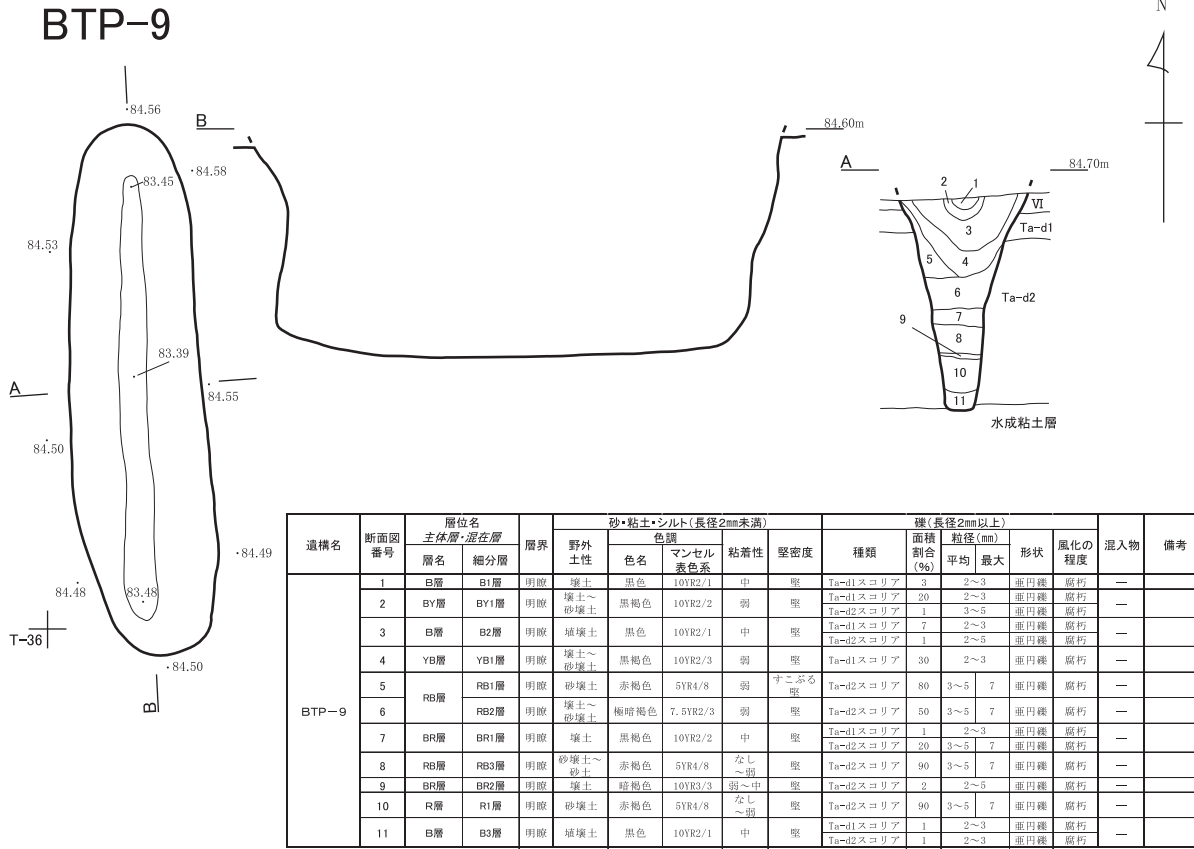
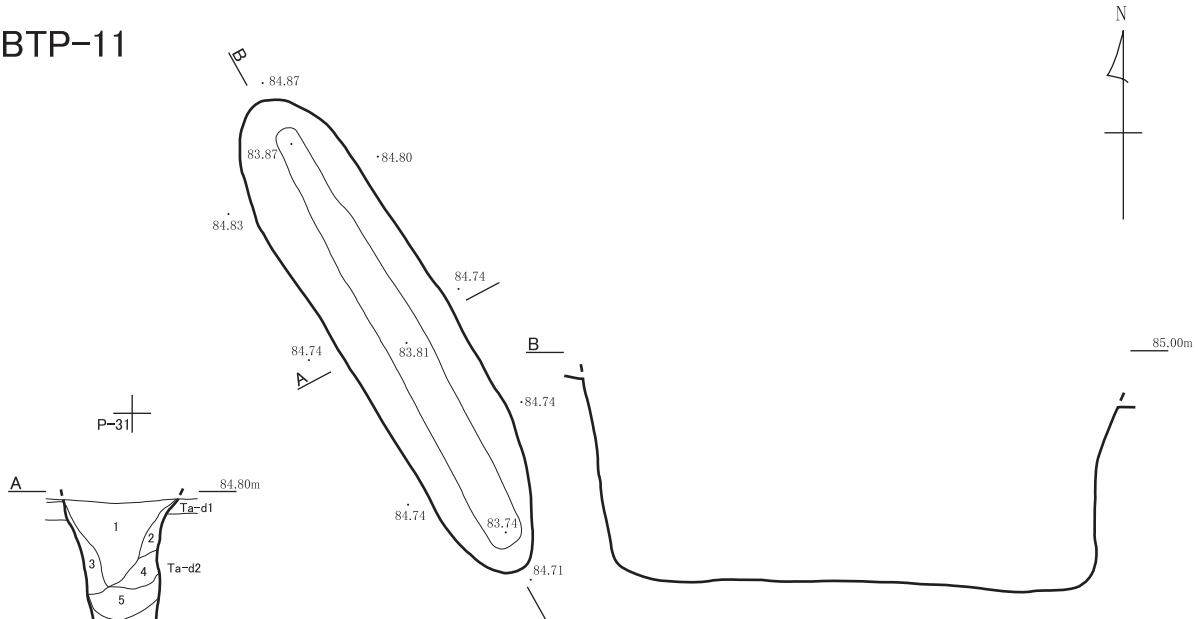


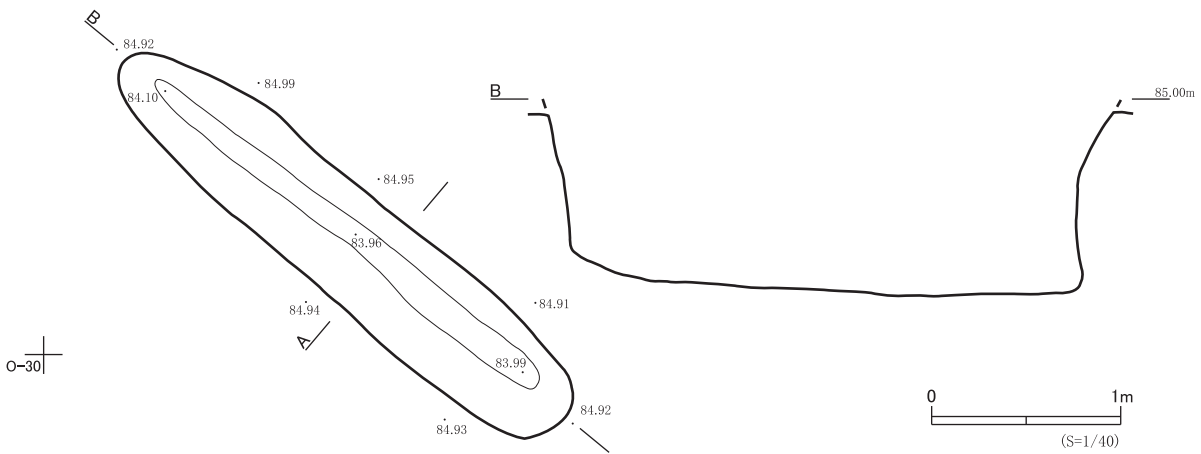
図75 BTP-9・BTP-10

BTP-11



遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			粘着性	堅密度	種類	礫(長径2mm以上)			形状	風化の 程度	混入物	備考
		主体系・潜在層				色調						面積 割合(%)		粒径(mm)				
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系	平均				最大						
BTP-11	1	B層	B1層	明原	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3	4	亜円礫	腐朽	—	—	—
	2	BY層	BY1層	明原	埴土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	3	RB層	RB1層	明原	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	4		RB2層	明原	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	軟~堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	—	—
	5	BR層	BR1層	明原	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	軟~堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	6	RB層	RB3層	明原	砂塚土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	軟~堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	7	B層	B2層	明原	埴土	黒色	10YR2/1	中	軟~堅	Ta-d2スコリア	1	2~4	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	8	R層	R1層	明原	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	90	3~5	—	亜円礫	腐朽	—	—	—

BTP-12



遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			粘着性	堅密度	種類	礫(長径2mm以上)			形状	風化の 程度	混入物	備考
		主体系・潜在層				色調						面積 割合(%)		粒径(mm)				
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系	平均				最大						
BTP-12	1	B層	B1層	明原	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~4	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	2	RB層	RB1層	明原	砂塚土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	80	3~5	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	3	BR層	BR1層	明原	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	1	2~3	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	4	BY層	BY1層	明原	砂塚土	暗褐色	10YR3/4	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	20	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	—	—
	5	RB層	RB2層	明原	砂塚土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	堅	Ta-d2スコリア	60	2~3	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	6	BR層	BR2層	明原	埴土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	70	3~5	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	7	RB層	RB3層	明原	砂塚土	赤褐色	5YR4/8	弱	堅	Ta-d2スコリア	20	3~5	—	亜円礫	腐朽	—	—	—
	8	B層	B2層	明原	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	90	3~5	7	亜円礫	腐朽	—	—	—

図76 BTP-11・BTP-12

B T P - 10 (図75 図版31・32)

位置 P・Q-32区 **規模** 2.98×0.81 / 2.51×0.24 / 1.13m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査中、V層で細長い黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられ、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

覆土 覆土はやや高い位置から、水平堆積が認められる。坑底面近くはT a - d 2層主体の覆土が厚い。

壁・坑底面 壁はゆるやかに広がって立ち上がり、長軸方向の坑底面は南東側へ傾斜する。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

B T P - 11 (図76 図版31・32)

位置 O・P-30区 **規模** 2.82×0.69 / 2.50×0.24 / 0.96m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で細長い黒色土がみられた。南東側部分を掘り上げて、土層断面を確認し、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 壁際と最下層の覆土はT a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁はゆるやかな立ち上がりで、上位で若干広くなる。長軸方向の坑底面は曲線的で中央がやや高い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

B T P - 12 (図76 図版31・32)

位置 N・O-29区 **規模** 3.00×0.64 / 2.58×0.19 / 0.98m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半截したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 覆土は全体的にT a - d 2層の混入が多い。

壁・坑底面 壁の立ち上がりはゆるやかで、上位は開口する。長軸方向の坑底面は概ね平坦で南東側が低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

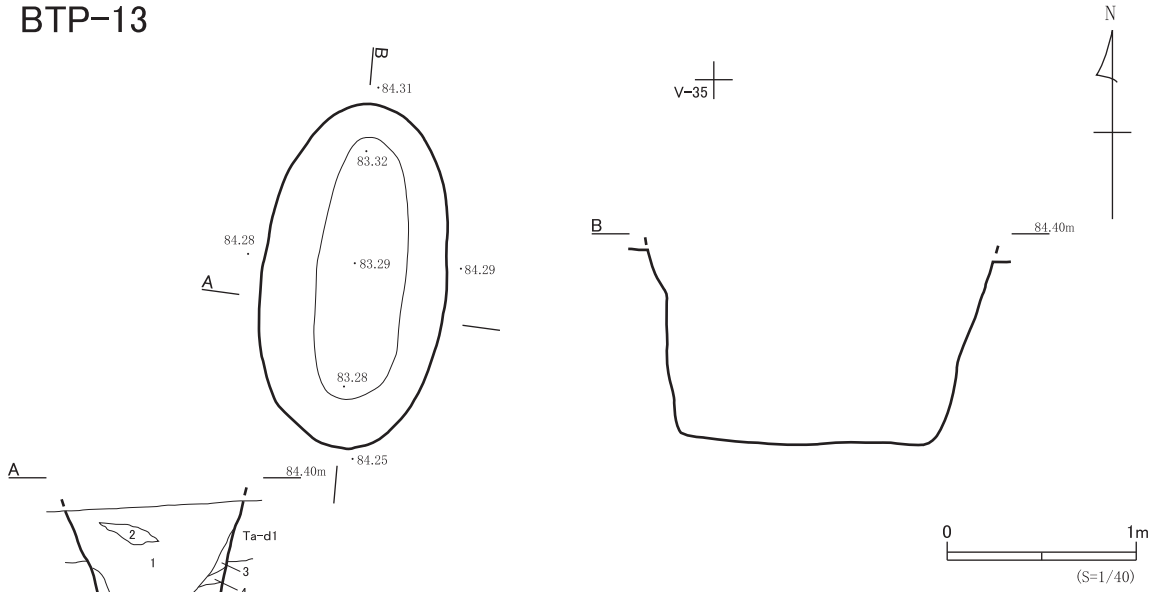
時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

B T P - 13 (図77 図版30・32)

位置 V-35区 **規模** 1.82×0.99 / 1.40×0.48 / 1.00m

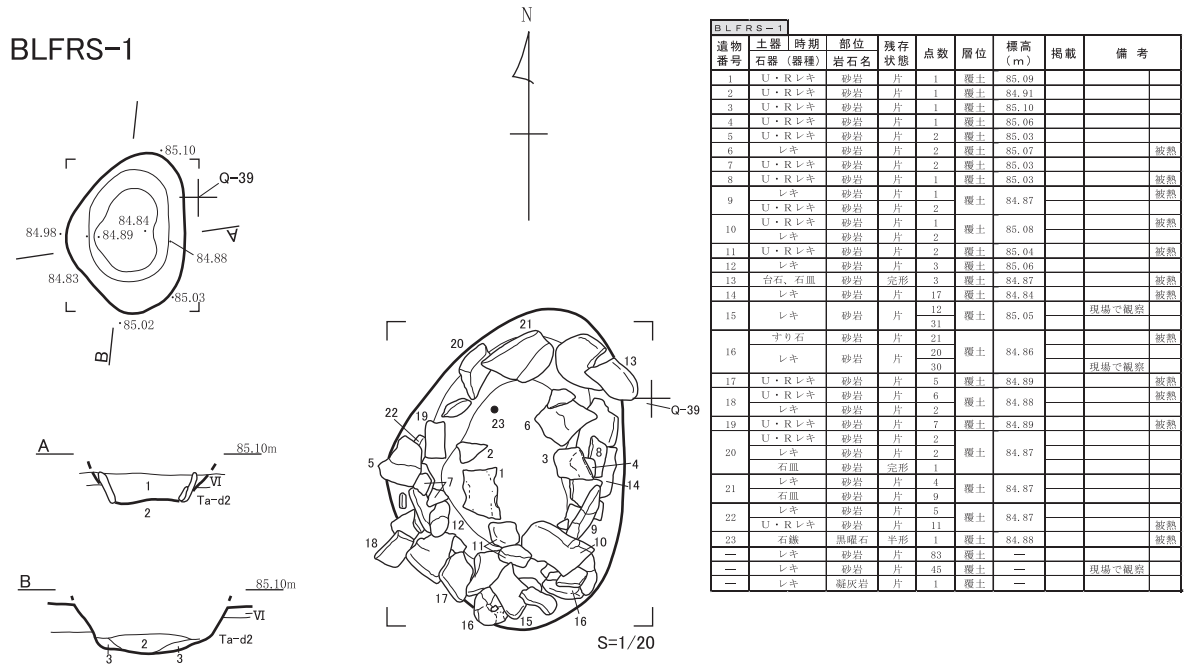
平面形態 楕円形／楕円形

BTP-13

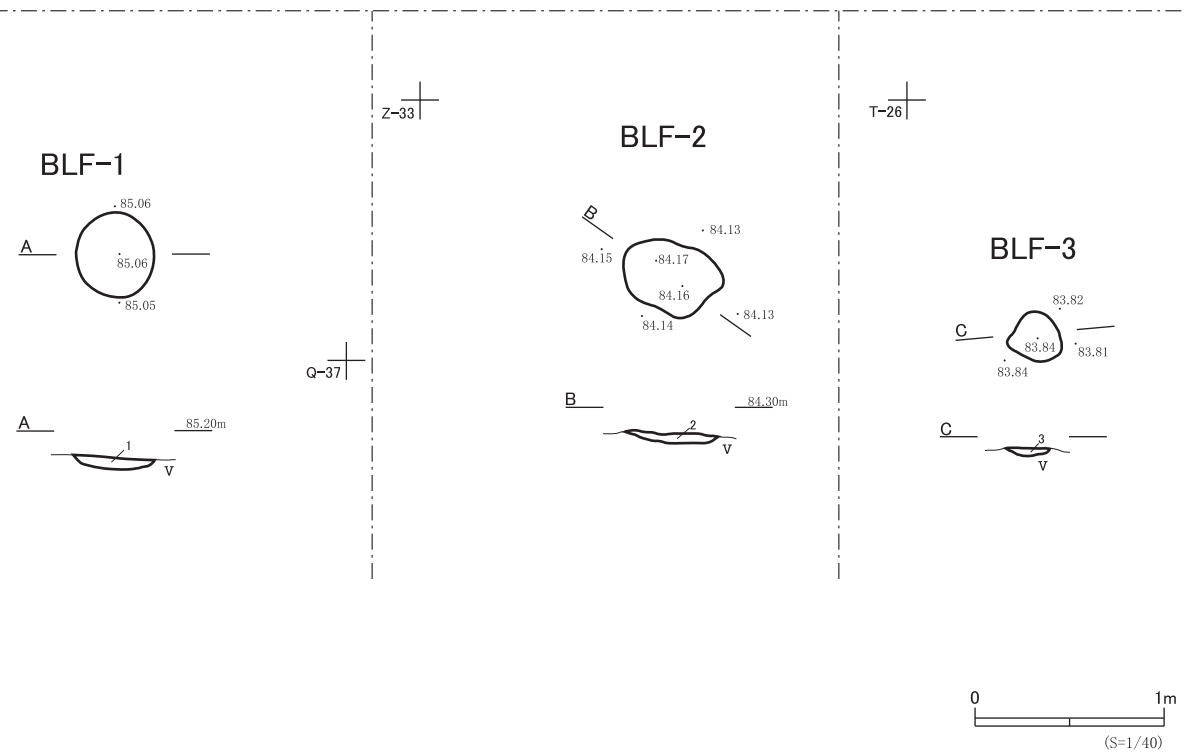


遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層・選在層			野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				形状	風化の 程度
		層名	細分層			色名	マンセル 表色系				平均	最大				
BTP-13	1	B層	B1層	明瞭	壤壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d1スコリア	7	2~3	4	亜円礫	腐朽	—
	2	BY層	BY1層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	10	2~3		亜円礫	腐朽	—
	3		BY2層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3		亜円礫	腐朽	—
	4		BY3層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	1	3~5		亜円礫	腐朽	—
	5	RB層	RB1層	明瞭	壤土	赤褐色	5YR4/8	弱~中	堅	Ta-d2スコリア	80	3~5		亜円礫	腐朽	—
	6	B層	B2層	明瞭	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~3		亜円礫	腐朽	—
	7	RB層	RB2層	明瞭	壤土	赭赤褐色	5YR3/6	中	堅	Ta-d2スコリア	70	2~3		亜円礫	腐朽	—
	8	B層	B3層	明瞭	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	5	2~3		亜円礫	腐朽	—
	9	RB層	RB3層	明瞭	壤土	赭赤褐色	5YR3/6	中	堅	Ta-d2スコリア	70	2~3		亜円礫	腐朽	—
	10		RB4層	明瞭	壤土	赤褐色	5YR4/8	中	堅	Ta-d2スコリア	90	2~3		亜円礫	腐朽	—
	11	B層	B4層	明瞭	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2~3		亜円礫	腐朽	—

図77 BTP-13



BLFRS-1									
遺物番号	土器 石器 (器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	85.09		
2	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	84.91		
3	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	85.10		
4	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	85.06		
5	U・Rレキ		砂岩	片	2	覆土	85.03		
6	レキ		砂岩	片	2	覆土	85.07		被熱
7	U・Rレキ		砂岩	片	2	覆土	85.03		
8	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	85.03		被熱
9	レキ		砂岩	片	1	覆土	84.87		被熱
	U・Rレキ		砂岩	片	2				
10	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土	85.08		被熱
	レキ		砂岩	片	2				
11	U・Rレキ		砂岩	片	2	覆土	85.04		被熱
12	レキ		砂岩	片	3	覆土	85.06		
13	台石、石皿		砂岩	完形	3	覆土	84.87		被熱
14	レキ		砂岩	片	17	覆土	84.84		被熱
15	レキ		砂岩	片	12				現場で観察
					31	覆土	85.05		
	すり石		砂岩	片	21				被熱
16	レキ		砂岩	片	20	覆土	84.86		現場で観察
					30				
17	U・Rレキ		砂岩	片	5	覆土	84.89		被熱
18	U・Rレキ		砂岩	片	6	覆土	84.88		被熱
	レキ		砂岩	片	2				
19	U・Rレキ		砂岩	片	7	覆土	84.89		被熱
	U・Rレキ		砂岩	片	2				
20	レキ		砂岩	片	2	覆土	84.87		
	石皿		砂岩	完形	1				
21	レキ		砂岩	片	4	覆土	84.87		
	石皿		砂岩	片	9				
22	U・Rレキ		砂岩	片	5	覆土	84.87		被熱
	レキ		砂岩	片	11				被熱
23	石鏃		黒曜石	半形	1	覆土	84.88		被熱
二	レキ		砂岩	片	83	覆土	二		
二	レキ		砂岩	片	45	覆土	二		現場で観察
二	レキ		凝灰岩	片	1	覆土	二		



遺構名	断面図 番号	層位名 主体層・混在層		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				混入物	備考			
		層名	細分層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径 (mm)			風化 の程度		
						色名	マンセル 表色系					平均				最大	形状
BLFRS-1	1	B層		画然	壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2~3	亜円礫	腐朽	炭化材 少量	V b層主体	
	2	R層		画然	シルト質 壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	Ta-d2スコリア	1	2	亜円礫	腐朽	—	V b層被熱	
	3	B R層		画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ta-d2スコリア	3	2	亜円礫	腐朽	—	V b層主体	
BLF-1	1	R層		画然	壤土	橙色	7.5YR6/6	中~強	軟~堅	Ta-d2スコリア	5	2~3	亜円礫	腐朽	—	V b層被熱	
BLF-2	2	R層		明瞭	埴壤土	明褐色	7.5YR5/6	中	堅	無					炭化物 少量		
BLF-3	3	R層		明瞭	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱~中	堅	Ta-d1スコリア	3	2~3	3	亜円礫	腐朽	炭化物 少量	

図78 BLFRS-1・BLF-1・2・3

確認・調査 包含層調査中、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。土層断面を記録し完掘した。

覆土 上位部分は黒色土主体の層が厚く、下位はT a - d 2層主体の覆土である。

壁・坑底面 壁は直立気味に立ち上がり、約1/4の高さから開き気味である。長軸方向の坑底面は曲線的でゆるやかな凹凸がある。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

6. 石組炉

B L F R S - 1 (図78 表55 図版33)

位置 P・Q-39区

規模 掘り方 0.84×0.65 / 0.59×0.43 / 0.27m 石組 0.81×0.65 / 0.16m

平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、VI層で複数の石が長方形～楕円形に位置する状況がみられた。これを記録後、トレンチを設けて掘り進めたところ、焼土や壁の掘り方を確認し石組炉と判断した。すべての石を取り上げた後、掘り方を半截し、内部の焼土とともに断面を検出した。土坑（掘り方）を構築しこの内部に石を組んで炉と使用されたと考えられる。用いられている石は砂岩の扁平な礫が多く、北西側の一部は石が少ない。また被熱しているものも多い。石組炉の調査完了後、周囲の包含層調査で、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できたものはない。

土層 石組内では、最上位は黒色土主体で覆土が厚く、その下位に明褐色の焼土がある。

壁・坑底面 坑底面は中央付近が若干低く、壁の立ち上がりは曲線的である。

遺物出土状況 石組に用いられている礫は、すり石、石皿、U・Rレキがあり、石器として使用された後、石組に転用されたと考えられる。

時期 石組炉は縄文時代中期後半～後期初頭に特徴的な遺構で、この時期と考えられる。

(愛場)

7. 焼土 (図78 表56)

B L F - 1

位置 P-37区 **規模** 0.71×0.36 / 0.06m **平面形態** 円形

B L F - 2

位置 Z-32区 **規模** 0.53×0.38 / 0.05m **平面形態** 不整な楕円形

B L F - 3

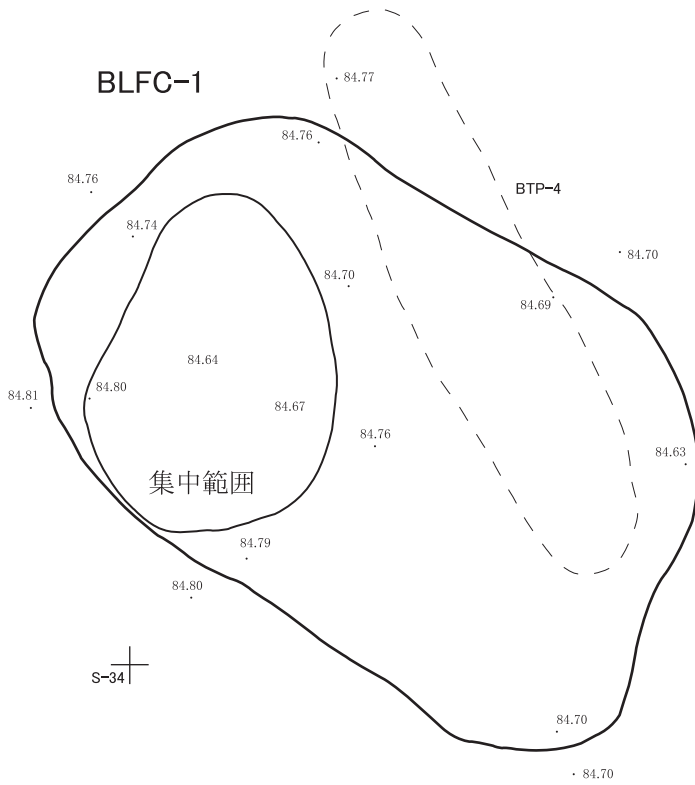
位置 T-25区 **規模** 0.27×0.25 / 0.04m **平面形態** 不整な円形

確認・調査 B L F - 1～3すべては、包含層調査中にV層で確認した。B L F - 1は円形で、これ以外はやや不整な形である。焼土の色調は橙色または褐色で層厚は5 cm前後である。B L F - 2は大規模な礫集中の範囲のV層でみつき、関連する遺構の可能性はある。焼土の調査完了後、周辺の包含層調査時に、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

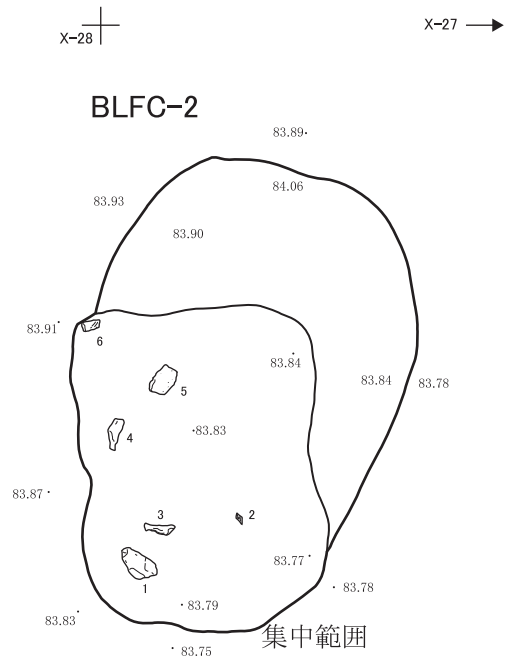
遺物出土状況 焼土から遺物は出土していない。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

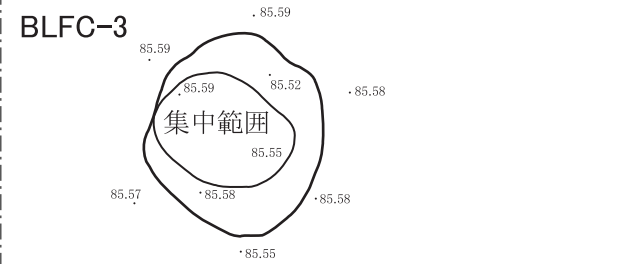
(末光)



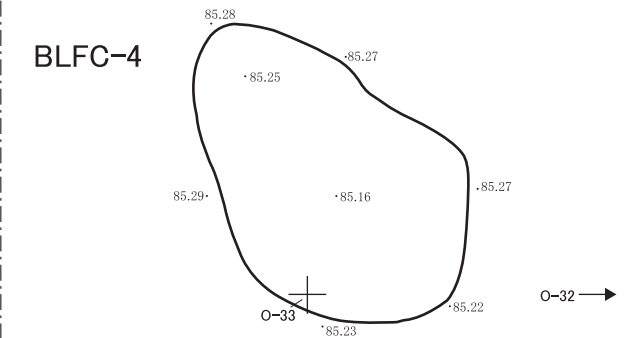
BLFC-1									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	フレイク	—	黒曜石	—	4,398	V層	—	—	—
—	レキ	—	凝灰岩	定形	1	V層	—	—	現地観察
—	U・Rレキ	—	凝灰岩	片	4	V層	—	—	現地観察
—	砥石	—	砂岩	片	2	V層	—	—	—
—	土器	IV群	腹部	小破片	1	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	半形	1	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	3	V層	—	—	—
—	スタレイバー	—	黒曜石	片	3	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	15,245	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	1,707	V層	—	—	—
—	スタレイバー	—	黒曜石	—	1	V層	—	—	—
—	石鏃・ナイフ	—	黒曜石	半形	1	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	3,318	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	5,803	V層	—	—	—
—	スタレイバー	—	黒曜石	片	2	V層	—	—	—
—	石鏃・ナイフ	—	黒曜石	片	2	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	6	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	半形	1	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	2	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	2,282	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	2	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	4,423	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	3,485	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	2	V層	—	—	—



BLFC-2									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	U・Rレキ	—	砂岩	定形	1	V層	83.90	—	—
2	レキ	—	凝灰岩	片	2	V層	83.87	—	—
3	石鏃・ナイフ	—	凝灰岩	定形	1	V層	83.84	—	—
4	レキ	—	砂岩	定形	1	V層	83.90	—	—
5	U・Rレキ	—	花崗岩	定形	1	V層	83.90	—	—
6	磨製石斧	—	緑色泥岩	定形	1	V層	83.90	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	21	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	3	V層	—	—	燻熱
—	フレイク	—	黒曜石	—	87	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	3	V層	—	—	燻熱
—	石鏃	—	黒曜石	—	1	V層	—	—	—
—	U・Rフレイク	—	黒曜石	—	1	V層	—	—	—



BLFC-3									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	スタレイバー	—	黒曜石	片	1	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	581	V層	—	—	—



BLFC-4									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	石鏃	—	黒曜石	片	1	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	片	1	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	5	V層	—	—	燻熱
—	フレイク	—	黒曜石	—	1,353	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	—	1	V層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	半形	1	V層	—	—	—
—	フレイク	—	黒曜石	—	160	V層	—	—	—



図79 BLFC-1~4

8. フレイク集中 (図79 表57)

B L F C - 1

位 置 R-33・34、S-33区 規 模 3.78×2.41m 平面形態 不整な楕円形

B L F C - 2

位 置 X-27・28区 規 模 2.52×1.84m 平面形態 不整な楕円形

B L F C - 3

位 置 A-20・21区 規 模 1.08×0.95m 平面形態 不整な楕円形

B L F C - 4

位 置 N・O-32・33区 規 模 1.87×1.29m 平面形態 不整な楕円形

確認・調査 B L F C - 1～4の4か所をまとめて報告する。包含層調査中、フレイクが集中して出土する場所が認められた。フレイクを多量に含む土をそのまま取り上げ、水洗選別で遺物を回収した。遺構の範囲は、フレイクがみられなくなるまで掘り進め、その範囲・高さを実測し、特に多い場所は集中部分とした。

B L F C - 1は広範囲で、R-33区の包含層の遺物としたものもある。黒曜石製のフレイクが40,000点以上、残存状態が半形・片の石鏃や石槍・ナイフ、IV群土器も出土した。また、下位にB T P - 4が位置し、これよりも新しいと考えられる。B L F C - 2は楕円形で、大規模な礫集中があるV層でみつかった。この周囲の包含層よりもフレイクが多くみられたので記録したが、点数は約100点と少ない。B L F C - 3は調査区の北側でみつきり、黒曜石製のフレイクなどが約500点出土した。B L F C - 4は集中部分がなく、黒曜石製のフレイクが約1,500点と石鏃も出土した。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器からB L F C - 1は後期初頭の可能性がある。

9. 大規模な礫集中 (図12・62 表8 カラー図版2 図版1・2)

位 置 W-27～35、X-26～35、Y-27～35、Z・a-28～34、b-28～33、c-28～35、d-30区

規 模 37.8×24.1m (642.6m²) 平面形態 不整な楕円形

確認・調査 B地区で先行トレンチ調査を行わなかった調査区の南側部分のV層包含層調査中、礫石器やレキが大量にみつかった(Ⅲ章3節)。礫石器やレキの中に土があるとの表現は過剰かもしれないが、かような印象を受けた。土層断面観察のため二本のベルトを残し、調査区の南側を少し掘り広げ、平面の広がり把握することとした。およそ東西のWラインより南側すべてに、これら遺物の集中が認められ、「大規模な礫集中」と呼称した。盛土等の人為的な二次堆積層の確認も行ったが、みられなかった。ベルトの観察では南側へと遺物が多く、残存状態が悪い長径4mm以下の焼骨が、ほぼ全域に認められた。これらは多くがシカと推測される。本遺構の調査は包含層調査と同様で、遺物はグリッドで取り上げた。

他の遺構との関連性 礫集中の範囲に位置する遺構は、B L P - 3を先端部ピットとするB L H - 2・B L P - 2・B T P - 5・B L F - 2・B L F C - 2である。これらのうちV層でみられた焼土B L F - 2とフレイク集中B L F C - 2は本礫集中に伴うと考える。

出土遺物 土器は1,865点出土した。群ごとの割合はIV群が46%、Ⅲ群34%、I群18%である。IV・I群は胴部の小破片が、Ⅲ群は胴部の良好が最も多い。出土地点ではbラインが35%、cラインが24%で、後者の過半数はI群である。剥片石器は2,610点出土し、約81%がフレイク、次いでつまみ付きナ

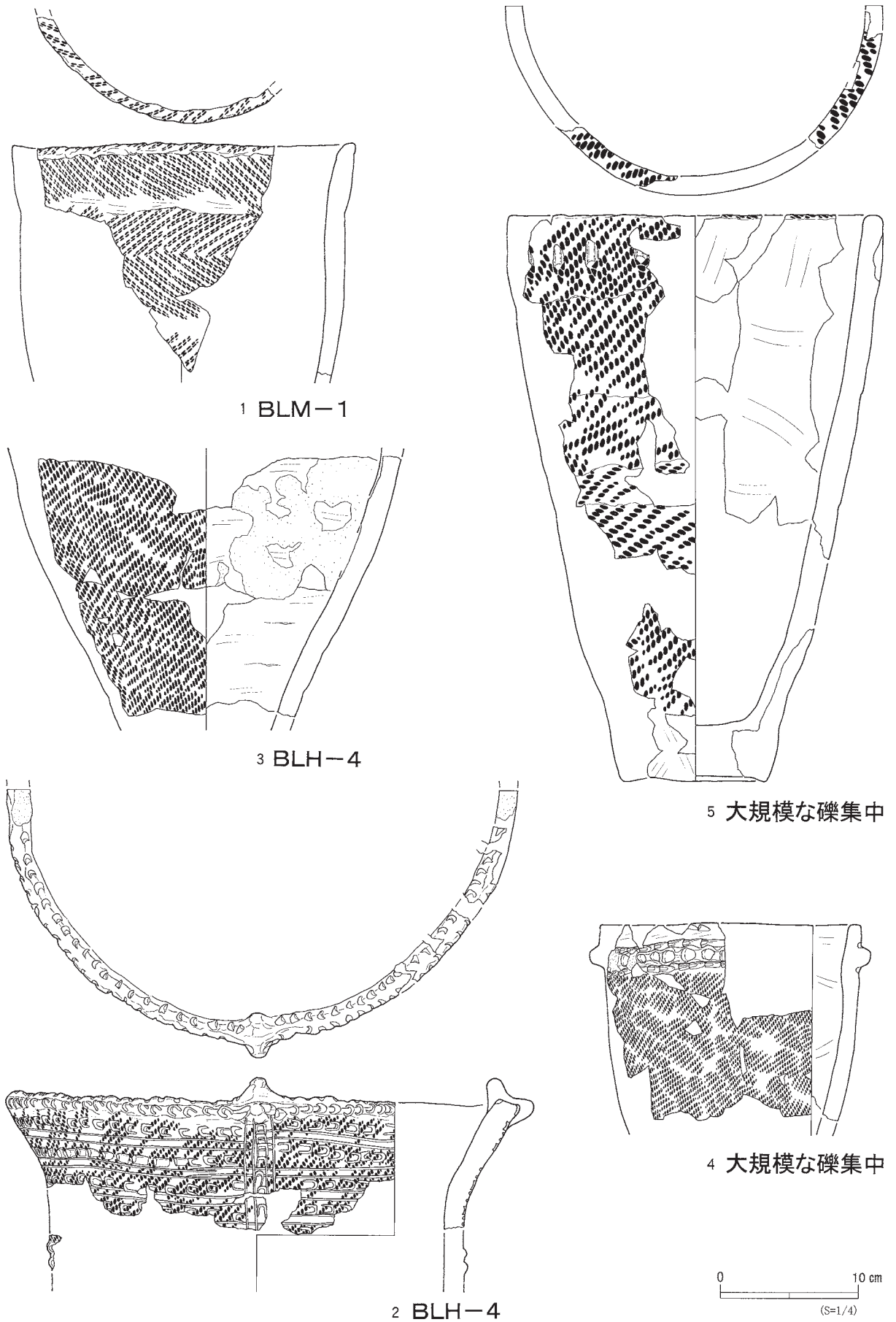
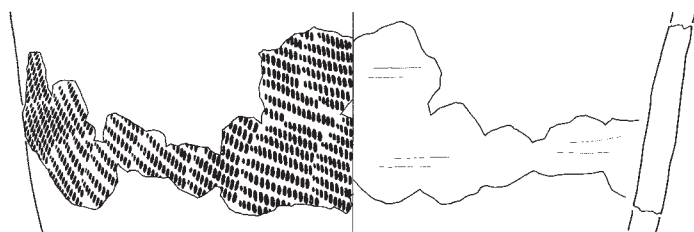
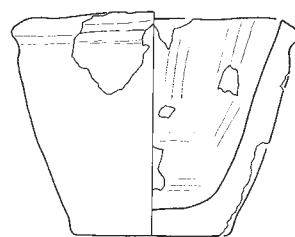


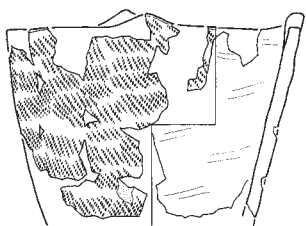
図80 B地区 V層 遺構出土の復原土器



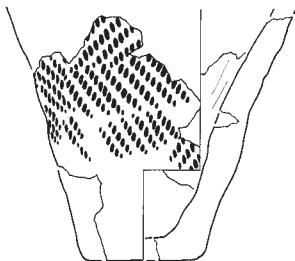
6 大規模な礫集中



7 大規模な礫集中



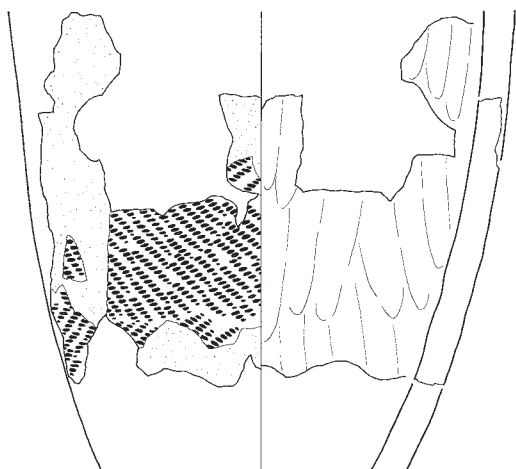
8



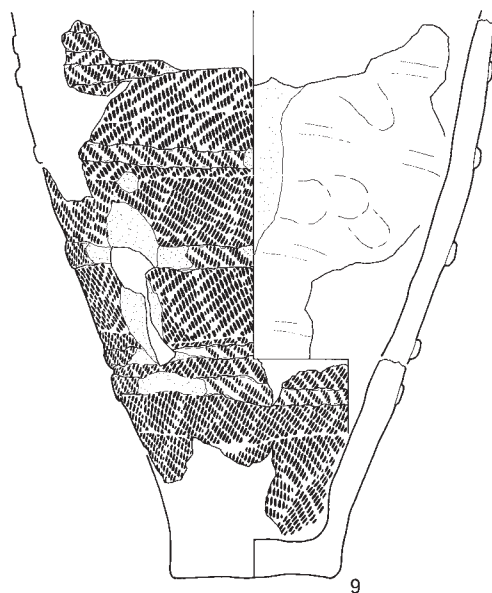
10



11



12



9

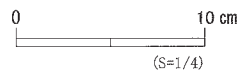


図81 B地区 V層 遺構・包含層出土の復原土器

イフ5%、次いで石鏃4%である。過半数以上がbライン出土である。礫石器・レキは33,884点出土した。U・Rレキとレキがそれぞれ45%で、残りの10%が礫石器である。多いものは砥石、台石・石皿、たたき石である。

時 期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器からも同様に判断される。

10. 出土遺物

(1) 土器

復原土器 (図80・81 表69～80 図版35・36)

1・3・5～12はⅣ群a類、2・4はⅢ群b類である。

1の地文は口唇部にL R L縄文、口縁部にR L R縄文がみられ、胴部上半にはL R L・R L R縄文が施される。口縁部には無文帯があり、粘土の継ぎ目が確認できる。2は口唇部から胴部上位まであり、L R縄文の地文に半截竹管状工具によって、刺突文・平行沈線文が施される。3は胴部から底部へとすぼまる器形であり、地文はL R縄文である。4は口縁部に貼付帯と刺突文があり、ともに半截竹管状工具によって施され、胴部はL R縄文である。5は口唇部から底面までL R縄文が施され、口縁部に縄端圧痕文がみられる。6は胴部中位のみで、地文はR L縄文である。7は器面が剥離しており、地文が不明である。内面はナデ調整がされ、炭化物が付着している。8は口唇部に八つの波頂部があり、ナデ調整が行われ、胴部の器面はR L縄文である。9は胴部に六つの貼付帯があり、器面にL R・R L縄文が羽状にみられる。10はL R・R L羽状縄文が地文でナデ調整が行われている。11は胴部下位から底部で、指頭圧痕文がみられ、底部付近は無文である。12の胴部下位にはL R縄文が施され、一部縦位回転施文が確認できる。

破片土器 (図82～87 表81 図版38～41)

遺構出土土器 (図82 表81 図版38)

1はⅣ群a類土器、2・3・5～9はⅢ群b類土器、4はⅠ群土器である。

1はB L H-1 Bから出土し、地文がL R縄文である。2～8はB L H-2から出土した。2はL R縄文地に貼付がされ、内面もL R縄文が施される。3は外面がL R縄文で、内面はナデ調整が行われている。4は絡条体による圧痕文が施される。5～7は器面にL R・R L結束第1種羽状縄文がみられ、内面には条痕文が確認できる。8は外面・内面ともにR L縄文である。9はL R縄文の地文に内面がナデ調整されている。

包含層出土のⅢ群土器 (10～41・71・72・75)

10～30は口縁部である。

10は口縁部で器面にL R縄文が施され、口唇部には刺突文と撚紐の刻みがみられる。11は貼付と半截竹管状工具により刺突文が施される。12は口唇部に半截竹管状工具による沈線文が確認できる。13はナデ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。14はL R縄文地に貼付があり、半截竹管状工具によって刺突される。15はL R縄文地に貼付が施される。16は内面にナデ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。17の器面はL R縄文で、刺突文が施された貼付帯がある。18は口唇部にナデ調整が行われ、器面は黒色化し炭化物付着がみられる。19はL R縄文地に、刺突文がある貼付帯が施される。20は二又状工具によって刺突文が連続的にあり、口唇部にはミガキ調整される。21はR L縄文地に、円形刺突文がある貼付帯がめぐり、22は不整な条がみられ、貼付が確認できる。23はL R縄文地に綾絡文があり、口唇部にナデ調整が行われる。24は内面にミガキ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。25の

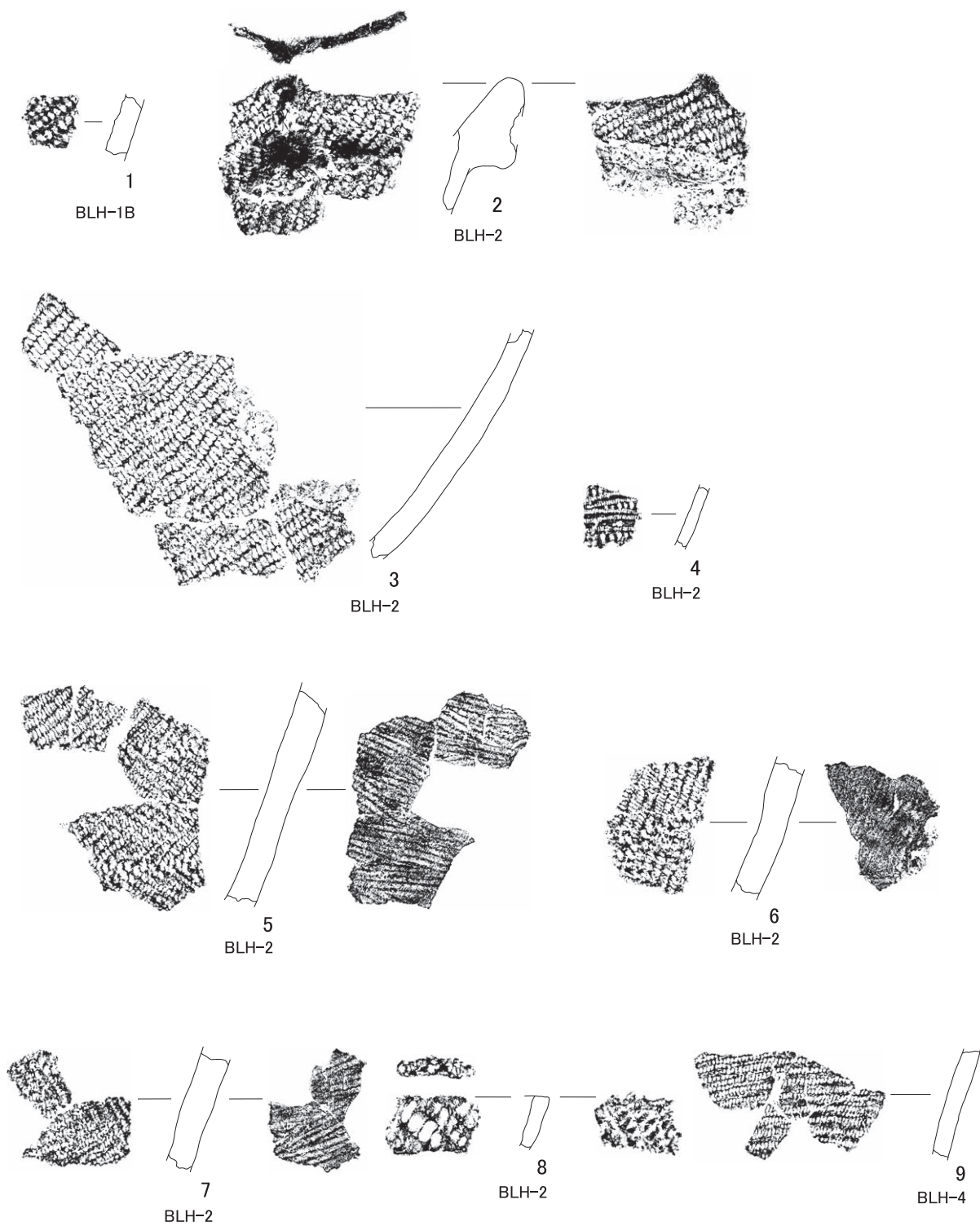


図82 B地区 V層 遺構出土の破片土器



図83 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (1)

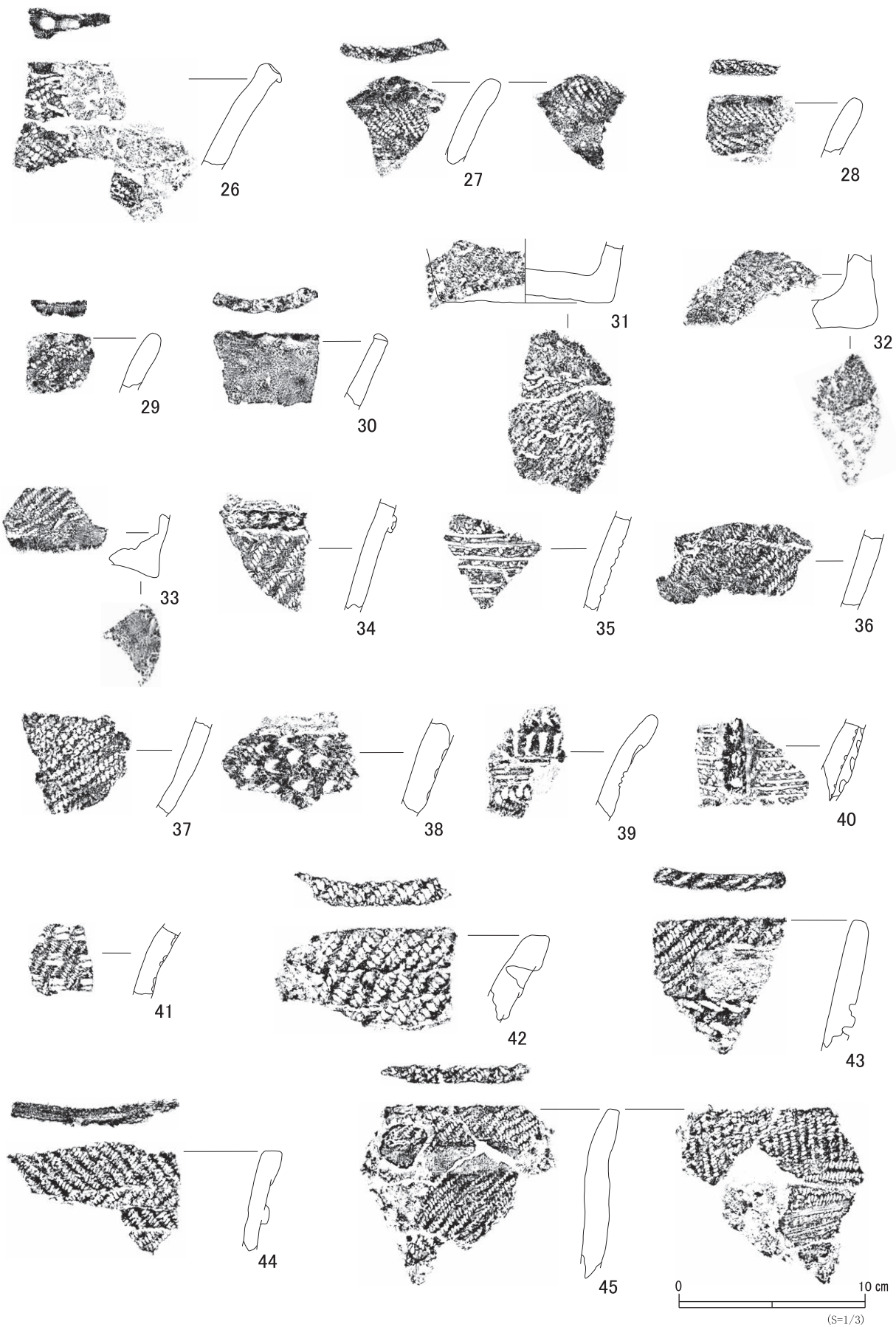


図84 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (2)

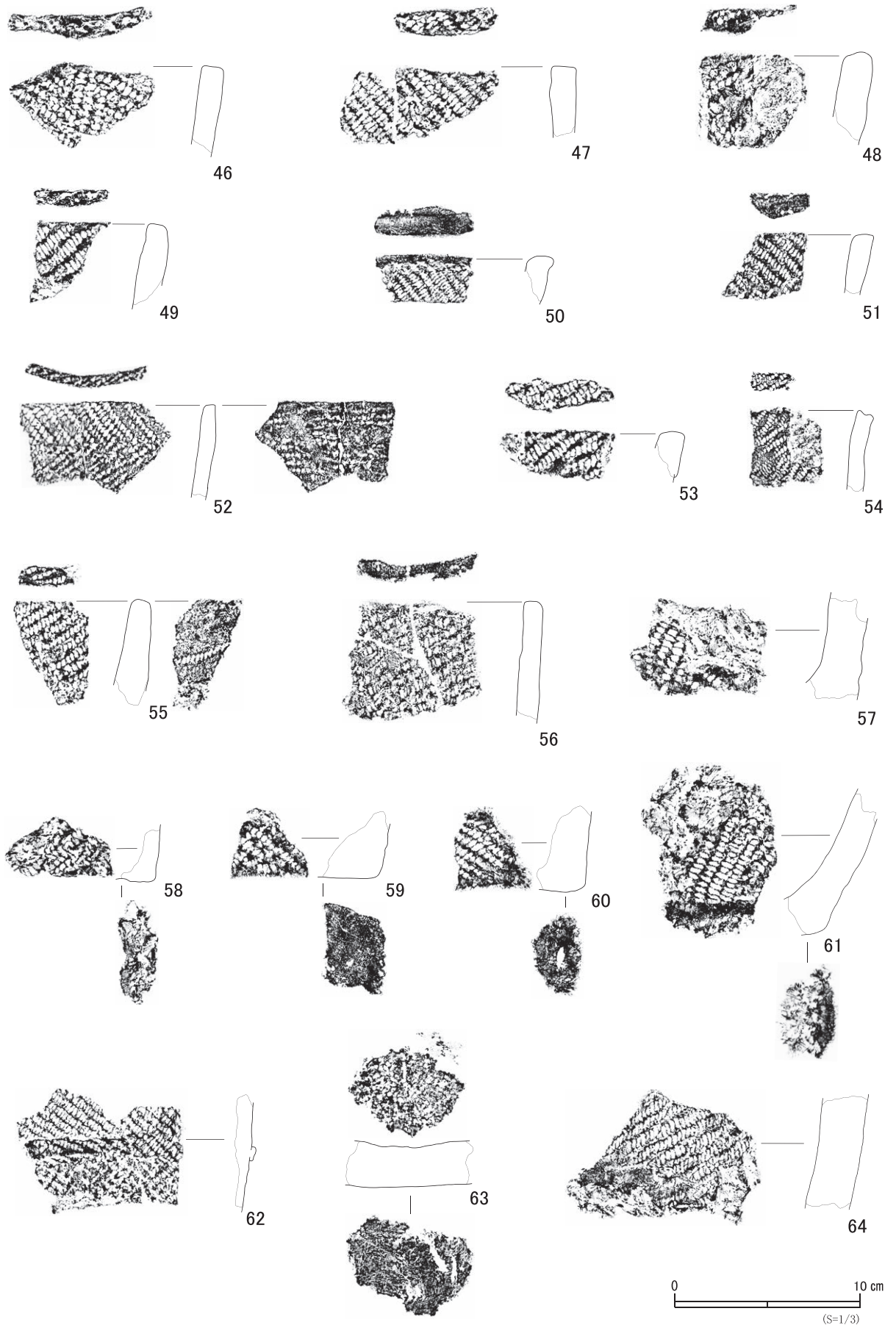


図85 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (3)

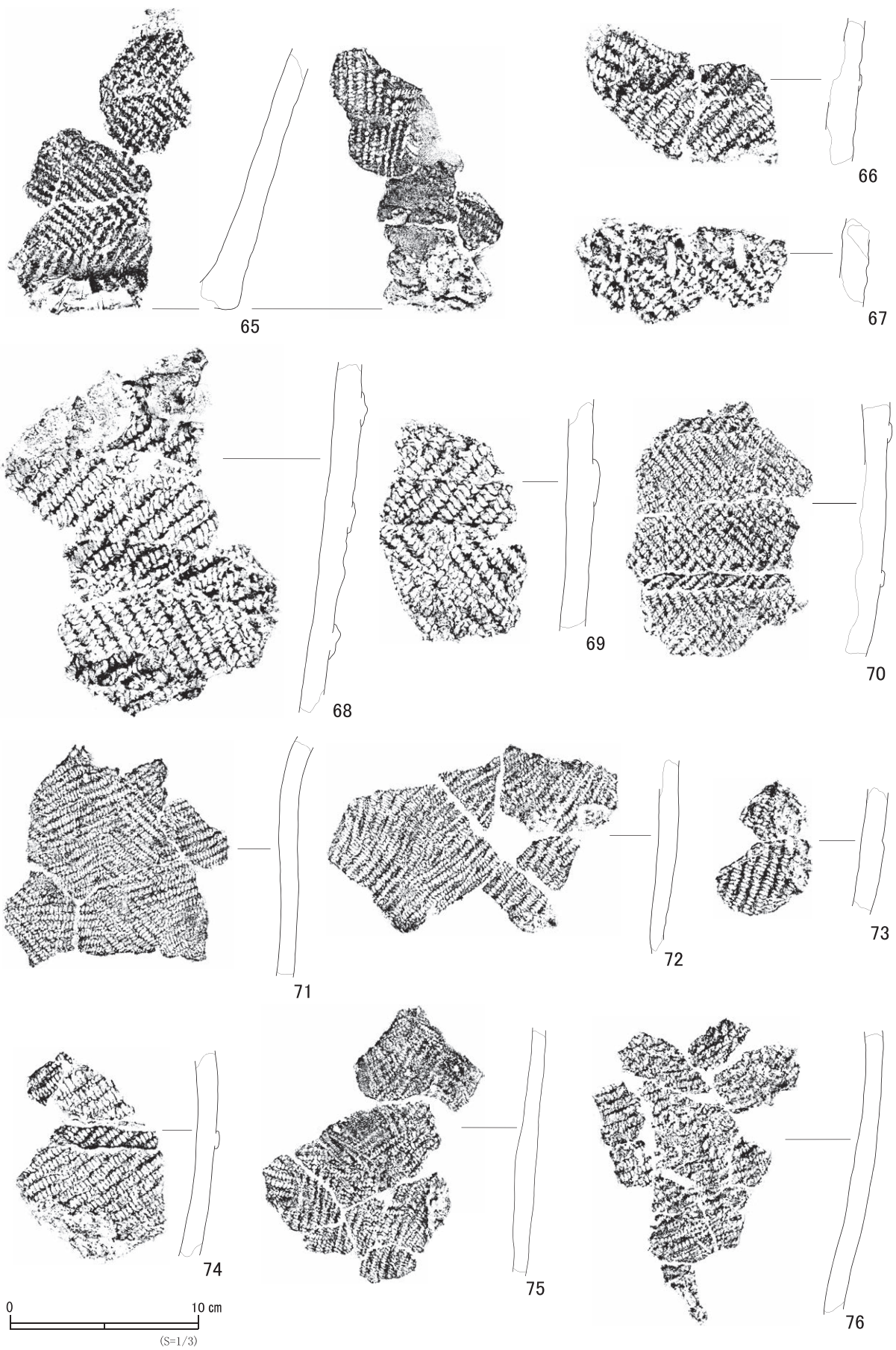


図86 B地区 V層 包含層出土の破片土器（4）

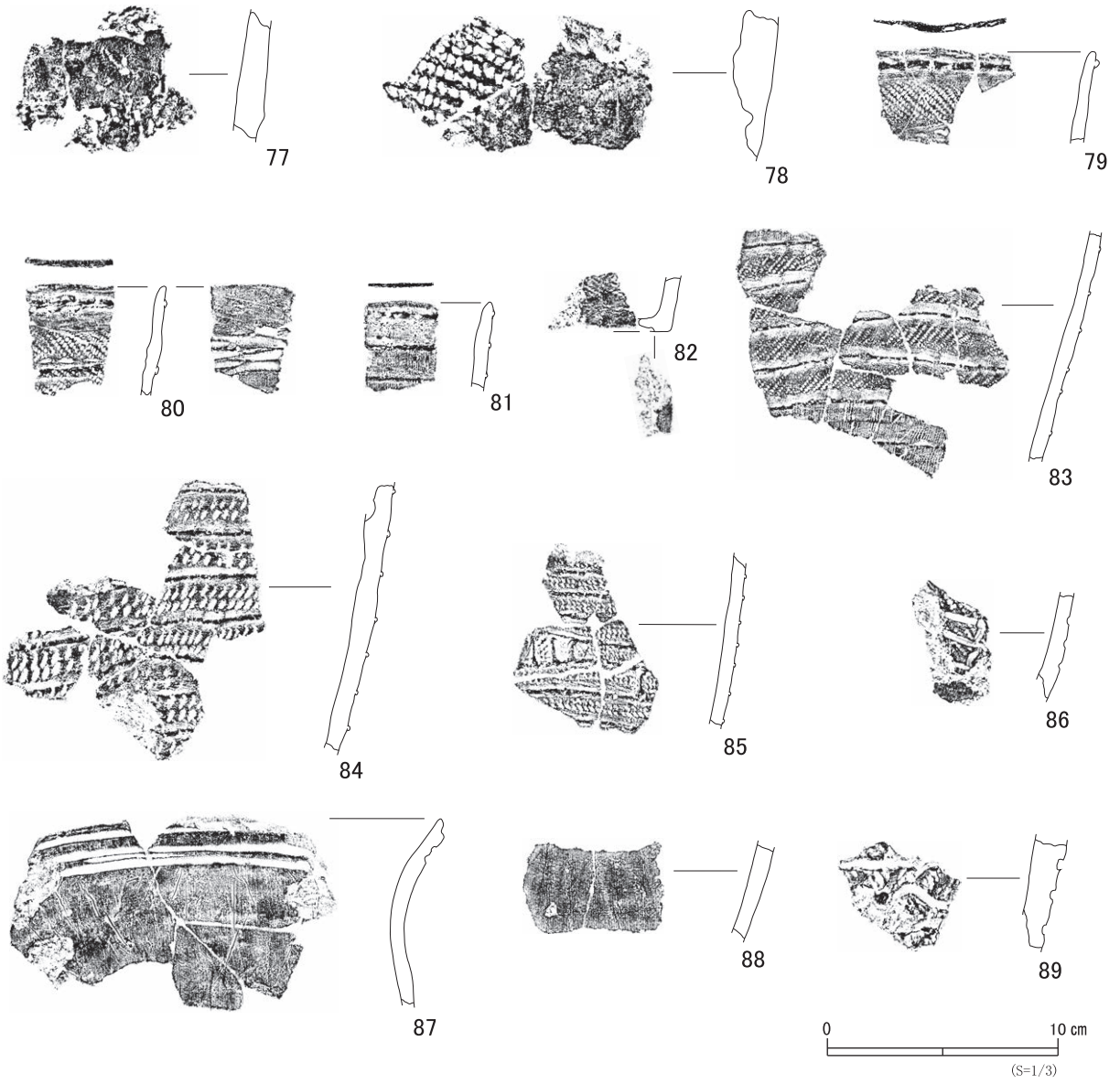


図87 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (5)

地文は結束第1種の羽状縄文である。26は口唇部に指頭圧痕によりへこみがみられる。27・28は外面と内面にRL縄文が施され、内面にはミガキ調整がされている。29は口唇部にヘラ状工具による調整がされている。30は無文地にナデ調整がされている。

31～33は底部である。

31は底外面にRL縄文と綾絡文がある。32は底内面に指頭圧痕が残る。33は底外面にミガキ調整が確認できる。

34～41・71・72・75は胴部である。

34は鉾物が多い胎土で、貼付帯に縄端圧痕文がみられる。35はLR縄文地に半截竹管状工具によって沈線文がみられる。36はLR縄文地に綾絡文が確認できる。37の器面はLR縄文である。38は外面が黒色化し炭化物が付着する。39は器面に押引文が連続して施される。40はLR縄文地に縄端圧痕文が施された貼付があり、半截竹管状工具により沈線文がみられる。41はLR縄文に二又状工具によって、刺突文が確認できる。71の内面にはナデとミガキ調整がみられる。72はLR縄文地である。75は羽状縄文に一部縦回転施文がみられる。

包含層出土のIV群土器 (42～70・73・74・76～78)

42～56は口縁部である。

42はLR縄文地に貼付帯が施され、円形刺突文がみられる。43は器面・口唇部ともにLR縄文である。44はLR・RL縄文に貼付帯があり、貼付帯はRL縄文が施されている。45は内面にLR・RL縄文の縦横回転が行われ、沈線文状の調整痕がみられる。46・47はRL縄文地である。48は口唇部にLR縄文にナデ調整が行われている。49はLR縄文に縄線文がみられる。50・51はともにRL縄文が施される。52は器面にLR・RL縄文が羽状に施され、内面・口唇部にLR縄文がみられる。53～55はLR縄文が器面・口唇部に確認できる。56はRR縄文の1段Rの絡条体が施文される。

57～60・61・63は底部である。

57はLR縄文である。58はLR・RL縄文が羽状にみられる。59・60は器面にLR縄文が縦回転されている。61は底外面にナデ調整が行われている。63は底内面にRL縄文とミガキ調整が行われる。

62・64～70・73・74・76～78・86は胴部である。

62は貼付帯があり、RL縄文がみられる。64は外面・内面にナデ調整が行われる。65は内面にLR・RL縄文が確認できる。66の貼付帯はLR縄文である。67はRL縄文地に刺突文が施される。68・69はLR・RL縄文に貼付帯があり、貼付帯はLR縄文がみられる。70の内面は大きく剥離する。73・74はLR縄文地に貼付帯にはLR縄文が確認できる。76はLR縄文地である。77は不整な条が確認できる。78はLR・RL縄文でナデ調整が行われる。86はRL縄文地に沈線文が確認でき、IV群b類と思われる。

包含層出土のI群土器 (79～85)

79～81は口縁部である。79・80はRL縄文地に微隆起線文があり、80の内面には条痕文がみられる。81は微隆起線文と絡条体圧痕文が施される。82は底部で底外面にはミガキ調整がみられる。83はLR縄文地に微隆起線文があり、絡条体圧痕文がみられる。84は微隆起線文が連続して巡る。85は器面に短縄文と微隆起線文が確認できる。

包含層出土のV・VII群土器 (87～89)

87はVII群の頸部で、器面に沈線文がありナデ・ミガキ調整がされている。88はVII群の胴部で外面・内面にミガキ調整が確認できる。89はV群と考えられる胴部片で、LR縄文地に沈線文がみられる。

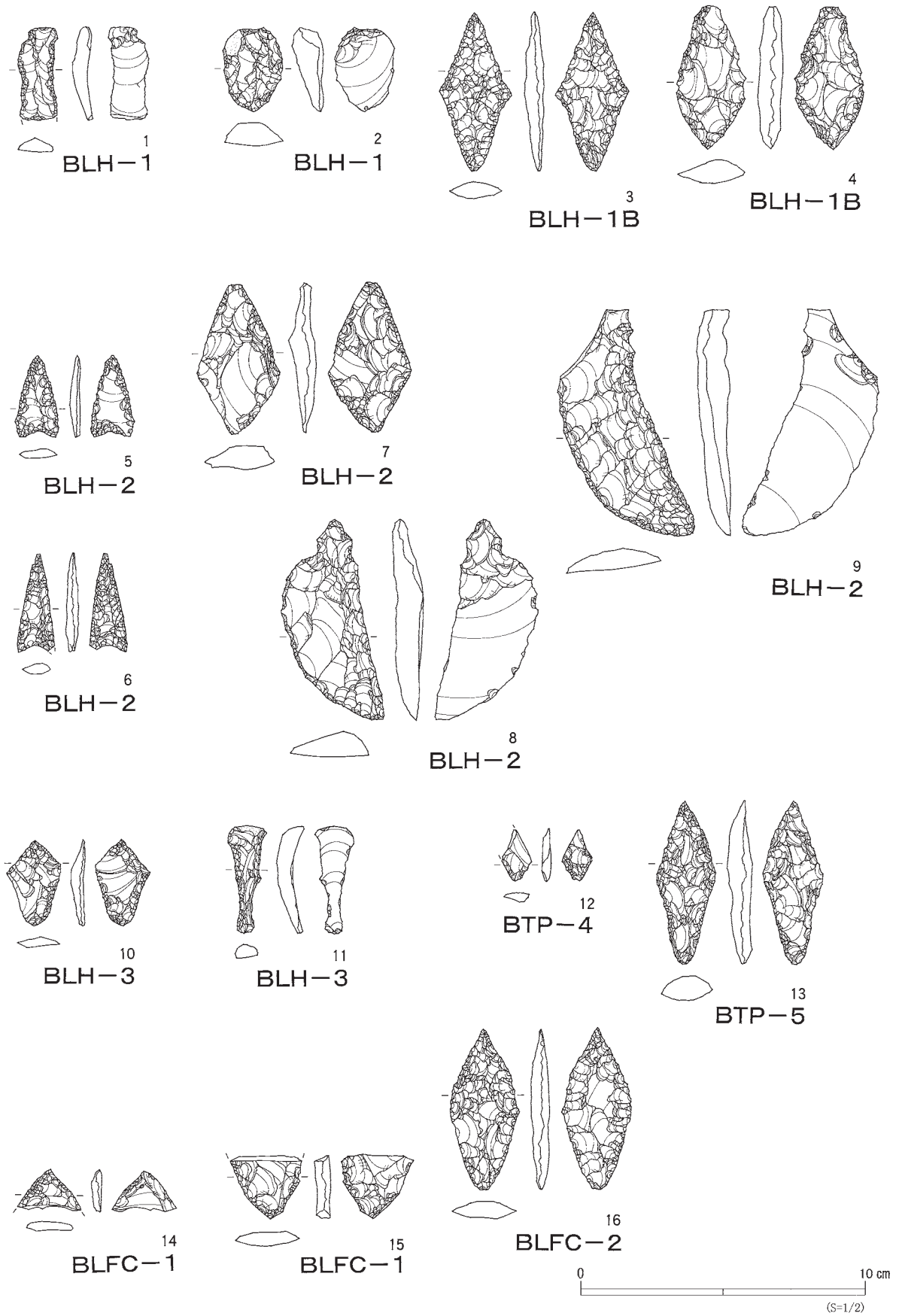


図88 B地区 V層 遺構出土の剥片石器

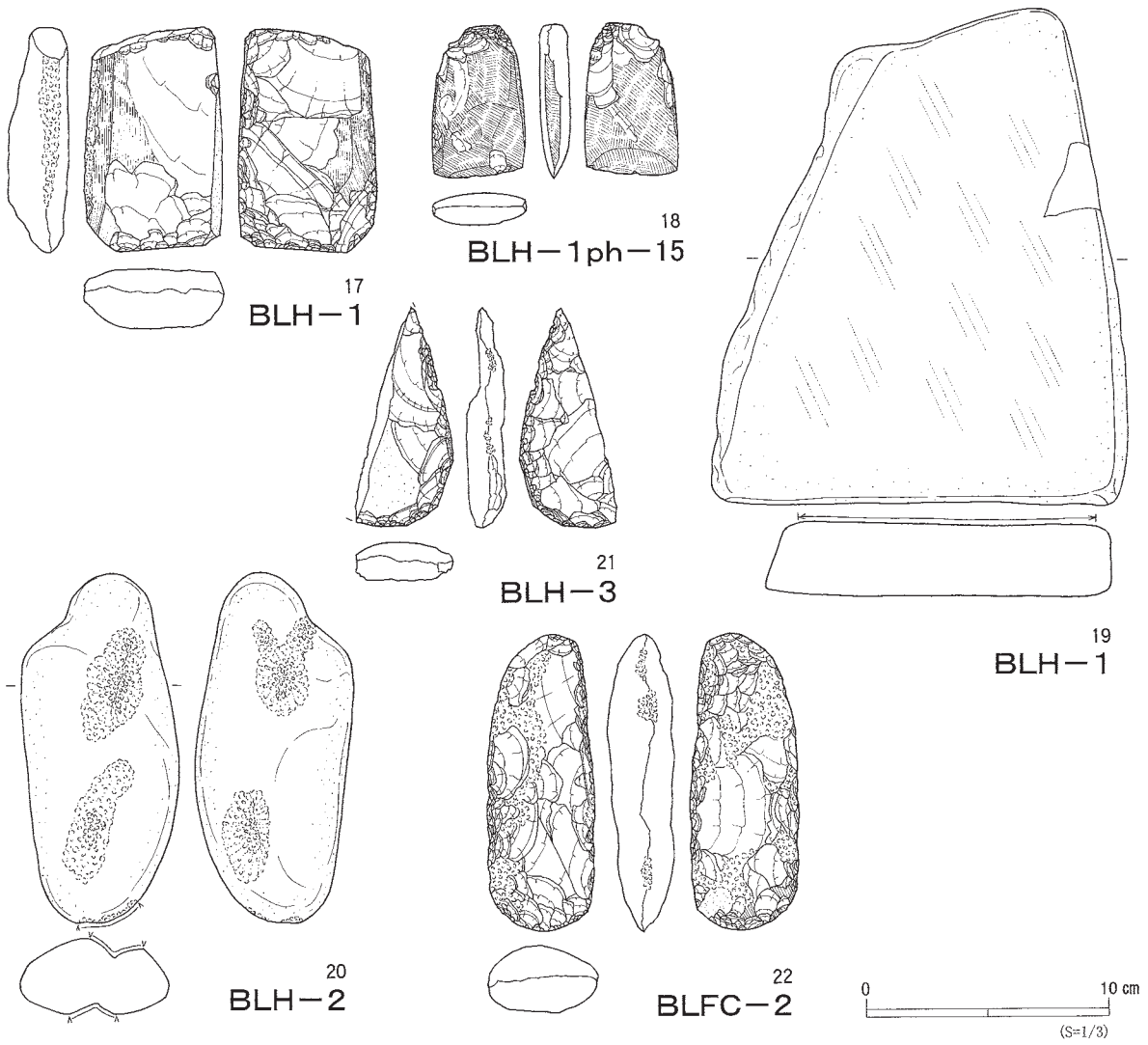


図89 B地区 V層 遺構出土の礫石器

(2) 石器等**遺構出土石器 (1~22)****剥片石器 (図88 表82 図版48)**

1・2はBLH-1出土で、ともにスクレイパーである。1は背面両側縁に刃部があり、下部が破損している。2は背面周縁に刃部があり、背面に一部原礫面を残す。3・4はBLH-1B出土で、石槍・ナイフである。3は背面に高まりを残す。4は両面に広い剥離面がある。5~9はBLH-2出土である。5・6は石鏃で、5は腹面に広い剥離面を残す。6は梨肌状であり、背面右側縁の基部が破損している。7は石槍・ナイフで、背面に広い剥離面がある。8・9はつまみ付きナイフであり、背面周縁に刃部がある。9は背面左側縁のつまみ部分が破損している。10・11はBLH-3出土である。10は石鏃で背面に高まりがあり、腹面に広い剥離面がある。11はスクレイパーで両側縁に刃部が確認できる。12はBTP-4出土の石鏃で、両面に剥離痕があり背面左側縁が破損している。13はBTP-5出土の石鏃で左右対称な形状である。14・15はBLFC-1から出土した石鏃で薄い。14は先端部のみで、腹面に広い剥離痕がみられる。15は先端部が破損し、両面に剥離痕がある。16はBLFC-2出土の石槍・ナイフで左右対称な形である。

礫石器 (図89 表82 図版48)

17~19はBLH-1から出土した。17は磨製石斧で、敲打痕と剥落痕が確認される。18はBLH-1ph-15出土の磨製石斧で、上部から刃部まで細かく研磨されている。19は台石・石皿で裏面全体が剥離し、被熱が確認できる。20はBLH-2出土のたたき石で、両面に凹状のたたき痕がある。21はBLH-3出土の磨製石斧で、敲打痕と剥落痕が顕著で原礫面を残す。22はBLFC-2出土の磨製石器で、全面に敲打痕が確認できる。

包含層出土石器 (1~131)**剥片石器 (図90~93 表82 図版43~45)**

1~15は石鏃である。1は腹面に広い剥離面がある。2は長身で基部が長い。3は腹面に剥離面がある。4は小型で基部を破損している。5は赤色化している。6は背面左側縁の破損がみられる。7は多量の小球果が筋状にみられる黒曜石製で、基部が内湾する。8は腹面に高まりが確認できる。9は薄く、基部が内湾する。10は先端部が破損する。11は背面に高まりがみられ、基部が破損する。12は長身で基部が破損している。13は小型である。14は長身である。15は基部が内湾し、背面左側縁が破損する。16~20は石槍・ナイフである。16は両面に広い剥離痕がある。17は背面に高まりがみられる。18は左右非対称である。19は小球果が筋状にみられる黒曜石製で、先端部が破損する。20は両面に厚みがある。21~23は石錐である。21は上端部・先端部が破損する。22は腹面に加工があり、上端部が破損する。23は背面にふくらみがあり、腹面にも加工が確認できる。24~36はつまみ付きナイフである。24は原礫面があり、つまみ部分が破損している。25は背面・腹面の上半部に加工がみられる。26は背面右側縁が破損し、黒色化している。27は腹面つまみ部分に加工がある。28は赤色化し、背面右側縁が破損する。29は先端部が少し破損している。30は背面に広い剥離痕がある。31は背面周縁に刃部が形成される。32は背面全体に加工がある。33・34は腹面つまみ部分に加工がされる。35は腹面にも右側縁とつまみ部分に加工が確認できる。36は腹面左側縁とつまみ部分に加工がある。37~46はスクレイパーである。37は赤色化し球果がみられる。38は背面両側縁に刃部が確認できる。39は背面右側面に刃部があり、左側縁には原礫面が残る。40は背面に広い剥離痕がある。41は上下が破損し、両側縁に刃部がみられる。42は両面に加工があり、腹面左側縁に刃部が確認される。43は背面周縁に刃部があり、原礫面を残す。44は小球果が筋状に残る黒曜石製で、背面下部に刃部がある。45は両面

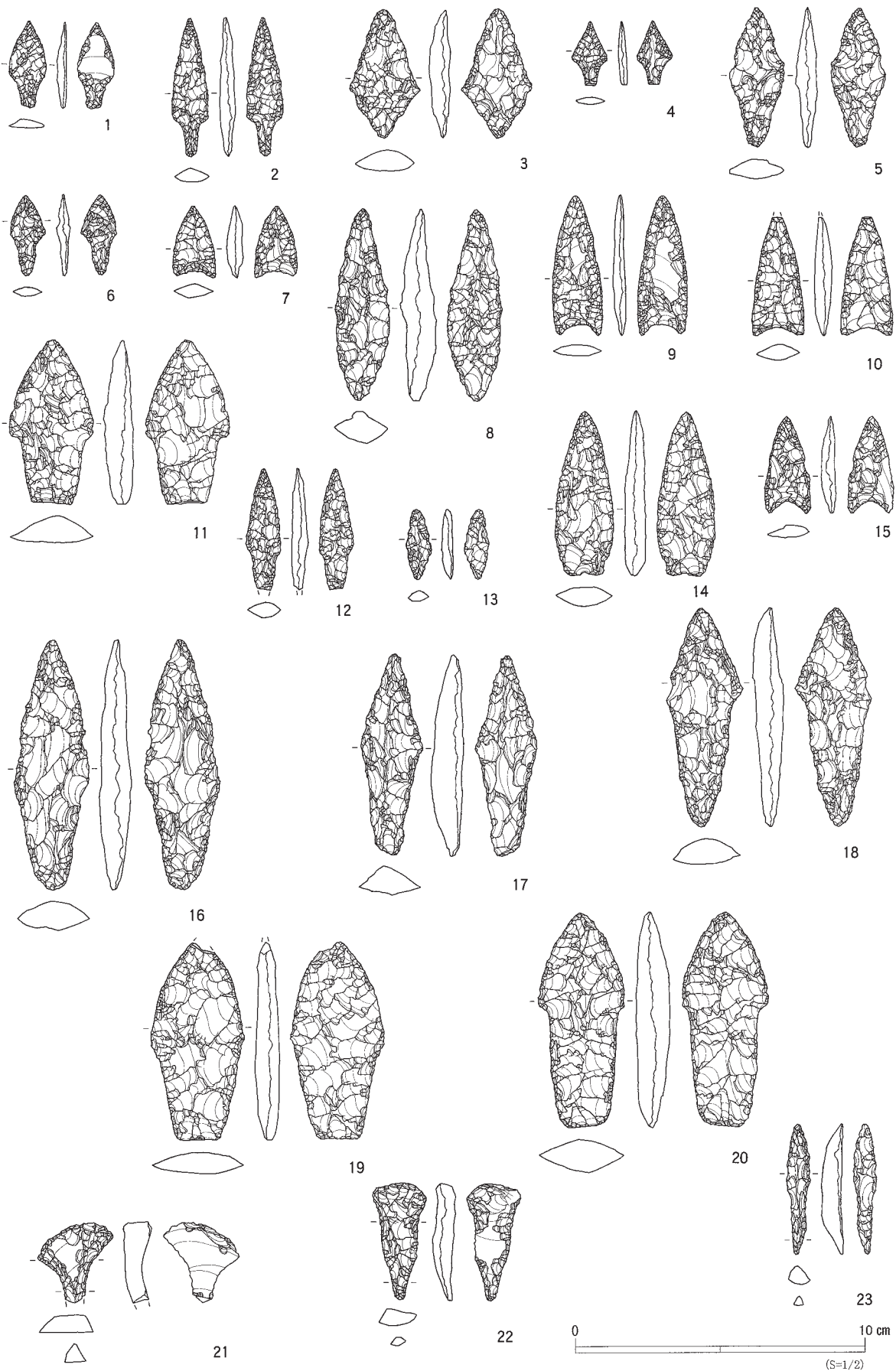


図90 B地区 V層 包含層出土の剥片石器 (1)

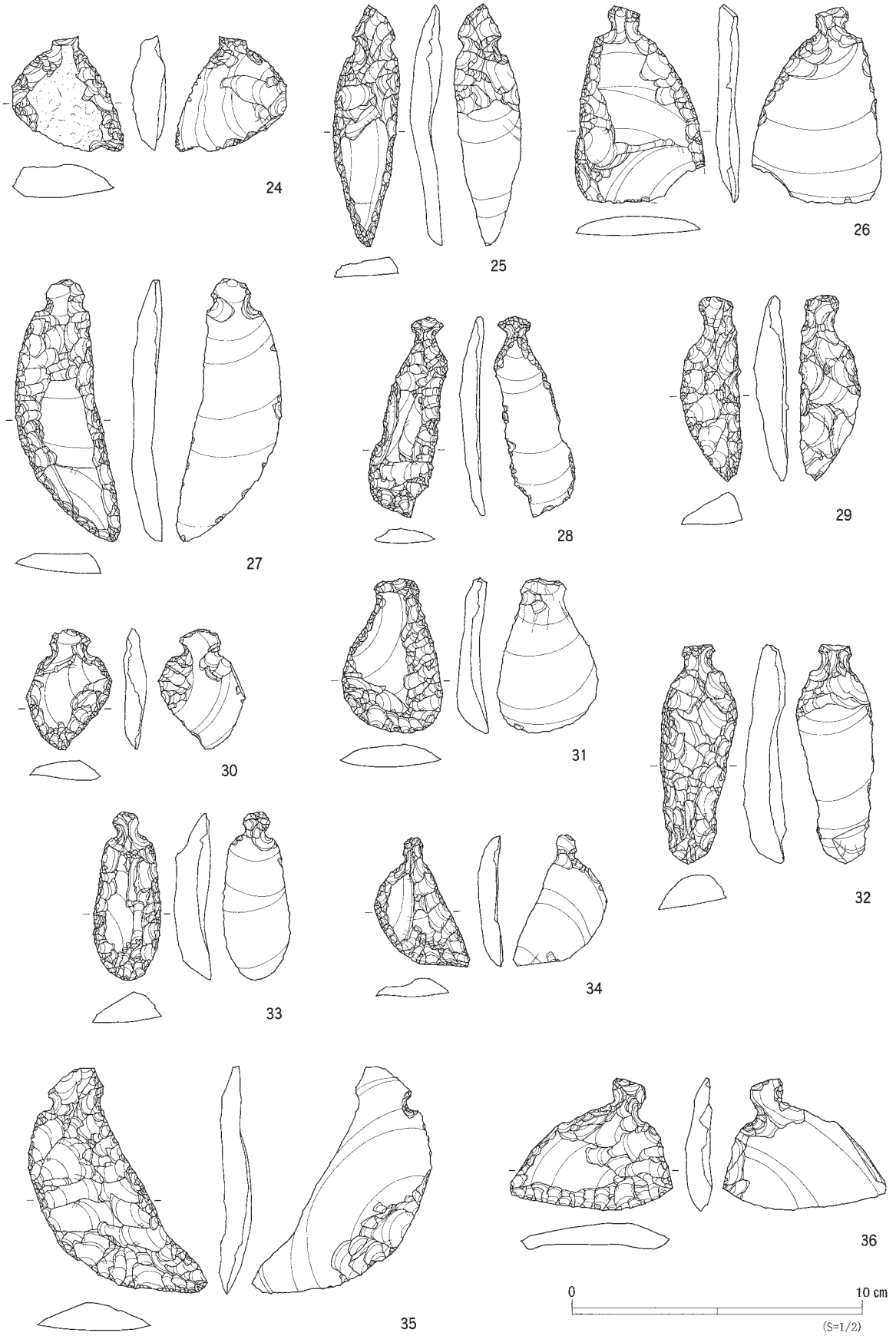


図91 B地区 V層 包含層出土の剥片石器 (2)

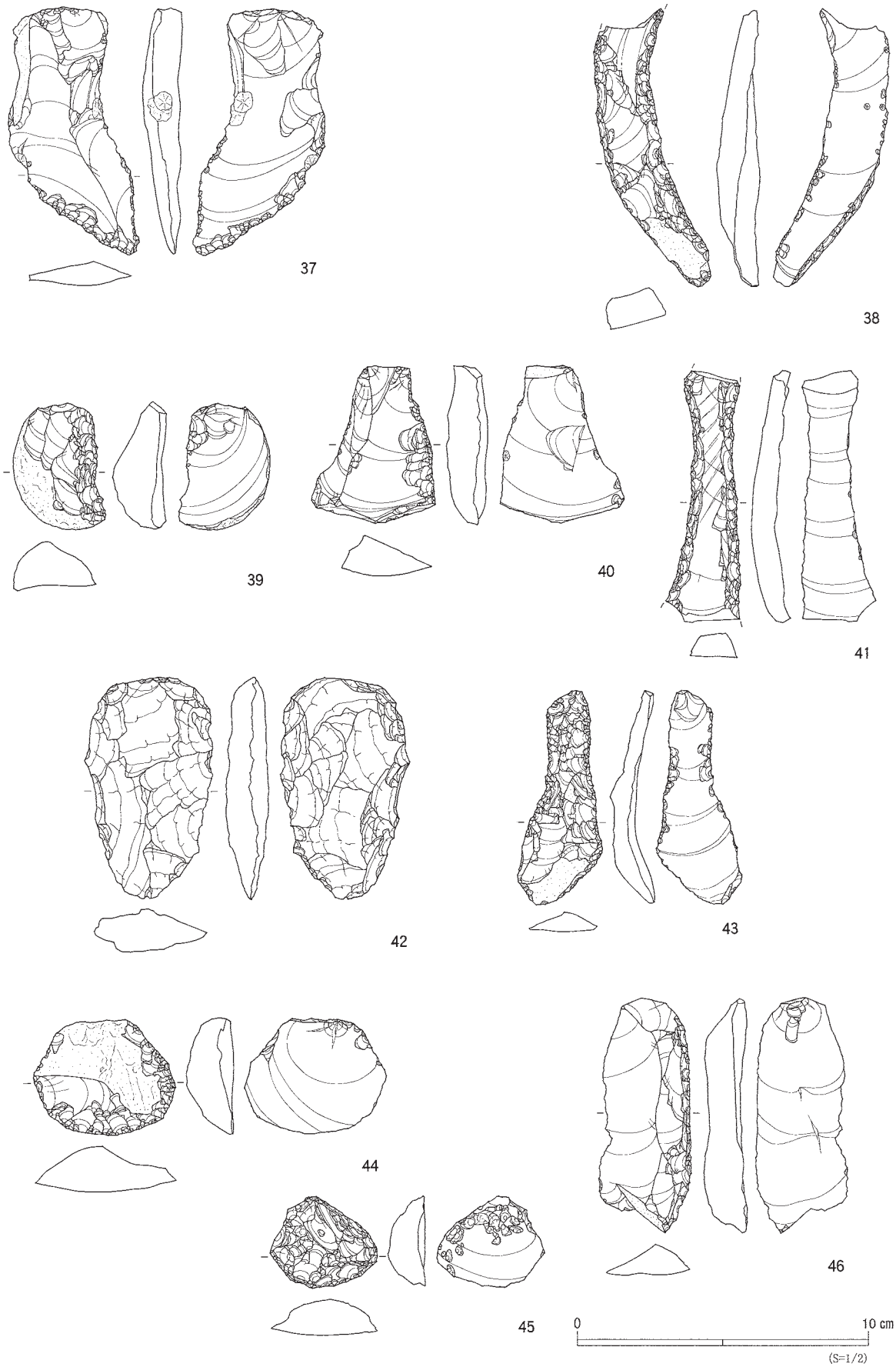


図92 B地区 V層 包含層出土の剥片石器 (3)

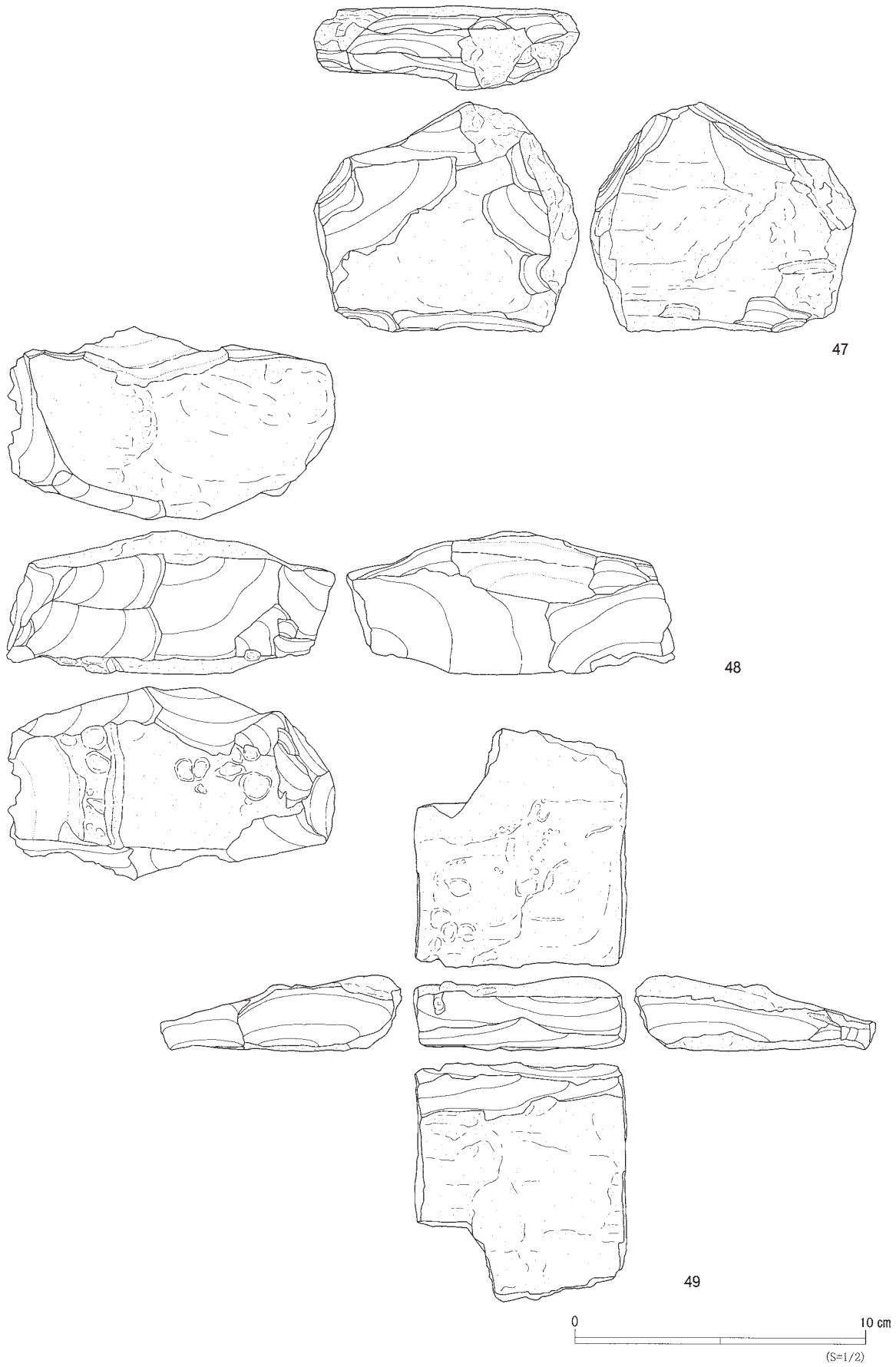
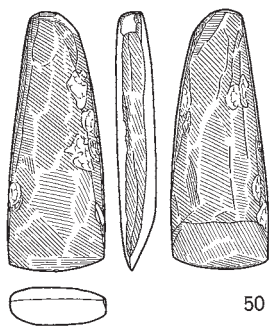
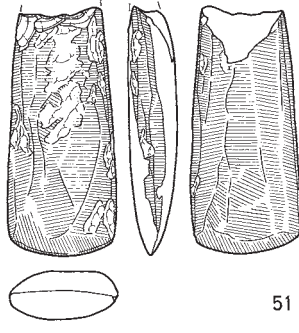


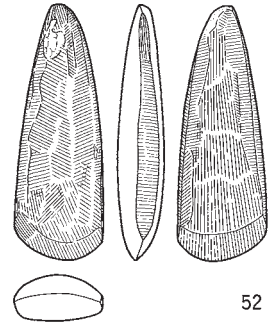
図93 B地区 V層 包含層出土の剥片石器(4)



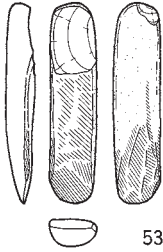
50



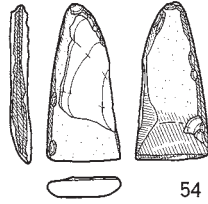
51



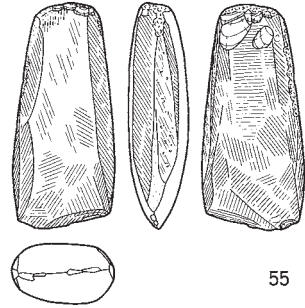
52



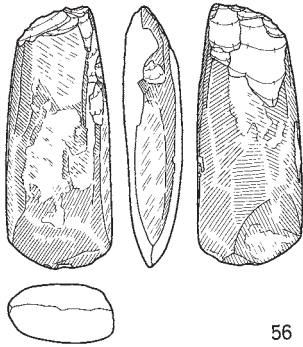
53



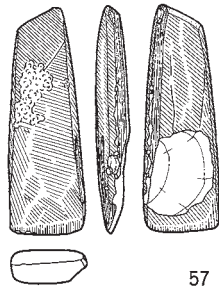
54



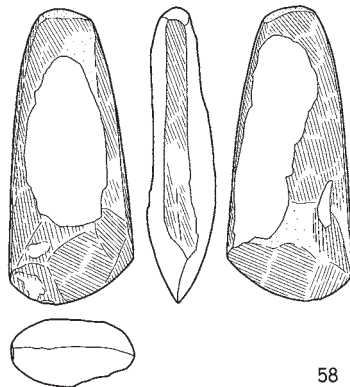
55



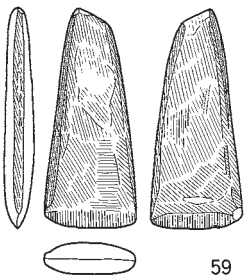
56



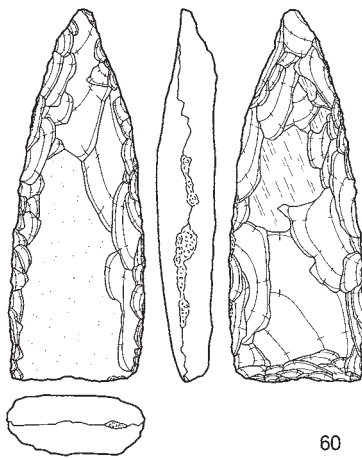
57



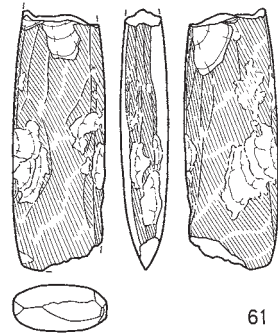
58



59



60



61



図94 B地区 V層 包含層出土の礫石器(1)

に被熱によるはじけが確認できる。46は背面に広い剥離痕がある。47～49はチャート製の石核で、原礫面と剥離面がみられる。

礫石器 (図94～107 表82 図版48～54)

50～61は磨製石斧である。50は上端部から刃部まで研磨される。51は上端部が破損する。52は全面研磨され、一部剥落が確認できる。53は小型で裏面上端部が剥落し、被熱している。54は上端部から刃部へ広がる形状で、被熱している。55は厚みがある。56は上端部が破損し、剥落している部分もある。57は擦切り技法が行われている。58は両面が広く剥落している。59は薄く、擦切り技法が行われている。60は全面に敲打痕と剥落痕がみられる。61は上端部と刃部が破損する。62～74はたたき石である。62は断面が三角形で全面に凹状のたたき痕がみられる。63は上下面が破損し、裏面左側にたたき痕がある。64は断面が正形状で、各面に凹状のたたき痕がみられる。65は両面にたたき痕が確認できる。66は下部にたたき痕がある。67は両面にたたき痕があり、一部剥離している。68は上部が破損し、下部にたたき痕がある。69は両面と下部にたたき痕がみられる。70は上下にたたき痕がみられる。71は形状が長方形で、各面に研磨痕・敲打痕がある。72は主に上下面にたたき痕がみられる。73は円形を呈し、全面にたたき痕が確認できる。74は花崗岩製で表面右側にたたき痕がある。75～83はすり石である。75は下部にすり面があり、被熱している。76は表面右側が破損している。77は下部にすり面がある。78は小型で表面にすり面がみられる。79は左右が破損し、一部黒色化する。80は上部にたたき痕が確認できる。81は裏面が剥離する。82はすり痕付近に剥離がみられる。83は下部にすり面があり、裏面が剥離する。84～96は北海道式石冠である。84は主に側面・裏面に敲打による加工がされている。85は上部・側面に敲打痕が残る。86は下部にすり面がみられる。87・88は両側面に敲打痕がある。89は被熱している。90は上下にすり面があり、側面に敲打による加工が行われている。91は上部のみで、側面に加工がみられる。92は下部が破損し、上下にすり面がある。93は上部・側面に加工が確認できる。94は下部にすり面があり、両面は研磨されている。95は側面に敲打痕が残る。96は表面右側が破損する。97～102は石錘で、左右敲打による加工がされている。97は上部に敲打痕があり、下部は破損する。98は裏面が剥離する。99は表面右側が破損する。100は下部が破損する。101は裏面に破損がみられる。102は凝灰岩製で小型のものである。103～112は砥石である。103はすり面が2か所あり、上下破損する。104は両面にすり面があり、一部黒色化する。105は両面がすり面である。106・107は裏面が破損する。108は両面にすり面があり、被熱している。109は棒状にすり面があり、裏面に礫面を残す。110はゆるやかな凹状のすり面がある。111・112はすり面があり、上下と裏面が破損する。113～121は台石・石皿である。113は両面に凹状のたたき痕がみられる。114は片麻岩製で中央にすり面が確認できる。115はたたき痕がある。116はすり面があり、一部黒色化する。117はたたき痕が数か所ある。118は大型で、ゆるやかなすり面がある。119は広いたたき痕が残る。120は大型で中央にすり面がある。121はたたき痕がある。

石製品 (図108 表82 図版45)

122は小型の磨製石斧で、上端部から刃部まで研磨される。123は蛇紋岩製の玉で、裏面は剥離している。124は黒曜石製の棒状原石で、各面原礫面がみられる。125は小型の石錘で、左右敲打による加工がされている。126はチャート製の原石である。127はタルク岩製の玉で、全面研磨がみられる。128は石錘で左右に敲打によって加工が行われる。129は砂岩製のいかり石で、表面と左側にたたき痕がある。130は小型の磨製石斧で、上端部から刃部へ広がる形状である。

(奥山さとみ)

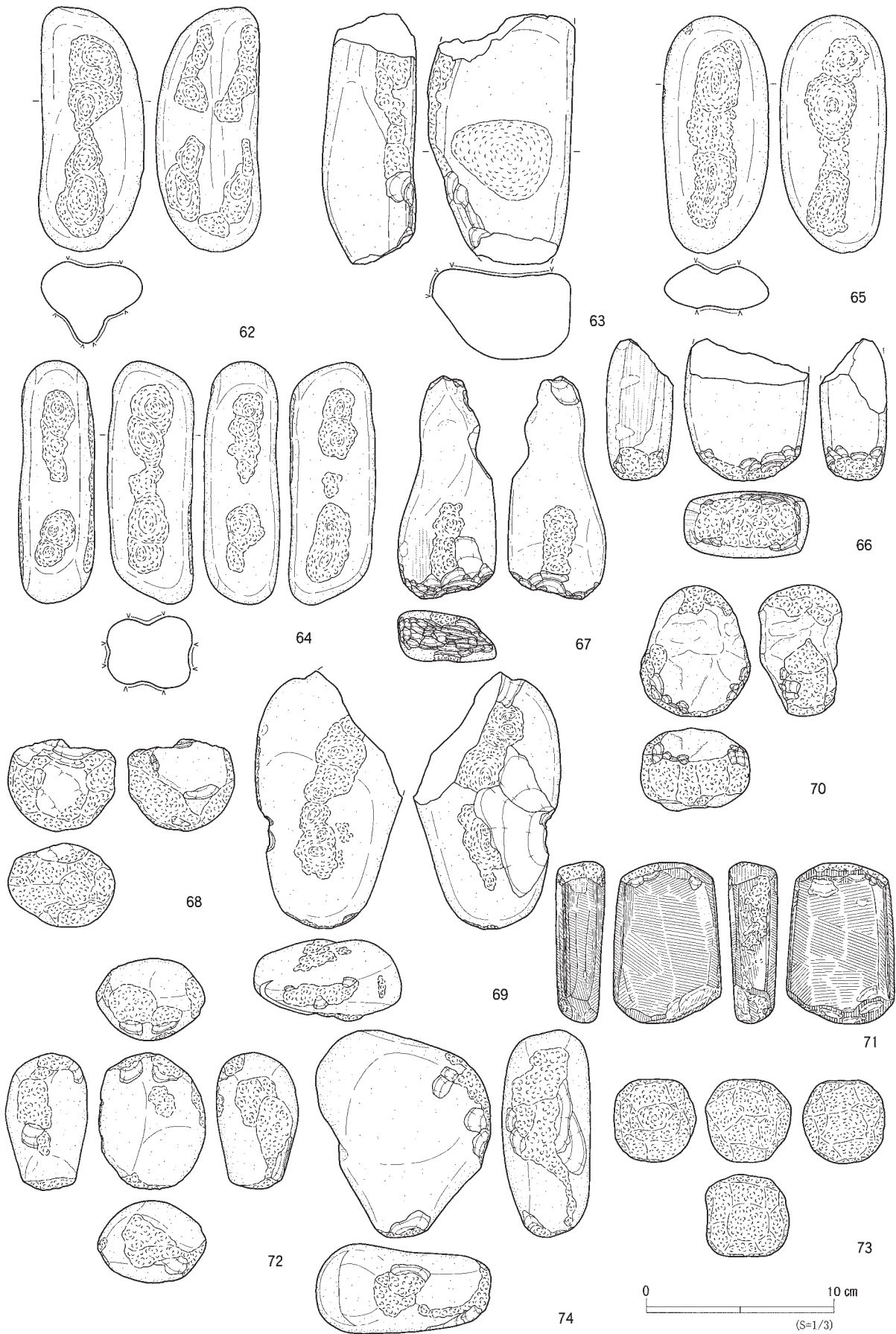


図95 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (2)

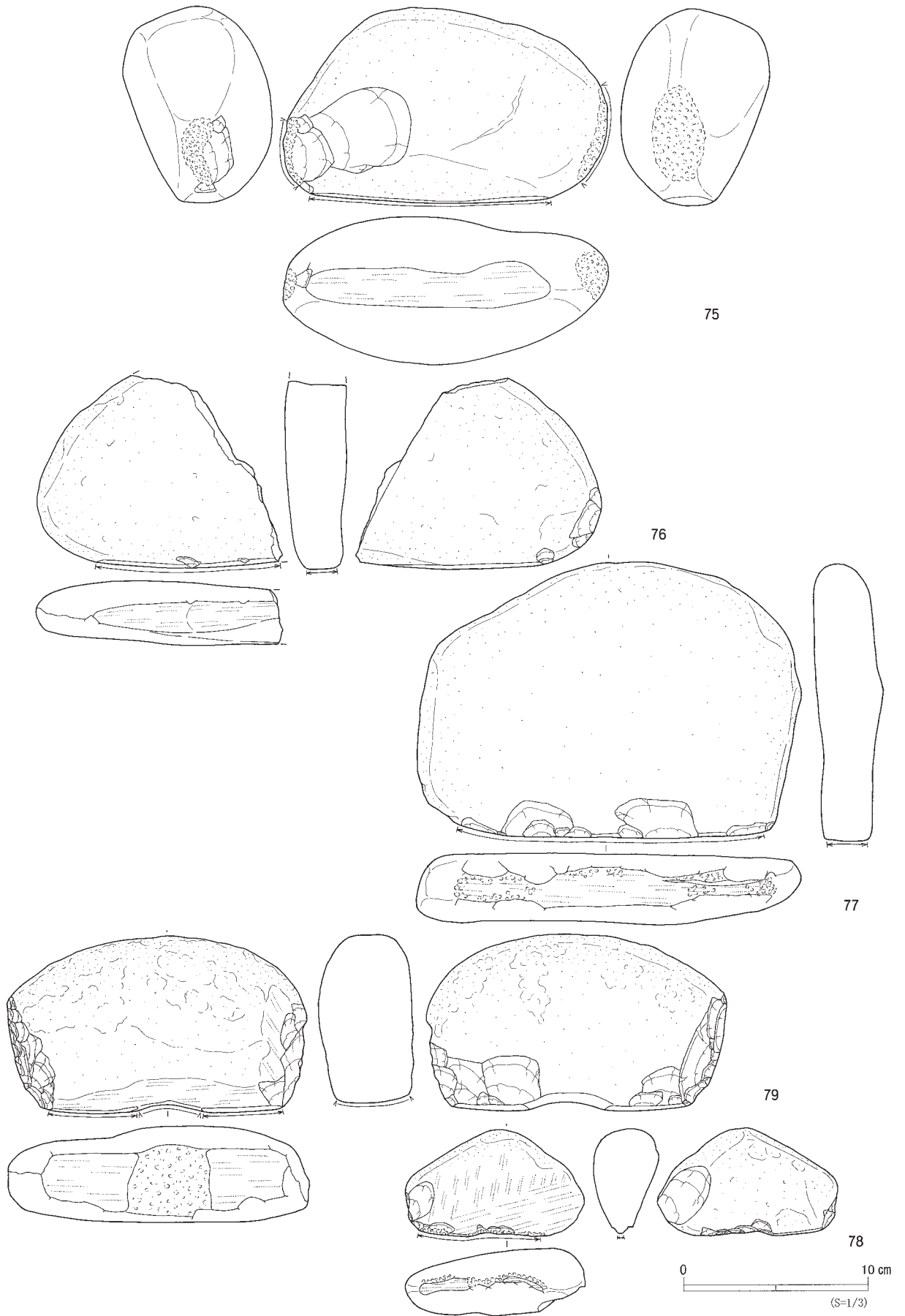
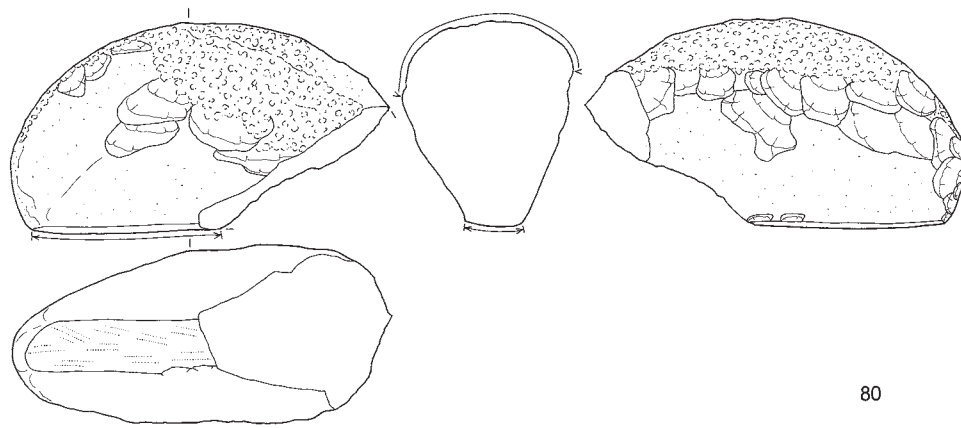
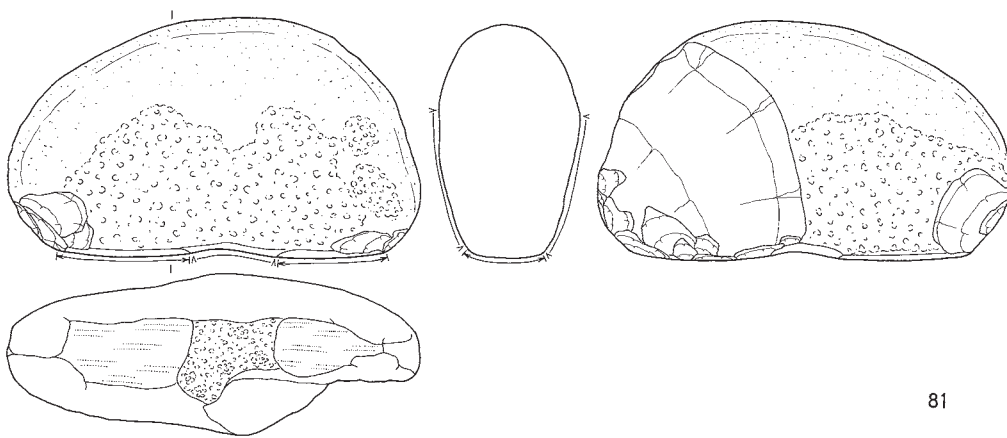


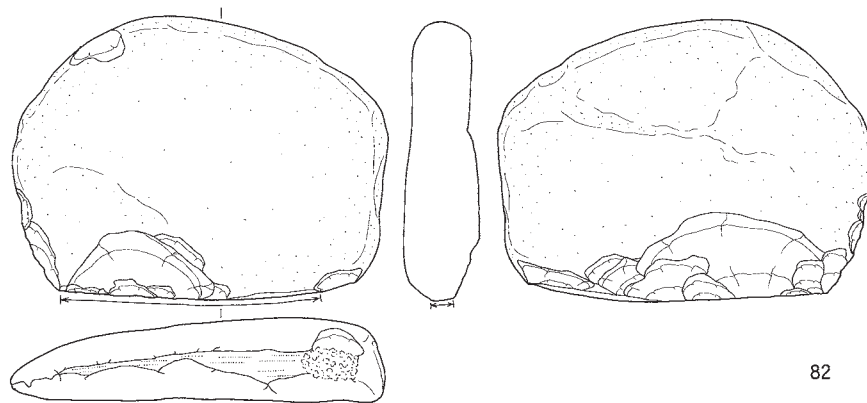
図96 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (3)



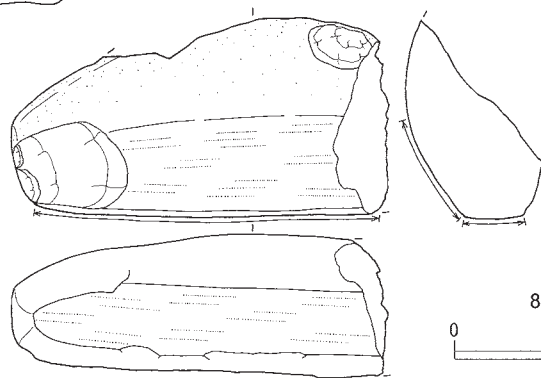
80



81



82



83

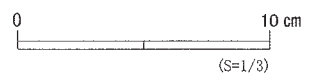
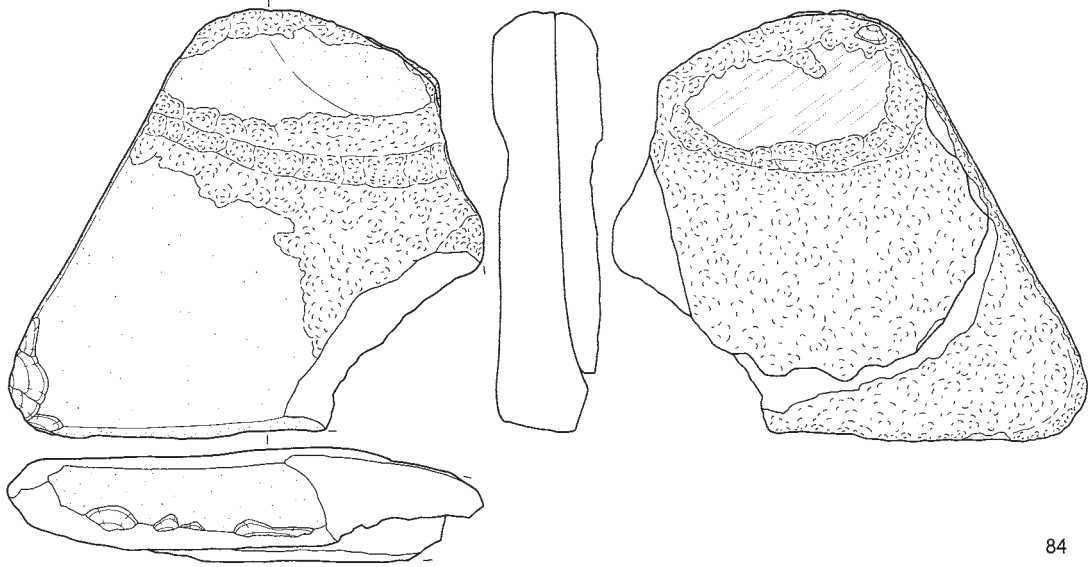
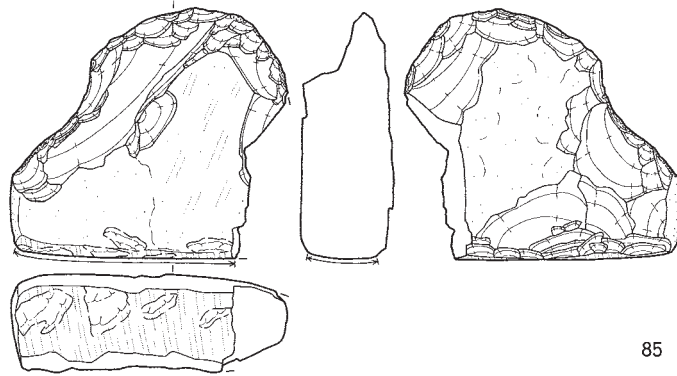


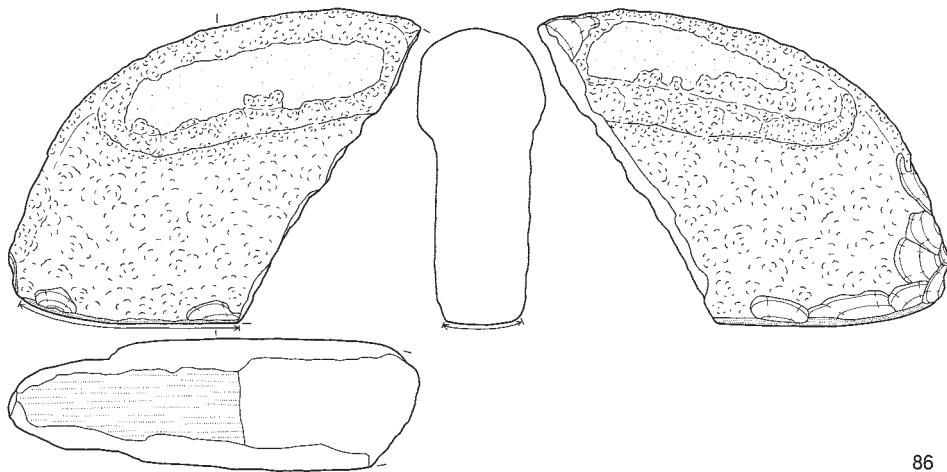
図97 B地区 V層 包含層出土の礫石器(4)



84



85



86

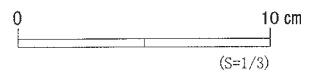
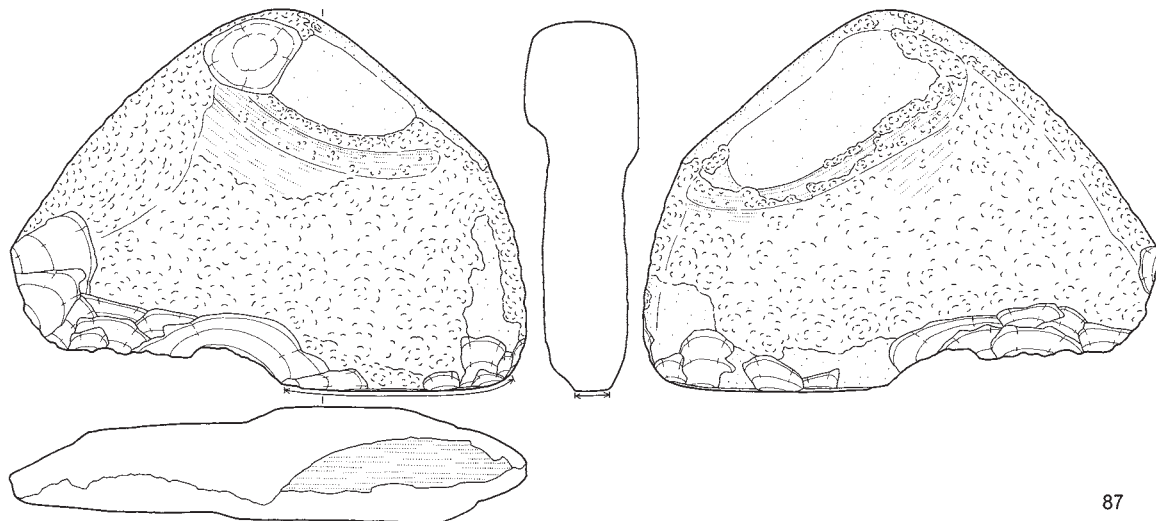
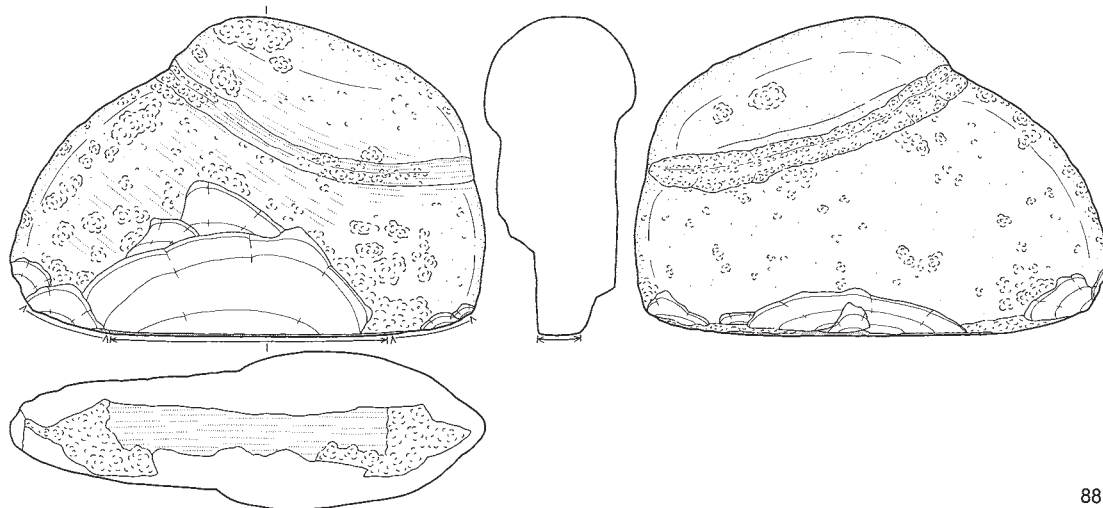


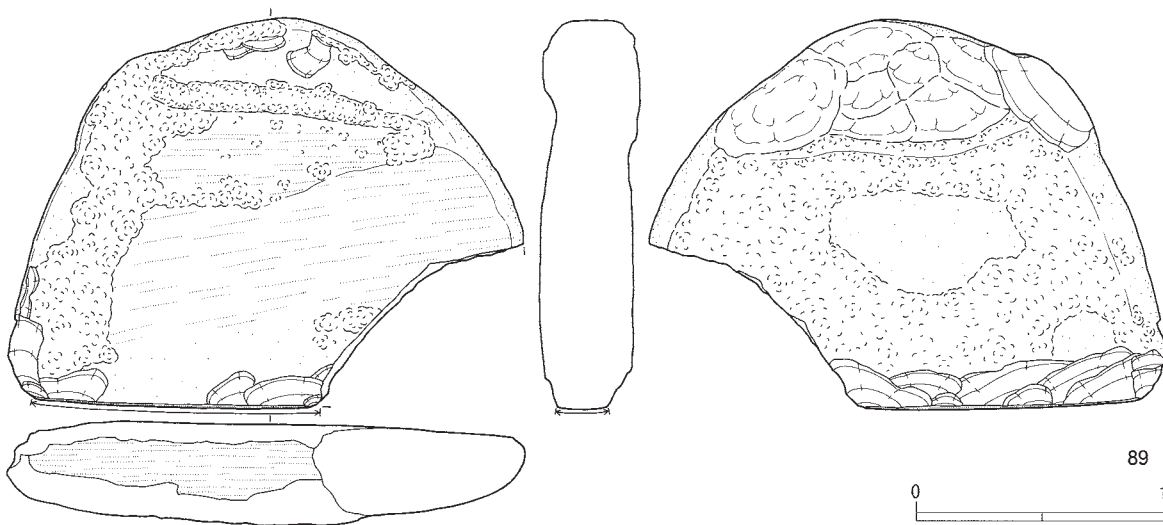
図98 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (5)



87



88



89

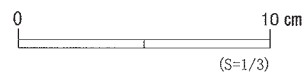


図99 B地区 V層 包含層出土の礫石器(6)

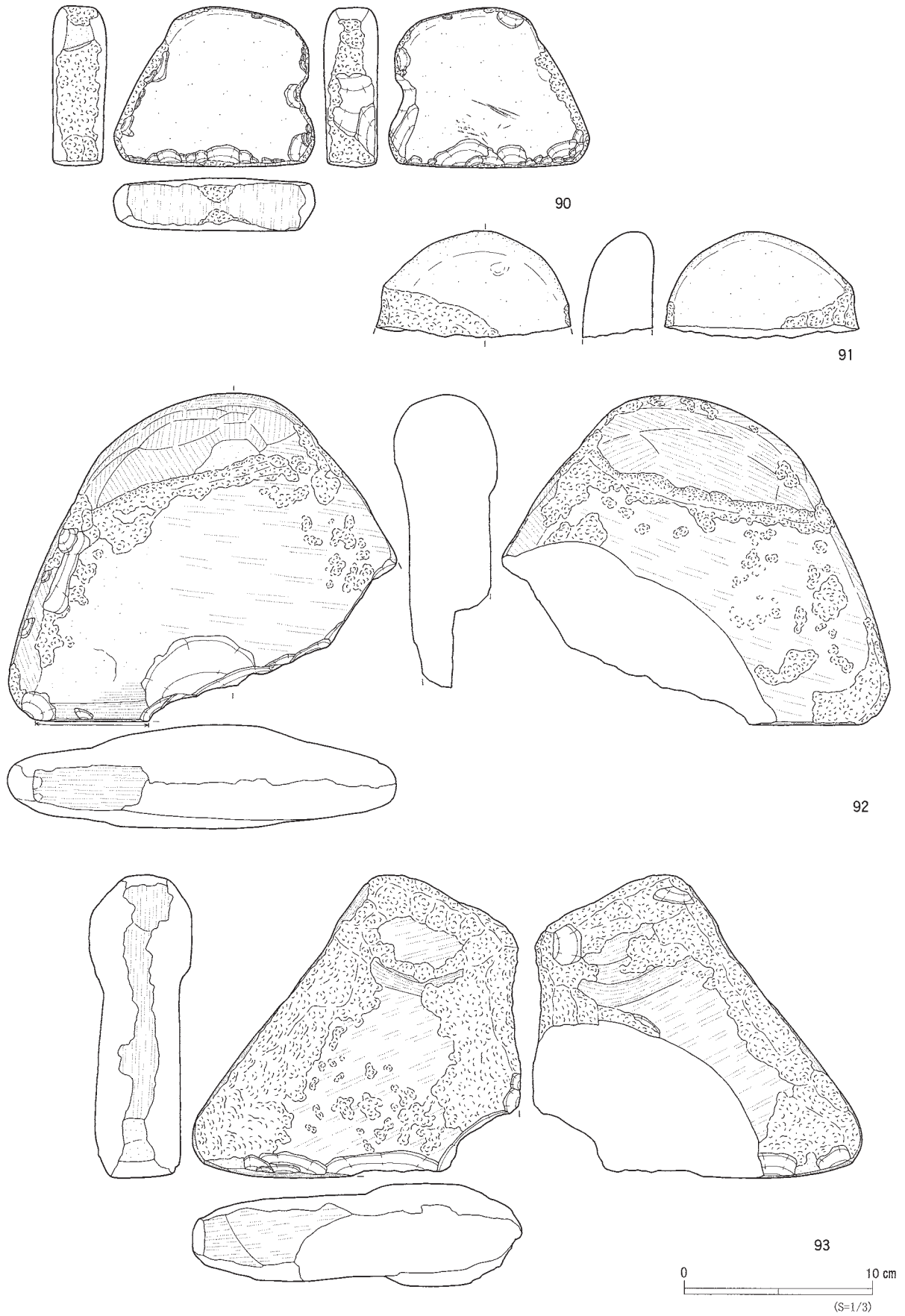
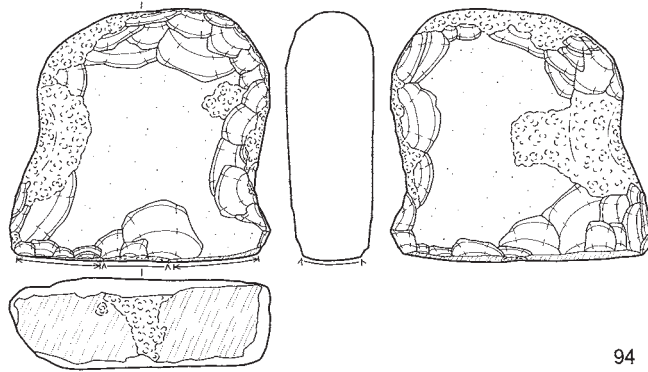
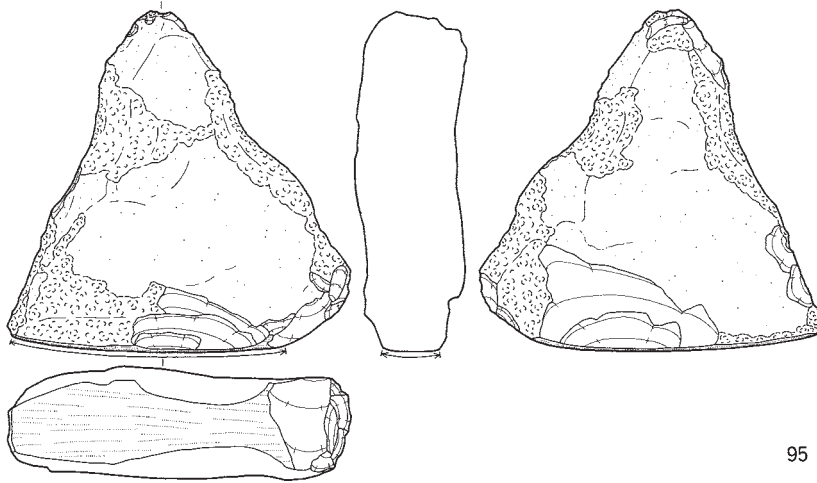


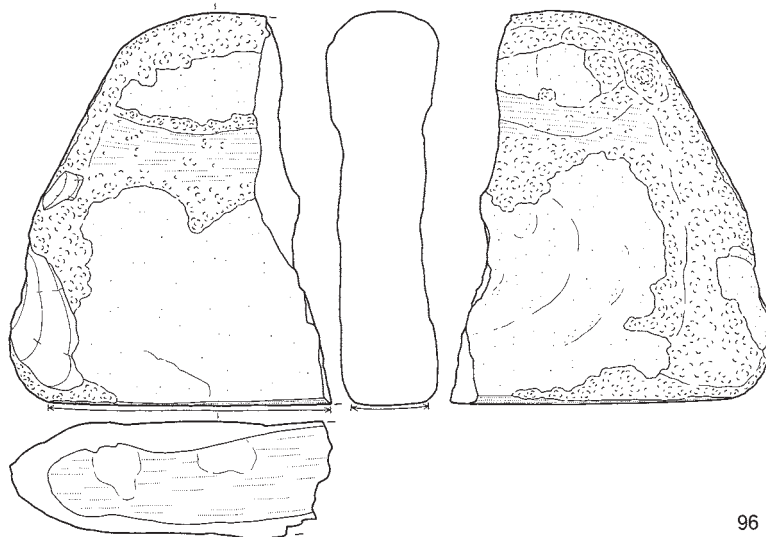
図100 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (7)



94



95



96



図101 B地区 V層 包含層出土の礫石器(8)

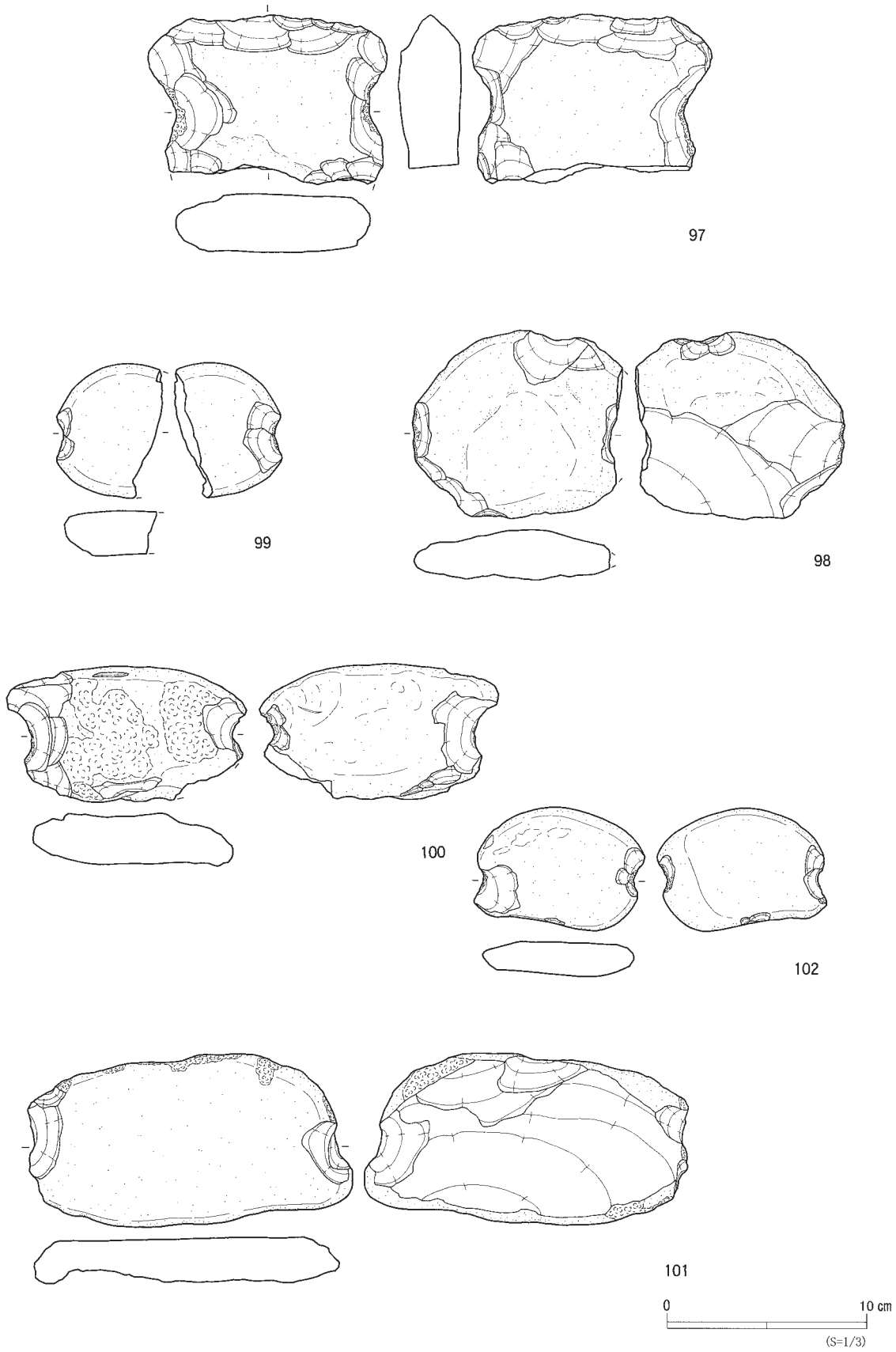


図102 B地区 V層 包含層出土の礫石器(1)

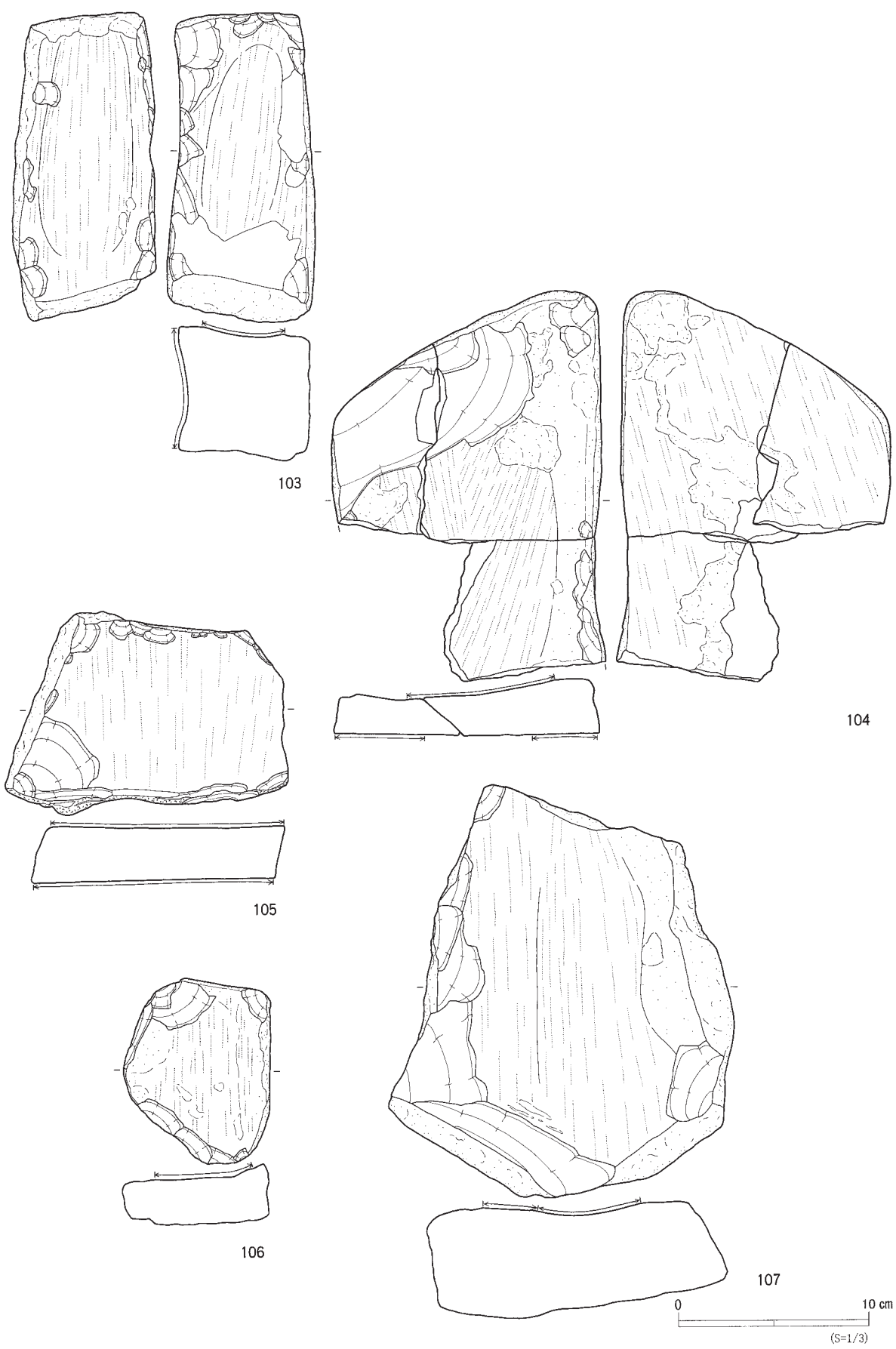


図103 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (10)

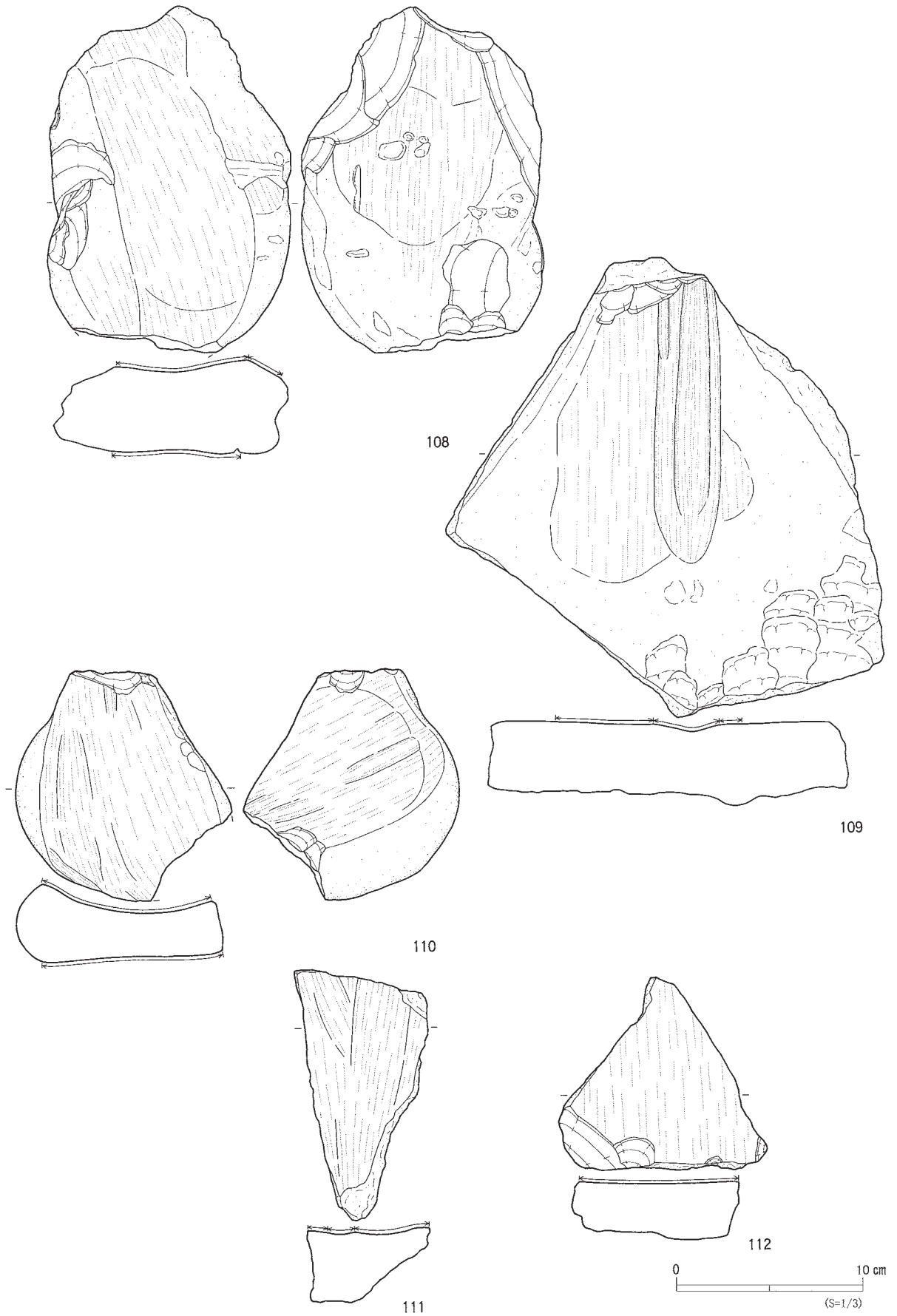


図104 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (11)

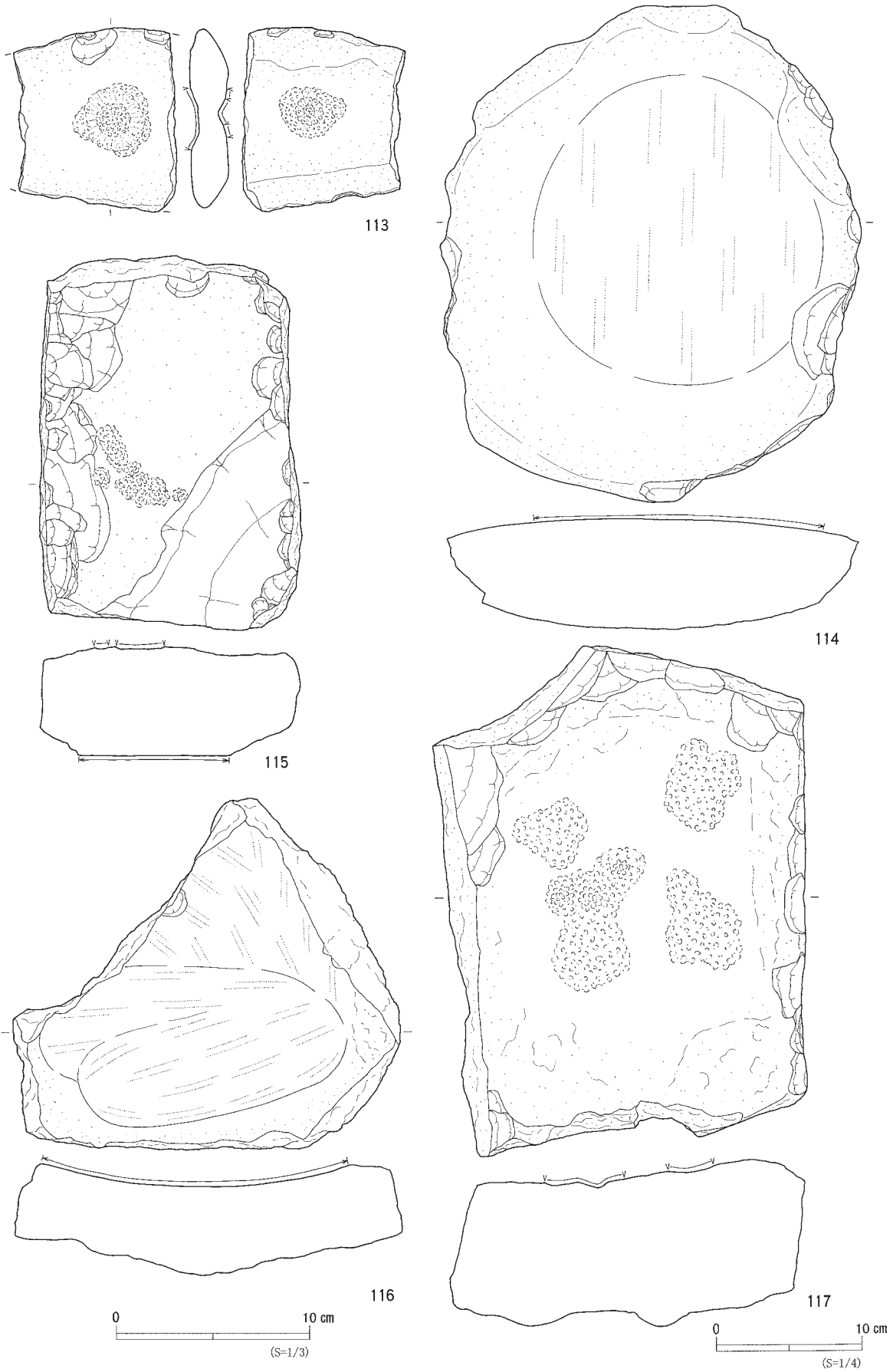
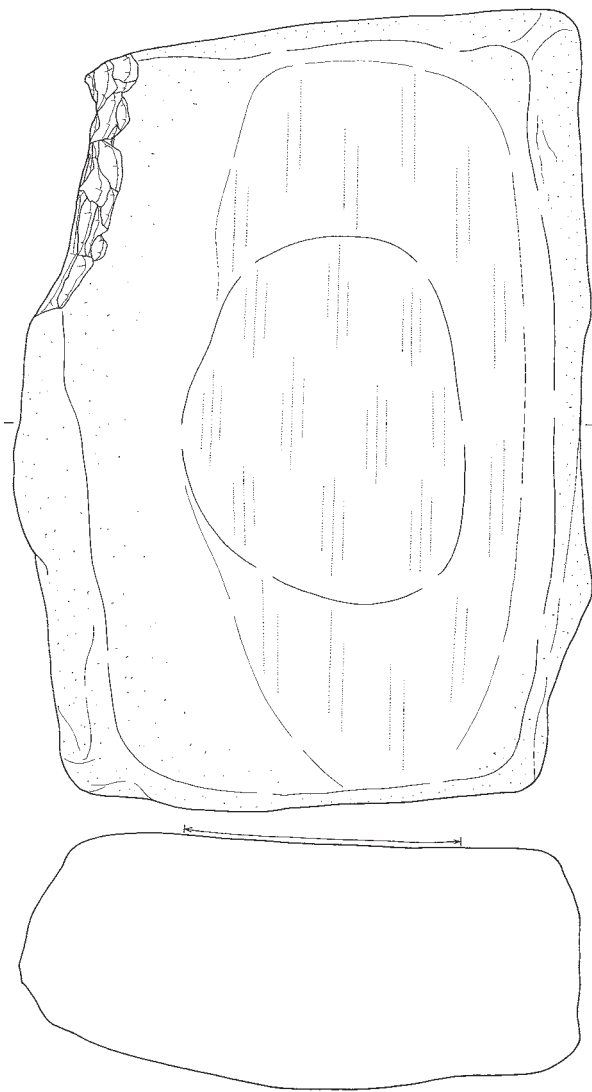


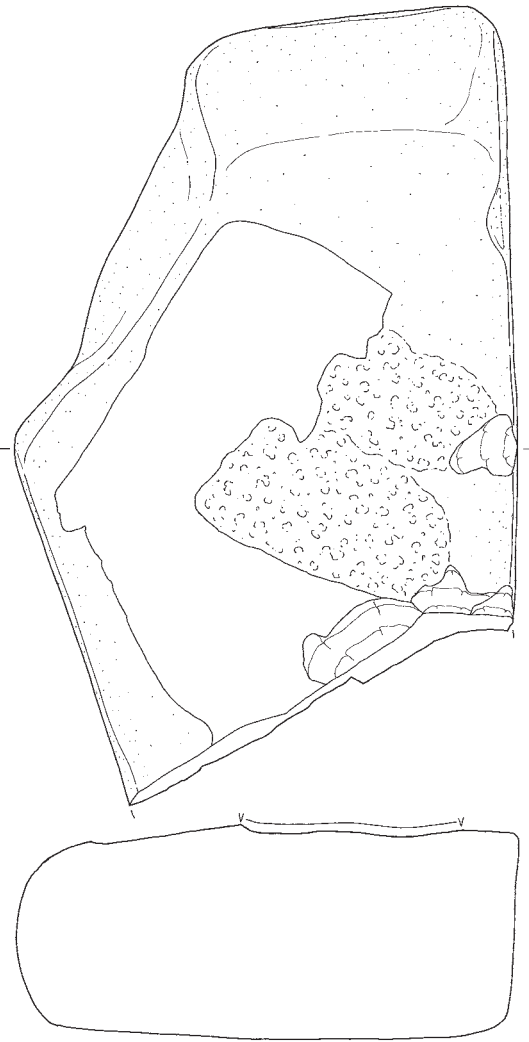
図105 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (12)



図106 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (13)



120



121

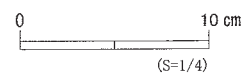


図107 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (14)

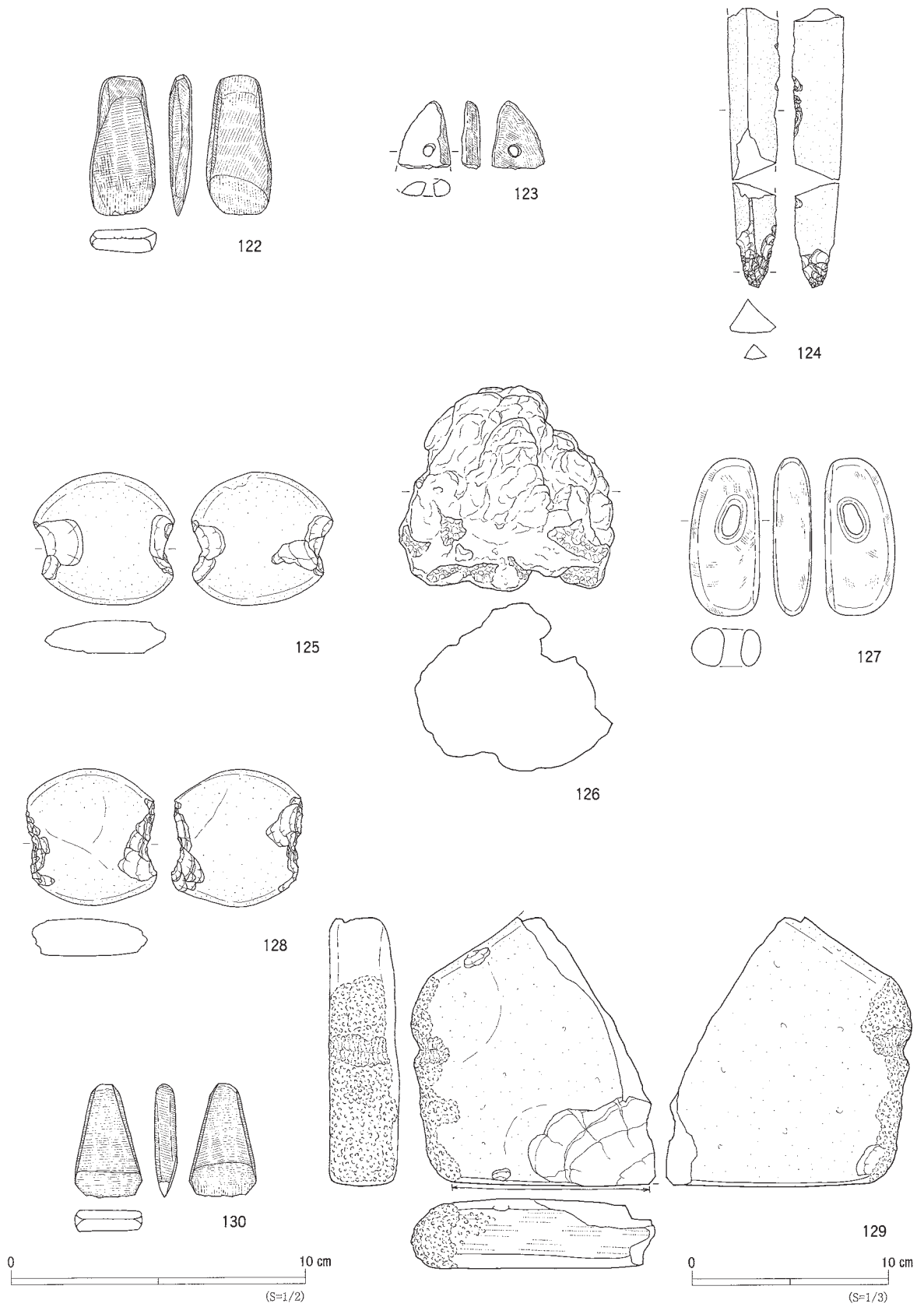


図108 B地区 V層 包含層出土の石製品

表49 B地区 V層 掘り上げ土一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)			出土遺物			関連する遺構	備考
					長径	短径	最大厚	土器	石器等	その他		
BLM-1	63	1	L~O-28・29区	不整形	9.15	(3.15)	0.16	IV群	U・Rフレイク 磨製石斧 たたき石 砥石 U・Rレキ レキ	—	BLH-1 BLH-3	BLH-1周囲の掘り上げ土

表50 B地区 V層 竪穴住居跡一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)						付属遺構	重複関係				出土遺物			備考			
					確認面		底面・坑底面		最大深	切る		切られる	近接	新旧	土器	石器等	その他					
					長径	短径	長径	短径														
BLH-1 全体 北側部分	64・65	23・24	M・N-29・30区	複数の楕円形	(6.17)	(6.72)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BLM-1は、本遺構を構築した際の掘り上げ土		
BLH-1A				M-29区	楕円形?	2.06	(1.82)	(2.02)	(1.78)	(0.60)	—	BLH-1C	—	BLH-1Cよりも古い	—	—	—	—	—	付属遺構 hp-2		
BLH-1B				M-29・30区	楕円形?	(2.46)	(2.42)	(1.34)	(1.24)	(0.47)	—	BLH-1C BLH-1D	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
BLH-1C				M-29・30、N-29区	円形～楕円形?	(3.24)	(1.10)	(3.18)	(1.04)	(0.62)	—	BLH-1A BLH-1B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BLH-1D				M-30区	楕円形?	(1.69)	(1.20)	(1.63)	(1.16)	(0.25)	—	BLH-1B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
BLH-2	66・67	25・26	b・c-31、b-32区	楕円形	3.52	3.14	3.09	2.19	(0.76)	先端部ビット? (軸上の土坑) 柱穴・杭穴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	BLP-3は付属遺構の可能性あり	
BLH-3	68	26・27	M・N-27・28区	不整形円形	2.96	2.96	2.66	2.43	0.26	先端部ビット 炉跡 焼土	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	先端部ビット hp-1を除く計測値	
BLH-4	69	カラー4 27・28	R-38区	円形	2.56	2.34	2.18	2.05	0.24	土器集中 炭化物集中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

表51 B地区 V層 竪穴住居跡付属遺構一覽表

遺構	付属遺構名	種別	住居跡	図	図版	形態		規模 (m)			出土遺物			備考						
						平面	断面	確認面	底面・坑底面	最大深	土器	石器等	その他							
						長径	短径	長径	短径											
BLH-1	hp-1	先端部ビット	C	64・65	24	楕円形	曲線的	(1.36)	0.90	(1.00)	0.72	0.25	—	石核 フレイク レキ	—	—	坑底にph-1			
	hp-2		B			楕円形	曲線的	0.92	0.71	0.55	0.49	(0.05)	—	—	—	—	—			
	hp-3		不明			—	楕円形～長楕円形	概ね平坦	(0.94)	0.66	(0.80)	0.49	0.21	—	—	—	—	—		
	hp-4		不明			—	楕円形	平坦	0.72	0.62	0.56	0.40	0.11	—	—	—	—	—		
	ph-1	柱穴・杭穴	C	64・65	24	円形	尖	0.18	—	—	0.27	—	—	—	—	—	hp-1の坑底面			
	ph-2		B?C?			円形	丸	0.14	—	0.02 / 0.02	0.32	—	—	—	—	—	—	先端部: 二又		
	ph-3		B			円形	隅丸	0.11	—	0.02	0.26	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-4		B?C?			円形	尖	0.06	—	—	0.27	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-5		B			円形	尖	0.08	—	—	0.30	—	—	—	—	—	—	—	斜め	
	ph-7		B?D?			円形	隅丸	0.09	—	0.03	0.30	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-8		D			円形	尖	0.04	—	—	0.19	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-9		C?D?			円形	尖	0.05	—	—	0.16	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-10		C?D?			円形	尖	0.08	—	—	0.20	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-11		C?D?			円形	平坦	0.18	—	0.14	0.10	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-12		B?C?D?			円形	丸	0.07	—	0.02	0.19	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-13		B?C?D?			円形	尖	0.10	—	—	0.30	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-14		B?C?D?			円形	隅丸	0.12	—	0.04	0.06	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-15		B?C?			円形	尖	0.07	—	—	0.16	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-16		B?C?			円形	尖	0.07	—	0.01	0.17	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-17		B?C?			円形	平・尖	0.12	—	0.02 / -	0.11 / 0.16	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-18		B			円形	丸	0.11	—	0.02	0.32	—	—	—	—	—	—	—		
	ph-19		A?C?			—	—	—	—	調査中に崩壊し、図面記録なし					—	—	—	—		
	ph-20		A			—	—	—	—	円形	平	0.11	—	0.05	0.28	—	—	—	—	斜め
	ph-21		A?C?			—	—	—	—	円形	平	0.15	—	0.08	0.13	—	—	—	—	—
ph-22	A	—	—	—	—	円形	尖	0.08	—	—	0.18	—	—	—	—	—				
ph-23	A	—	—	—	—	円形	尖	0.09	—	—	0.13	—	—	—	—	—				
ph-24	C?D?	—	—	—	—	円形	丸	0.11	—	0.01	0.28	—	—	—	—	—				
ph-6	外部 柱穴・杭穴	B	—	—	—	円形	丸	0.08	—	0.02	0.18	—	—	—	—	—				
BLH-2	BLP-3	先端部ビット?	—	66	26	楕円形	—	0.72	0.53	0.54	0.38	0.27	—	フレイク たたき石 すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレキ	—	—	—			
	ph-1	柱穴・杭穴	—	—	—	円形	尖	0.06	—	—	0.18	—	—	—	—	—	—			
	ph-2		—	—	—	円形	尖	0.10	—	—	0.50	—	—	—	—	—	—			
BLH-3	hp-1	先端部ビット	—	68	27	楕円形	—	0.72	0.82	0.57	0.43	0.18	—	—	—	—	—			
	hf-1	炉跡 焼土	—	—	27	楕円形	—	0.48	0.39	0.25	0.16	0.08	—	—	—	—	—	掘り込みのある焼土		
BLH-4	土器集中	—	—	69	カラー4 27	円形	—	0.38	0.38	—	—	0.17	III群土器	—	—	—	口縁～胴部上位 一 個体 倒立した状態			
	炭化物集中1	—	—	—	—	不整形円形	—	0.58	0.56	—	—	—	—	—	—	—	炭化物			
	炭化物集中2	—	—	—	—	楕円形	—	0.16	0.10	—	—	—	—	—	—	—	炭化物			

表52 B地区 V層 土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					付属遺構	出土遺物			備考
					確認面		底面・坑底面		最大深		土器	石器等	その他	
					長径	短径	長径	短径						
BLP-1	70	29	H-24・25区	円形	1.89	1.74	1.51	1.42	0.36	—	IV群	U・Rレキ レキ	—	
BLP-2	70	29	Z-29区	円形	1.76	1.43	1.61	1.18	0.21	土坑状の落ち込み	—	磨製石斧 たたき石 砥石 台石 石皿 U・Rレキ レキ	炭化物	放射性炭素年代測定 1K3-12
			(土坑状の落ち込み)	楕円形	0.98	0.58	0.25	0.26	0.22					
BLP-3	66	26	b-31区	楕円形	0.72	0.53	0.54	0.38	0.27	礫集中	—	フレイク たたき石 すり石 砥石 台石・石皿 U・Rレキ	—	BLH-2の先端部ピット(軸上の土坑)
			(礫集中)	楕円形	0.51	0.29	—	—						

表53 B地区 V層 Tピット一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態		規模 (m)					付属遺構	出土遺物			備考
				確認面	坑底面	確認面		底面		最大深		土器	石器等	その他	
						長径	短径	長径	短径						
BTP-1	71	29・31	N・O-25区	溝状	溝状	2.67	0.81	2.41	0.30	1.12	不明	—	フレイク U・Rレキ	—	
BTP-2	71	30・31	M-27、 N-26・27区	溝状	溝状	3.26	0.60	2.83	0.34	0.94	—	—	U・Rレキ	—	
BTP-3	72	29・30	V・W-29区	楕円形	長楕円形	1.59	1.10	1.02	0.37	1.15	柱穴・杭穴 sp-1~5	—	フレイク 砥石 U・Rレキ	—	
BTP-4	72	31・32	R-33区	溝状	溝状	3.22	0.78	2.96	0.12	1.19	—	III群	石鏃 フレイク フレイク レキ	—	上位に BLFC-1
BTP-5	73	29・30・32	Y・Z-28区	楕円形	楕円形	1.60	1.11	1.15	0.55	1.01	柱穴・杭穴 sp-1・2	—	石鏃 フレイク 磨製石斧 たたき石 U・Rレキ レキ	—	
BTP-6	73	30・31	L・M-27区	長楕円形	溝状	2.41	1.00	2.15	0.20	1.08	—	—	磨製石斧	—	
BTP-7	74	30・31	L-26区	溝状	溝状	2.68	0.81	2.06	0.25	1.15	—	—	—	—	
BTP-8	74	30・32	W-26・27区	楕円形	長楕円形	1.44	0.98	1.07	0.36	0.97	柱穴・杭穴 sp-1~4	—	石核 U・Rレキ	—	
BTP-9	75	31・32	S・T-35区	溝状	溝状	2.81	0.76	2.35	0.18	1.15	—	—	—	—	
BTP-10	75	31・32	P・Q-32区	溝状	溝状	2.98	0.81	2.51	0.24	1.13	—	—	—	—	
BTP-11	76	31・32	O・P-30区	溝状	溝状	2.82	0.69	2.50	0.24	0.96	—	—	—	—	
BTP-12	76	31・32	N・O-29区	溝状	溝状	3.00	0.64	2.58	0.19	0.98	—	—	—	—	
BTP-13	77	30・32	V-35区	楕円形	楕円形	1.82	0.99	1.40	0.48	1.00	—	—	—	—	

表54 B地区 V層 Tピット付属遺構一覧表

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態		規模 (m)			特徴	出土遺物	備考
					平面	断面	確認面	坑底面	最大深			
BTP-3	sp-1	柱穴・杭穴	72	—	円形	丸	0.03	—	0.03	—	—	
	sp-2			—	円形	丸	0.02	—	0.04	—	—	
	sp-3			—	円形	丸	0.08	—	0.13	—	—	
	sp-4			—	円形	丸	0.03	—	0.06	—	—	
	sp-5			—	円形	丸	0.05	—	0.09	—	—	
BTP-5	sp-1	柱穴・杭穴	73	—	円形	尖	0.06	—	0.24	—	—	
	sp-2			32	円形	尖	0.05	—	0.10	—	—	
BTP-8	sp-1	柱穴・杭穴	74	—	円形	尖	0.02	—	0.04	—	—	
	sp-2			—	円形	尖	0.06	—	0.18	—	—	
	sp-3			—	円形	丸	0.05	—	0.08	—	—	
	sp-4			—	円形	丸	0.03	—	0.06	—	—	

表55 B地区 V層 石組炉一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	構造種別	平面形態	規模 (m)					焼土色調		主な出土遺物	付属遺構関連する遺構	備考
							確認面		底面		最大深	色名	マンセル表色系			
							長径	短径	長径	短径						
BLFRS-1	78	33	P・Q-39区	VI層 ~ Ta-d2	石組	楕円形	0.81	0.65	—	—	0.16	—	—	石鏃 すり石 石皿 U・Rレキ レキ	—	
					掘り方	楕円形	0.84	0.65	0.59	0.43	0.27					
					焼土	楕円形	0.43	0.34	—	—	0.10					

表56 B地区 V層 焼土一覽表

遺構名	焼土種別	図	図版	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面 形態	焼土 色調			規 模 (m)			主な 出土遺物	関連する 遺構	備考
							色名	マンセル 表色系		長径	短径	最大 厚			
BLF-1	炉跡	78	—	P-37区	V層	円形	橙色	5YR	5 / 6	0.71	0.36	0.06	—	—	
BLF-2	炉跡	78	—	Z-32区	V層	不整な 楕円形	明褐色	7.5YR	5 / 6	0.53	0.38	0.05	—	大規模な 礫集中	
BLF-3	炉跡	78	—	T-25区	V層	不整な 円形	褐色	7.5YR	4 / 6	0.27	0.25	0.04	—	—	

表57 B地区 V層 フレイク集中一覽表

遺構名	図	図版	範囲 区分	グリッド	層位	平面 形態	規 模 (m)		出土遺物			備考
							長径	短径	土器	石器等	その他	
BLFC-1	79	—	分布範囲 集中部分	R-33・34、 S-33区	V層	不整な 楕円形	3.78	2.41	IV群	石鏃 石槍・ナイフ スクレイパー フリイク 砥石 U・Rレキ	—	包含層R-33区 多数出土 下位にBTP-4
							1.78	1.34				
BLFC-2	79	—	分布範囲 集中部分	X- 27・28区	V層	不整な 楕円形	2.52	1.84	—	石槍・ナイフ U・Rフリイク 石核 フリイク 磨製石斧 U・Rレキ レキ	—	大規模な 礫集中
							1.72	1.35				
BLFC-3	79	—	分布範囲 集中部分	A- 20・21区	V層	不整な 楕円形	1.08	0.95	—	スクレイパー フリイク	—	
							0.72	0.56				
BLFC-4	79	—	分布範囲	N・O- 32・33区	V層	不整な 楕円形	1.87	1.29	—	石鏃 石核 フリイク	—	

表59 B地区 V層遺構出土土器点数表

遺構名		BLP-1		BTP-4		BLM-1		BLFC-1		合計		
遺物種別 / 層位		覆土 B1	合計	覆土 B1	合計	H層	合計	V層	合計	合計	合計	
時期	部位											残存状態
III群	口縁部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	底部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胴部	複数部位	0	2	2	0	0	0	0	2	2	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	2	2	0	0	0	0	2	2	
	不明	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	
	IV群	口縁部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		底部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良好 剥離 磨耗 小破片			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
胴部		複数部位	1	0	2	2	1	1	1	4	4	
		良好 剥離 磨耗 小破片	1	0	2	2	1	1	1	4	4	
不明		複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計		1	0	2	2	1	1	1	4	4		
不明		口縁部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		底部	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	良好 剥離 磨耗 小破片		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胴部	複数部位	0	2	2	0	0	0	0	2	2	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	2	2	0	0	0	0	2	2	
	不明	複数部位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		良好 剥離 磨耗 小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	0	0	2	2	0	0	0	0	2		
	合計	1	0	4	4	2	2	1	4	6		

表58 B地区 BLH出土土器点数表

遺構名			BLH-1					BLH-2					BLH-3			BLH-4			合計				
遺物種別 / 層位			—																				
時期	土器 部位	残存状態	覆土 B	覆土 BR	床面	付属 遺構	覆土 A B	覆土 B B	合計	覆土 B	覆土 BR	覆土 G	覆土 R	床面	合計	覆土	覆土 BR	合計	覆土	床面	合計		
																						合計	合計
I群	複数部位								0						0			0			0	0	0
	口縁部	良好																				0	0
		剥離																				0	0
		磨耗																				0	0
		小破片																				0	0
	底部	良好																				0	0
		剥離																				0	0
		磨耗																				0	0
		小破片																				0	0
	胴部	良好								1												1	0
		剥離																				0	0
		磨耗																				0	0
		小破片																				0	0
	不明	良好																				0	0
		剥離																				0	0
磨耗																					0	0	
小破片																					0	0	
小計			0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
III群	複数部位								0						0			0			0	0	0
	口縁部	良好								1									5	7		13	0
		剥離																	7			7	0
		磨耗																				0	0
		小破片																				0	0
	底部	良好																				0	0
		剥離																				0	0
		磨耗																				0	0
		小破片																				0	0
	胴部	良好								10	1	1	3	2		2		21	7		47	56	
		剥離																51	5	214	1	236	
		磨耗								1											1	0	
		小破片								2								128	2		132	0	
	不明	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
磨耗																				0	0		
小破片																				0	0		
小計			0	0	0	0	0	0	14	1	1	3	2	21	0	2	2	212	21	233	256		
IV群	複数部位								0						0			0			0	0	0
	口縁部	良好								1											1	0	
		剥離																			0	0	
		磨耗																			0	0	
		小破片																			0	0	
	底部	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
		磨耗																			0	0	
		小破片																			0	0	
	胴部	良好						3										6			9	3	
		剥離										1			1	2	3			21	0	42	
		磨耗																			0	0	
		小破片						14							1			15			30	0	
	不明	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
磨耗																				0	0		
小破片																				0	0		
小計			0	0	0	0	0	17	17	1	0	1	0	0	2	3	0	3	21	0	21	43	
不明	複数部位								0						0			0			0	0	0
	口縁部	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
		磨耗																			0	0	
		小破片																			0	0	
	底部	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
		磨耗																			0	0	
		小破片																			0	0	
	胴部	良好																			0	0	
		剥離													1						0	1	
		磨耗																			0	0	
		小破片								1											1	0	
	不明	良好																			0	0	
		剥離																			0	0	
磨耗																				0	0		
小破片																				0	0		
小計			0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計			17					25					5			254			301				

表60 B地区 大規模な礫集中出土土器点数表

遺物種別 / グリッドライン			W-27~35区	X-26~35区	Y-27~35区	Z-28~34区	a-28~34区	b-28~33区	c-28~35区	d-30区	合計	
土器			V層	V層・I層	V層・I層	V層	V層・I層	V層・I層	V層・I層	V層		
時期	部位	残存状態										
I群	口縁部	複数部位									0	
		良好	1		4							6
		剥離		1		9	0	0		4	0	0
		磨耗										0
	小破片			5					4		10	
	底部	良好								1		1
		剥離		1	1		0	0				1
		磨耗	0						0	1	0	0
		小破片										0
	胴部	良好	6	18	15	3				74		116
		剥離			1	23	3	0		40	258	41
		磨耗	6	30						1		1
		小破片		11	7					144		162
	不明	良好										0
		剥離										0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小破片											0	
小計			7	33	32	3	0	0	263	0	338	
III群	口縁部	複数部位									0	
		良好	4		6		1		6			24
		剥離		4	1	10	2		8		6	1
		磨耗					1		2			5
	小破片					2					2	
	底部	良好			2		3		8		3	16
		剥離		0	1	3		3		17		0
		磨耗	0						1		3	2
		小破片							8			8
	胴部	良好	10	21	8	27	23		92	27		208
		剥離		12	7	15	11	78	16	66	140	127
		磨耗	1	1	7	29	5		15	9		49
		小破片	3	21	7	19	33		62	38		183
	不明	良好										0
		剥離										0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小破片											0	
小計			18	56	33	76	83	210	149	0	625	
IV群	口縁部	複数部位									0	
		良好	4	4	1				8			17
		剥離				1		0	2	2		7
		磨耗		4					5	15		0
	小破片							2			2	
	底部	良好			1							1
		剥離	3			1		0	2	2		32
		磨耗		0								0
		小破片							3			3
	胴部	良好	51	32			11		32	2		128
		剥離	18	46	2	6	5	12	34	87	20	213
		磨耗		1	4		14	121	3	401	22	22
		小破片	20	63	4	3	62		279		3	434
	不明	良好										0
		剥離										0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小破片											0	
小計			96	146	8	12	125	446	22	4	859	
不明	口縁部	複数部位									0	
		良好										0
		剥離		0		0		0				0
		磨耗										0
	小破片										0	
	底部	良好										0
		剥離		0		0		0				0
		磨耗	0						1	1		1
		小破片										0
	胴部	良好	2				2		1			5
		剥離	1			8		2		1	11	2
		磨耗		2			3	8		6		3
		小破片	2	2	8	2	3		5	10		32
	不明	良好										0
		剥離										0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小破片											0	
小計			5	2	8	2	9	6	11	0	43	
合計			126	237	81	93	217	662	445	4	1,865	

表61 B地区 BLH出土剥片石器点数表

遺構名			BLH-1					BLH-2					BLH-3				BLH-4			合計					
器種名・分類 / 層位			覆土 B	覆土 BR	床面	付属 遺構	A 覆土 B	B 覆土 B	合計	覆土 B	覆土 BR	覆土 G	覆土 R	床面	合計	覆土	覆土 R	なし	合計	覆土	床面	合計	合計		
器種	残存状態	岩石																							
石鏃	完形	黒曜石							1		1											2	3	6	
		頁岩							1													1	2		
	準完形	黒曜石						1			1			4	1				1			0	0		
		頁岩																				1	1		
石槍・ナイフ	完形	黒曜石							1													3	3	4	
	準完形													2								0	0		
	半形																					0	0		
	片	黒曜石							1													1	1		
石鏃	完形																					0	0	0	
	準完形													0								0	0		
	半形																					0	0		
	片																					0	0		
つまみ付き ナイフ	完形	頁岩								1												1	2	2	
		砂岩							1													1	0		
	準完形													2								0	0		
	半形																					0	0		
スクレイパー	完形	黒曜石							1						1							1	1	5	
		頁岩																				1	1		
	準完形	砂岩									1			2								1	1		
		*	1		1				2										1			2	2		
U・Rフレイク	完形	黒曜石	2			3	1		6	1				2	4				4	1		1	12	12	13
		頁岩										1											1	1	
石核		黒曜石				1			1						0	1			1			0	2	2	
フレイク	完形	黒曜石	66	5	1	12	23	21		14	2	4	1	1					185				335	335	345
		頁岩							130			2	1									0	3	3	
		チャート	2							1		3	1										7	7	
原石									0										0			0	0	0	
合計			142					42					192				1			377					

表62 B地区 遺構出土剥片石器点数表

遺構名			BLP-3		BTP-1		BTP-3		BTP-4		BTP-5		BTP-8		BLM-1		BLFRS-1		合計		
器種名・分類 / 層位			覆土 BR1	合計	覆土	合計	覆土	合計	覆土 B1	合計	覆土	合計	覆土	合計	H層	HBR 層	合計	覆土	合計	合計	
器種	残存状態	岩石																			
石鏃	完形	黒曜石									1									1	
		頁岩																		0	
	準完形	黒曜石		0		0				1		1		0						1	1
		黒曜石							1												1
石槍・ナイフ	完形																			0	
	準完形			0		0					0		0							0	0
	半形																			0	0
	片																			0	0
石鏃	完形																			0	
	準完形			0		0				0		0		0						0	0
	半形																			0	0
	片																			0	0
つまみ付き ナイフ	完形																			0	
	準完形			0		0				0		0		0						0	0
	半形																			0	0
	片																			0	0
スクレイパー	完形																			0	
	準完形			0		0				0		0		0						0	0
	半形																			0	0
	片																			0	0
U・Rフレイク		黒曜石	0		0		0	1	1		0		0	1		1			0	2	2
石核		黒曜石	0		0		0		0		0		1	1		0			0	1	1
フレイク	完形	黒曜石	1		4		4	2,912	2,912		1		4		175	1			0	3,102	3,103
		頁岩		1		4				1	2		4							1	
原石			0		0		0		0		0		0						0	0	0
合計			1		4		4	2,914	2,914	3		5		177		1			1		3,109

表65 B地区 BLH出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名			BLH-1						BLH-2					BLH-3			BLH-4			合計						
器種・分類 / 層位			—						—					—			—			合計						
器種	残存状態	岩石	被熱	覆土 B	覆土 BR	床面	付属遺構	A 覆土 B	B 覆土 B	合計	覆土 B	覆土 BR	覆土 G	覆土 R	床面	合計	覆土	覆土 B	なし	合計	覆土	床面	合計	合計	合計	
磨製石斧	完形	緑色泥岩	—				1																	1	1	
	準完形	緑色泥岩	—			1																		1	1	
	半形	緑色泥岩	—	2													1							3	3	
	片	緑色泥岩	—	10					1	4	21	6	4				14	6			7			0	31	37
		片岩	—	被熱								1	1	1											3	
砂岩		—	2										1											1	2	
たたき石	完形	砂岩	—								1	2												3	4	
	準完形	凝灰岩	—									1												1	4	
	半形															6				9			0	0	0	
	片	砂岩	—								1								9					0	0	
すり石	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片	砂岩	—						1															0	0	
北海道式石冠	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片																							0	0	
扁平打製石器	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片																							0	0	
石錘	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片																							0	0	
砥石	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片	砂岩	—	4					2	6	3	1	9	1		24	2			2		0	0	22	32	
台石石皿	完形	砂岩	—	1								1												2	3	
	準完形	凝灰岩	—								1													1	0	
	半形															10			4				0	0		
	片	砂岩	—	1							2								3					6	16	
合計	完形																							8	16	
	準完形																							2	3	
	半形																							0	0	
	片	凝灰岩	—	1		2					2	1	3				1							6	16	
合計						33						54							22			0		109		
石製品	完形																							0	0	
	準完形																							0	0	
	半形																							0	0	
	片																							0	0	
合計						0						0							0					0	0	
加工・使用痕のあるレキ	完形	砂岩	—								1	1	1						1					3	9	
		凝灰岩	—	被熱	1							1												2	3	
		礫岩	—				1																	1	1	
		砂岩	—	被熱	1	2	2			5	15	7	28	1	5	1	102	3			4			55	21	
		凝灰岩	—	被熱		1	1					5	16											19	19	
	片	凝灰岩	—	被熱								7	4	4	2										13	112
		礫岩	—	被熱								1	12												1	1
		片麻岩	—	被熱								1												2	2	
		砂岩	—									2												1	1	
		片麻岩	—	被熱								1												1	1	
レキ	完形	砂岩	—			1			1		3													5	25	
		凝灰岩	—	被熱							9	2	1						1					12	1	
		礫岩	—				1					1												2	1	
		チャート	—																	1				1	2	
		花崗岩	—		1																				2	1
	片	緑色泥岩	—									1													1	1
		砂岩	—	被熱	19	2		4	3	7	50	41	19	27	25	3	418	19	18	1	57		1	1	188	501
		凝灰岩	—	被熱	1							82	58	9	7			6							157	1
		凝灰岩	—	被熱		2		4	1			49	2	14	11	1		9		2					91	1
		チャート	—							1		17	9	9	5	3		9							54	1
合計	礫岩	—	被熱								4		1											5	501	
	閃緑岩	—									1													1	1	
	片岩	—	被熱								1													1	1	
	緑色泥岩	—		1										1										1	1	
	合計						65						520						61			1		647		
合計						98							574						83			1		756		

表66 B地区 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名				BLP-1		BLP-2		BLP-3		BLM-1		BLFRS-1		合計	
器種	器種名・分類/層位			被熱	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
	残存状態	岩石	被熱												
磨製石斧	完形													0	0
	準完形				0		1				12		0	0	0
	片	緑色泥岩	—			1					12			13	13
たたき石	完形													0	0
	準完形				0		1				1		0	0	0
	片	砂岩	—				1			1				3	3
すり石	完形													1	1
	準完形				0								21	0	0
	片	砂岩	被熱										21	0	21
北海道式石冠	完形													0	0
	準完形				0		0			0			0	0	0
	片													0	0
扁平打製石器	完形													0	0
	準完形				0		0			0			0	0	0
	片													0	0
石錘	完形													0	0
	準完形				0		0			0			0	0	0
	片													0	0
砥石	完形													0	0
	準完形				0		1			1	1		0	0	0
	片	砂岩	被熱							1				1	1
台石石皿	完形													1	1
	準完形				0								3	3	3
	片	凝灰岩	—										9	9	9
		砂岩	—										1	1	1
		凝灰岩	被熱				2		1					2	13
合計				0		6		5		14		34		59	
石製品	完形													0	0
	準完形				0		0			0			0	0	0
	片													0	0
合計				0		0		0		0		0		0	
加工・使用痕のあるレキ	完形													0	0
	片	砂岩	被熱	1			10		1	4			12	28	
		凝灰岩	被熱			1	21		1	17			33	73	
		凝灰岩	被熱			1	2	12		1				16	158
		礫岩	被熱			1	8		1	19				29	
レキ	完形													1	1
	片	砂岩	被熱	10	10						13	13	239	260	260
		凝灰岩	—										20	20	283
合計				11		62		50		14		305		442	
合計				11		68		55		28		339		501	

表67 B地区 BTP・BLFC出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名				BTP-1		BTP-2		BTP-3		BTP-4		BTP-5		BTP-6		BTP-8		BLFC-1		BLFC-2		合計		
器種	器種名・分類/層位			被熱	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	V層	合計	V層	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	
	残存状態	岩石	被熱																					覆土
磨製石斧	完形	緑色泥岩	—																			1	1	
	準完形				0		0															0	0	
	片	緑色泥岩	—																			2	2	
たたき石	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片	砂岩	—																			1	1	
すり石	完形	砂岩	被熱																			0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片	砂岩	—																			0	0	
北海道式石冠	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片																					0	0	
扁平打製石器	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片																					0	0	
石錘	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片																					0	0	
砥石	完形																					0	0	
	準完形				0		0		8		0											0	0	
	片	砂岩	—						8													2	2	
台石石皿	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片																					0	0	
合計				0		0		8		0		2		1		0		2		1		14		
石製品	完形																					0	0	
	準完形				0		0															0	0	
	片																					0	0	
合計				0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
加工・使用痕のあるレキ	完形	砂岩	—																			1	1	
		花崗岩	—																			1	2	
	片	砂岩	被熱	10	15	2	2	8	10		4	14										18		
		凝灰岩	被熱	2				2			4												6	
		礫岩	被熱	1				2			4												11	
レキ	完形	砂岩	—																			3		
	片	砂岩	被熱	0	0					1	1											1	4	
		凝灰岩	—																			2	2	
合計				15		2	10	1	15		0		6	5	5		5				59			
合計				15		2	18	1	17		1		6	7	6		6					73		

表68 B地区 大規模な礫集中出土礫石器・石製品・レキ点数表

器種	器種名・分類 残存状態	グランドイン 岩石	被熱等	W-27~35区 V層・1層		X-26~35区 V層・1層		Y-27~35区 V層・1層		Z-26~35区 V層・1層		a-28~34区 V層・1層		b-28~34区 V層・1層		c-29~32区 V層・1層		d-29~31区 V層・1層		合計	
				数	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数	種類		数
磨製石斧	完形	緑色泥岩	被熱	5		5		5		5		2		4						41	
		片岩	被熱	1						1		3								3	
	半完形	緑色泥岩	被熱	1		9		3		8		10		9		2				42	
		片岩	被熱	1		1		1		3		3		2		1				9	
	半片	緑色泥岩	被熱	21		40		78		128		89		60		48		3		31	
		片岩	被熱	1		1		1		5		2		2		2		1		4	
	片	緑色泥岩	被熱	7		17		50		84		35		35		28		1		4	
		片岩	被熱	4		7		4		4		4		7		2		1		16	
		片麻岩	被熱	1		1		6		14		15		7		4		1		2	
		砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
たつき石	完形	泥岩	被熱	9		18		28		22		12		4		6				89	
		砂岩	被熱	2		7		14		11		3		2		7		2		17	
	半完形	凝灰岩	被熱	2		2		3		2		3		1		1				9	
		礫岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1				2	
	半片	花崗岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1				4	
		緑色泥岩	被熱	3		3		1		1		1		1		1				4	
	片	砂岩	被熱	38		95		193		180		150		37		45		8		6	
		凝灰岩	被熱	10		19		34		40		38		10		11		2		114	
		砂岩	被熱	2		17		21		30		25		7		4				105	
		凝灰岩	被熱	9		19		23		27		29		8		7		3		155	
片	礫岩	被熱	2		3		6		6		2		1		1				19		
	砂岩	被熱	1		2		3		3		1		1		2				11		
	片麻岩	被熱	1		1		2		2		1		1		1				2		
	砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1				1		
すり石	完形	緑色泥岩	被熱	1		3		3		3		1								8	
		凝灰岩	被熱	1		1		1		1		1								2	
	半片	砂岩	被熱	0		7		6		4		7		5		7		1		0	
		凝灰岩	被熱	0		2		5		1		2		2		1				11	
	片	凝灰岩	被熱	0		4		3		6		6		1				1		19	
		礫岩	被熱	0		1		1		1		1		1						18	
	北海道式石冠	完形	緑色泥岩	被熱	1		1		1		2		1		1						4
			砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1						4
		半片	砂岩	被熱	1		6		8		4		3		3		4		4		29
			凝灰岩	被熱	1		1		3		3		1		1						8
片		凝灰岩	被熱	1		3		3		2		1		1						8	
		安山岩	被熱	1		2		2		2		1		1						3	
扁平打製石器		完形	砂岩	被熱	0		0		0		0		0		0		0		0		0
			凝灰岩	被熱	0		0		0		0		0		0		0		0		0
		半片	砂岩	被熱	0		1		1		2		2		1						3
			凝灰岩	被熱	0		1		1		1		1		1						4
	片	砂岩	被熱	0		2		2		2		1		1						3	
		凝灰岩	被熱	0		1		3		1		7		1						13	
	砥石	完形	砂岩	被熱	52		96		154		110		104		57		47		13		60
			凝灰岩	被熱	1		5		12		14		17		5		7		3		22
		半片	砂岩	被熱	1		3		3		3		3		1		3		3		18
			凝灰岩	被熱	1		10		10		10		8		7		7		1		4
片		砂岩	被熱	1		3		3		3		1		1						8	
		凝灰岩	被熱	1		1		1		1		1		1						4	
台石石皿		完形	安山岩	被熱	1		1		1		2		6		5		2				18
			砂岩	被熱	1		10		7		1		1		1						5
		半完形	凝灰岩	被熱	1		1		1		2		2				1				1
			砂岩	被熱	1		1		1		1				1						1
	片	砂岩	被熱	29		42		63		56		36		38		28		2		2	
		凝灰岩	被熱	2		12		42		34		17		11		5		14		16	
	片	凝灰岩	被熱	3		11		18		11		13		11		11		5		3	
		礫岩	被熱	1		25		63		63		33		20		6		6		228	
		礫岩	被熱	1		5		4		2		3		2		1		3		13	
		片麻岩	被熱	1		3		4		4		1		1		1		1		7	
石製品	完形	タルク岩	被熱	145		460		706		709		566		303		260		43		1	
		砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1				5	
	半完形	凝灰岩	被熱	1		0		0		2		1		2		0		2		1	
		砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1		1		3	
	片	砂岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1		1		0	
		凝灰岩	被熱	1		1		1		1		1		1		1		1		0	
	加工・使用痕のあるレキ	完形	泥岩	被熱	2		7		5		9		19		6		5				53
			砂岩	被熱	2		6		3		8		8		11		7				19
		半片	凝灰岩	被熱	1		2		3		3		7		8		5				38
			礫岩	被熱	1		1		1		1		1		3		5				14
片		チャート	被熱	1		1		1		2		2		1						1	
		片麻岩	被熱	1		1		1		1		1		1						2	
レキ		完形	砂岩	被熱	170		129		955		1098		822		460		87		150		320
			凝灰岩	被熱	84		722		1489		1696		1004		466		327		51		478
		半片	凝灰岩	被熱	94		189		269		405		230		157		46		36		1324
			礫岩	被熱	28		39		80		92		384		35		187		40		335
	片	チャート	被熱	7		28		79		92		73		35		6		2		245	
		火山礫凝灰岩	被熱	1		1		1		1		1		1						4	
	レキ	完形	砂岩	被熱	62		3		79		79		7		3		3		1		8
			凝灰岩	被熱	1		6		8		4		4		8		8		1		36
		半片	凝灰岩	被熱	29		66		147		41		15		45		31		12		361
			礫岩	被熱	4		4		1		3		3		23		19		1		63
片		チャート	被熱	2		7		8		1		1		6		2				26	
		安山岩・花崗岩	被熱	2		3		9		2		1		8		2		2		28	
レキ		完形	砂岩	被熱	1398		1523		1543		324		960		737		1049		293		6384
			凝灰岩	被熱	136		323		966		410		324		267		546		155		3763
		半片	凝灰岩	被熱	161		335		423		206		306		299		71		29		1191
			礫岩	被熱	85		127		304		235		304		129		199		28		1391
	片	チャート	被熱	1		4		4		4		5		2		2				13	
		凝灰岩	被熱	6		28		2													

表69 BLM-1 O-29区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	1	35	BLM-1 O-29区	V層	—	3	(16.6)	25.0	—	1,280	口縁～ 胴部中位	深鉢	IV群a類
接合破片 総点数		10	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		O-29区・V層・(5)、? -29区・V層・(1)、未注記・不明:1								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体 (有色鉱物)	量	多～中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	LRL縄文		にぶい黄橙色 (10YR6/3)	黒色化	—	口唇部 (40%)							
	RLR縄文 無文帯		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	粘土の 織ぎ目	口縁部 (40～30%)	ナデ	橙色 (7.5YR7/6)	黒色化	—			
面	LR・RLR 縄文		にぶい黄橙色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (15～5%)	ナデ	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	面		

表70 BLH-4 出土復原土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	2	35	BLH-4	覆土	—	23	(15.5)	38.0	—	2,200	口縁～ 胴部上位	深鉢	III群b類
接合破片 総点数		55	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		BLH-4・床面・(7)、未注記・不明:25								
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	微～細粒	種類	岩石主体	量	少～中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	小突起 刺突文 ナデ		浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色化	半截竹管状 工具による施文	口唇部 (100%)							
	小突起 刺突文 LR縄文 平行沈線文		浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	半截竹管状 工具による施文	口縁部 (100%)	ミガキ	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	黒色化 赤色化? (7.5YR6/6 橙色)	—			
面	小突起 刺突文 LR縄文 平行沈線文		浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	頸部 (100%)	ミガキ	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	赤色化? (7.5YR6/6 橙色)	—			
	貼付帯 LR縄文		浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上位 (10%)	ミガキ	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	—	—	面		

表71 BLH-4 出土復原土器観察表 (2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	3	35	BLH-4	覆土	—	4	(19.0)	—	—	1,100	胴部中位 ～下位	深鉢	IV群a類
接合破片 総点数		9	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		O-34区・V層・(1)、R-38区・V層・(4)								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	岩石主体 (白色岩片)	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内	
	LR縄文		にぶい黄橙色 (10YR6/4)	—	粘土の 織ぎ目	胴部 中位～下位 (40～60%)	ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 炭化物付着	—	面		

表72 大規模な礫集中 X-34区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	4	35	大規模な礫集中 X-34区	V層	—	9	(14.2)	19.0	—	750	口縁～胴部中位	深鉢	III群b類
接合破片総点数		12	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		大規模な礫集中 Z-34区・V層・(2)、未注記・不明:1								
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒徑	細粒	種類	岩石主体 (白色岩片)	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	LR? 縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	—	剥離	口唇部 (10%)							
	ナデ(無文帯) 貼付帯 刺突文		灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化 炭化物付着	半截竹管状 工具による施文	口縁部 (20%)		ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—		
面	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	胴部上半 (20~40%)		ナデ	(褐灰色)	黒色化	—	面	

表73 大規模な礫集中 b-29区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	5	35	大規模な礫集中 b-29区	V層	—	14	41.0	27.0	10.5	2,000	口縁～底部	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		28	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		未注記・不明:14								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	細粒	種類	鉱物主体 (有色鉱物)	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	口唇部 (20%)							
	LR 縄端圧痕文 縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	粘土の 織ぎ目	口縁部 (20~25%)		ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	—	—		
	LR縄文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化 炭化物付着	粘土の 織ぎ目	胴部上半 (15%)		ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	—	—		
	LR縄文 ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	胴部下半～底部 (10%)		ナデ?	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	黒色化?	—		
面	ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	—	—	底面 (10%)		—	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	—	剥離	面	

表74 大規模な礫集中 b-32区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	6	36	大規模な礫集中 b-32区	V層	—	8	(10.1)	—	—	940	胴部中位	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		10	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		?-32区・V層・(1)、未注記・不明:1								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	RL縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)	—	—	胴部中位 (20%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—		

表75 大規模な礫集中 W-29区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	7	36	大規模な礫集中 W-29区	V層	—	12	12.8	14.5	8.3	460	口縁～底部	深鉢	IV群a類
接合破片総点数		17	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		大規模な礫集中 X-29区・V層・(4)、未注記・不明:1								
胎土 (混和材)		繊維	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体 (亜円礫状)	量	多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	?		浅黄褐色 (10YR8/4)	黒色化	(剥離)	口縁～底部 (40~60%)		ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 炭化物付着	—		
面	—		(褐灰色)	黒色化	—	底面 (50%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	面	

表76 T-24区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	8	36	T-24区	V層	—	24	(11.0)	15.6	—	290	口縁 ~胴部中位	深鉢	IV群a類
接合破片 総点数		25	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			未注記・不明:1							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細~中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり (有色鉱物)	量	中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ナデ		にぶい・橙色 (7.5YR6/4)	黒色化	八つの 波頂部	口 唇 部 (60%)							
	RL縄文		橙色 (2.5YR6/6)	黒色化	—	口 縁 部 (60%)	ミガキ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
面	RL縄文		橙色 (2.5YR6/6)	—	—	胴部上半 (50%)	ミガキ (沈線文状の 調整痕)	(褐灰色)	黒色化 炭化物付着	—	面		

表77 T-39区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	9	36	T-39区	V層	—	10	(29.5)	—	9.0	1,880	胴部上位 ~底部	深鉢	IV群a類
接合破片 総点数		20	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			S-38区・V層・(1)、T-38区・V層・(6)、?-37区・V層・(1)、?-39区・V層・(1)、未注記・不明:1							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細~中粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり	量	中~多量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	貼付帯 LR・RL 羽状縄文		浅黄橙色 (7.5YR8/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (40~50%)	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	—	—			
	貼付帯 LR・RL 羽状縄文		にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	赤色化 (橙色 5YR7/6)	—	胴部下半 ~底部 (80~90%)	—	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	黒色化?	剥離			
面	—		(褐灰色)	黒色化?	—	底 面 (80%)	—	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	剥離	面		

表78 R-38区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	10	36	R-38区	V層	—	6	(12.9)	—	6.7	410	胴部中位 ~底部	深鉢	IV群a類 全体的に磨耗
接合破片 総点数		9	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Q-38区・V層・(3)							
胎土 (混和材)		繊維	少~中量	粒径	細粒	種類	鉱物主体 (有色鉱物)	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	LR・RL 羽状縄文 ナデ		にぶい・黄褐色 (7.5YR6/4)	—	—	胴部下半 ~底部 (40~25%)	ナデ (工具のアタリ)	橙色 (7.5YR7/6)	黒色化	—			
	ナデ		にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	—	—	底 面 (20%)	—	(褐灰色)	黒色化	—			
面	—		—	—	—	—	—	—	—	—	面		

表79 J-25区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	11	36	J-25区	V層	—	7	(3.5)	—	7.6	140	胴部下位 ~底部	深鉢	IV群a類
接合破片 総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中~粗粒	種類	岩石主体 (白色岩片)	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	指頭圧痕 無文		浅黄褐色 (10YR8/3)	黒色化	(指紋?)	胴部下位 ~底部 (50%)	—	灰白色 (10YR8/2)	黒色化	剥離			
	—		にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	黒色化	—	底 面 (80%)	—	(褐灰色)	—	剥離			
面	—		—	—	—	—	—	—	—	—	面		

表80 R-27区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
81	12	36	R-27区	V層	—	11	(24.0)	—	—	1,740	胴部中位	深鉢	IV群a類					
接合破片総点数		13	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号(点数)			R-28区・V層・(1), 未注記・不明:1												
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	中～粗粒		種類	岩石主体 (白色岩片)		量	多量	備考	—				
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	—		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		剥離		胴部上半 (5～30%)		ナデ(縦方向) (工具のアタリ)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化		—	
	LR縄文 一部 縦位 回転施文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		剥離		胴部下半～底部 (30%)		ナデ(縦方向) (工具のアタリ)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化		—	

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)							
						小計	合計												
胎土 (混和材)			文様・調整			色調			使用の痕跡										
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面		外面		内面	
82	1	38	BLH-1B	覆土B層	—	1	胴部	8.6	深鉢	IV群a類	—		—		—		—		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文		—		—		灰黄褐色 (10YR5/2)		—		—		—	
82	2	38	BLH-2 b-31区 大規模な礫集中	覆土B層 V層	—	1 2	3	口縁部	47.8	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
中量		粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文 貼付		LR縄文		(口唇部) (貼付) LR縄文		赤褐色 (5YR4/6)		暗褐色 (5YR3/4)		—		黒色化	
82	3	38	BLH-2 Z-32区 大規模な礫集中	覆土B層 V層	—	3 1	4	胴部	167.0	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
中量		中粒		岩石主体		LR縄文		ナデ		—		暗褐色 (5YR3/4)		赤褐色 (5YR4/6)		黒色化 炭化物付着		—	
82	4	38	BLH-2	覆土B層	—	1	胴部	4.8	深鉢	I群	—		—		—		—		
なし		細粒		鉱物主体		1段LR絡糸体 圧痕文 (側面・先端)		ナデ		絡糸体原形 回転圧痕文		明褐色 (10YR6/6)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		—		—	
82	5	38	BLH-2 BLH-2 BLH-2	床面 覆土R層 覆土B層	—	1 2 1	4	胴部	123.0	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
中量		細～中粒		岩石主体		LR・RL結束第1種 羽状縄文		糸痕文		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着		黒色化	
82	6	38	BLH-2	覆土B層	—	1	胴部	48.3	深鉢	III群b類	—		—		—		—		
少量		中粒		岩石主体		LR・RL結束第1種 羽状縄文		糸痕文		—		灰黄褐色 (10YR4/2)		(黒褐色)		黒色化		黒色化	
82	7	38	BLH-2 BLH-2	床面 覆土G層	—	1 1	2	口縁部	42.0	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
少量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR・RL結束第1種 羽状縄文		糸痕文		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		(黒褐色)		—		黒色化	
82	8	38	BLH-2	覆土B層	—	1	口縁部	10.0	深鉢	III群b類	—		—		—		—		
なし		中～粗粒		岩石主体		LR縄文		—		(口唇部) LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化 炭化物付着		—	
82	9	38	BLH-4 BLH-4	床面 覆土	—	4 1	5	胴部	33.7	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
少量		細～中粒		岩石主体		LR縄文		ナデ		—		褐色 (7.5YR4/4)		(黒褐色)		炭化物付着		黒色化	
83	10	38	P-33区 P-36区	V層 V層	—	1 1	2	口縁部	59.3	深鉢	III群b類	—		—		—		石英多量	
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり (石英)		LR縄文		ナデ		(口唇部) ナデ 刺突文 撫紐刻み		黒褐色 (10YR3/2)		黒褐色 (10YR3/1)		黒色化 炭化物付着		—	
83	11	38	Z-32区 X-35区 大規模な礫集中	V層 V層	—	6 1	7	口縁部	114.7	深鉢	III群b類	—		—		—		—	
中量		細～中粒		岩石主体		LR縄文 貼付 半截竹管 刺突文		ナデ		(口唇部) (貼付) 半截竹管 刺突文		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		—		黒色化	
83	12	39	R-24区	V層	—	1	口縁部	20.5	深鉢	III群b類	—		—		—		—		
少量		細粒		岩石主体		半截竹管 刺突文		ナデ		(口唇部) 半截竹管 沈線文		褐色 (7.5YR4/4)		黒褐色 (7.5YR3/1)		—		—	

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類		備考(土器型式)
						小計	合計				外面	内面	
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡		
繊維		粒径		種類	外面		内面	(部位)	外面		内面	外面	内面
83	13	39	b-30区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	20.4	深鉢	III群b類			
少量	細~中粒		岩石主体	沈線文? ナデ	ナデ	(口唇部) 刺突文	橙色 (7.5YR6/6)	明褐色 (7.5YR5/6)	黒色化	黒色化			
83	14	39	b-30区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	21.7	深鉢	III群b類			
少量	中粒		岩石主体	L R 縄文 貼付 半蔵竹管 刺突文	ナデ	(口唇部) 貼付 刺突文	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	褐色 (7.5YR4/4)	—	黒色化			
83	15	39	b-29区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	20.4	深鉢	III群b類		補修孔	
少量	中~粗粒		岩石主体	L R 縄文 貼付	ナデ	(口唇部) 半蔵竹管 刺突文	明黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黒色化	黒色化			
83	16	39	a-30区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	13.4	深鉢	III群b類			
少量	細粒		岩石主体	—	ナデ	(口唇部) 半蔵竹管 刺突文	褐色 (7.5YR5/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	黒色化			
83	17	39	W-33区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	44.3	深鉢	III群b類			
少量	細~中粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R 縄文 貼付	ナデ	(口唇部) (貼付) 半蔵竹管 刺突文	黒褐色 (10YR3/1)	にぶい黄褐色 (10YR3/3)	黒色化	黒色化			
83	18	39	R-24区	V層	—	1	口縁部	24.2	深鉢	III群b類			
中量	細粒		岩石主体	半蔵竹管 刺突文	ナデ	(口唇部) ナデ	明褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	—			
83	19	39	R-31区	V層	—	1	口縁部	12.1	深鉢	III群b類			
少量	細粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R 縄文 貼付	ナデ	(口唇部) (貼付) 半蔵竹管 刺突文	黒褐色 (10YR3/2)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黒色化 炭化物付着	黒色化			
83	20	39	P-37区	V層	—	1	口縁部	34.9	深鉢	III群b類			
少量	細~中粒		岩石主体	L R 縄文 二又状工具 刺突文	ミガキ	(口唇部) ミガキ	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	黒色化			
83	21	39	T-37区	V層	—	2	口縁部	360.0	深鉢	III群b類		北筒式 石英多量	
少量	中~粗粒		岩石・鉱物 ともにあり (石英)	L R 縄文 凹形刺突文 貼付帯 ナデ	ナデ	(口唇部) 貼付帯 半蔵竹管 刺突文	(黒褐色)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	黒色化 炭化物付着	黒色化			
83	22	39	R-33区	V層	—	4	口縁部	97.9	深鉢	III群b類			
少~中量	粗粒		岩石主体	不整な条 貼付 沈線文	ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黒褐色 (10YR3/2)	黒色化	黒色化			
83	23	39	C-25区	V層	—	3	口縁部	58.6	深鉢	III群b類		補修孔	
少量	細粒		岩石主体	L R 縄文 絞絡文	ナデ	(口唇部) ナデ	明褐色 (7.5YR5/6)	暗褐色 (7.5YR3/4)	黒色化	—			
83	24	39	R-34区 U-24区	V層 V層	— —	1 1	2	口縁部	24.0	深鉢	III群b類		
少量	細粒		岩石主体	L R 縄文 刺突文 絞絡文	ミガキ	(口唇部) 刺突文	灰黄褐色 (10YR4/2)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	—	黒色化			
83	25	39	S-35区	V層	—	3	口縁部	28.6	深鉢	III群b類			
少量	細粒		岩石主体	L R 結束第1種 羽状縄文	ナデ	(口唇部) ナデ	褐色 (10YR4/4)	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色化	黒色化			
84	26	39	R-38区	V層	—	4	口縁部	68.1	深鉢	III群b類			
多量	細粒		岩石主体	L R・R L 羽状縄文 絞絡文	ミガキ	(口唇部) 指頭圧痕 による凹み	黒褐色 (5YR4/6)	赤褐色 (5YR4/6)	炭化物付着	黒色化			
84	27	39	R-28区	V層	—	1	口縁部	21.3	深鉢	III群b類			
中量	細粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L 縄文	R L 縄文 ミガキ	(口唇部) R L 縄文	褐色 (10YR4/4)	褐色 (10YR4/6)	—	黒色化			
84	28	39	R-29区	V層	—	1	口縁部	16.3	深鉢	III群b類			
多量	細~中粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L 縄文	R L 縄文 ミガキ	(口唇部) R L 縄文 ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	黒色化			
84	29	39	Q-42区	V層	—	1	口縁部	11.8	深鉢	III群b類			
少量	細粒		岩石主体	L R 縄文	ナデ	(口唇部) ナデ ヘラ調整	灰黄褐色 (10YR4/2)	(黒褐色)	—	黒色化			
84	30	39	E-26区	V層	—	1	口縁部	27.5	深鉢	III群b類			
多量	粗粒		岩石主体	ナデ	ナデ	(口唇部) ナデ 刻み? 指頭圧痕?	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	黒色化	—			
84	31	39	P-30区	V層	—	2	底部	82.8	深鉢	III群b類			
多量	粗粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R 縄文	ナデ 指頭圧痕	(底外面) ナデ R L 縄文 絞絡文	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	黒色化 炭化物付着			
84	32	39	P-37区	V層	—	1	底部	47.1	深鉢	III群b類			
中量	中粒		岩石主体	R L 縄文	ナデ 指頭圧痕	(底外面) —	褐色 (10YR4/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	黒色化			

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考 (土器型式)	
						小計	合計						
胎土(混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡			
繊維		粒径		種類	外面		内面	(部位)	外面		内面	外面	内面
84	33	39	a-31区 大規模な礫集中	V層	—	1		底部	24.1	深鉢	III群b類		
多量		細粒		岩石主体	L R縄文 ナデ		—	(底外面) ミガキ	黄褐色 (10YR5/6)	黒褐色 (10YR3/1)	黒色化	黒色化	
84	34	39	a-28区 大規模な礫集中	V層	—	1		胴部	30.8	深鉢	III群b類		石英多量
多量		中～粗粒		鉱物主体 (石英)	L R縄文 貼付帯		ナデ	(貼付帯) 縄端圧痕文	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	—	黒色化	
84	35	39	W-26区 大規模な礫集中	V層	—	1		胴部	22.6	深鉢	III群b類		石英多量
中量		中粒		鉱物主体	L R縄文 半載竹管 沈線文		ナデ	—	黒褐色 (10YR3/1)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	炭化物付着?	—	
84	36	39	T-33区	V層	—	1		胴部	40.6	深鉢	III群b類		
中量		細粒		岩石主体	L R縄文 絞絡文		ナデ	—	褐色 (10YR4/4)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着	
84	37	39	Q-33区	V層	—	1		胴部	28.2	深鉢	III群b類		
中量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R L縄文		ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着	
84	38	39	R-24区	V層	—	1		胴部	49.7	深鉢	III群b類		
多量		中粒		岩石主体	L R縄文 刺突文		ミガキ	—	(黒褐色)	褐色 (7.5YR4/6)	黒色化 炭化物付着	—	
84	39	39	R-31区	V層	—	2		胴部	18.2	深鉢	III群b類		
少量		中粒		岩石主体	沈線文 押し文 縄文		ミガキ	—	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	
84	40	39	X-28区 大規模な礫集中	V層	—	1		胴部	30.3	深鉢	III群b類		石英多量
多量		粗粒		鉱物主体	L R縄文 貼付帯 沈線文 半載竹管		ナデ	(貼付帯) 縄端圧痕文	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	黒色化	
84	41	39	T-34区	V層	—	1		胴部	15.8	深鉢	III群b類		
中量		細粒		岩石主体	L R縄文 二文状工具 刺突文		ナデ	—	灰黄褐色 (10YR4/2)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	—	
84	42	39	P-37区	V層	—	1		口縁部	69.5	深鉢	IV群a類		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R縄文 貼付帯 円形刺突文		ナデ	(口唇部) L R縄文	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	黒色化	
84	43	39	R-27区	V層	—	1		口縁部	57.4	深鉢	IV群a類		
なし		細粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R縄文 絞絡文		ナデ	(口唇部) L R縄文 ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	
84	44	39	T-39区	V層	—	1		口縁部	42.4	深鉢	IV群a類		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり	L R・R L 縄文 貼付帯		—	(口唇部) (貼付帯) R L縄文 ナデ	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着	—	
84	45	39	X-29区 大規模な礫集中	V層	—	5		口縁部	94.9	深鉢	IV群a類		
なし		中～粗粒		岩石主体	L R・R L 羽状縄文 ナデ		L R・R L縄文 縦横回転 ナデ	(口唇部) L R縄文	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	黒色化	
85	46	39	U-26区	V層	—	1		口縁部	38.0	深鉢	IV群a類		
なし		細～中粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L縄文		R L縄文? ナデ	(口唇部) R L縄文?	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着	黒色化	
85	47	39	R-37区	V層	—	2		口縁部	37.2	深鉢	IV群a類		
なし		粗粒		岩石主体	R L縄文		ナデ	(口唇部) R L縄文 ナデ	(黒褐色)	明黄褐色 (10YR6/6)	黒色化 炭化物付着	—	
85	48	39	b-29区 大規模な礫集中	V層	—	1		口縁部	40.1	深鉢	IV群a類		
なし		中～粗粒		岩石主体	L R縄文		ナデ	(口唇部) L R縄文 ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	
85	49	39	R-28区	V層	—	1		口縁部	20.5	深鉢	IV群a類		
なし		中～粗粒		岩石主体	L R縄文 絞絡文		ナデ	(口唇部) L R縄文? ナデ	(黒褐色)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	黒色化	
85	50	39	V-27区	V層	—	1		口縁部	16.0	深鉢	IV群a類		
なし		粗粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L縄文		—	(口唇部) ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	—	黒色化	—	
85	51	39	T-39区	V層	—	1		口縁部	18.9	深鉢	IV群a類		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L縄文		ナデ	(口唇部) ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	黒色化	
85	52	40	T-33区 R-31区	V層	—	1 1	2	口縁部	37.4	深鉢	IV群a類		
なし		細粒		岩石主体	L R・R L 羽状縄文		L R縄文 ミガキ	(口唇部) L R縄文 ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色化	黒色化	
85	53	40	P-37区	V層	—	1		口縁部	18.7	深鉢	IV群a類		
なし		粗粒		岩石主体	L R縄文		—	(口唇部) L R縄文	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	黒色化	—	

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類		備考(土器型式)		
						小計	合計				外面	内面			
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
85	54	40	c-31区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	16.5	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
少量		細粒		岩石主体		L R 縄文		ミガキ		(口唇部) L R 縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		にぶい黄褐色 (10YR4/3)	
85	55	40	Q-40区	V層	—	1	口縁部	33.6	深鉢	IV群a類	—		黒色化 炭化物付着		
なし		粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R 縄文		L R 縄文 ナデ		(口唇部) L R 縄文 ナデ		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	
85	56	40	O-34区	V層	—	3	口縁部	63.8	深鉢	IV群a類	—		石英多量		
なし		中粒		鉱物主体 (石英)		R R 1段R 絡条体		ナデ		(口唇部) ナデ		褐色 (7.5YR4/4)		(黒褐色)	
85	57	40	P-25区	V層	—	1	底部	68.8	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R 縄文 羽状縄文?		ナデ		(底外面)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		灰黄褐色 (10YR6/2)	
85	58	40	I-24区	V層	—	1	底部	19.1	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石主体		L R・R L 羽状縄文		—		(底外面) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		—	
85	59	40	Q-25区	V層	—	1	底部	48.1	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		粗粒		岩石主体		L R 縄文 縦位回転施文		—		(底外面) ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—	
85	60	40	Y-29区 大規模な礫集中	V層	—	1	底部	37.0	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R 縄文 縦位回転施文		—		(底外面) ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—	
85	61	40	R-25区	V層	—	1	底部	84.5	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
少量		粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R 縄文		ナデ		(底外面) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		褐灰色 (10YR4/1)	
85	62	40	V-35区	V層	—	2	胴部	51.8	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R・R L 縄文 貼付帯		—		(貼付帯) R L 縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—	
85	63	40	b-32区 大規模な礫集中	V層	—	1	底部	78.2	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
多量		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		—		(底内面) R L 縄文 ミガキ		(底外面) ミガキ		(黒褐色)		(黒褐色)	
85	64	40	O-25区	V層	—	1	胴部	162.2	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
中量		中～粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R 縄文 ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		黒色化	
86	65	40	W-29区 大規模な礫集中	V層	—	4	胴部	177.6	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石主体		L R・R L 羽状縄文		L R・R L 縄文 ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		灰黄褐色 (10YR4/2)	
86	66	40	R-25区 Q-25区	V層	—	2	胴部	84.5	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中～粗粒		岩石主体		L R・R L 縄文 貼付帯		ナデ		(貼付帯) L R 縄文		明黄褐色 (10YR6/6)		褐灰色 (10YR4/1)	
86	67	40	R-37区	V層	—	3	胴部	61.9	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		細～中粒		岩石主体		R L 縄文 刺突文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	
86	68	40	R-37区	V層	—	9	胴部	340.0	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石主体		L R・R L 縄文 貼付帯		ナデ		(貼付帯) L R 縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		にぶい黄褐色 (10YR6/3)	
86	69	40	M-28区	V層	—	2	胴部	143.6	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R・R L 縄文 貼付帯		ナデ?		(貼付帯) L R 縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	
86	70	40	V-27区	V層	—	3	胴部	64.1	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
少量		中～粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R・R L 羽状縄文 貼付帯		—		(貼付帯) L R 縄文		明黄褐色 (10YR6/6)		—	
86	71	40	a-31区 大規模な礫集中	V層	—	5	胴部	153.8	深鉢	III群b類?	—		補修孔		
中量		細粒		岩石主体		L R・R L 羽状縄文 一部縦位回転施文		ナデ ミガキ		—		明褐色 (7.5YR5/6)		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	
86	72	40	U-33区	V層	—	6	胴部	134.4	深鉢	III群b類	—		黒色化		
中量		細粒		岩石主体		L R 縄文		ミガキ		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		(黒褐色)	
86	73	40	C-25区	V層	—	2	胴部	37.5	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石主体		L R 縄文 貼付帯		ナデ		(貼付帯) L R 縄文		(黒褐色)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	
86	74	40	V-27区 V-30区	V層	—	1	胴部	91.3	深鉢	IV群a類	—		黒色化		
なし		中粒		岩石主体		L R 縄文 貼付帯		ナデ		(貼付帯) L R 縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	
86	75	40	a-31区 大規模な礫集中	V層	—	7	胴部	123.0	深鉢	III群b類	—		黒色化		
中量		中粒		岩石主体		L R・R L 羽状縄文 一部縦位回転施文		ナデ		—		褐色 (7.5YR6/6)		明褐色 (7.5YR5/6)	

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(5)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)
						小計	合計					
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡	
織様		粒径		種類	外面		内面	(部位)	外面	内面	外面	内面
86	76	40	U-27区	V層	—	11	胴部	—	133.8	深鉢	IV群a類	
中量		中粒		岩石主体	L R 縄文		ナデ	—	明褐色(7.5YR5/6)	(黒褐色)	—	黒色化
87	77	40	D-26区	V層	—	2	胴部	—	44.5	深鉢	IV群a類	
少量		粗粒		岩石主体 皿内縁	不整な条 ナデ		ナデ	—	明褐色(10YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	黒色化	黒色化
87	78	41	J-25区	V層	—	3	胴部	—	84.7	深鉢	IV群a類	
少量		中粒		岩石主体	L R・R L 縄文 ナデ		—	—	にぶい黄褐色(10YR7/4)	—	—	—
87	79	41	Y-28区 大規模な礫集中	V層	—	4	口縁部	—	12.6	深鉢	I群b類	中茶路式
なし		細粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L 縄文 微隆起線文 ナデ		ナデ	(口唇部) ナデ	褐色(7.5YR4/6)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 炭化物付着
87	80	41	W-27区 大規模な礫集中	V層	—	2	口縁部	—	12.0	深鉢	I群b類	中茶路式
なし		細粒		鉱物主体	R L 縄文 微隆起文 ナデ		条痕文 ナデ	(口唇部) ナデ	明褐色(5YR5/6)	橙色(5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	黒色化
87	81	41	X-34区 大規模な礫集中	V層	—	1	口縁部	—	10.4	深鉢	I群b類	中茶路式
なし		中粒		岩石・鉱物 ともにあり	微隆起線文 絡糸体圧痕文 ナデ		ナデ	(口唇部) ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化
87	82	41	c-30区 大規模な礫集中	V層	—	1	底部	—	7.1	深鉢	I群b類	
なし		細粒		岩石・鉱物 ともにあり	R L 縄文 縄線文		ナデ	(底外面) ミガキ	明褐色(7.5YR5/6)	橙色(7.5YR6/6)	—	黒色化 炭化物付着
87	83	41	R-29区	V層	—	5	7	胴部	66.4	深鉢	I群b類	
			W-31区	V層	—	1						
			W-32区	V層	—	1						
少量		細～中粒		岩石主体	L R 縄文 微隆起線 絡糸体圧痕文 ナデ		ミガキ	—	明黄褐色(10YR7/6)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着
87	84	41	c-30区 大規模な礫集中	V層	—	6	胴部	—	84.2	深鉢	I群b類	
少量		細粒		岩石主体	R L 縄文 微隆起線文 ナデ		ナデ	—	にぶい黄褐色(10YR5/3)	(黒褐色)	黒色化 (赤色化)	黒色化 炭化物付着
87	85	41	X-28区 大規模な礫集中	V層	—	5	6	胴部	28.5	深鉢	I群b類	
			Y-28区 大規模な礫集中	V層	—	1						
少量		細粒		岩石主体	短縄文 微隆起線文 ナデ		ミガキ	—	にぶい黄褐色(10YR4/3)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 炭化物付着
87	86	41	—	V層	—	4	胴部	—	11.1	深鉢	IV群b類	手箱式
なし		中粒		岩石主体	R L 縄文 沈線文		ミガキ	—	灰黄褐色(10YR5/2)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着
87	87	41	U-26区	I層	—	2	頸部	—	98.1	甕	VII群	
なし		細粒		岩石・鉱物 ともにあり	沈線文 ナデ ミガキ		ミガキ	—	にぶい黄褐色(10YR6/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 炭化物付着
87	88	41	—	V層	—	1	胴部	—	25.2	深鉢	VII群	
なし		細粒		岩石主体	ミガキ		ミガキ	—	にぶい黄褐色(10YR5/3)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	黒色化 炭化物付着
87	89	41	P-21区	V層	—	1	胴部	—	21.8	深鉢	V群?	
多量		中～粗粒		岩石主体	L R 縄文 沈線文		ナデ	—	にぶい黄褐色(10YR6/4)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(1)

図 号	掲載 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
88	1	43	BLH-1	覆土B層	—	スクレイパー	(3.2)	1.4	0.5	2.1	黒曜石	小球果	準完形	背面両側縁に刃部	
88	2	43	BLH-1	床面	15	スクレイパー	2.9	2.0	1.0	5.2	黒曜石	—	完形	背面周縁に刃部	
88	3	43	BLH-1B	覆土B層	—	石槍・ナイフ	5.5	2.5	0.7	5.5	黒曜石	—	完形	背面ふくらみ	
88	4	43	BLH-1B	覆土B層	—	石槍・ナイフ	5.0	2.4	0.8	8.9	黒曜石	—	完形	両面広い剥離面	
88	5	43	BLH-2	覆土G層	—	石鏃	2.9	1.5	0.3	1.2	黒曜石	—	完形	腹面広い剥離面	
88	6	43	BLH-2	覆土B層	—	石鏃	(3.4)	(1.3)	0.4	1.3	黒曜石	梨肌状	完形	背面右側縁基部破損	
88	7	43	BLH-2	覆土B層	—	石槍・ナイフ	5.2	2.9	0.9	8.0	黒曜石	—	完形	背面広い剥離面	
88	8	43	BLH-2	覆土B層	—	つまみ付きナイフ	7.0	3.5	1.0	19.5	頁岩	暗灰黄色 2.5YR4/2	完形	背面周縁に刃部 腹面つまみ部分加工	
88	9	43	BLH-2	覆土B層	—	つまみ付きナイフ	7.9	4.7	1.1	19.5	頁岩	暗灰黄色 2.5YR5/2	完形	背面両側つまみ部分破損	
88	10	43	BLH-3	覆土	—	石鏃	3.0	1.9	0.4	1.7	黒曜石	—	準完形	腹面広い剥離面	
88	11	43	BLH-3	覆土	—	スクレイパー	3.8	1.3	0.7	2.2	黒曜石	—	完形	両側縁先端破損	
88	12	43	BTP-4	覆土B1層	—	石鏃	(1.8)	(1.0)	(0.3)	0.4	黒曜石	—	片	小型 背面広い剥離面	
88	13	43	BTP-6	覆土	—	石鏃	5.7	2.1	0.8	6.9	黒曜石	—	完形	両面剥離	
88	14	43	BLFC-1	V層	—	石鏃	(1.4)	(2.2)	(0.3)	0.8	黒曜石	—	半形	腹面剥離 溝	
88	15	43	BLFC-1	V層	—	石鏃	(2.3)	(2.5)	(0.5)	2.9	黒曜石	—	半形	両面剥離 溝	
88	16	43	BLFC-2	V層	3	石槍・ナイフ	5.6	2.4	0.6	6.5	黒曜石	—	完形	腹面剥離面	
89	17	48	BLH-1	床面	13	磨製石斧	9.2	5.7	2.5	197.5	緑色泥岩	緑灰色 7.5Y5/1	準完形	研磨 敲打 剥落 刃部なし	
89	18	48	BLH-1ph-15	覆土B層	—	磨製石斧	6.2	3.9	1.2	45.4	緑色泥岩	オリーブ灰色 10Y4/2	完形	研磨 剥落	
89	19	48	BLH-1	覆土B層	11	台石・石皿	20.5	17.0	4.1	1,950	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	すり面 基部剥離	被熱
89	20	48	BLH-2	覆土G層	—	たたき石	14.3	6.6	3.2	281.8	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	完形	両面凹状のたたき痕	
89	21	48	BLH-3	覆土	—	磨製石斧	(8.9)	(4.0)	(1.5)	56.8	緑色泥岩	オリーブ灰色 10Y4/2	半形	敲打 剥落 原礫面	被熱?
89	22	48	BLFC-2	V層	6	磨製石器	12.1	4.5	2.7	207.0	緑色泥岩	暗オリーブ灰色 2.5Y4/1	完形	全面敲打	
90	1	43	I-24区	V層	—	石鏃	3.0	1.3	0.3	0.9	黒曜石	—	完形	腹面広い剥離面 腹面基部加工	
90	2	43	P-38区	V層	—	石鏃	4.8	1.3	0.5	2.3	黒曜石	—	完形	—	
90	3	43	P-38区	V層	—	石鏃	4.5	2.4	0.8	5.4	黒曜石	赤色化	完形	腹面剥離面	
90	4	43	Q-37区	V層	—	石鏃	2.2	1.2	0.3	0.5	黒曜石	—	完形	小型 腹面剥離 基部破損	
90	5	43	Q-37区	V層	—	石鏃	4.8	1.9	0.8	4.2	黒曜石	赤色化	完形	両面広い剥離面	
90	6	43	R-32区	V層	—	石鏃	2.8	1.2	0.5	0.8	黒曜石	—	完形	小型 背面左側縁破損	
90	7	43	Y-27区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	2.5	1.5	0.6	1.6	黒曜石	小球果 筋状	完形	基部内湾	
90	8	43	Y-31区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	6.7	1.9	1.3	11.5	頁岩	黒褐色 2.5Y3/2	完形	腹面ふくらみ	
90	9	43	Y-32区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	4.9	1.7	0.5	3.2	黒曜石	—	完形	腹面広い剥離面 基部内湾	
90	10	43	Z-29区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	(4.1)	1.8	0.6	3.7	頁岩	暗灰黄色 2.5Y4/2	完形	先端部破損 基部内湾	
90	11	44	Z-30区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	5.7	2.9	1.1	12.8	頁岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	準完形	背面ふくらみ 基部破損	
90	12	44	a-29区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	(4.25)	1.2	0.6	2.1	黒曜石	—	完形	基部破損	
90	13	44	a-29区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	2.4	0.9	0.4	0.6	黒曜石	—	完形	小型	
90	14	44	a-31区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	5.7	2.0	0.7	8.4	頁岩	灰黄褐色 10YR5/2	完形	—	
90	15	44	c-31区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	3.4	1.6	0.5	1.9	黒曜石	—	完形	基部内湾 背面左側縁破損	
90	16	44	M-29区	V層	—	石槍・ナイフ	8.7	2.6	1.1	18.1	黒曜石	—	完形	—	
90	17	44	T-36区	V層	—	石槍・ナイフ	7.0	2.1	1.1	11.3	黒曜石	赤色化	完形	背面ふくらみ	
90	18	44	U-24区	V層	—	石槍・ナイフ	7.6	2.7	1.1	13.8	黒曜石	—	完形	—	
90	19	44	Z-31区 大規模な礫集中	V層	—	石槍・ナイフ	(6.85)	3.3	0.9	16.3	黒曜石	小球果 筋状	準完形	先端部破損	
90	20	44	a-33区 大規模な礫集中	V層	—	石槍・ナイフ	7.5	3.0	1.2	22.9	チャート	黒褐色 2.5Y3/1	完形	両面厚み	
90	21	44	M-29区	V層	—	石鏃	(2.8)	2.6	1.0	4.6	黒曜石	—	準完形	上部部・先端部 破損	
90	22	44	b-31区 大規模な礫集中	I層	—	石鏃	4.1	1.9	0.8	3.5	黒曜石	—	準完形	上部部破損 腹面加工	
90	23	44	b-32区 大規模な礫集中	V層	—	石鏃	4.5	0.8	0.7	2.1	頁岩	黒褐色 10YR3/2	完形	背面ふくらみ 腹面加工	
91	24	44	M-27区	V層	—	つまみ付きナイフ	3.9	4.8	1.2	13.4	黒曜石	—	完形	つまみ部分破損 腹面つまみ部分加工	
91	25	44	X-30区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	8.3	2.2	0.9	15.2	頁岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	背面広い剥離面 腹面上半部分加工	
91	26	44	X-31区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	6.8	4.4	0.7	21.4	頁岩	黒褐色 10YR3/1	完形	背面広い剥離面 背面右側縁破損 背面右側縁黒色化 腹面つまみ部分加工	
91	27	44	Y-30区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	9.0	3.6	0.8	22.6	頁岩	暗灰黄色 2.5Y4/2	完形	背面広い剥離面 腹面つまみ部分加工	
91	28	44	Y-32区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	6.9	2.8	0.7	8.1	黒曜石	赤色化	完形	背面広い剥離面 背面右側縁破損	
91	29	44	Z-30区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	6.4	2.1	1.1	11.5	チャート	灰白色 2.5Y8/1	完形	腹面つまみ部分加工 先端部少し破損	
91	30	44	Z-30区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	4.1	0.3	0.8	7.9	頁岩	黒褐色 2.5Y3/1	完形	背面広い剥離面 腹面つまみ部分加工	
91	31	44	Z-31区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	5.3	3.5	0.9	14.8	頁岩	黄灰色 2.5Y4/1	完形	背面広い剥離面 腹面つまみ部分加工	
91	32	44	Z-34区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	7.5	2.6	1.2	24.0	チャート	(灰黄褐色)	完形	腹面つまみ部分加工 腹面先端部破損	
91	33	44	a-30区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	5.8	2.3	1.1	14.9	チャート	(灰黄褐色)	完形	背面広い剥離面 腹面つまみ部分加工	
91	34	44	b-31区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	4.5	3.2	0.7	7.3	頁岩	黒色 7.5YR2/1	完形	背面広い剥離面 腹面つまみ部分加工	
91	35	44	b-32区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	7.8	6.2	1.0	25.8	頁岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	腹面右側縁加工 腹面右側縁つまみ部分加工	
91	36	44	b-33区 大規模な礫集中	V層	—	つまみ付きナイフ	4.5	5.6	0.9	18.3	頁岩	黄灰色 2.5Y4/1	完形	背面広い剥離面 背面左側縁加工 腹面左側縁つまみ部分加工	
92	37	44	Q-37区	V層	—	スクレイパー	8.5	4.8	1.3	35.2	黒曜石	赤色化 球果	完形	両面下部に刃部 背面左上部原礫面	
92	38	44	R-28区	V層	—	スクレイパー	(9.5)	(3.9)	(1.1)	22.4	黒曜石	小球果	準完形	上部破損 背面両側縁に刃部 背面下部原礫面 背面右側縁刃部 背面左側縁原礫面	
92	39	44	R-38区	V層	—	スクレイパー	4.4	3.1	1.7	21.0	黒曜石	小球果	完形	背面右側縁刃部 背面広い剥離面 腹面上部原礫面	
92	40	44	V-36区	V層	—	スクレイパー	5.4	4.2	1.3	23.2	黒曜石	小球果	完形	背面広い剥離面 腹面上部原礫面	
92	41	44	W-30区 大規模な礫集中	V層	—	スクレイパー	(8.6)	(2.5)	(0.9)	16.2	黒曜石	小球果	完形	上部破損 両側縁刃部 背面広い剥離面	

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(2)

図 番号	掲載 図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴				
92	42	44	Z-30区 大規模な樫集中	V層	—	スクレイパー	7.6	4.4	1.5	43.8	黒曜石	小球果 筋状	完形	内面加工 腹面左側縁に刃部	
92	43	44	Z-32区 大規模な樫集中	V層	—	スクレイパー	7.3	2.9	1.1	12.9	黒曜石	—	完形	背面周縁刃部 左側縁下部破損・原礫面	
92	44	44	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	スクレイパー	4.0	4.9	1.6	26.6	黒曜石	小球果 筋状	完形	背面下部部 原礫面	
92	45	44	b-31区 大規模な樫集中	V層	—	スクレイパー	3.1	3.6	1.3	13.1	頁岩	黒色 10YR2/1	完形	背面周縁刃部 両面被熱によるほじけ	被熱
92	46	44	b-33区 大規模な樫集中	V層	—	スクレイパー	8.0	3.1	1.4	32.1	チャート	(灰黄褐色)	完形	上下破損 背面右側縁に刃部 背面広い割離面	
93	47	45	S-37区	V層	—	石核	7.9	9.1	2.9	247.6	チャート	(灰白色)	完形	原礫面 割離面	
93	48	45	Y-29区 大規模な樫集中	V層	—	石核	5.0	11.2	6.7	410	チャート	(灰白色)	完形	原礫面 割離面	
93	49	45	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	石核	2.6	7.3	8.2	200	チャート	(灰白色)	完形	原礫面 割離面	
94	50	48	S-26区	V層	—	磨製石斧	10.3	3.9	1.5	103.9	緑色泥岩	オリープ灰色 10Y6/2	完形	全面研磨 剥落	
94	51	48	S-38区	V層	—	磨製石斧	(9.8)	4.3	1.9	134.7	緑色泥岩	オリープ灰色 5GY5/1	完形	全面研磨 剥落 上部破損	
94	52	48	T-30区	V層	—	磨製石斧	10.1	3.5	1.8	96.9	緑色泥岩	緑灰色 7.5GY5/1	完形	全面研磨 一部剥落	
94	53	48	X-33区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	7.9	1.9	1.1	24.5	緑色泥岩	黒色 2.5GY2/1	完形	上部被熱 裏面上部割落・研磨	
94	54	48	Z-29区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	6.3	2.9	0.8	20.1	緑色泥岩	オリープ灰色 5GY5/1	完形	研磨 剥落 裏面割落	被熱
94	55	48	a-30区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	8.9	4.1	2.4	136.6	緑色泥岩	緑灰色 7.5GY5/1	完形	研磨 剥落 敲打	
94	56	48	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	10.4	4.2	2.3	162.7	緑色泥岩	オリープ灰色 5GY5/1	完形	研磨 剥落 上部破損	
94	57	48	a-32区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	9.0	3.0	1.3	55.2	緑色泥岩	暗緑灰色 7.5GY3/1	完形	研磨 剥落	擦切り 被熱
94	58	48	a-32区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	11.7	4.9	2.7	211.9	緑色泥岩	暗緑灰色 7.5GY3/1	完形	研磨 剥落	被熱
94	59	48	c-29区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	8.7	3.6	1.2	55.1	緑色泥岩	オリープ灰色 5GY5/1	完形	一部剥落	擦切り
94	60	48	c-29区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	14.7	5.4	2.4	250.6	緑色泥岩	オリープ灰色 2.5GY5/1	完形	研磨 敲打 剥落	
94	61	48	c-32区 大規模な樫集中	V層	—	磨製石斧	(10.3)	3.7	1.9	132.6	片岩	暗青灰色 5B3/1	完形	研磨 剥落 上部破損	
95	62	48	X-29区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	13.0	5.6	4.3	350	凝灰岩	にふい黄色 2.5Y6/3	完形	全面凹状たたき痕	
95	63	48	Y-29区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	(13.3)	7.8	5.0	700	砂岩	黒褐色 2.5Y3/2	完形	上下面破損 裏面凹状たたき痕 裏面左側たたき痕	被熱 (赤色化)
95	64	48	Y-30区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	12.9	4.6	4.0	360	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	全面凹状たたき痕	
95	65	48	Y-31区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	12.6	5.6	2.5	200	凝灰岩	黄褐色 2.5Y5/3	片	両面凹状たたき痕	
95	66	48	Y-32区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	(7.5)	6.6	3.5	216.4	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面たたき痕 上面破損	
95	67	48	Y-34区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	11.8	5.2	2.8	160.0	凝灰岩	にふい黄色 2.5Y6/4	完形	両面凹状たたき痕 下面たたき痕 一部割離	
95	68	48	a-30区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	4.9	5.7	4.5	173.9	緑色泥岩	暗オリープ灰色 5GY4/1	完形	上面破損 下面たたき痕	
95	69	48	a-33区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	13.6	7.8	4.3	400	凝灰岩	にふい黄色 2.5Y6/3	完形	上面破損 両面凹状たたき痕	
95	70	48	b-32区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	7.0	5.7	4.4	282.0	緑色泥岩	オリープ灰色 2.5GY5/1	完形	上下面たたき痕	
95	71	49	b-33区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	8.6	5.7	2.6	249.9	緑色泥岩	緑灰色 10GY5/1	完形	研磨 敲打 たたき痕	
95	72	49	c-30区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	7.3	5.7	4.3	234.2	花崗岩	(灰白色)	完形	上下面たたき痕	
95	73	49	c-32区 大規模な樫集中	V層	—	たたき石	4.4	4.5	4.4	148.7	緑色泥岩	緑灰色 10GY6/1	完形	各面たたき痕	
95	74	49	—	V層	—	たたき石	11.0	9.3	4.7	650	花崗岩	(灰白色)	完形	表面右側たたき痕	
96	75	49	G-27区	V層	—	サリ石	10.6	17.5	8.0	1,600	砂岩	黒褐色 2.5Y3/1	完形	下面すり痕 一部剥落	被熱 (赤色化)
96	76	49	T-24区	V層	—	サリ石	(10.3)	(13.2)	(3.4)	560	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	完形	下面すり痕・破損	
96	77	49	X-30区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	15.0	20.5	3.8	1,650	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	完形	下面すり痕	
96	78	49	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	5.8	9.6	3.5	180.8	凝灰岩	にふい黄色 2.5Y6/3	完形	下面すり痕 表面すり痕	
96	79	49	Y-30区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	9.5	16.1	5.2	1,050	凝灰岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	下面すり痕 左右破損 一部黒色化	
97	80	49	Y-31区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	8.3	15.0	7.0	1,040	片岩	オリープ灰色 2.5GY5/1	片	各面すり痕 上面たたき痕	
97	81	49	Y-33区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	9.4	11.3	6.4	960	砂岩	暗灰黄色 2.5Y4/2	完形	下面すり痕 裏面割離	
97	82	49	Z-30区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	11.2	14.9	3.3	670	砂岩	暗灰黄色 5Y4/2	完形	下面すり痕	
97	83	49	a-33区 大規模な樫集中	V層	—	サリ石	(7.8)	(14.9)	(5.5)	710	片岩	青灰色 5BG6/1	片	下面すり痕 裏面割離	
98	84	49	S-29区	V層	—	北海道式石冠	17.0	18.8	4.5	1,510	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面すり痕 側面・裏面 敲打による加工	
98	85	49	S-33区	V層	—	北海道式石冠	9.9	10.9	3.9	520	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	片	下面すり痕 上面・側面 敲打による加工	
98	86	49	X-35区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	12.5	(16.2)	5.2	980	砂岩	暗灰黄色 2.5Y4/2	準完形	下面すり痕 上面・側面 敲打による加工	
99	87	50	Y-30区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	15.1	20.3	4.6	1,400	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面すり痕 側面敲打による加工	
99	88	50	Z-30区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	12.6	18.7	6.3	1,430	凝灰岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面すり痕 側面敲打による加工	
99	89	50	Z-30区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	15.5	20.3	4.1	1,430	凝灰岩	暗灰黄色 2.5Y4/2	片	下面すり痕 側面敲打による加工	被熱
100	90	50	a-29区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	8.5	9.5	2.8	510	緑色泥岩	オリープ灰色 2.5GY6/1	完形	上下面すり痕 側面敲打による加工	
100	91	50	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	(5.6)	10.2	4.0	350	緑色泥岩	暗オリープ灰色 2.5GY4/1	片	側面敲打による加工	
100	92	50	a-32区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	17.4	20.5	5.5	1,800	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	上下面すり痕 側面敲打による加工	
100	93	50	a-32区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	16.1	17.3	5.4	1,245	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面すり痕 上面・側面 敲打による加工	
101	94	50	b-31区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	10.0	10.3	3.6	745	緑色泥岩	暗緑灰色 10GY3/1	完形	下面すり痕 両面研磨 側面・側面 敲打による加工	
101	95	50	b-33区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	13.5	13.5	4.5	850	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	下面すり痕 側面敲打による加工	
101	96	50	a-31区 大規模な樫集中	V層	—	北海道式石冠	15.5	(12.8)	4.7	1,150	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	下面すり痕 上面・側面 敲打による加工	
102	97	50	S-27区	V層	—	石錘	(8.4)	11.8	3.2	430	砂岩	黒褐色 2.5Y3/1	半形	左右破損による加工 上部破損 下部破損	
102	98	50	V-29区	V層	—	石錘	9.4	10.4	2.5	291.9	礫岩	黒褐色 2.5Y3/1	完形	左右破損による加工 裏面割離	

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(3)

掲載 図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
102	99	50	X-28区 大規模な埋集中	V層	—	石錘	6.8	(6.3)	2.3	124.3	片麻岩	(黒褐色)	半形	左側敲打による加工 右側破損	
102	100	51	Y-31区 大規模な埋集中	V層	—	石錘	6.8	11.9	3.1	278.0	砂岩	暗灰黄色 2.5YR4/2	完形	左右敲打による加工 下部破損	
102	101	51	Z-30区 大規模な埋集中	V層	—	石錘	8.6	16.1	2.5	450	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	片	左右敲打による加工 裏面破損	
102	102	51	Z-31区 大規模な埋集中	V層	—	石錘	6.2	8.5	1.8	119.5	凝灰岩	黄褐色 2.5YR5/3	完形	左右敲打による加工	
103	103	51	P-26区	V層	—	砥石	16.2	7.7	7.5	1,360	凝灰岩	灰色 7.5YR4/1	完形	すり面2か所 上下破損	
103	104	51	Q-29区	V層	—	砥石	(20.5)	14.2	3.4	1,000	凝灰岩	灰オリーブ色 5Y5/3	片	両面にすり面 一部黒色化	
103	105	51	T-31区	V層	—	砥石	10.6	14.7	3.6	650	凝灰岩	暗灰黄色 2.5YR4/2	完形	両面にすり面 上下破損	
103	106	51	X-31区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	9.7	7.6	3.3	274.7	凝灰岩	暗灰黄色 2.5YR5/2	片	すり面 裏面破損	
103	107	51	X-32区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	21.6	18.0	6.3	2,820	砂岩	灰オリーブ色 5Y5/3	片	すり面 裏面破損	
104	108	51	Y-29区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	18.5	12.9	5.0	1,350	砂岩	黄褐色 2.5Y5/3	片	両面にすり面	被熱
104	109	51	Y-29区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	24.5	23.3	4.7	2,900	凝灰岩	黄褐色 2.5Y5/4	片	すり面 裏面	被熱
104	110	51	a-30区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	12.3	11.5	4.9	500	凝灰岩	灰黄色 2.5Y6/2	片	両面にすり面	
104	111	51	a-32区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	13.4	7.0	4.0	325	礫岩	灰オリーブ色 5Y6/2	片	すり面 上下・裏面破損	被熱
104	112	51	a-33区 大規模な埋集中	V層	—	砥石	10.3	11.1	3.1	360	凝灰岩	灰オリーブ色 5Y5/2	片	すり面 上下・裏面破損	
105	113	52	R-33区	V層	—	台石・石皿	9.5	(8.4)	2.0	240	砂岩	オリーブ黒色 5Y3/2	片	両面凹状のたたき痕 左右破損	
105	114	52	V-28区	V層	—	台石・石皿	25.6	21.5	5.7	4,820	片麻岩	(灰白色)	完形	すり面	
105	115	52	X-34区 大規模な埋集中	V層	—	台石・石皿	(19.4)	13.3	5.8	2,500	砂岩	黄褐色 2.5Y5/3	完形	たたき痕	
105	116	52	Z-31区 大規模な埋集中	V層	—	台石・石皿	18.2	19.8	5.6	1,720	凝灰岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	すり面 一部黒色化	
105	117	52	U-35区	V層	—	台石・石皿	35.7	25.5	11.5	14,400	砂岩	黄褐色 2.5Y5/3	完形	たたき痕	
106	118	53	X-15区	V層	—	台石・石皿	42.7	48.2	11.0	18,900	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	完形	すり面	接合
106	119	53	X-35区 大規模な埋集中	V層	—	台石・石皿	31.5	46.6	9.0	11,700	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	たたき痕	
107	120	54	Q-34区	V層	—	台石・石皿	42.5	30.6	13.5	29,000	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/3	完形	中央にすり面	
107	121	54	R-40区	V層	—	台石・石皿	(42.3)	26.5	13.0	20,000	砂岩	黄灰色 2.5Y4/1	片	たたき痕	
108	122	45	Q-27区	V層	—	石製品	4.7	2.2	0.9	10.3	凝灰岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	研磨 刃部剥離	磨製石斧
108	123	45	Q-43区	V層	—	玉	(2.2)	(1.7)	(0.6)	2.6	蛇紋岩	オリーブ灰色 10Y6/2	準完形	裏面剥離 穴	
108	124	45	R-27区	V層	—	石製品	(9.5)	(1.7)	(1.2)	14.5	黒曜石	—	準完形	各面原礫面 棒状原石 先端加工	
108	125	45	R-31区	V層	—	石製品	4.5	4.8	1.1	29.3	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	左右敲打による加工	石錘
108	126	45	V-32区	I層	—	原石	10.4	10.8	8.5	810.0	チャート	(灰白色)	完形	石英原石	
108	127	45	W-33区 大規模な埋集中	V層	—	石製品	5.3	2.3	1.3	27.0	タルク岩	オリーブ灰色 10Y4/2	完形	全面研磨	孔
108	128	45	Z-32区 大規模な埋集中	V層	—	石錘	4.6	4.4	1.3	28.9	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	左右敲打による加工	石製品
108	129	54	a-31区 大規模な埋集中	V層	—	いかり石	(13.6)	(12.2)	3.6	760	砂岩	暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面・左側たたき面 下部すり面	
108	130	45	c-30区 大規模な埋集中	V層	—	石製品	3.8	2.2	0.7	6.8	凝灰岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	完形	研磨 刃部あり	磨製石斧

VII章 まとめ

1. 出土遺物の集計・分布

本遺跡の包含層出土の遺物は、A地区は土器5,101点、石器等12,200点、B地区は土器13,434点、石器等186,948点で、合わせて土器18,535点、石器等199,148点、合計217,683点が出土した。これらの遺物はIV～VI章で地区と層位ごとに掲載した。ここでは、これらの包含層出土の遺物のあり方を示すため、遺物登録台帳を元に出土点数表・出土分布図を作成した。二次整理作業を進めていくにつれ、遺物の一次分類作業での判断、認識、記載等で誤りがみられたが、時間的な猶予がないため、これらは訂正していない。しかし、遺物の出土傾向を述べるのに支障はないと考える。

(1) 出土点数表 (表83～88)

A地区の土器はIV群が約81%で最も多く、ついでIII群約16%、VII群約1%である。他にI・II・V群があり、II群としたものは時期分類の誤りである。B地区は約85%がIV群と最多で、ついでIII群が約11%、I群が約2.8%である。また極少数V群・VII群も出土した。両地区の土器は小破片が約70%で、IV群は剥離も多い。

剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイクがある。A地区ではフレイクが約96%で、ついで石鏃、スクレイパーである。いずれも黒曜石製が多い。B地区もフレイクが約13万点出土し99%を占める。ついで多いのは石鏃245点で、U・Rフレイク、つまみ付きナイフ、石核、スクレイパーの順である。

礫石器は、両地区ともに磨製石斧、たたき石、砥石、台石・石皿が多く、すり石、北海道式石冠、石錘は少ない。石製品は、A地区から巻貝化石、B地区では玉などがみられ、点数は少ない。

レキは多く出土し、両地区ともに礫石器等の90%以上を占める。加工・使用痕がみられるもの(U・Rレキ)と、人為的に持ち込まれた自然礫(レキ)があり、石材は、遺跡が立地する厚真川上流の山間部に多い砂岩、凝灰岩等の脆弱な堆積岩である。

両地区の石器等の点数はA地区に比してB地区が多く、これは竪穴住居跡やフレイク集中、大規模な礫集中等の遺構がB地区にあり、A地区にはこれらがなく、Tピットが多いことに関連があると推測される。

(2) 出土分布図 (図109～129)

共通する事項として、A地区は調査区の北東側部分、B地区は北側部分からの出土が少ない。すなわち概して遺跡の中央付近から南側部分に多い。またB地区のK～N・25～29ライン部分も遺物が少ない。これはグリッド交点M・N-25で調査区中央の沢へ流れ込む沢の影響と考えられる。

土器 「I群」はQラインより南側から出土し、特にB地区のc-30区に多い。「III群」は、A地区は中央から南側付近、B地区は北側と中央～南側部分にみられる。100点を超えるのは、A地区のN-17区、d-20区、B地区のBLH-4が位置するR-38区である。「IV群」はA・B両地区の北側と中央～南側付近から出土し、点数が多いグリッドであっても、その周囲では全く出土していない地点もみられ、小破片が多いIV群の特徴といえる。A地区のF-19区、B地区のP-37・39区が特に多い。「V群」はA地区の南側とB地区の北側で少数出土した。「VII群」はA地区のUラインから北側で散在的な出土である。B地区は調査区中央の沢近くで少量出土した。

剥片石器 「石鏃」は散在的な出土で、若干多いのはR-32・33区で、ここにはBLFC-1があ

土器 I 群

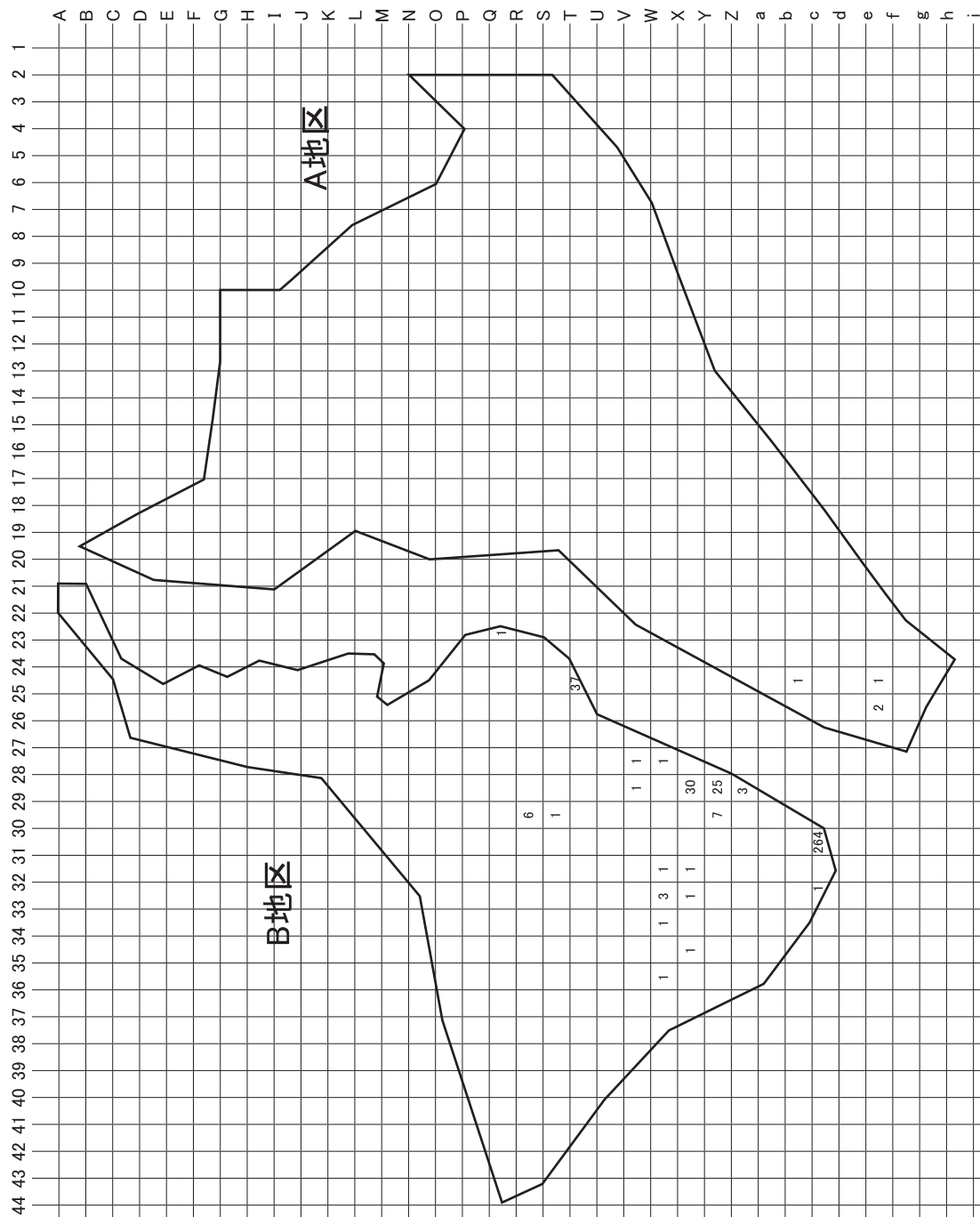
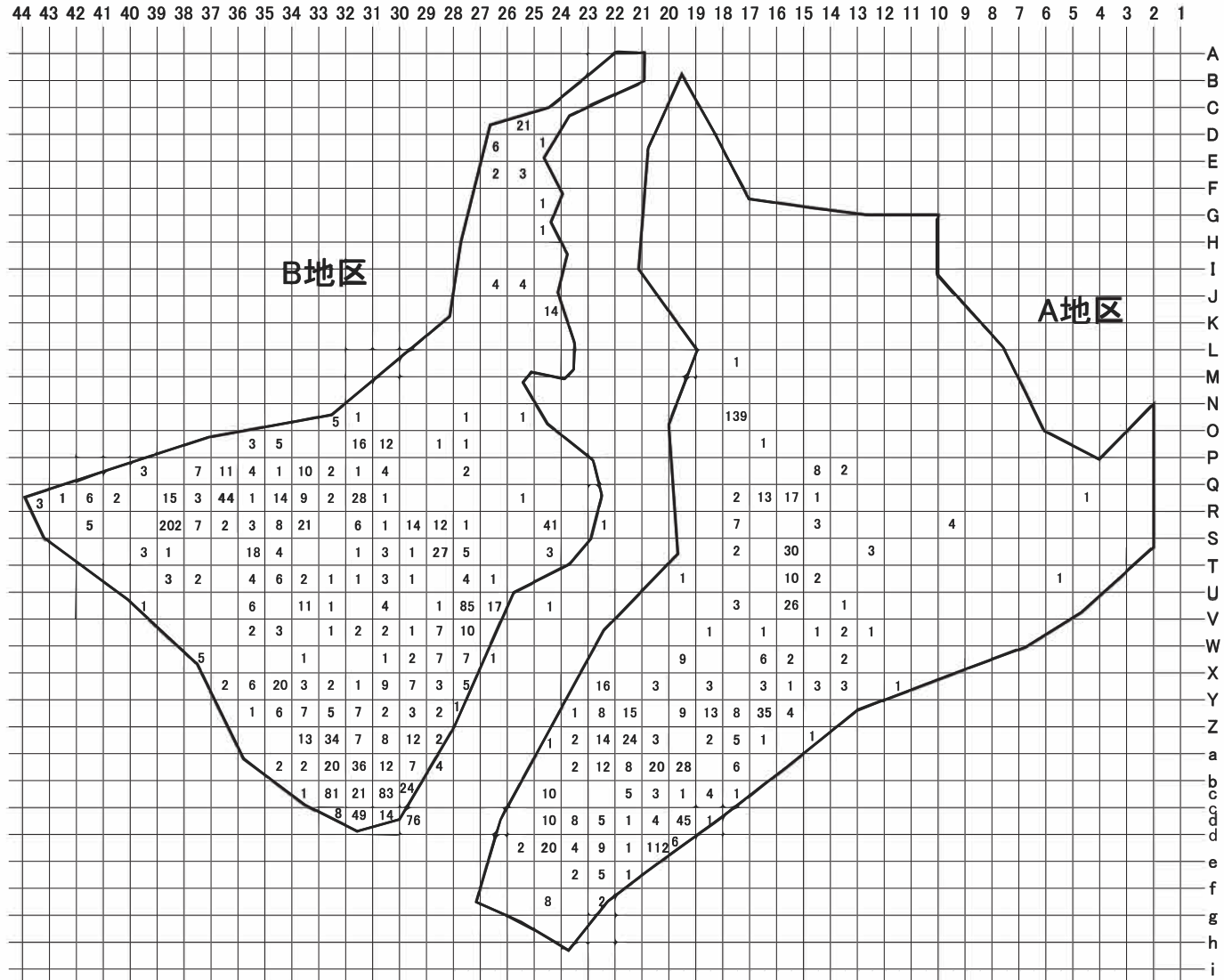


图109 包含層 I 群土器出土分布图

土器Ⅲ群



土器V群

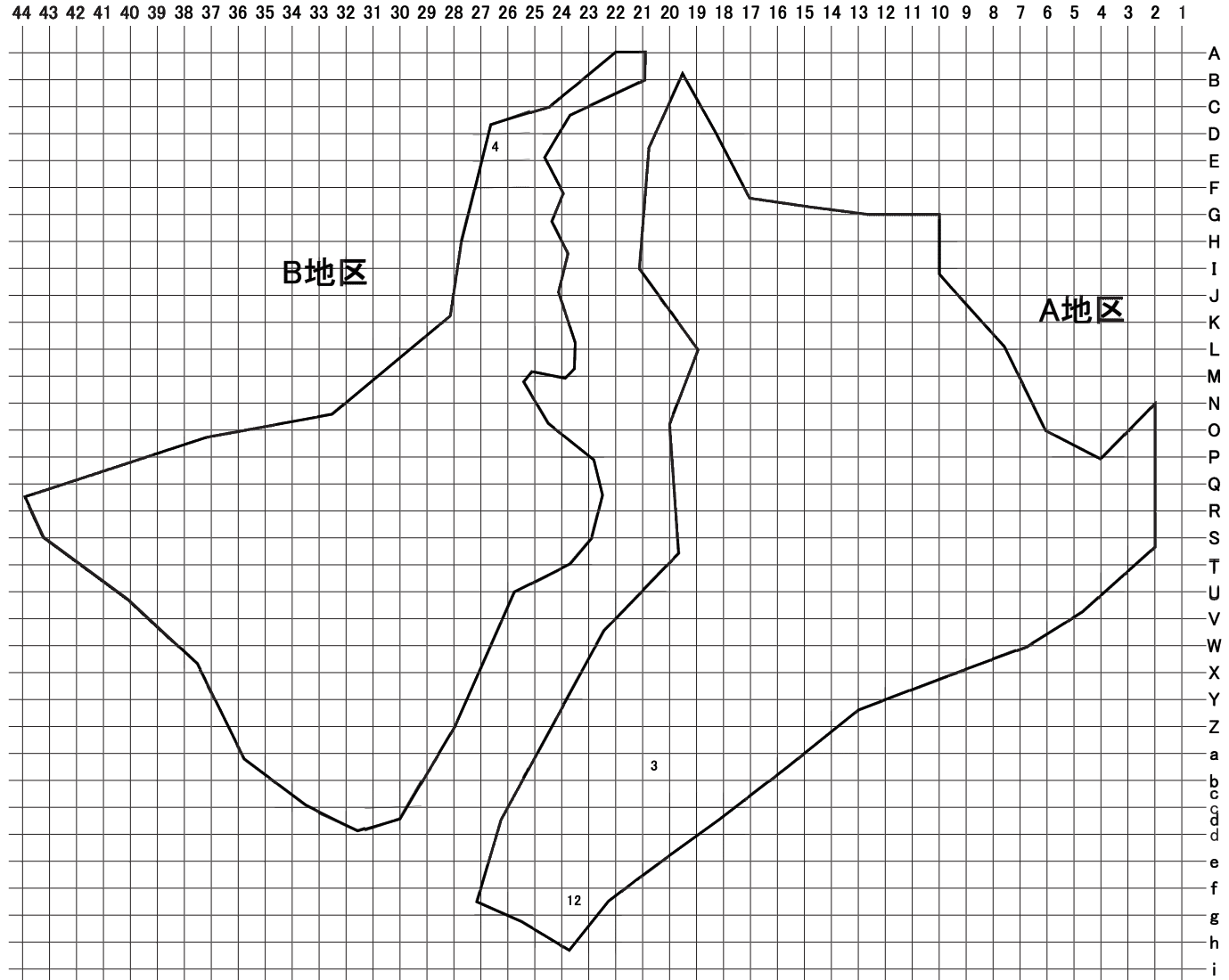


图112 包含層V群土器出土分布图

土器Ⅶ群

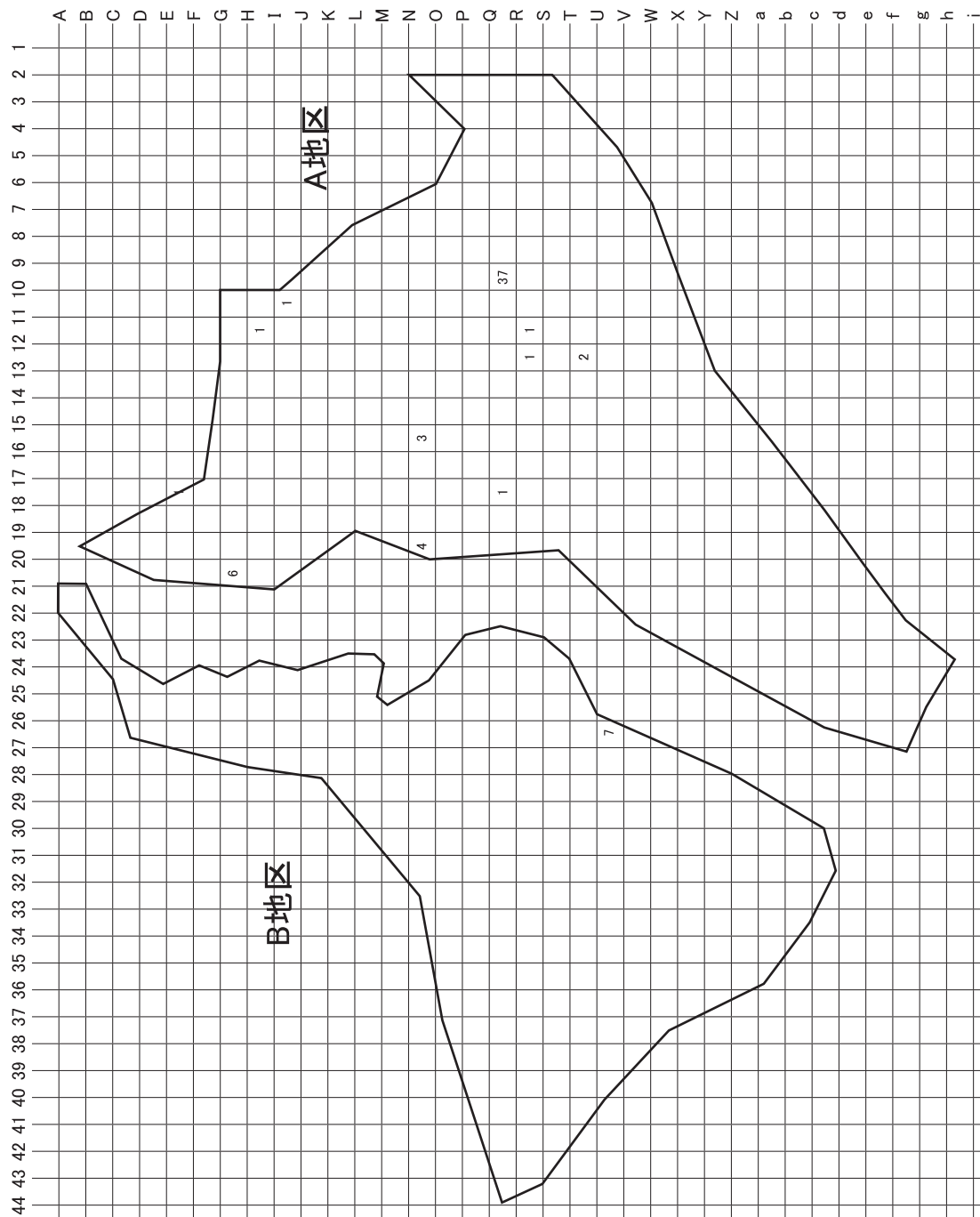


图113 包含層Ⅶ群土器出土分布图

石鏃

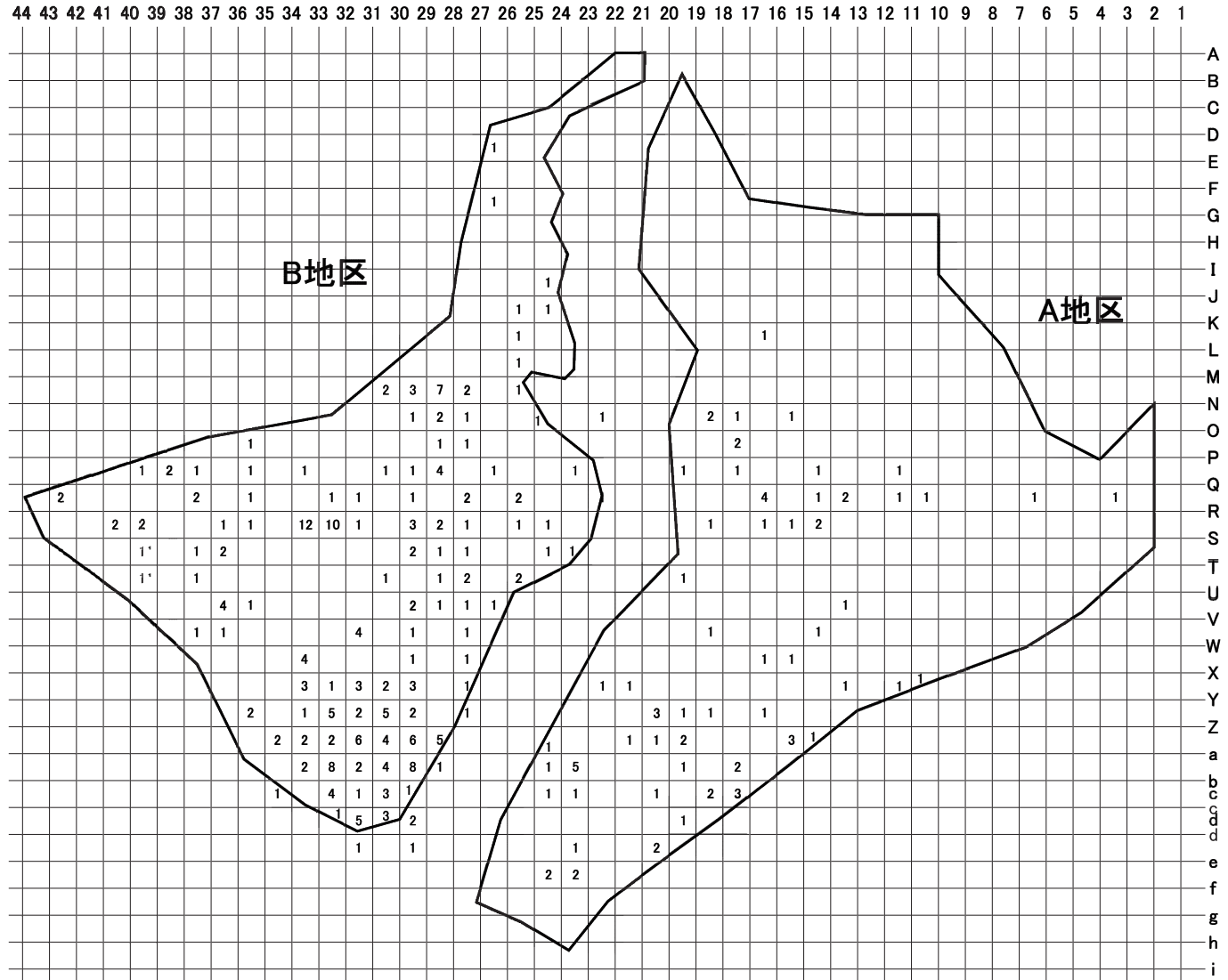


図114 包含層石鏃出土分布図

石槍・ナイフ

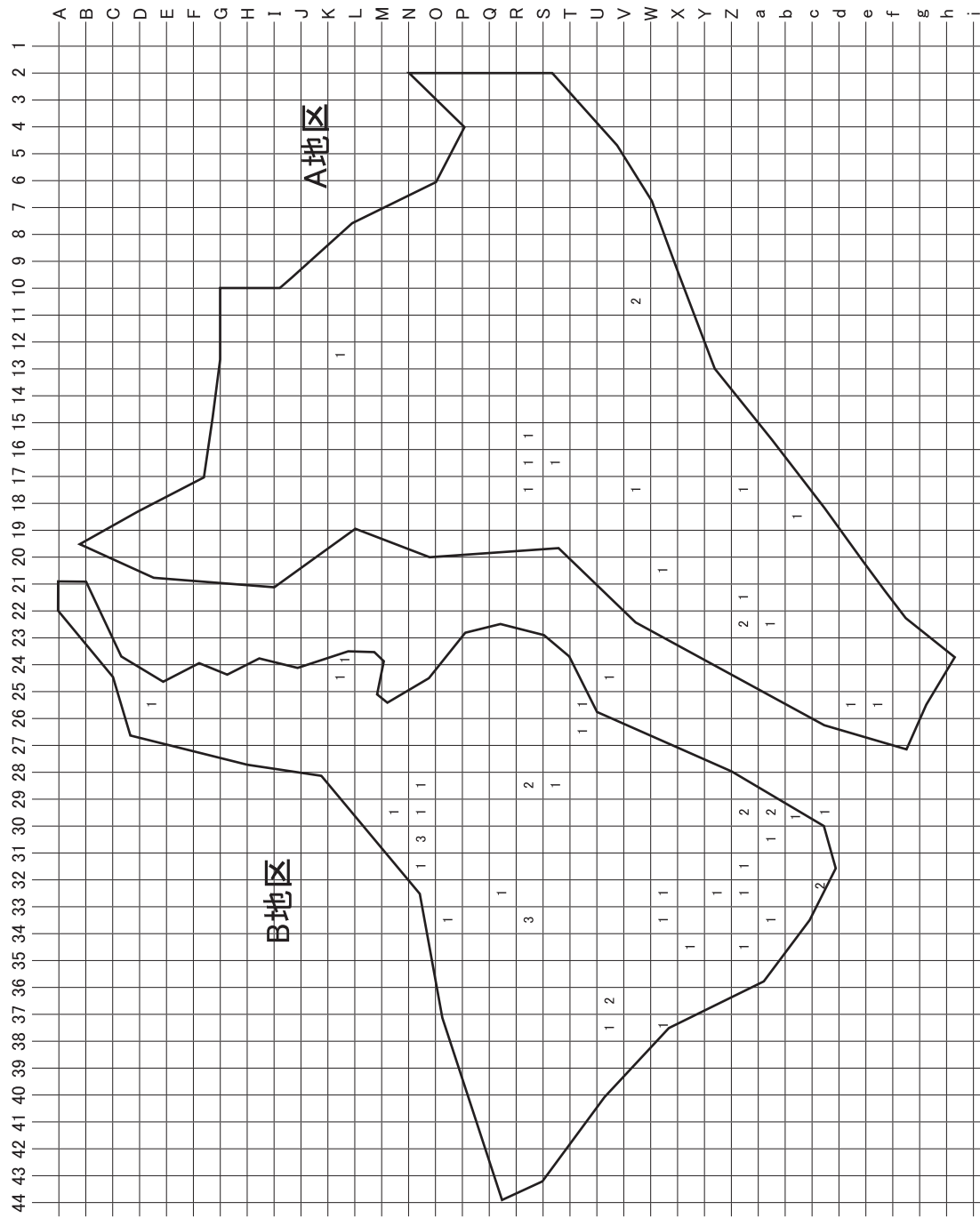


図115 包含層石槍・ナイフ出土分布図

U・Rフレイク

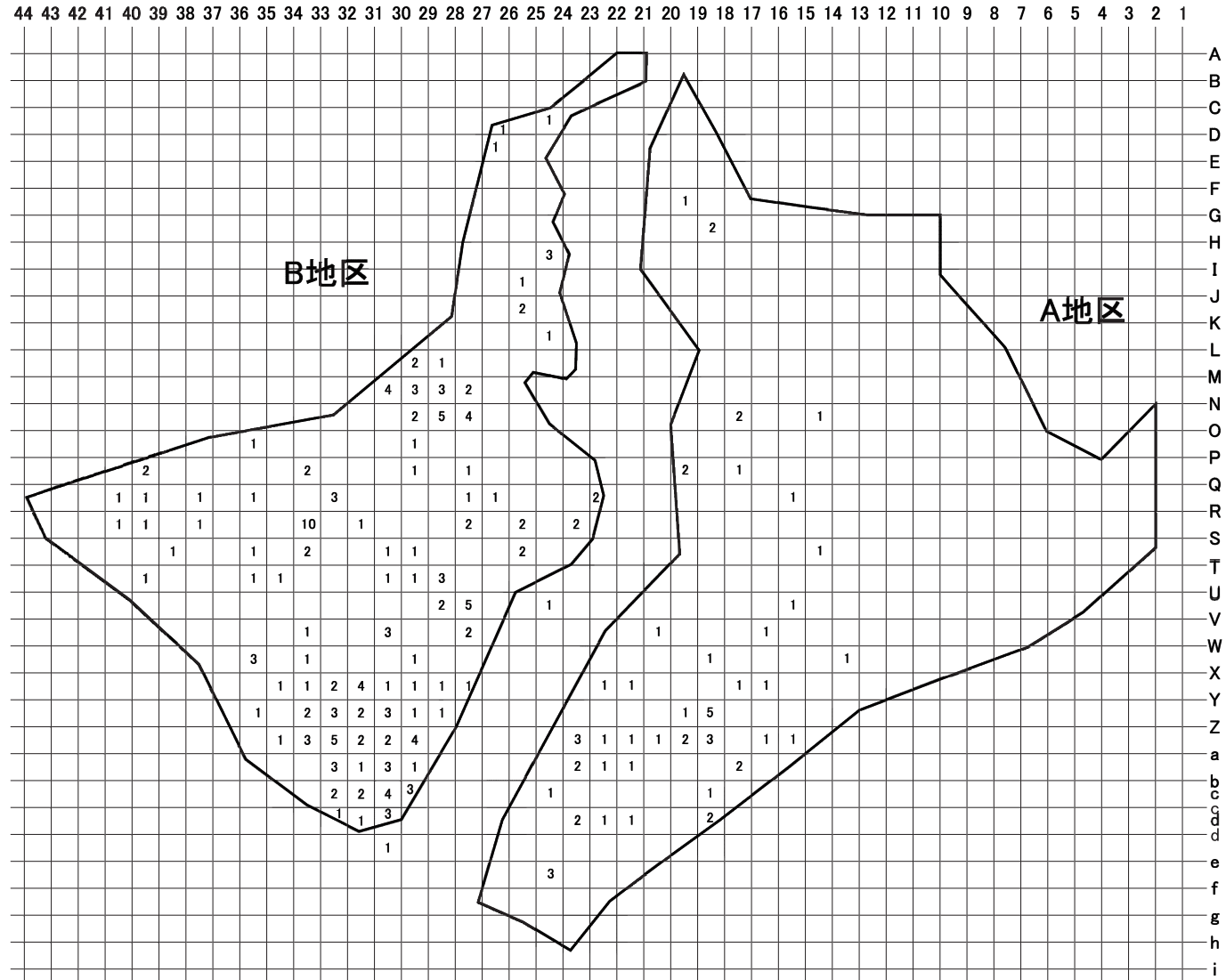


図118 包含層U・Rフレイク出土分布図

磨製石斧

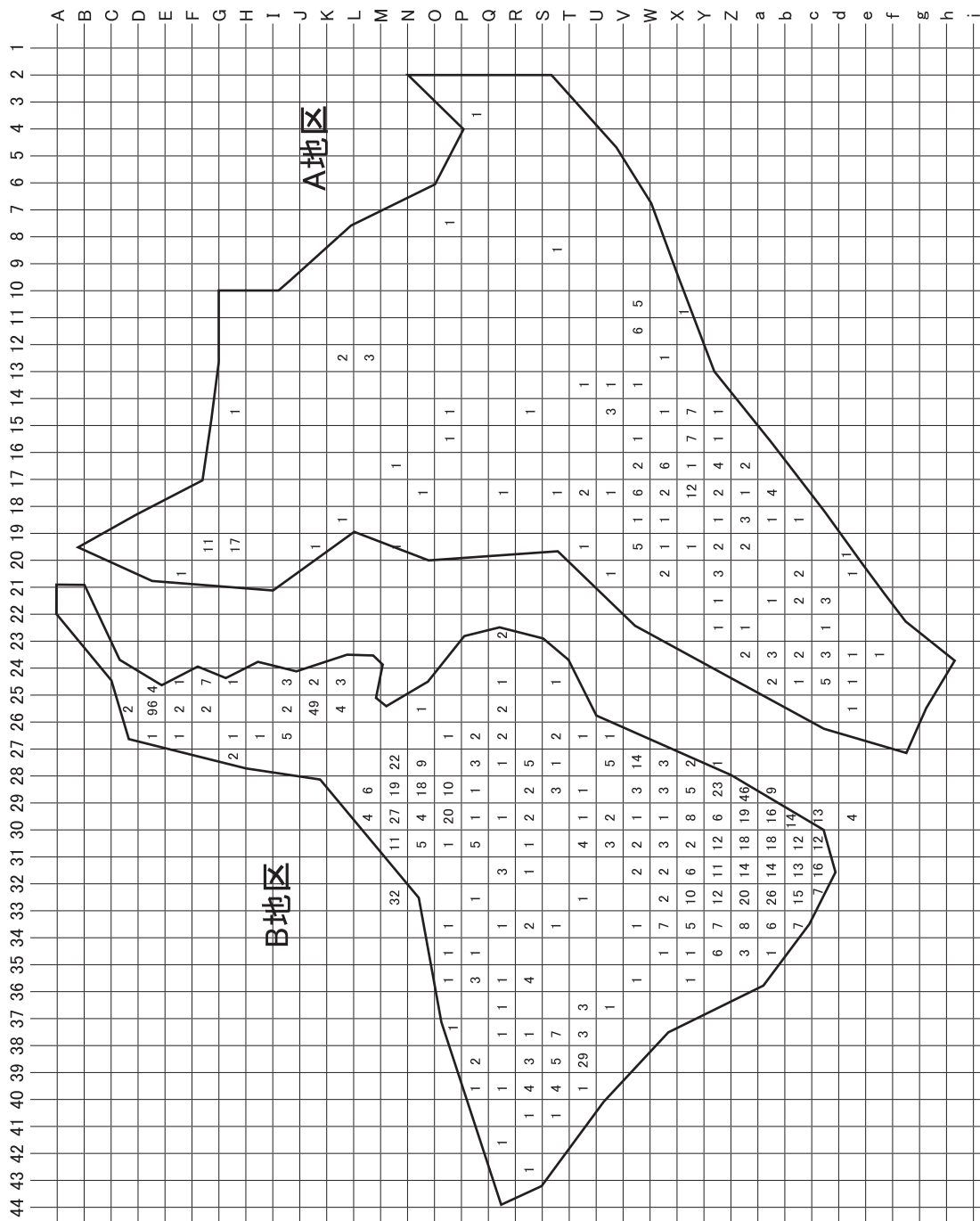


图121 包含層磨製石斧出土分布图

石錘

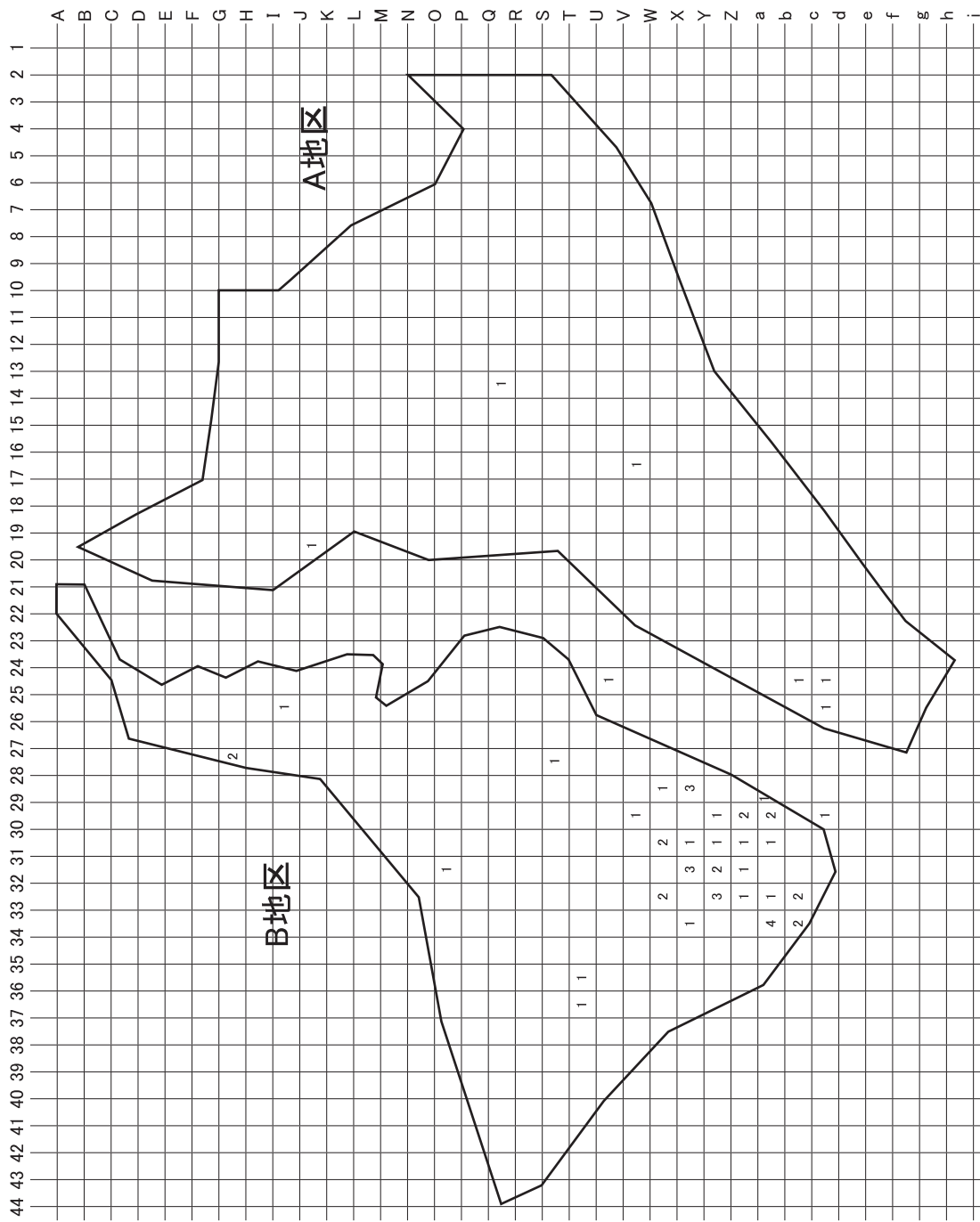


图125 包含層石錘出土分布图

砥石

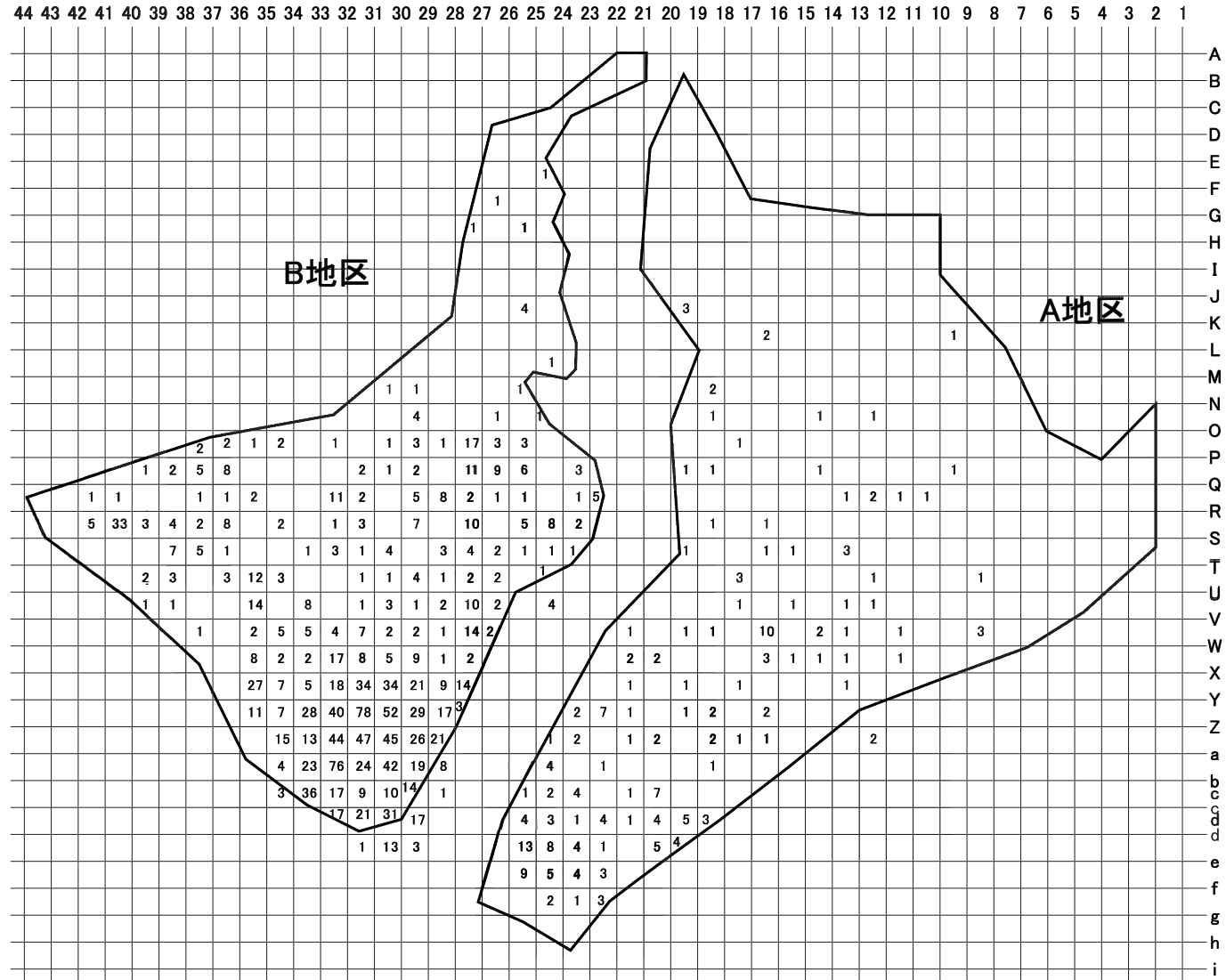


図126 包含層砥石出土分布図

台石·石皿

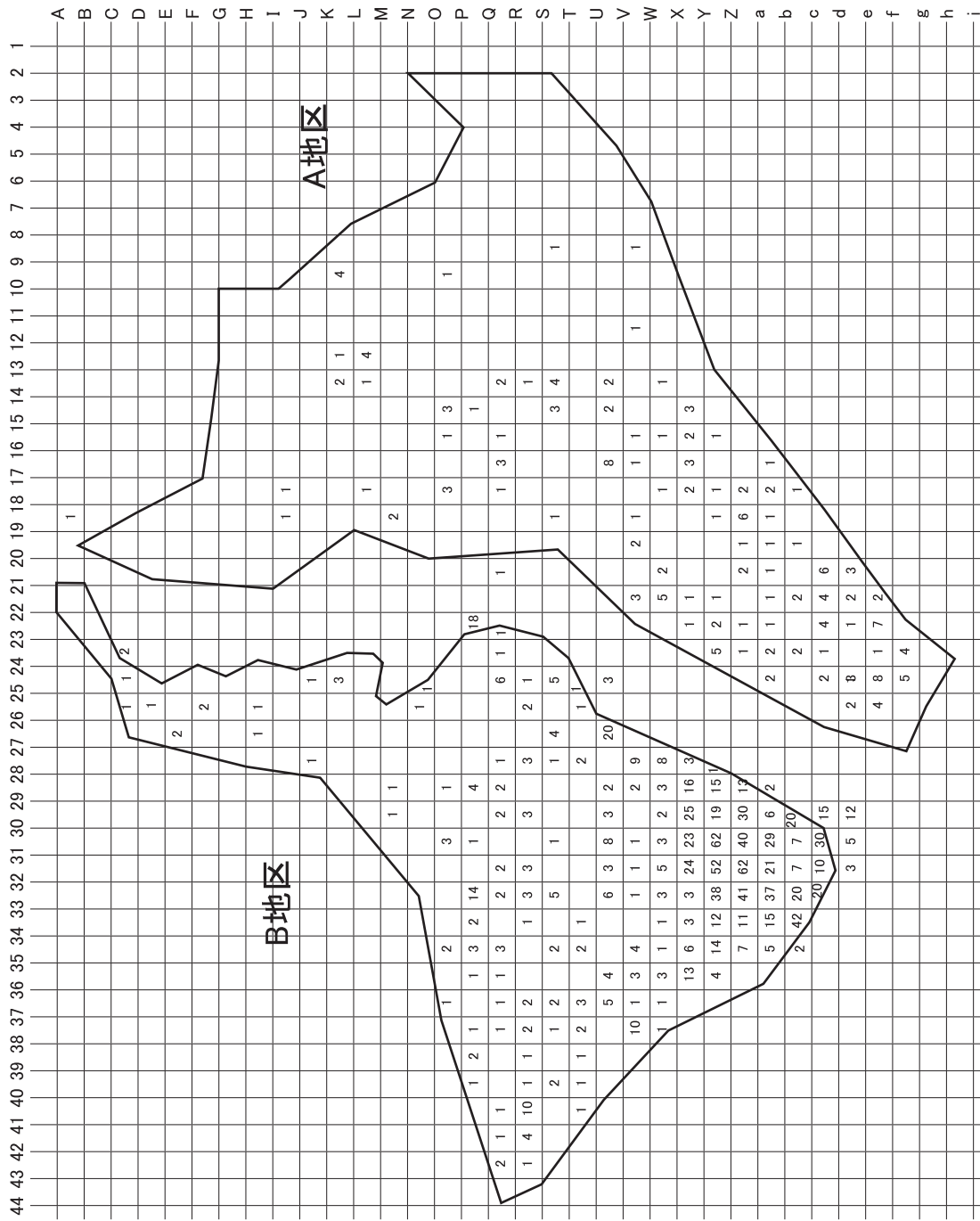


图127 包含层台石·石皿出土分布图

U・Rレキ

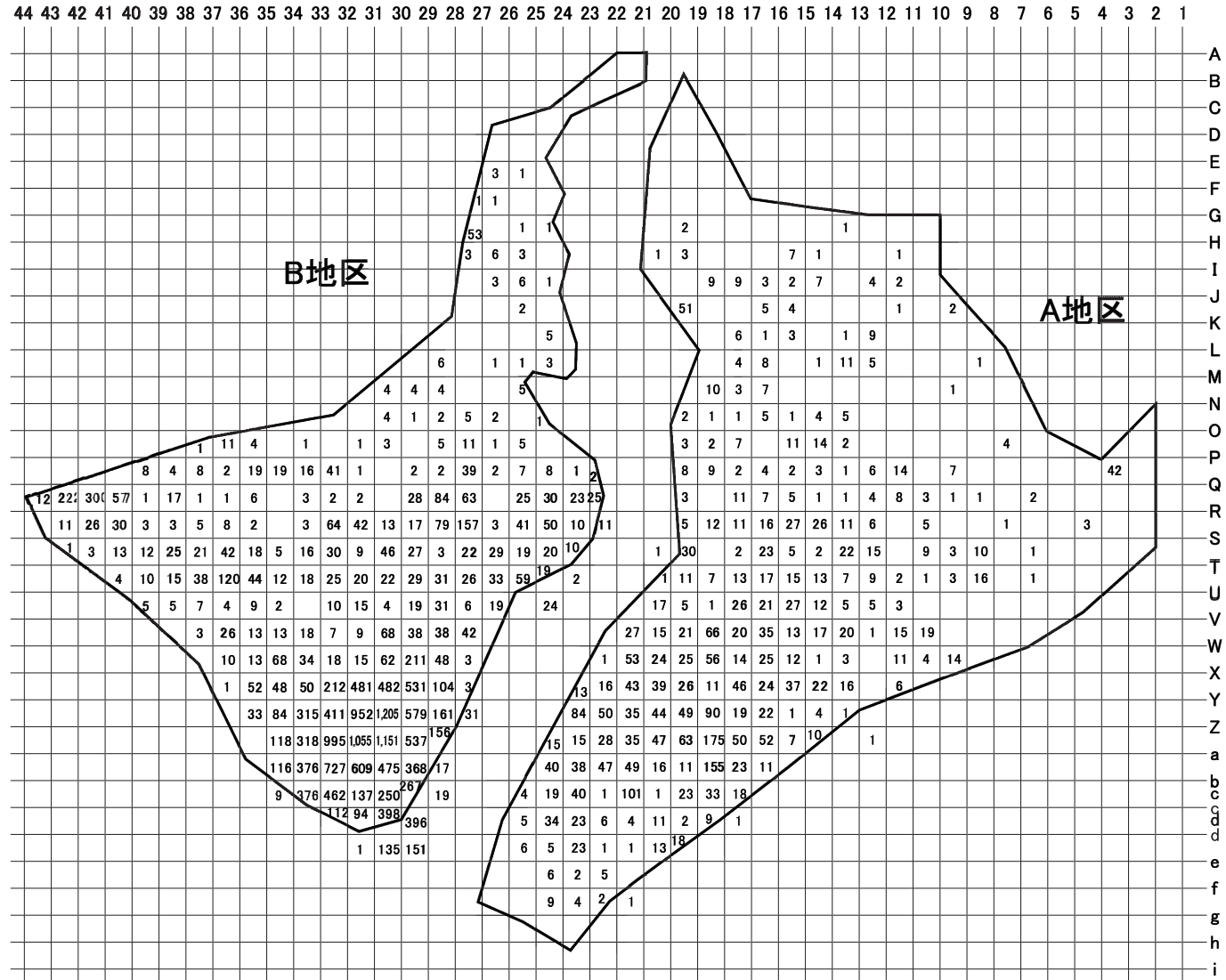


図128 包含層U・Rレキ出土分布図

る。「石槍・ナイフ」は調査区全体から散漫な出土である。「つまみ付きナイフ」は、A地区では調査区中央の沢沿いのグリッドでみられ、B地区では大規模な礫集中の場所に多い。「スクレイパー」と「U・Rフレイク」は、A・B両地区ともに散在的で、BLH-1・3・4、BLFC-1、大規模な礫集中付近に多い。「フレイク」はさらに広く、A地区ではN-17区が最多で、B地区ではBLFC-1が位置するグリッドから125,148点が出土し、その西と南側のグリッドも多い。また、BLH-1とBLFC-4、大規模な礫集中の地点でも多い。

礫石器・レキ 「Ⅲ層礫石器」はA地区のほぼ全体にみられ、東側と北側部分では少なく、多いのはH・I-11・12・15・16区、T・U-10~13区、W-9・12区、W~Y-15・16区、X-19区、b-18区、d-23区で、擦文文化期後期~中世アイヌ文化期の遺構の位置と一致する。「磨製石斧」・「たたき石」は概ね全体にみられ、A地区の中央からやや南側、B地区はBLH-1・3と大規模な礫集中付近に多い。「すり石」・「北海道式石冠」・「石錘」は大規模な礫集中付近に多い。「砥石」・「台石・石皿」・「U・Rレキ」・「レキ」は調査区全体にみられ、大規模な礫集中に多い。

2. 自然遺物

(1) 動物遺存体 (表89・90)

炉跡AUFの土壌は水洗浮遊選別法で自然遺物を回収した。被熱した「焼骨」がほとんどで、陸獣骨(シカ)と考えられ、AUF-1・4・11・12・13以外からみつがっている(AUF-5は未実施)。また、AUF-12でみられた「マイマイ」は、餌を求めて自ら移動し混入したと判断される。

大規模礫集中のV層で多くみられた骨片は、大きいものでも長径0.5cm程度、脆弱で白色味が強く内部組織がつぶれている。「被熱した「焼骨」には魚骨等のみられず、多くが陸獣骨、特にシカと推定され、部位は四肢の破片と判断される」(東海大学 内山准教授による簡易鑑定)。

(2) 植物遺存体 (表90)

確認した種子は、アカザ、エノコログサ、カヤツリグサ、コメ?、スギナ、タラノキ、ハギ、ブドウ、ホオノキ、マタタビで、科まで同定するのは、オオバコ科・キク科・シナノキ科?・タデ科・バラ科である。カヤツリグサ以外は食用と推測する。

また、縄文時代のBLH-3からは動植物遺存体はみつからなかった。

水洗浮遊選別法で出土した人工遺物について (表90)

黒曜石の微細なフレイクが、Ⅲ層のAUF-3・13から極微量、縄文時代後期初頭のBLH-3から出土した。また、AUF-7では鉄器の小破片がみつかった。

3. 自然科学的分析結果の評価

(1) 放射性炭素年代測定結果の評価について (表91) (付篇1・2)

本遺跡で調査した、A地区Ⅲ層の遺構と両地区の縄文時代の遺構について詳細な年代を知るため、放射性炭素年代測定を行った。付篇で示された結果のうち、暦年較正年代について、標準偏差をもとに新しいものから順に並べたものが表91である。

アイヌ文化期~擦文文化期

最も新しいのはAUS-5の礫の集中部分から出土した試料(IK3-5)の15世紀末葉~17世紀初頭で、標準偏差の百分率の値が低いことを踏まえても最新値である。ついで、建物跡AUPS-4の焼土AUF-4(IK3-2)、建物跡AUPS-2の焼土AUF-6(IK3-4)、建物跡AUPS-3の焼土AUF-3(IK3-1)で、14世紀末葉~15世紀中頃である。さらに、礫集中AU

S-6 (IK3-8)、礫集中AUS-5の炭化物集中出土の2点の試料 (IK3-7・6) で、前者は13世紀前半～後半であり、後二者は12世紀中頃～13世紀前半・中頃である。AUF-5 (IK3-3) と礫集中AUS-7 (IK3-9) はともに12世紀中頃～13世紀前半である。

以上の結果を、時代の古い順から整理すると、当該時期で最も古い年代の遺構はAUF-5とAUS-7である。AUF-5は北側に位置し、付近にAUS-1・4があり、周辺の包含層からはⅦ群の擦文土器も出土した。AUS-7は南側に位置し、周辺は遺構や遺物が少ない。AUS-5の炭化物集中 (IK3-6・7) は同時期と判断され、これらは礫の集中部分から若干離れた南側に位置し、礫の集中部分出土の試料 (IK3-5) と約400年の差がある。AUS-5として調査した遺構は、北側の礫の集中部分と南側の炭化物集中部分は時期が異なると考えられる。AUS-6は近くにAUF-9・11がある。AUF-3 (建物跡AUPS-3) とAUF-6 (建物跡AUPS-2) は測定結果からは同時期で、両建物跡は近接する。AUF-4 (建物跡AUPS-4) は、これらよりもやや南側にあり、最も新しいものがAUS-5の礫の集中部分である。本遺跡のⅢ層は他の遺跡と比べて、遺構数は少ないが、擦文文化期後期～中世アイヌ文化期末葉の間、継続して人が活動していたと推測される。1標準偏差での年代値の幅は50年以内で、一つの遺構が利用された時間 (一世代) を示唆するものかもしれない。

縄文時代

A地区の石組炉ALFRS-1 (IK3-10) は3千8百年前で縄文時代後期初頭、B地区の竪穴住居跡BLH-4 (IK3-11) は4千5百年前で同中期後半である。後者からは柏木川式土器の復原個体が出土している。

その他

B地区で調査したBLP-2 (IK3-12) は約4万9千年の結果である。1標準偏差での「ばらつき」は68.2%で、2標準偏差 (95.4%) では、今回採用したプログラム「IntCal13」 (平成25 (2013) 年) が較正可能な範囲を超えたとある。BLP-2 (図70 図版29) は大規模な礫集中の範囲内にある土坑で、遺構の南西部分の壁ぞいから、炭化材が形状を保って出土した。土器は出土していないが、磨製石斧・たたき石・砥石等の礫石器が出土し、縄文時代の遺構と考えられる。遺構の坑底面はTard 2層である。分析結果の「pMC (percent Modern Carbon)」と「Libby Age (yrBP)」付篇2 表1・2) に注目すると、前者は「 $0.35 \pm 0.02\%$ 」で、現代 (1950AD) の炭素試料を100%とした場合の割合で1%未満と極端に小さく、「Libbyの半減期」から算出される年代は「 $45,530 \pm 460\text{yrBP}$ 」である (1標準偏差)。現状では、発掘方法や分析の手順に問題点がみつからないため、結果値の要因を評価できないが、本例のように予想と違った結果の事例も、原因を究明していかねばならない。

(2) 鉄製品の保存処理と材質分析 (付篇3)

本遺跡から出土した鉄製品は、針 (No.1)・鉄鍋 (No.2)・棒状品 (No.3)・鍬先 (No.4) である。これらは中世アイヌ文化期と考えられる。鉄製品は保存処理と成分分析を外部委託業務で行ったので、その概要を記す。

保存処理の工程

①遺物の現状と記録類の確認→②デジタルカメラによる処理前写真撮影→③X線透過写真撮影→④さび落とし→⑤脱塩処理→⑥含浸処理 (パラロイドNAD-10 30%ソルベントナフサ溶液) →⑦充填補強 (エポキシパテ)・着色 (岩絵具) →⑧デジタルカメラによる処理後写真撮影→⑨梱包 (ポリプロピレン製に、酸素吸着剤・シリカゲルとともに収納)

(分析の方法)

組織観察は金属顕微鏡を用い、非金属の介在物質をみつけ「EPMA分析」で特定し、化学分析は「ICP発光分析法」により、含有する元素（20種類）の量を測定した。

（分析の結果）

針・棒状品・鋏先は鋼製で、セメントイトやその痕跡から炭素量0.5%未満の「亜共析鋼」が素材である。非金属介在物質の種類は、針・鋏先はガラス質ケイ酸塩、棒状品はチタノマグネタイト様の鉱物相、鋏先には鉄チタン化合物がみられ、針は、棒状品や鋏先とは異なる製作場所である可能性が高い。鉄鍋は銑鉄を素材として鑄造され、リン（P）の含有量が多い。鉄製品に含有されるニッケル（Ni）・コバルト（Co）・銅（Cu）の含有量の比のプロット図では、針・鉄鍋（領域A）、棒状品（領域B）は近接し、鋏先（領域C）が離れる。これら三元素の相関関係は高く、領域A～Cは概ね同じ原料である。しかし、同原料であっても鉄チタン酸化物を含有する遺物とそうでないものがある。これは、製錬の段階で混入した可能性が高く、原料の違いを示すものではない。古代から近世まで、素材としての鉄の流通は一般的で、本遺跡の鉄製品もこれを原料としていると考えられる。

4. III層の調査について

A地区のIII層では、擦文文化期後期～中世アイヌ文化期の遺構・遺物を調査し、B地区でもⅦ群土器（図87-87・88）や火打石と推測される打ち欠かれたチャート（図93-47～49）が出土した。

A地区のIII層の遺構は、調査区の北側部分、南東側部分、南側中央、南西側部分の4地点がある。北側部分：焼土・礫集中が散在的にみられ、擦文文化期後期の土器が出土した。南東側部分：建物跡1軒と焼土、礫集中がみられる。南側中央：遺構が最も多く、建物跡6軒、焼土、礫集中、柱穴・杭穴がみつかった。南西側部分：焼土や礫集中が散在的である。擦文土器は、北側のAUS-1からと、北側と南東側の遺構の周囲では復原個体が出土し、北側と南東側部分は擦文文化期後期、南側中央と南西側は土器が出土しておらず、年代測定の結果等から中世アイヌ文化期と判断する。

南側中央のW～dラインと14～23ラインまでの範囲は、遺構・遺物が多く、南東を調査区境界の崖、北西を調査区中央の沢に挟まれた緩斜面～平坦地である。

上位の黒色土層であるIII層は、本事業での厚真町教育委員会の調査で三つに細分されている。上位のⅢa層は黒色（7.5YR2/1）の砂質シルト層で、上位層起源のTa-b層軽石の細礫を斑状に含む。中位のⅢb層は黒色（10YR1.7/1）のやや粘性のあるシルトで、下位には部分的にB-Tm（白頭山苦小牧火山灰 10世紀降下）がある。Ⅲc層は黒褐色（10YR2/3）の砂質シルトである（厚真町教育委員会 2015他）。これを参考に本遺跡の調査でもIII層を「上・中・下位」として区分した。Ta-b直下のIII層上位では何もみられず、III層中位で遺物出土し礫集中を確認した。下位は遺物が少なくなり、焼土が認められた。柱穴・杭穴はIII層での発見は困難で、すべてIV層上面で確認した。

遺構調査は、遺物の出土状況を確認し、周囲に比べて集中する部分を礫集中とし、掘り下げるたびに精査し確認を繰り返した。焼土や遺物集中の周辺は、平地住居跡を想定し柱穴・杭穴の発見に努めた。焼土は褐色を呈し、III層下位～IV層が被熱する。上面に炭化物や灰の集中がみられたものもある。AUF-1・2やAUF-9・11のように二つ並ぶものは、両者を結ぶ直線を軸とする平地住居が想定される。前者は柱穴・杭穴が確認されたので、AUPS-1とし、後者はAUF-11が崖際で、柱穴・杭穴はみられなかったが、平地住居跡と考えられ、南東側はかつて台地が続いていたと推測する。AUF-5・12のように細長のものは、本来は二つで焼土が移動した結果まとまった、あるいは、一つの焼土を、近接する位置に複数回移動させた結果と考える。礫集中は、長径10cm未満のレキ（自然礫）が多く、石材は周辺で獲得できる脆弱で軟質な砂岩・凝灰岩が多い。礫集中の一部には、隙間

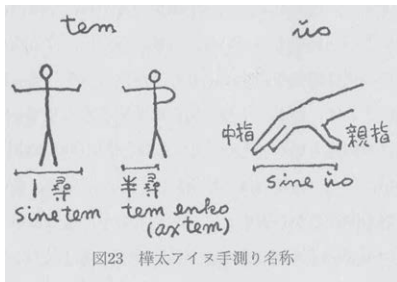


図130 アイヌ民族手測り
(山本 1970より)

なくレキが密集する状況がみられ、これを「集中部分」と呼称した。AUS-1、AUS-2 A・AUS-6 A・B、AUS-14等がある。レキは互いに重ならず、層位的な上下方向へは広がらない。平面は長方形を呈するともみられ、箱等の容器に収納されていた可能性を考える。柱穴・杭穴の確認は困難で、焼土や礫集中から柱穴の位置を推測し調査した。平地住居跡の柱穴・杭穴は部分的な発見にとどまった。当該期の掘立柱建物の柱穴は、規模の統一性と配置の規則性が厳密でないため、確認された柱穴から、他の柱の位置をみつけることは困難であった。調査では、アイヌ民族の身体を用いた「手測り」(図130 樺太アイヌ民族の例)を、柱穴間の長さを測る尺度として用いた。人体より大きな対象物を計測する方法は「sine tem」(両腕を水平に広げた状態での両手の親指先間の長さ)と「tem enko」(片腕を広げた状態でこの親指先から胸の中心までの長さ)である。これまでの調査事例では柱穴・杭穴の列は、同一直線上に位置しないものが多く、そのことも考慮し調査したが、多くの柱穴を発見するには至らなかった。地山のT a - d 2層は、一次堆積・水成二次堆積ともにしまりが弱く、柱穴・杭穴の内部にこれらを主体とする覆土が堆積した場合、その識別は困難で、確認できない大きな理由の一つであろう。また、柱穴・杭穴と予想した場所は、すべてトレンチで断ち割りした。柱穴・杭穴は厳密な垂直で建てられるものは少なく、土層断面は半截する方向や位置に影響されることに注意が必要である。断面を観察した後は、柱穴・杭穴の正確な形状を確認するため掘り上げた。

5. 縄文時代の遺構について

縄文時代の遺構は、A地区でTピット、B地区は竪穴住居跡や大規模な礫集中等を調査し、主たる時期は縄文時代中期後半～後期前半である。

竪穴住居跡の時期は、柏木川式土器を伴う小型のBLH-4が縄文時代中期後半、円形に近い楕円形で先端部ピットをもつBLH-1・2・3が縄文時代中期後半から後期前半である。BLH-1は平面から4軒が切り合うと判断される。これの構築に伴うのが盛土BLM-1と考えている。竪穴住居跡は小規模で数も少なく、B地区にのみみつけた。土坑はいずれも浅く小規模なもので、A地区で1基、B地区で2基調査した。石組炉はA・B両地区で1か所ずつ確認した。石組炉の調査では、精査を繰り返し柱穴・杭穴の発見に努めたが、確認できなかった。地床炉と考えられる焼土は、A地区で5か所、B地区で3か所確認した。多くは褐色を呈し、T a - d 2主体の橙色の地山であるためか、判別しにくいものもあった。フレイク集中はB地区で4か所確認し、竪穴住居跡のあり方と関連するのかもしれない。特にBLFC-1は広範囲で深く、これが位置するR-33区の包含層の遺物として取り上げたものも含めると16万点を超え、本来の遺構の規模は図化(図79)した範囲よりも広く深いと考えられる。黒曜石製のチップが多く、定型的な石器は残存状態が半形または片である。また、この下位にはBTP-4があるが、フレイクはTピットの覆土上位部分にのみみられたので、BTP-4が古く、これが埋没した後に、BLFC-1が形成されたと判断される。

TピットはA地区で31基、B地区で13基調査した。底面の平面形態から、楕円形、長楕円形、溝状に分けられる。前二者は坑底面に杭穴を有するものが多く、溝状と比べ概して浅い。また、坑底面は楕円形、確認面は円形を呈し、坑底面に多数の杭穴をもつものがある(ATP-29)。長楕円形のATP-11と溝状のATP-15は切り合ってみられた。調査では連続する土層断面を設定できず、新旧関

係は判断できなかったが、形状の異なるTピットの新旧関係は、本事業用地の発掘調査の事例から、楕円形のもの溝状のものを切り、楕円形が新しく、溝状が古いと判断される（「上幌内5遺跡」北海道埋蔵文化財センター 2014）。次にTピットの調査でみられた状況とその解釈を記し覚書とする。Tピットの覆土を単純化すると、上位は黒色土層主体、下位はT a - d 2等の地山主体の層で、覆土最下層すなわち坑底面直上に、黒色土の堆積がみられるものとみられないものがある。この黒色土は構築時の地表土であるV層が主たる起源とすると、これがみられないものは、埋没過程の初期段階で遺構の壁が崩落し堆積したと解される。地山のT a - d 2層はスコリア主体で、固結が弱く崩落しやすい。Tピットの覆土の堆積の様相は、上位部分は遺構の中央へと傾斜し、下位部分は概して水平である。遺構の上位部分で水平な層界がみられるものは、人為的な埋め戻しの可能性が指摘される。さらに、遺構最上位の層は黒色土が多いが、地山等の下位の層が主体でみられる場合、そのTピットまたは周辺の遺構を構築する際の、掘り上げ土の流入である可能性が考えられる。坑底面は水成粘土層の上面付近で、これを深く掘り込んでいるものはなく、Tピットの掘削はこの粘土層までとしていたと推測する。この粘土層の上面は地下水が流れ、いくつかのTピットでは湧水しポンプで排水しきれない豊富な水量であった。杭穴は坑底面で確認されるが、調査中に覆土中～下位で棒状の空洞がみられたものもあった。これらは坑底面まで及んでいないが、杭跡と推測する。坑底面に至らないのは、最下位に堆積した覆土に設けられたためと推測する。A T P - 13のように坑底に段を有するものは溝状の事例に多い。これは段を設けたとも解されるが、同じ場所に長軸の長さを変えて再構築した可能性もある。この場合、長軸方向に半截しないと、土層断面で複数の遺構を確認することは難しい。

大規模な礫集中はB地区の南端部分で、他の包含層と比べて礫石器が極めて多く、焼骨等もみられた。遺物は調査区の崖際まで途切れることなく集中して出土し、かつては南側に台地が続き、遺構が広がっていたと考えられる。土器はIV群859点、III群625点、I群338点出土した。I群は崖の先端部分のcラインに多く、III群はb・cライン、IV群はX・a・bラインと、新しい時期の遺物が北側に多い。剥片石器は2,610点出土し、80%以上がフレイクである。ついで、つまみ付きナイフ127点、石鏃110点、石核109点で、石核が多い特徴が指摘できる。また、本遺構の北へ約20mの場所に先述のB L F C - 1（R - 33区）がある。礫石器・レキは33,884点出土し、U・Rレキとレキがそれぞれ45%を占め、石材は遺跡の近くで入手しやすい脆弱な堆積岩が用いられることが多い。これらは、①：自然起因の平滑面とすり痕・研磨痕等の人為的な使用・加工痕とが区別しにくく、脆弱なため風化しやすく、②：破片になりやすく、③：使用・加工痕が識別しがたい特徴がある。レキ（自然礫）も人為的に持ち込まれ利用されたと考えられる。礫集中の範囲に位置する遺構はB L H - 2（B L P - 3）・B L P - 2・B T P - 5・B L F - 2・B L F C - 2で、これらとの時期を考察する。B L H - 2はV層上面でくぼみがみられ、覆土から礫石器・レキが約570点出土した。本住居跡が古いと仮定すると、大規模な礫集中が形成される過程で住居跡が完全に埋もれ、くぼみがみられない、さらに、住居跡が埋没し始める時点では、礫石器・レキがさほど大量に混入しない、この二つが考えられるが、これらは住居跡の調査結果と矛盾するので、B L H - 2（B L P - 3）は大規模な礫集中よりも新しいと判断する。すなわち、大規模な礫集中が形成された後、これを切ってB L H - 2（B L P - 3）が構築され、本住居跡の埋没過程で、周囲の礫石器・レキが多く住居跡内に流れ込み、上位は完全に埋まらずにくぼみが残ったと解される。B L P - 2・B T P - 5は大規模礫集中の調査完了後、T a - d 1上面で確認したので、本遺構よりも古いと判断され、V層中の焼土B L F - 2とフレイク集中B L F C - 2は本礫集中の一部と考える。また、本遺構の北側の縁辺に位置するB T P - 3・8の覆土から、礫・礫石器が出土しているが、出土点数は他のTピットに比して特に多いといえず、これらTピット

の埋没段階では、大規模な礫集中の遺物は流れ込んでないと判断される。すなわち、Tピットがある程度埋没した後、大規模な礫集中が形成されたと考えられ、BTP-3・8が古く、大規模な礫集中が新しいと判断される。

(末光)

6. 縄文時代の遺物について

イクバンドユクチセ3遺跡出土の、たたき石を素材の形状・石材・加工・使用痕などから、大きく2つに分けた。ここでは「たたき石①」「たたき石②」と呼称する。

以下それぞれの特徴を述べる。

たたき石① (図95-62・64・65・69)

- ・素材の形状：楕円形または角のとれた長方形を呈し、厚みがある
- ・石材：砂岩・凝灰岩・礫岩など
- ・加工・使用痕：全面にたたき痕はなく、凹状または溝状の明瞭なくぼみが細長い範囲に部分的にみられ、このくぼみは表裏両面の概ね同じ位置にある。

たたき石② (図95-68・70・72・73)

- ・素材の形状：多面体状・球状など
- ・石材：緑色泥岩・片岩・花崗岩など
- ・加工・使用痕：小さく浅いたたき痕が全面にみられる。

さらに、たたき石①の特徴として側面に、すり面と認識できる平滑な面があるもの、顕著なものは側面が直線的であるものなどがみられること、そして、たたき石②に比べ、たたき石①の石材は脆弱で軟らかく、たたき石として継続的に使用されたとは考えにくいことが挙げられる。また、たたき石①とたたき石②の出土点数をみると、たたき石①が約300点、たたき石②が約20点と前者が多い。

以上のことから「たたき石①は「すり石」の機能を有するものと考える。これは、本遺跡のすり石の出土が礫石器の総点数に比べて少ないことも矛盾しない。

くわえて、たたき石①の表裏のくぼみについては、道南地方に多い扁平打製石器や北海道式石冠にみられる、凹状のくぼみで石器の中央よりやや上位付近をめぐる、持ち手部分の敲打加工に共通する。このことから、表裏のくぼみは、意図的にくぼませた加工で「持ち手」と考える。

周辺の遺跡として、本建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査で、担当した平成26・27(2014・2015)年度のオニキシベ3遺跡の発掘調査や一次整理作業、報告書作成に携わったオニキシベ1遺跡(北埋調報318)、イクバンドユクチセ2遺跡(北埋調報319)、現在、二次整理作業中のオニキシベ3遺跡、上幌内4・5遺跡の出土遺物の整理作業を通して「たたき石」の観察を行っているが、これらの遺跡でもたたき石①とたたき石②の2種類がみられ、イクバンドユクチセ3遺跡と比較しても同様の傾向である。厚真川上流地域の縄文時代の遺跡では、多くの礫石器が出土しているが(厚真町教育委員会・(公財)北海道埋蔵文化財センター 発掘調査報告書など)これまでに刊行された調査報告書では、掲載図をみるかぎりたたき石①が多い印象を見受けられ、厚真川流域の遺跡でたたき石①が共通してみられる可能性がある。

限られた条件の中で、十分な検討ができず、以上の可能性にとどめるが、今後、このような視点で調査にのぞんでいきたい。

(奥山さとみ)

表85 A地区 包含層出土剥片石器点数表

器種	器種名・分類 / 厚位		III層	V層	その他 (I層・F層)	合計
	残存状態	岩石				
石鏃	完形	黒曜石	1	37	4	42
		被熱		4		4
	準完形	黒曜石	1	20	1	22
		被熱		1	7	8
	片	黒曜石		6	1	7
片	黒曜石		9	1	10	
石槍・ナイフ	完形	黒曜石	0	12		12
	準完形	黒曜石	0	3	2	5
	半形	黒曜石	0	1	2	3
石錐	完形	黒曜石	0	1	0	1
	準完形	黒曜石	0	1	0	1
	半形	黒曜石	0	0	0	0
つまみ付きナイフ	完形	黒曜石	1	2	2	5
		頁岩		7	7	14
	準完形	黒曜石	1	1	0	2
	半形	黒曜石	1	1	1	3
	片	頁岩	1	1	1	3
スクレイパー	完形	黒曜石	0	16	16	32
		頁岩		1	1	2
	準完形	黒曜石	0	7	7	14
	半形	黒曜石	0	2	2	4
	片	黒曜石	0	1	1	2
U・Rフレイク	黒曜石	1	51	3	55	
	頁岩	1	2	3	6	
フレイク	完形	黒曜石	11	664	16	688
		被熱		35	5	40
	準完形	黒曜石	11	22	25	58
		被熱		22	2	24
	片	黒曜石	11	22	4	37
石核	完形	黒曜石	4	24	1	29
	準完形	黒曜石	2	3	3	8
	片	黒曜石	1	1	1	3
原石	チャート	1	1	0	2	
	火打石	1	1	1	3	
合計			20	937	41	998

両地区 合計				
III層	H層	V層	その他	合計
21	3	134,369	155	134,548

表86 B地区 包含層出土剥片石器点数表

器種	器種名・分類 / 厚位		III層	H層	V層	その他 (I層・F層)	合計	
	残存状態	岩石						
MB? 細石刃様	完形	黒曜石			1	1	2	
	準完形	黒曜石			1	0	1	
	半形	黒曜石			0	0	0	
	片	黒曜石			0	0	0	
石鏃	完形	黒曜石			114	4	118	
		被熱			6	6	12	
	準完形	黒曜石			24	1	25	
		被熱			5	5	10	
	半形	黒曜石			5	0	5	
		被熱			23	2	25	
	片	黒曜石			39	3	42	
		被熱			3	3	6	
	石槍・ナイフ	完形	黒曜石			14	1	15
			被熱			1	1	2
準完形		黒曜石			5	5	10	
		被熱			7	7	14	
半形		黒曜石			7	7	14	
		被熱			1	1	2	
片		黒曜石			8	1	9	
		被熱			1	1	2	
石錐		完形	黒曜石			2	1	3
			被熱			1	1	2
	準完形	黒曜石			1	1	2	
		被熱			1	1	2	
	半形	黒曜石			1	1	2	
		被熱			1	1	2	
	つまみ付きナイフ	完形	黒曜石			10	3	13
			被熱			2	2	4
		準完形	黒曜石			60	3	63
			被熱			12	1	13
半形		黒曜石			3	3	6	
		被熱			1	1	2	
片		黒曜石			3	3	6	
		被熱			1	1	2	
スクレイパー		完形	黒曜石			29	2	31
			被熱			2	2	4
	準完形	黒曜石			22	3	25	
		被熱			2	2	4	
	半形	黒曜石			3	3	6	
		被熱			18	5	23	
	片	黒曜石			1	1	2	
		被熱			6	6	12	
	U・Rフレイク	完形	黒曜石			130	4	134
			被熱			4	4	8
準完形		黒曜石			29	29	58	
		被熱			4	4	8	
半形		黒曜石			5	5	10	
		被熱			3	3	6	
フレイク		完形	黒曜石			127,367	69	127,436
			被熱			4,951	2	4,953
		準完形	黒曜石			69	6	75
			被熱			8	2	10
	半形	黒曜石			118	7	125	
		被熱			13	1	14	
	片	黒曜石			9	9	18	
		被熱			2	2	4	
	石核	完形	黒曜石			10	10	20
			被熱			117	117	217
準完形		黒曜石			5	5	10	
		被熱			8	8	16	
半形		黒曜石			2	2	4	
		被熱			1	1	2	
片		黒曜石			1	1	2	
		被熱			2	2	4	
原石		チャート	1	1	0	2		
		火打石	1	1	1	3		
合計			133,432	3	1	114	133,550	

表87 A地区 包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名				Ⅲ層	Ⅴ層	その他 (Ⅰ層・Ⅱ層)		合計	遺構名				Ⅲ層	Ⅴ層	その他 (Ⅰ層・Ⅱ層)		合計				
器種	残存状態	岩石	被熱等			器種	残存状態		岩石	被熱等	器種	残存状態			岩石	被熱等					
磨製石斧	完形	緑色泥岩	—	10			10	17	石製品	完形	黒曜石	—	1			1	4				
		片岩	—	6	1	7		1			黒曜石	—	1			1					
	準完形	緑色泥岩	—	7	1	8	10				泥岩	巻貝化石						0			
		片岩	—	2		2					砂岩	孔						0			
	半形	緑色泥岩	—	11		11					—	—						0			
		片岩	—	5	187	4	5	16			192	人工孔						0			
	片	緑色泥岩	—	127	2	130						凝灰岩	自然孔			0			0		
			被熱	3		3						貝化石						0			
		—	15		15						149	チャート・片岩	火打石						0		
		片岩	—	1		1						石英	自形	1					1		
原石		—	1		1				石英	自形	1				1						
たたき石	完形	砂岩	—	12	20	2	34		加工・使用痕のあるレキ (U・Rレキ)	完形	泥岩	—	3				3	4			
		被熱	1	2	2	5					砂岩	—	94	22	18	134					
		—	15	1	16						被熱	4	3			7					
		凝灰岩	—	2	1	1	65				—	19	28	2		49					
		被熱	1	1	1						凝灰岩	被熱	6			6					
		—	2	2	2						礫岩	—	2	7		9					
	準完形	—						0			0	片	片	花崗岩	—	1				1	3,215
		砂岩	—	1	1	1	1				片岩			—	2				2		
		被熱	6	37	43						不明			被熱	1				1		
		—	5	5	5						—			—	1				1		
		凝灰岩	—	18	18						砂岩			被熱	2				2		
		被熱	3	3	3						片岩			—	2				2		
		—	5	5	5						片麻岩			被熱	1				1		
		礫岩	被熱	1	1	1	80				—			—	1				1		
すり石	完形	砂岩	—	3	2	5	8		片	片	泥岩	—	4	317	2,983	1	130	5	3,430		
		凝灰岩	被熱	1	1	1					砂岩	—	136	1,235	67	1,438					
	—	2	2	2	8			被熱			13	198	3	214							
	準完形	—				0	0	凝灰岩			—	32	1,118	32	1,182						
	半形	砂岩	—	1	1	1					被熱	7	141	2	150						
	—	6	37	43				—			192	3	195								
	被熱	5	5	5				礫岩			被熱	11			11						
	凝灰岩	—	18	18				流紋岩			—		1		1						
	被熱	3	3	3				花崗岩			—	2			2						
	—	5	5	5				片岩			—	9	1		10						
北海道式石冠	完形	砂岩	—	1	1	1	1		レキ	完形	泥岩	—	12	2			14	6,986			
		凝灰岩	被熱	1	1	1					被熱	2				2					
	準完形	—				0	0	—			306	521	55		882						
	半形	砂岩	—	1	1	1					被熱	8	36	1	45						
	片	片岩	—	1	1	1					石製品	2			2						
	—	1	1	1				孔			1				1						
扁平打製石器	完形	—					0	0	片	片	凝灰岩	—	120	371	20		511				
	準完形	—					0	0			被熱	2	33	5		40					
	半形	—					0	0			自然孔	1	1			1					
	片	—					0	0			人工孔	1	1			1					
石錘	完形	砂岩	—	1	1	1	3		片	片	礫岩	—	3	31	2		34				
		凝灰岩	—	1	1	1					被熱	2	2		2						
		礫岩	—	1	1	1					—	1	6	2		9					
	準完形	—				0	0				チャート	1				1					
	半形	凝灰岩	—	1	1	1	1				火打石	1				1					
	片	凝灰岩	被熱	1	1	1	2				火山礫凝灰岩	—	3			3					
礫石	完形	砂岩	—	1	1	1	1		レキ	完形	岩津	—	1			1	5,408				
		被熱	1	1	1			花崗岩			—	3	10		13						
	準完形	—				0	0	片岩			被熱	2	2,280	4,256	450	2					
	半形	—				0	0	—			—	1				1					
	片	砂岩	被熱	10	95	10	115	210			緑色泥岩	—	2					2			
	—	10	7	190	10	8		蛇紋岩			—	2				2					
	凝灰岩	—	79	79	6	6		泥岩			被熱	2	4	1		18					
礫岩	—	6	6				被熱	1,059	2,170	190		3,419									
片麻岩	—	1	1	1			砂岩	被熱	58	147	33		238								
台石石皿	完形	砂岩	—	12	1	13	17		片	片	凝灰岩	—	662	691	129		1,482				
		被熱	2	2	2			被熱			21	182	12		215						
		—	1	1	1			自然孔				2			2						
	準完形	—				0	0	チャート			—	1				1					
	半形	—				0	0	礫岩			被熱	1	13	2		16					
	片	砂岩	—	12	63	11	86				玄武岩	—	1				1				
	被熱	1	24	2	25			花崗岩			—	1	2			3					
	—	40	40	42				片岩			—	8				8					
	凝灰岩	被熱	14	14	1	14	175				片麻岩	被熱	1				1				
	礫岩	—	4	4	3	3		—			—	1				1					
	被熱	3	3	3				不明			—	1				1					
片麻岩	—	1	1	1				合計		2,597	7,239	580		10,416							
安山岩	—	1	1	1				合計		2,643	7,941	618		11,202							
合計			46	698	38	782															

表88 B地区 包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名				V層	その他 (I層・F層)	合計	遺構名				V層	その他 (I層・F層)	合計																				
器種	残存状態	器種名・分類 / 層位	層位				器種	残存状態	器種名・分類 / 層位	層位																							
磨製石斧	完形	緑色泥岩	—	51	1,008	17	53	60	1,025	16	0	16	1																				
		被熱	3	3										1	1																		
		片岩	3	3										1	1																		
	礫岩	石製品	1	1										1	1	1	1	1	1	1	1	1											
	準完形	緑色泥岩	被熱	56										57	2	2	2	2	2	2	2	2	2										
		原石	1	1										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		片岩	—	10										11	11	11	11	11	11	11	11	11	11										
	半形	緑色泥岩	被熱	37										42	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
		原石	1	1										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		片岩	—	7										7	7	7	7	7	7	7	7	7	7										
	片	緑色泥岩	被熱	700										705	5	5	5	5	5	5	5	5	5										
		原石	1	1										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		泥岩	被熱	1										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		片岩	—	105										108	3	3	3	3	3	3	3	3	3										
		片麻岩	被熱	2										2	2	2	2	2	2	2	2	2	2										
	たたく石	完形	砂岩	—										121	856	38	130	249	894	18,839	173	260	18,577	1									
			被熱	16										17											1	1							
			凝灰岩	被熱										71											76	5	5	5	5	5	5	5	5
			礫岩	—										4											4	4	4	4	4	4	4	4	4
			被熱	1										1											1	1	1	1	1	1	1	1	1
花崗岩			—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3																				
片岩			—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4																				
緑色泥岩			—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3																				
砂岩			—	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																				
凝灰岩			—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																				
準完形		砂岩	—	8	8	3	3	3	3	3	3	3	3	3																			
		凝灰岩	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																			
		泥岩	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																			
		砂岩	—	220	222	12	12	12	12	12	12	12	12	12																			
		被熱	114	115	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																			
片	凝灰岩	被熱	182	188	6	6	6	6	6	6	6	6	6																				
	被熱	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53																				
	礫岩	—	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23																				
	被熱	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13																				
	閃緑岩	—	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																				
すり石	完形	砂岩	—	15	139	4	5	144	144	29,734	2,014	2,617	29,734	1																			
		被熱	3	3											3	3	3	3	3														
		凝灰岩	被熱	2											2	2	2	2	2	2													
	準完形	砂岩	—	1											1	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
		砂岩	—	50											54	4	4	4	4	4	4	4	4	4									
		被熱	12	12											12	12	12	12	12	12	12	12	12										
	片	凝灰岩	被熱	24											24	24	24	24	24	24	24	24	24	24									
		被熱	20	20											20	20	20	20	20	20	20	20	20										
		礫岩	被熱	2											2	2	2	2	2	2	2	2	2										
		被熱	2	2											2	2	2	2	2	2	2	2											
北海道式石冠	完形	砂岩	—	1	71	0	6	71	71	2,187	2,014	2,617	2,187	1																			
		被熱	3	3											3	3	3	3	3														
		凝灰岩	被熱	2											2	2	2	2	2	2													
	準完形	砂岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1									
		砂岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1									
		砂岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1										
	片	砂岩	—	36											36	6	6	6	6	6	6	6	6	6									
		被熱	6	6											6	6	6	6	6	6	6	6	6										
		凝灰岩	被熱	10											10	10	10	10	10	10	10	10	10										
		被熱 石製品	3	3											3	3	3	3	3	3	3	3	3										
安山岩	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					
片麻岩	—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3																					
扁平打製石器	完形	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																				
	準完形	—	—	0										0	0	0	0	0	0	0	0												
	半形	—	—	0										0	0	0	0	0	0	0	0												
	片	—	—	0										0	0	0	0	0	0	0	0												
	砂岩	—	7	7										7	7	7	7	7	7	7	7												
石鐘	完形	凝灰岩	石製品	1	44	1	12	45	45	27,720	2,014	2,617	27,720	1																			
		礫岩	—	1											1	1	1	1	1	1													
		砂岩	—	1											1	1	1	1	1	1													
	準完形	砂岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		砂岩	—	3											3	3	3	3	3	3	3	3	3										
		凝灰岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1											
	片	片麻岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1	1									
		泥岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		砂岩	—	13											13	13	13	13	13	13	13	13	13										
		被熱	1	1											1	1	1	1	1	1	1	1											
砥石	完形	凝灰岩	被熱	4	1,418	71	850	1,461	1,489	46,386	2,187	2,617	46,386	1																			
		被熱	1	1											1	1	1	1	1														
		片麻岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1												
	準完形	砂岩	—	796											796	54	54	54	54	54	54	54	54										
		被熱	71	76											5	5	5	5	5	5	5	5											
台石皿	完形	凝灰岩	被熱	3	1,080	31	61	154	1,141	51,018	2,380	3,121	51,018	1																			
		被熱	3	3											3	3	3	3	3														
		礫岩	被熱	1											1	1	1	1	1	1	1												
	準完形	花崗岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1	1										
		片麻岩	—	1											1	1	1	1	1	1	1	1											
片	砂岩	—	423	423	11	11	11	11	11	11	11	11	11																				
	被熱	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163																					
	凝灰岩	—	114	114	2	2	2	2	2	2	2	2																					
	被熱	227	227	11	11	11	11	11	11	11	11	11																					
	礫岩	—	31	31	1	1	1	1	1	1	1	1																					
	被熱	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13																					
	片岩	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																					
	片麻岩	—	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9																					
安山岩	被熱	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																						
合計	—	—	4,616	193	4,809	—	—	—	—	—	—	—	—																				

表89 大規模な礫集中出土動物遺存体一覧表

グリッド	層位	遺物番号	動物遺存体			備考
			種別	点数	特徴等	
Y-30区	V層	—	焼骨	3	陸獣骨 (シカ)	
Y-32区	V層	—	焼骨	4		
Z-29区	V層	—	焼骨	7		
Z-29区	V層	—	焼骨	2		
Z-31区	I層	—	焼骨	1		
Z-32区	V層	—	焼骨	5		
a-29区	V層	—	焼骨	6		
a-29区	V層	—	焼骨	4		
a-30区	V層	—	焼骨	3		
a-30区	V層	—	焼骨	8		
a-30区	V層	—	焼骨	3		
a-32区	V層	—	焼骨	1		
a-32区	V層	—	焼骨	3		
a-32区	V層	—	焼骨	9		
b-32区	V層	—	焼骨	3		
c-31区	V層	—	焼骨	2		

表91 放射性炭素年代測定結果一覧表

試料名	遺構	遺構の 関係性	層位	取り上げ 番号	乾燥重量 (g)	1標準偏差 暦年較正年代(68.2%)			2標準偏差 暦年較正年代(95.4%)			世紀	時代
						1521 calAD	1591 calAD	(54.3%)	1491 calAD	1603 calAD	(75.1%)		
IK3-5	礫集中 AUS-5	単独 礫集中	Ⅲ層	1	1.21	1521 calAD	1591 calAD	(54.3%)	1491 calAD	1603 calAD	(75.1%)	16世紀中頃～後半 または、15世紀末葉～17世紀初頭	中世アイヌ文化期
IK3-2	炉跡 焼土 AUF-4	建物跡 AUPS-4	焼土	—	0.02	1448 calAD	1484 calAD	(68.2%)	1442 calAD	1512 calAD	(85.4%)	15世紀中頃～ 15世紀後半または16世紀前半	中世アイヌ文化期
IK3-4	炉跡 焼土 AUF-6	建物跡 AUPS-2	焼土	—	0.65	1401 calAD	1426 calAD	(68.2%)	1393 calAD	1434 calAD	(82.2%)	14世紀末葉または15世紀初頭 ～15世紀中頃	中世アイヌ文化期
IK3-1	炉跡 焼土 AUF-3	建物跡 AUPS-3	焼土	—	0.09	1398 calAD	1425 calAD	(62.3%)	1392 calAD	1433 calAD	(74.4%)	14世紀末葉～15世紀中頃	中世アイヌ文化期
IK3-8	礫集中 AUS-6	AUF-9-11 礫集中	Ⅲ層	—	0.27	1211 calAD	1255 calAD	(68.2%)	1181 calAD	1262 calAD	(94.2%)	13世紀前半～中頃 (12世紀末葉～13世紀中頃)	中世アイヌ文化期
IK3-7	礫集中 AUS-5	単独 礫集中の付属遺構 炭化物集中I	Ⅲ層	3	9.03	1182 calAD	1225 calAD	(55.1%)	1165 calAD	1255 calAD	(95.4%)	12世紀後半～13世紀前半 (12世紀中頃～13世紀中頃)	中世アイヌ文化期
IK3-6	礫集中 AUS-5	単独 礫集中の付属遺構 炭化物集中I・2付近	Ⅲ層	2	0.51	1169 calAD	1215 calAD	(68.2%)	1154 calAD	1215 calAD	(95.4%)	12世紀中頃～13世紀初頭	縄文文化期後期～ 中世アイヌ文化期初頭
IK3-3	炉跡 焼土 AUF-5	単独 屋外炉跡	焼土	—	0.02	1165 calAD	1209 calAD	(68.2%)	1152 calAD	1225 calAD	(89.1%)	12世紀中頃～13世紀初頭	縄文文化期後期～ 中世アイヌ文化期初頭
IK3-9	礫集中 AUS-7	単独 礫集中	Ⅲ層	—	0.93	1160 calAD	1210 calAD	(68.2%)	1151 calAD	1222 calAD	(83.9%)	12世紀中頃～13世紀前半	中世アイヌ文化期
IK3-10	石組炉 ALFRS-1	—	焼土	—	0.71	3795 calBP	3725 calBP	(49.4%)	3874 calBP	3706 calBP	(95.4%)	約3千8百年前	縄文時代 後期初頭
IK3-11	壁穴住居跡 BLH-4	—	床面	—	0.40	4485 calBP	4440 calBP	(38.6%)	4580 calBP	4425 calBP	(93.7%)	約4千5百年前	縄文時代 中期末葉～後期初頭
IK3-12	土坑 BLP-2	—	覆土 B1層	—	36.78	49583 calBP	48455 calBP	(68.2%)	—	480002 calBP	(95.4%)	約5万年前	—

報告書抄録

ふりがな	あつまちょう いくばんどゆくちせ 3 いせき							
書名	厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡							
副書名	厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第325集							
編著者名	愛場和人・末光正卓・広田良成・奥山さとみ							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2016年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いくばんどゆくちせ3 イクバンドユクチセ3 いせき 遺跡	ほっかいどう 北海道 ゆうふつぐん 勇払郡 あつまちょう 厚真町 あざほろない 字 幌内 81-3ほか	1581	J-13 -120	A地区 Q-9杭		20130513 ～ 20131031	9,321㎡ A地区：5,486㎡ B地区：3,835㎡	厚幌ダム建設 事業に伴う 事前調査
				42° 47′ 09.76″	142° 01′ 14.00″			
				B地区 Q-33杭				
				42° 47′ 09.75″	141° 01′ 09.78″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
イクバンドユクチセ3 遺跡	集落跡	アイヌ文化期・ 擦文文化期 縄文時代中期・後期	平地住居跡 竪穴住居跡 土坑 Tピット 焼土 石組炉 フレイク集中 大規模な礫集中	土器・石器 鉄製品		厚真川流域で 最上流に位置する アイヌ文化期の遺跡		
要約	<p>イクバンドユクチセ3遺跡は、石狩低地帯の南東側、厚真川の上流部に位置する。山間部を流れる厚真川の右岸、標高83～85mの高位の段丘に立地する。本書は平成25(2013)年度調査の報告である。</p> <p>遺跡の中央には無名の沢(調査区中央の沢と呼称)が流れ、これの左岸をA地区、右岸をB地区とした。</p> <p>遺跡の時期は、縄文時代中期後半～後期前半が主体で、早期も少量確認された。また、A地区では擦文文化期後半～中世アイヌ文化期も確認された。</p> <p>擦文文化期～アイヌ文化期では、建物跡・焼土・礫集中等がみつきり、擦文土器、火打石、使用痕のある礫、鉄鍋、鋏先等の鉄製品が出土した。</p> <p>縄文時代では、竪穴住居跡・土坑・Tピット・石組炉・フレイク集中等を調査した。特にB地区の調査区の南側642㎡の範囲から、3万点を超える礫石器・礫が集中して出土し、大規模な礫集中と呼称した。また、フレイク集中B L F C-1からは黒曜石製のフレイクが16万点以上出土した。</p> <p>縄文時代の遺物は、土器は中期の柏木川式、後期の余市式・タブコブ式が最も多い。剥片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパーがあり、礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、石錘、砥石、台石・石皿等がある。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第325集

厚真町 イクバンドユクチセ 3 遺跡

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成28 (2016) 年 3 月25日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地 1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domaibun.or.jp

印刷 北海道チャート株式会社
〒060-0008 札幌市中央区北 8 条西18丁目1-7 フレクスビル 3 F
TEL 011(631)9901 FAX 011(631)1123